

栃木県埋蔵文化財調査報告第364集

# 下野国分尼寺跡Ⅱ

—重要遺跡範囲確認調査—

2014.3

栃木県教育委員会  
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

しも つけ こく ぶん に じ あと  
下野国分尼寺跡 II

—重要遺跡範囲確認調査—

2014.3

栃木県教育委員会  
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

## 序

下野国分尼寺跡は、栃木県の南部、下野市に位置しています。思川と姿川に挟まれた台地上には、国・県指定の著名な史跡が数多く所在しており、古代下野国を理解する上で欠くことのできない重要な地域です。国史跡の一つである下野国分尼寺跡は、代表的な古代寺院跡として昭和40年4月9日に指定されております。

平成5年度から平成10年度までの6年間、寺院地の範囲等を確定するため発掘調査を実施しました。その結果、下野国分尼寺の寺域や伽藍の範囲や変遷が判明し、伽藍を区画する塀のほかに、多くの建物や施設が発見されました。

寺院の区画施設については平成23年3月に報告しておりますので、今回の報告書は寺院に係わる多くの建物や瓦・土器などについてまとめた成果であります。

本報告書が学術的に活用されることはもとより、本書が県民の皆様にとって郷土の歴史を理解する一助になるとともに、各方面において広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで、多大なる御協力をいただきました下野国分寺跡発掘調査指導員及び栃木県文化財保護審議会委員をはじめとする関係各位、並びに文化庁、下野市等の関係機関に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成26年3月

栃木県教育委員会

教育長 古澤利通

## 例 言

1. 本書は、栃木県下野市国分寺（旧下都賀郡国分寺町大字国分）に所在する下野国分尼寺跡範囲確認調査の報告書である。寺院地・伽藍地の区画施設については、『下野国分尼寺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第334集）で掲載しており、本書はそれ以外を掲載する。
2. 発掘調査は、寺院地・伽藍地の範囲確認調査として行った。
3. 調査は、栃木県教育委員会が主体となり、財団法人栃木県文化振興事業団に委託して、同財団埋蔵文化財センターが実施した。
4. 発掘調査は、平成5年度から10年度まで行い、別掲のとおり大橋泰夫・板橋正幸・安藤美保が担当した。
5. 整理作業は、平成10年度と平成19年度から平成25年度まで行い、大橋泰夫（平成10年度）・中山 晋（平成19年度）・中村享史（平成20～22年度）・津野 仁（平成23～25年度）が各年度2ヶ月程実施した。本書の執筆・編集は津野が行った。
6. 本遺跡は既に『栃木県埋蔵文化財保護行政年報17 平成5年度（1993）』、『栃木県埋蔵文化財保護行政年報18 平成6年度（1994）』、『栃木県埋蔵文化財保護行政年報19 平成7年度（1995）』、『栃木県埋蔵文化財保護行政年報20 平成8年度（1996）』、『栃木県埋蔵文化財保護行政年報21 平成9年度（1997）』、『栃木県埋蔵文化財保護行政年報22 平成10年度（1998）』、『埋蔵文化財センター年報 第4号（平成6年度）』、『埋蔵文化財センター年報 第5号（平成7年度）』、『埋蔵文化財センター年報 第6号（平成8年度）』、『埋蔵文化財センター年報 第7号（平成9年度）』、『埋蔵文化財センター年報 第8号（平成10年度）』等で一部概要が公表されているが、本書を以って正報告とする。
7. 調査にあたって、次の諸機関及び諸氏に御協力、御指導を賜った。記して謝意を表したい。  
文化庁、奈良国立文化財研究所、宇都宮市教育委員会、下野市教育委員会、掛川市教育委員会、豊橋市文化財センター、浜松市埋蔵文化財調査事務所、見晴台資料館、みよし市教育委員会、上原真人、海老原郁雄、齋藤孝正、酒寄雅志、城ヶ谷和広、須田勉、竹澤謙、稲垣圭子、木村友則、木村等、黒崎淳、小林青樹、坂井秀弥、清野孝之、田辺征夫、富祐次、橋本澄朗、橋本高志、水ノ江和同、山口耕一
8. 発掘調査に関わった者は次の通りである。  
麻生尚子、天谷富枝、大内香代子、大山きみ子、大山ミヤ、萩野貴子、熊倉一郎、倉持宏章、倉持淳子、小林宏子、近藤サト、近藤武雄、坂本キミ子、志賀崇、篠崎栄、篠原真理、白石文子、白石キセ、白石キヨ子、白石タミ、白石許子、白石次男、白石紀子、蘇原キヨ子、田中恵美子、土屋裕康、土屋雅章、二宮キミ、二宮貞代、根本牧子、野沢伸嘉、早川カク、広井トミ、福知幸子、藤本祐子、星野シズエ、前原ソル、前原博、前原マサエ、前原吉江、前原ワカ子、八木ミヨ、山川純一、山田トク、横井キミ、横井タケ、横井敏子、横井フサ、横島三枝子
9. 整理作業・報告書作成作業に関わった者は次の通りである。  
大出美智子、金井千佳子、河又智美、熊谷早苗、篠澤由佳、白石静枝、鈴木実花、田崎調子、田中留美子、塚田幸枝、戸崎真弓、斗沢史子、橋本品江、芳賀美津子、福田春美、中山真理、元西幸子
10. 本遺跡の出土遺物・資料類は、栃木県埋蔵文化財センターで保管している。

## 凡 例

1. 遺跡の略称は、KNである。調査次数は「一〇」のように付し、第1次調査区であれば、KN-1と表現した。
2. 遺構の略称は、SB：掘立柱建物跡、SA：棚跡、SI：竪穴住居跡、SD：溝跡、SK：土坑、SE：井戸跡、SX：性格不明遺構である。
3. 測量図の座標は、世界測地系に基づく。図示した方位は、座標北である。
4. 標高は、海拔標高である。
5. 縮尺は、図面脇に示した。
6. 遺物出土状況図の遺物の番号、遺物写真の番号・遺物観察表の番号は、遺物実測図の番号に一致する。
7. 遺物出土状況図の字体は、明朝体は土器・陶器、ゴシックは瓦、斜めゴシックは金属製品の遺物実測図の掲載番号を示す。
8. 瓦実測図に付した型番号は、下野国分寺跡の型押文番号で、これにない新規番号は一覧表の最後に付した。
9. 本文中の記述で、遺構の時期はI期、II-1期、II-2期、III-1期、III-2期と表し、瓦の時期は国分寺編年に従い、1-1期、1-2期、2-1期、2-2期、3-1期、3-2期とした。土器は1期～5期に区分し、相互の時期区分と年代の対照は、第5章総括の第1節第24表に示した。

### 下野国分寺跡発掘調査指導員

氏 名	役 職 (当時)	備 考
斉藤 忠	大正大学名誉教授	考古学
阿久津純	宇都宮大学名誉教授	地質学
阿部 昭	國士館大学教授	歴史学
石部正志	宇都宮大学教授	考古学
大川 清	國士館大学名誉教授	考古学
木下 良	前國學院大學教授	地理学
坂詰秀一	立正大学教授	考古学
佐藤 信	東京大学教授	歴史学
須賀 淳	宇都宮短期大学学長	県文化財保護審議会委員
嶋 静夫	作新大学教授	県文化財保護審議会委員
千田孝明	栃木県立博物館人文課長	県文化財保護審議会委員

# 目 次

序・例言・凡例	
第1章 調査の経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法	1
第3節 調査の経過	4
第2章 遺跡の環境	16
第3章 発見された遺構	18
第1節 掘立柱建物跡	18
第2節 竪穴住居跡	25
第3節 溝跡	38
第4節 土坑・井戸跡・性格不明遺構	51
第4章 発見された遺物	57
第1節 瓦	57
第2節 文字瓦	123
第3節 土器・陶器・金属製品等	158
第5章 総括	251
第1節 下野国分尼寺建物・施設の変遷	251
第2節 下野国分尼寺出土文字瓦の変遷	268
第3節 下野国分尼寺出土土器・瓦の変遷	274
第4節 下野国分尼寺出土須恵器の流通	283
第5節 下野国分尼寺出土灰軸陶器・緑軸陶器の流通	288

# 挿 図 目 次

第 1 図	大グリッド附付図	2	第 43 図	宇瓦分類図 (2)	62
第 2 図	下野国分尼寺跡区割り図	3	第 44 図	瓦実測図 (1)	67
第 3 図	下野国分尼寺跡調査区位置図	5～6	第 45 図	瓦実測図 (2)	68
第 4 図	第 1 次調査区全体図	9	第 46 図	瓦実測図 (3)	69
第 5 図	第 2 次調査区全体図	10	第 47 図	瓦実測図 (4)	70
第 6 図	第 3 次・4 次・5 次調査区全体図	11	第 48 図	瓦実測図 (5)	71
第 7 図	第 6 次・7 次・9 次調査区全体図	12	第 49 図	瓦実測図 (6)	72
第 8 図	第 8 次・10 次・13 次調査区全体図	13	第 50 図	瓦実測図 (7)	73
第 9 図	第 11 次調査区全体図	14	第 51 図	瓦実測図 (8)	74
第 10 図	第 12 次・14 次調査区全体図	15	第 52 図	瓦実測図 (9)	75
第 11 図	周辺の歴史時代 (古代) 遺跡位置図	17	第 53 図	瓦実測図 (10)	76
第 12 図	堀立柱建物跡実測図 (1)	20	第 54 図	瓦実測図 (11)	77
第 13 図	堀立柱建物跡実測図 (2)	21	第 55 図	瓦実測図 (12)	78
第 14 図	堀立柱建物跡実測図 (3)	22	第 56 図	瓦実測図 (13)	79
第 15 図	堀立柱建物跡実測図 (4)	23	第 57 図	瓦実測図 (14)	80
第 16 図	堀立柱建物跡実測図 (5)	24	第 58 図	瓦実測図 (15)	81
第 17 図	竪穴住居跡実測図 (1)	29	第 59 図	瓦実測図 (16)	82
第 18 図	竪穴住居跡実測図 (2)	30	第 60 図	瓦実測図 (17)	83
第 19 図	竪穴住居跡実測図 (3)	31	第 61 図	瓦実測図 (18)	84
第 20 図	竪穴住居跡実測図 (4)	32	第 62 図	瓦実測図 (19)	85
第 21 図	竪穴住居跡実測図 (5)	33	第 63 図	瓦実測図 (20)	86
第 22 図	竪穴住居跡実測図 (6)	34	第 64 図	瓦実測図 (21)	87
第 23 図	竪穴住居跡実測図 (7)	35	第 65 図	瓦実測図 (22)	88
第 24 図	竪穴住居跡実測図 (8)	36	第 66 図	瓦実測図 (23)	89
第 25 図	竪穴住居跡実測図 (9)	37	第 67 図	瓦実測図 (24)	90
第 26 図	竪穴住居跡実測図 (10)	38	第 68 図	瓦実測図 (25)	91
第 27 図	溝跡実測図 (1)	43	第 69 図	瓦実測図 (26)	92
第 28 図	溝跡実測図 (2)	44	第 70 図	瓦実測図 (27)	93
第 29 図	溝跡実測図 (3)	45	第 71 図	瓦実測図 (28)	94
第 30 図	溝跡実測図 (4)	46	第 72 図	瓦実測図 (29)	95
第 31 図	溝跡実測図 (5)	47	第 73 図	瓦実測図 (30)	96
第 32 図	溝跡実測図 (6)	48	第 74 図	瓦実測図 (31)	97
第 33 図	溝跡実測図 (7)	49	第 75 図	瓦実測図 (32)	98
第 34 図	溝跡実測図 (8)	50	第 76 図	瓦実測図 (33)	99
第 35 図	土坑実測図 (1)	52	第 77 図	瓦実測図 (34)	100
第 36 図	土坑実測図 (2)	53	第 78 図	瓦実測図 (35)	101
第 37 図	土坑実測図 (3)	54	第 79 図	瓦実測図 (36)	102
第 38 図	土坑実測図 (4)	55	第 80 図	瓦実測図 (37)	103
第 39 図	井戸跡・性格不明遺構実測図	56	第 81 図	瓦実測図 (38)	104
第 40 図	甕瓦分類図 (1)	58	第 82 図	瓦実測図 (39)	105
第 41 図	甕瓦分類図 (2)	59	第 83 図	瓦実測図 (40)	106
第 42 図	宇瓦分類図 (1)	61	第 84 図	瓦実測図 (41)	107

第85図	瓦実測図(42).....	108	第127図	土器・陶器等実測図(8).....	168
第86図	瓦実測図(43).....	109	第128図	土器・陶器等実測図(9).....	169
第87図	瓦実測図(44).....	110	第129図	土器・陶器等実測図(10).....	170
第88図	瓦実測図(45).....	111	第130図	土器・陶器等実測図(11).....	171
第89図	瓦実測図(46).....	112	第131図	土器・陶器等実測図(12).....	172
第90図	瓦実測図(47).....	113	第132図	土器・陶器等実測図(13).....	173
第91図	瓦実測図(48).....	114	第133図	土器・陶器等実測図(14).....	174
第92図	瓦実測図(49).....	115	第134図	土器・陶器等実測図(15).....	175
第93図	瓦実測図(50).....	116	第135図	土器・陶器等実測図(16).....	176
第94図	瓦実測図(51).....	117	第136図	土器・陶器等実測図(17).....	177
第95図	瓦実測図(52).....	119	第137図	土器・陶器等実測図(18).....	178
第96図	瓦実測図(53).....	120	第138図	土器・陶器等実測図(19).....	179
第97図	瓦実測図(54).....	121	第139図	土器・陶器等実測図(20).....	180
第98図	瓦実測図(55).....	122	第140図	土器・陶器等実測図(21).....	181
第99図	押印文字瓦・型押文字瓦分類図.....	133	第141図	土器・陶器等実測図(22).....	182
第100図	型押文字瓦分類図.....	134	第142図	土器・陶器等実測図(23).....	183
第101図	へら書き文字瓦分類図(1).....	135	第143図	土器・陶器等実測図(24).....	184
第102図	へら書き文字瓦分類図(2).....	136	第144図	鉄製品等実測図(1).....	185
第103図	へら書き文字瓦分類図(3).....	137	第145図	鉄製品等実測図(2).....	186
第104図	文字瓦実測図(1).....	143	第146図	鉄製品等実測図(3).....	187
第105図	文字瓦実測図(2).....	144	第147図	鉄製品等実測図(4).....	188
第106図	文字瓦実測図(3).....	145	第148図	鉄製品等実測図(5).....	189
第107図	文字瓦実測図(4).....	146	第149図	下野国分尼寺出土 鍍瓦・宇瓦時期比率図.....	252
第108図	文字瓦実測図(5).....	147	第150図	1-2期型押文の変化.....	255
第109図	文字瓦実測図(6).....	148	第151図	各建物の型押文時期比率図.....	257
第110図	文字瓦実測図(7).....	149	第152図	国分尼寺 型押文の時期比率図.....	258
第111図	文字瓦実測図(8).....	150	第153図	鍍瓦・宇瓦 尼寺全体集計図.....	258
第112図	文字瓦実測図(9).....	151	第154図	型押文 尼寺全体集計図.....	258
第113図	文字瓦実測図(10).....	152	第155図	下野国分尼寺遺構変遷図(1).....	264
第114図	文字瓦実測図(11).....	153	第156図	下野国分尼寺遺構変遷図(2).....	265
第115図	文字瓦実測図(12).....	154	第157図	下野国分尼寺遺構変遷図(3).....	266
第116図	文字瓦実測図(13).....	155	第158図	鉄器生産遺物・漆壺・ 製塩土器の出土位置.....	267
第117図	文字瓦実測図(14).....	156	第159図	下野国分尼寺出土土器変遷図.....	275
第118図	文字瓦実測図(15).....	157	第160図	下野国分尼寺 軒先瓦組合せ・ 文字瓦変遷図.....	278・279
第119図	伽藍地出土土器破片数と 灯明具の比率.....	159	第161図	新治系軒先瓦変遷図.....	281
第120図	土器・陶器等実測図(1).....	161	第162図	下野国分尼寺出土須恵器産地構成.....	284
第121図	土器・陶器等実測図(2).....	162	第163図	下野国分寺出土須恵器産地構成.....	285
第122図	土器・陶器等実測図(3).....	163	第164図	下野国府跡出土須恵器産地構成.....	286
第123図	土器・陶器等実測図(4).....	164	第165図	各窯の製品実測図.....	286
第124図	土器・陶器等実測図(5).....	165			
第125図	土器・陶器等実測図(6).....	166			
第126図	土器・陶器等実測図(7).....	167			



## 表 目 次

<p>第 1 表 調査区一覧表 ..... 4</p> <p>第 2 表 発掘担当者一覧 ..... 4</p> <p>第 3 表 軒先瓦分類表 ..... 63</p> <p>第 4 表 伽藍地出土実測瓦一覧表 ..... 118</p> <p>第 5 表 伽藍地遺構外出土鍔瓦集計表 ..... 122</p> <p>第 6 表 伽藍地遺構外出土字瓦集計表 ..... 122</p> <p>第 7 表 国分尼寺出土の 押印文字瓦出土地集計表 ..... 138</p> <p>第 8 表 国分尼寺出土押印文字瓦の 押印位置・方向集計表 ..... 138</p> <p>第 9 表 国分尼寺出土型押文字瓦 出土地集計表 ..... 139</p> <p>第 10 表 国分尼寺出土型押文字瓦の位置・ 方向集計表 ..... 139</p> <p>第 11 表 国分尼寺出土 ヘラ書き文字瓦出土地集計表 (1) ..... 139</p> <p>第 12 表 国分尼寺出土 ヘラ書き文字瓦出土地集計表 (2) ..... 140</p> <p>第 13 表 国分尼寺出土ヘラ書き文字瓦の位置・ 方向集計表 (1) ..... 141</p> <p>第 14 表 国分尼寺出土ヘラ書き文字瓦の位置・ 方向集計表 (2) ..... 142</p>	<p>第 15 表 土器・陶器等観察表 ..... 190 ~ 231</p> <p>第 16 表 鉄製品等観察表 ..... 232 ~ 237</p> <p>第 17 表 男瓦・女瓦分類・集計表 ..... 238 ~ 249</p> <p>第 18 表 伽藍地 (遺構外) 出土 男瓦・女瓦分類・集計表 ..... 250</p> <p>第 19 表 下野国分尼寺出土鍔瓦集計表 ..... 253</p> <p>第 20 表 下野国分尼寺出土字瓦集計表 ..... 253</p> <p>第 21 表 1-2 期型押文の変化と 出土位置関連表 ..... 256</p> <p>第 22 表 調査区出土 女瓦の時期 ..... 259</p> <p>第 23 表 竪穴住居跡の時期 ..... 263</p> <p>第 24 表 下野国分尼寺 土器・瓦・遺構時期対照表 ..... 267</p> <p>第 25 表 下野国分尼寺出土 文字瓦と型押文の対応表 (1) ..... 269</p> <p>第 26 表 下野国分尼寺出土 文字瓦と型押文の対応表 (2) ..... 270</p> <p>第 27 表 下野国分寺・尼寺出土 郡名文字瓦 (1-2 期) 構成比 ..... 271</p> <p>第 28 表 下野国分寺・尼寺、下野国府出土 灰軸陶器・緑軸陶器点数集計表 ..... 289</p>
--	--

# 写真図版

- 図版一 調査区全景  
 第1次調査区 (南から)  
 第2次調査区 (南から)
- 図版二 調査区全景  
 第11次調査区 (北から)  
 第12次調査区 (東から)
- 図版三 遺構 調査区  
 第3次調査区 調査区全景 (北西から)  
 第4次調査区 調査区中央南側部分 (北東から)  
 第4次調査区中央部分 (北から)  
 第4次調査区西側部分 (西から)  
 第5次調査区 調査区全景 (南西から)  
 第6次調査区 調査区全景 (南から)  
 第6次調査区南部 (東から)  
 第6次調査区南部・中央部 (南から)
- 図版四 遺構 調査区・掘立柱建物跡  
 第12次調査区 中央部 (南東から)  
 第14次調査区 調査区全景 (南東から)  
 第14次調査区全景 (南から)  
 第14次調査区南部分 (東から)  
 第14次調査区南部分 (北東から)  
 第14次調査区中央部分 (東から)  
 第14次調査区北部分 (北東から)  
 第1次調査区 SB-147 北西隅柱 土層断面 (西から)
- 図版五 遺構 掘立柱建物跡  
 第2次調査区 SB-327 北西隅柱 土層断面 (東から)  
 SB-338 南西隅柱 土層断面 (東から)  
 第7次調査区 SB-582・585 全景 (南から)  
 SB-585 西側柱列南第2柱 土層断面 (東から)  
 SB-582 東側柱列南第2柱 SB-585A・B期南東隅柱 土層断面 (東から)  
 SB-585 西側柱列南第2柱 土層断面 (東から)  
 SB-585 西側柱列南第2柱 土層断面 (南から)  
 SB-585 南西隅柱 土層断面 (南から)
- 図版六 遺構 掘立柱建物跡  
 調査区北部東側部分 SB-591 側柱列 (南から)  
 SB-591 西側柱列北第2柱 土層断面 (東から)  
 第9次調査区 SB-654 全景 (北から)
- 第11次調査区 SB-700 全景 (南から)  
 SB-700・738・750 全景 (北から)  
 SB-700 南南列西第3柱A・B期 土層断面 (南から)  
 SB-700 南南列西第3柱A期 土層断面 (南から)  
 SB-700 東南列北第2柱A期 土層断面 (東から)
- 図版七 遺構 掘立柱建物跡  
 SB-700 東南列北第2柱B期 土層断面 (東から)  
 SB-700 北南列西第3柱A・B期 土層断面 (南から)  
 SB-700 北南列西第3柱 鉄製品出土状況 (南から)  
 SB-700 身舎北西隅柱 土層断面 (南から)  
 SB-700 身舎南西隅柱 土層断面 (東から)  
 SB-707 北東隅柱 土層断面 (南から)  
 SB-738 東側柱列南第2柱 土層断面 (南から)  
 SB-738 北東隅柱 SK-739 土層断面 (東から)
- 図版八 遺構 掘立柱建物跡・竪穴住居跡  
 SB-738 全景 (東から)  
 第1次調査区 SI-114 遺物出土状況 (南から)  
 SI-121・122 遺物出土状況 (南から)  
 SI-174 全景 (南から)  
 第2次調査区 SI-239 遺物出土状況 (東から)  
 SI-241 遺物出土状況 (東から)  
 SI-307 遺物出土状況 (北から)  
 SI-307 遺物出土状況 (南西から)
- 図版九 遺構 竪穴住居跡  
 SI-307 遺物出土状況 (南東から)  
 SI-325 遺物出土状況 (東から)  
 SI-325 全景 (東から)  
 SI-335 遺物出土状況 (北東から)  
 SI-336 遺物出土状況 (西から)  
 SI-336 出土遺物近景 (南西から)  
 SI-368 遺物出土状況 (南西から)  
 SI-368 土層断面 (北西から)

- 図版一〇 遺構 竪穴住居跡
- 第4次調査区 SI-438 遺物出土状況  
(西から)
- SI-450 遺物出土状況 (西から)
- SI-450 出土遺物近景 (南東から)
- SI-451 遺物出土状況 (西から)
- 第5次調査区 SI-495・496 全景 (南から)
- SI-500 全景 (北から)
- SI-500 等 (西から)
- 第7次調査区 SI-588 等 (南から)
- 図版一一 遺構 竪穴住居跡
- 第11次調査区 SI-686 遺物出土状況  
(北から)
- SI-690 遺物出土状況 (南から)
- SI-690 出土遺物近景
- SI-690 甕瓦出土状況 (北から)
- SI-690 出土遺物近景 (東から)
- SI-690 出土遺物近景 (南から)
- SI-690 全景 (南から)
- SI-691 遺物出土状況 (西から)
- 図版一二 遺構 竪穴住居跡
- SI-691 全景 (南西から)
- SI-696 遺物出土状況 (東から)
- SI-698 全景 (南から)
- SI-698 全景 (南東から)
- SI-714 全景 (南から)
- 第12次調査区 SI-814 全景 (南から)
- 第14次調査区 SI-843 土層断面  
(南東から)
- SI-844 遺物出土状況 (南西から)
- 図版一三 遺構 竪穴住居跡・溝跡
- SI-847 土層断面 (南から)
- SI-847 遺物出土状況 (南から)
- SI-849 遺物出土状況 (北から)
- 第1次調査区 SD-112 遺物出土状況  
(南から)
- SD-113 遺物出土状況 (南から)
- SD-196 土層断面 (西から)
- SD-198 全景 (西から)
- 第2次調査区 SD-250・SX-377 全景  
(南西から)
- 図版一四 遺構 溝跡・土坑
- SD-250 土層断面 (西から)
- SD-305 遺物出土状況 (北から)
- 第7次調査区 SD-140・SK-572 土層断面  
(南から)
- 第9次調査区 SD-651 遺物出土状況  
(北から)
- 第11次調査区 SD-790 遺物出土状況  
(南から)
- 第1次調査区 SK-190 遺物出土状況  
(南から)
- 第2次調査区 SK-299・SX-291 全景  
(北から)
- 第3次調査区 SK-387 遺物出土状況  
(西から)
- 図版一五 遺構 土坑
- 第4次調査区 SK-421・422 遺物出土状況  
(西から)
- SK-427 遺物出土状況 (南から)
- SK-461 遺物出土状況 (南から)
- 第5次調査区 SK-494 遺物出土状況  
(西から)
- 第7次調査区 SK-581 土層断面 (南から)
- 第11次調査区 SK-702・704 遺物出土状況  
(東から)
- 第12次調査区 SK-819・837 土層断面  
(南から)
- SK-834 土層断面 (南から)
- 図版一六 遺構 土坑・井戸跡・性格不明遺構等
- SK-838 土層断面 (南から)
- 第2次調査区 SE-371 遺物出土状況  
(東から)
- 第12次調査区 SE-813 土層断面  
(南から)
- 第1次調査区 SX-115 遺物出土状況  
(南から)
- 第2次調査区 SX-291 土層断面 (南から)
- 第12次調査区 SZ-815 調査風景 (北から)
- SZ-815 遺物出土状況 (東から)
- 第11次調査区 調査区から伽藍をのぞむ  
(北東から)
- 図版一七 遺物 甕瓦
- 1型式 3C型式 4B型式 4D型式  
7型式 13型式 15型式 18型式 21型式  
24型式 25型式
- 図版一八 遺物 甕瓦・宇瓦
- 甕瓦 27型式 28型式 29型式

- 宇瓦 1 型式 2 A 型式 2 B 型式 3 B 型式  
 4 B 型式 4 C 型式 4 D 型式 4 E 型式  
 4 F 型式 4 G 型式 4 H 型式
- 図版一九 遺物 宇瓦  
 5 B 型式 5 C 型式 6 A 型式 6 C 型式  
 8 A 型式 12 B 型式 12 C 型式 14 型式  
 15 型式 16 型式
- 図版二〇 遺物 調査区内出土瓦  
 第1次 SI-125-7 SI-163-1 第2次 SI-241-2  
 SI-255-1 SI-307-2・4 SI-337-1 第4次 SI-  
 439-1 第5次 SI-496-2 SI-500-1 第11次  
 SI-686-3 SI-690-1 SI-696-1・4 SI-751-2  
 第14次 SI-849-1 第1次 SD-72-1 SD-  
 112B-1・3
- 図版二一 遺物 調査区内出土瓦  
 第1次 SD-112B-4 ~ 7 SD-154-1・4・7・8 SD-  
 113-1 SD-201-1 SX-166-2 SX-192-1 第1  
 次遺構外-9・10 第2次 SD-330-1 SX-246-1
- 図版二二 遺物 調査区内出土瓦  
 第2次 SK-339-1 遺構外-1 第4次 SK-461-1  
 遺構外-4・5 第7次遺構外-1 第10次 SD-  
 670B-1・2 SD-671-1 第11次 SD-330-1 SD-  
 695-1 SD-800-1・2 SD-804-1 SK-695-2 SX-  
 805-1 第12次 SD-826-1
- 図版二三 遺物 調査区・伽藍地内出土瓦 文字瓦  
 第12次 SA-820-1 SD-610B-1 伽藍地-33・34・  
 48・65・66・71・118・124・142・146 那瓦  
 塩内 那可 安宋Ⅱ 安Ⅲ 足Ⅳ 足Ⅴ  
 足Ⅵ 足Ⅶ 足Ⅷ 足Ⅸ
- 図版二四 遺物 文字瓦  
 足Ⅺ 宋 矢 田Ⅵ 寺Ⅱ 瓦 押Ⅳ 押Ⅴ  
 押Ⅸ 可 足Ⅱ 田Ⅱ 田Ⅲ 国分寺Ⅰ B
- 図版二五 遺物 文字瓦  
 国分寺Ⅱ 国分寺Ⅲ 国分寺Ⅳ 国分寺Ⅴ  
 寺Ⅳ B 寺Ⅶ 寺Ⅷ 寺Ⅷ 那AⅠ 那AⅡ
- 図版二六 遺物 文字瓦  
 那BⅠ 那E 那G 那H 塩D 内AⅠ  
 内AⅡ 内BⅠ 内BⅡ 内C 内D 内E  
 内F 内G 内H 可AⅠ 可AⅡ 可DⅡ  
 可F 可G
- 図版二七 遺物 文字瓦  
 川A 川B 川C 川D 川E 安AⅠ  
 安AⅡ 安BⅡ 安D 足A 足B 足C  
 宋B 矢A
- 図版二八 遺物 文字瓦  
 矢C 矢D 矢E 矢F 田BⅠ 田BⅡ  
 田BⅢ 田D 田C 郡B 大 十 安田後A  
 安田後B 寺 不明(郡)
- 図版二九 遺物 土器・陶器等  
 第10次 SA-300-1 第1次 SI-114-1・2・3・5  
 SI-122-2 SI-125-1・3・4・9 SI-163-7・11  
 SI-174-7 第2次 SI-239-15・20・23・25 ~ 28  
 SI-241-7・10・11 SI-251-8
- 図版三〇 遺物 土器・陶器等  
 第2次 SI-241-13 SI-307-1 ~ 5・9・10・40・43・  
 48・49・52・54・59・68・70 ~ 92
- 図版三一 遺物 土器・陶器等  
 第2次 SI-315-1 ~ 3 SI-325-1・2 SI-335-1  
 SI-336-1 ~ 4・6・7・11・12 SI-368-1・4・7  
 SI-378-1・3
- 図版三二 遺物 土器・陶器等  
 第4次 SI-437-12 ~ 14 SI-438-4・6・14  
 SI-439-1・2 SI-450-5 SI-451-6・7・12 第5  
 次 SI-495-1 第7次 SI-566-1 第10次 SI-  
 674-5 第11次 SI-680-1・11・18・25
- 図版三三 遺物 土器・陶器等  
 第11次 SI-686-1 ~ 3・6 SI-690-1 ~ 5・10・21  
 SI-691-1・19 SI-698-1 ~ 4・7・9
- 図版三四 遺物 土器・陶器等  
 第11次 SI-698-10・11・13・27・32・41 ~ 43  
 SI-714-1・2・5・6 SI-751-1 SI-781-1 第12次  
 SI-814-1 第14次 SI-843-10 SI-844-1・3・7  
 SI-853-1 第14次 SI-849-2
- 図版三五 遺物 土器・陶器等  
 第1次 SD-112-1 ~ 4・7 SD-113-1 SD-140B-3  
 SD-151-1 SD-153-1 SD-195-1 ~ 6 SD-206-1  
 第2次 SD-292-2 SD-329-1 SD-330-3 ~ 5
- 図版三六 遺物 土器・陶器等  
 第2次 SD-330-7 ~ 12・14・40 SD-334-1・8・13・  
 14・16 SD-369-1 第4次 SD-140-3・4 第7次  
 SD-140-1・2・5・6
- 図版三七 遺物 土器・陶器等  
 第7次 SD-140-550-1 SD-550-5 第9次 SD-  
 658B-1・2 第10次 SD-670B-1 第11次 SD-  
 193A・B-3・4 SD-265A・B-1・2 SD-330-3  
 SD-369-3・6 SD-550A・B-1 SD-681-9・10  
 SD-713-5 SD-790-8・9・12 SD-797-1 SD-  
 800A・B-1

図版三八 遺物 土器・陶器等

第11次 SD-800A・B-2・4・5・9～11 第12次 SD-610A・B-1 第1次 SK-156-1～3・5～9・12・13・16・17 SK-199-1

図版三九 遺物 土器・陶器等

第1次 SK-190-1 第3次 SK-387-1 第4次 SK-421-1～6 SK-447-1 SK-461-1 第7次 SK-597-1 SK-704-1 第12次 SK-837-1 第14次 SK-857-2 第1次 SX-115-1～5

図版四〇 遺物 土器・陶器等

第1次 SX-115-6～18 SX-167-1 SX-169-1・3・8・9・10 SX-170-1・2

図版四一 遺物 土器・陶器等

第1次 SX-170-3 SX-192-1・2 第2次 SX-246-1・4 SX-331-1 SX-377-1 第11次 SX-805-4・5・8・10・11 第1次調査区-1・2・61～64・66 第2次調査区-3

図版四二 遺物 土器・陶器等

第2次調査区-44・45・48・50 第4次調査区-9 第8次調査区-1・6・7 第9次調査区-2 第10次調査区-2 第11次調査区-15・17・24 第14次調査区-1 金堂-1・3・5・14・19 回廊-3 経蔵-1

図版四三 遺物 土器・陶器・鉄製品等

僧房-4・5・10・13・29・30・34・36 南門-3 伽藍地内-6・7・8 第1次 SB-171-1 第11次 SB-700-1 SA-300-1 第1次 SI-114-1・2 SI-122-1・2・4・5 SI-125-1 SI-163-1 第2次 SI-307-

1・4・8・9・11 SI-325-1・2

図版四四 遺物 鉄製品等

第2次 SI-307-10 SI-335-1 第4次 SI-438-1・3 SI-451-1 第7次 SI-566-1 第11次 SI-698-1 第14次 SI-844-1・2 第1次 SD-112-1 SD-152-1 SD-193-1 第2次 SD-330-1・5 SD-334-1 第9次 SD-658B-1 第7次 SD-140-1 第2次 SK-262-1 第2次 SK-268-1・2 第7次 SK-598-1 第11次 SD-330-1 SX-805-1

遺構外 第1次調査区-1 第4次調査区-2 第8次調査区-1 第11次調査区-1 第1次調査区-1(銅製品) 第2次 SD-369-1(銅製品) 僧房址第IIトレンチ

図版四五 遺物 鉄製品等(レントゲン写真)

第1次 SB-171-1 第11次 SB-700-1 第1次 SI-114-1・2 SI-125-1 SI-163-1 第2次 SI-257-1 SI-307-1～5・7～10 SI-325-1～7 第4次 SI-396-1 SI-438-3 第1次 SD-112-1 SD-113-1 SD-152-1 第2次 SD-329-1 SD-330-1～5 SD-334-1 SD-369-1

図版四六 遺物 鉄製品等(レントゲン写真)

第7次 SD-140-1 第2次 SK-262-1 SK-268-1・2 第4次 SK-421-1 第6次 SK-540-1 第7次 SK-598-1 第1次 SX-192-1 第2次 SX-246-1・2 SX-377-1・2 遺構外第1次調査区-1 第2次調査区-1・2・12・19 銅製品 第1次調査区-1 第2次 SD-369-1

## 第1章 調査の経緯

### 第1節 調査に至る経緯

下野国分尼寺跡の発掘は、工場建設に伴い緊急に行われた昭和39年から41年・43年の調査に始まる。この調査では、金堂・講堂・回廊・中門などの主要堂宇を中心とした建物基壇や僧房跡と推定される掘立柱建物跡などが発見された。また、伽藍南側には東西35mにわたって土塁が残っていた。39年の調査で伽藍の様子が明らかになったことから昭和40年4月9日付で国史跡に指定された。4次に亘る調査成果は、県教育委員会発行最初の発掘調査報告書として刊行された（斎藤・大和久ほか1969）。

その後、国分尼寺跡は史跡公園として整備され、発掘調査はしばらく実施されなかったが、昭和59年のしもつけ風土記の丘資料館建設に伴う国分尼寺跡関連遺跡の調査が実施された。その結果、国分尼寺跡の西方120m(400尺)の台地落ち際に沿い南北に走る溝(SD-45)が確認され、国分尼寺跡の寺院西辺の区画施設と考えられた(木村ほか1985)。これにより、国分寺と同様に広大な寺院地の存在が予想されるようになった。

その後、寺院の南西隅の隣接地が、盛土によって公園造成されることとなり、これに先だって平成5年に発掘調査を実施し、伽藍の南西隅が発見された。この位置はかつて土塁が残っていた所の延長上である。

一方、下野国分寺跡は昭和57年度から平成4年度までの11年間にわたる調査によって、伽藍地及び寺院地の範囲を確認することができ、成果を挙げていた。国分寺跡の現地調査終了後に、国分寺跡と同様に国分尼寺跡の伽藍地・寺院地、寺院の全体を解明すべく、確認調査を実施することとなった。

### 第2節 調査の方法

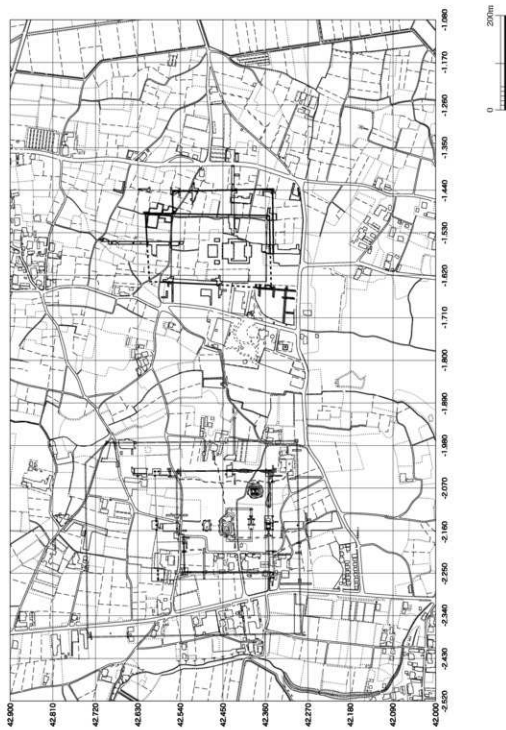
調査にあたり、航空測量による200分の1、1000分の1縮尺の地形図を作成した。また、国土方眼座標に基づく基準杭設定を行い、測量基準とした。これは、後に世界測地系に変更した。

この地形図の中を一边90mの大グリッドに区分し、各大グリッドをさらに3m四方の小グリッドに区分して、一つの大グリッド内を900の小グリッドに分けた。グリッドの呼称は各グリッドの北西隅を1とし、南西隅を900とした。西から東に平行式に数を増やして、遺物の平面位置を3m方眼で表示する。

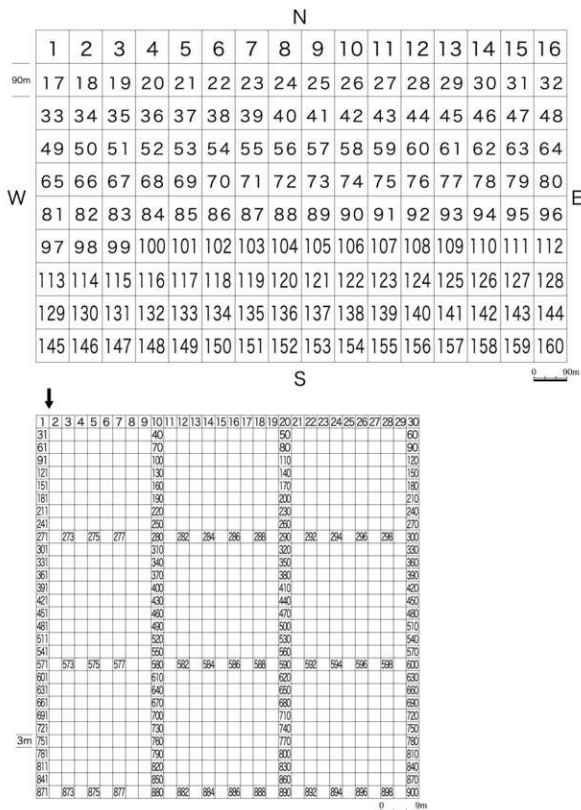
各調査区は、測量基準として業者に国土方眼座標に基づく基準杭設定を委託し、その基準杭(遺跡原点)を基に調査区を設定した。これらの杭を基準にして、それぞれの発掘区を設定し、その中を重機で表土除去を行い、遺構を確認した。調査区の範囲は、遺構の状況に応じて一部拡張を行った。

確認された遺構の調査は、土層観察用ベルトを残して埋土を掘り下げるか、トレンチ状に遺構の一部を掘り下げるか、遺構の状況に応じて行った。柱穴は一部について半載し、柱痕などの観察を行った。遺構から出土した遺物は、一部層位ごとに取り上げ、一部は出土した平面・垂直位置を記録した。

土層観察後には、土層・遺物出土状況及び遺構の写真撮影を行った。



第1図 大グリッド劃付図



第2図 下野国分尼寺跡区割り図



## 第1章 調査の経緯

### 第1表 調査区一覧表

調査年度	調査次数	調査地番	調査期間	調査面積	借地面積
平成5年度	KN-1	下都賀郡区分寺町区分340	平成5年11月11日～平成6年3月30日	90㎡	400㎡
平成5年度	KN-1	下都賀郡区分寺町区分644、648	平成5年11月11日～平成6年3月30日	500㎡	1300㎡
平成5年度	KN-1	下都賀郡区分寺町区分653、682-1	平成5年11月11日～平成6年3月30日	769㎡	1000㎡
平成6年度	KN-2	下都賀郡区分寺町区分553、608	平成6年5月9日～平成6年9月12日	85㎡	150㎡
平成6年度	KN-2	下都賀郡区分寺町区分609、617	平成6年5月9日～平成6年9月12日	194㎡	919㎡
平成6年度	KN-2	下都賀郡区分寺町区分610、621	平成6年5月9日～平成6年9月12日	590㎡	1178㎡
平成6年度	KN-2	下都賀郡区分寺町区分614	平成6年5月9日～平成6年9月12日	168㎡	500㎡
平成6年度	KN-2	下都賀郡区分寺町区分630	平成6年5月9日～平成6年9月12日	165㎡	290㎡
平成6年度	KN-2	下都賀郡区分寺町区分631	平成6年5月9日～平成6年9月12日	43㎡	150㎡
平成7年度	KN-3	下都賀郡区分寺町区分664-1、665-1	平成7年11月2日～平成8年3月28日	797㎡	842㎡
平成7年度	KN-4	下都賀郡区分寺町区分637、638	平成7年11月2日～平成8年3月28日	275㎡	984㎡
平成7年度	KN-5	下都賀郡区分寺町区分570	平成7年11月2日～平成8年3月28日	128㎡	575㎡
平成7年度	KN-6	下都賀郡区分寺町区分589	平成7年11月2日～平成8年3月28日	92㎡	400㎡
平成7年度	KN-7	下都賀郡区分寺町区分585	平成7年11月2日～平成8年3月28日	179㎡	400㎡
平成7年度	KN-8	下都賀郡区分寺町区分661	平成7年11月2日～平成8年3月28日	127㎡	400㎡
平成7年度	KN-8	下都賀郡区分寺町区分663-1	平成7年11月2日～平成8年3月28日	34㎡	360㎡
平成8年度	KN-9	下都賀郡区分寺町区分628-1	平成8年10月31日～平成9年3月28日	2569㎡	520㎡
平成8年度	KN-10	下都賀郡区分寺町区分628-1	平成8年10月31日～平成9年3月28日	1673㎡	520㎡
平成9年度	KN-11	下都賀郡区分寺町区分595	平成9年11月11日～平成10年3月25日	300㎡	550㎡
平成9年度	KN-11	下都賀郡区分寺町区分596	平成9年11月11日～平成10年3月25日	421㎡	500㎡
平成9年度	KN-11	下都賀郡区分寺町区分597	平成9年11月11日～平成10年3月25日	412㎡	452㎡
平成9年度	KN-11	下都賀郡区分寺町区分598	平成9年11月11日～平成10年3月25日	270㎡	423㎡
平成9年度	KN-11	下都賀郡区分寺町区分600	平成9年11月11日～平成10年3月25日	590㎡	398㎡
平成9年度	KN-11	下都賀郡区分寺町区分602	平成9年11月11日～平成10年3月25日	366㎡	366㎡
平成9年度	駐本場	下都賀郡区分寺町区分628-1	平成9年11月11日～平成10年3月25日		65㎡
平成10年度	KN-12	下都賀郡区分寺町区分678-1	平成10年11月9日～平成11年3月29日	474㎡	300㎡
平成10年度	KN-12	下都賀郡区分寺町区分700-1	平成10年11月9日～平成11年3月29日	600㎡	1600㎡
平成10年度	KN-13	下都賀郡区分寺町区分668、669	平成10年11月9日～平成11年3月29日	330㎡	550㎡
平成10年度	KN-14	下都賀郡区分寺町区分655	平成10年11月9日～平成11年3月29日	500㎡	500㎡

### 第2表 発掘担当者一覧

調査次数	調査年度	調査機関	発掘担当者
1次	平成5年度(1993)	(財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター	大橋泰夫、板橋正幸
2次	平成6年度(1994)	(財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター	大橋泰夫、板橋正幸
3・4・5・6・7・8次	平成7年度(1995)	(財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター	大橋泰夫、板橋正幸
9・10次	平成8年度(1996)	(財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター	大橋泰夫、板橋正幸
11次	平成9年度(1997)	(財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター	大橋泰夫、板橋正幸
12・13・14次	平成10年度(1998)	(財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター	大橋泰夫、安藤美保

## 第3節 調査の経過

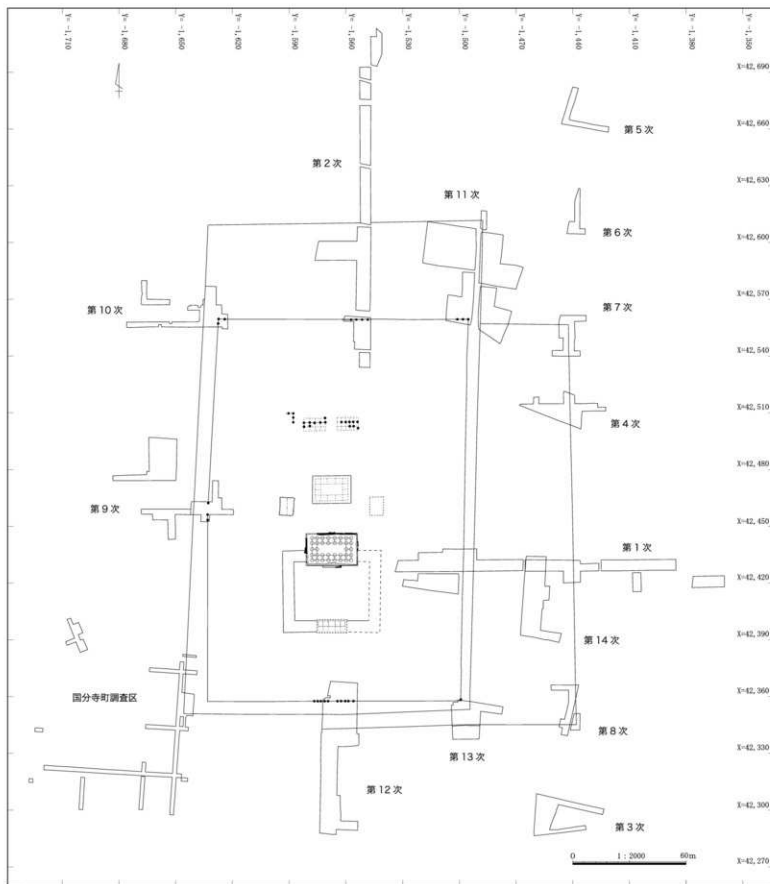
調査は、平成5年度から実施した。以下、各調査区の概要を述べる。

### (1) 第1次調査区～平成5年度～

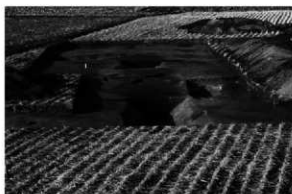
伽藍地・寺院地の東辺を確認することを目的に、金堂の東側に東西に長い調査区を設けた。その結果、金堂の東側において金堂と同じ規模の基壇建物(SB-200)を確認した。この建物は、寺院地溝などよりも古く、創建期の建物と判断される。区画施設は、南北溝が数条確認された。調査区西側の溝(伽藍地東辺溝)より東側において、堅穴住居群が存在した。

### (2) 第2次調査区～平成6年度～

伽藍地・寺院地の北辺確認のため、講堂・尼房の北方を調査した。伽藍の規模は南北205m(683尺)、東西140m(467尺)と判明し、区画施設は掘立柱塼から築地塼に建て替えていた。また、北辺築地塼の内側側溝の上に堅穴住居群が発見された。



第3図 下野国分寺跡調査区位置図



第7次調査区 全景（南から）



第9次調査区 全景（東から）



第11次調査区 調査区中央部分（南から）



第11次調査区 SA-300, SD-330-369-810（西から）



第12・13次調査区 全景（北から）



第13次調査区 全景（東から）

(3) 第3次調査区—平成7年度—

第1次調査区の南で、1次調査で出た南北溝を追ったが発見されず、これよりも北側で東辺溝が折れることを確認した。

(4) 第4次調査区—平成7年度—

第1次調査区の北側を調査し、これから北に延びる南北溝を確認した。

(5) 第5次調査区—平成7年度—

第1次調査区で発見した南北溝の北側の延長上を調査した。しかし、南北溝は確認できず、ここまでは延びないことを確認した。竪穴住居跡などを発見した。

(6) 第6次調査区—平成7年度—

## 第1章 調査の経緯

第5次調査区の南側を調査したが、第1次調査区で発見した南北溝は確認できず、堅穴住居等を発見した。

### (7) 第7次調査区—平成7年度—

第6次調査区の南側を調査し、第1次調査区で発見した南北溝が西側に折れることを確認した。このため、寺院地が東側に張り出している可能性が出てきた。

### (8) 第8次調査区—平成7年度—

第1次調査区の南側で、南北溝の延長を確認した。その結果、寺院地張り出し部の南東隅部を確認した。このため、寺院地溝は、伽藍地東辺塀の東側60m(200尺)を伽藍地に平行してのび、北辺は伽藍地北辺、南辺は伽藍地よりも南側を平行していることが明らかになった。

### (9) 第9次調査区—平成8年度—

伽藍地・寺院地西側の範囲を明らかにするために調査した。その結果、伽藍地の西辺掘立柱塀と寺院地の溝などが発見された。

### (10) 第10次調査区—平成8年度—

第9次調査区で確認された伽藍地・寺院地西辺の北西隅を確認するために調査した。伽藍地区画施設は、第2次調査区で確認されていた掘立柱塀の延長で屈曲することが確認され、伽藍地の北西隅が明らかになった。溝はさらにのびていた。

### (11) 第11次調査区—平成9年度—

第2・10次調査区で確認されていた掘立柱塀の北東隅の確認と第1次調査区で確認されていた南北溝の延長を明らかにするために調査した。その結果、東西に伸びる掘立柱塀と伽藍地の北東隅が確認できた。南北溝はさらに北にのび、調査区の北端で西に折れていた。これにより寺院地の北辺を確認することができた。また、この調査区では、伽藍地・寺院地と主軸方位の異なる掘立柱建物(四面廂建物)や堅穴住居群なども発見された。

### (12) 第12次調査区—平成10年度—

伽藍地南辺は昭和39年から41年の調査で明らかになっていたが、伽藍地の南門の解明と、第8次調査区で西に折れた寺院地南辺を明らかにするために調査した。寺院地の施設は、伽藍地区画に掘立柱塀の南側66m(220尺)の位置にあることが判明した。

### (13) 第13次調査区—平成10年度—

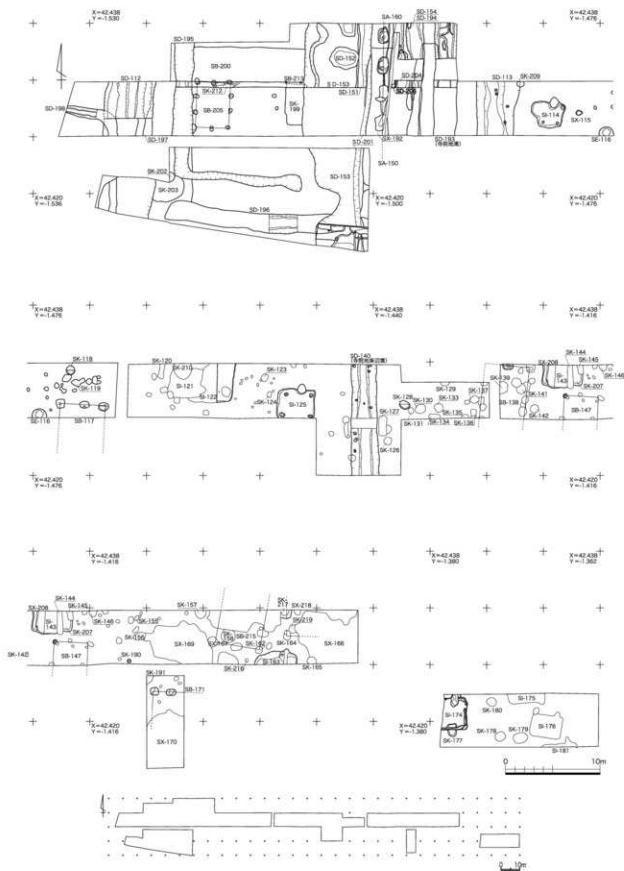
第1・12次調査で判明した伽藍地区画の掘立柱塀南東隅と伽藍地の南東隅を確認した。これらにより、伽藍地は南北205m(700尺)、東西135m(450尺)になる。

### (14) 第14次調査区—平成10年度—

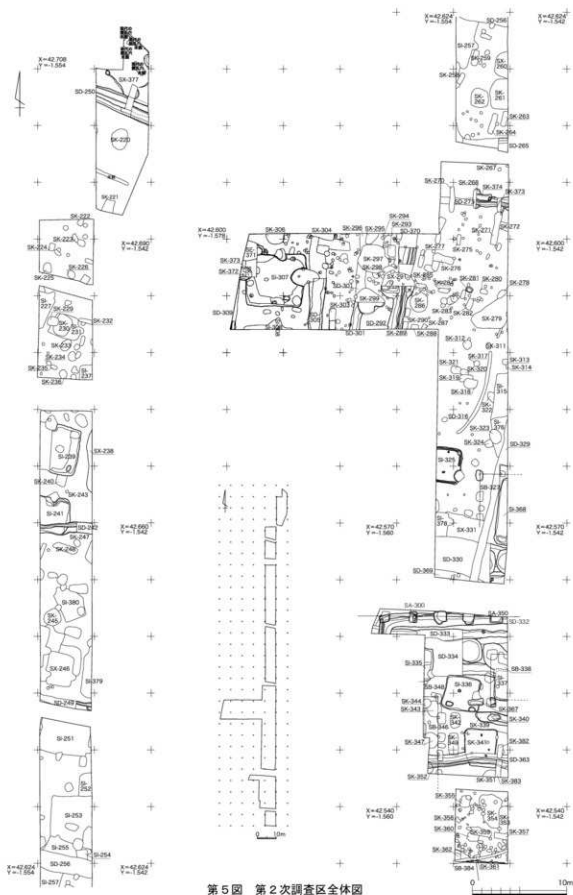
伽藍地の東方の張り出し寺院地で、寺院地移行後の堅穴住居群を発見したが、寺院地が機能した時期の遺構は発見されず、張り出し中央部分が空白地であることが推定された。

## 参考文献

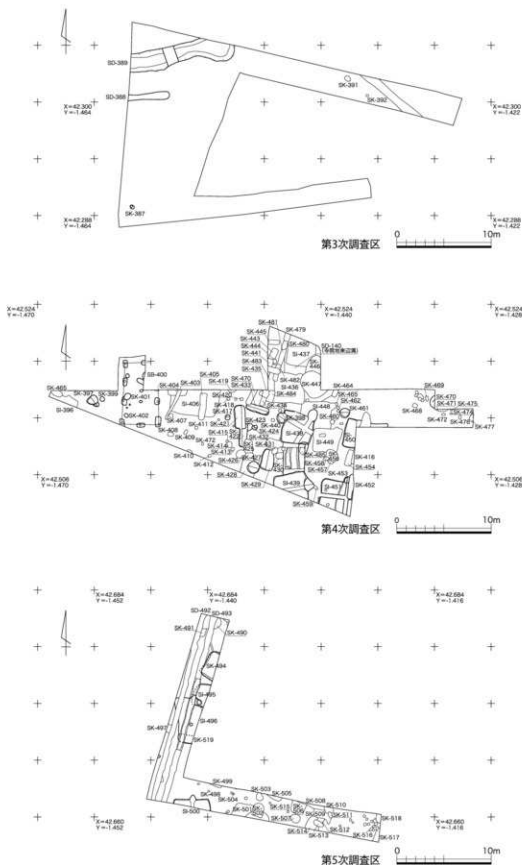
- 上野川 勝 1996『釈迦堂遺跡—下野国分尼寺跡伽藍南西隅隣接地点確認調査報告—』国分寺町教育委員会
- 木村 等・大橋泰夫・鍋木理広・齋藤 弘 1985『下野国分尼寺跡関連遺跡調査報告(しもつけ風土記の丘資料館建設予定地)』『栃木県埋蔵文化財調査報告第62集 栃木県埋蔵文化財保護連行政年報』栃木県教育委員会
- 齋藤 忠・大和久農平ほか 1969『下野国分尼寺跡』栃木県教育委員会



第4図 第1次調査区全体図

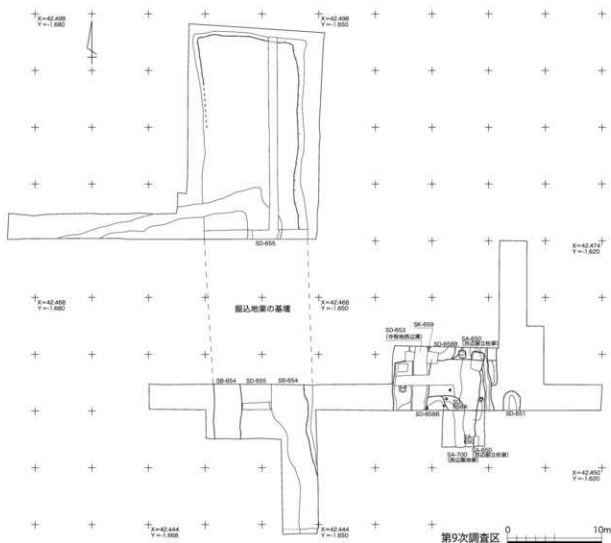
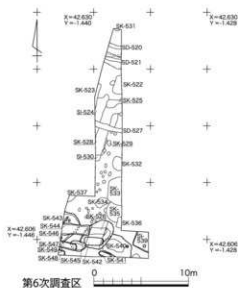


第5図 第2次調査区全体図



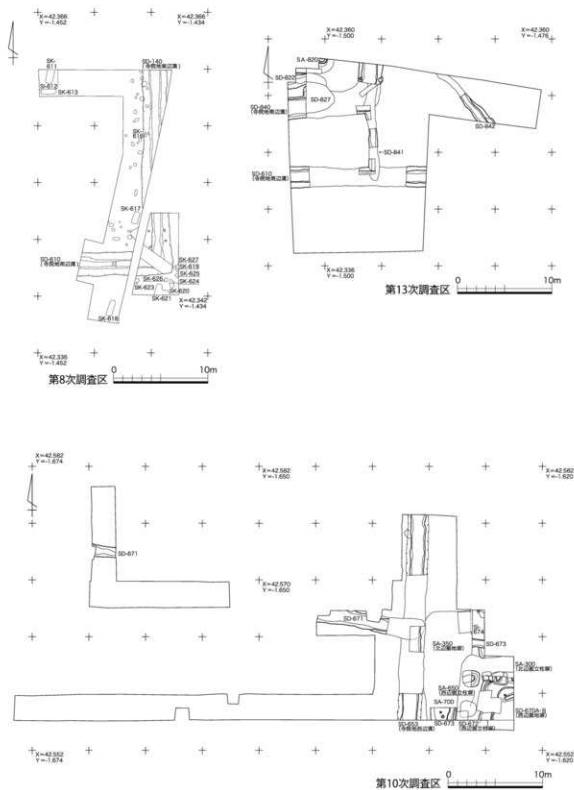
第6図 第3次・4次・5次調査区全体図

# 第1章 調査の経緯



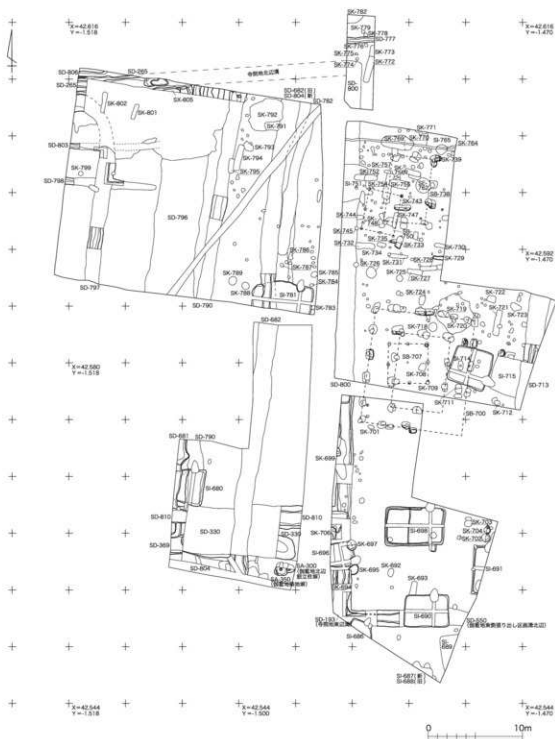
第7図 第6次・7次・9次調査区全体図



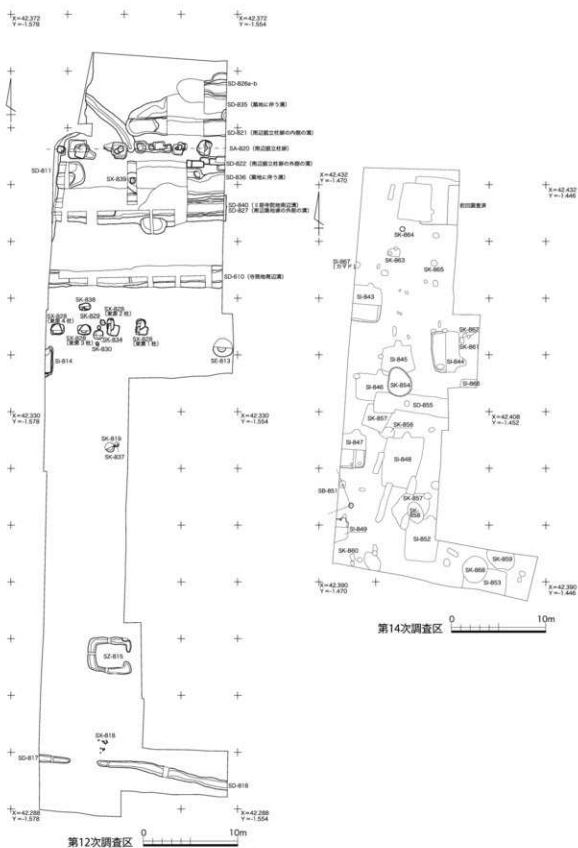


第8図 第8次・10次・13次調査区全体図

第1章 調査の経緯



第9図 第11次調査区全体図



第10図 第12次・14次調査区全体図

## 第2章 遺跡の環境

下野国分尼寺跡は、下野市(旧国分寺町)に所在する。付近の地形は思川右岸の沖積低地と積積台地(宝木面)及び低地に分かれ、国分尼寺跡の所在する台地は、南流する思川の段丘崖によって右岸沖積低地(下野国府跡所在地)との境としており、この台面と沖積低地面との比高は約9mである。また、付近の台地上は南流して思川に注ぐ黒川・姿川によって開析され、これらに向かって開く小規模な浸食谷(低地)が樹枝状にみられる。国分尼寺跡の寺院地と想定される位置は、西を国分寺跡との間に南北にのびる低地、東は姿川に至る緩斜面に挟まれた南北に長く、東西幅の限定された台地上に立地している。なお、この台地からは、北西に男体山をはじめとする日光連山、西には足尾山地、北方には高原山などが眺望できる。東には、茨城県境に南北にのびる八溝山地、さらに南東には筑波山がみられ、冬期には遠く富士山も望める景勝の地である。

国分尼寺跡と平行する奈良・平安時代の周辺の遺跡では、思川を挟んで国分尼寺跡の南西約2kmに下野国府跡がある。政庁は、方約90mの規模で、8世紀前半から10世紀前葉まで4時期の変遷をする。この間Ⅱ期には、前殿は掘立柱建物から礎石建物に変化し、脇殿は掘立柱瓦葺建物になる。Ⅲ期には前殿も礎石建物になり、区画施設も築地に変化する。Ⅴ期(10世紀)には国府が大きく変貌し、奈良時代からの政庁は同一地区には再建されない。国府は11世紀まで「第二次国府」として存続する。

谷を隔てて所在する国分寺跡は、8世紀中葉から11世紀まで存続し、Ⅰ期は主要堂塔の造営期である。主要堂塔は瓦の分析から金堂→塔→中門・回廊の順で築造されたことが指摘されている。Ⅱ期はA・B期に小区分され、Ⅱ-B期は8世紀末から9世紀前半とする。Ⅱ期は主要堂宇が完成し、伽藍地を掘立柱礎で囲み、寺院地を溝で区画する。Ⅲ期は塼を築地塼にして、南門を瓦葺にするなど主要堂塔の改修される時期である。Ⅳ期は10～11世紀代で堅穴住居群が展開する。なお、Ⅱ期以降には主要堂宇の北側に講師院・読師院が形成されていたことが「講院」・「読院」の墨書土器などから推定される。

国府跡・国分寺跡・国分尼寺跡の周辺にも当該期の遺跡が密集している。下野市の遺跡地図によれば、国分二寺関連遺跡群といえる遺跡が思川と姿川を挟んだ台地上にほぼ全面的に広がっている。このうち発掘調査された遺跡では、国分二寺の間で南北に延びる沢に面して北から中井遺跡・中井2号遺跡・東葉師堂遺跡・新聞遺跡、国分尼寺の南方に釈迦堂遺跡・山海道遺跡・山王遺跡・愛宕塚遺跡が所在する。

これらの遺跡では、国分寺創建期の住居跡は極めて少なく、多くが9世紀後半のものである。中井2号遺跡では、9世紀後半に鍛冶遺構が発見されており、東葉師堂遺跡では9世紀代の長方形の遺構が群在し、木製品が多く出土した。いずれも国分二寺と関連のある遺跡群である。

遺跡の分布をみると、尼寺南前にあたる山海道2号遺跡では、住居跡はほとんど発見されず、その脇にあたる山海道遺跡や愛宕塚遺跡で多くの住居跡が発見されており、寺の南側に規制が及んでいる。一方で、二寺の間や国分寺跡の伽藍の北方でも9世紀以降の住居跡が多数発見されたように、その分布に傾向が窺える。国分尼寺に関わる遺構を考えるうえで周辺の遺跡群の動向が注目される。

### 主要参考文献

- 大橋泰夫 1999『下野国分寺跡XIV 遺構編』栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団  
下野市教育委員会 2008『下野市遺跡分布図』  
田熊清彦 1988「下野国府小考」『考古学叢考 中巻』吉川弘文館



## 第3章 発見された遺構

本章では下野国分尼寺の第1次から第14次までの調査で発見された遺構・建物について、遺構では建物などの種類ごとに説明・提示していく。調査では確認された遺構の一部について埋土を掘り下げ、その特徴などを把握した。ここでは、掘り下げ調査を行った遺構について述べる。なお、各年度の調査結果に関しては、先に報告した『下野国分尼寺跡』（栃木県埋蔵文化財調査報告第334集）を参照されたい。

### 第1節 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は、第1次から第14次までの確認調査で、寺院地東方や北方において発見された。以下、調査次数の順に説明していく。

#### 第1次SB-117（第4・12図）

妻側2間の南北棟で、柱間は8尺である。北西隅柱・北東隅柱に柱痕が確認された。棟持柱には抜き取り痕がある。

#### 第1次SB-138（第4・12図）

2間×3間以上の側柱式の南北棟である。柱間は7尺であろう。北東隅柱では柱抜き取り痕が確認された。東側柱列北第2柱の深さは、ボーリング探査の結果、確認面から70cm程であるが、他は50cm程であった。

#### 第1次SB-147（第4・12図、図版四）

小型の掘方で、2間×1間以上の建物で、深さはボーリング探査の結果、確認面から50～55cm程である。

#### 第1次SB-205（第4・12図）

2間×3間の側柱式の南北棟である。北側柱列以外は柱抜き取り痕が観察され、西側柱列では東方に、南棟持柱は北方に、東側柱列南第3柱は南方に、同第1・2柱は西方に柱を抜いている。

#### 第1次SB-213（第4図）

柱穴2箇所のみ確認されたが、構造などは不明である。

#### 第1次SB-215（第4図）

当初土坑と考えていたが、東西2間、南北2間以上の側柱建物と判断した。ボーリング探査の結果、確認面からの深さは55cm程である。主軸が他の掘立柱建物よりも東に振れている。この他に、『下野国分尼寺跡』付図2（中村2011）によれば、SD-171とする柱穴2箇所が確認された遺構にも柱抜き取り痕が発見されている。

#### 第2次SB-327（第5・13図、図版五）

南北2間以上、東西2間以上の側柱建物で、SX-331よりも古い。柱間は8尺である。

#### 第2次SB-338（第5・13・120図、図版五）

南北2間の建物で、規模は不明である。北西隅柱の掘方が大きく、南西隅柱の断面観察によって新田2時期あることが判明し、土層図1層が古いA期の掘方埋土である。新しいB期上面から8世紀後半の須恵器帯が出ている。このため、本掘立柱建物は北辺掘立柱塼の伽藍地内側に建物群が存在したことを示す。

#### 第2次SB-346（第5・14図）

南北4間以上、東西1間以上の側柱式建物である。柱間は7尺で、径30cm程の柱痕が確認された。

#### 第2次SB-348（第5・14図）

南北の柱列2間以上が確認され、S I -336よりも古い。なお、原因でのS B -345を前報告に従い、改称した。

#### 第2次S B - 384 (第5図)

調査区南端に位置し、北東隅柱のみを検出した。北東から南西にのびる攪乱に壊されるが、柱抜き取り痕が確認された。

#### 第4次S B - 400 (第6・13図)

寺院地溝東辺の内側にある。2間×3間の側柱式建物である。柱間は不揃いで、東西柱列南第2柱と隅柱間が広くて、他は8尺になっている。

#### 第7次S B - 551 (第7・14図)

寺院地東辺溝の内側にあり、建物の主軸方向が溝と平行している。1間以上×2間以上の側柱建物で、北側柱列東第2柱・第3柱では柱抜き取り痕が確認されたが、北東隅柱では柱痕のみみられた。

#### 第7次S B - 582 (第7・16図、図版五)

本掘立柱建物と重複する遺構との新旧関係は、寺院地北辺溝S D -550→S B -582→S B -585A→S B -585B→S I -588となる。遺物から導き出されるS I -588の時期は9世紀後半、灰軸陶器椀が黒笹90号窯式②であり、他の土師器杯よりも新形式で、9世紀後半の中頃となるであろう。本掘立柱建物は9世紀後半(後葉)以前となり、寺院地北辺溝が埋没して機能し終えた時期と本掘立柱建物の時期が限定される。建物の規模は、2間×3間以上の側柱建物で、掘方の規模は小さい。柱間は8尺になる。

#### 第7次S B - 585A・B (第7・16・120図、図版五)

本掘立柱建物は建て替えており、2時期になり、いずれも2間×2間以上の規模である。古いS B -585Aは南西隅柱土層図C-C'の1～5層がA期、6～12層はB期の土層である。さらに、南東隅柱土層図D-D'の5・6・8・9層はA期、1～4層はB期の土層である。柱間は8尺である。A期の柱痕内とB期の掘方埋土中には焼土・炭化物が入ることから、A期に焼失した可能性もある。

遺物では、南東隅柱A期掘方上面から内面黒色処理を施す土師器杯が出土した。9世紀代の所産であろう。

#### 第7次S B - 591 (第7・14・120図、図版六)

調査区北東隅に位置する。南北3間以上の側柱式建物であるが、柱間は不揃いである。遺物では西側柱列南第3柱の掘方埋土上面から9世紀後半頃の土師器杯が出土した。このため、本掘立柱建物の下限は9世紀後半となる。

#### 第11次S B - 700 (第9・15・72・120・144図、図版六・七・四五)

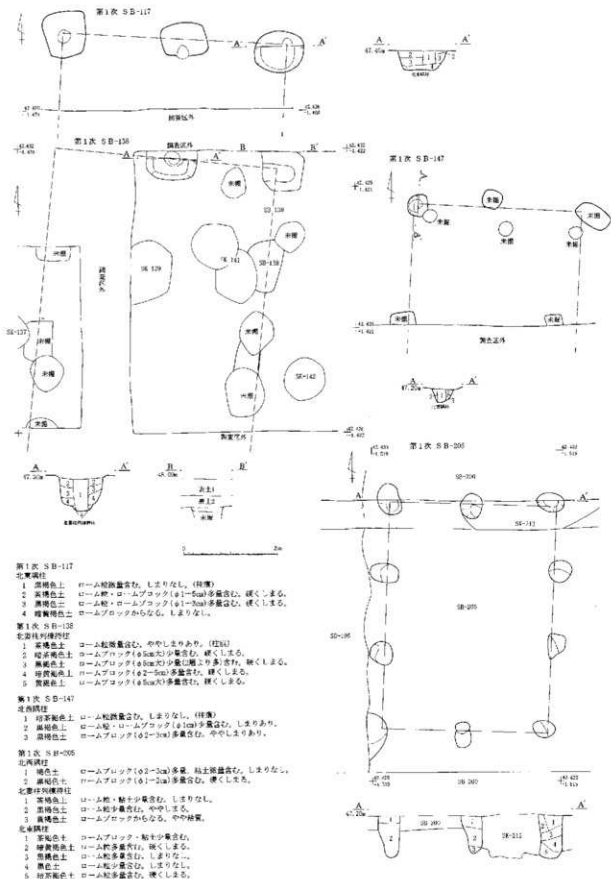
S I -714よりも本掘立柱建物跡の方が新しい。母屋は3間×2間、廂は5間×4間で、四面に廂が付く建物である。廂の建て替えにより2時期あり、廂は新しいB期に東側柱列が西に移動する。また、南北柱列の柱間も狭くなる。B期の廂・母屋の柱抜き取り痕には、全てに灰と思われる白色土がみられ、炭化物・焼土も少量確認された。建物の方位からみてS B -738と同時期のものと考えられる。

#### 第11次S B - 707 (第9・15図、図版七)

2間×2間の側柱建物で、南東隅柱がS B -700の母屋の掘方と重複し、本遺構の方が新しい。柱間は7尺で、ほかの掘立柱建物跡に比べて狭くなっている。主軸は寺院地区両溝に平行しているが、柱穴の掘方は小型である。

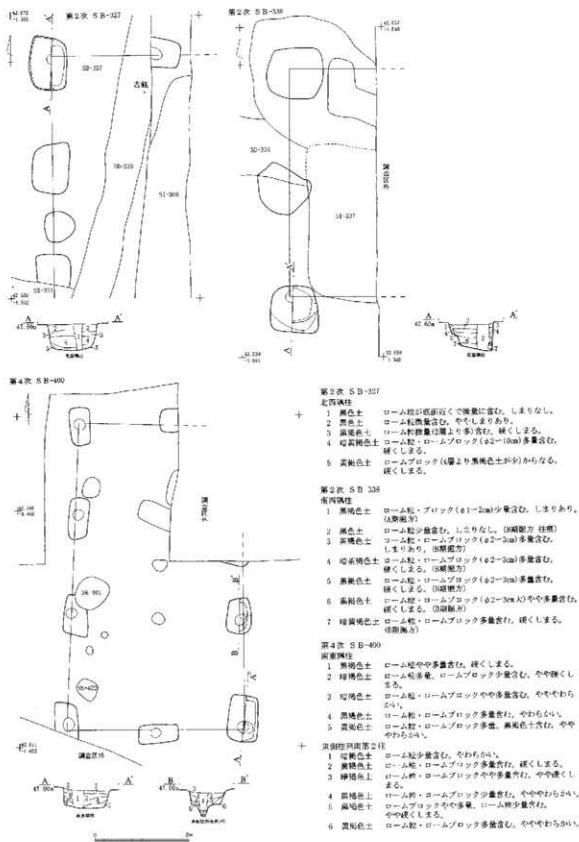
#### 第11次S B - 738 (第9・14・120図、図版七・八)

柱筋や建物方位がS B -700に合っている。2間×3間の側柱式南北棟である。掘方には柱抜き取り痕が確認できた。



第12図 掘立柱建物跡実測図(1)

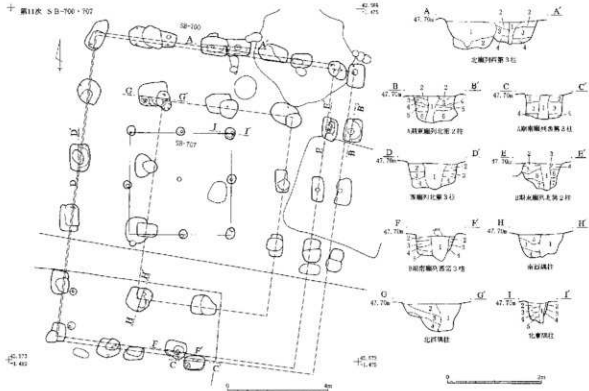




第13図 掘立柱建物跡実測図(2)



十 第11次 S B-700・707



## A 掘北側列西第3柱

- 1 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量含む。やややわらかい、粘性なし。
- 2 黄褐色土 ローム粒・ロームブロックと黒褐色土がほぼ同量で主体、しりりあり、粘性なし。
- 3 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体、黄褐色土少量含む、硬くしりる。粘性なし。
- 4 暗褐色土 ロームブロック主体、ローム粒多量含む、硬くしりる。粘性なし。

## B 掘北側列西第2柱

- 1 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、灰白色粘土粒少量含む。やややわらかい、粘性なし。
- 2 明黄褐色土 ロームブロック主体、ローム粒多量、黄褐色土少量含む、硬くしりる。粘性なし。

## A 掘東側列西第2柱

- 1 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量、灰白色粘土粒少量含む。しりりなし。
- 2 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック少量含む。ややしりりあり。
- 3 明黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体、黒色土多量、赤色粒(今市バミス)少量含む。しりりあり。
- 4 黒褐色土 ローム粒主体、黒色土多量含む、しりりあり。
- 5 明黄褐色土 層よりロームブロック多量含む、しりりあり。
- 6 黄褐色土 ロームブロックと黒色土がほぼ同量で主体、ローム粒少量含む。ややしりりあり。

## A 掘南側列西第3柱

- 1 黒褐色土 ローム粒少量、赤色粒少量含む。やややわらかい、粘性なし。
- 2 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック多量、赤色粒(今市バミス)少量含む。しりりあり、粘性なし。
- 3 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体、褐色土多量含む、しりりあり、粘性なし。
- 4 黒褐色土 ロームブロック(層より)からなる。しりりあり、粘性なし。

## 西側列西第3柱

- 1 黒褐色土 層より灰白色粘土が多量入る。ロームブロック少量含む。やややわらかい、粘性なし。
- 2 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、ローム粒少量含む。しりりあり、粘性なし。
- 3 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量含む。しりりあり、粘性なし。
- 4 暗褐色土 ロームブロック(層より)からなる。しりりあり、粘性なし。

## B 掘南側列北第2柱

- 1 暗褐色土 ローム粒多量、灰白色粘土粒少量含む。しりりなし、粘性なし。
- 2 暗褐色土 ローム粒少量、赤色粒(今市バミス)少量含む。しりりあり、粘性なし。
- 3 明黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体、暗褐色土多量含む。しりりあり、粘性なし。
- 4 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少量含む。しりりあり、粘性なし。
- 5 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック・灰白色粘土少量、赤褐色(今市バミス)少量含む。硬くしりる。粘性なし。
- 6 明黄褐色土 ローム粒・ロームブロックと黒褐色土がほぼ同量で主体、やや硬い、粘性なし。

## B 掘南側列西第3柱

- 1 黒褐色土 ローム粒多量、赤色粒少量含む。やややわらかい、粘性なし。
- 2 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多量含む。しりりあり、粘性なし。
- 3 黄褐色土 ローム粒主体、暗褐色土(層より)からなる。しりりあり、粘性なし。
- 4 明黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体、褐色土少量含む。しりりあり、粘性ややあり。
- 5 黄褐色土 ローム粒(層)に粘土(土)主体、暗褐色土多量含む。しりりあり、粘性なし。

## 北西隅柱

- 1 黒褐色土 層より灰白色粘土多量入る。ローム粒多量、ロームブロック少量含む。しりりあり、粘性なし。
- 2 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量含む。しりりあり、粘性なし。
- 3 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、赤色粒(今市バミス)少量含む。しりりあり、粘性なし。
- 4 明黄褐色土 ロームブロック主体、ローム粒多量、暗褐色土少量含む。しりりあり、粘性なし。

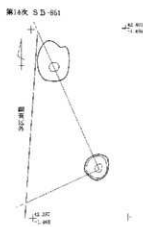
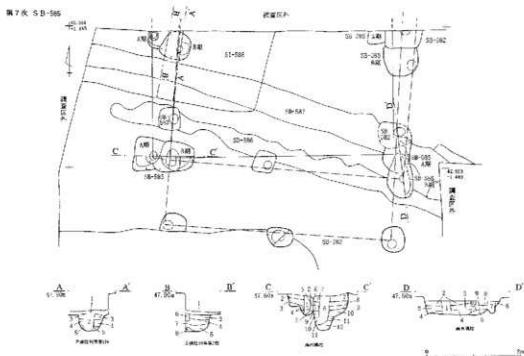
## 南西隅柱

- 1 暗褐色土 層より灰白色粘土多量、ローム粒・ロームブロック少量、赤色粒(今市バミス)少量含む。やややわらかい、粘性なし。
- 2 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少量含む。しりりあり、粘性なし。
- 3 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、黒褐色土多量含む。しりりあり、粘性なし。
- 4 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体、黒褐色土多量含む。しりりあり、粘性なし。

## 北東隅柱

- 1 暗黄褐色土 ローム粒少量含む。しりりなし。
- 2 黒褐色土 ローム粒少量含む。しりりあり。
- 3 暗褐色土 ローム粒多量含む。しりりあり。
- 4 暗黄褐色土 ロームブロック(層より)少量含む。やや硬くしりる。
- 5 黒褐色土 ロームブロック(層より)少量含む。しりりなし。

第15図 掘立柱建物跡実測図(4)



- 第7次 SB-585  
西側柱内南第2柱
- |        |                                     |
|--------|-------------------------------------|
| 1 埴輪色土 | ローム粒や中多量、ロームブロック少量含む。しまりあり。(SI-588) |
| 2 茶褐色土 | ローム粒・ロームブロック・炭化物少量含む。しまりなし。(58期)    |
| 3 埴輪色土 | ローム粒や中多量、ロームブロック少量含む。軽くしまる。(58期)    |
| 4 黄褐色土 | ローム粒や中多量、ロームブロック少量含む。しまりなし。(58期)    |
| 5 埴輪色土 | ローム粒・ロームブロック多量含む。軽くしまる。(58期)        |
| 6 埴輪色土 | ローム粒多量、ロームブロック少量含む。ややしまりあり。(A層)     |
| 7 埴輪色土 | ローム粒多量、ロームブロックやや多量含む。しまりあり。(A層)     |
| 8 黄褐色土 | ローム粒・ロームブロック多量含む。しまりあり。(A層)         |
- 南側溝柱
- |         |                         |
|---------|-------------------------|
| 1 茶褐色土  | ローム粒や中多量、ロームブロック少量含む。   |
| 2 茶褐色土  | ローム粒・ロームブロックやや多量含む。     |
| 3 黒褐色土  | ローム粒・ロームブロック多量含む。       |
| 4 黄褐色土  | ローム粒・ロームブロック多量含む。       |
| 5 黄褐色土  | ロームブロックからなる。            |
| 6 埴輪色土  | ローム粒・ロームブロック多量、炭化物少量含む。 |
| 7 埴輪色土  | ローム粒・ロームブロックやや多量含む。     |
| 8 茶褐色土  | ローム粒・ロームブロック多量含む。       |
| 9 茶褐色土  | ローム粒・ロームブロック多量含む。       |
| 10 茶褐色土 | ローム粒・ロームブロック多量含む。       |
| 11 埴輪色土 | ローム粒・ロームブロック少量含む。       |
| 12 黄褐色土 | ロームブロックからなる。            |
- 南東溝柱
- |        |                                     |
|--------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色土 | ローム粒や中多量、炭化物少量含む。しまりなし。(58期)        |
| 2 黄褐色土 | ローム粒多量、ロームブロック少量含む。しまりあり。(58期)      |
| 3 埴輪色土 | ローム粒多量、ロームブロックやや多量含む。しまりあり。(58期)    |
| 4 埴輪色土 | ローム粒・ロームブロック多量含む。しまりなし。(58期)        |
| 5 埴輪色土 | ローム粒や中多量、ロームブロック少量含む。しまりあり。(A層)     |
| 6 埴輪色土 | ローム粒・ロームブロック多量含む。しまりあり。(A層)         |
| 7 黒褐色土 | ローム粒多量、ロームブロックやや多量含む。しまりあり。(58-58C) |
| 8 埴輪色土 | ローム粒少量含む。しまりあり。(58-58C)             |
| 9 埴輪色土 | ローム粒・ロームブロックやや多量含む。しまりあり。(58-58C)   |

第16図 掘立柱建物跡実測図(5)

第11次 SB-750 (第9・14図、図版六)

SB-738と重複するが、新田関係は不明である。2間×2間の側柱式建物である。柱穴の掘方は小型である。

第14次 SB-851 (第10・16図)

伽藍地の東方の調査区画において柱穴が発見され、東・南に柱列が延びないことから柱方向を推定した。建物の方が伽藍地区画溝と異なっている。

## 第2節 竪穴住居跡

下野国分尼寺跡の発掘調査で、総計80軒の竪穴住居跡などが発見された。ここでは、調査次数に従い、遺構の説明をしていく。なお、住居跡は現地調査で、埋土を掘り下げたものと遺構確認したのみのものが存在し、本章では掘り下げを行った遺構について説明していく。

### 第1次S I - 114 (第4・17・44・120・144 図、図版八・二九・四三・四五)

本調査区の西部に位置する。小型の住居跡で、東・南壁は直線状であるが、西側には平面円形の突出部がある。土層観察の結果、同一遺構と判断した。底面はなだらかに立ち上がる。柱穴の可能性のあるピットは3箇所あり、深さはP 1が16 cm、P 2は8 cm、P 3は25 cmである。多くの遺物は埋土上層から出土した。

### 第1次S I - 122 (第4・17・45・120・144 図、図版八・二九・四三)

本調査区の中央に位置する。S I -121よりも本住居跡の方が古い。埋土の一部を掘った結果、95×115 cmの平面楕円形をした鍛冶炉があった。炉は全体に黒褐色土で、木炭粒多量、白色粒・焼土粒・ロームブロック少量、ローム粒を微量含んでいた。ボーリングの結果、炉の深さは18 cmであった。その隣から鉄床石とみられる石が出土した。このため、本遺構は鍛冶遺構と判断された。

### 第1次S I - 125 (第4・17・45・120 図、図版二〇・二九・四三・四五)

調査区の中央に位置し、方形の住居跡である。4箇所の柱穴が確認され、深さはP 1が8 cm、P 2は20 cm、P 3・4は15 cmであった。図中埋土の2層は、焼土が多量含まれており、人為的に埋められたものと判断することができる。

### 第1次S I - 143 (第4・17・45・46・120 図)

調査区の東部にあり、SX -208よりも新しく、SK -144よりも古い。住居跡の西部を掘り下げたのみである。南西隅に径50 cm程のピットがあり、床面からの深さは41 cmを計る。埋土の1層は、ローム粒・ロームブロックを多量含み、人為的な埋土と判断される。3層は攪乱であろう。

### 第1次S I - 163 (第4・18・46・121・144 図、図版二〇・二九・四三・四五)

調査区の東部に位置し、住居跡の北部を掘り下げ調査した。北壁はなだらかに立ち上がり、北東部にカマドが付設される。カマドの底は最も低い所で、床から14 cm程あり、カマド土層図B - B' の1～3層が構築材などであるが、袖などは明らかでない。

### 第1次S I - 174 (第4・18・46・121 図、図版八・二九)

調査区の東端に位置する。SK -177と重なり、本住居跡の方が古い。周溝が巡り、深さ2～7 cm程であった。カマドは土坑によって大半が壊されていたが、下層が残っており、焼土や木炭を含む明茶褐色土であった。焚き口ピットがあり、床からの深さは最も深い所で28 cmであった。

### 第2次S I - 239 (第5・18・47・121 図、図版八・二九)

調査区の北部に位置し、カマドから東側の埋土を掘り下げた。SK -240と重なるが、新旧関係は不明である。北東隅と住居中央に掘り込みを確認したが、掘り下げは行っていない。南東隅のピットは、深さ11 cmである。一点破線は床の硬い範囲を示したもので、床の外周を除いて硬化していた。遺物は埋土の各層から出土した。

### 第2次S I - 241 (第5・19・47～49・121・122 図、図版八・二〇・二九・三〇)

調査区の北部に位置し、調査区内の埋土を掘り下げた。SD -242と重複し、本住居跡の方が古い。東壁は緩やかな傾斜の部分もある。北壁では北カマドの東側に床面から20 cm程上がった位置に段(平坦面)が

あり、その段は幅 20 cm 程になる。土層図 3 層はカマドからの流れ込みであろう。

**第2次S1-307** (第5・19・49～51・122・123・144・145 図、図版八・九・二〇・三〇・四三～四五)

調査区中位の拡張部にある。北西隅の一部を除いて埋土を掘り下げた。SD-305 よりも新しく、SK-372・SE-371 よりも古い。カマドは北と東に付いていたが、その新旧は不明である。床面は硬化した部分があり、一点破線で示した内側である。柱穴が発見され、P1・2・5 が主柱穴であろう。深さは P1 が 27 cm、P2 は 23 cm、P5 は 19 cm である。P4 は深さ 27 cm の入り口ピットであろう。

**第2次S1-325** (第5・19・51・52・124・145 図、図版九・三一・四三・四五)

調査区の南部にあり、住居跡の西部は調査区外になる。深さ 6～10 cm 程の周溝が巡っている。住居北東隅のピットは深さ 25 cm である。北壁の小ピット (P2) は深さ 17 cm、中央南寄りのピット (P3) は深さ 22 cm であるが、性格は明らかでない。東壁にカマドが付く。

**第2次S1-335** (第5・20・52・124・145 図、図版九・三一・四三・四五)

調査区南部にあり、築地塀内溝北辺のSD-334A・B よりも本住居跡の方が新しい。東カマドが付き、住居の東部を調査したのにとどまる。埋土の第4層は硬くしまっており、住居の貼床であり、溝の埋土を掘り込んで作っている。

**第2次S1-336** (第5・20・52・124・145 図、図版九・三一)

調査区の南部にあり、掘立柱建物跡SB-346と重なるが、新旧は明らかでない。SK-367とは土層観察(SPA-A')によると、本住居跡の方が新しい。ピットの深さはP1で14 cm、P2で28 cm、P3で13 cmになる。東壁中央にカマドが付設される。

**第2次S1-337** (第5・20・53・125 図、図版二〇)

調査区南部に位置する。築地塀内溝北辺のSD-334A・B よりも本住居跡の方が新しい。SB-338とも重なるが、新旧は明らかでない。住居跡の北部は溝の埋土を掘り込み、北壁は不明瞭である。土層図7層はローム粒を多量含み、硬くしまっていることから貼床と判断した。床面は全体に北側に傾斜している。埋土に焼土粒や炭化物を含んでいる。

**第2次S1-368** (第5・20・53・125 図、図版九・三一)

調査区南部に位置するが、住居跡の西端を調査したのにとどまる。築地塀外溝北辺SD-330 よりも古い。掘立柱建物跡SB-327と重複するが、新旧関係は不明である。住居床面の隅には土坑状の掘り込みがあり、土層観察の結果、図中6層がロームブロック・ローム粒を多量含み、硬くしまっていたことから貼床と判断され、掘り込みは住居掘方と考えられた。床から掘方の深さは南側で11 cm、北側で18 cmである。

**第4次S1-438** (第6・21・54・125・126・145 図、図版一〇・三二・四四・四五)

寺院地東側の調査区にあり、寺院地東張り出し区画溝東辺のSD-140と重複し、本住居跡の方が新しい。また、土坑2基とも重なっている。住居の平面形は北辺が不明瞭である。北東隅にカマドを付設し、住居床面中央と南壁際では炭化材が出土した。出土レベルは床面から5 cm程上であり、この遺構は火災住居でなく、住居が埋没する過程で炭を廃棄したと推定される。

**第4次S1-439** (第6・21・55・126・145 図、図版二〇・三二)

調査区南端にあり、2/3程を調査した。SD-140 よりも本住居跡の方が新しく、東壁にカマドを付設する。確認面から住居床面までの深さは10 cm程である。

**第4次S1-450** (第6・22・126 図、図版一〇・三二)

調査区の東部にあり、東西に長い住居跡である。SK-455と重なり、本住居跡の方が古い。調査では、

西側を掘り下げ、中央から東側は遺構範囲を確認したのみである。深さは確認面から20 cm程で、浅い掘り込みであった。

**第4次S I - 451** (第6・21・55・56・126・145図、図版一〇・三二・四四)

調査区南端にあり、土坑と重複している。床面は東側が西側に比べて6 cm程低くなっており、住居の間取りと関連するとみられる。

**第5次S I - 495** (第6・21・126図、図版一〇・三二)

土層観察により、本住居跡はS I -496よりも新しいことが判明した。溝に多くの部分を壊されているが、住居の南北の長さからみて、小型のものと推定される。

**第5次S I - 496** (第6・21・56・57・126図、図版一〇・二〇)

本住居はS I -495よりも古く、溝に多くの部分を壊され、南端は土坑と重複しているが、東辺がわずかに残っていた。土層観察の結果、住居は深さ10 cm程であった。カマドは北壁に設けられたとみられるが、溝で壊されている。カマドの東脇には47×58 cm、床面からの深さ11 cm程の平面楕円形のビットがあり、平瓦が出土した。

**第5次S I - 500** (第6・22・58・126図、図版一〇・二〇)

住居跡の北部の一部を掘り下げ調査した。床面は確認面から最も深い所で18 cm程あり、北壁中央にカマドを付設する。

**第6次S I - 539** (第7・22・56・126図)

調査区の南端に所在する。住居跡の南西部を調査した。確認面から床面までの深さ20 cm程であった。

**第7次S I - 560** (第7・22・56・127図)

調査区の南部にあり、住居跡の西半分程を調査した。土坑と重複する。南西隅が丸味を持ち、遺構の最も深い所で20 cm程である。

**第7次S I - 566** (第7・22・57・127・145図、図版三二・四四)

調査区中央部に所在し、寺院地東辺溝の埋土上に作られている。住居跡の平面形は台形に近くて、不整であるが、埋土上に掘られていることによるであろう。確認面から床面までの深さは5～10 cm程である。

**第7次S I - 588** (第7・22・57・127図、図版一〇)

調査区の北端にあり、住居跡の南半を掘り下げ調査した。S B -585の掘方が床面の下で確認でき、本遺構の方が新しいとわかる。床面はやや凹凸があり、床面までの深さは最深で20 cm程である。

**第10次S I - 674** (第8・23・58・59・127図、図版三二)

調査区東端にあり、S D -673よりも本住居跡の方が新しい。掘り下げ調査したのは、住居中央付近を南北に長い範囲のみである。北端にカマドの袖と思われる部分が確認でき、その前は火焼部となっていた。土層図中6・7層はカマドの天井及び壁からの崩落土、4層は貼床である。

**第11次S I - 680** (第9・23・57・127・145図、図版三二)

本住居跡は調査区の南部にあり、S D -330・790より新しく、S D -681よりも古い。遺構は溝の埋土を掘り込んで作っている。住居の平面形は台形に近いが、東側壁の位置は不明である。北壁東寄りにカマドが付設される。土層図中3層はしまりがあり、住居の貼床と判断した。

**第11次S I - 686** (第9・22・59・60・127図、図版一一・二〇・三三)

調査区南端に存在する。伽藍地東張り出し区画溝S D -550と重複し、本住居の方が新しい。住居跡の平面は台形に近い不整形で、北東隅にカマドがある。その脇に楕円形のビットがあり、深さ16 cmで、貯蔵

穴の可能性がある。ビット・カマド付近から土器・瓦がまとまって出土した。

**第11次S I - 690** (第9・23・60・61・127・128・145 図、図版一一・二〇・三三)

調査区南端にあり、SD-550と重複し、本遺構の方が新しい。端正な長方形の住居跡である。埋土には焼土やロームが多くみられたことから、人為的に埋められたと推定される。

**第11次S I - 691** (第9・23・61・128 図、図版一一・一二・三三)

調査区南東端にあり、住居跡の西部を掘り下げ調査した。北西隅の壁に平面楕円形のビットがあり、粘土が多量含まれていた。東壁中央のビットは攪乱の土坑と判断したが、壁柱穴の可能性もある。北壁にカマドが付設され、1.4 mにも及ぶ長い煙道が特徴である。土層は1～4・8層等は人為的な埋め土と判断された。

**第11次S I - 696** (第9・24・61～63・128 図、図版二〇)

調査区南部に位置し、寺院地東辺溝SD-193よりも本住居跡の方が新しく、土坑よりも古い。小型の住居跡で、南東隅にカマドが付設されている。カマドからは多数の瓦が出土し、構築材に使用していた可能性も残る。住居の埋土は単層であった。

**第11次S I - 698** (第9・24・63・128・129・146 図、図版一二・三三・三四)

調査区南部に位置し、平面長方形の端正な形をしている。壁際には周溝が巡り、床面は西側が高く、東側は8 cm程低くなっている。低い範囲は平面方形であり、土間であろうか。この低い床の方の北壁中央にカマドが付設されている。埋土は土層図の1～11層は全体にロームが多く含まれており、人為的な埋め土と判断され、12～15層は壁際の崩落土か自然堆積土と考えられる。

**第11次S I - 781** (第9・25・64・130 図、図版三四)

調査区のはぼ中央にあり、溝SD-682・804よりも本住居跡の方が古い。平面長方形を呈しており、北壁は膨張になっている。東寄りにカマドが付設されている。壁は深さ20 cm程残っており、埋土は自然堆積と判断された。

**第12次S I - 814** (第10・25・130 図、図版一二・三四)

調査区の南北中央、西壁際に存在する。住居跡の東部を掘り下げ調査したが、攪乱が広く及んでいた。北壁にはカマドが付設されており、焼土が多量確認できた。周溝が巡り、深さ8 cm程である。埋土は5層において特にしまりが良く、埋め戻し土の可能性もある。坏の破片(1)が6層中より出土した。

**第14次S I - 843** (第10・25・64・130 図、図版一二・三四)

調査区北部に所在し、住居跡の南半分を掘り下げ調査した。遺構は確認面から深さ50 cm程であり、北壁にカマドがある。確認面でのカマドは暗赤褐色土で、焼土粒少量、炭化物を微量含んでいた。埋土は下層にロームが多くて、上層は焼土やローム粒が少量であった。

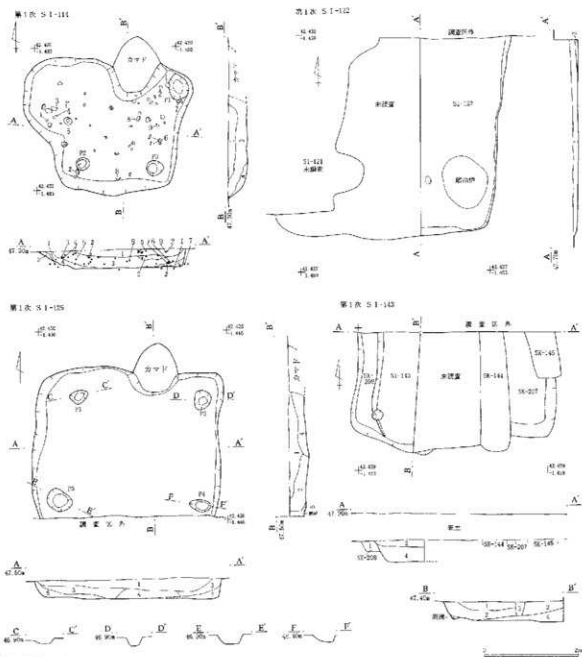
**第14次S I - 844** (第10・25・64・65・130・146 図、図版一二・三四・四四)

南北に長い調査区のはぼ中央に位置し、住居跡の西半分を掘り下げた。東壁の南寄りにカマドを付設し、確認面でのカマドは白色粘土や焼土粒・炭化物・ローム粒を微量含む。北壁の中央にもカマドの可能性のある部分が確認され、暗褐色土で、東カマドと同じ含有物がみられた。しかし、袖などが発見できなかったことから、北カマドから東カマドに移設した可能性がある。南西隅には平面楕円形のビットがあり、ローム粒や焼土粒を微量含む、茶褐色の埋土である。遺物は床面北壁際から鶴田中原タイプ土師器甕(1)が出土し、統一新羅土器(7)も尼寺では稀有である。

**第14次S I - 847** (第10・26・65・130 図、図版一三)

調査区の南部に位置する。住居跡の南半分を掘り下げ調査した。遺構の深さは確認面から37 cmで、北カ





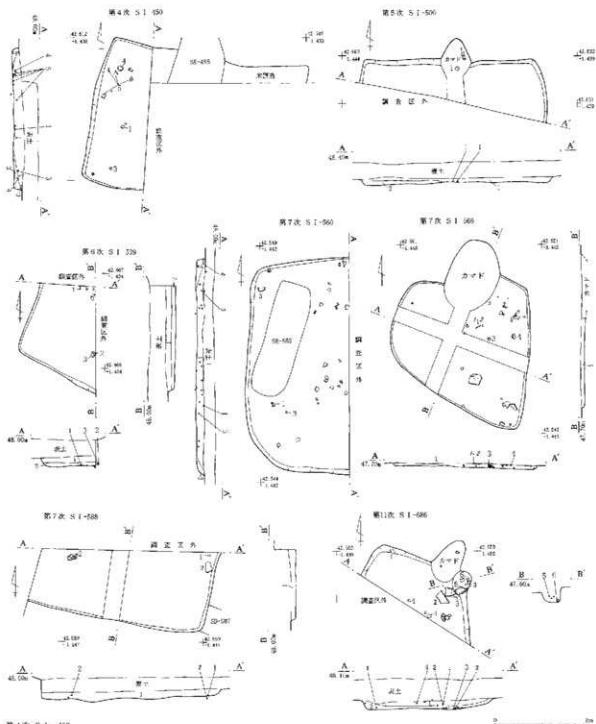
第17図 竪穴住居跡実測図(1)











第4次 S1-459

- 1 暗褐色土 ローム粒やや多量含む、ややしりあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒やや多量、ロームブロック少量含む、ややしりあり。
- 3 暗褐色土 ローム粒多量含む、ややしりなし。
- 4 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロックやや多量含む、ややしりなし。

第5次 S1-500

- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む、しりなし。
- 2 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多量含む、しりあり。

第6次 S1-539

- 表土 明茶褐色土 ローム粒少量含む、硬くしりなし。
- 1 暗褐色土 粘土少量、ローム粒・炭化物少量含む、ややしりあり。
  - 2 暗褐色土 粘土少量、ローム粒少量含む、ややしりあり。

第7次 S1-560

- 1 暗褐色土 ローム粒多量含む、しりあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロックやや多量含む、しりあり。

第7次 S1-566

- 1 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少量含む。

第7次 S1-585

- 1 暗褐色土 ローム粒やや多量、ロームブロック少量含む、しりあり。

第11次 S1-585

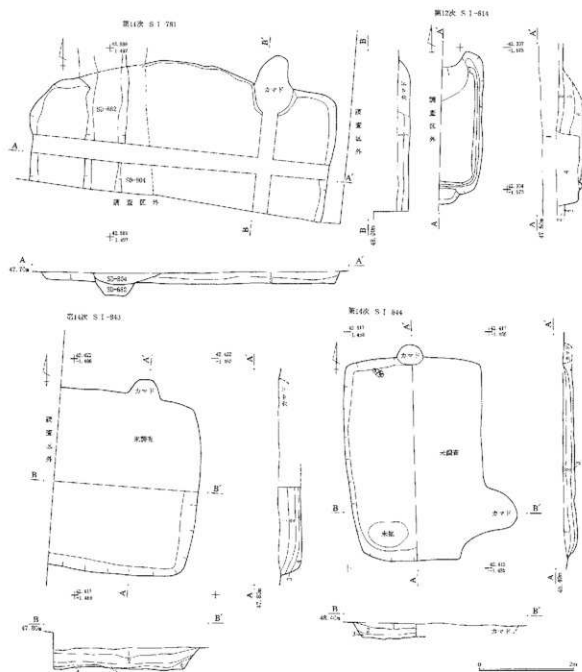
- 1 暗褐色土 ロームブロック (φ0.8-1.0m) 多量、ローム粒・炭化物少量、粘土少量含む、ややしりなし。
- 2 暗褐色土 ローム粒少量、炭化物少量含む、しりあり。

第22図 竪穴住居跡実測図(6)









## 第11次 S1-781

- 1 暗茶褐色土 ローム粒散在含む、ややしまりあり。
- 2 黒褐色土 ローム粒少量、炭化物粒・粘土粒等散在含む、ややしまりあり。

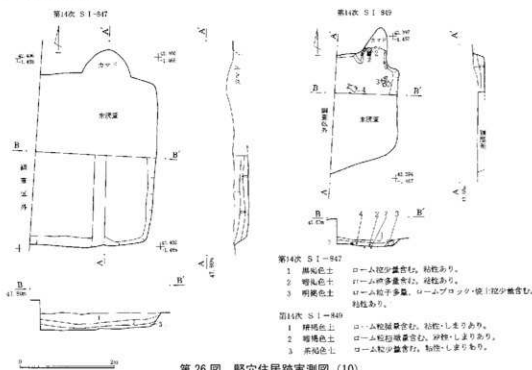
## 第12次 S1-814

- 1 黒色土 暗赤土、砂質、粘持土様土。
- 2 黒褐色土 硬質、砂質、粘持土様土。
- 3 地山層砂層
- 4 黒色土 しまりなし、腐乱。
- 5 暗褐色土 ローム粒・白色粘土少量含む、しまりあり。
- 6 明緑褐色土 ローム粒多量、ロームブロック (直径) 少量含む、しまりややあり。
- 7 黒褐色土 しまりなし、硬塊多量。

## 第14次 S1-844

- 1 暗褐色土 ローム粒・粘土粒少量含む。
  - 2 暗褐色土 ローム粒・炭土粒少量含む。
  - 3 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
  - 4 暗茶褐色土 ロームブロック多量、粘性あり、腐乱。
- 第14次 S1-844
- 1 暗褐色土 ローム暗・白色粘土粒散在含む、しまりあり、粘性あり。
  - 2 暗褐色土 ローム暗・白色粘土粒散在含む、粘性しまりあり。
  - 3 暗褐色土 ローム暗・ロームブロック多量含む、しまりあり、粘性あり。

第25図 竪穴住居跡実測図(9)



第26図 竪穴住居跡実測図(10)

マドを付設する。埋土下層はローム粒が多く確認できた。

第14次 S1-849 (第10・26・65・131図、図版一三・二〇・三四)

調査区の南端に位置する。小型の住居跡で、遺構の北半分を掘り下げた。その結果、北東隅にカマドがあり、袖の内側に瓦を立て掛けていた。焚口の部分からも男瓦が出て、この下から炭化物が多量出土した。3の土師器甕は床面から出土した。

第3節 溝跡

ここでは、『下野国分尼寺跡』で掲載しなかった溝、及び限られた報告であったために、その補足を一部行っていきたい。

第1次 SD-112 (第4・27・66・131・146図、図版一三・二〇・二一・三五・四四・四五)

南北に延びる溝で、伽藍地区西溝に平行している。溝の埋土は4時期に分別でき、1期は地山を掘る底・壁面、2期は17・18・19層の上面、3期は14～16層の上・側面、4期は13・14層の上面である。特に3期には二段掘りになっている。SD-198と重なり、本遺構の方が古い。

遺物と層位との関連では、図化した2～4は概ね4期下層から出土し、9世紀中葉の所産で、7は4期最上層から出土し、10世紀代のものであろう。

第1次 SD-113 (第4・27・68・131・146図、図版一三・二一・三五)

南北に延びる溝で、伽藍地区西溝に平行している。溝の断面は浅いが2時期に分別され、5～7層が初期のA期、1～4層が新しいB期になる。遺物では1は1層、2・3が3層で、B期の所産であり、4が5層でA期になる。時間的にはいずれも9世紀後葉である。

第1次 SD-154 (第4・67・131図、図版二一)

SD-193と重なり、本遺構が新しい。掘方も浅く、かわらけが出土しており、中世後半の所産であらう。

第1次 SD-195 (第4・67・131図、図版三五)

L字形に曲がる溝で、確認面からの深さは50～60cm程であった。粘土・ロームブロック・玉石・瓦を多く含んでいた。

**第1次SD-196** (第4・27・131図、図版一三)

東西にのびる溝で、SD-153よりも古くて、伽藍地内に伴う溝である。

**第1次SD-198** (第4・27図、図版一三)

調査区西端にあり、SD-112よりも新しい溝である。

**第2次SD-242** (第5・19・132図)

東西のグリッド方向に延びる溝で、S I-241よりも新しい。2段に掘られており、北側は確認面から70cm、南側は30cm程の深さである。

**第2次SD-249** (第5・28図)

東西に延びるが、グリッド方位よりも振れている。表土下から掘り込んでおり、埋土はしまりなく、現代の溝と判断した。

**第2次SD-250** (第5・28・69・132図、図版一一・一二)

調査区北端に位置する溝で、北西から南東に延びる。南北の壁に段があり、新旧の掘り直しがあつたと考えられる。古いA期は2・3層、新しいB期は1層になる。

**第2次SD-265** (第5・132図)

東西のグリッド方向に延びる寺院地北辺溝で、3層(前報告第14図)から9世紀後半の須恵器帯が出た。

**第2次SD-273** (第5図)

グリッド東西方向に延びており、土坑よりも古い。埋土は黒褐色土や暗褐色土で、下層はしまりないが、中・上層はしまりあることから、尼寺に関連する溝と判断される。土師器・須恵器・瓦片が出土した。

**第2次SD-292・301・305・309** (第5・29・69・132図、図版一四・三五)

SD-305・309は伽藍地・寺院地北辺に対して直交しており、平行していることから道路跡と推定される。ほかの2条はやや東に振れるが、同様の性格であろう。この溝はS I-307(9世紀第4四半期)よりも古い、底面から30cm程浮いた中層から出土した土器も竪穴住居跡と近い時期である。

**第2次SD-330** (第5・28・69・132・146図、図版二一・三五・三六・四四・四五)

北辺築地塀外溝である。埋土には前報告第14図所載の挿図1-N・1-Sの6層は、白黄色の火山灰と思われる粒が多量確認され、1108年降下のものであろうか。

遺物の出土層位と土器の関連では、37の須恵器高台付坏は出土レベルがやや下層であり、型的に新しい1は上層から出土している。土器は大半が10世紀前半のものである。この溝が10世紀前半まで主に機能していたと判断される。

**第2次SD-332** (第5・132図)

北辺掘立柱塀SA-300と重なるこの溝はL字形に曲がり、埋土上層から土師器坏などの破片が出土した。

**第2次SD-333** (第5・69・132図)

北辺掘立柱塀内溝である。埋土中から9世紀後半の須恵器が出土した。

**第2次SD-334** (第5・69・133・146図、図版三六)

北辺築地塀内溝で、遺構は2時期に分別される。土器類は、1・2・6・7が8世紀後半頃、4・5は9世紀後半、8が10世紀前半になる。中層において新旧型式の土器が混在しており、10世紀前半まで機能していたことがわかる。

**第2次SD-363** (第5・28図)

SK-341よりも新しく、多くの長方形土坑よりも古い。浅い掘り込みで、やや蛇行している。

**第2次SD-369** (第5・28・133・146図、図版三六・四四・四五)

SD-330よりも古い北辺築地塀外溝である。下層から出た1は9世紀後半、上層から出土した2は10世紀前半の所産であろう。

**第3次SD-389** (第6・29図)

寺院地外にある溝で、南西から北北東に延びる。浅い掘り込みで、下層にはロームブロックを多く含む。

**第4次SD-140** (第6・133図、図版一四・三六)

寺院地東側張り出し区画東辺溝で、掘り直しによる新旧2時期がある。前報告第15図に遺物の出土レベルを投影すると、4の土師器が2層、1・5が2'層、2が最上層の1層にあたり、いずれも掘り直し後のSD-140B期の埋土から出ている。2～5は9世紀後半の所産で、この時期にSD-140Bは埋没したことになる。

**第5次SD-492・493** (第5・29・133図)

堅穴住居(SI-495・496)や長方形土坑と重複し、本遺構の方が新しい。この調査区は寺院地外にあたり、北北東から南南西にのび、建物群とも方位が異なっていることから、寺院と関連する溝が明らかでない。

**第6次SD-520・521** (第7・29・133図)

寺院地外にある、平面弧状を呈した溝である。北側のSD-520よりも521が新しい。

**第7次SD-140・550** (第7・30・70・133・134・146図、図版一四・三六・三七・四四・四六)

寺院地東側張り出し部の北辺・東辺の区画溝であり、掘り直しによってA期(旧)、B期(新)に分別できる。A期の最下層にはローム粒やロームブロックが多量含まれていた。北東コーナーにおいてB期下層から8世紀後半の須恵器坏が出土した。さらに底部に静止糸切り痕のある灯明具や9世紀前葉の須恵器坏、後半の三日月高台の灰釉陶器皿などがB期埋土や上面から出ている。

SD-550については遺物の出土レベル図をみると、図化できたものは掘り直し後のB期のものである。このなかで4の須恵器坏は底径7cmで、寂光沢2号窯の9世紀第2四半期になり、灰釉陶器碗は黒夜90号窯式で9世紀後半になり、B期はSD-140とほぼ同じ期間機能していたことになる。これらの点からSD-550は9世紀中葉まで機能していたと考えられる。

**第8次SD-140・610** (第8・31・71・134図)

寺院地東張り出し区画の南辺・東辺溝である。南辺溝も東辺と同様に掘り直しされておりA期・B期に分別される。B期の埋土には、白色粒子が若干混じっていた。SD-610では9世紀後半の4の須恵器坏は2層中から出土し、前報告第40図の鉄製薬蕪壺は2層上位(底面から70cm浮いたレベル)から出ている。SD-140の遺物出土レベルをみると、図化したものは掘り直し後のB期の層位から出土し、2の土師器坏は9世紀中葉、4の灰釉陶器壺は9世紀後半の所産である。

東張り出し区画南辺のSD-610では、底径6～7cmの須恵器坏で、9世紀中葉から後半になる。

**第9次SD-651** (第7・134図、図版一四)

築地塀西辺溝の内側で平行して発見された溝である。伽藍地西門の所で溝が終えている。この溝は西側には延びないことが確認され、確認面からの深さは50cm程である。遺物は前報告の第20図4W-4E土層図の本遺構2層上位から、図化した土師器坏(1)が出土した。この坏は9世紀中葉の所産である。

**第9次SD-653** (第7・71・134図)

寺院地西辺溝で、SD-658Aにより壊される。上面から9世紀前半頃の土師器杯が出土している。

**第9次SD-658A・B** (第7・71・134・146図、図版三七・四四)

西辺築地塼外溝で、掘り直しによりA期・B期に分けられる。SD-658Bの遺物では、1が前報告第20図1W-1E土層図の2層中で、底面から20cm程浮いたレベル、2が1層中で底面から50cm程浮いて出土した。2は9世紀後半の所産であり、SD-658Bはこの時期になると推定される。

**第10次SD-653A・B** (第8・31・71・134図)

寺院地西辺溝で、掘り直しによりA期・B期に分けられる。古いA期の最下層(前報告第24図土層図2～4の3層)はロームブロック・ローム粒からなる黄褐色土で、人為的埋土と判断された。SD-653Bの遺物では2・3・4が1層中位から出土し、2が最も新しく9世紀後半になる。

**第11次SD-193A・B** (第9・134・146図、図版三七・四四)

寺院地の東辺溝で、SD-800よりも新しい。掘り直しにより2時期あり、遺物の出土層序では、古いA期の上層(1層)からは底径6.4cmの須恵器杯が出ている。三鑫窯編年の大芝原窯B地点段階に比定でき、9世紀後半の所産である。図化したその他のものは多くが掘り直し後のB期下層(2層)から出ており、5の須恵器杯が同様に大芝原窯B地点段階に比定できる。このため、A期下限・B期上限は9世紀後半のなかであることが指摘できる。

**第11次SD-265A・B** (第9・32・135・146図、図版三七)

寺院地北辺溝である。掘り直しによってA期・B期に分けられる。下層は両時期共にロームブロックが多く入る。遺物は下層からも底径6cm程で、大芝原窯B地点段階の須恵器杯(3・6)が出ているが、中層から底径9cm程の三鑫窯編年三通窯段階の杯(5)、寂光沢2号窯段階(1)、益子窯滝ノ入・倉見沢窯段階(2)が出ている。

**第11次SD-330** (第9・32・72・135・146図、図版二二・三七・四四)

築地塼の外溝で、4層に分層され、8世紀後半から9世紀中葉の遺物が出ている。SD-369・810よりも新しい。

**第11次SD-369** (第9・32・135図、図版三七)

築地塼の外溝で、SD-330よりも古い。9世紀中葉の土師器杯(2)から後半の遺物や漬け掛けの灰桶陶器が出ている。

**第11次SD-550A・B** (第9・135図、図版三七)

寺院地張り出し区画溝で、新旧2時期に分けられる。1・2の須恵器は前報告第25図17土層図SD-550B期1層から出ており、1は益子窯滝ノ入・倉見沢窯段階で9世紀中葉になる。

**第11次SD-681** (第9・135図、図版三七)

伽藍地北側の寺院地内に南北にのびる溝で、掘立柱建物SB-700などと主軸が合う。前報告第27図3土層図にあり、炭化物粒を含む暗茶褐色土で、9世紀後半の土器・陶器が主体である。

**第11次SD-682** (第9・33・72・135・146図)

築地塼の外溝よりも新しく、掘立柱建物SB-700やSD-713などと主軸が合う。SI-781よりも新しく、SD-804よりも古い。最下層はロームブロックを多量含む黄褐色土であり、埋め戻している可能性がある。遺物は、底径6～7cmの土師器・須恵器杯で、9世紀後半の所産である。

**第11次SD-713** (第9・33・135図、図版三七)

主軸が座標北よりも東に振れる。9世紀中葉から後半の土器が出土し、3は三鑫窯大芝原窯B地点段階の

須恵器坏である。

**第11次SD-777** (第9・33・135・146 図)

調査区北端の東西溝で、寂光沢3号か2号窯段階の須恵器坏が出土した。

**第11次SD-790** (第9・34・136 図、図版一四・三七)

土層観察(前報告第27図6土層図)により、本溝は北辺築地塀外溝SD-330やSI-680よりも古いことがわかる。溝の主軸は座標北よりも東に振れている。本溝と主軸をほぼ同じくするSD-682はSD-330よりも新しく、南北溝と築地北辺溝との新旧はSD-790→330→682となる。伽藍地北方における寺院地の区画溝の変遷が捉えられる。遺物は1を除き、底径6～7cm代であり、灰軸陶器も三日月高台であり、9世紀中葉から後半の所産である。

**第11次SD-796** (第9・34・135 図)

本溝は、寺院地北辺溝(SD-265)よりも新しい。

**第11次SD-797** (第9・135 図、図版三七)

L字形に曲がる溝で、SD-798・803よりも新しい。

**第11次SD-800A・B** (第9・33・72・136 図、図版二二・三七・三八)

寺院地東辺溝で、掘り直しにより2時期になる。出土した土器は、8世紀後半～9世紀前葉までの1・5・8・9と9世紀後半の4・10に分けられる。10はB期の層位から出ている。

**第11次SD-804** (第9・33・72・73・136 図、図版二二)

SI-781・SD-682よりも新しく、上層から9世紀代の土器・灰軸陶器が出土している。

**第11次SD-810A・B** (第9・32・136 図)

A期は伽藍地の掘立柱塀北辺溝であり、掘り直しのB期は寺院地築地塀北辺溝になる。図化した遺物はA期の埋土から出土し、1はその底面から出た9世紀後半の土師器坏である。

**第12次SD-610A・B** (第10・73・136 図、図版二三・三八)

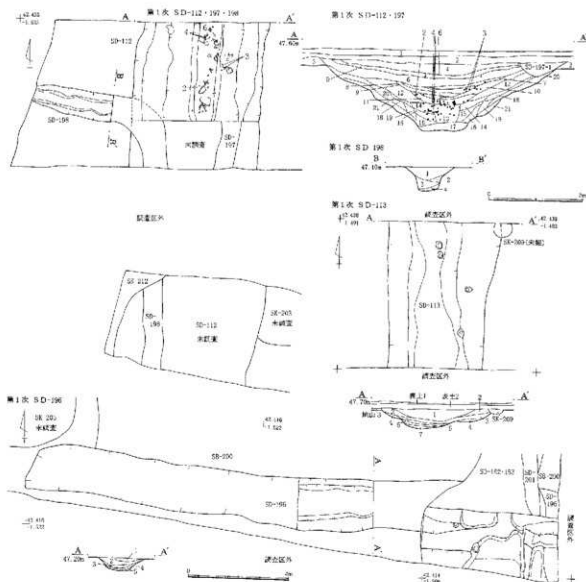
寺院地南辺の区画溝である。掘り直しにより2時期あり。当初のSD-610の溝を掘削後に、ロームブロック多量の黄褐色土・明褐色土(前報告第29図12土層図12～14層)で掘削後に土橋を構築している。12土層図10・11・15・16層と30図の13土層図6・7はA期になり、ローム土で埋め戻している。B期は12土層図の1～9層である。下層は自然堆積後にロームで埋め戻す。上層から非ロクロの土師器坏が出ており、第1次SI-114に類似したものであり、9世紀後半に位置付けられる。

**第12次SD-836** (第10・136 図)

南辺築地塀外溝で、土層観察により、溝の新旧を判断した。埋土上層から10世紀中頃の土師器坏(1)が出土した。

**第13次SD-610A・B** (第8・136 図)

埋土の観察により、2時期になる。掘り直し後の上・中層(B期)埋土中から9世紀後半の土師器・須恵器が出土した。



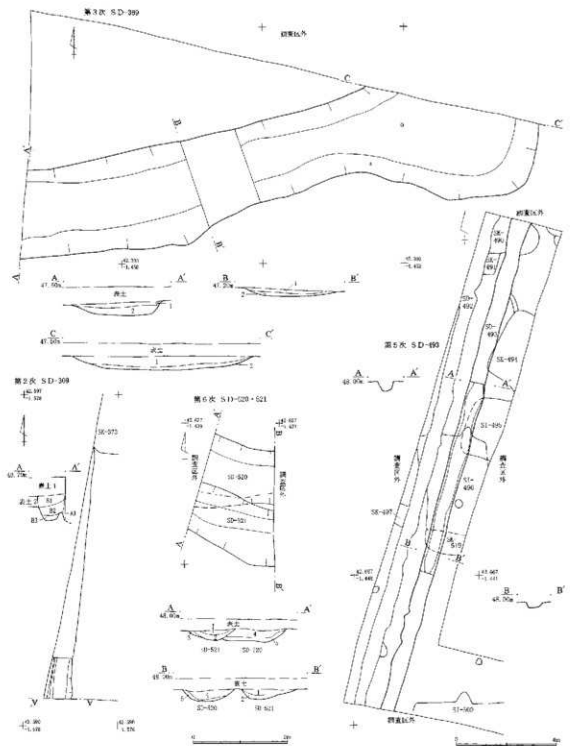
- 第1次 SD-112
- 1 耕作土
  - 2 耕作土
  - 3 茶褐色土
  - 4 黒褐色土
  - 5 茶褐色土
  - 6 茶褐色土
  - 7 茶褐色土
  - 8 黒色土
  - 9 黒色土
  - 10 黒色土
  - 11 黒褐色土
  - 12 暗茶褐色土
  - 13 黒色土
  - 14 茶褐色土
  - 15 黒褐色土
  - 16 黒褐色土
  - 17 黒色土
  - 18 黒褐色土
  - 19 黒褐色土
  - 20 暗茶褐色土
  - 21 黒褐色土

- 第1次 SD-113
- 1 暗褐色土
  - 2 暗茶褐色土
  - 3 黒褐色土
  - 4 暗褐色土
  - 5 暗茶褐色土
  - 6 暗茶褐色土
  - 7 黒褐色土
- 第1次 SD-196
- 1 黒褐色土
  - 2 茶褐色土
  - 3 黒色土
  - 4 黄褐色土
  - 5 黄褐色土
- 第1次 SD-197
- 1 暗茶褐色土
  - 2 暗茶褐色土
  - 3 暗茶褐色土
  - 4 黒色土

第27図 溝跡実測図(1)







第2次 SD-309

- 3期  
1 黒褐色土 ローム粒少量含む、しまりなし。  
E期  
1 赤褐色土 ローム粒・ロームブロック多数含む、しまりなし。  
2 黒褐色土 しまりなし。  
3 茶褐色土 ローム粒少量含む、ややしまりあり。

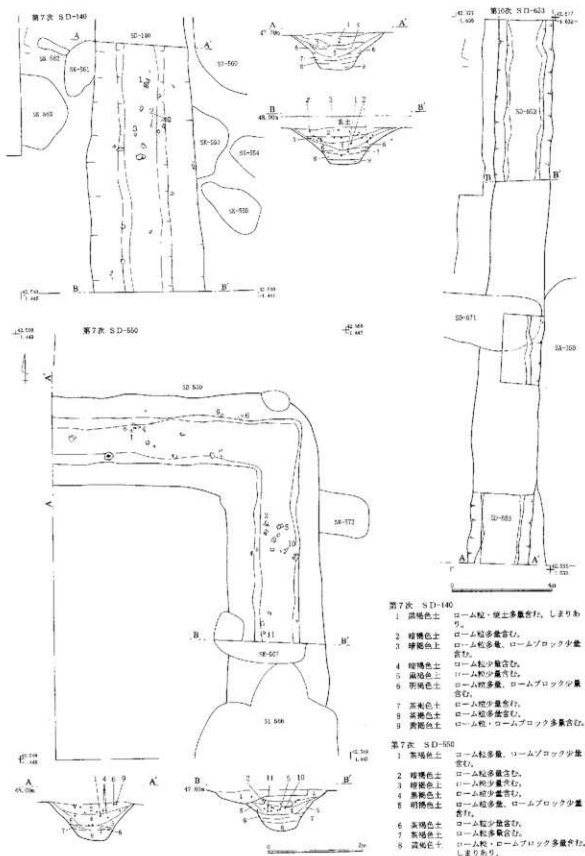
第3次 SD-389

- 1 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少量含む。  
2 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多数含む。

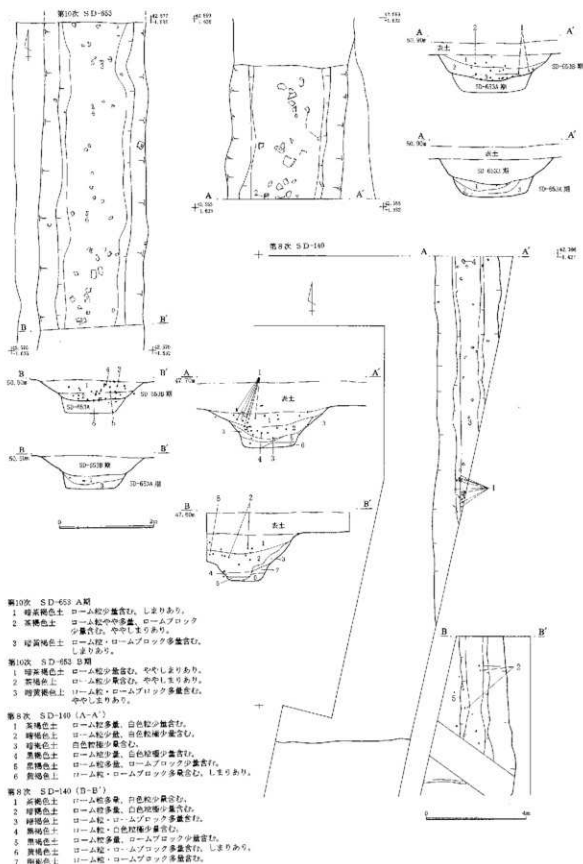
第5次 SD-520

- 1 黒褐色土 ローム粒子少量含む、しまりあり。  
2 黄褐色土 ローム粒子やや多数含む、しまりあり。  
3 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多数含む、しまりあり。  
4 暗褐色土 ローム粒多数、ロームブロック少量含む、しまりあり。  
5 黒褐色土 ローム粒多数、ロームブロックやや多数含む、ややしまりあり。

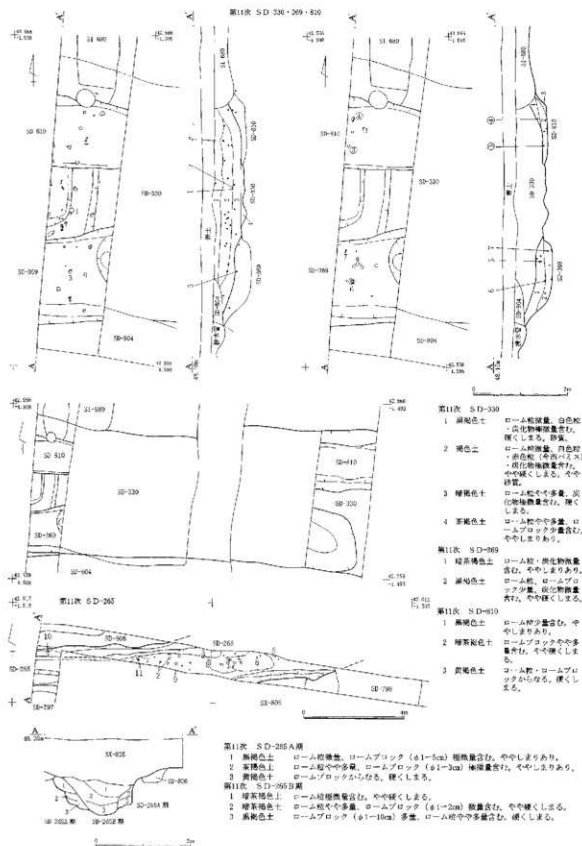
第29図 溝跡実測図(3)



第30図 溝跡実測図(4)



第31図 溝跡実測図(5)



第32図 溝跡実測図(6)





## 第4節 土坑・井戸跡・性格不明遺構

本遺跡では、各調査区において多様な形態の土坑が発見された。ここでは、埋土掘り下げを行ったものについて図を提示し、説明は特徴的な遺構・遺物について行う。遺物の実測図があるが、遺構の図面がないものは、遺構確認面で遺物を取り上げたものである。

### 第1次SK-190 (第4・35・137図、図版一四・三九)

平面円形の掘方に土師器甕が正位で置かれて出た。蔵骨器の可能性が高いが、中から骨片などは確認できなかった。コの字形口縁をした甕で、肩部を斜位、胴部下半を縦位に削っており、9世紀中葉から後半の所産になる。出土位置は寺院地外東になる。

### 第3次SK-387 (第6・36・137図、図版一四・三九)

寺院地外南東に所在する。平面楕円形の掘方内から土師器甕が出土した。土坑の北西半分において、縦位の半分は口縁部を南東に向けていた。潰れた状態と直載的な判断はできないが、土器は蔵骨器の可能性も考えておきたい。

### 第4次SK-421 (第6・36・137・147図、図版一五・三九・四六)

南北に長い長方形土坑で、土器の示す時期からすると、寺院地の外側に掘られた遺構となる。底面は平坦で、やや浮いたレベルで完形の坏が正位の状態でまともに出土した。長軸の長さ2.4mになることから、墓の可能性もある。土器の時期は10世紀前半であろう。

### 第1次SE-116 (第4・39・138・147図)

平面円形の掘方で、断面形は漏斗状に窄まっていく。埋土の上位を掘り下げ、平安時代の土師器高台付坏や甕の破片が出土した。

### 第2次SE-371 (第5・39・138図、図版一六)

寺院地内の北方に位置する。平面円形の井戸で、掘り下げた部分より下位は急激に窄まる。埋土中から9世紀後半の土器が出土した。築地塙に時的にも近似したものであり、伽藍地の北側に掘られた井戸と考えられる。

### 第1次SX-115 (第4・39・138図、図版一六・三九・四〇)

調査区の西部、伽藍地の外側に位置する。完形の土師器坏が入れ子状に重ねられた状態で出土した。埋納したものと判断できる。ここから出た坏は製作技法でロクロ撫での一群と体部を押しして作り、底部外面に離れ砂がある一群に大きく分類できる。後者の一部は体部外面下半に篋削りを行う。灯明のタールと芯痕の観察されるものがある。

### 第2次SX-291 (第5・39図、図版一六)

地下式坑と判断した。西側が堅坑であろう。同様の地下式坑は第2次調査区SK-299、第5次調査区SK-494などを挙げることができる。

### 第2次SX-377 (第5・39・139・147図、図版四一・四六)

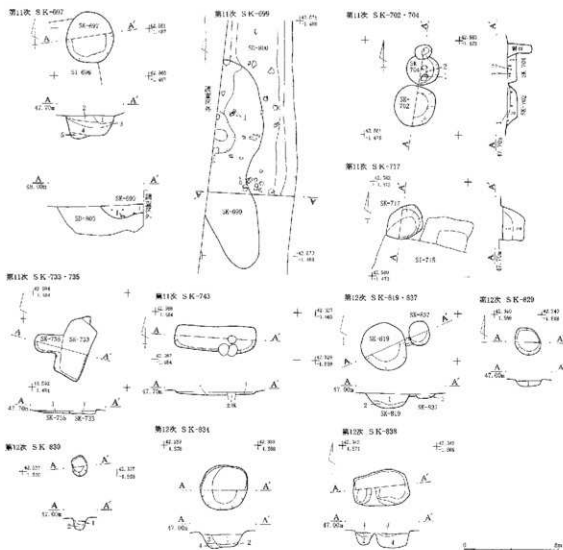
埋土が極めて硬質になっており、平面やや不整な長方形である。埋土中から瓦が3点出土したが、遺構の性格は判然としない。











第11次 SK-692

- 1 灰褐色土 灰褐色粘土主体。暗褐色土多量、ローム粒少量含む。
- 2 褐色土 ローム粒、ロームブロック少量含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック多量、灰化物粒少量含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少量よりやや多量含む。
- 5 黄褐色土 ロームブロック主体、ローム粒・灰色土多量含む。

第11次 SK-699

- 1 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック(φ0.5-3cm大)やや多量含む。やや硬くしえる。

第11次 SK-702

- 1 暗褐色土 ローム粒多量、灰土粒少量含む。しりりあり。
- 2 褐色土 ローム粒多量、灰色粘土ブロック・灰土粒少量含む。しりりあり。

第11次 SK-704

- 1 黒褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量、灰土粒少量含む。しりりあり。

第11次 SK-717

- 1 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック(φ10cm大)やや多量含む。ややしりりあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒・ロームブロックからなる。硬くしえる。(1・2層人骨処理の痕跡)

第11次 SK-723

- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。ややしりりあり。

第11次 SK-725

- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む。しりりなし。

第11次 SK-743

- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む。しりりなし。

第12次 SK-834

- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む。しりりなし。

第11次 SK-702-704

- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む。しりりあり。

第11次 SK-717

- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む。しりりあり。

第12次 SK-818-837

- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。しりりややなし。
- 2 暗褐色土 ローム粒少量含む。しりりややあり。
- 3 暗褐色土 ロームブロック少量含む。粘性あり。(SK-837)

第12次 SK-829

- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む。

第12次 SK-838

- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む。やや粘性あり。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多量含む。粘性あり。
- 3 暗褐色土 ローム粒少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック多量含む。粘性あり。

第11次 SK-743

- 1 暗褐色土 ローム粒少量、ロームブロック少量含む。ややしりりあり。

第12次 SK-819-837

- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。しりりややなし。
- 2 暗褐色土 ローム粒少量含む。しりりややあり。
- 3 暗褐色土 ロームブロック少量含む。粘性あり。(SK-837)

第12次 SK-829

- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む。

第12次 SK-830

- 1 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック(φ1-2cm)多量含む。粘性あり。

第12次 SK-834

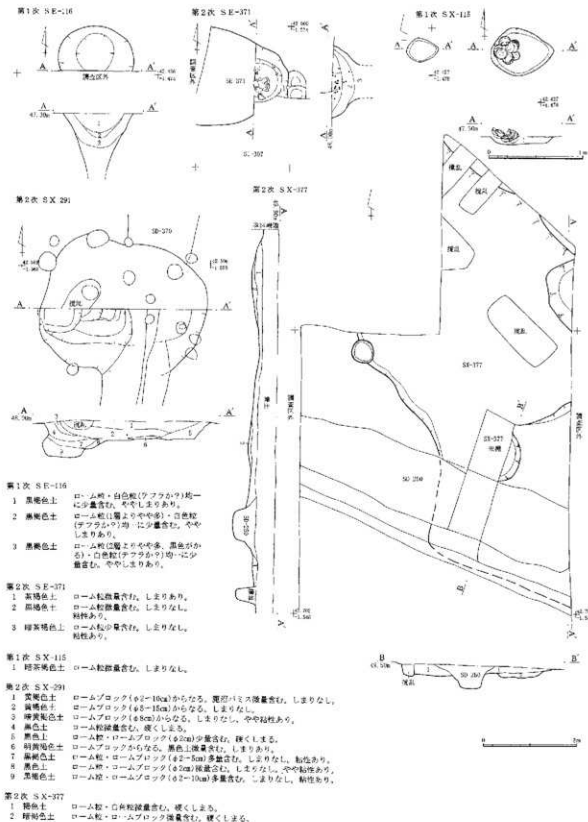
- 1 黒褐色土 ロームブロック(φ1cm)多量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック(φ3cm)少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック(φ1-2cm)多量含む。しりりあり。
- 4 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック(φ1-2cm)多量含む。しりりあり。

第12次 SK-838

- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む。やや粘性あり。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多量含む。粘性あり。
- 3 暗褐色土 ローム粒少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック多量含む。粘性あり。

第38図 土坑実測図(4)

第3章 発見された遺構



第39図 井戸跡・性格不明遺構実測図

## 第4章 発見された遺物

ここでは、遺構などから出土した瓦について、図面の提示と説明をしていく。瓦当文様や箆傷・製作技法などで分類された瓦について、実年代を考定する際の共伴資料を提示する目的で、遺構から出た瓦の一部（瓦当文様や型押文など）を掲載した。瓦当文様や型の形態分類については『下野国分尼寺跡』（栃木県教育委員会 1969年刊 以下、尼寺1969報告）で行っており、瓦当文様と製作技法・変遷などについては、『下野国分寺跡Ⅱ 瓦・本文編』（栃木県教育委員会 1997年刊、以下国分寺報告）で触れている。その後、『下野国分尼寺跡』（2011年発行 以下、尼寺2011報告）でも国分寺瓦の分類を踏襲して、尼寺で新たに確認した軒先瓦について、分類番号を追加した。ここでは、資料提示の目的に従い、瓦の編年を行っている国分寺報告の分類に依拠し、一部実測図の脇に分類・型押文番号を記載した。なお、型押文については、一覧表に示したので参照されたい。

### 第1節 瓦

#### （1）尼寺出土瓦の分類と特徴（第40～43図、第3表、図版一七～一九）

尼寺2011報告の瓦分類が現段階における国分寺・尼寺の共通分類であり、ここでは追加された瓦について説明する。

##### 鍍瓦1型式

外区外縁に線縮歯文で、内縁に珠文を配する複弁八葉蓮華文の鍍瓦である。外縁は緩やかに立ち上がり、線縮歯文は線が細い。珠文は縮歯文の頂部に接して配する。内区には間弁がある。蓮子は1+8とみられ、内区の彫りは浅い。瓦当面裏側の溝に男瓦の端を差し込み接合する。瓦当側面の男瓦側は横方向に削りを施す。胎土に白色粒子の多い水道山瓦窯産を含む。

##### 鍍瓦13型式

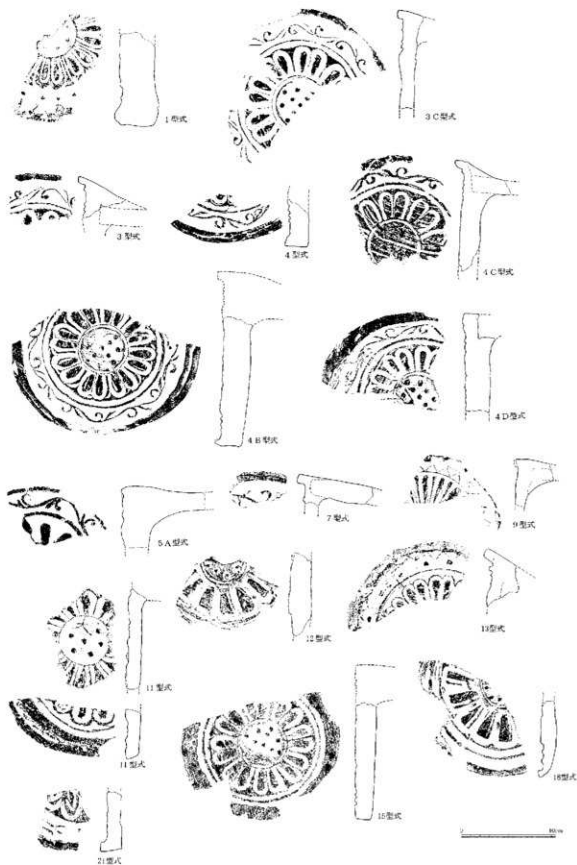
線縮歯文縁複弁十葉蓮華文鍍瓦である。直立気味に立つ外区周縁に細い線縮歯文を配し、珠文を内縁に施し、内縁で内区と画する。蓮弁は、ややふくよかであるが、間弁がない。糸切り痕が観察され、粘土塊から切った瓦当部を箆に詰めて造っている。男瓦との接合部外面には縦方向に削りを行う。胎土に灰色の礫を含む。胎土から三鑫窯の産とみられ、和田窯の521型に当たる。下野国府5類の521型式、国分寺鍍瓦13型式に相当する。国府ではⅡ期、国分寺では瓦当厚が厚いことから1-1期に位置付ける。和田窯で、珠文線縮歯文複弁八葉蓮華文鍍瓦と共に出土しており、8世紀中葉の所産と判断し、国分寺の年代に依る。

##### 鍍瓦18型式

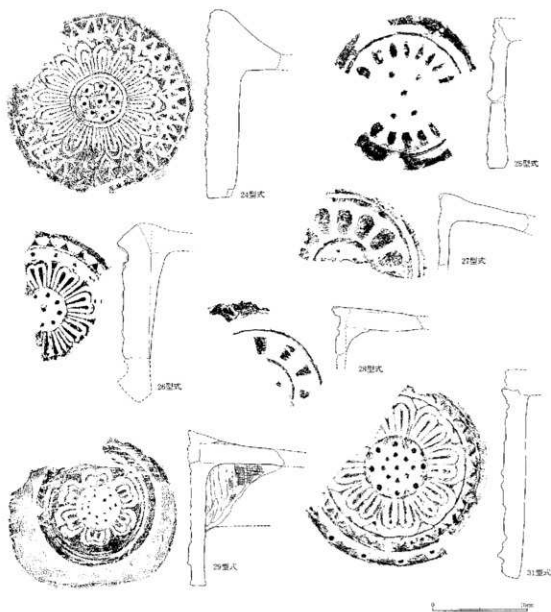
外区は重圈文で角形弁弁蓮華文の瓦である。尼寺1969報告の軒丸瓦一・二Aに当たる。中房の蓮子の配置は不揃いであり、蓮子は1+2+8であろう。外周に二重の圈縁を巡らす。弁は低く、右側に段が付いている。尼寺1969報告の第10図6は箆傷が進んでいる。瓦当厚は1.2cm程で薄い。胎土の特徴から三鑫窯の産であり、生産遺跡はゼニゴ沢窯跡で確認されている。これと共に出土したゼニゴ沢窯1型式鍍瓦は下野国分寺2-1期（790年～9世紀第1四半期）に位置付けており（野代ほか1998）、本型式も併行するであろう。尼寺では南門と回廊から出土している。

##### 鍍瓦26型式

外区外縁が面縮歯文で、内縁に珠文を配する複弁蓮華文の鍍瓦である。尼寺1969報告の軒丸瓦三で、下



第40図 鏡瓦分類図(1)



第41図 鍍瓦分類図(2)

野薬師寺1188型式、上神主・茂原官衙遺跡の1類に当たる。胎土には白色粒子を多く含み、水道山窯産と考えられる。尼寺1969報告では、南門と僧房などから4点出ているが、今回回断からも1点確認できた。第2次SD-333(尼寺2011報告の第34図)・第10次SD-670(築地西辺溝)から1点のみ出土した。上神主・茂原官衙遺跡では、大型礎石瓦葺建物に巡る溝(SD26)から本型式が出土しており、文字瓦から740～757年に位置付けられる。

#### 鍍瓦28型式

圓線縁角形素弁蓮華文で、尼寺1969報告の軒丸瓦一二Bに当たる。瓦当厚は1.2cm程で薄い。外区幅が狭いことから、男瓦部凸面側の補強粘土は少ない。尼寺1969報告では経蔵から出土しており、第11次SI-680から1点確認された。この住居は遺構変遷Ⅲ-2期、土器変遷の4期(9世紀第4四半期)になり、この瓦の下限になる。文様の退化からみてもこの時期になるであろう。胎土からみて三養窯の生産瓦と判断

される。

#### 鏡瓦 29 型式

複弁六葉蓮華文で、尼寺 1969 報告の軒丸瓦八に当たる。中房が花卉よりも低くなっており、6+8の蓮子である。弁は平坦で、文様面に糸切り痕が明瞭に残る。外区には二重圏線があるが、低くて外側の圏線は斜線になっており、断面錐状である。その外周は無文帯となっている。瓦当厚は 1.5 cm 程で薄い。瓦当面裏側に溝を付け、男瓦を詰め込んでいる。胎土から三義窯の産と考えられるが、生産地では未確認の瓦である。金堂と回廊から計 6 点出土した。

#### 鏡瓦 31 型式

珠文線縁歯文複弁八葉蓮華文で、尼寺 1969 報告の軒丸瓦七に当たる。珠文の外区外縁は表面がザラザラしている。尼寺 1969 報告では、金堂と講堂で出土したとあり、第 11 次 SD -330 でも出ている。生産窯は三義の和田窯・下津原窯が挙げられ、寂光沢窯でも 1 点出土している。消費地では下野国府跡のⅡ期東西脇殿に用いられ、国府 321 型式で、8 世紀中葉になる。ただし、国府所用のこの瓦が国分寺から出土数が少ないことから、国分寺創建に先行するという見解もある（大橋 2001、93 頁）。

#### 宇瓦 1 型式

均整唐草文で、尼寺 1969 報告の軒平瓦三、下野薬師寺 203E 型式、上神主・茂原官衙遺跡の宇瓦 1 類に当たり、左第 3 単位の支葉の頭部が長方形になっている特徴がある。上神主・茂原官衙遺跡では大型礎石瓦葺建物（SB 01）から本型式が出土しており、「君子部」の文字瓦から 740～757 年に位置付けられる。尼寺 1969 報告では尼寺の南門・中門・金堂・鐘樓から出土している。

#### 宇瓦 14 型式

中心飾りがペンギン文様で、左右に唐草文がのびるが左右均整ではない。上下と脇の外区に珠文を配するが脇区では素文帯の幅が広い。顎はいずれも曲線顎で、製作技法では粘土の一枚板を折り曲げて瓦当面にするものと、女瓦部の凸面側に粘土を貼り付けて曲線顎を造る場合がある。型押文 62 と 91 が叩かれており、国分寺編年の 2 期にあたる。尼寺 1969 報告の軒平瓦七・八型式に当たるが、同一瓦当文様であった。三義の鶴舞瓦窯の構築材に使われており、三義窯の産である。

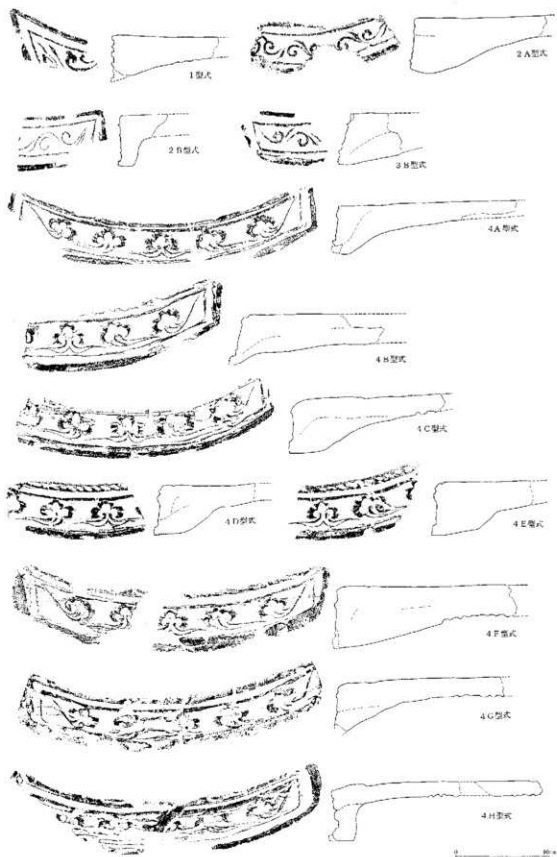
#### 宇瓦 15 型式

外区に珠文を配する均整唐草文である。中心飾りにペンギン文様があることから、宇瓦 14 型式の祖形になるであろう。顎は曲線顎で、女瓦に粘土板を貼り付けて造っている。女瓦部凸面は丁寧な撫で、削りが施されている。尼寺 1969 報告の軒平瓦四型式、薬師寺 205B 型式にあたる。真岡市中村遺跡第 8 次調査 2 号住居跡で 8 世紀中葉の堅穴住居跡から出土していることから、所産時期が判明する。西山窯で生産されており、茨城県新治産寺所用瓦の系譜である。

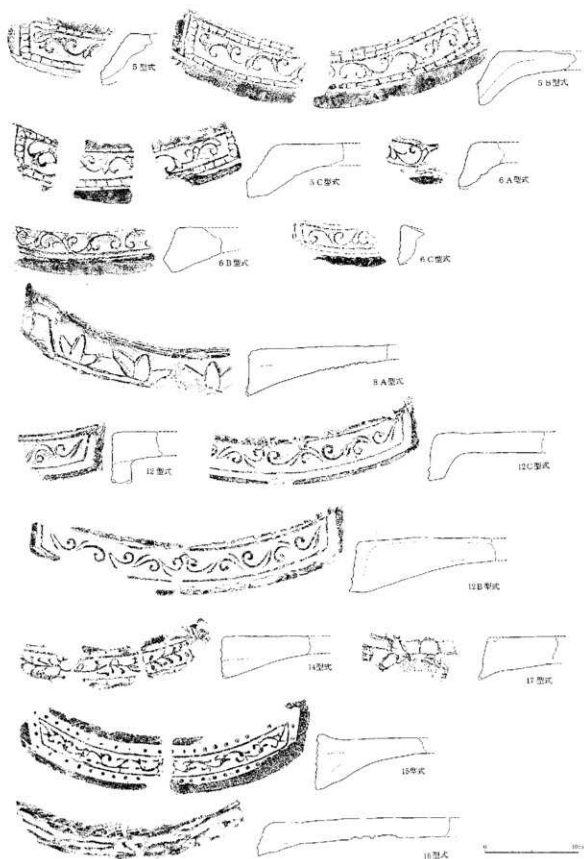
#### 宇瓦 16 型式

瓦当面上端には糸切り痕が残り、女瓦部から瓦当面上半が一体である。顎部は薄く粘土板を貼り付けて曲線顎とする。瓦当文様は 3 条の隆線が横走し、上下の隆線は外区の区画に相当するであろうが、途切れている。中央の隆線は波状に横走し、途切れて 4 本になっている。唐草文を意図した文様と考えられる。凹面の広端部側に削りなどは行わない。胎土に白色礫を多く含む。文字瓦は中央に「寺」Ⅳで叩き、これは第 4 次 SK -461 から出土しており、9 世紀後半が下限になる。同じ型押文字が鏡瓦 25 型式に叩かれており、回廊から出土していることから、時期的に併行し、組み合わせる可能性が高い。胎土からみて三義窯の産と考えられるが、生産窯は不明である。





第42圖 宇瓦分類圖(1)



第43図 宇瓦分類図(2)

第3表 軒先瓦分類表

型式	瓦当文様	時期	1969年 尼寺分類	型式	瓦当文様	時期	1969年 尼寺分類
蹬瓦 1	線刻唐文線複弁八葉蓮華文	1-1	軒丸瓦 4	蹬瓦 31	珠文線刻唐文線複弁八葉蓮華文	1-1	軒丸瓦 7
蹬瓦 2A	圈唐草文線複弁八葉蓮華文	1-1		宇瓦 1	均整唐草文	1-1	軒平瓦 3
蹬瓦 2B	圈唐草文線複弁八葉蓮華文	1-1		宇瓦 2A	均整唐草文	1-1	
蹬瓦 3A	圈唐草文線複弁八葉蓮華文	1-1		宇瓦 2B	均整唐草文	1-2	
蹬瓦 3B	圈唐草文線複弁八葉蓮華文	1-1		宇瓦 3A	均整唐草文	1-1	軒平瓦 2-D
蹬瓦 3C	圈唐草文線複弁八葉蓮華文	1-2		宇瓦 3B	均整唐草文	1-2	
蹬瓦 4A	圈唐草文線複弁八葉蓮華文	1-1	軒丸瓦 1-A~D	宇瓦 3C	均整唐草文	1-2	軒平瓦 2-A
蹬瓦 4B	圈唐草文線複弁八葉蓮華文	1-2前	軒丸瓦 1-A~D	宇瓦 4A	飛雲文	1-1	
蹬瓦 4C	圈唐草文線複弁八葉蓮華文	1-2後	軒丸瓦 1-A~D	宇瓦 4B	飛雲文	1-2	軒平瓦 1-A
蹬瓦 4D	圈唐草文線複弁八葉蓮華文	2-1	軒丸瓦 1-A~D	宇瓦 4C	飛雲文	1-2	
蹬瓦 5A	圈唐草文線素弁十一葉蓮華文	3-1		宇瓦 4D	飛雲文	1-2	
蹬瓦 5B	圈唐草文線素弁十一葉蓮華文	3-2	軒丸瓦 10	宇瓦 4E	飛雲文	1-2	
蹬瓦 6	圈唐草文線素弁十葉蓮華文	3-1		宇瓦 4F	飛雲文	1-2	
蹬瓦 7	圈唐草文線單弁十二葉蓮華文	2-1		宇瓦 4G	飛雲文	2-1	軒平瓦 1-C
蹬瓦 8	圈唐草文線素弁八葉蓮華文	3-2		宇瓦 4H	飛雲文	2-2	軒平瓦 1-D
蹬瓦 9	線刻唐文線單弁十六葉蓮華文	1-1		宇瓦 5A	均整唐草文	3-1	
蹬瓦 10	線刻唐文線單弁十六葉蓮華文	2		宇瓦 5B	均整唐草文	3-2	軒平瓦 6
蹬瓦 11	圈線線單弁十四葉蓮華文	2-2	軒丸瓦 5	宇瓦 5C	均整唐草文	3-2	軒平瓦 6
蹬瓦 12	素弁十四葉蓮華文	1-2・2-1		宇瓦 6A	均整唐草文	3-1	
蹬瓦 13	線刻唐文線複弁十葉蓮華文	1-1		宇瓦 6B	均整唐草文	3-2	
蹬瓦 14	単弁蓮花文	2		宇瓦 6C	均整唐草文	3-2	
蹬瓦 15	圈線線複弁八葉蓮華文	2	軒丸瓦 2	宇瓦 7	均整唐草文	1-1	
蹬瓦 16	唐草文線単弁蓮花文	2		宇瓦 8A	飛雲文	1-2・2-1	軒平瓦 5
蹬瓦 17	単弁十五葉蓮華文	2		宇瓦 8B	飛雲文		
蹬瓦 18	圈線線単弁蓮華文	2-1	軒丸瓦 12-A	宇瓦 8C	飛雲文	2	
蹬瓦 19	圈線線単弁蓮花文	2-2		宇瓦 9	崩れた唐草文	2-1	
蹬瓦 20	圈唐草文線複弁八葉蓮華文	1-1		宇瓦 10	波状文		
蹬瓦 21	唐草文線単弁十四葉蓮華文	2-1	軒丸瓦 9	宇瓦 11	陰刻飛雲文	1-2・2-1	
蹬瓦 22	圈線線単弁蓮花文	2-2		宇瓦 12A	均整唐草文	1-1	
蹬瓦 23	単弁十四葉蓮花文	2	外区なし	宇瓦 12B	均整唐草文	1-2	
蹬瓦 24	単弁十六葉蓮華文	1-2	軒丸瓦 6	宇瓦 12C	均整唐草文	1-2後	
蹬瓦 25	圈線線素弁蓮華文	3	軒丸瓦 11-B	宇瓦 13	均整唐草文	1-1	創建期
蹬瓦 26	面刻唐文線複弁八葉蓮華文	1-1	軒丸瓦 3	宇瓦 14	唐草文	2	軒平瓦 7・8
蹬瓦 27	圈線線素弁蓮華文	3	軒丸瓦 11-A	宇瓦 15	珠文線均整唐草文	1	軒平瓦 4
蹬瓦 28	圈線線角形素弁蓮華文	3-2	軒丸瓦 12-B	宇瓦 16	唐草文か	3-1	
蹬瓦 29	複弁六葉蓮華文		軒丸瓦 8	宇瓦 17	唐草文か	3-2	
蹬瓦 30	唐草文線単弁蓮華文		軒丸瓦 9?				

## 宇瓦 17 型式

瓦当面の中心に横位の線があり、その上下に弧状や半円形の文様が付く。左端部は斜め上方に跳ね上がっている。唐草文が退化し、反転が少なくなった文様である。曲線型で、女瓦部の粘土板に断面三角形の粘土を貼り足している。三義の八幡2号窯で、鏡瓦5B型式がともに出土している。鏡瓦の時期によって本型式が3-2期の所産であることがわかる。

## (2) 遺構と出土瓦

各調査区では主要堂宇に葺かれた瓦が大量に出土した。以下、竪穴住居跡出土とそれ以外に分けて説明する。その後、瓦の説明などを行う。

## ① 竪穴住居跡出土瓦 (第44～65図、図版二〇)

主に寺院地で発見された竪穴住居から出土した鏡瓦・宇瓦で、図を提示した瓦の分類型式は以下のとおりである。また、共伴した土器・陶器の時期を示した。

第1次S I-121-3は宇瓦5B型式、第2次S I-241-3は宇瓦12B型式で、金堂出土品と接合した。第2次S I-325-1は宇瓦15型式、第2次S I-378-1は宇瓦12C型式、第4次S I-436-6は鏡瓦25型式、第10次S I-674-3は宇瓦5B型式、第11次S I-680-3は鏡瓦28型式、第11次S I-690-3は鏡瓦24型式、第11次S I-696-1は宇瓦5B型式、第11次S I-698-3は鏡瓦4D型式、第11次S I-714-3は宇瓦4H型式、第14次S I-849-1は宇瓦5B型式、第14次S I-844-4は宇瓦6型式である。

鏡瓦25型式は、第4次S I-436において三義大芝原窯B地点段階の須恵器と灰軸陶器黒笹90窯式②と伴っており、9世紀後半になる。第11次S I-680から出土した鏡瓦28型式は、灰軸陶器美濃光ヶ丘1号窯式や猿投黒笹90窯式を伴っており、9世紀後半になるであろう。

文字瓦は、「内」(第1次S I-163)、「川」(第2次S I-307)、「安」(第2次S I-307)、「矢」(第1次S I-114・第4次S I-406)、「那」(第7次S I-588)、「卍」(第5次S I-500)、「田」(第2次S I-335)、「国分寺」(第5次S I-496・第14次S I-849)、「寺」(第2次S I-325)、「国分寺瓦」(第1次S I-125)などである。

国分寺銘の型押文については、従来から三義鶴舞瓦窯で出土していることから9世紀の所産とされてきたが、尼寺でもS I-496で国分寺報告の分類I Bが、9世紀第3四半期になる。S I-849では底径6～7cmの土師器杯と共伴しており、9世紀後半になるであろう。国分寺瓦はS I-125において灰軸陶器美濃光ヶ丘1号窯式や底径6cm程の土師器杯と共伴しており9世紀後半になるであろう。

遺構と瓦の関係をみる。第2次S I-368は、数少ない尼寺創建期の竪穴建物である。ここから出土した女瓦は型押文251と桶巻作り、短縄叩きB2である。短縄叩きB2は側縁を篋削りしており、凸面に離れ砂はなく、西山瓦窯の胎土に類似する。桶巻作り女瓦は国分寺で主に金堂地区で確認されているが、尼寺でも少数みられた。S I-368のほか、第11次S I-680の5、第11次S I-690の1、第11次S I-751の2が桶巻作りで、いずれも水道山産である。S I-751の瓦は型押文224である。S I-680・690の瓦は型押文231Bである。このように、住居跡からも数少ないながらも、水道山産や西山窯に類した瓦が発見され、その時期も土器と対応する事例が確認できた。

## ② 竪穴住居跡以外出土瓦 (第66～73図、図版二〇～二三)

鏡瓦では、第1次SD-112-1は外区に線銘文と珠文のある尼寺では最も古い1型式であろう。2は外区唐草文が繋がる4B型式であろう。5の鬼瓦は国分寺分類の2型式に相当し、歯牙と髭を表現する。しかし、髭の数が異なっており、別な范である。第1次SD-154-1は複弁の蓮華文で珠文があることから1型式に

なる。5は鬼瓦の縦の隆帯と珠文を残す破片である。第1次調査区遺構外出土10の男瓦は凹面に布目がなくて撫でを施し、凸面に糸切り痕を残す。第2次SD-333-1は5B型式で、溝内からは9世紀後半の土器も出た。第2次SX-246-1の宇瓦は12B型式で、型押文321で叩く。第2次調査区遺構外-1の鍔瓦は26型式である。第4次SK-461の文字瓦は「寺」とみられ、第4次調査区遺構外-3も同じ型押文であろう。第7次SK-570-1の鍔瓦は4D型式、2は4C型式である。第8次SD-610-1の宇瓦は15型式の均整唐草文である。第9次SD-653-1の宇瓦は2B型式とみられ、寺院地西辺溝から出て、溝からは9世紀前半頃の土器が出ている。第10次SD-670B-1の鍔瓦は26型式で、水道山窯産である。3の飛雲文は宇瓦4G型式になる。第11次SD-330-1の鍔瓦は4C型式、2の飛雲文字瓦は4G型式である。この溝からは8世紀後半から9世紀中葉の遺物が出ている。第11次SD-682-1の宇瓦は14型式で、この溝からは9世紀後半の土器が出ている。第11次SK-695-2の宇瓦は4G型式で、第11次SD-804-1の宇瓦は4H型式になり、9世紀後半の陶器と共に出ている。南門の女瓦(第12次SA-820-1)は押印IVであり、東柱根石の部分から出た。

次に文字瓦について概観する。蓮書き文字瓦は、第1次SD-112B-4と6、第2次SD-330-1と333-2が「内」、第1次SD-112B-7とSD-154-7とSK-166-2とSD-113-1、第2次SK-339-1、第9次SD-656-2、第10次SD-670B-2、第11次SD-800-1が「那」である。第1次SD-153-1とSD-154-8、第11次SK-695-1が「田」である。第1次SK-168-1が「可」、第1次SD-201-1が「川」である。第11次SD-800-2、第12次SD-610B-1が「塩」、第2次SD-250-1が「安田後」である。

このうち、SD-112B-4と6の「内」では、6は横画が右上がりであり、4と異筆であろう。SD-330-1とSD-112B-6は、第2画の横画から縦画が鋭角に折れており、類似している。

押印文字のうち郡名では、「田」が第1次遺構外-8と第7次遺構外-1、「安」が第2次SD-292-1、「那」「那瓦」の「那」が第10次SD-671-1、「安来」が第12次SD-826-1である。第4次遺構外-4は縄叩き後に「足」を押印する。

寺に関わる文字で、「国分寺」は第1次調査遺構外-7と第7次SD-140-1、「国分寺瓦」が第11次SB-700-1、型押文に「寺」を組み合わせたものが第1次SD-154-6とSD-195-1、第2次SD-361-1とSD-334-1とSK-339-2、第6次SK-540-1である。これらは、僧寺では報告がなく、尼寺伽藍地からも出土している。国分寺報告ではこの型押文の「寺」IVを彫り直したものとしており、この瓦は胎土から三義産である。

第4次SK-461-1の型押文の文字瓦は、国分寺における型押文字「寺」のIIかIVに類しており、寺と読める。

### ③ 伽藍地出土瓦(第74～94図、第4～6表、図版二三)

伽藍地から出た瓦については、尼寺1969年報告で瓦当面文様の分類と各建物からの出土数、及び文字瓦が掲載されている。ここでは、その後の瓦の編年の深化によって、建物に葺かれた時期が判明するために、建物跡から出た鍔瓦・宇瓦について報告を行う。説明は、土器と共存関係が不明なため、瓦の概観とする。

金堂出土瓦で、最も古い瓦は1-1期に位置付けられる1の鍔瓦であるが、胎土に白色粒子が少なく、水道山窯産とは断定できない。7は回廊出土63～65の無文の外区幅が広がったものである。飛雲文の4型式は金堂の宇瓦で最も出土数が多く確認された。女瓦部凸面は格子叩きが多くみられるが、9・14は縄叩きであった。4B型式では凹面広端部を幅1cm程削り調整するのみのものが多いが、14では削り調整は施されていない。4D・E・F・G・H型式でも基本的に凹面広端部の削り調整は見られず、17のみに

幅1cm程の削りが確認された。これに対して12型式の調整は丁寧である。29は凸面に縄叩き痕がみられ、24・27～31の本型式の凸面広端部側は縦方向に丁寧に削りを行っている。凹面の広端部側でも横方向に幅広い削り・撫でを加えている。33は15型式で、広端部側の凹面は横方向、凸面は縦方向に削り加える。

回廊の鈿瓦は48・60が面割書文に珠文のある26型式で、胎土から水道山産であろう。50は数少ない3C型式の鈿瓦と判断される。53の4D型式の裏面には糸切り痕が観察でき、瓦当面の粘土を円柱状にして糸切りしたことが明らかである。宇瓦では66が2A型式で、格子叩きは型押文231Cであるが、胎土の特徴から水道山産と判断される。67は3B型式で凹面広端部は横方向に削る。飛雲文字瓦は金堂と同じく主体となる軒先瓦であり、4B型式の68・70と4G型式の81が凸面縄叩きである。4B型式では凹面広端部に削りを行わないが、72のみは幅6cm程の撫でを加えている。71の叩き型押文は斜格子で稀有な事例である。胎土に白色粒子やチャートを含み、三森窯産の可能性もある。4C型式の76は凹面広端部を幅5cm程削るが、4F型式では削りがみられない。4G型式で81と90で削りや撫でを施しているが、90は瓦当面に及ぶ。4H型式は10点のうち87・89・93の凹面広端部に調整がされている。

5型式は凸面縄叩きのもとの無文叩きがあり、いずれも離れ砂が付いている。無文叩きには98に格子叩きがなされ、105では広端部から顎裏に縦方向削りを行っているが、調整を行う瓦は稀である。113は6C型の一枚成形で折り曲げた瓦当面に糸切り痕が及んでいる。114～116は12型式で、116は凹面広端部を丁寧に撫でている。117・118・120は15型式で、凸面は丁寧に削りを行い、凹面広端部を狭く削る。14型式は複数出土し、ペンギン状の中心飾りから左右に唐草文がのびている。中心飾りの左側では支葉との分岐に半環状文がないが、右側には複数確認でき、左右均整ではない。125は1点のみ発見された宇瓦型式である。型押文は変形で、「寺」を陽刻する。同じ型押文が鈿瓦25型式に叩かれている。126は8A型式で、瓦当面にも糸切り痕が観察されることから、粘土一枚板を折り曲げて作ったことがわかる。

中門出土の瓦で最も古いのは、43の鈿瓦で、瓦当部・男瓦部の接合後に粘土を厚く貼っている。南門出土の41・42の宇瓦顎部裏面は削りが施されているが、凹面に調整はない。

経蔵出土で最も古いのは、133の宇瓦1型式である。凹面の広端部に撫でを加えている。4型式鈿瓦は范傷が進んだ4C・D型式である。宇瓦2型式の凹面広端部はいずれも横方向に撫でが観察される。

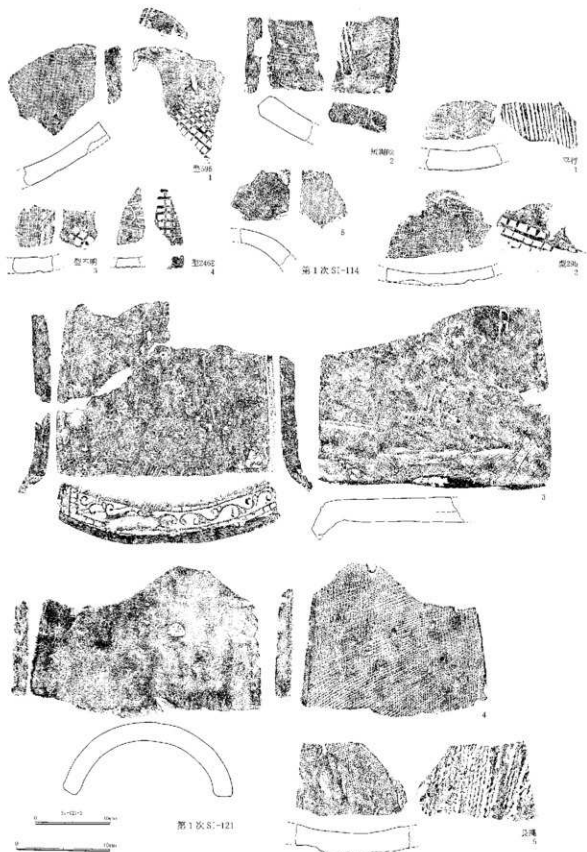
鐘楼でも1-1期の瓦が確認され、141は宇瓦1型式で、内区上端が残る。これに次ぐのが139の宇瓦4B型式で、粘土質の胎土で、淡灰黄色を呈している。新しい瓦は宇瓦4H式に及んでいる。

僧房出土瓦では、1-1期には146の宇瓦が確認できた。この瓦当面には范傷がなく、この范の均整唐草文でも初期のものであろう。遺存する凸面は全面丁寧に削っており、広く朱が付いている。次の時期は鈿瓦4B・宇瓦4B型式である。147は凸面を縄叩きで締めている。宇瓦4G型式では凹面の広端部に削りや撫では行っていない。155は5型式の中でも瓦当面左端に范傷が進行しているが、ここでは5B型式としておく。同様に傷が進んだ資料に伽藍地出土97があり、この范の最後出であろう。しかし、顎面裏の技法は5B型式に相当し、今後段階設定の再検討の資料となる。

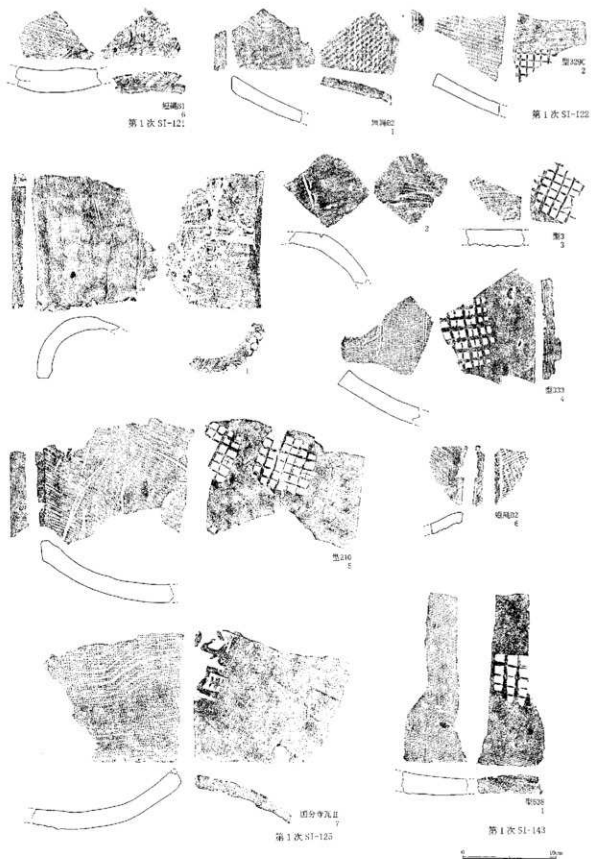
顎から女瓦凸面との境に朱が確認できる宇瓦は、金堂では15・18・19・20・30、廻廊では115・126、鐘楼では141、僧房では146である。時期的には1-1期から2-2期の間の宇瓦に朱が確認できた。朱を塗布する範囲は、顎裏のみの瓦が多くて、女瓦部に至るものは少なかった。18は、朱が型押文の中位まで及び、126は瓦当面から10cm程まで塗っていた。

#### ④ 創建期の女瓦について（第95～97図）

国分尼寺の主要堂宇の建立については、国分僧寺よりも遅れることが指摘されている（大橋1997）。しかし、

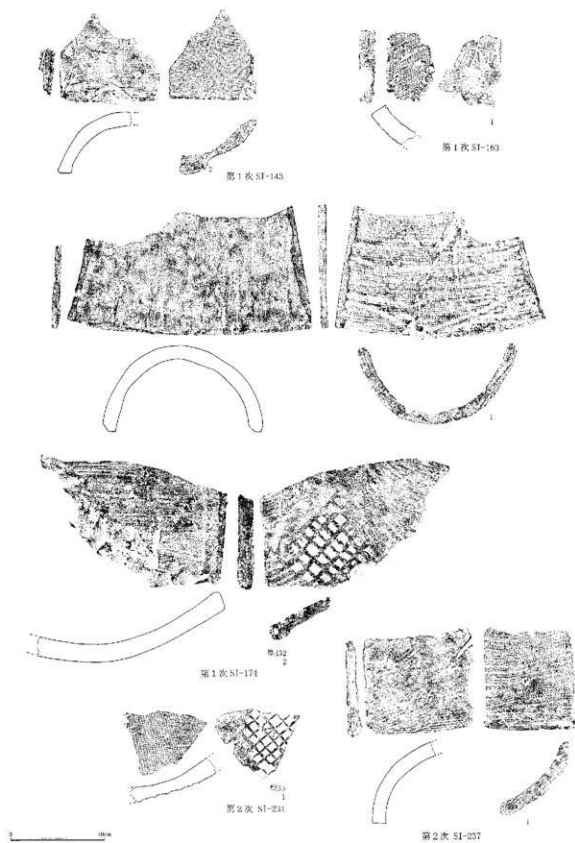


第44圖 瓦実測圖(1) — 整穴住居跡出土(1) ~ (22) —

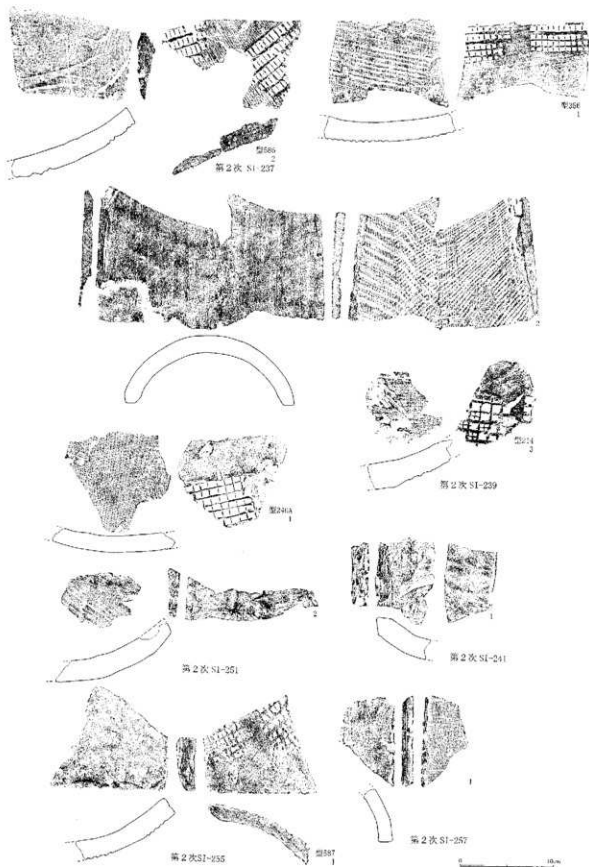


第45図 瓦実測図(2)

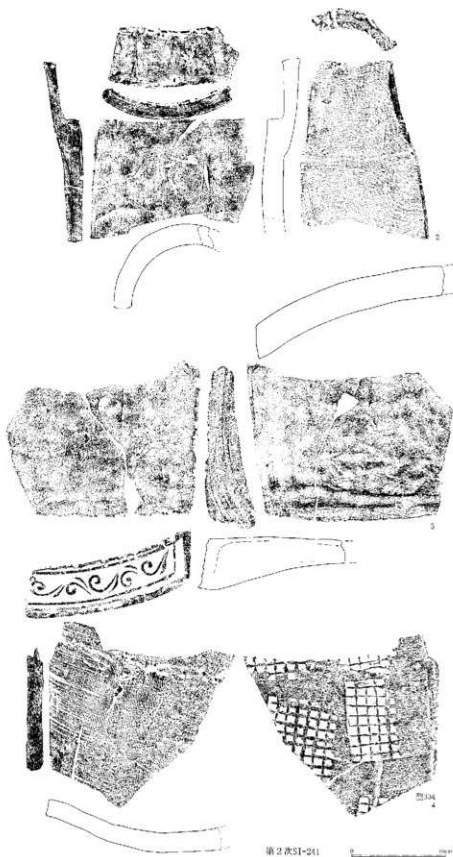




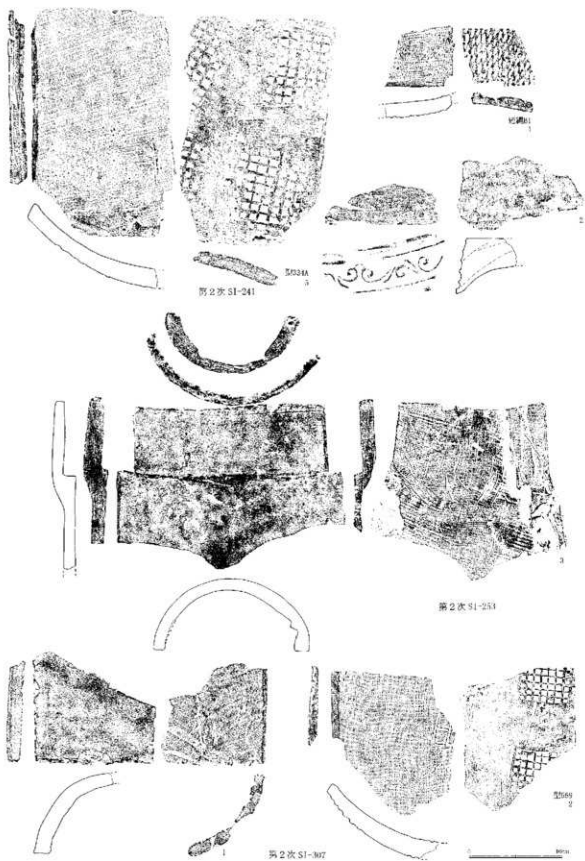
第46圖 瓦実測圖(3)



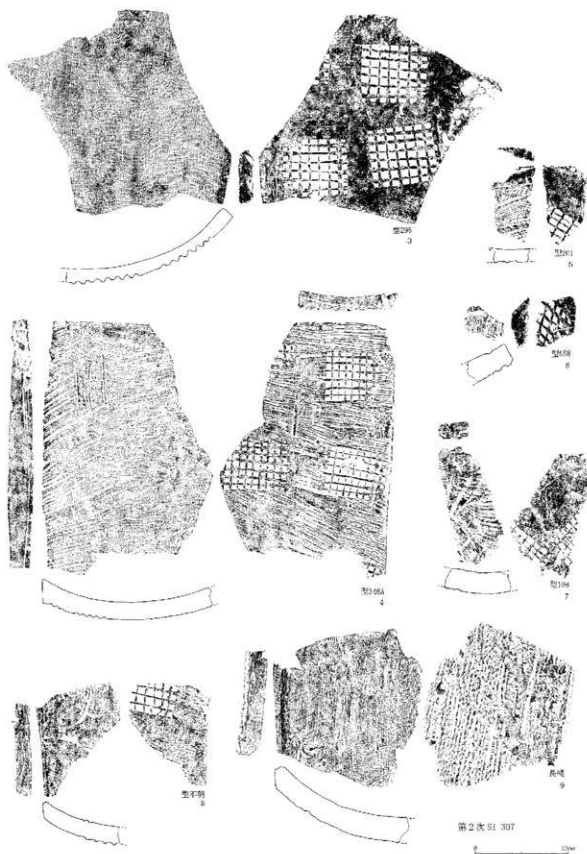
第47図 瓦実測図(4)



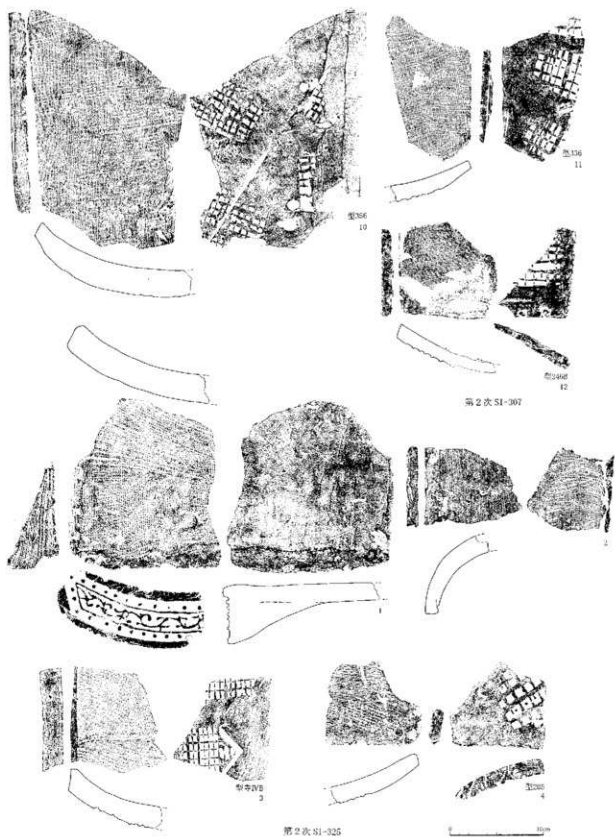
第48圖 瓦実測圖(5)



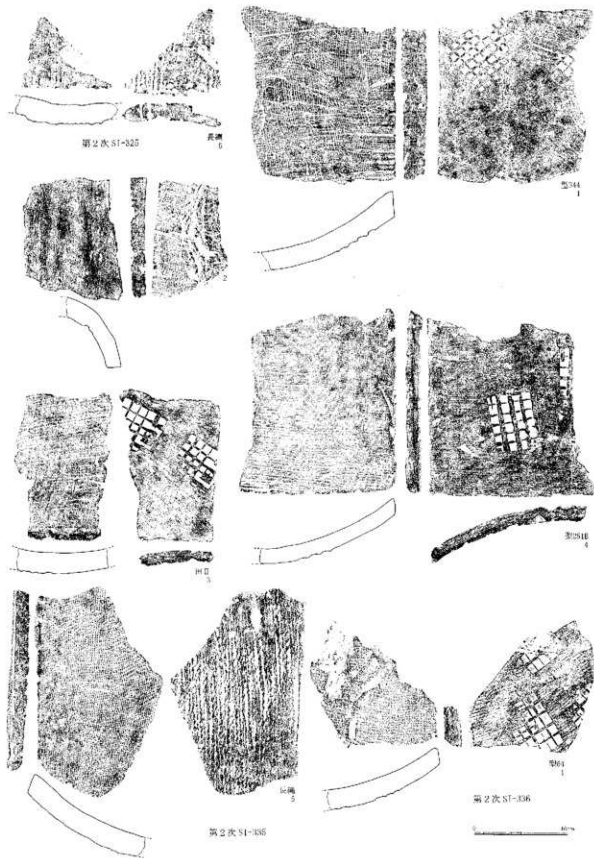
第49図 瓦実測図(6)



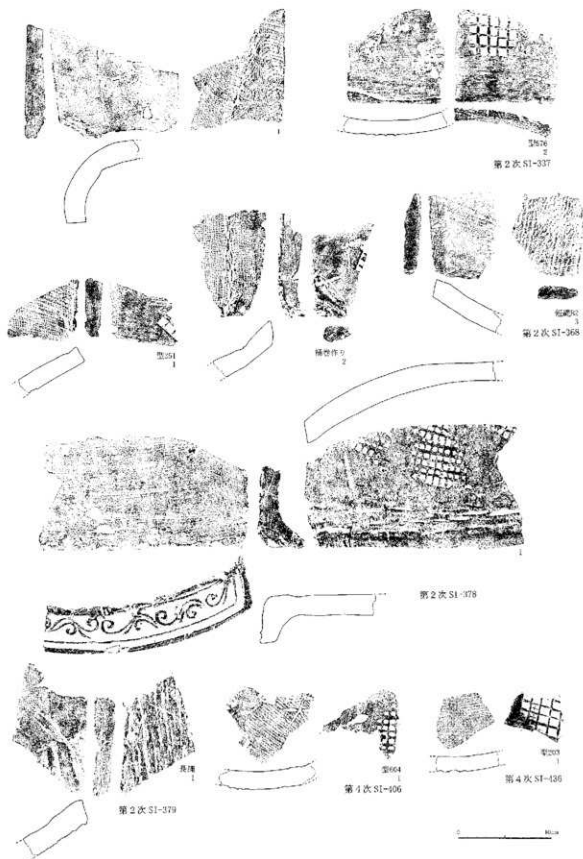
第50圖 瓦実測圖(7)



第51図 瓦実測図(8)

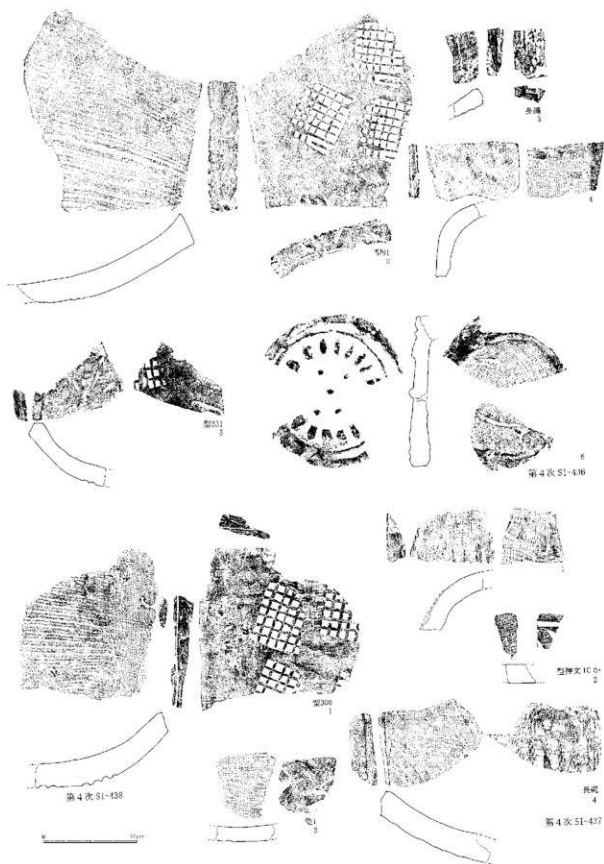


第52圖 瓦実測圖(9)

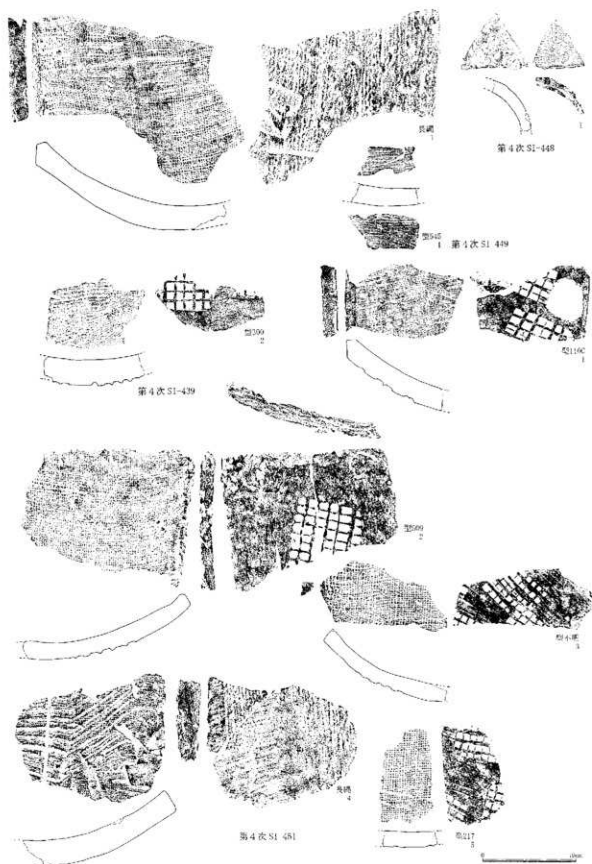


第53図 瓦実測図(10)

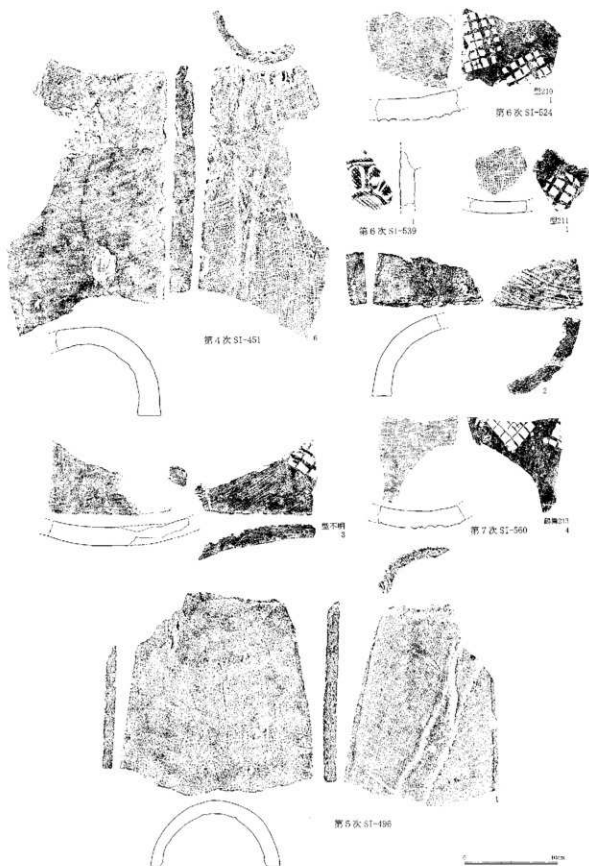




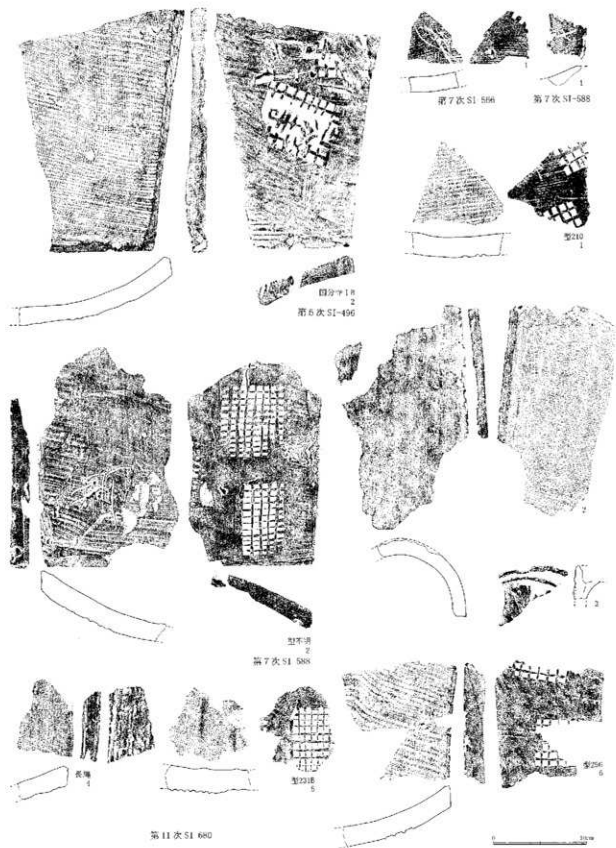
第54圖 瓦実測圖(11)



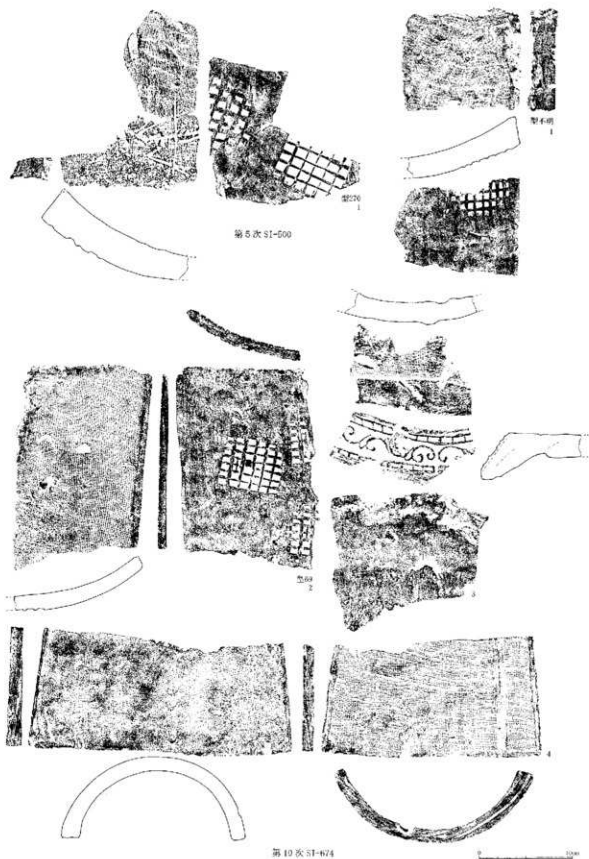
第55図 瓦実測図(12)



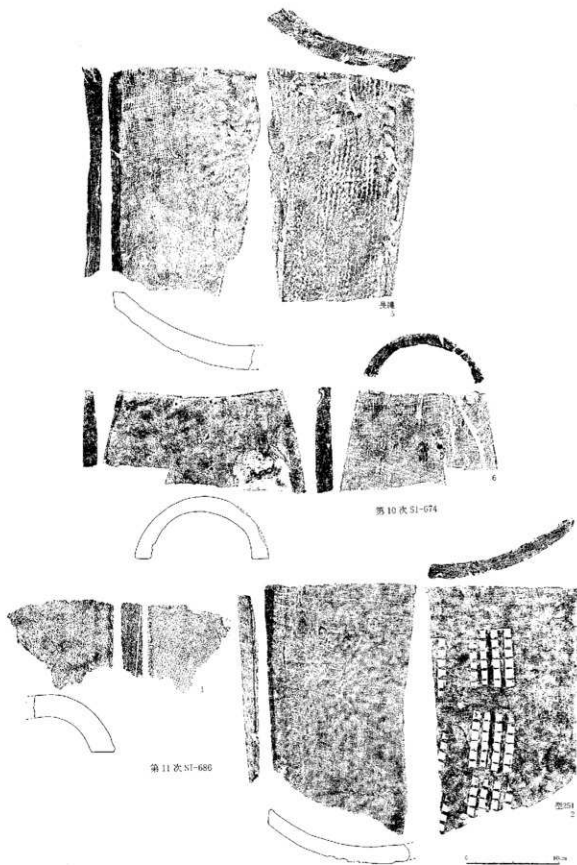
第56圖 瓦実測圖 (13)



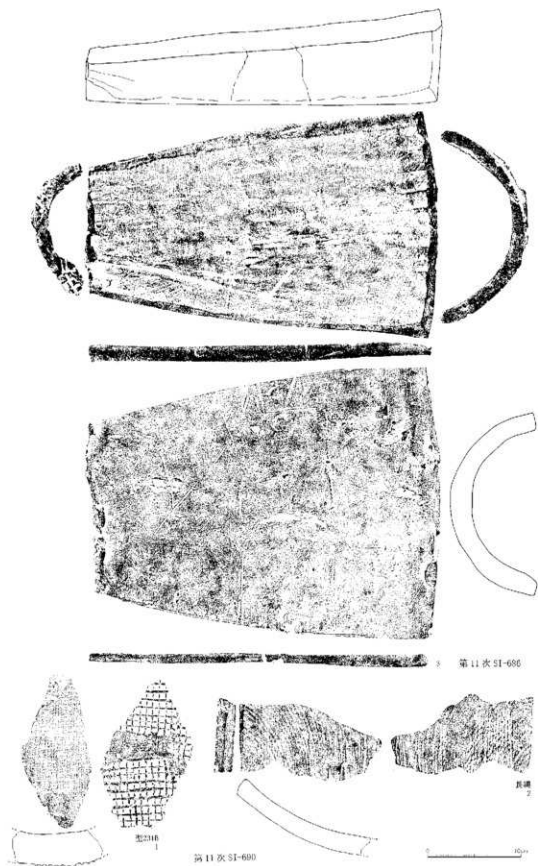
第57図 瓦表測図(14)



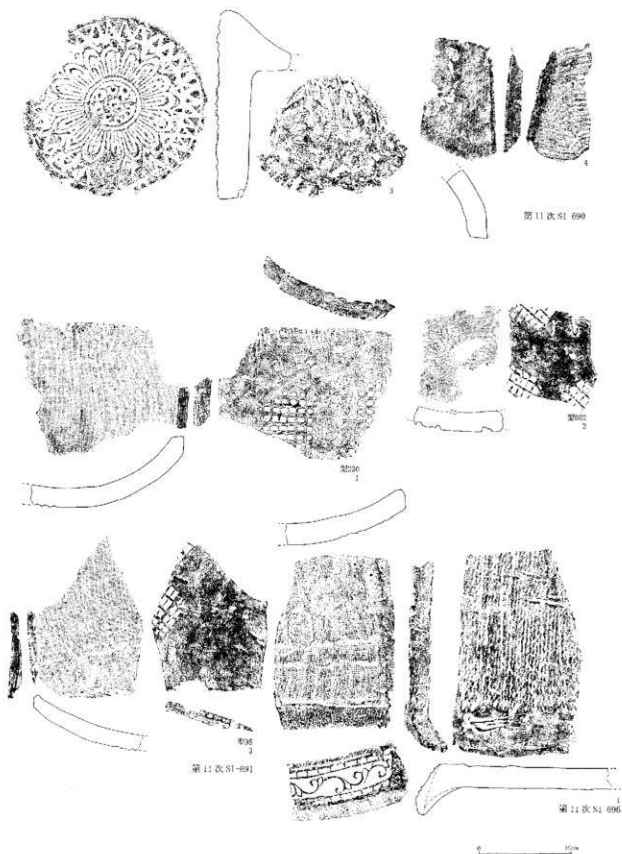
第58圖 瓦実測圖(15)



第59図 瓦実測図(16)

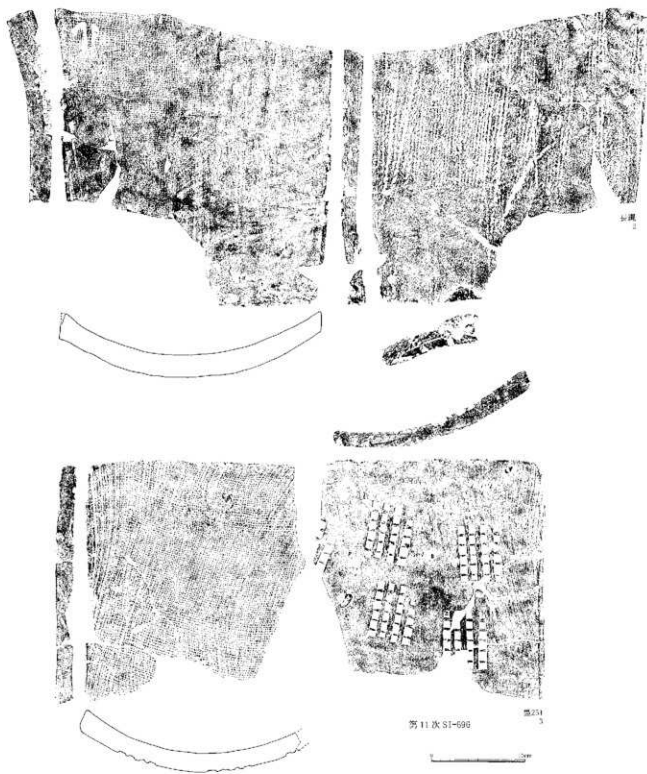


第60圖 瓦実測圖(17)

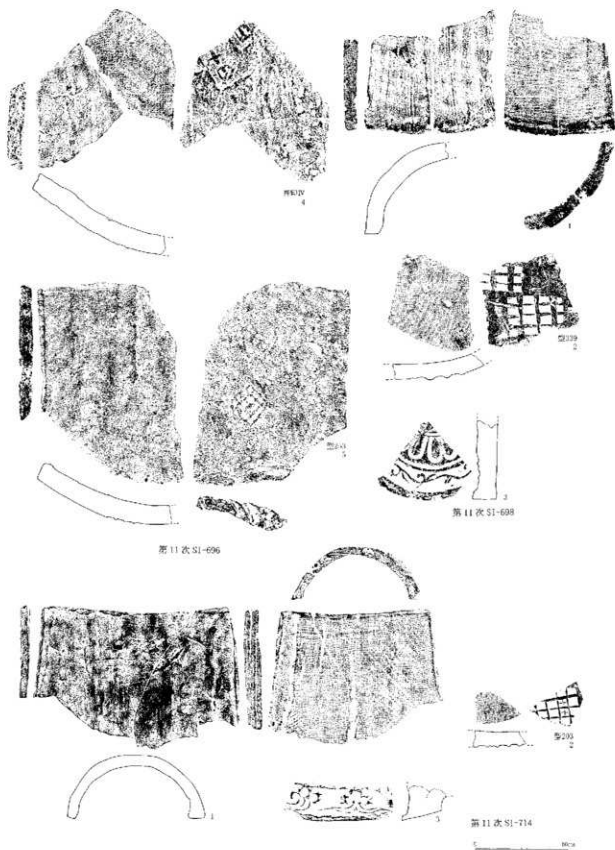


第61図 瓦実測図(18)

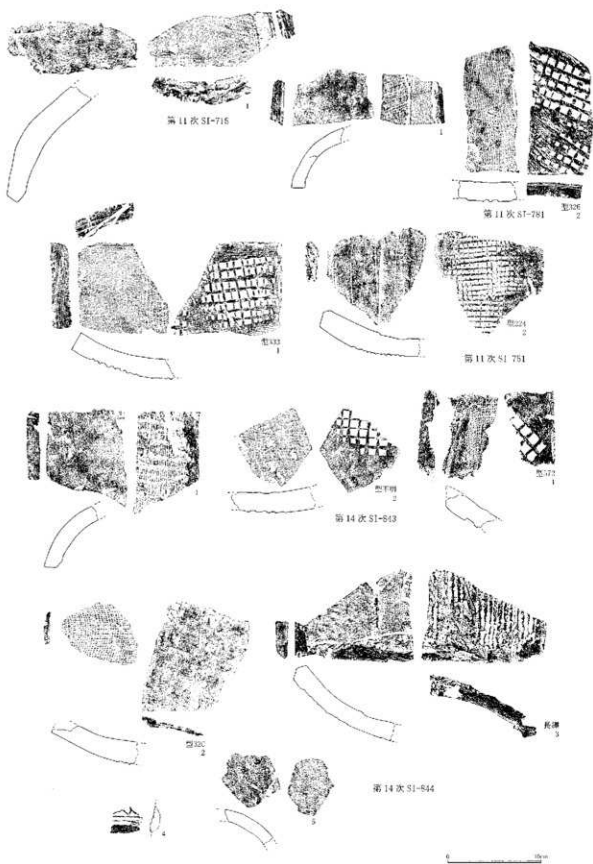




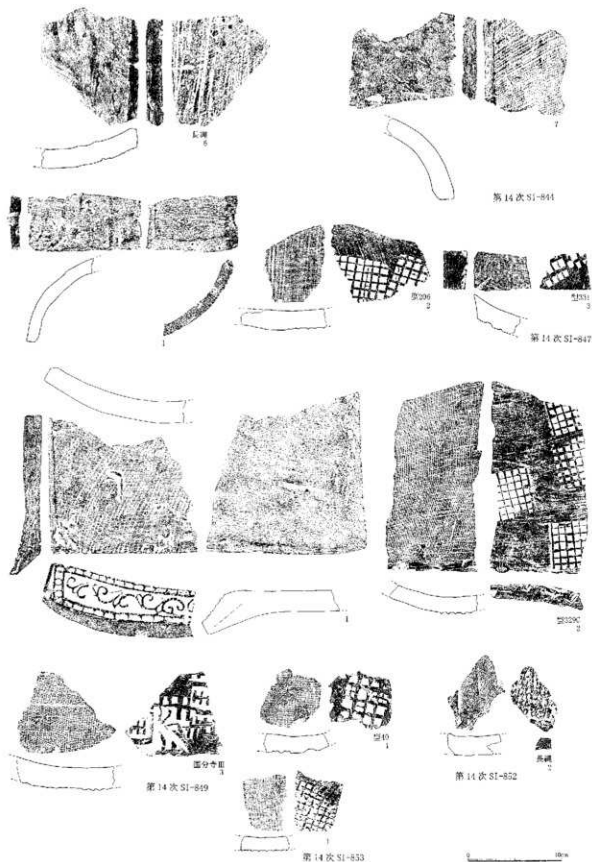
第62圖 瓦実測圖(19)



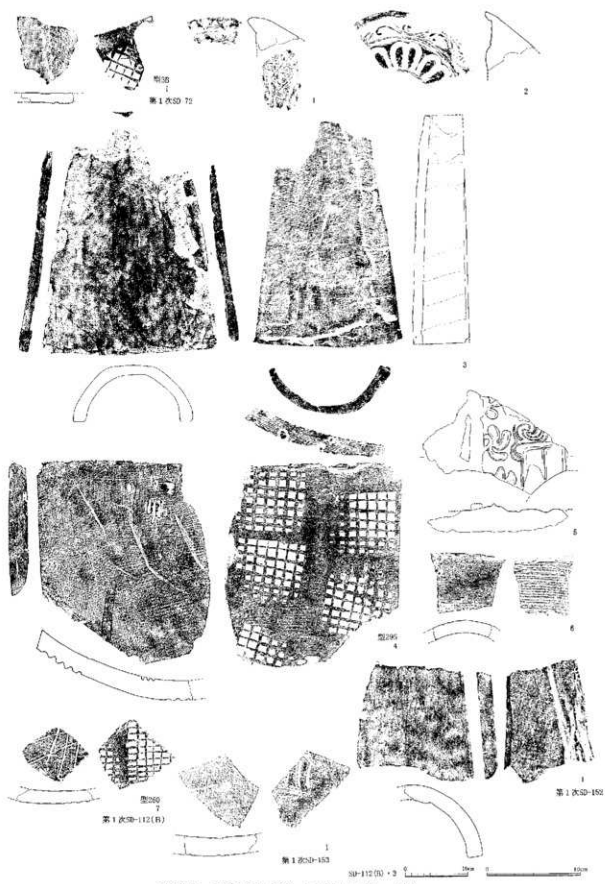
第63図 瓦実測図(20)



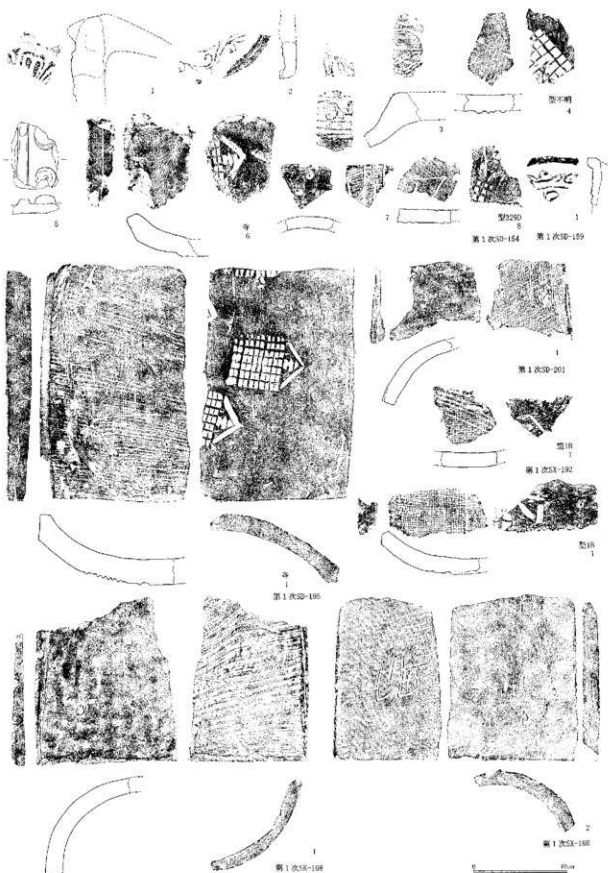
第64圖 瓦実測圖(21)



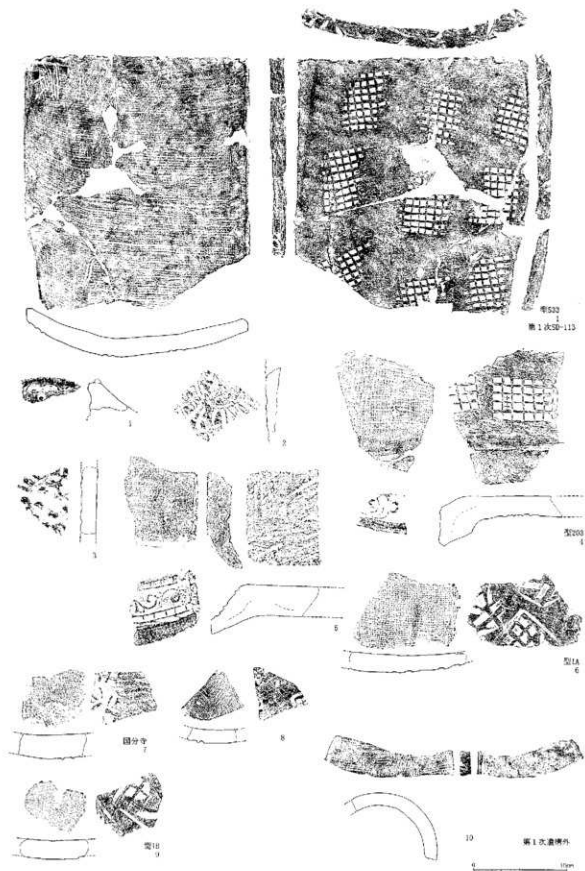
第65図 瓦実測図(22)



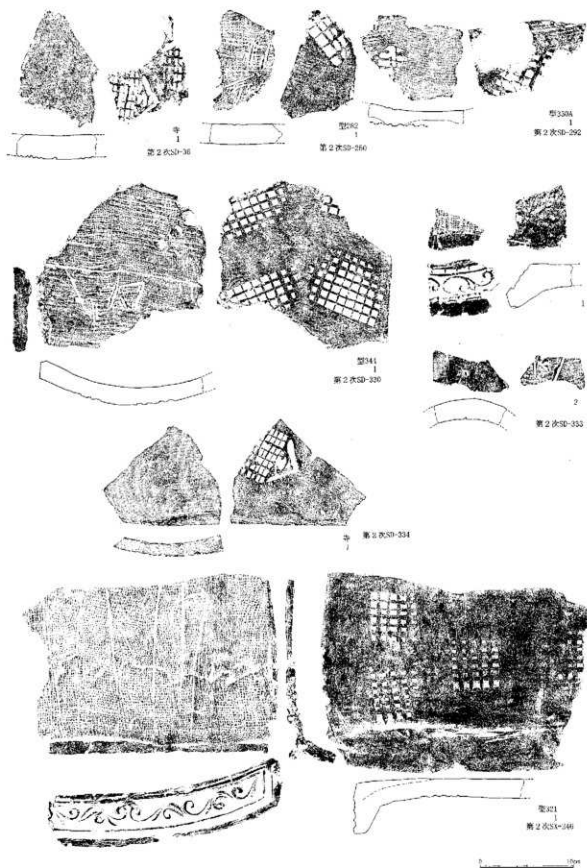
第66圖 瓦実測圖 (23) —漢跡等出土 (23) ~ (30) —



第67図 瓦実測図(24)

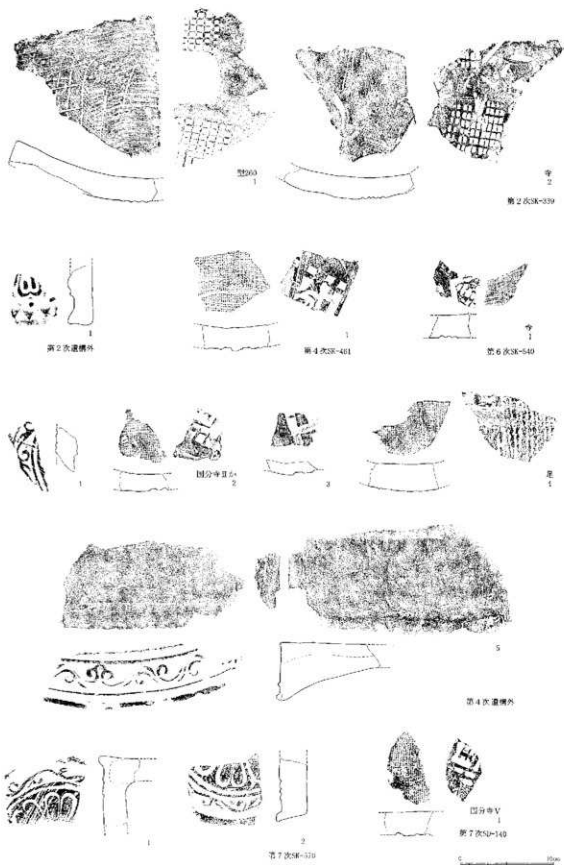


第68圖 瓦実測圖(25)

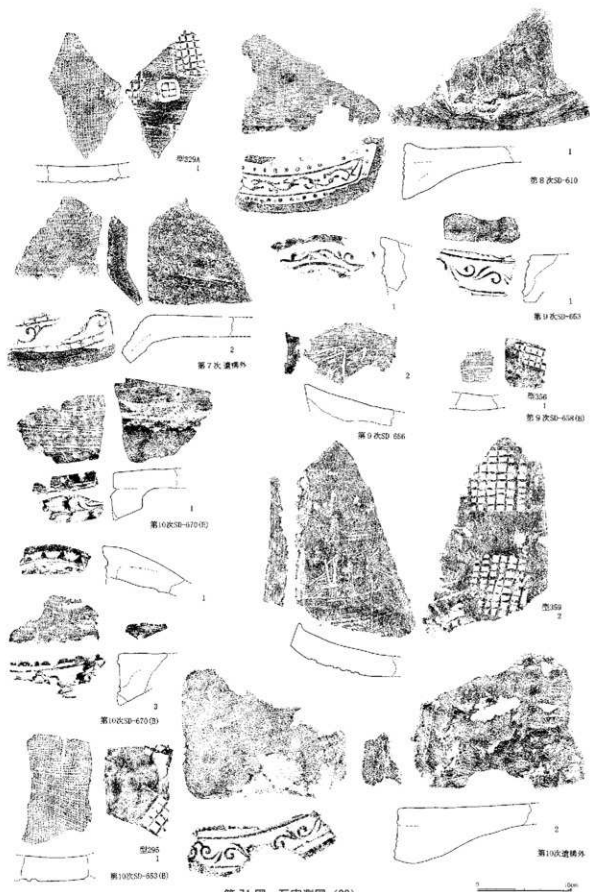


第69図 瓦実測図(26)

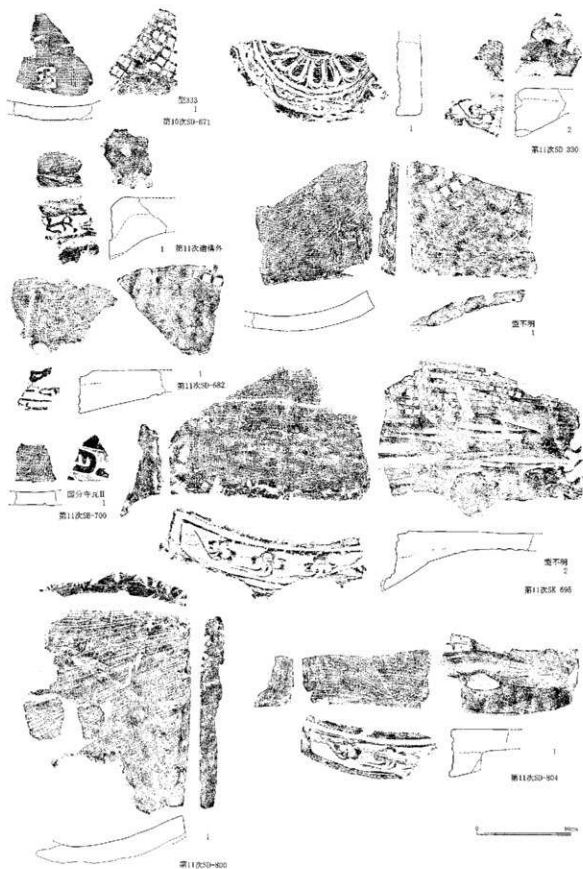




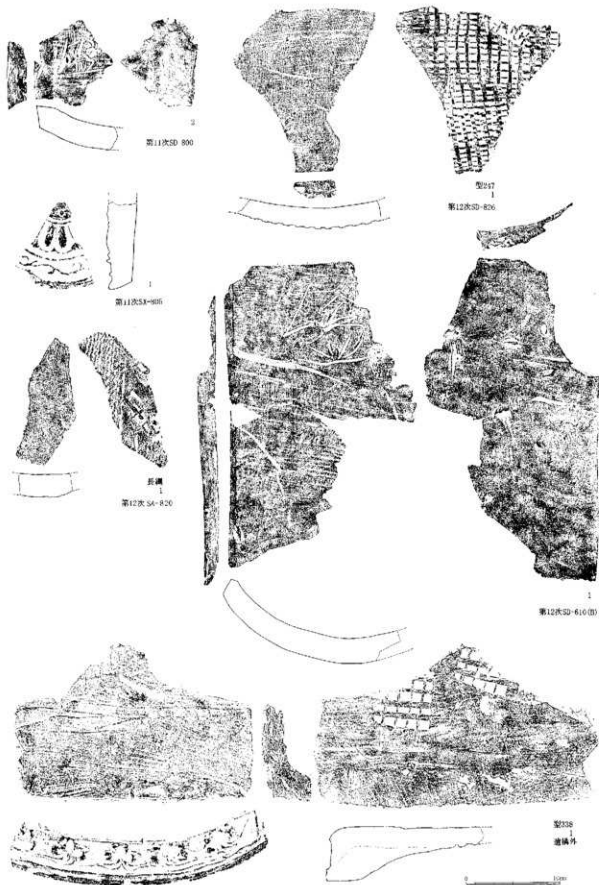
第70圖 瓦実測圖(27)



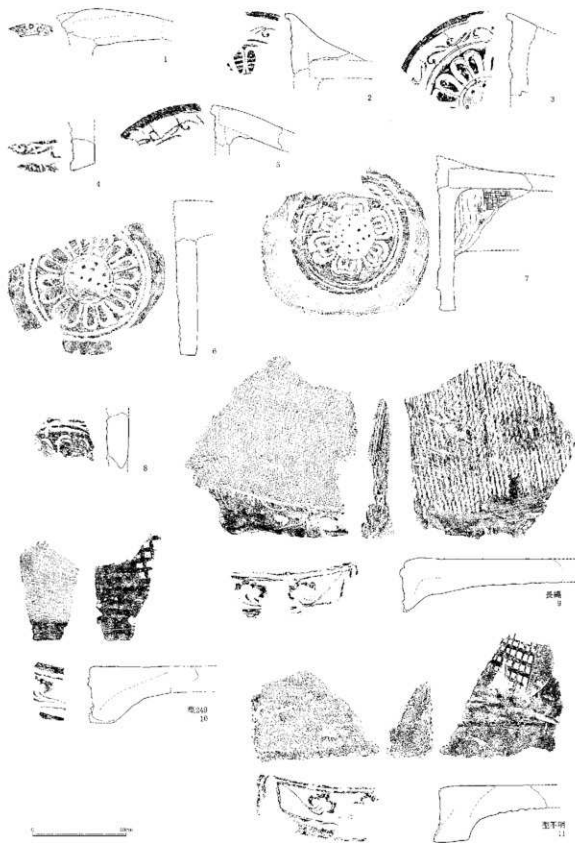
第71図 瓦実測図(28)



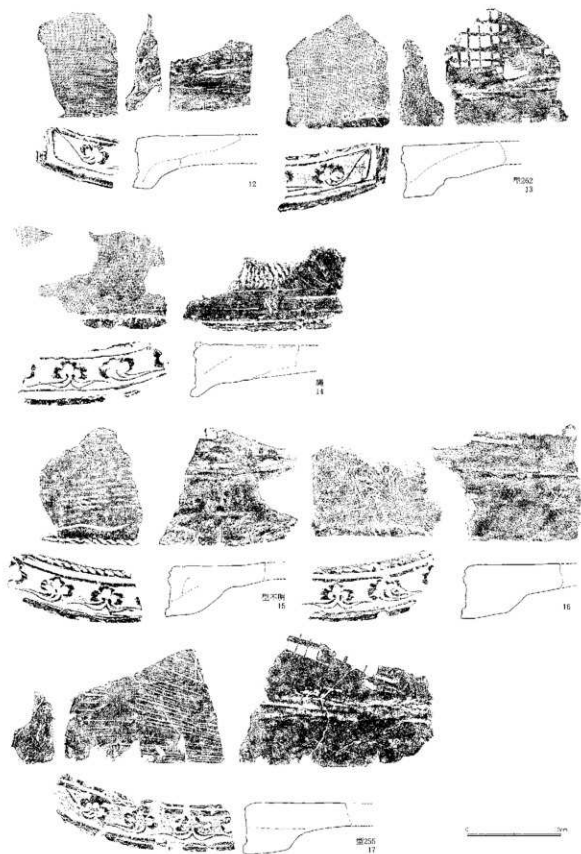
第72圖 瓦実測圖(29)



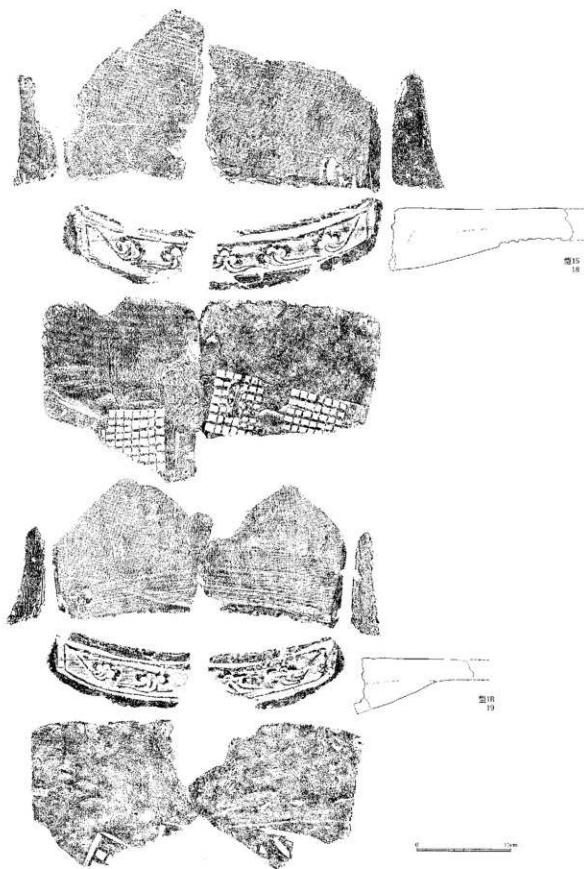
第73図 瓦実測図(30)



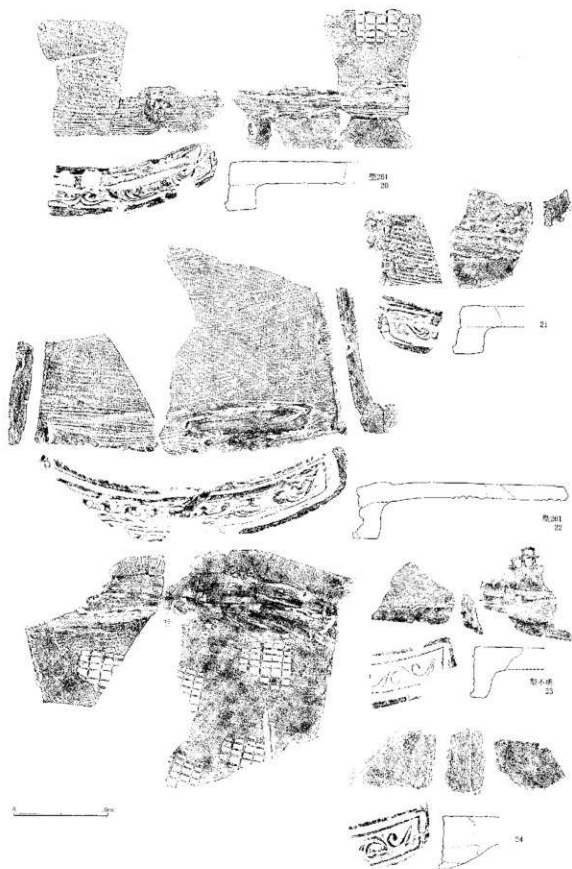
第74圖 瓦実測圖 (31) —御藍地出土 (31) ~ (51) —



第75図 瓦実測図(32)

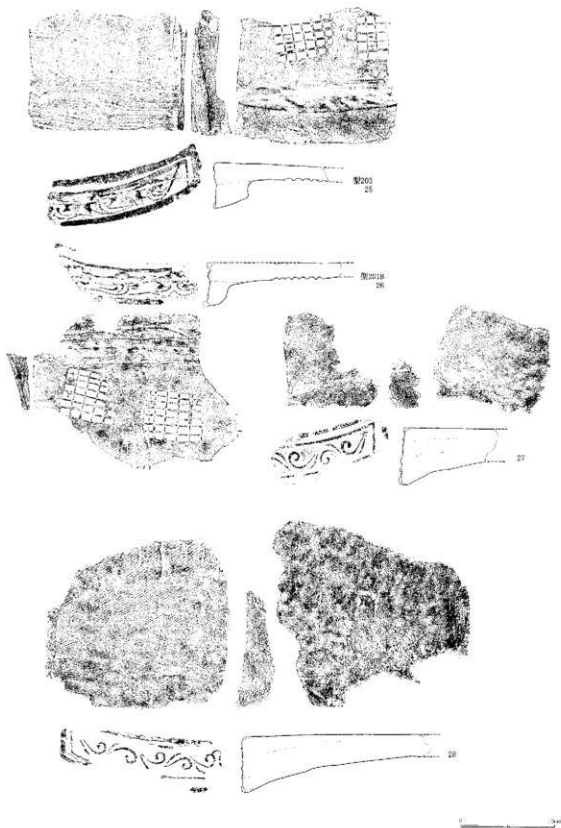


第76圖 瓦実測圖(33)

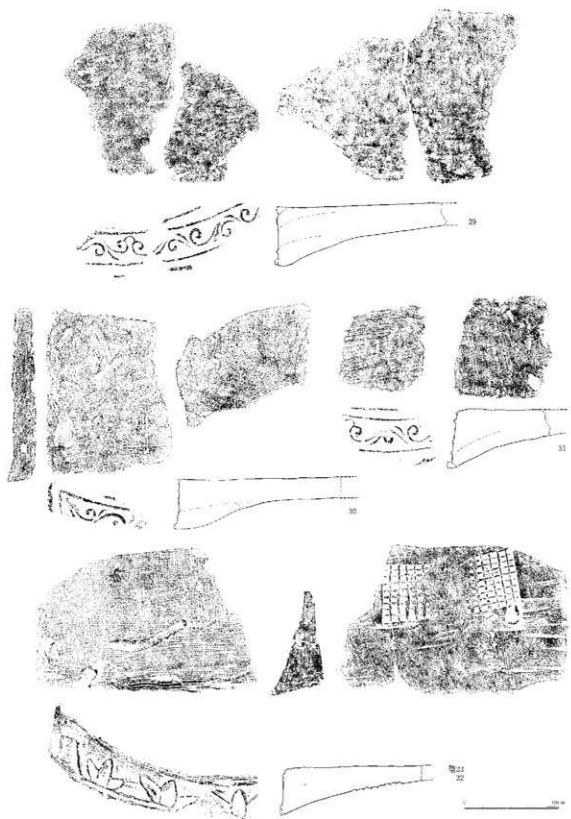


第77図 瓦実測図 (34)

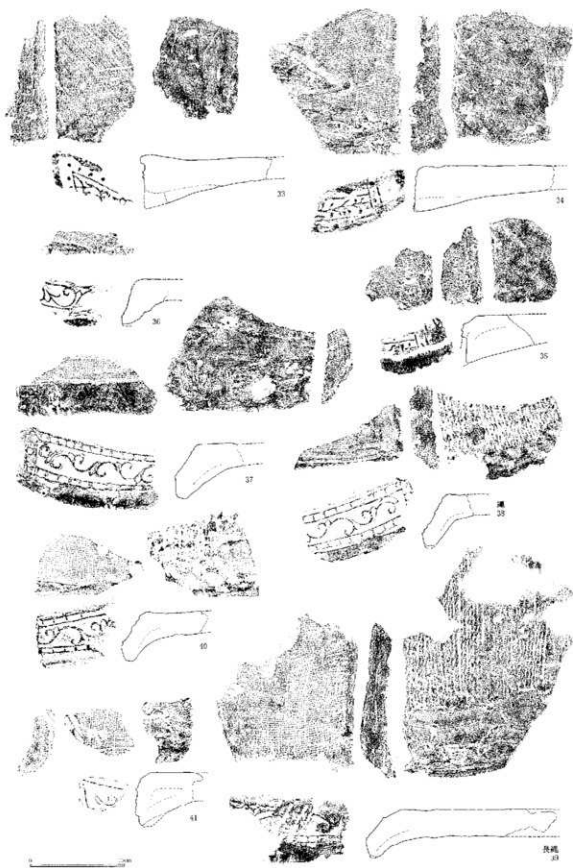




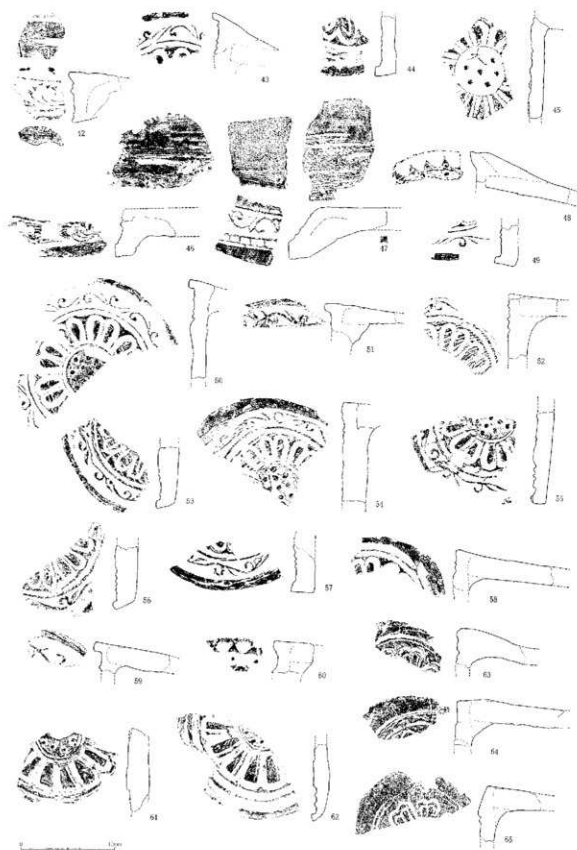
第78圖 瓦実測圖(35)



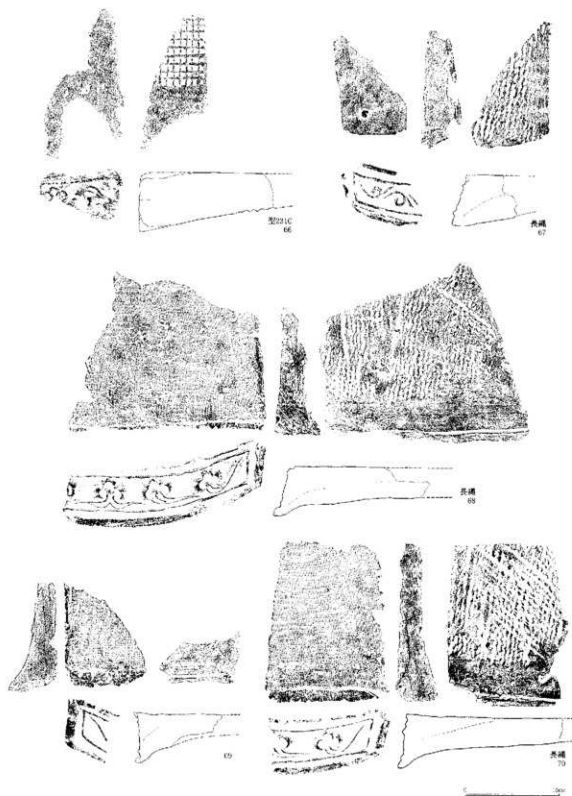
第79図 瓦実測図(36)



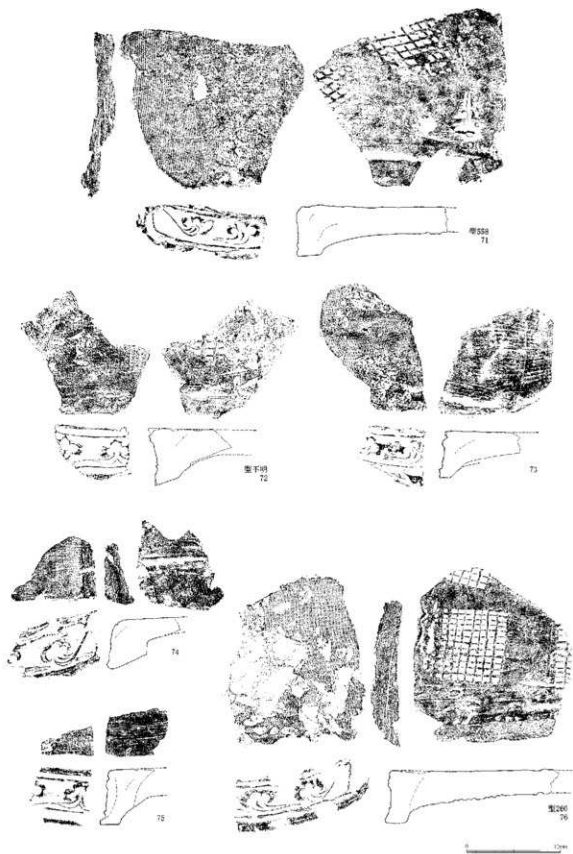
第80圖 瓦実測圖(37)



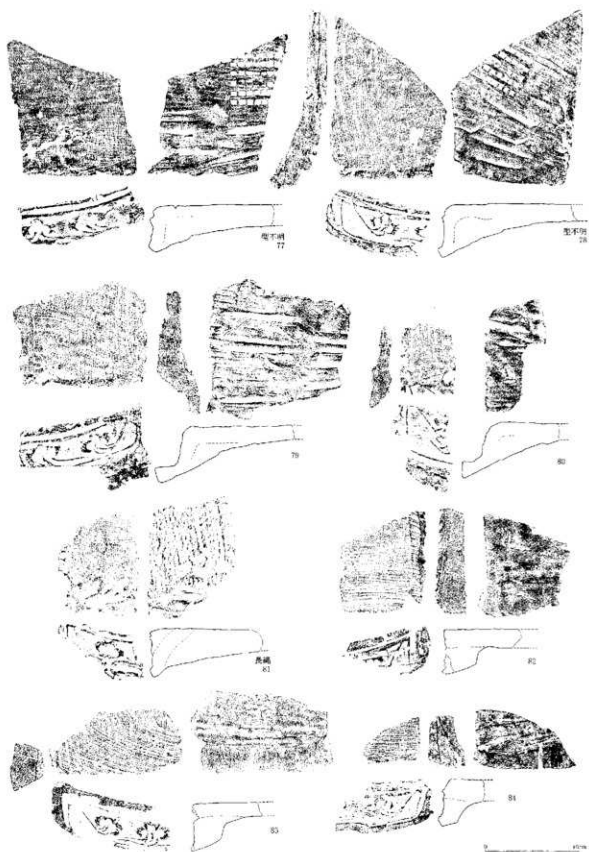
第81図 瓦実測図(38)



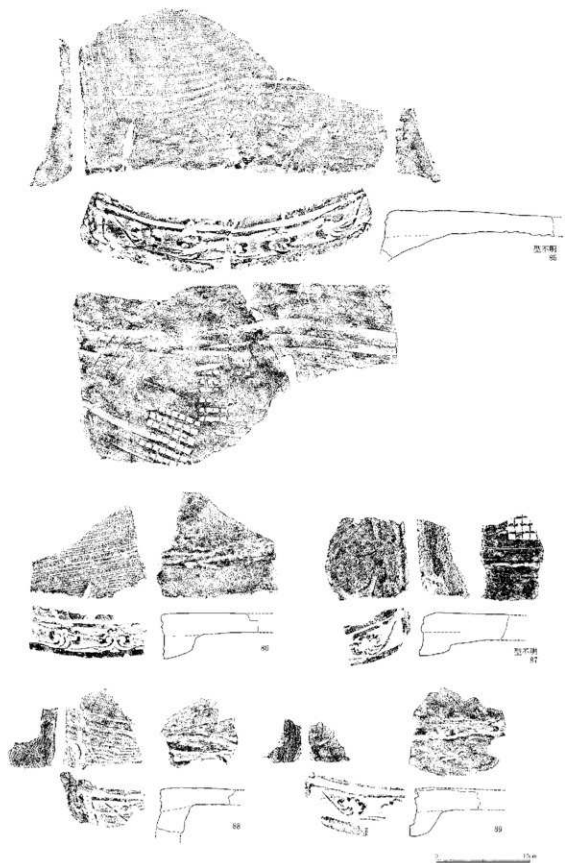
第82圖 瓦実測圖(39)



第83図 瓦実測図(40)

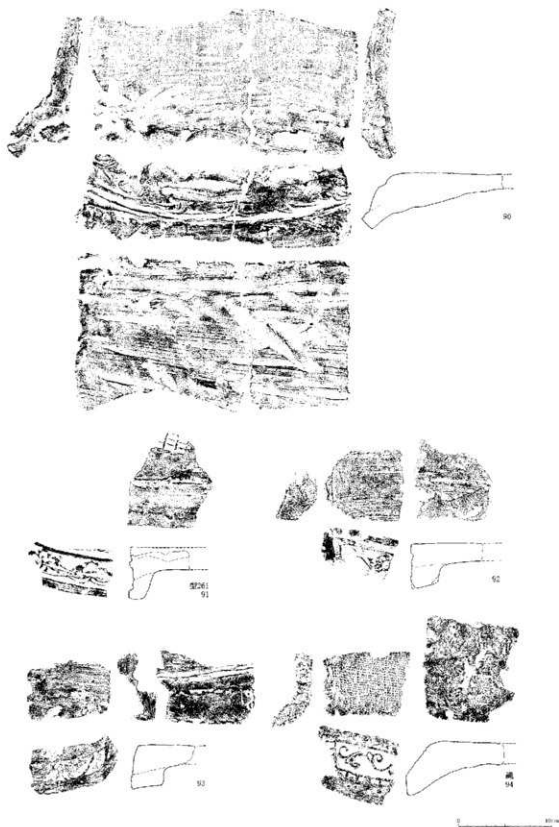


第84圖 瓦実測圖(41)

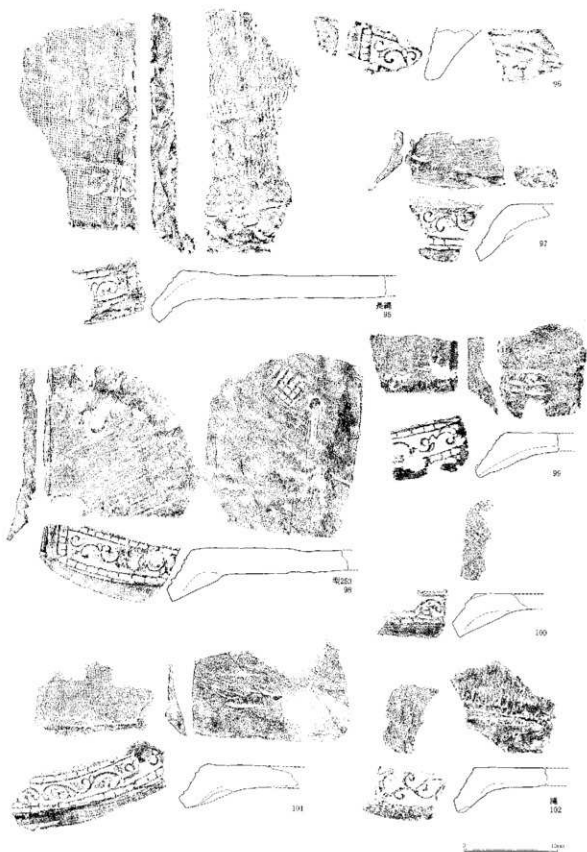


第85図 瓦実測図(42)

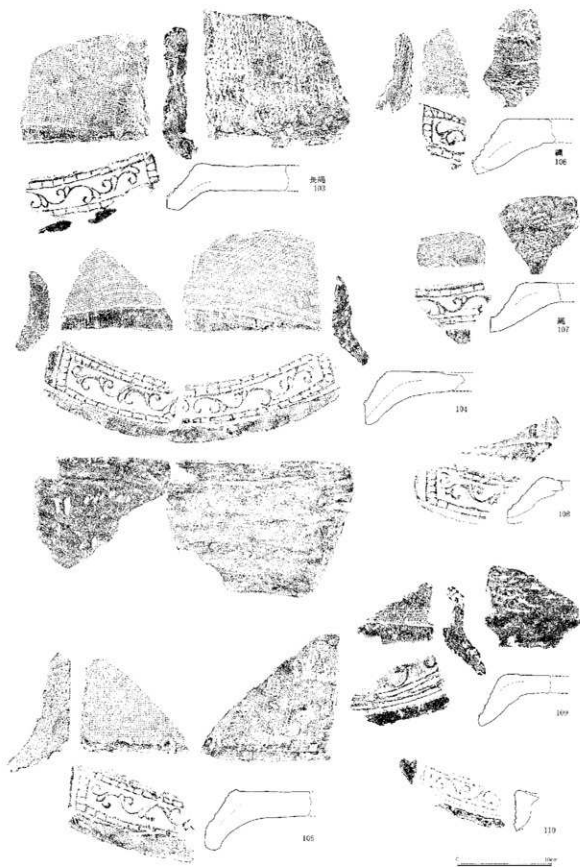




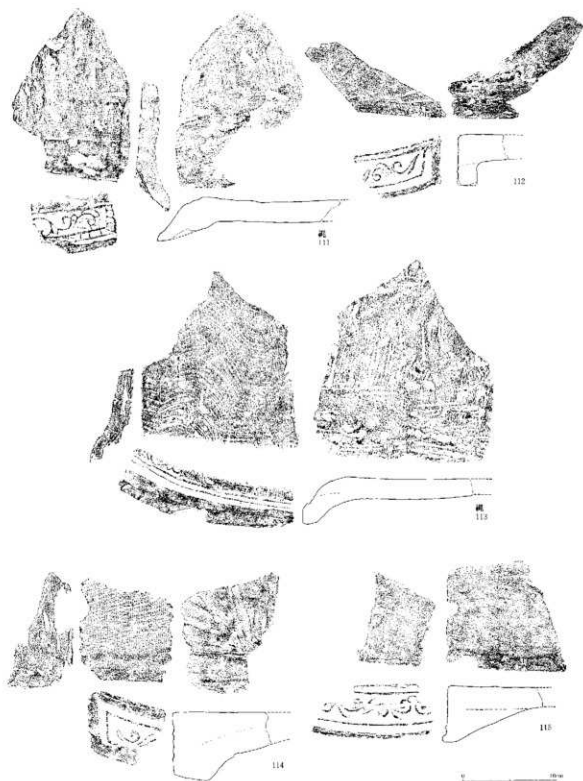
第86圖 瓦実測圖(43)



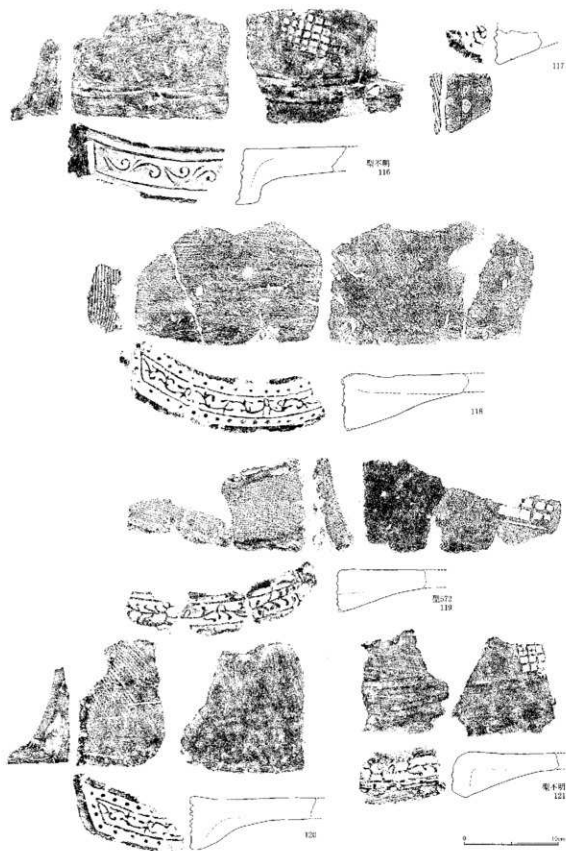
第87図 瓦実測図(44)



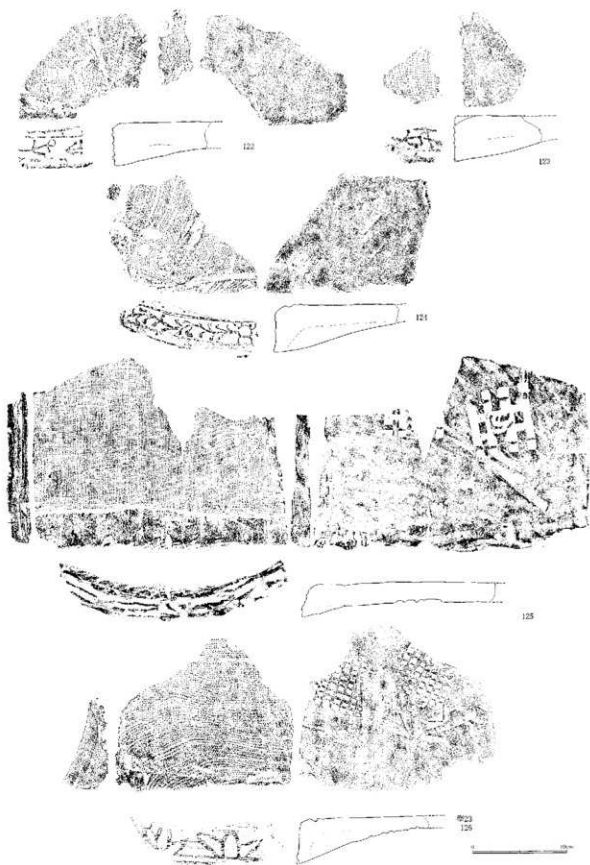
第88圖 瓦実測圖(45)



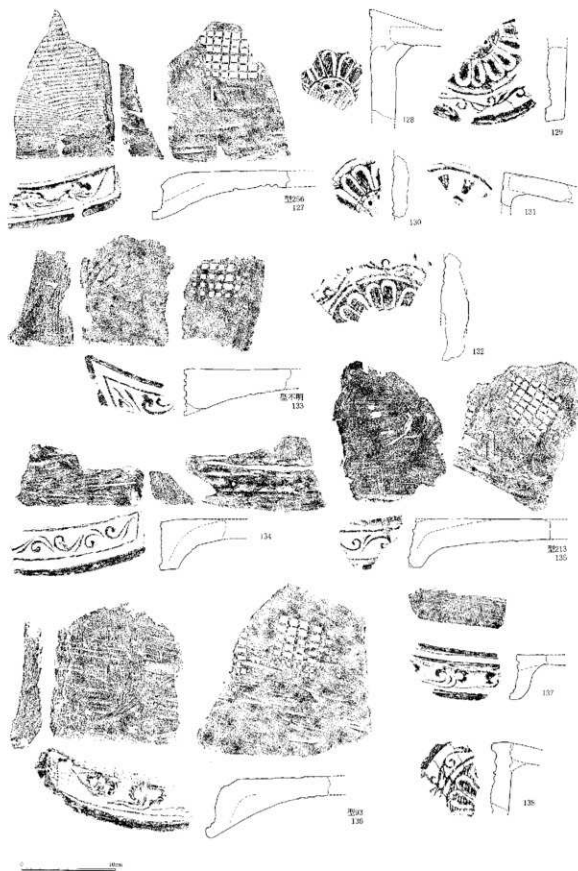
第89図 瓦実測図(46)



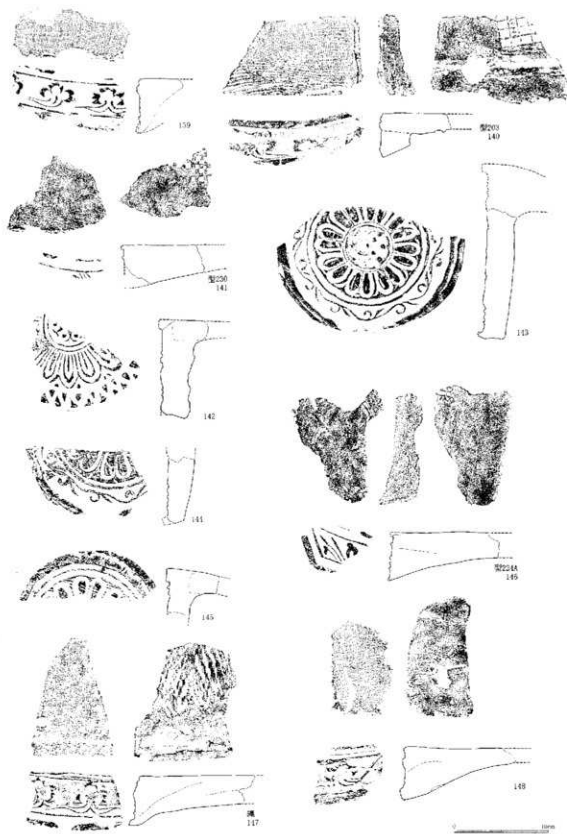
第90圖 瓦実測圖(47)



第91図 瓦実測図(48)

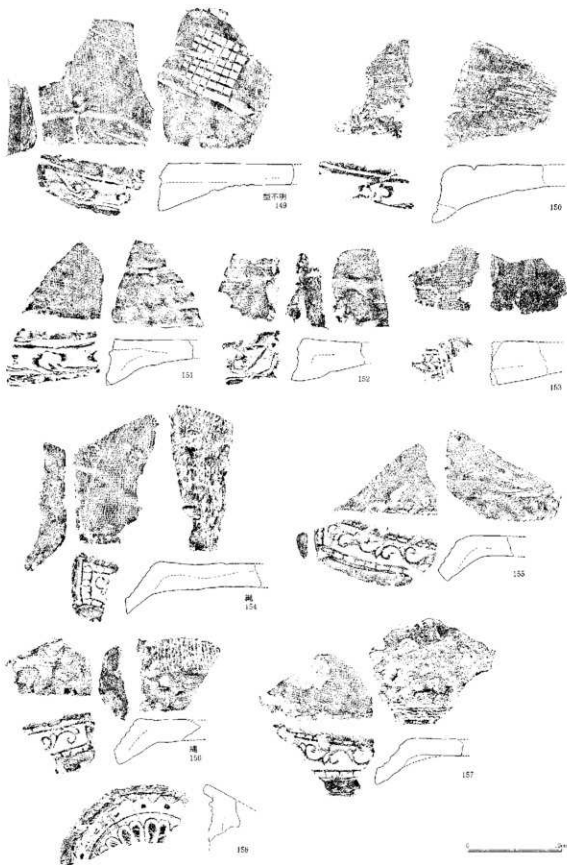


第92圖 瓦実測圖(49)



第93図 瓦実測図(50)



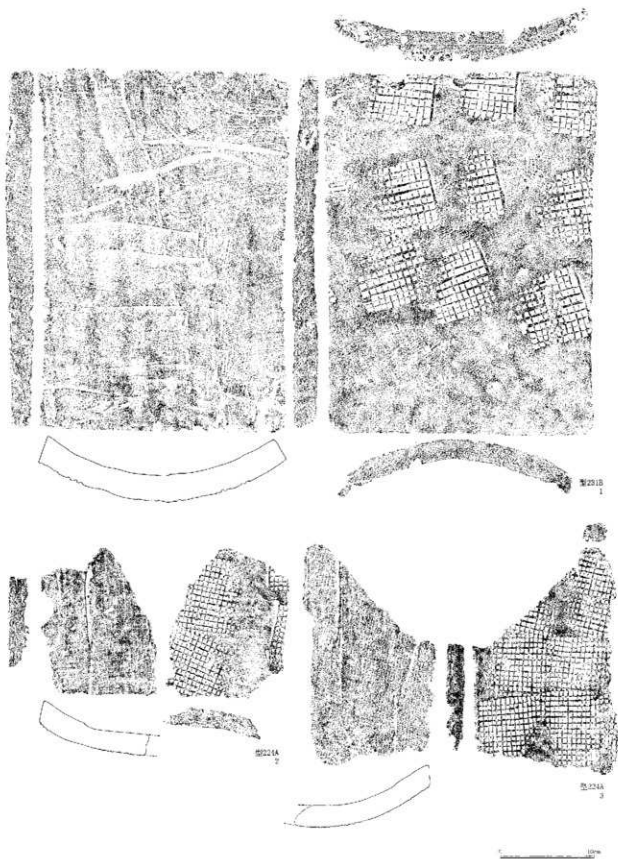


第94圖 瓦実測圖(51)

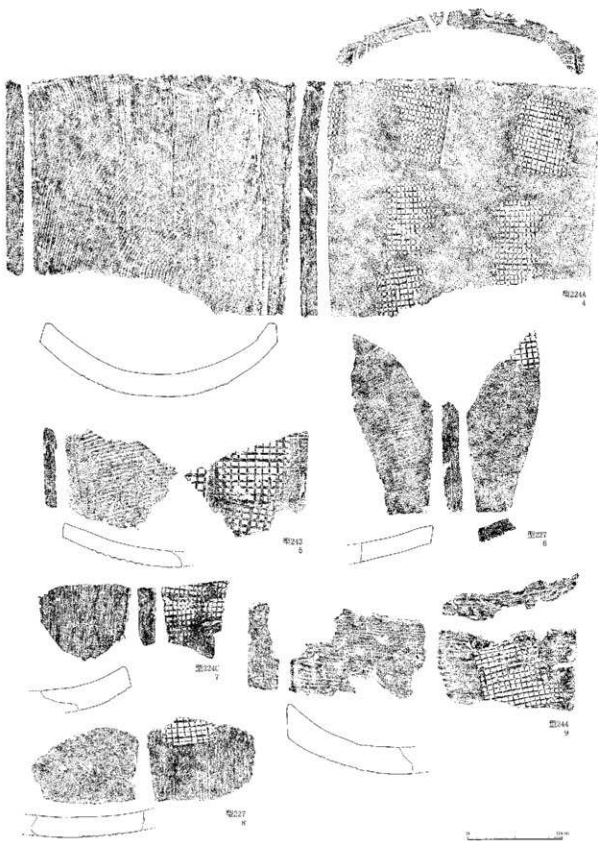
第4章 発見された遺物

番号	出土地	物名	時期	80	90	100
1	金堂北	銅瓦 3 F	1-1	81	同図	字瓦 4 G
2	金堂北西隅	銅瓦 2 G	1-1	82	東回廊南東コーナー	字瓦 4 H
3	金堂北西隅北西隅	銅瓦 3 C	1-2	83	東回廊	字瓦 4 H
4	金堂北南	銅瓦 4	1	84	同図	字瓦 4 H
5	金堂東	銅瓦 4 C	1-2	85	同図	字瓦 4 G
6	金堂西	銅瓦 1 5	2	86	西回廊	字瓦 4 H
7	金堂西	銅瓦 2 9	不明	87	東回廊	字瓦 4 H
8	金堂東平	銅瓦 4	1	88	同図	字瓦 4 H
9	金堂北南	字瓦 4 B	1-2	89	同図金堂取付部	字瓦 4 H
10	金堂北西	字瓦 4 B	1-2	90	同図	字瓦 4 G
11	金堂北南東	字瓦 4 B	1-2	91	同図南東コーナー	字瓦 4 H
12	金堂北北西	字瓦 4 B	1-2	92	東回廊南東コーナー	字瓦 4 H
13	金堂北西南東	字瓦 4 B	1-2	93	同図	字瓦 4 H
14	金堂北北東	字瓦 4 B	1-2	94	同図	字瓦 5 B
15	金堂北北東	字瓦 4 D	1-2	95	同図	字瓦 5 B
16	金堂北	字瓦 4 E	1-2	96	同図	字瓦 5 B
17	金堂基軸方中	字瓦 4 G	2-1	97	中門西回廊	字瓦 5 B
18	金堂北西	字瓦 4 F	1-2	98	同図	字瓦 5 B
19	金堂北北西	字瓦 4 G	2-1	99	西回廊	字瓦 5 B
20	金堂北西	字瓦 4 H	2-2	100	同図南東コーナー	字瓦 5 B
21	金堂北南東	字瓦 4 H	2-2	101	同図	字瓦 5 B
22	金堂北北西	字瓦 4 H	2-2	102	東回廊南東コーナー	字瓦 5 B
23	金堂北北西	字瓦 2 B	1-2	103	同図	字瓦 5 B
24	金堂北北西	字瓦 1 2 B	1-2	104	西回廊	字瓦 5 B
25	金堂北	字瓦 4 H	2-2	105	同図	字瓦 5 B
26	金堂北北西	字瓦 4 H	2-2	106	同図南東	字瓦 5 C
27	金堂	字瓦 1 2 B	1-2	107	同図南東コーナー	字瓦 5 C
28	金堂北北西	字瓦 1 2 B	1-2	108	同図西	字瓦 5
29	金堂北	字瓦 1 2 Bか	1-2	109	同図	字瓦 6 A
30	金堂北北西	字瓦 1 2 B	1-2	110	同図	字瓦 6 A B C 1 平均か不明
31	金堂北南	字瓦 1 2 Bか	1-2	111	同図	字瓦 5 C
32	金堂北北西コーナー	字瓦 3 B	1-2 ~ 2-1	112	同図金堂取付部	字瓦 1 2
33	金堂北南	字瓦 1 5	1	113	西回廊	字瓦 6 C
34	金堂北北東	字瓦 1 4	2	114	同図	字瓦 1 2 C
35	金堂南東・東	字瓦 1 4	2	115	同図	字瓦 1 2 B
36	金堂東平	字瓦 6 A	3-1	116	同図	字瓦 1 2 C
37	金堂	字瓦 5 B	3-2	117	同図南東	字瓦 1 5
38	金堂	字瓦 5 B	3-2	118	東回廊北	字瓦 1 5
39	金堂西	字瓦 6 B	3-2	119	同図	字瓦 1 4
40	南門南東	字瓦 5 B	3-2	120	金堂回廊	字瓦 1 5
41	南門	字瓦 2 B	1-2	121	金堂回廊西	字瓦 1 4
42	南門	字瓦 4 C	1-2	122	同図	字瓦 1 4
43	中門	銅瓦 3	1	123	南回廊	字瓦 1 4
44	中門	銅瓦 2 1	2-1	124	西回廊	字瓦 1 4
45	中門	銅瓦 1 1	2-2	125	同図	字瓦 1 6
46	中門付近	字瓦 4 H	2-2	126	同図	字瓦 8 A
47	中門	字瓦 5 C	3-2	127	講堂	字瓦 4 G
48	同図	銅瓦 2 6	1-1	128	経蔵	銅瓦 4 D
49	同図	銅瓦 3 C	1-2	129	経蔵	銅瓦 4 D
50	同図	銅瓦 3 C	1-2	130	経蔵	銅瓦 4 D
51	同図	銅瓦 4 D	2-1	131	経蔵	銅瓦 2 8
52	同図	銅瓦 4 D	2-1	132	経蔵	銅瓦 4 C
53	同図	銅瓦 4 D	2-1	133	経蔵	字瓦 1 2
54	同図	銅瓦 4 D	2-1	134	経蔵	字瓦 2
55	同図金堂取付部	銅瓦 4 D	2-1	135	経蔵	字瓦 2
56	同図	銅瓦 4 D	2-1	136	経蔵	字瓦 4 G
57	同図金堂取付部	銅瓦 4	1	137	経蔵	字瓦 4 H
58	同図金堂取付部	銅瓦 1 5	2	138	施燈	銅瓦 4 D
59	同図	銅瓦 7 5か	2-1	139	施燈	字瓦 4 B
60	同図	銅瓦 2 6	1-1	140	施燈	字瓦 4 H
61	同図	銅瓦 1 8	2-1	141	施燈	字瓦 1
62	西回廊	銅瓦 1 8	2-1	142	佛房東	銅瓦 2 4
63	同図金堂取付部	銅瓦 2 9	不明	143	佛房北窓南西	銅瓦 4 B
64	同図	銅瓦 2 9	不明	144	佛房	銅瓦 4 C
65	東回廊南東コーナー	銅瓦 2 9	不明	145	佛房母 2 1 2	銅瓦 1 5
66	同図南東コーナー	字瓦 2 A	1-1	146	佛房	字瓦 1
67	西回廊北	字瓦 3 B	1-2	147	佛房	字瓦 4 B
68	同図南東コーナー	字瓦 4 B	1-2	148	佛房	字瓦 4 G
69	同図南東	字瓦 4 B	1-2	149	佛房	字瓦 4 G
70	同図	字瓦 4 B	1-2	150	佛房	字瓦 4 G
71	同図	字瓦 4 B	1-2	151	佛房	字瓦 4 G
72	同図金堂取付部	字瓦 4 B	1-2	152	佛房	字瓦 4 F
73	西回廊	字瓦 4 B	1-2	153	佛房北	字瓦 1 4
74	中門西回廊	字瓦 4 C	1-2	154	佛房	字瓦 5 B
75	同図	字瓦 4 C	1-2	155	佛房	字瓦 5 B
76	同図	字瓦 4 C	1-2	156	佛房	字瓦 5 B
77	同図	字瓦 4 F	1-2	157	佛房	字瓦 5 C
78	同図	字瓦 4 F	1-2	158	遺構西	銅瓦 1 3
79	同図	字瓦 4 F	1-2			

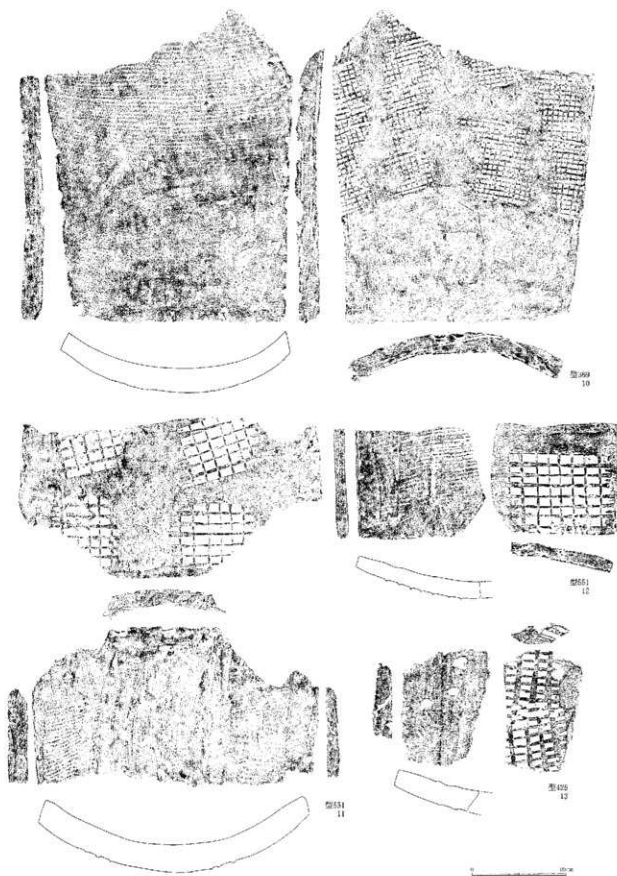
第4表 伽藍地出土実測瓦一覧表 (第74～94図対応)



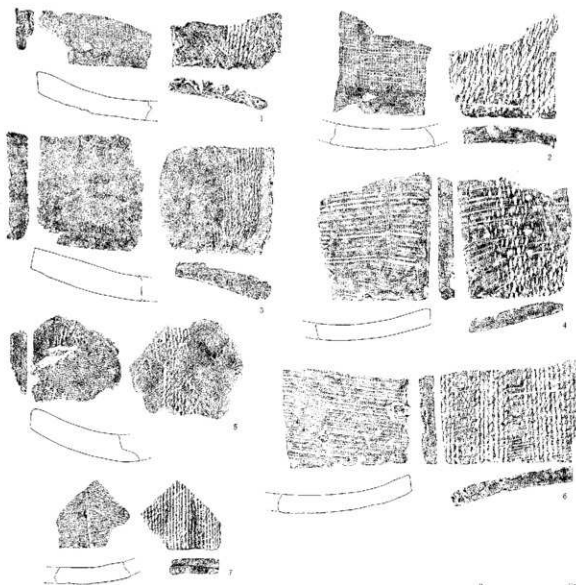
第95圖 瓦実測圖(52)



第96図 瓦実測図(53)



第97圖 瓦実測圖 (54)



第98図 瓦実測図(55)

時期 型式	1	1-1	1-2	1-2 2-1	2	2-1	2-2	2-3	3-1	不明
3			C 8							
4	3		B 10 C 7		D 15					
5									A 1	
7						1				
11							2			
12				1						
13		1								
15					3					
21						2				
25	1							1		
26		2								
29										5
31		1								
不明										6
計	3	4	25	1	3	18	2	1	1	11

第5表 伽藍地遺構外出土鏡瓦集計表

時期 型式	1	1-1	1-2	1-2 2-1	2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	不明
2			A 1 B 12								
4			A 3 B 13 C 4 D 2 E 2 F 13			G 18 H 27					
5							1			B 16	
6										C 9	
8										B 1 C 5	
12			B 7 C 7								
14							8				
15	1										
他											3
不明											4
計	1	4	60	2	8	18	27	1		31	7

第6表 伽藍地遺構外出土字瓦集計表

胎土や型押文の型式から水道山窯産と判断できる資料が一定数確認できるようになってきた。ここでは、その一部について提示し、尼寺の堂宇創建が国分寺1-1期に遡ることの証左としたい。

1は尼寺北方の畑から出た女瓦で型押文231Bで叩き、狭端部側に横方向削りを施す。2は型押文224Aで、第2次SD-301出土。凹面は模骨痕があり、縦方向に削を加える。3は型押文224Aで叩き、凹面は一部縦方向削りを行い、第2次SI-378上面出土。4は伽藍地内から出た。型押文224Aで叩き、凹面の拓影中右側1/3程を削る。5は第1次SD-154出土、型押文243で叩き、凹面側の側縁を幅広く削る。6~13は伽藍地内出土で、6は型押文227で叩き、凹面側の側縁を幅広く削る。7は型押文224Cで叩き、凹面は全面撫でる。8は凹面撫で、型押文227で叩く。10は型押文369で叩き、凹面狭端部側は広く削る。11は型押文551で叩き、凹面側の側縁を広く削り、糸切り後に縦方向に撫でる。12は型押文551で叩き、凹面側の側縁を広く削る。13は型押文425で叩き、凹面は模骨痕と縦方向削りである。

以上の瓦のうち、模骨痕のある桶巻き作りは1~4・12・13、糸切り痕のある一枚作りは5・6・8・9・10・11である。胎土や型押文から水道山窯産と判断される瓦は1~9、三義窯産と考えられる瓦は11~13である。

国分寺における型押文の編年によれば、1-1期前半には224A、1-1期には227・369があり、数は少ないが、これらが1-1期、尼寺創建期の資料となる。

## 第2節 文字瓦

国分尼寺の各調査区・伽藍地内から出土した文字瓦は、押印文字瓦・型押文字瓦・ヘラ書き文字瓦に大きく分類される。尼寺の伽藍地内出土文字瓦については、大金宣亮・石山勲氏による分類が行われている(大金・石山1969)。各調査区・伽藍地内から出た点数を示せば、押印文字瓦109点、型押文字瓦70点、ヘラ書き文字瓦484点で、総数662点にのぼる。このうち郡名の押印文字瓦は81点、型押文字瓦21点、ヘラ書き文字瓦366点になる。押印文字瓦や型押文字瓦は下野国分寺や下野国府・下野薬師寺でも出土しており、国分寺の報告書のなかでその分類が行われている。遺跡の性格上、尼寺出土の文字瓦の分類は国分寺報告分類に従うが、これに無い押印文字瓦やヘラ書き文字瓦は続き分類番号を付した。また、分類と型押文の対応関係についても調べた。これにより、今日的な文字瓦の資料意義が出ると思う。

### 1 文字瓦の分類

(1) 押印文字瓦(第99・104~106図、第7・8・25・26表、図版二三・二四)

下野国管下の9郡のうち、那須・塩屋・河内・都賀・安蘇・足利・梁田郡の郡名押印文字瓦が確認できた。

#### 「那瓦」

那須郡の瓦であることを示す押印文字瓦である。伽藍地を含めて7点出土した。型押文326などで叩き、主に女瓦凹面に押印されており、押印箇所に一性がある。生産遺跡では町谷窯で出土しており、町谷59では「足」の押印とヘラ書き文字瓦が確認できる。町谷窯の「那瓦」押印文字瓦の型押文は51・72・80・98である。消費地では下野国府跡で出土している。

#### 「塩」

塩屋郡の押印文字瓦で、反転陰刻する。尼寺では伽藍地から1点出土したのみである。型押文356で叩き、凹面に押印する。生産地は胎土から三義窯と考えられる。

#### 「内」

河内郡の押印文字瓦で、陽刻する。内の左外縁に縦画が入るものがあるが、ほかと同じ印を用いており、

傷も確認されない。型押文 246E・329C・231C で叩く女瓦に押印しており、1 点は広端部側の側縁際に押印し、端縁際に押印するものが 2 点、この内 1 点は凹面に押印、凸面にヘラで「内」を書く。生産地は町谷窯で、型押文 261A で叩き、国分寺型押文 338 が町谷 261B に相当する。尼寺で確認された 329C は、町谷 204 III に相当し、押印「足」とヘラ書き「内」がある（大橋 1997 第 48 表）。型押文と押印郡名は一致しない。

#### 「都口」

都賀郡の押印文字瓦で、文字を陰刻し、1 字のみ残る。凹面に押印し、凸面は縄叩きである。伽藍地からこの「都」が 1 点出土しているが、2 字目が明らかでない。生産遺跡は不明であるが、胎土から三畳窯であろう。

#### 「安宋」・「安」・「宋」

安蘇郡の押印文字瓦である。「安宋」は長楕円形の印面に文字を陽刻し、国分寺報告分類のⅡに相当する。安は行書のウ冠を横一画で表す。凸面は縄叩きで、瓦に対して斜めに押印する。

「安」は郡名の頭文字を陽刻・反転で表し、国分寺分類のⅢに相当する。印は 2 種類確認でき、横一画で表すウ冠の中央が繋がる印（3 点）と途切れる印（1 点）がある。ここでは、同じ字形であることから細分しない。押印は全て凹面の端部方向を天地にして行い、型押文 330A で叩かれている。ウ冠の中央が途切れる印は町谷瓦窯から出ているが、繋がる印の生産地資料は不明である。町谷窯における型押文は町谷 72 で、これは国分寺 330A であることから、型押文と印が一致する。

「宋」は郡名の第 2 字目を陰刻で表し、印は 1 種類のみである。印面は強く押し印によって小判形であることがわかる。女瓦では全て凹面の端部方向を天地にして押印し、1 点は端部縁に接する位置にある。男瓦では凹面に押印するもの 2 点、凸面に押印するもの 4 点である。凹面押印では、広端部からと狭端部から押す場合がある。凸面押印では、広端部からと横から押すものが確認できる。このため、押印面・方向等に共通性が少ない。

生産地は町谷窯で、型押文は町谷 10・40・210 である。尼寺出土瓦は型押文 364B で、町谷 210 に当たる。

#### 「足」

足利郡の押印文字瓦である。国分寺分類のⅣ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ・Ⅺがあり、このほかにも初出の印が確認できたので、これをⅪとした。

Ⅳは女瓦の凹面に端部方向を天地にして押印し、凸面は型押文 329C など叩く。男瓦では凸面に横方向から押す。

Ⅷは足の文字を陽刻し、口の第 3 画目を横長に書く点はⅧと類似しているが、別印である。1 点のみ確認でき、広端部の側縁寄りに端部側から押印している。型押文 245 を叩く。

Ⅷの印面は、焼成後で幅 2.4 cm、長さ 4.8 cm に及ぶ長方形である。文字は 2 cm 角の行書で、印面の下端に陽刻する。女瓦は格子叩きを行い、型押文は 335 が 5 点、334A が 3 点確認できた。押印は凸面に行い、端部方向に対して斜めに押すものが多く、押印は格子叩きの後に行っている。

Ⅸは足の文字を陰刻する。男瓦では凸面に横方向から、女瓦では凹面に端部方向を天地にして押す。瓦の種類と押印する面、方向に規則性があるが、女瓦の型押文は 346 が 1 点、295 が 2 点、329C が 1 点、356 が 1 点で、型押文と押印の対応関係は捉えられない。

ⅪはⅧと類似するが、旁が斜めになっており、分類した。印面も長方形で幅 2.6 cm、長さ 5.0 cm 以上になり、その下半部に文字を陽刻する。型押文 329C で叩き、横方向から押印している。

生産地は町谷窯で、型押文 59・204 である。尼寺出土瓦は型押文 329C で、町谷 204 III に当たり、印と型



押文が一致している。

#### 「矢」・「田」

「矢」は梁と字が異なるが、音が通じることから梁田郡を表記したと考えられている（大金・石川1969）。「田」は梁田の第2字目を示したものであろう。

「矢」は尼寺で最も点数が多く、19点に及ぶ。印は1点のみで、文字を陰刻するが、影り傷・范傷が顕著である。女瓦は数が少ないが、凹面に端部方向を天地にして押す。型押文264E・295を叩く。男瓦は全て凸面に押印しており、8点は広端部と判断される付近に押す。この点は押印箇所の共通点であるが、押印方向は広端部側から7点、狭端部側から2点、横方向から1点、端部方向を天地にしているのが5点存在し、明確な規則性はない。これらを総じて見れば、印は1点であるが、型押文・押印方向は多様で、押印箇所に画一性が確認された。生産地は胎土から三鑫窯と判断することができる。

「田」は国分寺分類Ⅵのみである。「田」を陽刻し、影り傷・范傷が顕著である。女瓦・男瓦ともに凸面に押されているものが多い。

#### 「寺」

現状で1.8×2.3cm程の大きさの文字を陰刻で表す。国分寺報告の次の番号で寺Ⅱとする。女瓦に型押文331で叩き、国分寺報告でも型押文の脇にこの印が押されており（大橋1997 第80図）、尼寺1969報告でも第15図10に載っている。この型押文は1-2期に位置付けられる。

#### 「瓦」

鳥臈形の印面に「瓦」を陽刻する。凸面は縄叩き・離れ砂目であり、この後に押印する。製作技法からみて3期の所産と推定される。伽藍地から1点のみ確認された。

### (2) 型押文字瓦（第99・100・106～109図、第9・10表、図版二四・二五）

#### 「都可」B・C

都賀郡を示す型押文字瓦である。国分寺分類の「都可」Bが6点出土した。Bは格子が潰れたものであるが、その後に「都」の第4画目を影り直している。CはBの部分の格子と先述の第4画目が全く潰れているが、Aの格子が潰れて「都」を影り直す前か、Bがさらに潰れて「都」の第4画目が消えたのか、周囲の傷の観察でも検証できなかった。Cは回廊から1点出土したのみである。生産地は三鑫窯である。

#### 「可」

都賀郡か芳賀郡の可能性があるが、型押文字瓦に「都可」も存在することから、都賀郡の郡名型押文字瓦と考え、国分寺報告の立場を追認する。伽藍地から2点出ており、このうちの1点には凹面にも「ロ」の可能性のあるへら書きが観察される。町谷窯で当該型押文字瓦が出ている。

#### 「足」Ⅱ

足利郡の頭文字を示す型押文字瓦である。伽藍地から2点出土した。女瓦凸面に斜め方向から叩いている。胎土から三鑫窯産と考えられている（大橋1997）。

#### 「田」Ⅱ・Ⅲ

梁田郡の2文字目を示す型押文字瓦である。国分寺分類のⅡが確認され、国分寺で未確認の型押文字をⅢとした。「田」Ⅱは5×5の格子の上端に文字を配する。伽藍地から8点と第2次SⅠ-335から出ている。「田」Ⅲは、型押文の格子12×7で、型押文の縁に文字を組み込む。生産地では町谷窯の267型式（大川1974）に当たる。1点のみ伽藍地から出土した。

## 「国分寺瓦」

国分寺報告分類の「国分寺瓦」Ⅱが2点出土した。女瓦凸面に横方向から叩いている。第1次SⅠ-125から出ており、この住居跡は9世紀中葉から第3四半期になり、この瓦もこれより古くなる。第11次SⅡB-700(9世紀後半)から出土しているが、出土層位は明らかでない。

## 「国分寺」ⅠA・ⅠB・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

国分寺分類の各型式が尼寺でも存在し、伽藍地・調査区で合計23点確認できた。すべて陽刻で、文字を表し、その特徴は国分寺報告による。第1次調査区遺構外出土7を「国分寺」ⅠAと判断した。

ⅠBは第5次SⅠ-496から出土し、この住居跡は9世紀中葉から第3四半期に位置付けられる。国分寺報告では、この文字瓦を3期(9世紀後半)としており、概ね同じ時期になる。

Ⅱは最も多くて、7点出土した。「分」がやや小さい点の特徴である。Ⅲは文字脇の格子が長く、「分」と「寺」が繋がっている。第14次SⅠ-849で出ており、この住居跡は9世紀第4四半期になることから、「国分寺」Ⅲはこれより以前になる。

Ⅳは「分」の第3・4画目が横方向に近い角度でのびることで分類し、2点のみ確認できた。Ⅴは3点出土した。「分」が傷で潰れている。第7次SD-140から出ており、この溝は東張り出し部で、9世紀第3四半期まで機能していることから、これ以前の所産になる。生産地は鶴舞窯・八幡窯を含む三養窯である。

## 「寺」ⅣA・ⅣB・Ⅶ・Ⅷ・Ⅹ

国分寺報告分類のⅣは5×7の格子文であるが、この格子文を彫り直して5×14にしたものがあり、前者をⅣA、後者をⅣBとする。ⅣAは東山窯・立山窯から出ている。ⅣBの生産窯は明らかでないが、三養窯内であろう。ⅣBは尼寺の調査区から多数出土しており、第2次SⅠ-325(10世紀前半から中葉)、第2次SD-334(9世紀第4四半期～10世紀前半)や下野国府跡(田熊1990 図版21-690)でも確認できる。最も古い時期からみると、9世紀第4四半期以前となる。ここでは、遺構変遷Ⅲ期の所産と考えておきたい。

Ⅶは第2次調査区から1点出土しており、「寺」の一部が押印されている。

Ⅷは国分寺報告では確認できなかったもので、後続番号とした。格子文の幅が太くて、中心に「寺」Ⅱ～Ⅳと同じ行書の文字を簡略化して陽刻している。宇瓦16型式の凸面に叩かれており、回廊から出ている。破片も含め横方向から叩いている。第4次SK-461では9世紀後半頃の土師器と相伴しており、下限がわかる。国分寺からも出土している(大川・田熊1982)。

Ⅸは、6×6の格子の中に三角と寺と目される文字を組み込む。「寺」Ⅰ～Ⅳは格子の外に三角と寺の文字が置かれたが、これを变形したものであろう。生産地では三養の鶴舞窯で出ており(大川1974 鶴80)、消費地では薬師寺型押印93、国分寺で確認されている。鶴舞窯で出ていることから9世紀代の所産であろう。

## (3) 不明押印瓦(第99・105・106・109図、第7・8表、図版二四)

ここでも国分寺報告分類により文字不明の押印瓦の分類説明を行う。

## 押印Ⅲ

国分寺報告で女瓦製作時に乗せた台の圧痕と推定したものである。二条の窪みが併行するが、窪みの長さ、幅で3種類確認された。全て女瓦の凸面で、縄叩き・離れ砂が付く。二本の長さが異なるものは薬師寺報告不明押印3に相当し、鶴舞窯で出土している。幅広のものは薬師寺不明押印2、最も細長いものは薬師寺不明押印4に相当する。縄叩き・離れ砂があることから、3期の宇瓦5・6型式に伴うと考えられる。

## 押印Ⅳ

長縄叩き・離れ砂の女瓦凸面に押印する。印は1種類と判断され、回廊と第12次SA-820などから出ている。国分寺・薬師寺・鶴舞窯で確認されており、薬師寺不明押印11に相当する。離れ砂が付いていることから瓦3期の所産と考えられる。ほかの共存資料に山海道遺跡SI-40があり、9世紀後半の土器と出土している。

#### 押印V

長縄叩き・離れ砂の付く女瓦凸面にあり、三本の溝が平行する。薬師寺報告の不明押印7に当たるが、製作台の圧痕と推定する説がある。縄叩き・離れ砂があることから、3期の宇瓦5・6型式に伴うと考えられる。

#### 押印VI

4.5×5.5cm程の長方形の印面に「五」を陽刻する。国分寺報告のVIとVIIが同一印であり、拓影では合成したものも提示した。縄叩き・離れ砂の付く女瓦の凸面中央付近に、横・斜め方向から押印する。女瓦の製作技法から3期の宇瓦5・6型式に伴うと考えられる。生産地では三叢の八幡F2号窯跡（大川1976 図版294）で出ている。出土した第4次SI-439が土器4期であることから、9世紀第4四半期を下限とすることがわかる。

#### 押印IX

国分寺報告にない押印文字瓦であることから「押印IX」とした。5.5×3.5cm程の長方形の印面に「六」を陽刻する。薬師寺不明押印9に当たる。新開遺跡第2次第7号壑穴住居跡（山口2004）から出しており、この住居では黒笹90号窯式や光ヶ丘1号窯式の灰釉陶器が出土していることから9世紀後半を下限とする。縄叩き・離れ砂の付く女瓦の凸面に斜め方向から押印する。女瓦の製作技法から3期の宇瓦5・6型式に伴うと考えられる。胎土から三叢窯で生産されたとみられる。

#### （4）ヘラ書き文字瓦（第101～103・109～118図、第11～14表、図版二五～二八）

尼寺から出たヘラ書き文字瓦は、下野国内の9郡のうち、芳賀郡を除く8部分が確認された。この他にも郡に係わるヘラ書きなどを含めて、調査区・伽藍地で総計467点出土した。ここでは、ヘラ書き文字の分類を行い、これと型押文などとの関連などを概観していきたい。

#### 「那」

那須郡の郡名を頭文字で表記した郡名文字瓦である。国分寺報告に従い、扁と旁を書く文字を那A、扁のみの文字を那Bと分類する。さらに那Aの筆順で分類している（註1、P184）。

A Iは那の旁で、縦画の後に横画を引くものとした。しかし、数は少なく第10次SD-670Bと伽藍地から出た2点のみである。伽藍地出土品は小型で那Fに似ている。うち1点は胎土の特徴から水道山窯産と判断される。

A IIは7～10cm角前後の大型の文字を書くものである。2画目の縦画は左に払わず、縦に引く傾向がある。また、扁は扁扁にならずに、縦てコの字状のものも一定数存在する。郡名は全て凹面に記載する。女瓦は凹面中央付近でなくて、側縁付近に書くことがある。型押文260で叩く文字瓦では側縁が残り、側縁寄りに書く瓦が5点で、型押文260以外や型押文不明の瓦でも側縁寄りに書くものが8点確認された。多くは胎土の特徴から三叢窯産と推定されるが、一部水道山窯産と判断できるものがある。

男瓦では、広狭端部が判断できたものは多くが広端部縁に、広端部を上にして凹面に書かれていた。さらに文字では、那の第5画目の横画から扁への運筆が繋がりが、扁が縦てコの字状になる瓦が多く存在し、同筆になると判断される。しかし、これと同筆の女瓦は確認されていない。

B I は4点確認できた。那の旁のみを書くもので、縦画を最後に引くことから分類している。このうち2点は扁と旁の間で割れており、可能性があるものとして挙げておく。拓影を提示したものは明らかに旁を欠く。

C は第1次SD-113から出土した女瓦1点である。那の旁の縦画3本のうち左右の縦画を引き、横画2本を引いてから中央の縦画を引く。扁は平行線になっており、明らかに他の文字と筆順が異なっていることから分類した。胎土・型押文から水道山窯産である。

D は第2次SK-339から出た1点のみである。旁の筆順は最初に縦画2本を引き、次にL字形に本来の第1画目を書く。最後に横画2本を引く。筆順が特異なことから分類した。

E は文字が縦長で、右下がりのもので、筆跡に特徴がある。伽藍地から出た2点のみ確認できた。男瓦の凸面に小型の文字で書いている。

F は3～4cm角の小型の文字で、第1画の縦画を丁寧に跳ねて、第2画の縦画も丁寧に払う。全体に端正な楷書で書かれており、明らかに識字層の筆になると判断される。国分寺でも1点報告されている(大橋1996 Fig. 84の290)。男瓦では凸面・凹面、女瓦では凹面に書いている。女瓦は型押文356で叩いており、同じ型押文で叩く瓦に「可」「足」を書くものが存在する。町谷窯から出土した「那須郡」銘に筆致が似ている。

G は、旁の縦画3本を寄せて細長く書き、下の段の横画を左から長く書く特徴ある。横画を長く書く特徴は奈良時代よりも前代的な書風であり、識字者の筆によると推定される。女瓦凹面に書かれており、型押文295で叩いている。水道山窯に似た筆跡が確認できる(大川1982、図版48の16)。

H は他の文字と筆順が異なることから分類した。旁は最初に左端の縦画を書き、次に逆L字状に書いて、その後に横画2本を書く。先後関係は明らかでないが、右端の縦画はほかの部分と交差しない。扁は細長い柳葉状の線を引く。C・Dとともに那の筆順が一致せず、字も稚拙であることから、識字層の筆になるとは考えがたい。

#### 「塩」

塩屋郡の頭文字を書いた文字瓦である。Bは土扁を大きく書き、土には点が付く。楷書であるが、旁の上が「合」のような字形になる。第11次SD-800出土。水道山窯に似た筆跡が確認できる(大川1982、図版52の30・59の61)。胎土の特徴からも水道山窯産と判断される。

Cは大型の文字で、行書気味に書く。扁を力強く、旁の皿の縦画が扇状に開く特徴がある。第12次SD-610Bから出土し、水道山窯に似た筆跡が多数確認できる(大川1982、図版19の2、58の55、59の61)。この瓦も胎土から水道山窯産と判断される。

Dは旁の上と下の皿が離れ、上段の終画が長くのびている。凹面は全面横撫で、端部付近に削りを施す特異な男瓦である。胎土から三森窯産であろう。

#### 「内」

河内郡の文字瓦である。国分寺報告の分類に収まらない多様な字形が確認できたために、新たに分類を行った。

Aは文字が比較的大型のもので、このうち第2画の横画から縦画への折れに丸味があり、書風でいう「六朝風」に近い字形をA Iとし、「唐風」に折れているものをA IIと分類する。A Iに対して、A IIの方が少し多くなっている。これは後述するように字の小型のB類でも丸味のある文字(B I)よりも稜を有して折れる文字(B II)の方が多かったことに符合し、書風の時代的な趨勢を反映するであろう。A Iは男瓦・女

瓦ともに凹面に書く。文字は多くが側縁近くに書かれているが、正位で書くものと倒立位で書く場合があり、画一化されていない。型押文との対応関係ではAⅡで型押文262がまともに使われていたが、その他では1～2点のみであり、文字と型押文との特定の対応関係は見出しがたい。第1次SⅠ-163や第2次SD-330の当該文字はⅡの書風である。

Bはやや小型のもので、横画から縦画への移行に丸味のあるBⅠと稜を有して折れるBⅡに分類した。BⅠでは、第1画目の縦画が弓状に反るものが多い点が特徴である。BⅡでは第3画目を直線状に長く書くものや第3・4画の「人」を「ト」と書く国分寺分類の内Aも特徴的にみられる。

女瓦では凹面に全て書かれるが、男瓦では凹面・凸面ともに確認できた。また、記載の際の瓦の置き方では女瓦では正位・倒立位ともに存在する。第1次SD-112Bの男瓦に書かれた当該文字はBⅠになる。型押文との関連では、BⅡで型押文262がまとも確認できたが、この型押文の女瓦に書かれた文字はAⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡに及んでおり、様々な字形に対応している。

Cはやや文字が大きく、第1画目の縦画が外開きになり、第2画の横画と縦画が稜をもって折れる豪放な文字である。型押文246E・326で叩く。町谷3号室で出ている。

Dもやや文字が大きく、第2画の横画と縦画が丸味をもって折れ、「人」が行書になっている豪放な文字である。Cと同じ型押文246Eで叩くが、異なった筆跡である。

Eは「人」の縦画が、構えの第2画より上に出ず、「ト」の字形になる。本来の字形を理解されていないと判断できる。Eには型押文342で叩く女瓦があり、内AⅠ・BⅡと同じ型押文を用いており、記入者と型押文が明らかに対応しない事例になる。

Fは「人」の1画目をまっすぐに垂下し、構えの下辺まで長く書き、2画目を書かない。このため、本来の字形を理解されていないと判断できる。型押文は192・262・291が確認でき、尼寺では他の文字瓦には使われていない。

Gは構えが縦画2本で書かれている。これも本来の字形を理解されていないと判断できる。型押文480で叩かれている。

Hは第1画の横画が右肩下がりの文字を集めた。

## 「可」

国分寺報告が指摘するとおり都賀郡の可と考えておき、分類も一部にそれによる。ヘラ書きの「都」は尼寺では確認できなかった。胎土から産地は全て三鑫窯と考えられる。Aは口を楷書で書き、第1画の右端に第5画の縦画が接して逆し字形のをAⅠ、第5画の縦画が第1画の横画より上までのびるものをAⅡとする。男瓦のAⅠは凸面の側縁際を書く画一性が窺え、他の文字と対照的で、同筆の可能性が高い。AⅡは1点のみで、型押文329Bで叩く。

BⅠbは第5画が第1画に接し、「口」の第1画を長く縦に引くもので、2点確認できた。型押文334Aと356が叩かれる。

DⅠは第5画が大きく左に跳ねる字形で、可能性のある破片が1点存在するのみである。DⅡは「口」の横画が2本以上になり、第5画が左に弧状に跳ねている。型押文335・395で叩かれ、文字が文様化している点が特徴である。

Fは国分寺分類と異なるが、行書で書く。側縁側から書いており、型押文356を叩き、この型押文は押印文字瓦「塩」にも叩かれている事実から、押印文字瓦とヘラ書き文字瓦が同じ時期に併存していたことが証明される。

Gは留め・跳ねが力強くなされ、端正な文字であることから、識字層の筆になると推定される。型押文335で叩き、端部近くに書いている。

Hは「口」を楷書、第5画目の縦画を長くのばして書く。側縁寄り・狭端部・広端部に文字を書いている。型押文333・356で叩いている。

産地は、玉縁のある男瓦1点が胎土から水道山窯産の可能性はあるが、その他は三義窯産と推定される。

#### 「川」

寒川郡の文字瓦である。胎土から全て三義窯産と考えられる。文字はA～Eの5類に分けた。Aは垂下する3本の縦線が等間隔で引かれる。ただし、3本線がほぼ同じ長さのものと、第3画目が長くなっているものがみられ、後者は数少なくて3点のみである。第11次S I -690から出た鑑瓦24型式の瓦当面裏側には「川」と目される文字が焼成前に刻され、この前に「#」が書かれている。遺構出土品では第2次S I -307などがある。女瓦は全て凹面に書いているが、男瓦は凸面にもある。端部が遺存するもののみで、広端部に記載するものが多くて、8点確認できた。これらで記入方向の判別できるものでは、広端部側から文字を書いている。型押文は9種類に及び、特定の型押文への偏りはない。

Bは国分寺分類と同じく第3画目の縦画を右に引き抜く字形である。伽藍地から出た4点のみで少ない。型押文290を叩く女瓦が確認でき、男瓦は凹面に書いていた。町谷4号窯で出ている。

Cは小型の文字である。細長く書くDに似た文字や、川の字形により第3画が長くなるものもある。文字の位置は側縁寄りが多いが、女瓦で横断面の中央の位置に書く瓦が1点ある。型押文は4種類確認できたが、334A・353は「川」Aでも叩かれている。

Dは第2画目が一方の縦画寄りに引かれ、個人的な癖とも推量される字形である。ただし、第2画目が最も長くのびる文字もあり、差異も確認される。女瓦は全て凹面に書くが、中央付近や側縁寄りなど記入位置は画一的ではない。男瓦では凹面・凸面にあるが、側縁寄りに書いている。女瓦には型押文329A・333・337で叩くが、このうち型押文329A・333は「川」Aでも叩かれている。同じ叩き具で締めて、癖のある字形の者（「川」D）と最も数の多い字形の者（「川」A）が文字を書き、瓦製作者と郡名記入者は一致しない事例になる。三義の町谷4号窯・6号窯において多数確認されている。

Eは大きな3本線を細長く書く字形である。書く位置は側縁寄りが多く、男瓦でも第1次SD -201でもみられる。男瓦・女瓦ともに側縁寄りに字を書く瓦が4点ある。生産地ではこの字形が町谷3・4号窯から出ている。

#### 「安」・「来」

「安」は安蘇郡の頭文字、「来」は第2字目を示す文字瓦である。「安」は伽藍地・調査区を含めて20点、「来」は1点確認されたのみである。「安」は国分寺報告の分類に従って、ウ冠を省略して短い縦二本線で表現するA、ウ冠を横一画に省略するB、傍の女の横画を先に引くI、後から横画を引くIIに分類し、それらを組み合わせる。

「安」A Iは1点のみで、型押文254を叩く。A IIの女瓦は全て凹面に書き、このうち3点は広端部側縁に記している。「安」A IIはA I・B I・B IIに比べて字形が整っており、筆に通じた者が記入者であろう。型押文は295が1点、333が3点、364Aが1点確認でき、これは「可」H・「川」A・「川」Dにも用いられている。

「安」B Iは全て筆順が同じで、広端部側縁に記している。「安」B IIは1点のみであるが、全体の筆順がウ冠の横画→現代筆順女の第1画→女の第3画（横画）→第2画となっており、明らかに他の文字と異なっ

ている。

「安」Cは1点であるが、ウ冠を縦線三本で表し、女は横画→現代筆順女の第2画→第1画の順で書く。女の筆順はAⅠと同じである。

「安」Dは不確定であるが、上端に縦線があり、ウ冠の可能性が高いが、女の横画がない。第2次SⅠ-307から出土した。

「宋」は男瓦凸面の広端部寄りに書かれた1点のみである。

#### 「足」

足利郡の頭文字を示す。Aは「口」の第2・3画目が一連になり、その下は行書で書く、小型の文字である。鏡瓦3C型式の男瓦部凸面に「足」Aが書かれている。

Bは「口」を略して、その下はZ字状に草書気味に書き、型押文344で叩く。町谷4・6号窯で出ている。

Cは大きく文字を書き、拓影の文字はAと似た行書であるが、文字が縦長である。ほかに横長の行書もある。

#### 「矢」・「田」

「矢」は音の通じから梁田の頭文字とみられ、「田」は2字目であろう。「矢」Aは、第1・2画目を連続して運筆する。女瓦は全て凹面で、端部の縁に書くのは4点、側縁寄りに書くのは3点あるが、その他は端部・側縁付近が破片で不明である。型押文は多種に及び、対応関係は見出しがたい。鏡瓦4型式の男瓦部凹面に当該文字をへら書きするが、遺存する瓦当面が少なく、范傷の進行状況は不明である。

「矢」Bは分類が不明瞭であるが、第1画目が長くのびる文字とした。筆順で第3画目に「人」を書き、最後に横画を引く文字も確認できる。型押文558は斜格子叩きで、目の一つが潰れている。この型押文は伽藍地出土71の飛雲文字瓦4B型式にも叩かれている。同じ叩き具を用いた女瓦が郡名文字瓦であることから時期比定の資料となる。

「矢」Cは「矢」の横画が一本足らずに「夭」になっている。2点確認され、端部の縁に書く瓦がある。型押文はともに321である。識字層の筆になるとは考えがたい。また、同じ型押文に「矢」Aがあることから、叩き具使用者と記入者は別人であろう。

「矢」Dは文字としては異質なものをまとめた。1点は「矢」の終画を書かない字と第1～3画を行書で反転している字がある。前者には型押文262が叩かれ、同じ型押文は「内」AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡにみられることから、型押文と記入者は一致しないと考えられる。

「矢」Eは第1画を垂直に長く引き、第4・5画が第2画の横画から引く特徴がある。女瓦では凹面広端部寄り中央に書き、型押文295・351を叩く。この型押文は押印文字瓦「足利」IXや各郡名瓦に叩いている。

「矢」Fは第1画を垂直に引き、第2画を離して書く文字などをまとめた。「矢」Eに似ており、横倒した字形といえる。

「田」は国分寺分類に従い、正方形に近い字形で、第3画目に縦画、第4画目に横画を引く字をBⅠ、逆に第3画目に横画、第4画目に縦画を引く字をBⅡ、長方形の字形をBⅢとした。「田」BⅠは字の大きさが3～4.5cm角である。出土数が多くて11点にのぼるが、端部寄りに書く瓦は少なく、ほかのへら書き文字瓦の傾向と対照的である。型押文は4種類確認でき、326は押印「那瓦」+「田」Ⅳ、へら書き「内」CⅠ、「川」Aと組む。第2次SⅠ-307から出ている。

「田」BⅡは数が少なく3点のみである。字の大きさや形から同筆と判断できず、筆順を同じくする文字である。

「田」BⅢは横長な字であり、2点のみ確認できた。第1次SD-153出土女瓦は第3画目に縦画、第4

画目に横画を引き、別な1点と筆順が逆である。

「田」Cは尼寺1969報告でも特徴ある文字と指摘されてきた。第2画が右上がり、横画から縦画が鋭角に曲がる点の特徴である。また、第3画は縦画、第4画が横画で筆順は全て同じで、第4画の入筆は第1画の縦画から離れ、第2画の縦画に接する。このような極めて字形に特徴があることから、特定人物の筆になると判断される。類似した字形がヘラ書き「内」にもみられ、同一人物の筆になる可能性がある。記入位置は側縁に寄るもの2点、端部中央に寄るものが2点あって、画一性はない。「田」Cを書く瓦の型押文は6種類確認できる。型押文6種類の製作に対して、記入者1名という対応関係となるであろう。調査区では第1次SD-154から出ている。生産地では町谷6号窯で確認できる。

「田」Dは3×1.5cm角の小型の文字で、端正な楷書である。女瓦凹面の端部寄りに書いている。

#### 「安田後」

安蘇郡田後郷の可能性を示すという考えもある(田熊1985)。「田」の筆順によって第3画目に横画を引く字をA、第3画目に縦画を引く字をBとした。調査区出土の当該文字(第2次SD-250)は国分寺出土の「後」に似るが、伽藍地金堂北東出土の3字目の旁は草偏にも似ている。

#### 「郡瓦」

金堂南伽藍地内から出た1点のみである。胎土は表面が明褐色土で、内側は黒色になっており、白色粒子を多く含み、水道山窯産と判断される。

#### 「郡」B

伽藍地から出た2点のみである。男瓦の凸面に書かれている。国分寺で大型の文字(Fig110 郡3406など)を郡Aとし、尼寺のものをBとする。

#### 「生」

文字の半分のみを残すため不確定である。縄叩きの男瓦の凸面に書いている。生産地では東山窯で多数出土している。

#### 「十」

字の大きさは2cm角から7cm以上まであり、画一性がない。1点を除き、端部・側縁寄りに書かれている点に共通性がある。

#### 「寺」

横画が一本足りない「寺」である。1.5×1.0cm角の小さな文字で、男瓦の凹面に細い物で書いている。第1次調査区遺構外から出土した。

#### 「大」

男瓦の凹面に書かれ、伽藍地内から2点出土した。

#### 「小」

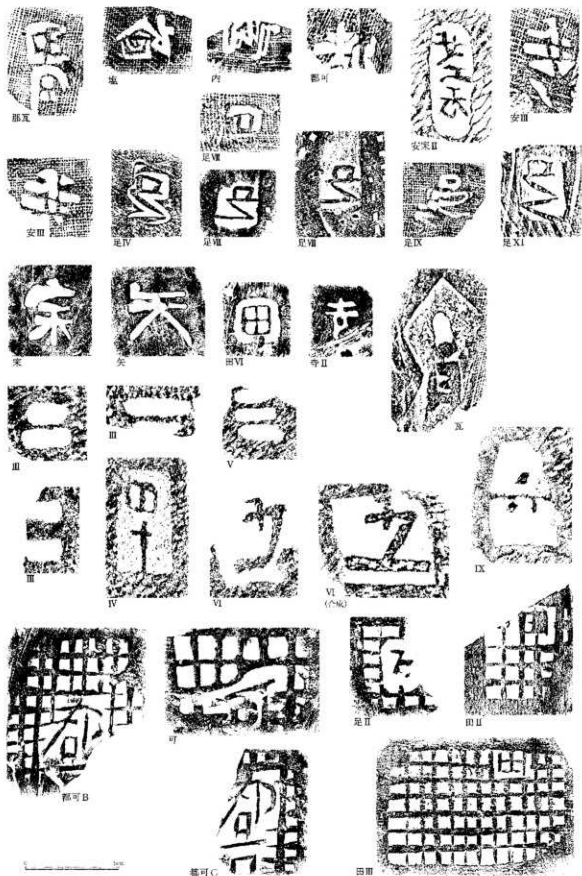
男瓦の凸面狭端部に接して、深い影りで書かれている。

### 2 文字瓦の出土傾向

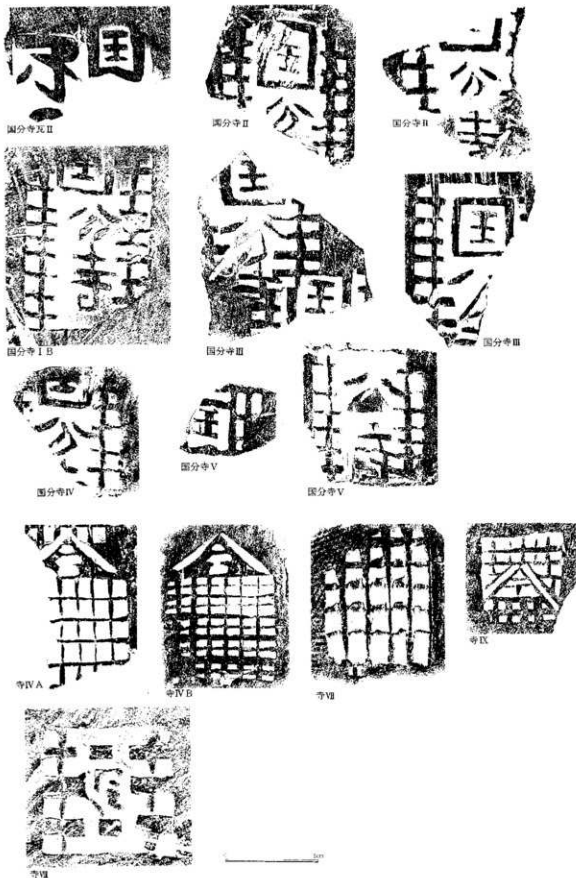
ここでは主に伽藍地から出た文字瓦について、分類に従って説明と郡名文字瓦と出土した位置・建物との関係について記す。

郡名文字瓦は、押印文字瓦・ヘラ書き文字瓦ともに金堂・回廊からの出土数が多い。型押文字瓦は出土数が少なく、建物との出土傾向は明らかではない。この他の建物は郡名文字瓦の数は少なく、押印文字瓦

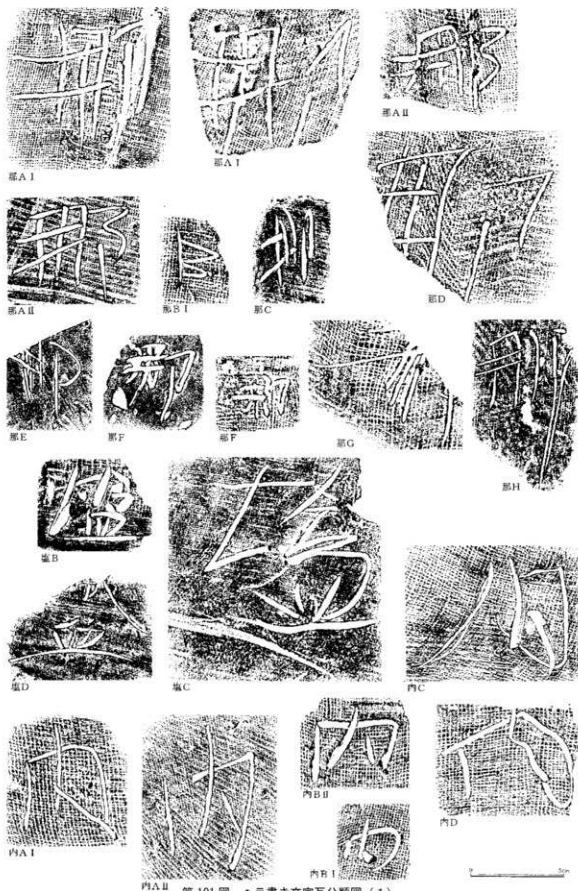


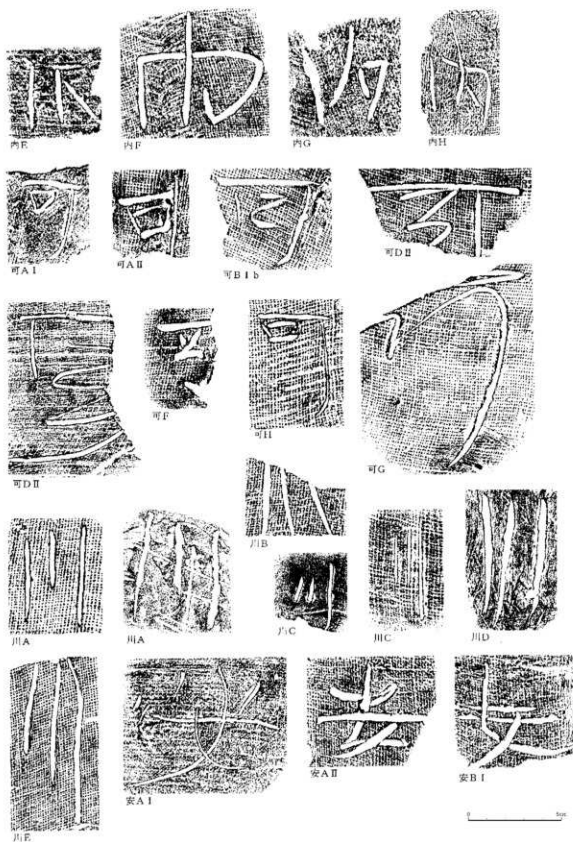


第99圖 押印文字瓦・型押文字瓦分類圖

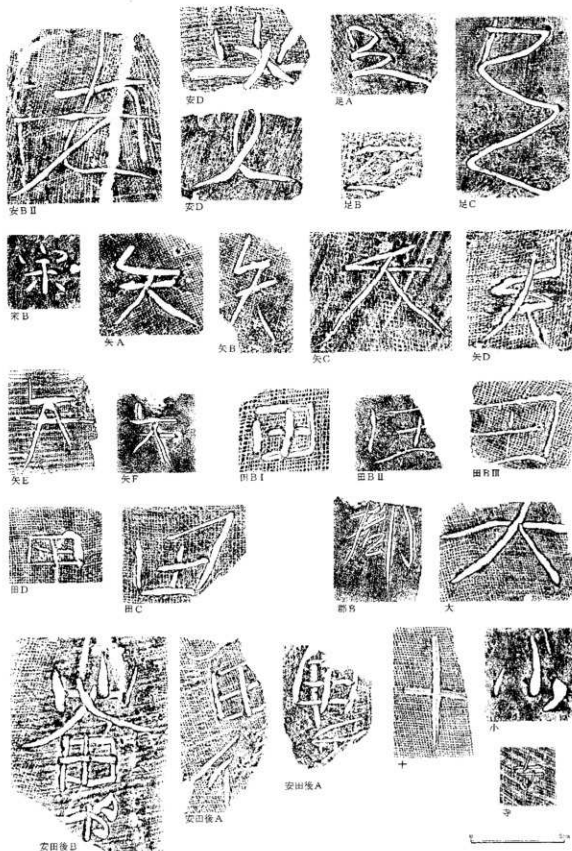


第100図 型押文字瓦分類図





第102図 ヘラ書き文字瓦分類図(2)



第103図 ヘラ書き文字瓦分類図(3)

第7表 国分尼寺出土の押印文字瓦出土地集計表

内容	文字	種類	総数	金堂	回廊	僧房	経藏	御蔵地	1次	2次	4次	7次	9次	10次	11次	12次	14次	
郡名	都可		1														1	
	安宗	II	2							1							1	
	足	安	III	4					3		1							
			IV	6	2				3								1	
			VII	1					1									
			VIII	10	1	1			7					1				
			IX	7	2		1		1	1	2							
			X I	1			1											
	宗			8					7					1				
		田	VI	6					2	2				1			1	
		矢		19	6	2			11									
		内	I	7	1				6									
	内		II	1	1													
		那瓦		7	3	1			1	1					1			
塩			1					1										
寺		II	1	1														
不	瓦		1					1										
	III		4		2			2										
	IV		7		1			2			1				1	1	1	
	V		3					2	1									
	VI		7		2			4			1							
	IX		2		1			1										
	不明		3			0		1	1		1							
小計		109	17	11	1	0	56	6	4	3	1	2	1	1	5	1		

第8表 国分尼寺出土押印文字瓦の押印位置・方向集計表

文字	総数	男 瓦						女 瓦						備 考			
		凹	凸	文字の向き				格子	縄	凹	凸	文字の向き					
				正位	側位	縦位	縦位					斜め	正位		側位	縦位	縦位
都可	1									1	1						
安宗II	2									1	1			1	1		
安III	4							4		4					4		
足IV	6		4			4		2		2		1			1		
足VII	1							1		1			1				
足VIII	10							10		10				3		7	
足IX	7		2			2		5		5				3			
足X I	1							1			1			1			
宗	8	2		1	1				2		2		1		1		
			4	2		1	1										
田VI	6		2			1	1		4		1				1		
矢	19		15	14		1			4		4		4				
内I	7	1		1					5		5				5		凹面「内」のへら書き
内II	1								1		1				1		
那瓦	7					1			7		6		1		5		
塩	1								1		1		1		1		
寺II	1								1		1				1		
瓦	1									1		1			1		
III	4								4		4			3	1		
IV	7								7		7			2		5	※
V	3								3		3			1		2	
VI	7								7		7			5		2	
IX	2								2		2					2	
不明	3								2		2						
小計	109	3	28	18	1	9	3		50	28	35	43	5	6	17	29	18

第9表 国分尼寺出土型押文字瓦出土地集計表

内容	文字	種類	総数	金堂	回廊	南門	鐘樓	僧房	経藏	佛龕	1次	2次	4次	5次	6次	7次	10次	11次	14次		
郡名	田	II	9						8		1										
		III	1						1												
	都	B	6	1	1	1		1	2												
		C	1		1																
	可		2						2												
		足	II	2			1			1											
	国分寺	瓦	II	2							1								1		
			I A	1								1									
		I B	3							1					1						
			7	1	5										1						
III		5		1				2				1							1		
IV		2					1											1			
V		3						1								2					
不明		2						1	1												
IV A		2						1		1											
IV B		14						1	4	3	4				1				1		
VII	1																				
寺	VIII	3						1					2								
	IX	3		1					2												
瓦		1											1								
小計		70	2	10	2		3	27	6	7	5	1	1	1	2	1	2	1			

第10表 国分尼寺出土型押文字瓦の位置・方向集計表

文字	総数	男瓦						女瓦						備考					
		間	凸	文字の向き				格子	溝	間	凸	文字の向き							
				正位	側位	横位	縦位					斜め	正位		側位	横位	縦位	斜め	不明
田II	9							9			9				3		6		
田III	1							1			1						1		
都B	6							6			6				6				
都C	1							1			1				1				
可	2							2			2								
足II	2							2			2						2		
国分寺II	2							2			2				2				
国分寺IA	1							1			1								
国分寺IB	3							3			3				1		2		
国分寺II	7							7			7						7		
国分寺III	5							5			5				3		2		
国分寺IV	2							2			2				2				
国分寺V	3							3			3				2				1
国分寺不明	2							2			2				1				1
寺IV A	2							2			2				2				
寺IV B	14							14			14				13		1		
寺VII	1							1			1				1				
寺VIII	3	1	1					2			2				1				1
寺IX	3							3			3				3				
瓦	1							1			1						1		
小計	70		1	1				69			69				44		22	3	

第11表 国分尼寺出土へら書き文字瓦出土地集計表(1)

内容	文字	種類	総数	金堂	回廊	南門	中門	鐘樓	僧房	経藏	佛龕	1次	2次	4次	5次	7次	9次	10次	11次	12次	
郡名	那	A I	2							1									1		
		A II	52	7	8		1	1	1		22	6	1				1	2		1	1
		B I	4		1						2					1					
		C	1										1								
		D	1											1							
		E	2							1		1									
		F	7	3						1		2									
		G	2	2																	
		H	1										1								
		不明	2										1								

第12表 国分尼寺出土へろ書き文字瓦出土地集計表(2)

内容	文字	種類	総数	金堂	回廊	南門	中門	鐘楼	僧房	経蔵	伽藍	1次	2次	4次	5次	7次	9次	10次	11次	12次	
郡名	塩	B	1																1		
		C	2								1									1	
		D	1							1											
	内	A	19	7	4						1	6						1			
		B	21	1	1					3	12	1	1					1		1	
		C	3								3										
		D	2	1							1										
		E	1	1																	
		F I	14		2						11										1
		F II	32	3	5						19	3							1		1
		G	4		1						3										
		H	1								1										
		I	3	1		1					1										
	不明	5		2						2	1										
	可	A I	14		1					1	10	1						1			
		A II	1	1																	
		B I b	2								2										
		D I	1									1									
		D II	3								3										
		F	1								1										
		G	1								1										
		H	4	3							1										
		不明	2									1			1						
	川	A	25	7	1						15		2								
		B	4								4										
		C	8	1	1					1	5										
		D	7	1	2						4										
E		9	1	2						4	2										
不明		7	1	1						2	2							1			
安		A I	1							1											
	A II	10	2	2						5	1										
	B	3								2										1	
	C	1											1								
	不明	4	1	1									1					1			
宋	B	1	1																		
	A	2								2											
	B	1		1																	
矢	C	5	1							3	1										
	A	20	1	2					1	13	1	1	1								
	B	3		1						2											
	C	2								1	1										
	D	2		1						1											
	E	3								3											
田	F	2							1	1											
	B I	11	5	2						1	1	2									
	B II	3							1	2											
	B III	2								1	1										
	C	16	3	1					1	9	1								1		
地名	D	1	1																		
	A	3								1		2									
その他	安田殿	B	1	1																	
	郡瓦		1							1											
	郡	B	2							2											
	生	不明	1		1																
	十	7	1						1	4							1				
	寺	1									1										
	大	2								2											
	小	1								1											
不明	99	5	7	1				1	1	45	12	8	5	1			6	4	3		
小計		484	64	51	2	1	1	1	17	2	243	39	20	7	2	1	13	7	8	6	



第13表 国分尼寺出土ヘラ書き文字瓦の位置・方向集計表(1)

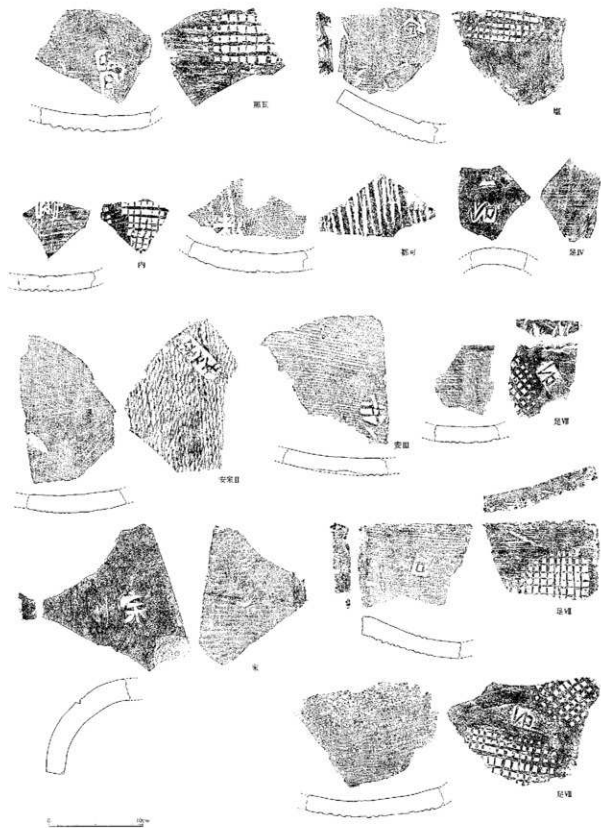
文字	総数	男瓦						女瓦						備考
		回	凸	文字の向き			格子	隅	回	凸	文字の向き			
				正位	例位	横位					縦位	正位	例位	
那A I	2		1		1		1		1				1	
那A II	52	15		3	8		4	36	36		8	6	15	7
那B I	4	2			1		1	2	2					2
那C	1							1	1		1			
那D	1							1	1				1	
那E	2		2				2							
那F	7	1			1			3	3				1	2
那G	2							2	2		1		1	
那H	1							1	1		1			
那不明	2	1					1	1	1					1
塩B	1	1					1							
塩C	2	1			1			1	1					1
塩D	1	1		1										
内A	19	2				1	1	17	17		5	8		4
内B	21	1			1			19	19		4	10		5
内C	3							3	3			1		2
内D	2							2	2		1			1
内E	1							1	1			1		
内F I	14		3	1			2	11	11		5	2		4
内F II	32	5		1	2		2	21	21		10	5		6
内G	4		6		4		2							
内H	1							4	4		3			1
内I	3	3			3			1	1			1		
内不明	5		1				1	4	4		2			2
可A I	14		7	2	2		3	7	7		3	1		3
可A II	1						1	1	1		1			
可B I b	2							2	2					2
可D I	1						1	1	1					1
可D II	3						3	3	3		1	1		1
可F	1						1	1	1					1
可G	1						1	1	1				1	
可H	4						4	4	4		2			2
可不明	2						2	2	2					2
川A	25	9		3	3		3	14	14		5	7		2
			2		1		1							
川B	4	2					2	1	1					1
									1	1			1	
川C	8	1					1	6	5					5
			1				1			1	1			
川D	7	3		2	1			3	3		2	1		
			1		1									
川E	9	3		3				5	5			2		3
			1				1							
川不明	7	1					1	4	4			2		2
			2				2							
安A I	1							1	1					1
安A II	10	1		1				8	8		4	2		2
			1				1							
安B	3	1					1	2	2		1			1
安C	1							1	1		1			
安D	1	1					1							
安不明	4		1	1				3	3					3
宋B	1		1	1										

第14表 国分尼寺出土ヘラ書き文字瓦の位置・方向集計表(2)

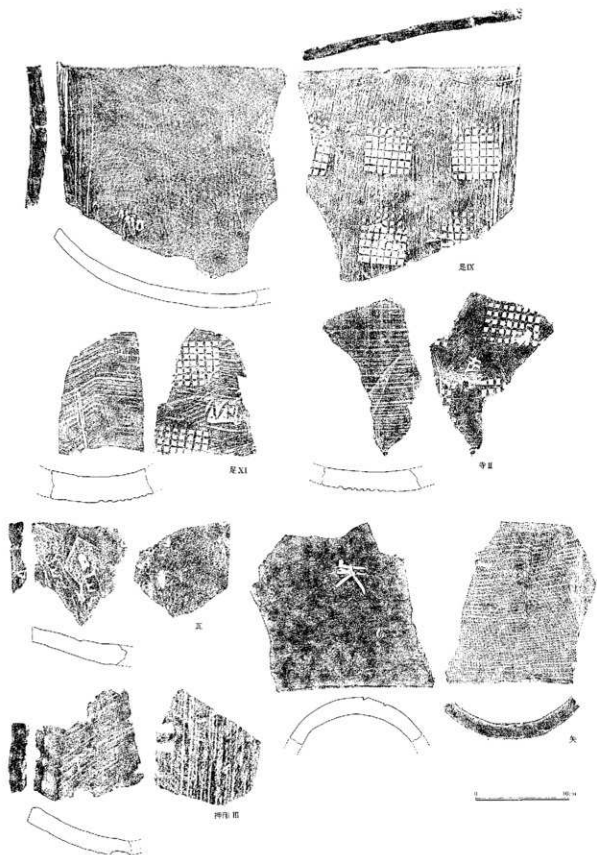
文字	総数	男瓦						女瓦						備考	
		回	凸	文字の向き			格子	調	間	凸	文字の向き				
				正位	側位	横位					正位	側位	横位		
足A	2		1		1			1		1				1	
足B	1							1		1				1	
足C	5	1						1	4	4			1	3	
矢A	20	2			2			16		16		2	3	1	10
矢B	3		2	2											
矢C	2							3		3		1		2	
矢D	2							2		2		1	1		
矢E	2	1		1				1		1				1	
矢F	3		1					1	2	2		2			
矢F	2		2					2							
田B I	11	2			2			7		7		3		3	1
田B II	3	1		1						2	2				2
田B III	2	1						1							
田C	16	2	1	1	1			13		13		2	2	9	
田D	1		1		1			1		1		1			
安田後A	3							3		3				3	
安田後B	1	1		1											
郡瓦	1							1		1				1	
郡B	2		1	1				1		1				1	
生不明	1		1		1										
十	7	3			2			1	3	2		1		1	1
寺	1	1						1							
大	2	2						2							
小	1		1					1							
不明	99	21						67		66	1				
不明			9						2	2					
小計	484	93	58	28	42	3	48	328	5	330	3	73	60	24	107

は僧房で1点、型押文字瓦は僧房で3点と南門で2点、ヘラ書き文字瓦は中門・南門で各1点、僧房で17点確認された。この数の違いは、建物規模に比例しているが、僧房は発掘調査の結果、掘立柱建物であることから、講堂も含む可能性を指摘しておきたい。

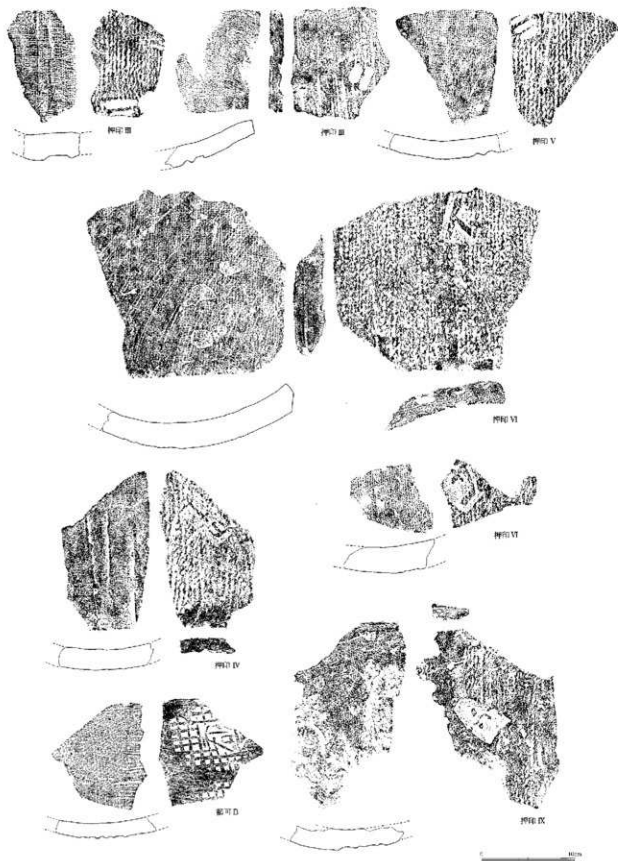
金堂からは、押印文字瓦で足利・梁田・河内・那須の郡名が確認できる。型押文字瓦は少なくて、都賀郡のみである。ヘラ書き文字瓦は那須・河内・都賀・寒川・安蘇・足利・梁田の7郡の郡名があり、広汎に亘っている。回廊では押印文字瓦は足利郡と梁田郡のみ、型押文字瓦は都賀郡のみであるが、ヘラ書き文字瓦は那須・河内・都賀・寒川・安蘇・足利・梁田郡の7郡が確認できた。このため、建物による郡名の偏差は確認できない。このことは比較的数の多いヘラ書きの「那」が金堂で12点、回廊9点、ヘラ書き「内」では金堂14点、回廊は15点確認された。ヘラ書き「川」は金堂で11点、回廊で7点、ヘラ書き「矢」は金堂で1点、回廊で4点、ヘラ書き「田」は金堂で9点、回廊3点、で、「矢」と「田」を合わせて梁田郡は金堂で10点、回廊で7点である。このように、数の最も多い郡名瓦でも金堂・回廊で大きな郡名の偏差は窺えない。この事実から、郡毎に貢進した瓦は使う堂宇が分けられていなかったことが判明する。このことは、国分寺と尼寺における郡名比率の違いと関連する。



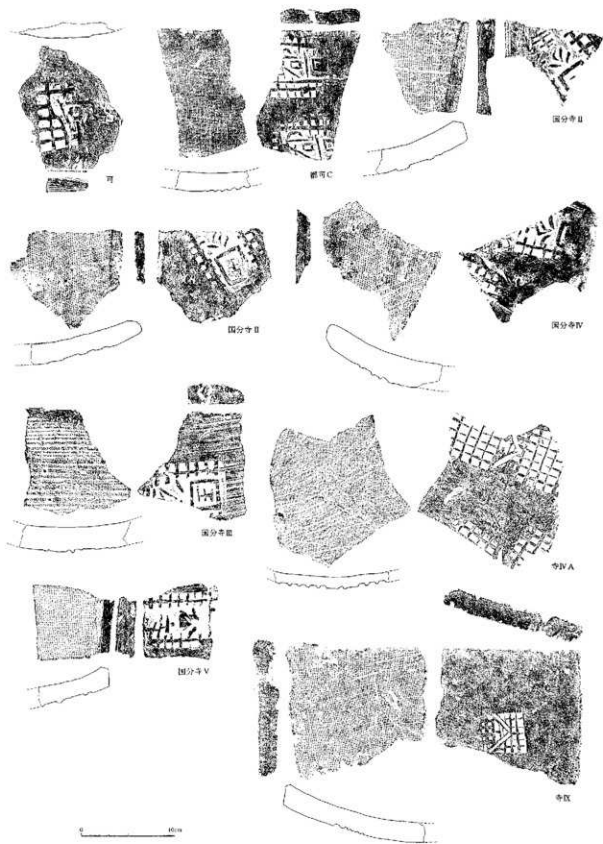
第104圖 文字瓦実測圖(1)



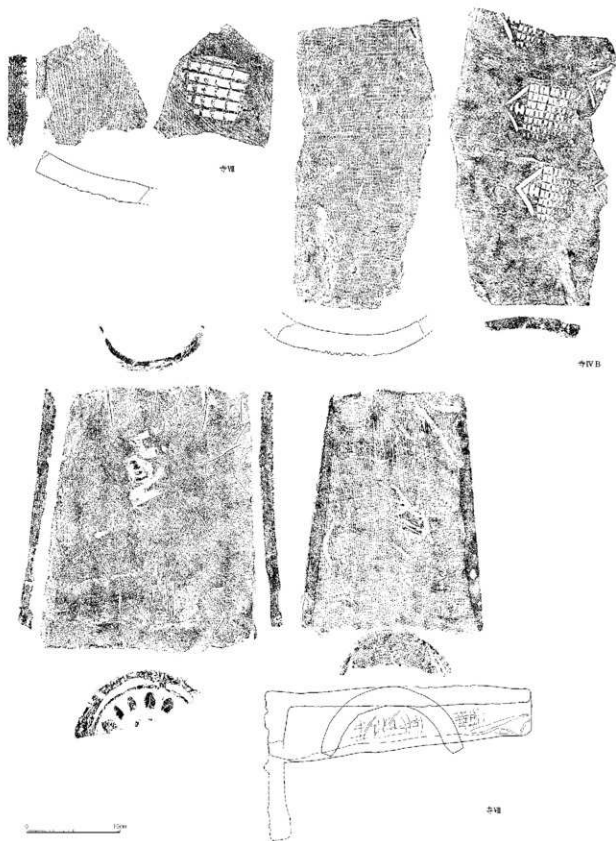
第105図 文字瓦実測図(2)



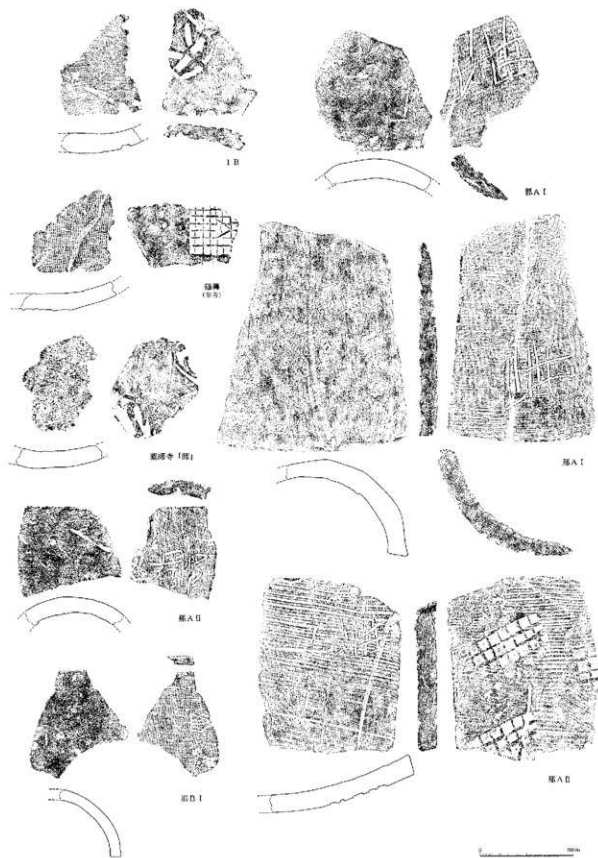
第 106 圖 文字瓦実測図 (3)



第107圖 文字瓦実測圖(4)

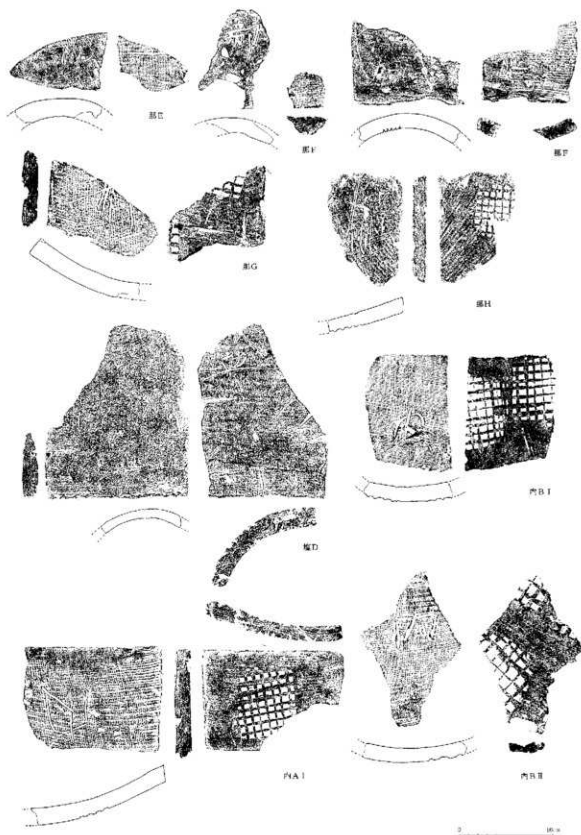


第108圖 文字瓦実測圖(5)

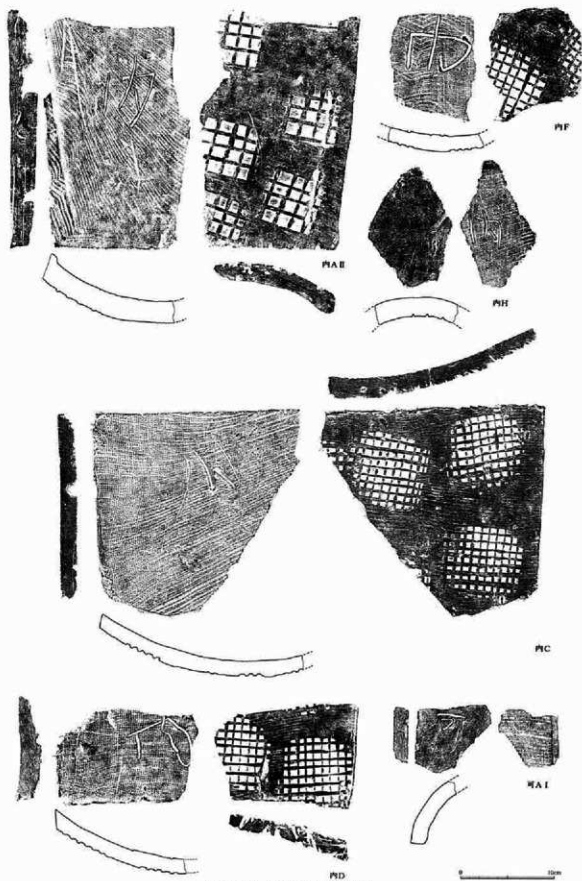


第109図 文字瓦実測図(6)

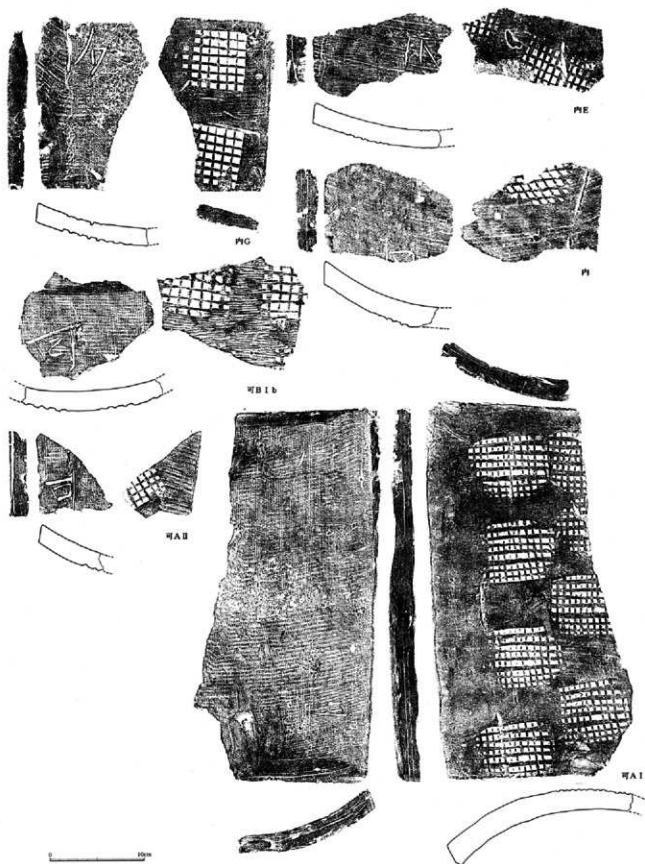




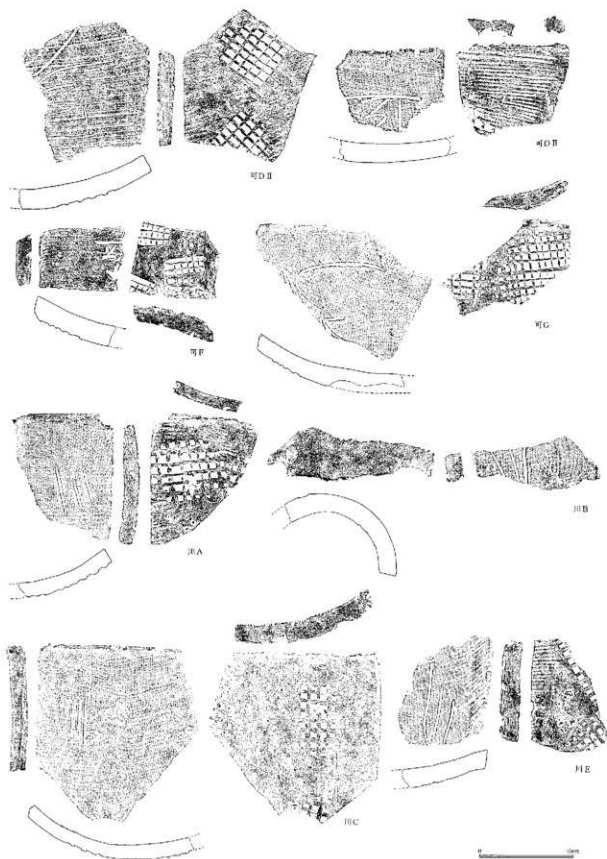
第110圖 文字瓦実測圖(7)



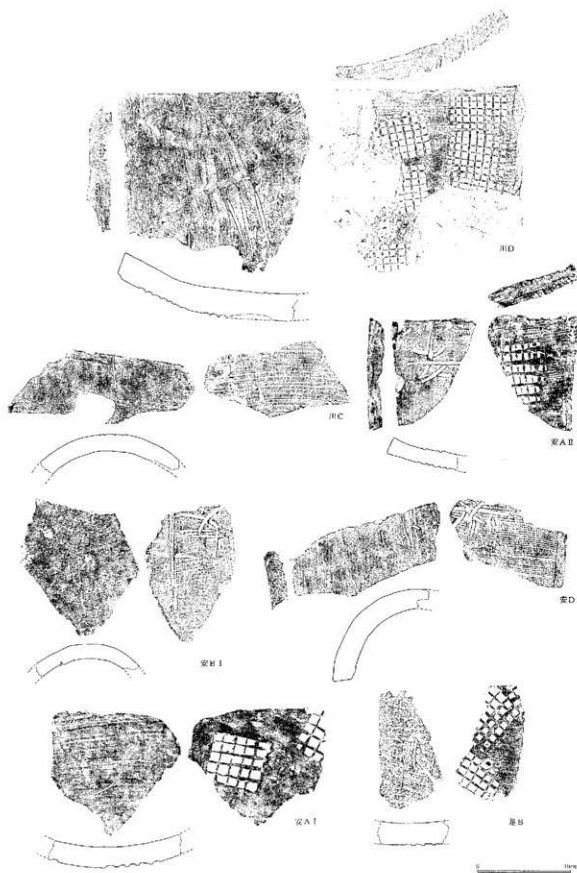
第111図 文字瓦実測図(8)



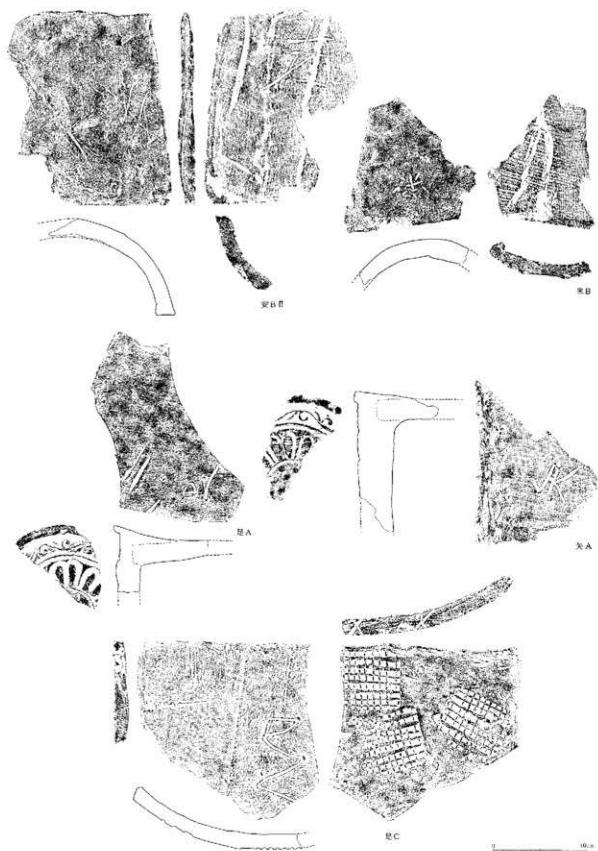
第112圖 文字瓦実測圖(9)



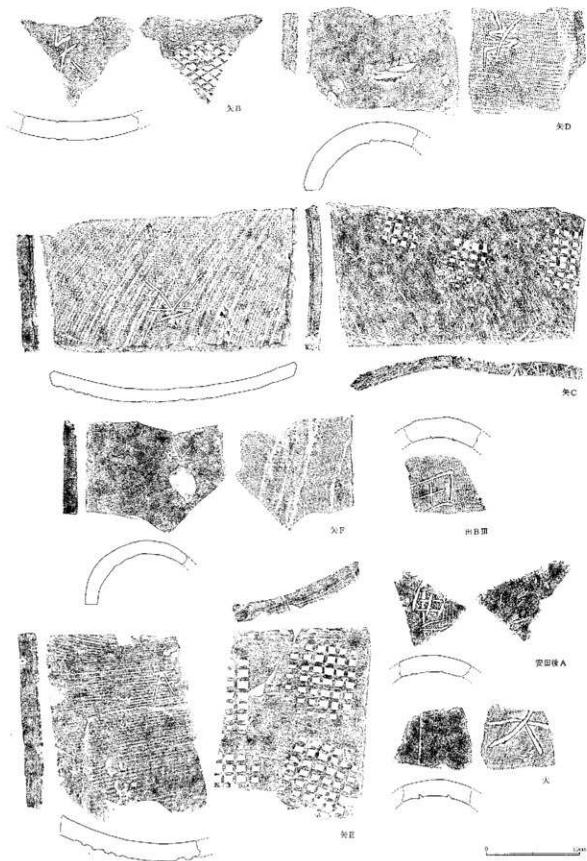
第113図 文字瓦実測図(10)



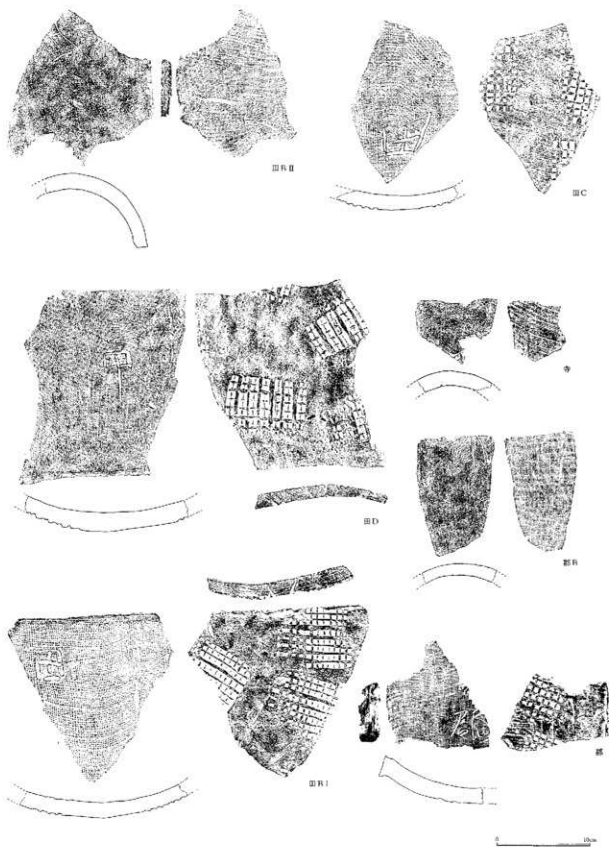
第114圖 文字瓦実測圖(11)



第115図 文字瓦実測図(12)

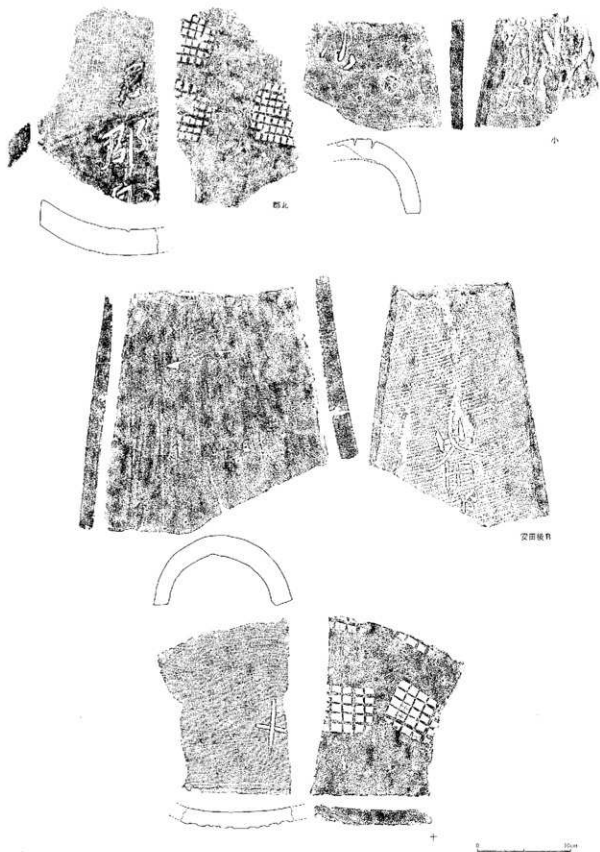


第116圖 文字瓦実測圖(13)



第117図 文字瓦実測図(14)





第118圖 文字瓦実測図(15)

### 第3節 土器・陶器・金属製品等

尼寺の調査の結果、土師器・須恵器・灰軸陶器などの多種の土器類と鉄製品などが出土した。このうち、土師器・須恵器・灰軸陶器については、後述のように編年的な検討を行うこととし、本節では、その他の特徴のある遺物について、その出土傾向などをまとめておきたい。

#### (1) 伽藍地出土土器（第142・143図、第15表、図版四二・四三）

ここでは、伽藍地内から出土した土器等を建物毎に説明していく。

#### 金堂

金堂基壇及びその周囲から出土したものを提示した。1はロクロを使用する以前の丸底の土師器坏で、創建期の所産である。2～10はロクロ使用の土師器坏で、器高が3cm前後まで低くなっている。3～5は口径10cm程で、これらが金堂の機能した最終期の土器とみられ、10世紀中葉頃になる。灯明に使用され、ターールの付着する土器が多く確認された。11・12は体部外面に削りを施し、19は内面中央に朱墨が付く転用碗である。

#### 回廊

主に東西の回廊と金堂取り付け部付近などから出土した土器である。灰軸陶器を含め時的に幅があり、土器編年の2期（1・4）から3期（2・3）、灰軸陶器も黒笹14号窯式から大原2号窯式まで存在する。2は常陸の新治窯産で、尼寺の伽藍地内でも他国産の須恵器が使用されていた事例になる。

#### 中門

2点を図化した。2の鉄鉢形土器は西回廊トレンチ拡張部からも出土したものである。この鉄鉢形土器は胎土から宇都宮窯産で、宇都宮産鉄鉢形の消費地を解明する資料となる。

#### 経蔵

3期の土師器坏を図化できた。4は小型で、内面にターールが厚く付く灯明の専用器である。灯明のターールは1・2でも確認された。

#### 僧房

僧房跡のトレンチなどから出たものから36点を図化した。時的には幅があり、須恵器では1期（1～3）、2期（10・12）、3期（4）、4期（5～9）までに及ぶ。土師器は23が小型化しており、金堂出土の最終期の土器と同じ時期の所産で、10世紀中葉になる。28は内面黒色処理の鉄鉢形土器片、29は南那須窯産の可能性のある高盤で、高台に方形の透かしを設けている。稀少な器種であるが、内面にターールが付いており、最終的には灯明用になっている。30・35は盤の可能性のある破片で、大型品とみられる。34は軟質で内外面に緑釉を塗る壺の口縁部である。36は逆位で「法」と書かれており、寺名の頭文字であろう。

#### 南門

南門に係わるトレンチなどから出土した5点を図化した。1は丸底の土師器坏で創建期の所産になり、3の灰軸陶器は折戸53号窯式と判断される。4・5は胴部外面に回転のハケ目（カキ目）を施す土師器甕で、本県では稀有な資料である。

#### 東門

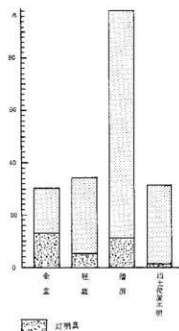
発掘調査では東門は発見されていないが、その想定地付近から出土したものであろう。2点の灰軸陶器は黒笹90号窯式になる。

#### 伽藍地内

时期的に幅のある土器を図化できた。6は黒笹90号窯式、7は浜松市宮川窯産と考えられる。8は泥塔の相輪部の破片である。

#### (2) 伽藍地出土灯明具 (第119・142・143図、図版四二・四三)

伽藍地内からは坏類の内外面にタールの付着する灯明具が30点出土した。その出土地は金堂13点、経藏5点、僧房11点、出土地不明1点である。点数では金堂・僧房で多く出土したが、出土した土器片数に占める灯明具の割合は、金堂が格段に高かった。その割合は、金堂13点/30点(43%)、経藏5点/34点(15%)、僧房11点/98点(11%)であった。僧房に比べて金堂では約4倍の灯明を付けていたことになる。国分寺では、執り行う様々な法会や夜間には灯明を付けていた(註2、P184)。金堂で燈明具が多い理由には、夜間の常燈や法会による燃燈が挙げられるであろう。僧房の灯明具は、尼僧の生活に係わるものであろうか。



第119図 伽藍地出土土器破片数と灯明具の比率

#### (3) 墨書土器・刻書土器 (第120～123・125～129・131・133～137・139～141・143図、図版二九～三五・三七・三八・四〇～四三)

尼寺の範囲確認調査で出土した墨書土器の文字は、以下のとおりである。守カ(第1次S I-114)・国(第1次S I-125・第11次S I-698・第1次S D-112)・大万(第1次S I-125)・川(第2次S I-307)・南吉(第2次S I-307)・花(第2次S I-378)・百(第4次S I-439)・缶(則天文字・第11次S I-686)・千万カ(第11次S I-698・第1次S X-169)・古(第11次S I-698)・万(第11次S I-698)・法華寺(第11次S I-698)・上(第14次S I-849・第1次S K-156)・法カ(第4次S D-140)・足(第7次S D-550)・子カ(第10次S D-6708)・子目(第11次S D-265)・罌(第11次S D-265)・富(第11次S D-550)・曲(第11次S D-800)・千口(第1次S K-156)・言(第1次S K-156)・大口(第11次S X-805)・本(第1次調査区)・口上(第1次調査区)

これらのうち、寺名と関わる「法華寺」やその頭文字である「法」、職名の可能性もある「守」、「国」なども本遺跡の特徴的な墨書である。しかし、国分寺で確認できた寺院内の院名などは発見されなかった。則天文字や異体文字も確認できるが、「南吉」や「千万」・「万」など一般の集落でしばしばみられる墨書と同じ文字も存在する。この他にも、人面墨書土器の可能性のあるものが第2次調査区の遺構外から出ており、目と眉毛であろうか。

墨書土器の時期は、10世紀代のもも少数存在するが、大半は9世紀中葉から後半である。この時期の国分尼寺の墨書が、集落の様相に類似するという点を確認することができた。

焼成前の刻書土器としては、「御願」と書かれた須恵器甕が第9次調査区の遺構外から出土した。焼成前であることから窯場で記載されたものであり、特注品であろう。

#### (4) 製塩土器 (第121～123・126～129・135・139・140図、図版二九・三〇・三四)

尼寺の堅穴住居跡などから多数の製塩土器片が確認された。出土した遺構を列挙すれば、第2次S I-239・251・307、第5次S I-496、第7次S I-560、第11次S I-680・696・698、第11次S D-330、第1次S X-169である。これらは、大半が9世紀中葉から後葉の所産と判断される。このため、8世紀後

半と10世紀代の製塩土器は発見されなかった。いずれも小破片であり、口径を復元できるものは少ないが、第1次SX-169出土の土器は口径10.4cmに復元され、筒形の器形になるであろう。また、口縁部の多くは甍で削ることのないものであり、平鉢形の製塩土器は口縁部を水平に削るものが多いことからすれば、本遺跡で出土した多くは筒形の製塩土器であったと推定することができる。

胎土には白色針状物を含むが、実測図番号で第2次SI-239の25・27、第2次SI-307の86、第11次SD-330の4、第1次SX-169の10では金色雲母を確認することができた。

福島県いわき市域の製塩土器には、小茶田遺跡出土品のように、胎土に金色雲母を含んでいる。また、この遺跡の製塩土器の口縁部はやや肥厚する特徴をもつ。国分尼寺出土の製塩土器で口縁部の肥厚するものは少ないが、胎土の特徴から金色雲母を含む一群は、いわき市域産の製塩土器と推定しておきたい。それ以外は、茨城県日立市域などのものと推定される。しかし、茨城県内における他の地域の製塩土器の実態が不明のために、今後の調査の進展で産地推定の変更もありうる。

このように、製塩土器の産地構成比では多くが常陸産で、いわき市周辺産が少数入っていたということが理解できる。製塩土器以外での塩の搬入方法もあったと推測されるが、遺物から判断できる塩の産地は地理的要因に起因して常陸からのものが多かったと考えられる。

(5) 遠隔地搬入時（灰軸陶器・緑軸陶器以外）（第120・127・130図、図版二九・三四）

灰軸陶器・緑軸陶器以外で、遠隔地からの搬入品を挙げておく。白磁碗が第7次SI-566から、統一新羅土器の蓋は第14次SI-844から、群馬産土師器は第10次SA-300から出土した。白磁碗は玉縁口縁で、9世紀第4四半期の堅六住居跡から出た。統一新羅土器の蓋は、黒笹90号窯式の新しい段階から折戸53号窯式の古い段階の灰軸陶器と共に出ていることから、9世紀末から10世紀初頭の所産と判断することができる。

所謂北武蔵型坏は掘立柱塼の柱抜き取り痕から出土した。塼は9世紀中葉まで存在していたと考えられる。

(6) 硯（第127・132・140図）

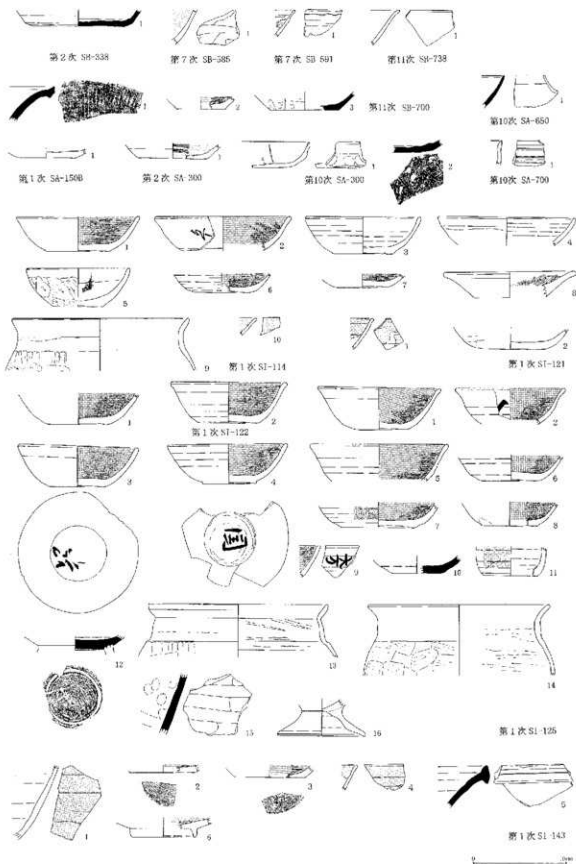
須恵器甕の胴部片を転用した硯がある。この転用硯は第7次SI-588・第1次SD-204で出ているが、円面硯や風字硯は確認できなかった。第2次調査区から出た須恵器坏には底部に朱が付く破片が確認できた。軒瓦の頸裏面には朱がしばしばみられるが、朱付着土器が少ないことから、土器以外の容器に貯めて塗ったことが推測される。

(7) 土鍾（第121・133・137・140図）

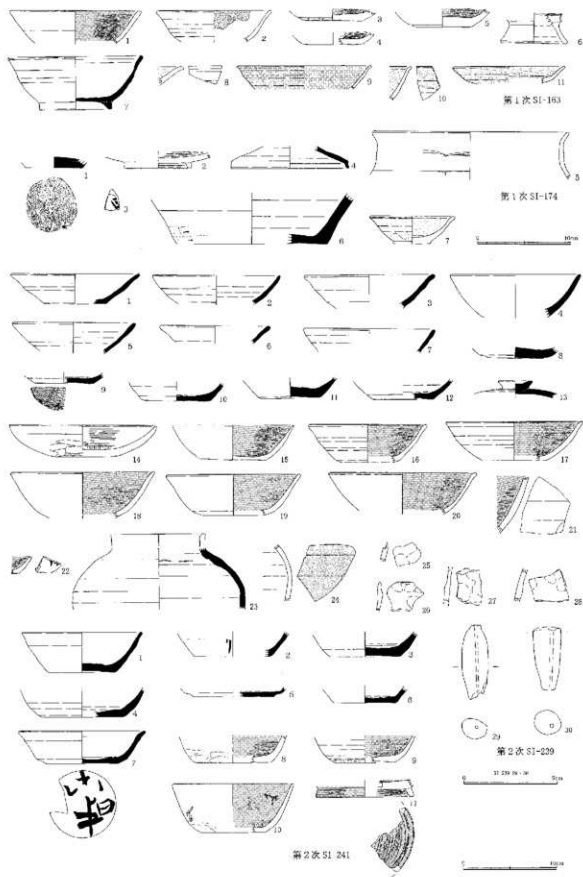
8点確認できた。集落と同じ程度に出ていることは、寺の西に思川、東に姿川が流れており、漁撈場に近いことにも起因するであろう。時期の判明するのは第2次SI-239のみで、9世紀第4四半期の所産になる。いずれも管状土鍾で、寺院経済を解明する一助になるであろう。

(8) 鉄製品（第144～148図、図版四三～四六）

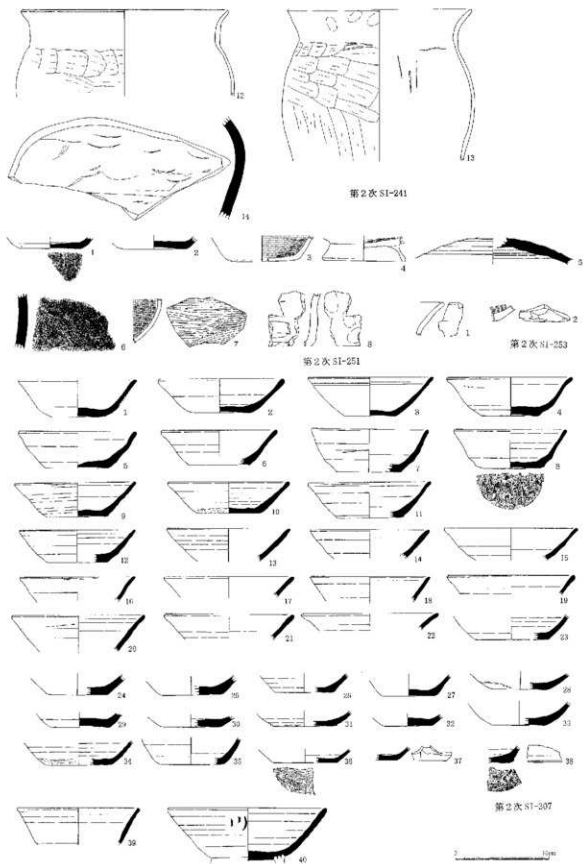
伽藍地の周辺部から釘が多数発見された。以前の調査で金堂の基壇と周辺において出土した釘に比べて、伽藍地・寺院地外周付近で今回発見された釘は細く短いものが大半である。このため、今回出土した釘の多くは建築の主要部位で使用するものではないと推定される。以下、主な製品について説明していく。



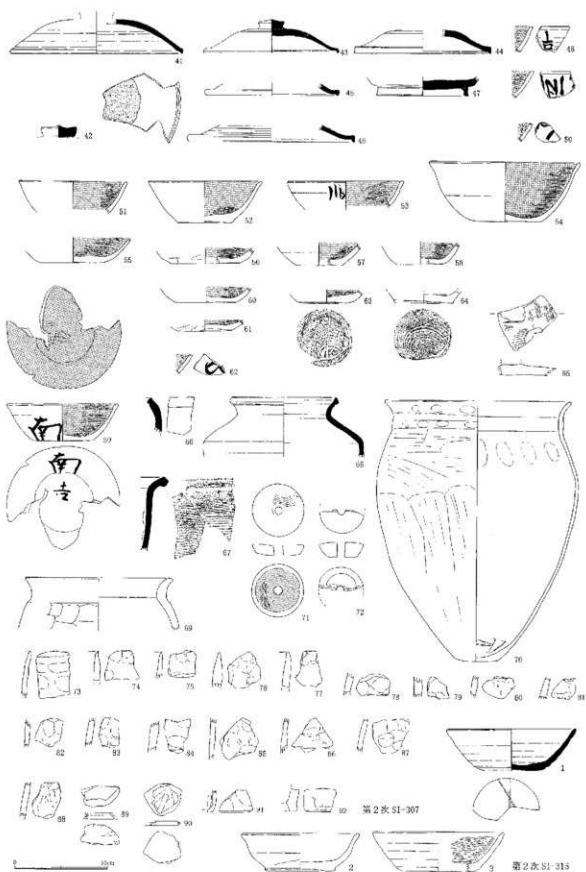
第120圖 土器・陶器等実測図 (1) 一獨立柱建物跡・竈跡・竪穴住居跡出土 (1) ~ (12) -



第121図 土器・陶器等実測図(2)

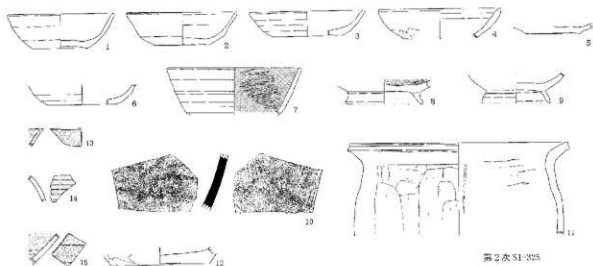


第122圖 土器・陶器等実測図(3)

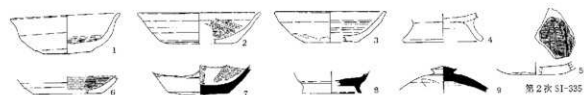


第123図 土器・陶器等実測図(4)

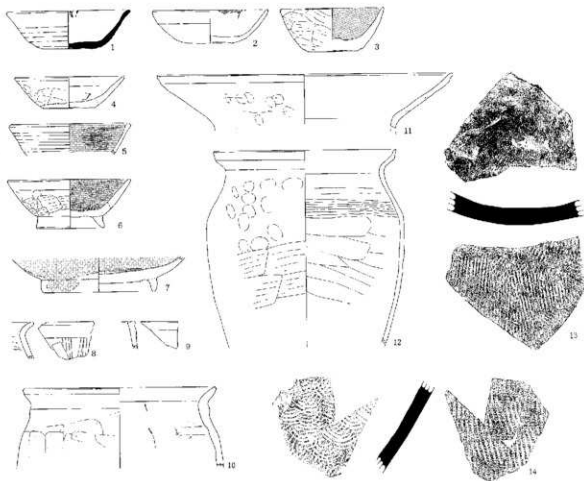




第2次 S1-325



第2次 S1-335

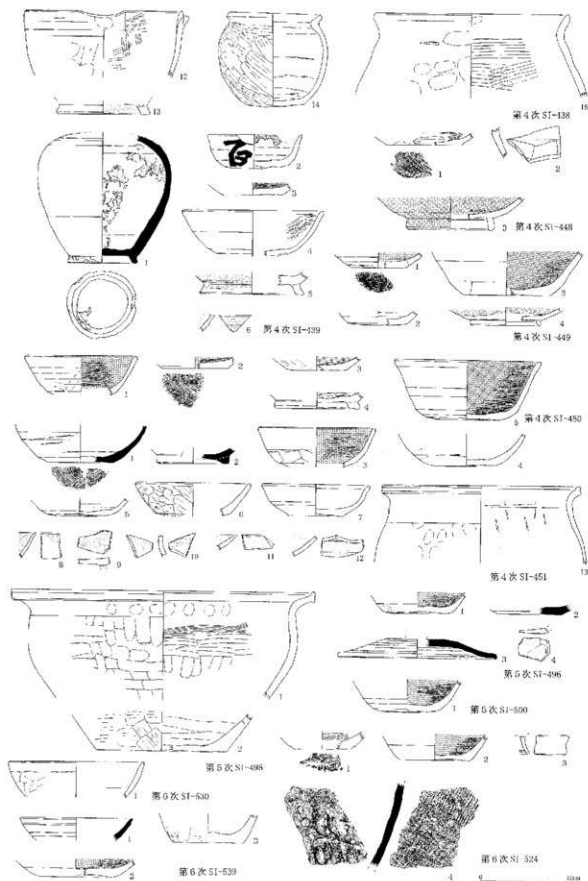


第2次 S1-338

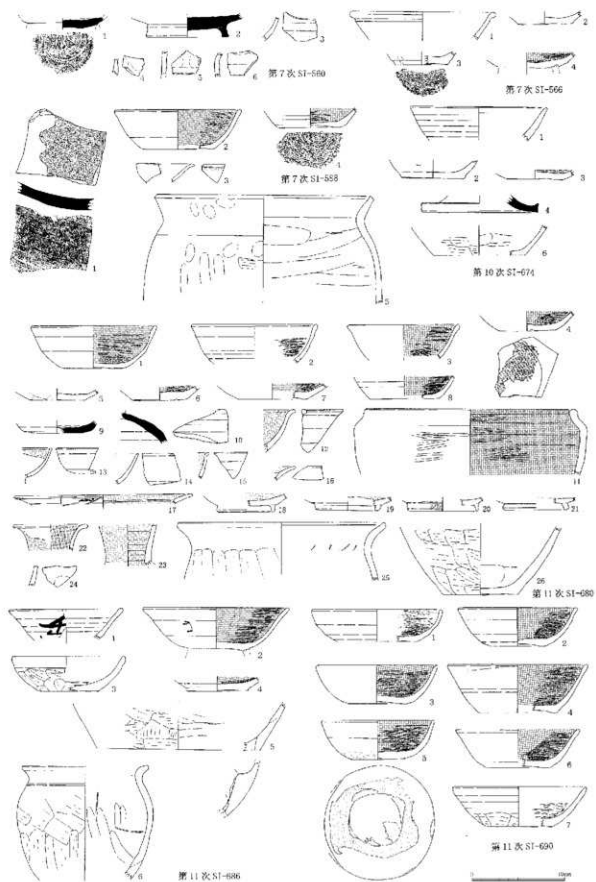
第124圖 土器・陶器等実測図(5)



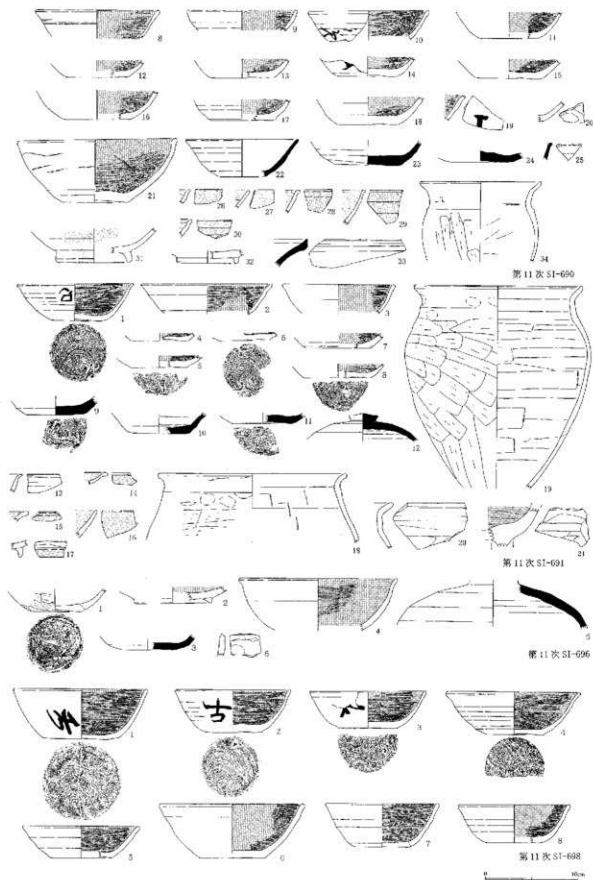
第125図 土器・陶器等実測図(6)



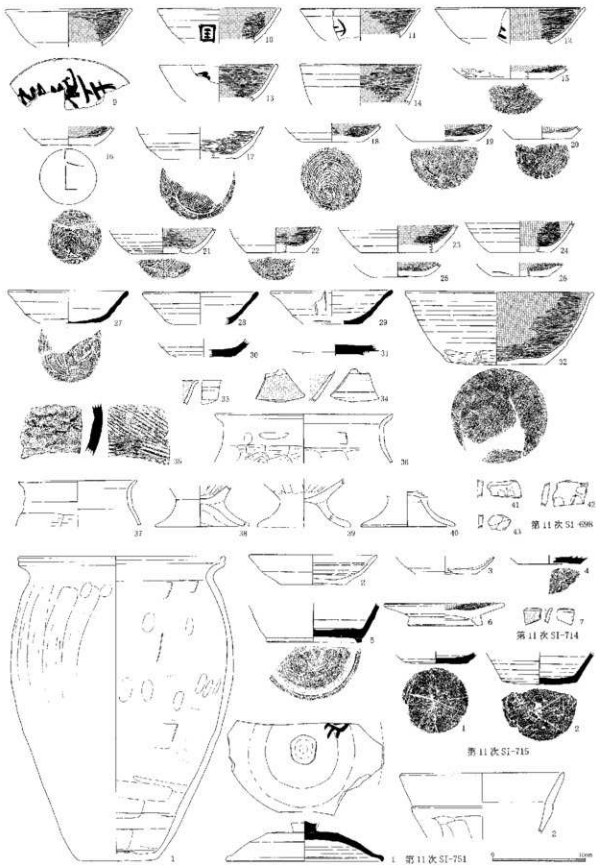
第126圖 土器・陶器等実測圖(7)



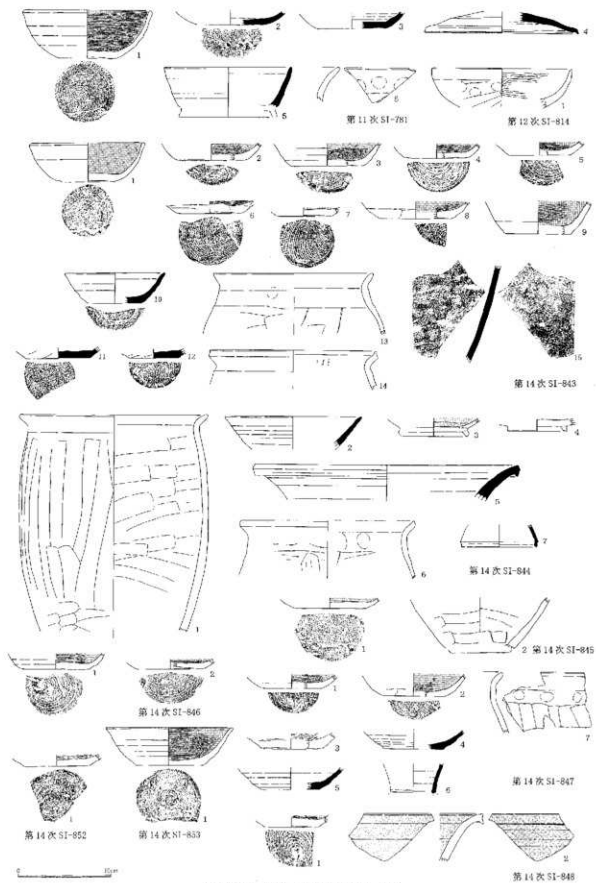
第127図 土器・陶器等実測図(8)



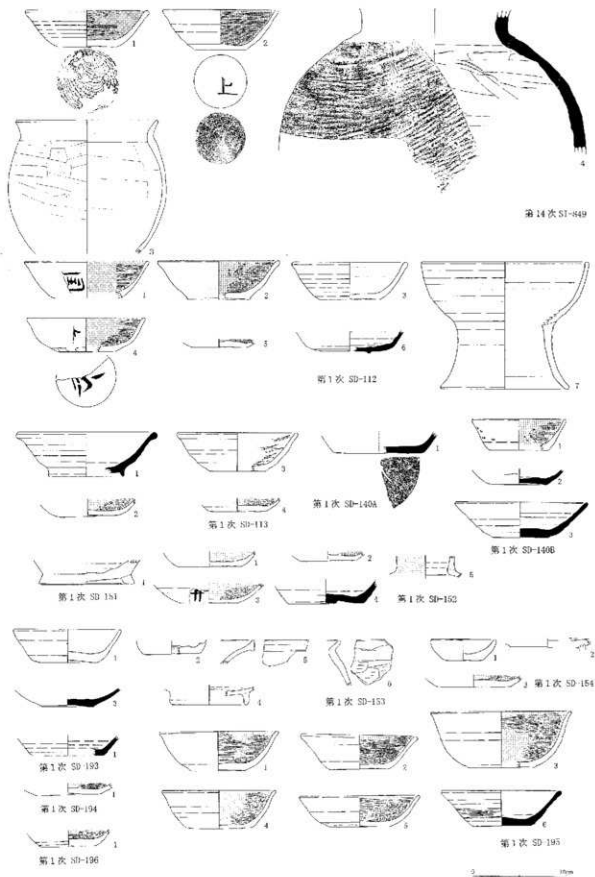
第128圖 土器・陶器等実測図(9)



第129図 土器・陶器等実測図(10)

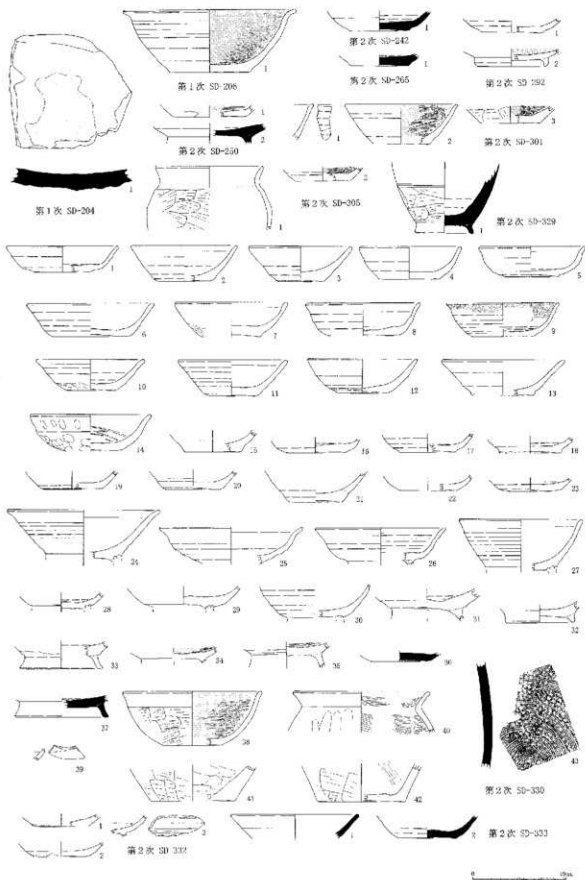


第130圖 土器・陶器等実測図(11)

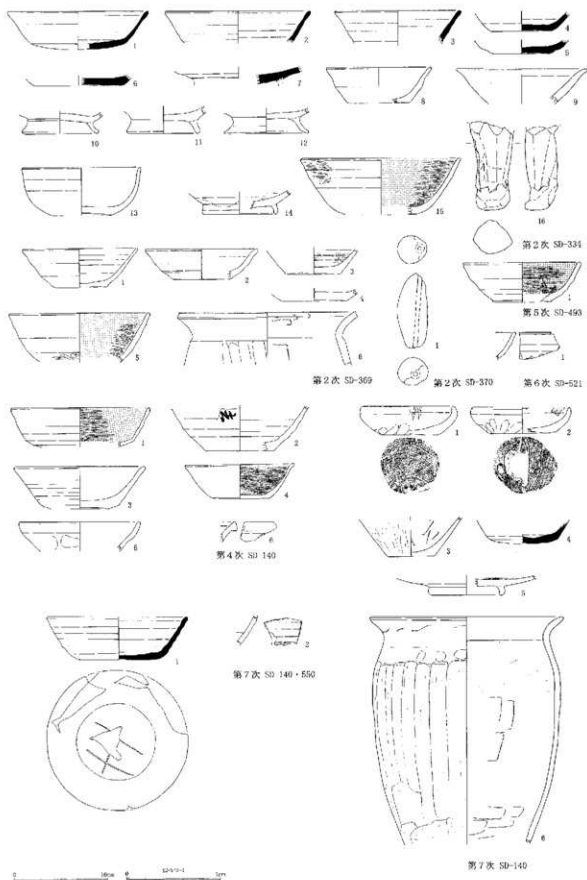


第131図 土器・陶器等実測図(12) —清跡出土(12)～(17)—

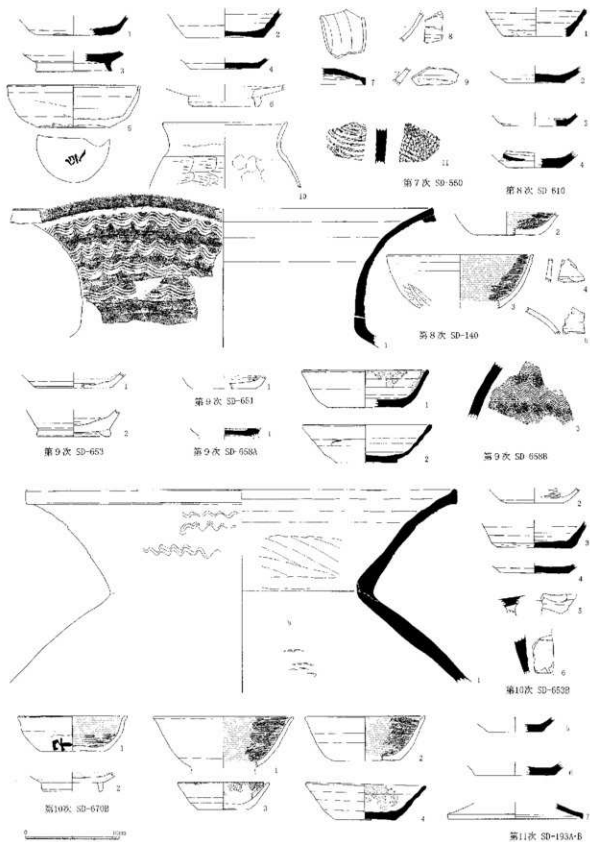




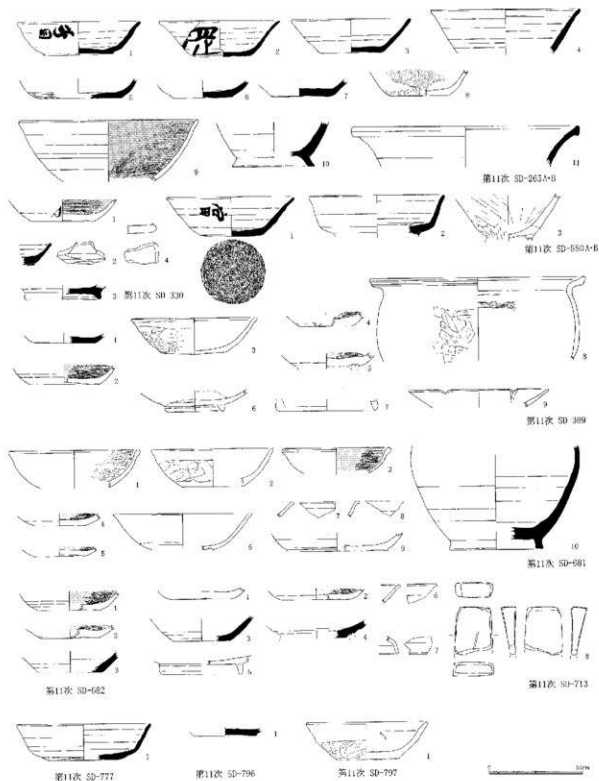
第132圖 土器・陶器等実測図(13)



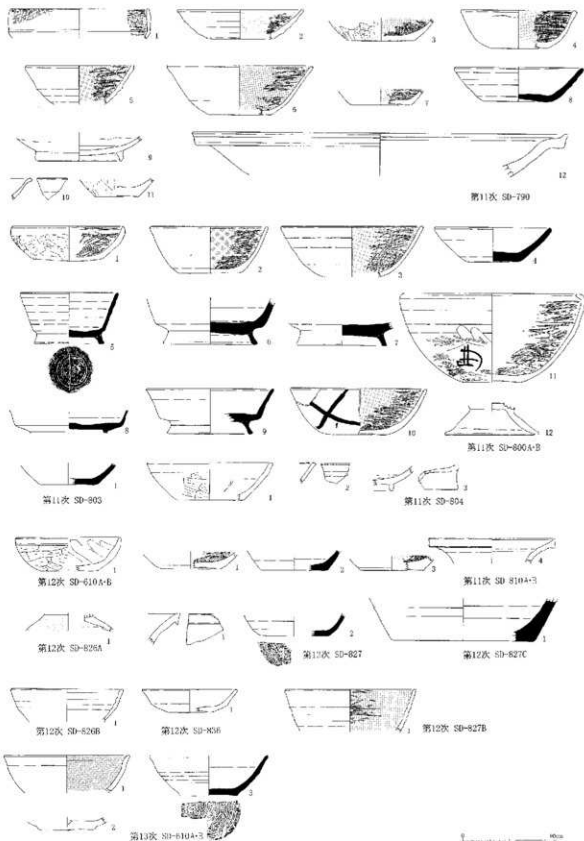
第133図 土器・陶器等実測図(14)



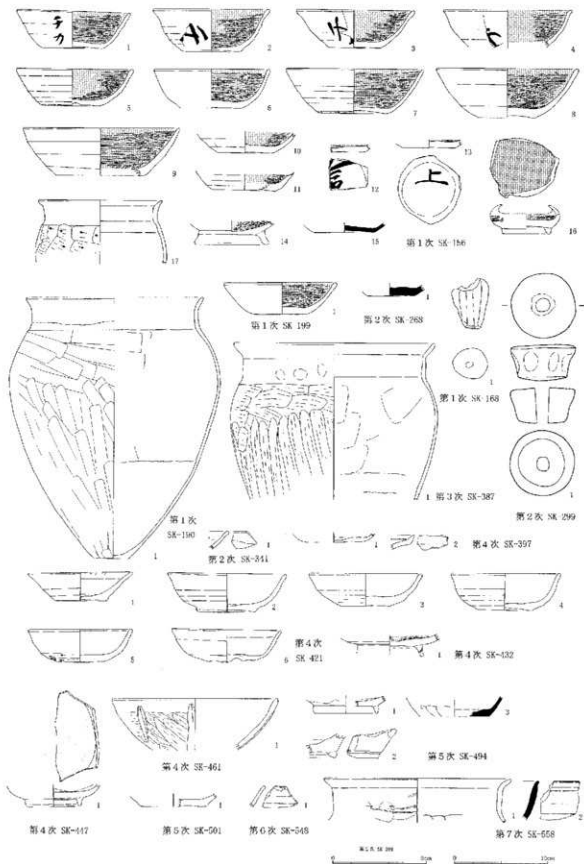
第134圖 土器・陶器等実測図(15)



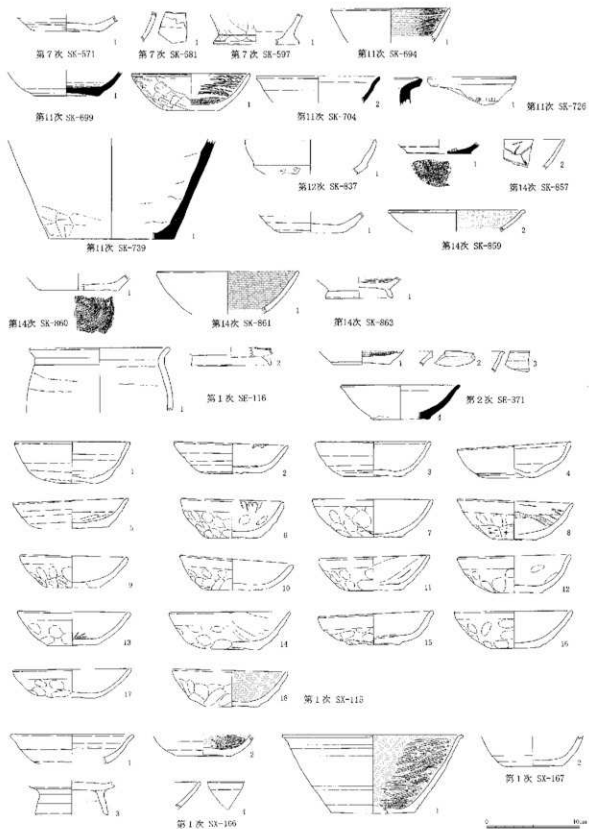
第135図 土器・陶器等実測図(16)



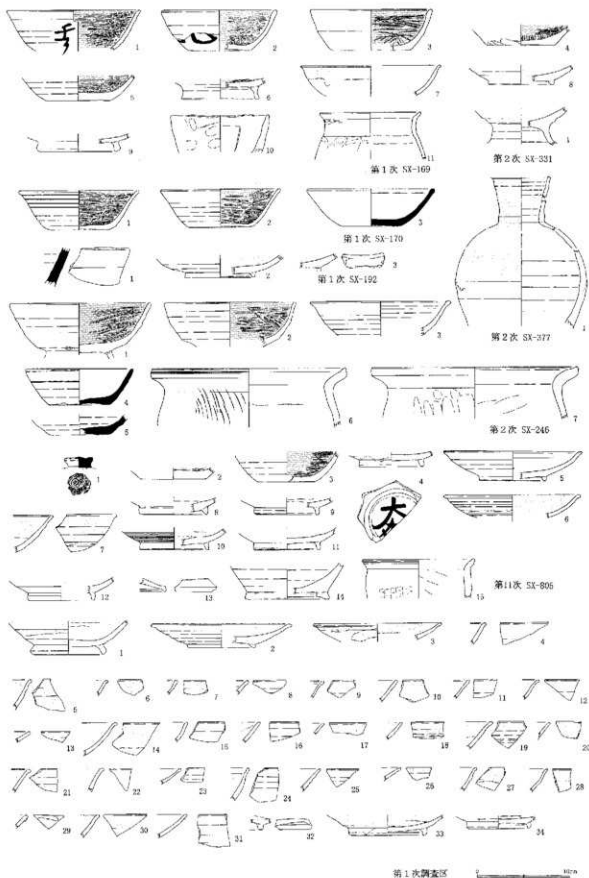
第136圖 土器・陶器等実測図(17)



第137図 土器・陶器等実測図 (18) 一土坑・井戸跡・性格不明遺構出土 (18) ~ (20) -

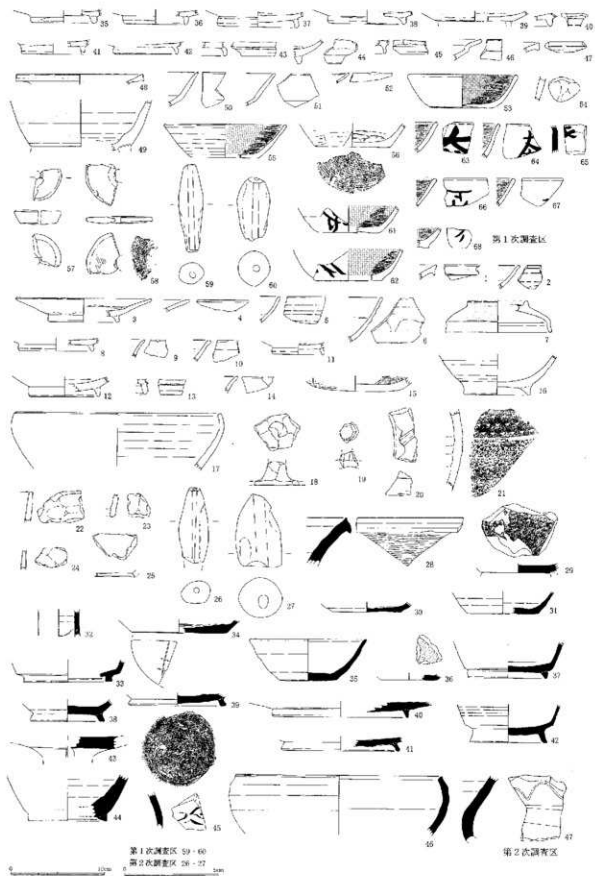


第138圖 土器・陶器等実測図(19)

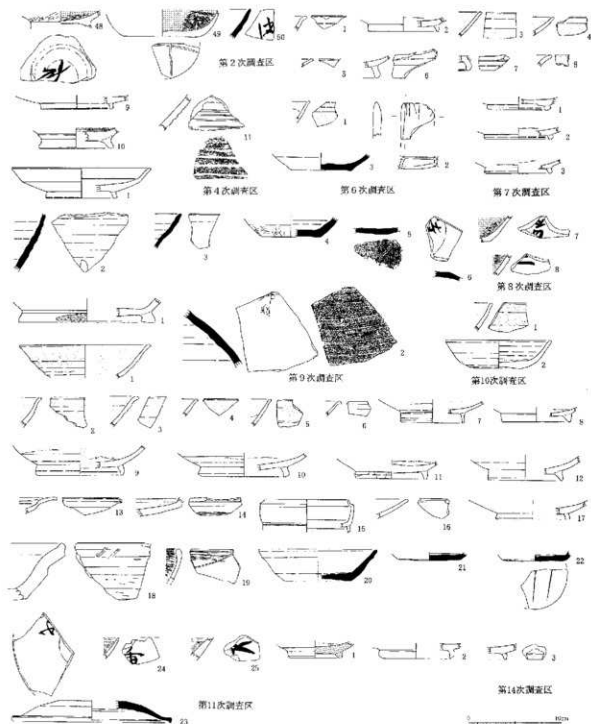


第139図 土器・陶器等実測図 (20) —道橋外出土 (20) ~ (22) —



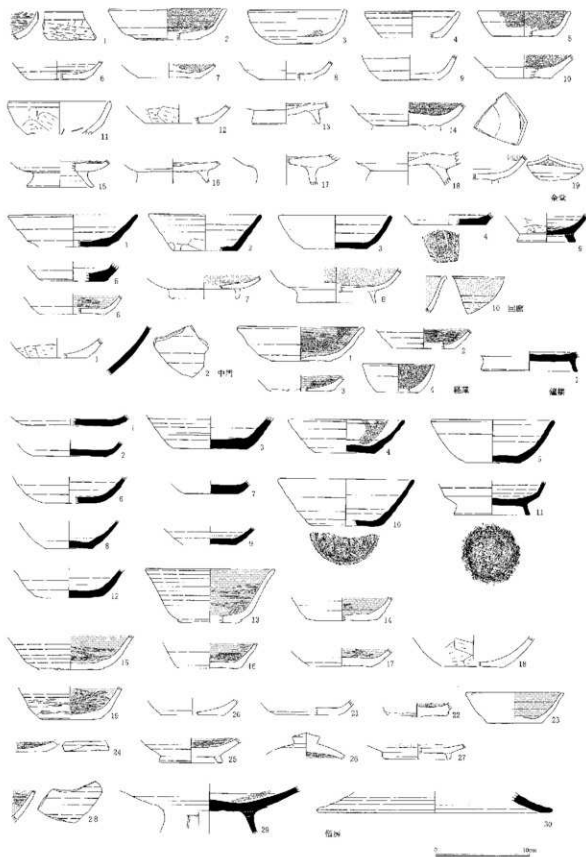


第140圖 土器・陶器等実測図(21)

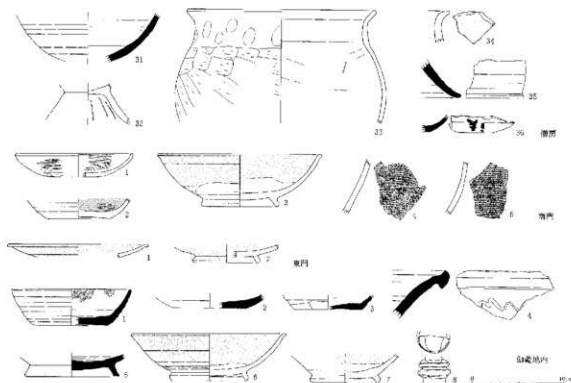


第141図 土器・陶器等実測図(22)

第1次S B-700からは匙面を折り曲げた鉄製匙が出た。図中左側は開いた推定図である。S I-122から出た小札にはキメがあり、札幌からも7世紀代のものか、鍛冶場に故鉄として集積したものであろう。第2次S I-307では鍛冶滓が出たことから、この付近に鍛冶遺構があると予想される。また、同住居跡から出た鉄製品の破片も使用後のものが多くて、故鉄の可能性はある。第2次S I-325では釘が多数出土したが、束ねられた釘には曲がったものも存在しており、使用後の釘であろう。1の釘は太くて金堂出土品に類似する。第14次S I-844から出た釘は頭を折っていないもので、製品に仕上げた後の未使用品である。近くに



第142圖 土器・陶器等実測図 (23) 一伽藍地内 (23)・(24) -



第143図 土器・陶器等実測図(24)

第1次S1-112の鍛冶遺構があることから、寺院地東側で生産したものであろう。第1次SD-152からは鋳造の鉄鍋が出ており、共伴した出土土器から9世紀後半の所産と考えられる。第2次SK-268のものは、L字形をした同一製品の可能性がある。鉄製紡鐘車は2点出土した。第6次SK-540の紡鐘車は軸棒のみであるが、太さ1mm程の太い糸が付着しており、材質は太さからみても麻糸か苧麻であろうか。第1次調査区から出た木製鍛の吊金具(1)は、レントゲン写真でも釘を打った孔が確認されなかった。鍛の鳩胸側の破片で、鍛に留める前の製品の可能性がある。未使用品であることから、伽藍地東側で生産した鉄製品とみられ、寺院内で必要な馬具を生産していたことになる。

生業に関わる遺物としては、鎌は2点確認されたが、点数が少ないことも寺院の特徴である。

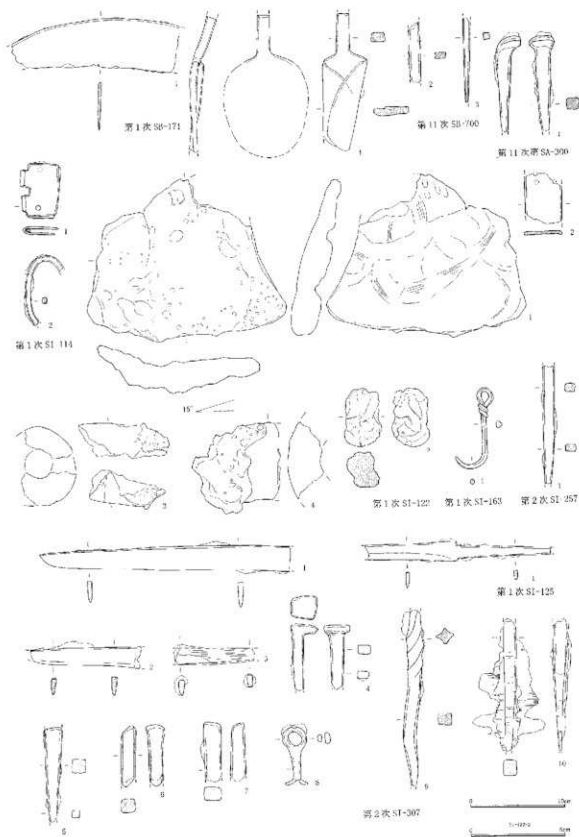
(9) 銅製品(第148図、図版四四・四六)

第1次調査区から出た棒状の製品は短軸断面が管状である。第2次SD-369の板状の金銅製品は國中上端を折り曲げており、調度品などの一部であろうか。

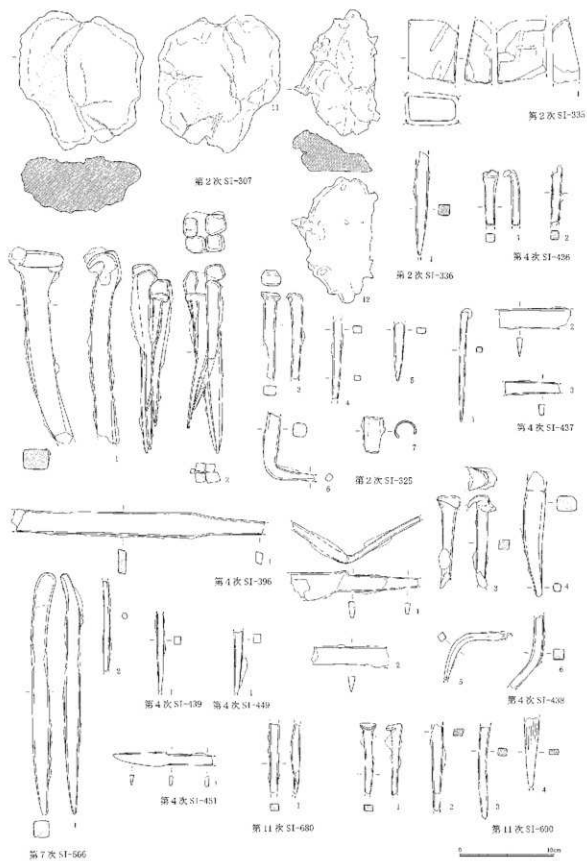
註

1 国分寺報告(大橋1997)では那Aについて、「那」字の左のつくりの横面二本を後に引くAⅠと横面よりも先に縦面を引くAⅡに分類しているが、同じことであり、再分類した。

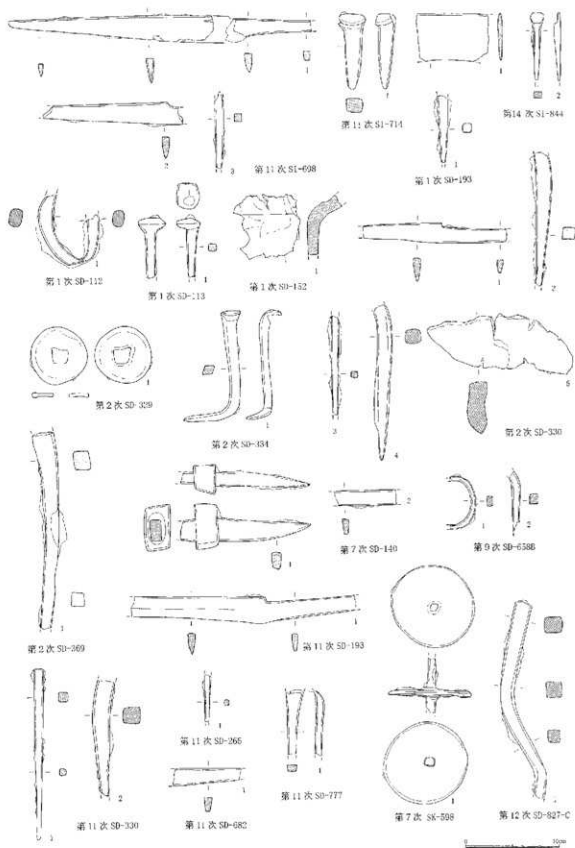
2 『延喜式蕃寮式』布施条では、国分二寺では出挙の利権で燈油を買い、夜間燃灯し、経費を税使に附して官に申し送る規定になっていた。



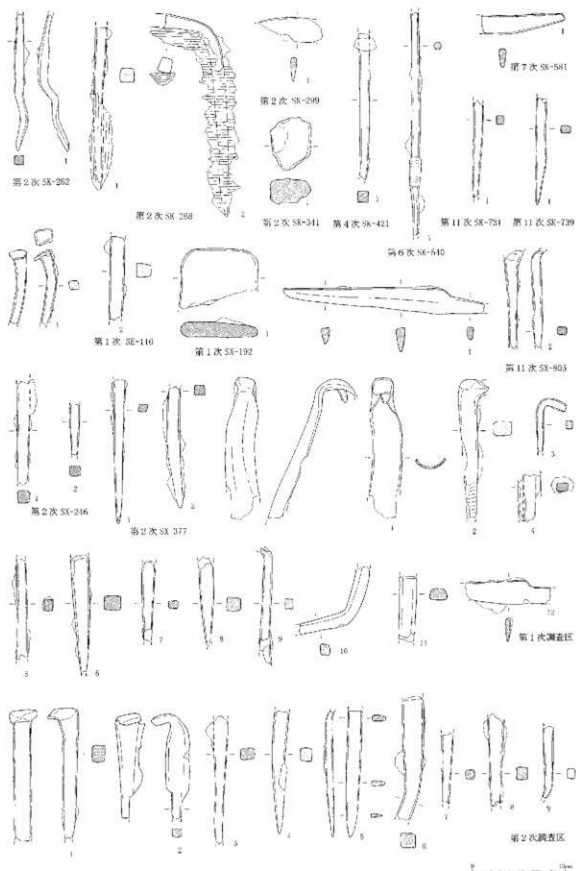
第144圖 鉄製品等実測図(1)



第145図 鉄製品等実測図(2)

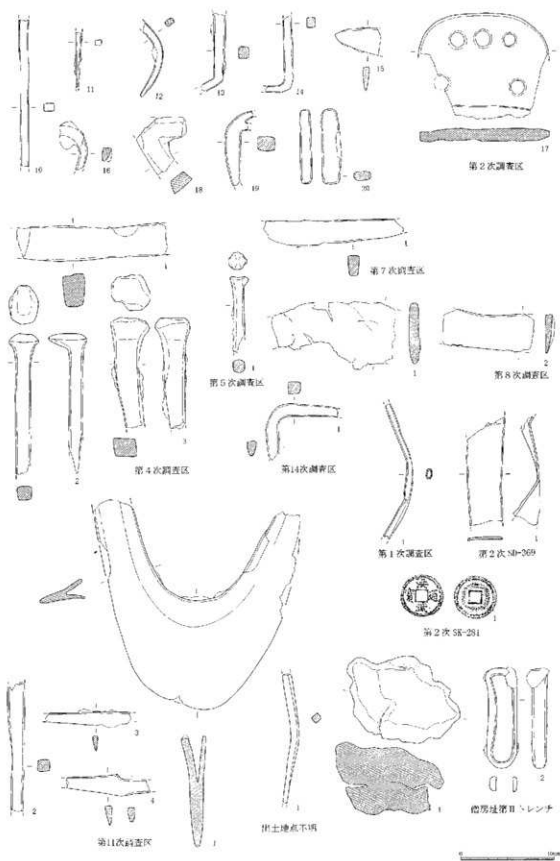


第146圖 鉄製品等実測圖(3)



第147図 鉄製品等実測図(4)





第148図 鉄製品等実測図(5)

## 第15表 土器・陶器等観察表

## 第2次調査区

SB-338

番号 種類	大きさ (高さ) (横元)	特 徴	色 調	粘土・構成 (または素材)	出土状態 保存状態 注・記
1 重志器 杯	底 9.80	内外面ロクロナデ。底部全面彫刻ヘラズリ。南端不明。	内 96.0灰 外 2.517/1灰白	白色・黒色炭粉多。灰・白色細粒・白色斜状物少。	体～底部 1/6 西側 柱 8期 土面

## 第7次調査区

SB-585

1 土師器 杯		内面黒色処理痕・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。一部ナデ。	内 2.512/1黒 外 2.5186.6橙	黒色・白色・透明炭粉少。良好。	体部一部 南東隅柱A 断面方 埋土土面
------------	--	-----------------------------	---------------------------	-----------------	------------------------

SB-591

1 土師器 杯		内面ヘラミガキ。外面ロクロナデ。	内 2.512/1黒 外 2.5186.6橙	白色炭粉・灰色細粒・赤褐色少。良好。	口縁部一部 西側柱列南第3柱断面 埋土土面
------------	--	------------------	---------------------------	--------------------	-----------------------------

## 第11次調査区

SB-700

1 重志器 盤		断面外面平行切き後。内外面ロクロナデ。三和泥。	内 8972/4に深い黄褐色 外 #	白色炭粉・細粒多。褐色炭粉。良好。	口縁部 1.8 北東柱列 西第2柱 # 断面方埋土中
2 土師器 杯	底 5.50	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部 回転未切り。	内 528/2灰白 外 523/1オリーブ黒	黒色・黒色細粒。良好。	底部 1/4 北西側柱列 埋土土面
3 重志器 杯	底 7.20	外面手持りヘラズリ。底部一方ヘラズリ。内 面ロクロナデ。三和泥。	内 8975/4に深い黄褐色 外 8975/3に深い黄褐色	白色炭粉・細粒多。良好。	底部 1/4 北端持柱 柱抜きの上

SB-738

1 灰釉陶器 碗		内外面灰釉施す。ハケ塗り。断面90号形式。	内 2.516/2灰オリーブ 外 #	黒色細粒。良好。	口縁部一部 西側柱列南第2柱 抜取埋土中
-------------	--	-----------------------	-----------------------	----------	----------------------------

## 第1次調査区

SA-150B

1 土師器 杯	底 4.2	内面ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部手持りヘ ラズリ。	内 2.5185.6明赤褐色 外 2.512/1黒	赤色粒。黒色細粒少。良好。	底部 1/2 北第1柱断面埋土中
------------	-------	--------------------------------	------------------------------	---------------	---------------------

## 第2次調査区

SA-300

1 土師器 杯	底 7.20	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部 回転未切り。	内 2.512/1黒 外 8972/3に深い黄褐色	黒色炭粉多。透明炭粉・赤褐色 細粒少。良好。	体～底部 1/4 東第1柱抜取
------------	--------	-----------------------------------	------------------------------	---------------------------	--------------------

## 第10次調査区

SA-300

1 土師器 杯	口 11.00 底 6.80 高さ 3.6	内面ヘラミガキ後ロクロナデ。外面ロクロナデ。体部へ 端に押入れあり。底部ヘラズリ。北式腹型。	内 2.5186.6橙 外 #	透明・黒色炭粉多。赤褐色 細粒少。褐色炭粉少。良好。	口縁～底部一部 西第1柱断面北西側 埋土土面
2 重志器 杯		内面ロクロナデ。底部ヘラズリ。丸底である。 二森産か。	内 2.517/2灰黄 外 #	赤褐色粒少。黒色炭粉多。良好。	底部一部 西第1柱 断面北西側埋取埋土 中

SA-650

1 重志器 杯		内外面ロクロナデ。二森産。	内 528/1灰白 外 #	黒色炭粉多。褐色細粒少。良好。	口縁部一部 北第1柱土面
------------	--	---------------	------------------	-----------------	-----------------

SA-700

1 土師器 杯		内外面ロクロナデ。外面は2段状になっている。	内 8972/4に深い黄褐色 外 2.5187.6橙	褐色細粒少。良好。	口縁～体部一部 58-747 2層
------------	--	------------------------	-------------------------------	-----------	----------------------

## 第1次調査区

SI-114

1 土師器 杯	口 11.00 底 6.80 高さ 3.6	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理のみ底部 一方。体部縦方向ミガキ。底部回転未切り。	内 2.512/1黒 外 2.528/1灰白	黒色・灰色細粒多。赤褐色 白色細粒少。やや良。	5cm 口縁～底部 1/3 No.45
2 土師器 杯	口 14.20	内外面ロクロナデ。内面黒色処理。斜方向ミガキ。 体部外面に壺蓋あり。「守」少。	内 82/0黒 外 2.528/2灰白	灰色・黒色細粒多。白色細 粒少。良好。	32cm 口縁～体部 1/12 No.14
3 土師器 杯	口 12.00 底 4.6 高さ 3.9	内面～体部外面ロクロナデ。底部外面回転未切り。 断面未切り。	内 2.528/2灰黄 外 2.517/2灰黄	黒色炭粉多。白色細粒・白色斜状 物少。良好。	16cm 口縁～体部 1/6 断面方埋土中
4 土師器 杯	口 14.40	内外面ロクロナデ。体部外面に粘土接合痕あり。内 面口縁部に外黒褐色。	内 528/2 黒褐色 外 2.5185/3に深い黄褐色	黒色細粒多。赤褐色細粒多。白色細粒多。良 好。	16cm, 30cm 口縁～体部 1/4 No.2.9
5 土師器 杯	口 10.9 底 5.2 高さ 4.1	内面～口縁部外面ロクロナデ。体部外面に凹凸調整。 一部ナデあり。体部中位・下位は左方ヘラズリ。 断面斜方向ナデ。内面にスリキ。右明肌。	内 528/2 黒褐色 外 2.5185.6明赤褐色	灰色炭粉多。白色細粒多。白色 赤褐色粒少。良好。	20cm 口縁部 1/3 欠損 No.11, 3層
6 土師器 杯	底 6.00	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理。底部不 定方向。体部縦方向ミガキ。	内 528/2 黒褐色 外 2.5187.6橙	灰色・赤褐色細粒少。黒色・透 明細粒少。良好。	10cm 体部 1層～底部 埋土土面
7 土師器 杯	底 5.60	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理。底部一 方向のみ。体部縦方向ミガキ。底部回転未切り。内 面磨料し。使用痕度高い。	内 2.5182/1 黒 外 2.5186.6 橙	褐色粒少。白色細粒微。 良好。	8cm 底部 2/5 No.42

第1次調査区

SI-114

8. 土器部 高台付椀	口 (13.8)	内外面ロクロナデのうち、内面一方向へのミガキ。高台貼付けら、(新漆)	内 2.5184/3 黒 外 2.517/4 にぶい黄褐色	黒色・灰色細粒多、白色細粒少、褐色粒数。良好。	16cm 口縁部 1/5 No.22
9. 土器部 壺	口 (18.8)	口縁部コナナデ。外面に押圧痕。粘土接合痕あり。縦筋・土曜山1方向へミガキ。	内 10187/4 にぶい黄褐色 外 10186/6 黒	黒色細粒やや多、透明・白色粒少、良好。	23cm 口縁部 1/4 No. 29 上
10. 灰釉陶器 椀		内外面ロクロナデ。灰釉やや厚く施す。黒径 90 号蓋式。	内 10176/2 オリーブ灰 外 #	白色細粒数。良好。	口縁部一部 上面

SI-121

1. 灰釉陶器 盆		内外面ロクロナデ。灰釉ハケ塗り。寛亨1号蓋式に入型2号蓋式。	内 2.518/1 灰白 外 2.517/1 灰白	黒色粒数。良好。	口縁部一部 上面
2. 土器部 甕	底 7.0	器壁は割れており、往法不明確。体部外面積方向へミガキ。平底化した土器ロクロの可能性がある。	内 10175/1 黒灰 外 10187/6 明黄褐色	黒色細粒多、灰色細粒やや多、白色細粒やや少、褐色粒数。不良。	体部下位 1/2 底面完 存

SI-122

1. 土器部 杯	底 6.6	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理・底面一方向へ体積積方向ミガキ。底面外面回転未切り。	内 2.5172/1 黒 外 2.518/2 灰白	黒色細粒多、白色・赤褐色細粒数。良好。	体部下半 1/4 底面完 存 上面
2. 土器部 杯	口 (12.2) 底 4.3 高 6.4	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理。底面一方向、体積積方向ミガキ。底面外面回転未切り。	内 2.5184/2 灰黒 外 2.5186/6 黒	黒色・白色細粒やや少、白色・赤褐色細粒数。良好。	口縁～体部下 1/3 底面 1/2 上面

SI-125

1. 土器部 杯	口 (12.9) 底 4.2 高 4.7	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理のら底面格子状のミガキ。体積積方向ミガキ。底面外面回転未切り。	内 10182/2 黒 外 10188/4 浅黄褐色	黒色細粒多、褐色粒やや多、褐色粗粒・灰褐色粒。やや良好。	口～体部下半 1/3 底面 ～体部下半完 存 3層下
2. 土器部 杯	口 (11.6)	内外面ロクロナデ。内面黒色処理・ヘラミガキ。体部外面に塗墨あり。	内 2.512/1 黒 外 2.5186/6 黒	褐色粒やや多、白色粒・黒色細粒少、黒色粗粒。良好。	口縁～体部下半 1/3 2層、4層
3. 土器部 杯	口 12.6 底 6.0 高 4.5	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理のら底面一方向、体積積方向ミガキ。(ミガキ粗い)。底面外面回転未切り。塗墨あり。	内 102/0 黒 外 10188/3 浅黄褐色	黒色・灰色細粒やや多、褐色・透明粒少。良好。	口縁 4/5 体～底面完 存
4. 土器部 杯	口 (12.6) 底 5.5 高 4.2	内面～体部外面ロクロナデ。底面外面回転未切り。塗墨あり。「足」か。内面磨耗しており使用痕や や高い。	内 101/5 灰 外 10188/2 灰白	黒色細粒多、白色細粒少、やや少。	口縁～体部 1/3 底面完 存 上面、3層、5層
5. 土器部 杯	口 (14.4)	内外面ロクロナデ。内面黒色処理・ヘラミガキ。使用痕高い。	内 2.512/1 黒 外 2.518/2 灰白	黒色細粒多、白色細粒少、赤褐色粒数。不良。	口縁部 1.6 2層
6. 土器部 杯	底 6.0	内外面ロクロナデの内面黒色処理。底面一方向、体積積方向へミガキ。底面外面回転未切り。黒灰あり。	内 2.512/1 黒 外 2.5187/6 黒	黒色細粒やや多、透明・白色細粒少、赤褐色細粒数。良好。	体部下半 2/3 底面完 存 3層、5層
7. 土器部 杯	底 (7.8)	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理・ミガキ。底面外面回転未切り。体部外面にケムル付着。内面磨耗。	内 2.512/0 黒 外 10184/2 灰黄褐色	黒色・白色・赤褐色細粒少、灰色粗粒。良好。	体部下半 一部 底面 1/4 上面
8. 土器部 杯	底 (6.2)	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理・ミガキ。底面外面回転未切り。	内 10182/1 黒 外 10188/2 灰白	黒色細粒やや多、灰色・白色細粒少。良好。	体部下半～底面 1/3 1層
9. 土器部 杯	内外面ロクロナデ	内外面ロクロナデ。内面黒色処理・ミガキ。体部外面に(大方)塗墨。	内 102/0 黒 外 10186/4 にぶい黄褐色	白色・灰色細粒少。 良好。	口縁部一部 3層
10. 須恵器 杯	底 (5.8)	内面～体部外面ロクロナデ。底面回転未切り。三層式。	内 1017/1 灰白 外 #	黒色・灰色細粒やや多、白色細粒数。良好。	体下位～底面 1/6 2層
11. 灰釉陶器 小瓶	底 (5.8)	内外面ロクロナデ。体部下層外面以外に薄く灰釉を施す。寛正1号蓋式。	内 1017/1 灰白 外 #	白色粒数。良好。	口縁下位～底面 1/6 3層
12. 須恵器 高台付杯		内面ロクロナデ。外面回転未切りのみ。高台貼付け・ロクロナデ。三層式。	内 2.5171/1 灰白 外 #	黒色・白色細粒少。良。	底面完 存 1層
13. 土器部 壺	口 (10.0)	口縁部コナナデ。外面押圧痕。粘土接合痕あり。胴部外面右から左へ積方向へミガキ。	内 10185/6 明赤褐色 外 #	黒色・白色細粒やや多、赤褐色粒少。良好。	口縁部 1/4 3層、4層、5層
14. 土器部 壺	口 (19.2)	口縁部外面粘土接合痕あり。コナナデ。胴部外面に施す右から左へ積方向へミガキ。その上方は上から下へ積方向へミガキ。口縁部内面コナナデ。内面回転未切り積方向のナデ。	内 2.5185/4 にぶい黄褐色 外 10186/6 黒	透明・白色細粒多、黒色細粒少、赤褐色細粒数。良好。	口縁部 1.6 胴部上面 1/4 3層下
15. 須恵器 杯		内面黒色処理。ナデ。外面積方向へミガキ。三和泥。	内 10186/2 灰黄褐色 外 2.512/1 黒	白色細粒多、赤褐色粒数。良。	胴部一部 1層
16. 土器部 行付壺	台 (9.2)	底面内面ナデ。右部外面押圧痕あり。内外面コナナデ。	内 2.5186/6 黒 外 10185/6 明赤褐色	白色細粒・赤褐色粒やや多。黒色細粒少。良好。	台部 1/2 3層下

SI-143

1. 灰釉陶器 小瓶		内面ロクロナデ。遺存する外面土層ロクロナデ。その下は回転ヘラミガキ。薄く灰釉を全面に施す。黄褐色。	内 2.5171/1 灰白 外 1017/1 灰白	黒色・白色細粒数。良好。	胴部一部 2層
2. 土器部 杯	底 (7.2)	内面黒色処理・ヘラミガキ。底面外面回転未切り。	内 2.512/1 黒 外 2.513/2 黒	灰色・透明細粒数。良好。	底面 1/5 3層
3. 土器部 杯	底 (7.0)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面回転ヘラミガキ。	内 10181/1 黒 外 10186/4 にぶい黄褐色	黒色細粒・透明粒数。良好。	体部下層～底面 1/6 1層
4. 灰釉陶器 椀		内外面ロクロナデのうち、口縁部～体部下半に灰釉を薄く掛け掛け、虎流山1号蓋式。	内 1017/1 灰白 外 #	黒色粒数。良好。	口縁部一部 2層
5. 須恵器 杯		口縁部粘土貼付け。ロクロナデ。南北金が木葉下産か。	内 1015/1 灰 外 #	黒色細粒やや多、白色粒少、白色針状物やや少、白色粗粒。良好。	口縁部一部 上面
6. 灰釉陶器 皿か		内面ロクロナデのら底面外面と中心部に灰釉を薄くハケ塗り。外面回転ヘラミガキのら高台貼付け。寛亨1号蓋式。	内 2.518/1 灰 外 2.518/1 灰	白色・黒色細粒数。良好。	底面 1.6 上面

第4章 発見された遺物

第1次調査区

SI-163

1 土師器 杯	口径 8.0	内外面ロクロナデ、内面黒色処理・横方向のちり割 痕とす。底面	内 2.532/1 黒 外 2.538/6 黒	黒色釉や中多。白色釉粒少。赤 褐色粒。良好。	口縁部～体部上 1/6 中層
2 土師器 杯	口径 12.0	内外面ロクロナデ。内面に灯明用ケル値あり。	内 10786/4 に近い黄緑 外 #	灰色釉粒少。白色釉粒や中少。 透明粒少。良好。	口縁部～体部 1/4 中層
3 土師器 杯	底径 8.0	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理・底部一 方向のみ体部横方向にケズ。外周体部下端手持ちヘ ラケズ。底部外面切痕あり。	内 81.9/0 黒 外 10787/3 に近い黄緑	黒色釉粒や中少。白色釉粒少。 良好。	底部 1/3 7層
4 土師器 杯	底径 8.0	内面～体部外面ロクロナデ。内面底部一方向のみ体 部横方向にケズ。底部外面切痕あり。	内 2.534/6 黒 外 10788/4 に近い黄緑	白色・黒色釉粒や中少。黒色・ 赤褐色粒。良好。	底部 1/2 4層
5 土師器 杯	底径 8.0	内面～体部外面ロクロナデのみ内面黒色処理。内面 底部一方向のみ体部横方向にケズ。内面磨耗し使用 痕度高い。底部外面切痕あり。	内 2.532/1 黒 外 2.538/3 黄緑	黒色・灰色釉粒や中少。白色釉 粒少。良好。	底部 2/3 4層
6 土師器 高台付杯	高台 7.0	杯部内面黒色処理・ヘラケズ。高台縁付け。ロケ ロナデ。	内 10711/7 黒 外 10785/8 明赤釉	黒色釉粒・灰色粒・白色釉粒少。 良好。	台部 1/6 7層
7 須恵器 高台付杯	口径 14.0 高台 2.6 高さ 5.6	内外面ロクロナデ。底部回転車切りの高台縁付け。 ロクロナデ。陶器産。	内 2.537/2 黄緑 外 2.538/3 黄緑	白色釉粒・赤褐色粒少。白色・ 灰色釉粒。黒色釉粒や中少。中 や不色。	口縁部～体部 1/4 底 部・高台 2/3 下層 底面
8 灰輪陶器 蓋	内外面ロクロナデ。内面薄く灰輪施す。黒鉄 90 号 形式。		内 2.537/1 灰白 外 #	黒色釉粒少。白色釉粒粒。良好。	口縁部一帯 上面
9 灰輪陶器 瓶	口径 14.2	内外面ロクロナデのみ灰輪を内外面に中や厚く施す。 見付口号式。	内 10771 灰白 外 #	黒色釉粒少。良好。	口縁部 1/6 4層
10 灰輪陶器 瓶	内外面ロクロナデ。内面～体部外面上半に薄く灰輪 を施す。ヘラ塗りの。黒鉄 90 号形式。		内 10771 灰白 外 10781 灰白	黒色釉粒少。良好。	口縁部～体部一帯 上面
11 緑輪陶器 椀	口径 11.8	内外面ロクロナデのみ緑輪施す。染色は薄くで良好。 黒鉄 140 号形式併行。	内 2.534/3 暗オリーブ 外 #	緑質。良好。	口縁部 1/12 上面

SI-174

1 須恵器 杯	底径 6.0	内面ロクロナデ。外面底部切痕あり。産地不明。	内 10781/7 黒 外 #	白色釉粒多。良好。	底部ほぼ完存
2 土師器 高台付椀	高台 7.0	内外面ロクロナデ。内面一方向にケズ。底部高台縁 付け。全面ロクロナデ。外面に黒鉄あり。粘土から 黄緑色。	内 10786/4 に近い黄緑 外 #	黒色釉粒多。白色釉粒・赤褐色 粒少。良好。	高台 1/2 底部 2/3 ケツド内
3 須恵器 杯	口径 12.0	墨書。文字不明。	内 2.534/3 オリーブ 外 2.537/2 灰黄	黒色釉粒や中少。白色釉粒。 や中。	一帯 上面
4 須恵器 蓋	口径 12.0	内外面ロクロナデ。天井外面一部切痕ヘラケズのみ。 内面には緑部を除いて黒褐色付着物(漆小量)が あり。二産産。	内 10782/1 黒 外 2.538/2 灰白	灰色釉粒や中多。黒色釉粒少。不 良。	口縁部～天井中位 1/3 底面
5 土師器 壺	口径 20.8	口縁部ロクロナデ。外面に焼成前の沈痾あり。胴部上 縁部横方向にケズ。	内 2.537/5 明赤釉 外 #	黒色釉粒や中多。白色釉粒少。 透明粒粒。良好。	口縁部 1/12 3層
6 須恵器 壺	底径 16.0	内面～胴部外面下位ロクロナデ。外面胴部下端左か ら右へ半持ちヘラケズ。底部外面多方向ヘラケ ズ。	内 10761/9 灰 外 #	白色釉粒や中多。黒色釉粒や中 少。良好。	底～胴下層 1/6 3層
7 緑輪陶器 小杯	口径 8.0 底径 3.8 高さ 2.9	ロクロナデのみ内面～体部外面中に緑輪施す。底 部回転車あり。軟質産。産内緑タイプ。	内 1076/6 オリーブ 外 2.538/4 黄緑	黒色釉粒や中多。赤褐色釉粒。 や中。	口縁部 1/4 体部 1/3 底部 2/3 3層

第2次調査区

SI-239

1 須恵器 杯	口径 13.0 底径 6.0 高さ 3.2	内面～体部外面ロクロナデ。外面底部ヘラ切りのち り。益子産。	内 1076/1 灰 外 #	白色釉粒や中多。良好。	7cm 口縁～体部 1/2 底部 1/4 No.20
2 須恵器 杯	口径 13.0	内外面ロクロナデ。体部外面に粘土接合痕あり。三 産産。	内 2.538/1 灰 外 #	白色釉粒少。白色釉粒や中少。 良好。	8cm 口縁～体部 1/2 No.24, 29
3 須恵器 杯	口径 13.8	内外面ロクロナデ。産地不明。	内 2.537/1 灰白 外 #	灰色釉・褐色粒少。白色釉粒や 中少。良好。	12cm 口縁部 1/6 No.39
4 須恵器 杯	口径 13.8	内外面ロクロナデ。三産産。	内 1076/9 緑 外 #	赤褐色粒少。白色・黒色釉粒や 中少。や中。	26cm 口縁部 1/6 No.15
5 須恵器 杯	口径 13.0	内外面ロクロナデ。三産産。	内 1076/2 灰オリーブ 外 #	白色釉粒や中少。黒色釉粒・ 白色磨損。や中。	7cm 口縁部 1/6 No.2
6 須恵器 杯	口径 11.8	内外面ロクロナデ。重ね焼き痕あり。産地不明。	内 1076/1 灰 外 #	白色釉粒や中多。黒色釉粒粒。 良好。	15cm 口縁部 1/4 No.51
7 須恵器 杯	口径 13.0	内外面ロクロナデ。二産産。	内 2.538/2 灰白 外 2.538/1 灰白	灰色釉。黒色釉粒少。灰色釉 粒。良好。	口縁部 1/6 7層
8 須恵器 杯	底径 6.0	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転車あり。三 産産。	内 10771 灰白 外 10785/3 に近い黄緑	灰色・黒色釉粒多。白色釉粒少。 良好。	3cm 底部 2/3 No.7
9 須恵器 杯	底径 8.0	内面ロクロナデ。底部回転車あり。三産産。	内 1076/1 灰 外 #	褐色粒や中多。白色釉粒や中少。 良好。	底部 1/4 上面
10 須恵器 杯	底径 7.0	内面～体部外面ロクロナデ。底部ヘラ切り。益子産。 つまみ挿入。ロクロナデ。三産産。	内 10787/4 に近い黄緑 外 #	白色釉粒・灰色粒少。黒色釉粒粒。 良好。	10cm 体部下段～底層 1/4 No.15
11 須恵器 杯	底径 6.2	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転車あり。三 産産。	内 2.537/2 黄緑 外 #	白色・灰色釉粒・灰色釉粒少。良好。	床底 体部下段～底層 1/2 床底
12 須恵器 杯	底径 6.0	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転車あり。三 産産。	内 1076/1 灰 外 #	褐色粒や中多。白色釉粒少。良 好。	11cm 体部下段～底層 1/3 No.38
13 須恵器 蓋		天井内面ロクロナデ。外面切痕ヘラケズ。窪みに つまみ挿入。ロクロナデ。	内 2.538/1 灰白 外 #	白色・黒色釉粒や中少。良好。	5cm つまみ完 No.40
14 土師器 杯	口径 15.0 高さ 3.3	内面一方向のみケズ。外面口縁部ロクロナデ。体 部～底部ヘラケズ。むすかに平底陶器に近づいて いる。	内 1076/6 明赤釉 外 #	白色釉粒。黒色釉粒や中多。赤 褐色粒少。良好。	10cm 底径 1.5 SI-239 上層、SI-241 上層

第2次調査区

SI-239

15 土師器 杯	口 12.8 底 6.8 高 3.7	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理のら底部 方向。体部縦方向ミガキ。底面外面全面回転ヘ ツケズリ。表面磨削。使用頻度高い。	内 31.5.0 黒 外 30YR3.0 浅黄緑	赤褐色細粒多。赤褐色粗粒少。 灰色・黒色・白色細粒中々少。 貝。良好。	12cm 口縁～底部 2/3 No.16
16 土師器 杯	口 12.4 底 6.2 高 4.0	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理のら横方 向へのへツミガキ。	内 32.0 黒 外 3.5YR6.6 橙	白色細粒中々少。赤褐色粗粒。 貝。良好。	21cm 口縁部 1.6 底部 1/4 No.62
17 土師器 杯	口 14.4	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理のら横方 向ミガキ。底面平持ちヘツケズリ。	内 32.0 黒 外 3.5YR7.6 橙	白色細粒中々少。赤褐色粗粒。 貝。良好。	床面 口縁部 1.6 体部 1.7 底面 1/4 No.23 底面
18 土師器 杯	口 15.2	内外面ロクロナデ。内面黒色処理。横方向ミガキ。	内 2.5YR3.1 黒 外 3YR6.6 橙	灰色粒・透明細粒少。黒色細粒 中々少。貝。良好。	床面 口縁～体部 1.6 No.5
19 土師器 杯	口 14.0 底 6.6 高 4.3	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理のら体部 縦 66.1 度 高 4.3	内 30Y2.1 黒 外 3.5YR6.6 橙	白色・赤褐色細粒。中々不貝。 貝。良好。	20cm 口縁～体部 1.6 No.12
20 土師器 杯	口 15.4	内外面ロクロナデ。内面黒色処理。斜方向・横方向 ミガキ。	内 31.5.0 黒 外 3YR6.6 橙	黒色細粒中々少。赤褐色粗粒。白色 細粒。貝。良好。	22cm 口縁～体部 2/3 No.28 上層。下層
21 土師器 椀鉢形		内外面ロクロナデの内面黒色処理。横方向ミガキ。	内 2.5Y3.1 黒 外 30YR7.3にぶい黄緑	黒色・赤褐色粗粒少。透明細粒。 貝。良好。	体部 下部
22 土師器 杯		内外面ロクロナデの内面黒色処理。ミガキ。底面 回転未切り。体部外面に磨きあり。	内 31.5.0 黒 外 2.5YR7.6 橙	黒色細粒少。赤褐色粗粒。貝。良 好。	底～体部 一部 体部 上層 1/5 No.34
23 煮麦器 短卵形		体部内外面ロクロナデ。三蓋産。	内 2.5Y7.1 灰白 外 *	白色・黒色粗粒少。白色細粒中 々少。貝。良好。	17cm 体部 一部 No.34 上層
24 厚胎灰輪 壺		体部内外面ロクロナデ。外面上半に自然輪付。非 々 28 号変式。	内 2.5Y6.1 黄灰 外 30YR3.1にぶい黄緑	黒色細粒少。白色細粒。貝。良 好。	体部 一部 上層
25 製塩土器		内面ナデ。外面押圧痕あり。	内 30Y6.6 明赤 外 *	白色粗粒・赤色雲母・白色針状 物少。貝。良好。	18cm 体部 一部 No.45
26 製塩土器		内面ナデ。外面ナデ。押圧痕あり。	内 30YR7.3にぶい黄緑 外 *	白色針状物多。黒色・白色・透 明細粒少。中々不貝	口縁部 一部 上層
27 製塩土器		内面ナデ。外面押圧痕。粘土層合痕あり。	内 2.5YR4.6 赤 外 3.5YR4.7 橙	白色針状物中々多。黒色・灰色 粗粒・赤色雲母少。貝。良好。	体部 一部 上層
28 製塩土器		内面ナデ。外面押圧痕あり。	内 30Y7.4にぶい黄緑 外 2.5Y5.2 暗灰黄	灰色粗粒多。透明・赤褐色粗 粒少。白色針状物少。貝。良 好。	体部 一部 上層
29 製塩土器		表面ナデ。	7.5YR5.3にぶい黄 外 *	白色・赤褐色粗粒少。貝。良 好。	両側欠損 上層
30 土製品 土埴	外径 1.4 孔径 0.1 重量 6.2	表面ナデ。	10YR5.2 灰褐	白色粗粒。貝。良 好。	1/2 下層

SI-241

1 煮麦器 杯	口 12.4 底 7.0 高 3.3	内面～体部外面ロクロナデ。底面回転未切り。三蓋 産。	内 2.5Y7.3 浅黄 外 *	黒色細粒中々多。褐色・白色 粗粒少。灰色粒。中々不貝	17cm 口縁～体部 1.6 底部 1/2 No.15 底 部
2 煮麦器 杯	底 18.0	内外面ロクロナデ。体部外面に磨きあり。底面調整 技法不明。益子産か。	内 2.5Y6.2 灰黄 外 *	白色粗粒中々多。黒色細粒少。貝。良 好。	20cm 体部下半～底 部 1/4 No.41
3 煮麦器 杯	底 7.4	内面～体部外面ロクロナデ。底面回転未切り。内面 底面・体部縦に磨きあり。土野産か。	内 30Y5.1 灰 外 3YR5.2 灰オリーブ	白色細粒中々多。褐色粗粒中々少。 褐色粗粒少。貝。良好。	19cm 体部 下部～底 部 2/3 No.52
4 煮麦器 杯	底 18.4	内面～体部外面ロクロナデ。底面回転未切り。三蓋 産。	内 30Y5.1 灰 外 3YR6.1 灰	白色細粒少。白色粗粒少。 貝。良好。	19cm 底～体部 下半 No.21
5 煮麦器 杯	底 18.4	内面～体部外面ロクロナデ。底面外面回転未切り のら外周回転ヘツケズリ。三蓋産。	内 36.0 灰 外 *	白色・黒色粗粒少。貝。良 好。	23cm 底面 1/3 No.22
6 煮麦器 杯	底 16.0	内面～体部外面ロクロナデ。底面外面ヘツ切り。益 子産か。	内 2.5Y6.1 黄灰 外 *	白色細粒・褐色粗粒中々多。貝。良 好。	26cm 底面 1.6 No.14
7 煮麦器 杯	口 13.2 底 2.4 高 3.5	内面～体部外面ロクロナデ。底面回転未切り のら外周回転ヘツケズリ。底面外面に磨きあり。 [法考]の可塑性もあるが測定できない。	内 2.5YR6.6 橙 外 *	黒色・白色粗粒少。貝。良 好。	床面 1.3cm 口縁～体部 1/2 底面 1.7 No.2,4,28
8 土師器 杯	底 18.0	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理。底部一 方向。体部横方向ミガキ。外面底面未切り のら外周～体部 下部平持ちヘツケズリ。	内 2.5YR2.1 黒 外 2.5YR7.6 橙	赤褐色粗粒中々多。白色細粒・ 黒色粗粒少。貝。良好。	14cm 底～体部 下部 2/5 No.17
9 土師器 杯	底 16.4	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理。体部一 方向のら。底面一方向ミガキ。ミガキの範囲が広い ものと想定される。外面底面未切り のら外周～体部 下部平持ちヘツケズリ。	内 32.0 黒 外 3YR5.3 明赤	白色粗粒・細粒中々多。透明細粒・ 灰色粗粒中々少。赤褐色粗粒少。 貝。良好。	14cm, 19cm 底～体部 下半 1/2 No.8,32
10 土師器 杯	口 12.8 底 6.8 高 5.2	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理。体部横 方向ミガキ。外面底面～体部 下部平持ちヘツケズリ。 内外面に磨きあり。打痕あり。	内 30Y1.7/1 黒 外 30YR3.0 明赤	赤褐色粗粒・細粒中々多。黒色粗粒 白色細粒少。貝。良好。	22cm 口縁部 1/4 体部 2.5 底部 1/3 No.3, 上層
11 土師器 高台付杯	高台 10.4	底面内外面ロクロナデ。高台貼付。器壁全面黒色 処理。ヘツミガキを施す種々な土器である。底面内 面のみ磨削し使用頻度高い。	内 32.0 黒 外 *	黒色細粒中々少。褐色粗粒少。 灰色粗粒。貝。良好。	高台 1/4 上層
12 土師器 壺	口 22.0	口縁部押圧痕あり。ヨコナデ。胴部外面右から左方 ヘツケズリ。内面縦方向ヘツケズリ。	内 3YR6.9 橙 外 *	黒色細粒中々多。赤褐色粗粒中 々少。透明細粒少。貝。良好。	床面 口縁～胴部 上層 1.6 No.12
13 土師器 壺	口 19.6	口縁部ロクロナデ。外面に押圧痕あり。外面底面下半 は下から上方向。胴部上半は押圧下方から上方向ヘツ ケズリ。内面ヘツケズリ。	内 3YR6.6 橙 外 *	赤褐色粗粒多。透明・赤褐色粗粒少。 赤褐色粗粒・白色粗粒少。貝。良 好。	床面 口縁部 2/3 胴 部 1.7 底面 1/2 No.12, 下層
14 煮麦器 壺		胴部内面縦文ミガキ。ナデ。外面平打ち。ナデ。内 面に平塗りの部分あり。転用磁と考えられる。	内 36.0 灰 外 35.0 灰	白色粗粒少。白色・黒色粗粒中 々少。貝。良好。	胴～胴部 一部 上層

## 第2次調査区

## SI-251

1 遺器部 杯	底 6(6)	内面～体部外面ロクロナデ。底面外面回転車切りの 外外面持ちヘラケズリ。三蓋産。	内 316/1 灰 外 〃	灰色細粒多。白色細粒少。良好。	底高 1/5 上面
2 遺器部 杯	底 2.0	内面ロクロナデ。底面外面回転車切り。三蓋産。	内 2.578/2 灰白 外 〃	白色細粒少。透明・黒色細粒 良好。	底面完存 上面
3 土師部 杯	底 7(2)	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理・ミガキ。 底面外面手持ちヘラケズリ。	内 83.6/0 黒 外 3103.6 明赤褐 外 〃	赤褐色粒や中多。黒色・白色細 粒少。良好。	体部下段～底面 1/4 上面
4 土師部 高台付杯	高台 18(6)	内面ヘラケズリ。底面回転車切りの高台取付け。 ロクロナデ。	内 2.577/6 櫻 外 〃	白色・黒色細粒少。良好。	底高 4/5 高台 1/2 上面
5 遺器部 蓋		内面ロクロナデ。遺子や外周面に墨付焼き痕あり。 外面ロクロナデのり同様にヘラケズリ。つまみ取付 け部に窪みを作り挿入(約製)。蓋子産。	内 315/1 灰 外 〃	白色細粒多。良好。	天部 1/4 上面
6 遺器部 盤		内面無文当具取。一部ナデ。外面平打明。新治産。	内 84/0 灰 外 〃	白色細粒多。顔色黄白や中多。 良好。	胴部一 上面
7 土師部 鉄線形		内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ヘラミガキ。	内 83.6/0 黒 外 3106.6 櫻 外 〃	白色・透明細粒・赤褐色粒少。 良好。	体部一 上面
8 製瓦土師		内面ヘラケズリ。外面体部押圧痕あり。底面無調整。	内 2.578/6 櫻 外 〃	白色細粒少。白色粒状物散。や や良。	体一底部一 上面

## SI-253

1 土師部 盤		口縁部コ罗纳デ。口縁部がくの字形に折れる武蔵型 盤。	内 3106.6 櫻 外 3106.6 櫻 外 〃	白色・黒色細粒多。赤褐色細粒少。 良好。	口縁部一 上面
2 土師部		内面ヘラミガキ。外面ヘラケズリ。	内 2.575/9 明赤褐 外 〃	赤褐色粒や中多。透明・黒色細 粒や中少。良好。	底部一 上面

## SI-307

1 遺器部 杯	口 12(4) 底 6.0 高 3.9	内面～体部外面ロクロナデ。底面回転車切り。三蓋 産。	内 317/1 灰白 外 2.576/1 黄灰 外 〃	白色細粒・赤褐色粒や中少。黒色 灰色細粒少。やや不良。	15cm 口縁部 1/4 体 部 1/3 底面ほぼ完存 No.145
2 遺器部 杯	口 13(2) 底 6.6 高 3.6	内面～体部外面ロクロナデ。底面回転車切り。三蓋 産。	内 3103.6 明赤褐 外 2.576/6 櫻 外 〃	白色細粒少。黒色細粒や中少。 赤褐色粒散。やや良。	6cm 口縁～体部 1/3 底面完存 No.53, 55, 2
3 遺器部 杯	口 13(1) 底 5.8 高 4.2	内面～体部外面ロクロナデ。底面回転車切り。三蓋 産。	内 3103.6 明赤褐 外 〃	白色・黒色細粒や中少。白色・ 赤褐色細粒散。やや良。	5cm 口～体部 3/4 底面完存 No.21, 1層
4 遺器部 杯	口 13(2) 底 4.2 高 4.1	内面～体部外面ロクロナデ。体部外面に粘土接合痕 あり。底面回転車切り。三蓋産。	内 2.576/2 灰黄 外 〃	黒色細粒・灰色粒少。良好。	25cm 口縁 1/4 体部 1/3 底面完存 No.71
5 遺器部 杯	口 12(4) 底 3.0 高 3.9	内面～体部外面ロクロナデ。底面回転車切り。三蓋 産。	内 3107/4 に近い黄相 外 〃	灰色細粒や中少。黒色細粒・ 赤褐色粒少。灰色・赤褐色細粒 不良。	15cm 口縁～体部 1/2 底面完存 No.125
6 遺器部 杯	口 12(2) 底 6(6) 高 3.7	内面～体部外面ロクロナデ。底面回転車切り。三蓋 産。	内 3107/4 に近い黄相 外 2.577/1 灰白 外 〃	灰色粒多。白色・褐色細粒少。 良好。	口縁～体部 1/12 底面 一部 1層(上層)
7 遺器部 杯	口 12(2) 底 6(8) 高 4.5	内面～体部外面ロクロナデ。体部外面に粘土接合痕 あり。底面回転車切り。三蓋産。	内 2.576/1 灰白 外 〃	白色・黒色細粒少。灰色粒散 良好。	6cm 口縁一 体部一底 部 1/6 No.53, 1層(上層)
8 遺器部 杯	口 11(8) 底 7.4 高 4.1	内面～体部外面ロクロナデ。底面ヘラ切りのナデ。 N字状の焼成痕ヘラ記号あり。蓋子産。	内 84/0 灰 外 〃	白色細粒や中多。灰色細粒少。 良好。	15cm 口縁～体部一 底面 1/2 No.138
9 遺器部 杯	口 12.8 底 6.3 高 3.6	内面～体部外面ロクロナデ。底面回転車切り。三蓋 産。	内 316/1 灰 外 〃	白色細粒や中多。黒色細粒・ 灰色粒少。白色・灰色細粒。良好。	20cm 2層 口縁～体部 3/4 底面 完存 No.34, 40
10 遺器部 杯	口 12(8) 底 6(6) 高 3.4	内面～体部外面ロクロナデ。底面一方角ケリ。体 部下左右～左方へ手持ちヘラケズリ。新治産。	内 2.576/1 黄灰 外 〃	顔色黄白多。白色細粒や中多。 黒色細粒や中少。白色粒少。良好。	20cm 口縁 1/6 体下 半～底面 1/2 No.148, 166
11 遺器部 杯	口 13(0) 底 7.0 高 3.8	内面～体部外面ロクロナデ。口縁部外面に粘土接合 痕あり。底面回転車切り。三蓋産。	内 2.578/6 櫻 外 〃	白色・灰色細粒や中多。黒色・ 赤褐色細粒少。やや良。	11, 19cm 口縁部 1/3 底面 2/5 No.85, 90
12 遺器部 杯	口 12(2) 底 6(4) 高 2.4	内面～体部外面ロクロナデ。底面回転車切り。三蓋 産。	内 315/1 灰 外 〃	白色・灰色細粒少。良好。	口縁一 体一底面 1/8 2層(下層)
13 遺器部 杯	口 13(0)	内外面ロクロナデ。	内 3107.2 灰黄褐 外 〃	赤褐色細粒少。黒色細粒散。良 好。	口縁～体部 1/6 2層
14 遺器部 杯	口 12(4)	内外面ロクロナデ。三蓋産。	内 316/1 灰 外 〃	黒色細粒や中多。白色粒散。良 好。	口縁部 1/8 1層(上層)
15 遺器部 杯	口 14(2)	内外面ロクロナデ。産地不明。	内 317/1 灰白 外 〃	灰色粒や中多。灰色細粒・黒色細 粒少。やや不良。	21cm 口縁部 1/6 No.142
16 遺器部 杯	口 12(0)	内外面ロクロナデ。口縁部に打心痕あり。産地不明。 良。	内 2.577/1 灰白 外 〃	白色細粒少。良好。	5cm 口縁部 1/6 No.142
17 遺器部 杯	口 13(6)	内外面ロクロナデ。産地不明。	内 2.578/6 櫻 外 〃	赤褐色細粒や中多。赤褐色粒散 散。やや良。	口縁部 1/6 下層
18 遺器部 杯	口 12(6)	内外面ロクロナデ。三蓋産。	内 316/1 灰白 外 8 7/9 灰白 外 〃	黒色細粒少。良好。	口縁部 1/6 1層(上層)。 2層(下層)
19 遺器部 杯	口 13(4)	内外面ロクロナデ。産地不明。	内 2.577/1 灰白 外 2.576/1 灰 外 〃	白色細粒や中少。黒色細粒少。 良好。	口縁部 1/6 2層(下層)
20 遺器部 杯	口 14(0)	内外面ロクロナデ。産地不明。	内 2.575/1 灰 外 83.6/0 灰 外 〃	白色細粒多。白色粒少。良好。	11cm 口縁部 1/12 No.82
21 遺器部 杯	口 13(4)	内外面ロクロナデ。産地不明。	内 2.577/2 灰黄 外 317/1 灰白 外 〃	白色・透明・黒色細粒少。良好。	口縁部 1/12 1層

## 第2次調査区

SI-307

22	竈意部 杯	口(14.0)	内外面ロコナツ。産地不明。	内 3006.6 榎 外 #	黒色・白色細粒少。赤褐色細粒 やや多。やや丸。	口縁部 1/2 2層(下層)
23	竈意部 底	底(8.0)	内面～体外面外周ロコナツ。底部回転車切。三森 産。	内 3037.1 灰白 外 #	灰色細粒やや多。黒色・白色細 粒少。良好。	11cm 体部下位～底部 1.6 No.32
24	竈意部 杯	底(6.2)	内面～体外面外周ロコナツ。底部回転車切。三森 産。	内 3035.6 明赤褐 外 #	白色細粒やや多。黒色細粒・赤 褐色細粒少。不丸。	底部 1/3 2層(下層)
25	竈意部 杯	底(6.6)	内面～体外面外周ロコナツ。底部回転車切。三森 産。	内 2.575.1 黄灰 外 #	白色細粒やや多。黒色細粒少。 良好。	10m.4cm 底部 2/3 No.101,171
26	竈意部 杯	底(6.2)	内面～体外面外周ロコナツ。底部回転車切。三森 産。	内 3006.6 榎 外 #	赤褐色細粒・赤褐色細粒・黒色 細粒少。やや丸。	12cm 体下部～底部 1/2 下層
27	竈意部 杯	底(5.8)	内面～体外面外周ロコナツ。底部回転車切。三森 産。	内 2.575.6 明赤褐 外 #	黒色細粒やや多。白色細粒・赤 褐色細粒少。やや丸。	2cm 体下部～底部1/2 1層(上層)
28	竈意部 杯	底(6.0)	内面～体外面外周ロコナツ。外面に未焼あり。底部 技法不明。	内 3035.6 明赤褐 外 #	白色細粒やや多。黒色細粒少。 赤褐色細粒。不丸。	体下部 1/3 底部 1/2 1層(上層)
29	竈意部 杯	底(6.4)	内面～体外面外周ロコナツ。底部回転車切。三森 産。	内 2.576.2 灰黄 外 #	白色・黒色細粒少。透明微粒 良好。	15cm 底部 3/4 No.104
30	竈意部 杯	底(6.4)	内面～体外面外周ロコナツ。底部回転車切。三森 産。	内 3075.7 灰 外 #	白色細粒やや多。黒色細粒。良 好。	12cm 体下部 1層(上層)
31	竈意部 杯	底(6.8)	内面～体外面外周ロコナツ。底部回転車切。三森 産。	内 2.578.1 灰褐 外 3035.6 明赤褐 外 #	白色細粒少。黒色細粒・白色細 粒やや多。丸。	20cm 底部 1/4 No.91
32	竈意部 杯	底(5.4)	内面～体外面外周ロコナツ。底部回転車切。三森 産。	内 2.577.2 灰黄 外 #	白色細粒多。灰色・白色細粒少。 黒色細粒やや多。不丸。	10cm 底部 2/3 No.137
33	竈意部 杯	底(5.8)	内面～体外面外周ロコナツ。底部回転車切。三森 産。	内 3067.1 灰 外 #	白色・灰色細粒少。黒色細粒。 良好。	3cm 体下部～底部 1/4 No.154
34	竈意部 杯	底(7.0)	内面～体外面外周ロコナツ。体部下端右から左方へ手 持ちへツケズ。底部へツケ切りの方へ手 持ちへツケズ。新治産。	内 3077.1 灰白 外 #	緑色細粒多。灰色・白色細粒や やや多。白色細粒少。良好。	12cm 体下部 1/4 底部 2/5 No.23
35	竈意部 杯	底(6.4)	内面～体外面外周ロコナツ。底部回転車切。三森 産。	内 36.0 灰 外 #	白色・黒色細粒少。良好。	体下部～底部 1/5 2層(下層)
36	竈意部 杯	底(6.8)	内面～体外面外周ロコナツ。底部回転車切。三森 産。	内 3076.2 灰黄褐 外 3007.1 灰白 外 #	黒色・灰色細粒少。不丸。	14cm 底部 1/5 No.15
37	竈意部 杯	底(6.8)	内面～体外面外周ロコナツ。外面体部下端右から左方へ手 持ちへツケズ。底面一方向へ手持ちへツケズ。堀ノ 内産。	内 3067.1 灰 外 #	白色細粒・透明粒少。やや丸。	18cm 体部下端 1/8 底部 1/6 床直
38	竈意部 杯		内面～体外面外周ロコナツ。底部へツケ切。益子産。	内 3075.7 灰 外 #	白色細粒多。白色細粒少。良好。	底部一 下層
39	竈意部 高台付杯	口(12.6)	内外面ロコナツ。益子産。	内 2.567.1 オリーブ 外 325.0 榎 外 #	白色粒・白色細粒やや多。灰色 粗粒。良好。	6cm 口縁部 1/6 No.73
40	竈意部 高台付杯	口(16.8)	内面～体外面外周ロコナツ。高台貼付け(新編)。 体部外面に墨書あり。二森産。	内 3036.6 榎 外 #	黒色・赤褐色細粒やや多。白色 細粒少。やや不丸。	18cm 口縁～底部1/2 1層
41	竈意部 蓋	口(18.2)	内面～天井外周外周ロコナツ。天井外面3回転へ ツケズ。天井内面が平滑で・転用痕と考えられる。 益子産。	内 325.0 榎 外 #	白色細粒多。灰色・白色粗粒。 良好。	5cm 口縁部 1/8 天井 1.6 No.109
42	竈意部 蓋		天井につまみ貼付け。ロコナツ(新編)。竈平な つまみである。産地不明。	内 3006.6 榎 外 #	白色・黒色・赤褐色細粒少。や や不丸。	つまみ定存 最上層
43	竈意部 蓋	口(14.2) 高(3.5)	内面～天井外周外周ロコナツ。天井外面回転へ ツケズ。つまみ貼付け。ロコナツ。二森産。	内 3006.6 榎 外 3035.6 明赤褐 外 #	黒色細粒多。白色細粒やや少。 褐色細粒少。やや丸。	4cm 口縁～天井 1/2 つまみ定存
44	竈意部 蓋	口(14.0)	内面～天井外周外周ロコナツ。天井外面2回転へ ツケズ。益子産。	内 36.0 灰 外 #	白色細粒少。白色粗粒。良好。	15cm 口縁～天井外周 1/8 No.113
45	竈意部 蓋	口(14.0)	内外面ロコナツ。二森産。	内 3035.6 明赤褐 外 #	白色細粒やや多。黒色細粒・赤 褐色細粒少。やや丸。	1cm 口縁部 1/2 No.144, 2層(上層)
46	竈意部 蓋	口(12.0)	内外面ロコナツ。天井外面回転へツケズ。	内 3034.6 赤褐 外 3035.6 明赤褐 外 #	白色・赤褐色・黒色細粒少。や や丸。	15cm 口縁部 1/6 No.90
47	竈意部 高台付杯	高台(9.0)	内面～体外面外周ロコナツ。底部全面回転へツケ ズ。高台貼付け。ロコナツ。三森産。	内 2.577.1 灰白 外 #	黒色細粒やや多。白色細粒少。 良好。	高台・底部 1/8 1層(上層)
48	土師部 杯		内外面ロコナツ。内面黒色処理・ミガキ。体部外 面に墨書あり。	内 327.0 黒 外 2.578.6 榎 外 #	白色・透明細粒。良好。	12cm 口縁～体部一 層
49	土師部 杯		内外面ロコナツ。内面黒色処理・ヘツギギ。体 部外面に墨書あり。	内 3073.7 1 黒 外 2.578.6 榎 外 #	白色・黒色細粒少。赤褐色細 粒。良好。	口縁～体部一 下層
50	土師部 杯		内外面ロコナツ。内面黒色処理・ヘツギギ。体 部外面に墨書あり。	内 3072.1 黒 外 2.578.6 榎 外 #	白色細粒少。透明細粒。良好。	体部一 下層
51	土師部 杯	口(11.2)	内外面ロコナツ。内面黒色処理・ミガキ。	内 327.0 黒 外 3036.6 榎 外 #	黒色・灰色・白色細粒少。不丸。	口縁部 1.6 最上層
52	土師部 杯	口(12.0) 高(4.4)	内外面ロコナツ。内面黒色処理・ミガキ。体部外 面に墨書あり。	内 327.0 黒 外 3078.4 産黄褐 外 #	白色・黒色・灰色細粒やや多。 赤褐色細粒少。不丸。	底部 定存 No.172
53	土師部 杯	口(12.2)	内外面ロコナツ。内面黒色処理・縦方向へ斜方 へツギギ。外面に墨書あり。口縁部厚粒。使用に よるか。	内 327.0 黒 外 2.578.6 榎 外 #	白色細粒・黒色細粒・白色粒・ 褐色細粒少。丸。	8cm 口縁～体部 1/5 No.45
54	土師部 杯	口(13.8) 高(7.6)	内面～体外面外周ロコナツ。内面黒色処理・底部一 方向。体部縦方向にミガキ。底部外面回転車切のり。 外周手持ちへツケズ。内面磨粒・使用痕高い。	内 327.0 黒 外 3078.4 にぶい黄褐 外 #	黒色細粒やや多。白色・赤褐色 透明細粒少。やや丸。	床面 口縁部一層 体 ～底部1/2定存 No.53,172, 上層, 下層

## 第4章 発見された遺物

## 第2次調査区

SI-307

55	土師器 片	底 7.0	内面～体部外面口コナテ。内面黒色処理・底部多方向、体部縦方向ミガキ。底部外面未切りのみ、中心部を除き多方向手持ちヘラケズリ。内面使用により摩耗している。	内 2/2.0 黒 外 2.5/3.5 6 明赤褐色	白色・灰色細粒多。黒色細粒やや少。赤褐色細粒少。良好。	25cm 体部下位～底面 法成定存 No.43
56	土師器 片	底 (7.2)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面底部下端手持ちヘラケズリ。底部外面未切りのみ、外周手持ちヘラケズリ。	内 3/3.0 黒 外 3/3.5 6 明赤褐色	白色・赤褐色細粒多。透明細粒良好。	7cm 底面 1/5 No.174
57	土師器 片	底 (5.2)	コナテ。内面黒色処理・体部縦方向のみ底部一方ミガキ。底部外面未切り。	内 2/2.0 黒 外 2.5/3.5 6 橙	白色・黒色細粒少。良好。	10cm 体部下端～底面 1/4 No.92
58	土師器 片	底 (5.2)	コナテ。内面黒色処理・体部縦方向。底部一方ミガキ。底部外面未切り。	内 2/2.0 黒 外 2.5/3.5 6 明赤褐色	白色・赤褐色・黒色細粒少。良好。	8cm 体部下端～底面 1/4 No.8
59	土師器 片	口 11.8 底 6.2 高 4.9	コナテのみ内面黒色処理。底面・方向、体部縦方向ミガキ。底部外面二方向への手持ちヘラケズリ。体部外面に「向」、底部外面に「古」の墨書。内面は使用により摩耗。	内 2/2.0 黒 外 2.5/3.5 6 に近い黄褐色	黒色・白色・赤褐色細粒少。良好。	4cm, 6cm 口縁～体部 1/2 底面 2/3 No.47, 49, 52, 1 層
60	土師器 片	底 (6.4)	コナテ。内面黒色処理・ミガキ。底部外面技法不明。	内 2.5/2.1 黒 外 2.5/3.5 6 明赤褐色	白色・赤褐色細粒少。不良。	14cm 底面 1/4 No.162
61	土師器 片	底 5.6	内面口コナテ。黒色処理・方向へのミガキ。体部外面右から左への手持ちヘラケズリ。底部外面同軸周切りの外周手持ちヘラケズリ。	内 2/2.0 黒 外 2.5/3.5 6 橙	灰色粒・赤褐色細粒やや少。白色細粒少。白色・赤褐色細粒良好。	9cm 底面完存 No.78
62	土師器 片		コナテ。内面黒色処理・ヘラミガキ。体部外面に墨書あり。	内 2/2.1 黒 外 2.5/3.7 6 橙	黒色・白色・透明細粒。良好。	体部一部 2層
63	土師器 片	底 5.2	内外面口コナテ。内面黒色処理・多方向ヘラミガキ。底部外面未切りのみ外周手持ちヘラケズリ。	内 2/2.0 黒 外 3/3.5 6 明赤褐色	黒色・白色・透明細粒少。良好。	2cm, 8cm 底部面口成定存 No.50, 56
64	土師器 片	底 6.2	内面口コナテ。底部外面同軸周切り。	内 3/3.5 6 明赤褐色 外 2.5/3.5 6 に近い黄褐色	白色細粒・透明細粒・褐色粒少。やや不良。	3cm 底面 3/4 No.6
65	土師器 片		天井内面ナテ丸軸バエガキ。天井外面ケリミガキミガキ。平面方向のみまみ起付（割離）。	内 3/3.5 6 明赤褐色 外 2.5/3.5 6 明赤褐色	赤褐色粒多。透明細粒。良。	14cm 天井部中央付近 1/4 No.165
66	灰土器 鉢形器		内外面口コナテ。口唇部平直面あり。二溝存在。	内 2.5/3.1 灰白 外 #	灰色細粒多。黒色細粒少。不良。	体部一部 1層 (上層)
67	灰土器 鉢形器		口縁部内外面口コナテ。体部内面無文当て具。一部ナテ。体部外面平直面。二溝存在。	内 3/3.1 灰 外 #	白色細粒多。良好。	6cm 口縁部一部 No.27
68	灰土器 短頸甕	口 (15.0)	内面～口縁部外面口コナテ。外面口縁部直下に注線存在。外面自然磨砕付付。胴面に横あり。横段存在。	内 2.5/2.7 灰白 外 2.5/3.3 3 灰ナテナテ	黒色粒・褐色細粒やや少。良好。	15cm 口縁部 1.8 胴部 1/4 No.60
69	土師器 壺	口 (15.0)	口縁部内外面口コナテ。胴部内面ナテ。胴部外面右から左へ横方向ケズリ。	内 2/2.0 黒 外 3/3.7 4 に近い黄褐色	黒色・褐色粒多。透明細粒。良。	2cm 口縁部 1/6 No.67
70	土師器 壺	口 19.6 底 4.6 高 27.7	口縁部コナテ。外面に粘土接合痕。押圧痕あり。胴部外面に土釘方向ケズリ。中～下位方向ケズリ。内面押圧痕。ヘラナテ。外面全面にヌグ付付。	内 2.5/3.4 4 黄 外 2.5/3.3 2 黒褐色	白色・白色細粒多。赤褐色粒少。良好。	7cm 口縁部・底面完存 胴部 1/2 No.18
71	土師器 紡錘車 紡錘車	外径 5.6 内径 0.8 厚 1.2 外径 (4.0) 内径 0.8 厚 1.6	内面黒色処理。方向ミガキ。底部同軸周切り。側面研削。中心に穿孔。土師器再利用。表面口コナテ。側面研削。中心に穿孔。灰土器再利用。	内 2.5/2.1 黒 外 3/3.7 4 に近い黄褐色 上 2.5/3.3 3 に近い黄褐色	赤褐色粒やや少。灰色粒・黒色細粒少。全く不良。	8cm 完存 No.164
72	灰土器 紡錘車	外径 (4.0) 内径 0.8 厚 1.6	内面ナテのみ。外面粘土接合痕。押圧痕あり。	内 3/3.6 6 明赤褐色 外 3/3.6 6 明赤褐色	白色針状物・白色細粒多。灰色粒少。不良。	口縁部一部 2層
73	灰土器		内面ナテ。外面粘土接合痕。押圧痕あり。	内 3/3.6 6 灰黄褐色 外 #	白色針状物・白色細粒少。不良。	口縁部一部 1層
74	灰土器		内面ナテ。外面粘土接合痕。押圧痕あり。	内 3/3.6 6 灰黄褐色 外 #	白色針状物・白色細粒少。不良。	口縁部一部 1層
75	灰土器		口縁部押圧痕あり。	内 3/3.7 4 に近い黄褐色 外 #	白色針状物・白色細粒・黒色細粒少。透明細粒。全く不良。	口縁部一部 1層
76	灰土器		内面口コナテ。外面粘土接合痕。押圧痕あり。	内 3/3.7 4 に近い黄褐色 外 #	白色針状物・白色細粒・透明細粒。全く不良。	口縁部一部 最上層
77	灰土器		内面ナテ。外面粘土接合痕あり。	内 2.5/2.2 灰黄褐色 外 2.5/3.7 6 橙	赤褐色細粒多。黒色細粒・白色粒少。白色針状物。良好。	口縁部一部 1層
78	灰土器		内面ナテ。外面押圧痕あり。	内 3/3.6 6 橙 外 2.5/3.7 6 橙	白色細粒多。白色針状物やや少。黒色細粒やや少。全く不良。	体部一部 2層
79	灰土器		内面ナテ。外面粘土接合痕。押圧痕あり。	内 2.5/3.6 6 橙 外 #	白色針状物・白色細粒少。白色針状物。良。	3cm 体部一部 No.89
80	灰土器		外面粘土接合痕。粘土ナテあり。内面技法不明。	内 3/3.7 4 に近い黄褐色 外 #	白色針状物・白色細粒少。褐色細粒・透明細粒。全く不良。	体部一部 1層
81	灰土器		外面粘土接合痕。粘土ナテあり。内面技法不明。	内 2.5/3.7 4 に近い黄褐色 外 #	黒色・白色細粒少。白色針状物。良。	体部一部 最上層
82	灰土器		内面横方向ナテ。外面粘土接合痕。押圧痕あり。	内 2.5/3.7 6 橙 外 2.5/3.6 6 に近い黄褐色	白色針状物・赤褐色・黒色・透明細粒少。良。	体部一部 2層
83	灰土器		内面ナテ。外面押圧痕。粘土ナテあり。	内 2.5/3.6 6 橙 外 2.5/3.6 6 橙	白色細粒・白色針状物少。透明細粒。良好。	体部一部 2層
84	灰土器		内面ナテのみ。外面粘土接合痕。押圧痕あり。	内 3/3.7 4 に近い黄褐色 外 2.5/3.7 4 に近い黄褐色	赤褐色細粒やや少。白色細粒・赤褐色細粒・白色針状物少。全く不良。	体部一部 1層 (3層)



## 第2次調査区

## SI-307

85	製瓦土器	内面ナズ。外面粘土接合痕。押圧痕あり。外面に入 り付。	内 2.0166.3 ぶい・黄緑 外 2.5186.4 ぶい・黄 緑	透明釉状。白色針状物・赤褐色 粒。白。	体部一部
86	製瓦土器	内面ナズ。外面粘土接合痕。押圧痕あり。	内 2.5186.6 黒 外 2.5186.4 ぶい・黄 緑	白色細粒・白色針状物少。金色 雲母や少。やや白。	体部一部 1層
87	製瓦土器	内面ナズ。外面粘土接合痕。押圧痕あり。	内 01972.7 明褐色 外 0197.6 黒	白色・灰色細粒や多。白色針 状物。不白。	体部一 部(下層)
88	製瓦土器	内面ナズ。外面粘土シワあり。	内 0197.7 ぶい・黄緑 外 #	白色細粒少。白色針状物や少。 透明釉状。不白。	体部一 部(下層)
89	製瓦土器	内面ナズ。外面無調整。底部着状剥離している。	内 0198.6 黒 外 2.5187.6 黒	灰色細粒多。白色細粒や多。 赤褐色細粒。やや白。	体部一 部
90	製瓦土器	内面ナズ。外面無調整。着状剥離している。	内 0198.4 ぶい・黄 緑 外 2.5187.6 黒	白色針状物多。白色細粒や多。 褐色細粒少。透明釉状。良好。	12cm 底部一部 No.39
91	製瓦土器	内外面に押圧痕あり。	内 2.5187.4 ぶい・黄 緑 外 #	白色針状物・白色細粒・赤褐色 細粒少。黒色細粒や少。やや 不白。	体部下層~底部一 部 1層
92	製瓦土器	内面ナズ。外面粘土接合痕あり。	内 0197.4 ぶい・黄緑 外 #	白色針状物・白色細粒・赤褐色 細粒少。やや不白。	体部下層一部 最上層

## SI-315

1	土師器 杯	口(13.0) 底 7.1 高 4.4	内面~体部外面ロクロナズ。底部へウ切り 焼成痕へウ記号あり。蓋子産。	内 0181.0 灰 外 #	白色・灰色細粒多。良好。	口縁~体部1/4 底部1/2 上面
2	土師器 杯	口(12.3) 底 2.4 高 4.0	内面~体部外面ロクロナズ。底部回転車切り。	内 0198.2 灰白 外 #	灰色細粒多。黄色細粒少。灰色 粒。良好。	口縁~体部1/2 底部2/3 上面
3	土師器 杯	口(13.0) 底 (7.0) 高 4.1	ロクロナズのら内面黒色塗布状。底部一方向ミガキ。 底部外面平持ちヘラケズリ。	内 0198.6 黒 外 #	白色細粒や少。黒色・赤褐色 細粒少。良好。	口縁~底部1/3 上面

## SI-325

1	土師器 杯	口(13.2) 底 6.1 高 3.9	内面~体部外面ロクロナズ。底部回転車切り。	内 0197.7 黒 外 0198.2 灰黄緑	灰色粒・黒色細粒・白色細粒や 多。赤褐色少。良好。	床底 口縁~体部4/5 底部ほぼ全 体底
2	土師器 杯	口(11.6) 底 6.0 高 3.4	内面~体部外面ロクロナズ。底部回転車切り。	内 0197.7 ぶい・黄緑 外 #	白色細粒多。白色・赤褐色・透 明釉状。良好。	床底 口縁~体部1/2 底部2/3 床底
3	土師器 杯	口(12.2) 底 7.4 高 2.6	内面~体部外面ロクロナズ。底部回転車切り。	内 0197.4 ぶい・黄緑 外 0197.2 ぶい・黄緑	黒色・灰色細粒や多。赤褐色 粒や少。赤褐色粒。白。	床底 口縁一部 体部下層~底部1/2 床底
4	土師器 杯	口(12.0)	内面~口縁部外面ロクロナズ。体部外面左から右方ヘ ケズリ。	内 2.5187.2 灰黄 緑 外 0198.4 ぶい・黄 緑	灰色粒多。黄色細粒少。灰色細 粒。良好。	口縁部1.6 上面
5	土師器 杯	底(6.0)	内面~体部外面ロクロナズ。底部回転車切り。	内 2.5181.1 灰白 外 0198.3 黄黄緑	灰色・黒色細粒多。赤褐色粒 良好。	底部1/2 上面
6	土師器 杯	底(7.0)	内面~体部外面ロクロナズ。底部回転車切り。3上 同一個体か。	内 0197.7 ぶい・黄緑 外 #	赤褐色粒多。黄色細粒少。良好。	床底 体部下層~底部 1/4 床底
7	土師器 高台付陶 器	口(14.2)	内外面ロクロナズのら内面黒色処理。横方向ミガキ。 高台付陶器。	内 021.0 黒 外 0198.6 赤赤黒	白色細粒・赤褐色粒少。黒色細 粒。良好。	口縁~体部1/8 上面
8	土師器 高台付杯	高台(8.0)	内外面ロクロナズのら内面黒色処理。ヘラミガキ。底部回 転車切りのら高台付。全面ロクロナズ。底部内 面使用による磨粒。	内 021.0 黒 外 2.5187.4 ぶい・黄 緑	白色細粒多。黒色・赤褐色細粒 や少。透明釉状。金色雲母。良 好。	床底 口縁部全 高台 1/2 床底
9	土師器 高台付杯	高台(7.2)	内外面ロクロナズ。高台付。底部外面全面ロ クロナズ。	内 2.5172.3 黄 緑 外 2.5187.4 ぶい・黄 緑	白色・黒色細粒少。良好。	床底 体部下層~底 部・高台1/2 床底
10	草葺 壺	底(10.4)	内面無文当て長柄。ナズ。外面平行印。南北念座か。 上端外圧。上からヘケズリ。胴部内面ナズ。焼 成痕の痕位記録あり。	内 2.5187.4 ぶい・黄 緑 外 0194.2 灰黄緑	白色色や少。白色針状物少。 白色粒・透明釉状。良好。	口縁部1/4 胴上層1/8 カケ下 床底
11	土師器 壺	口(23.2)	口縁部ナズ。内外面に粘土接合痕。胴部外面 上端外圧。上からヘケズリ。胴部内面ナズ。焼 成痕の痕位記録あり。	内 0193.3 黒 外 0196.4 ぶい・黄 緑	灰色・白色細粒多。白色細粒・ 赤褐色粒。良好。	口縁部1/4 胴上層1/8 カケ下 床底
12	土師器 壺	底(10.4)	内面内面ナズ。外面砂目。胴部外面左から右方ヘ ケズリ。スチ付。	内 2.5187.4 ぶい・黄 緑 外 0194.2 灰黄緑	灰色・黒色細粒多。白色細粒や 多。赤褐色粒少。良好。	底部1/8 上面
13	灰輪陶器 杯	口(13.0)	ロクロナズのら内外面に薄く灰輪。光ヶ丘1号窯式 か大塚2号窯式。	内 0171 灰白 外 0181.1 灰白	白色・灰色細粒。良好。	床底 口縁部一部 1層
14	灰輪陶器 壺	口(11.0) 高台(8.4)	内外面ロクロナズ。外面の上平に輪付。弁ヶ谷19 号窯式。	内 2.5186.2 灰黄 緑 外 0152 灰オリーブ	黄色細粒。良好。	体部一 部(下層)
15	灰輪陶器 壺	口(13.0)	ロクロナズのら内外面に灰輪。光ヶ丘1号窯式 または大塚2号窯式。	内 0171 灰白 外 0197.4 ぶい・黄 緑	黒色細粒。良好。	体部一 部

## SI-335

1	土師器 杯	口(11.5) 底 5.4 高 4.3	内面~体部外面ロクロナズ。底部回転車切り。	内 0197.4 ぶい・黄緑 外 #	灰色細粒や多。黄色細粒や少。 赤褐色粒。良好。	床底 口縁部2/3 体 下部完全 床底
2	土師器 杯	口(13.0) 底 (7.0) 高 3.3	内面~体部外面ロクロナズ。体部内面ヘラミガキ。 底部外面へウ切り。	内 2.5187.4 ぶい・黄 緑 外 2.5187.6 黒	白色細粒多。白色・透明細粒少。 灰色細粒。良好。	床底 口縁~体部1/8 底部1/3 床底
3	土師器 高台付杯	口(11.0) 底(5.0) 高 3.3	内面~体部外面ロクロナズ。外面体部下層左から右 方へ。底部一方向へ平持ちヘラケズリ。	内 0197.7 ぶい・黄緑 外 2.5186.6 黒	灰色粒・白色細粒・黒色細粒少。 灰色粒。良好。	口縁~体部1/4 底部 1/3 埋土下層
4	土師器 高台付杯	高台(8.4)	内外面ロクロナズ。底部外面高台付。底部全 面ロクロナズ。	内 0184.4 ぶい・赤 黒 外 2.5184.6 赤黒	白色細粒や少。赤褐色粒・黒 色細粒。金色雲母少。良好。	床底 口縁部全 高台 1/4 床底
5	土師器 杯	底(6.4)	内面ロクロナズのら内面黒色処理。ヘラミガキ一方向 のら内面に印状。行。外面体部下層ロクロナズ。底 部平持ちヘラケズリ。	内 0181.0 黒 外 0197.4 ぶい・黄 緑	黄色細粒多。白色細粒少。良好。	底部1/5

第4章 発見された遺物

第2次調査区

SI-335

6土師器 杯	底 (7.2)	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理・ヘタリ びれ。底外面均等に削り、	内 2.512.0 外 2.517.2 黄褐色	白色・黒色細粒少。良好。	床底 体部下方～底面 1.6 床底
7 須恵器 杯	底 6.4	内面～体部外面ロクロナデ。底面均等へ切り のちナデ。体外面に漆喰あり。内外面にタール 付。打明し。両面直造り。	内 2.515.1 黄 外 2.517.2 黄褐色	白色細粒やや多。黒色細粒少。 黒色粗粒。良好。	床底 体部下半～底面 存在 床底
8 須恵器 高台付杯	高台 6.2	内外面ロクロナデ。底面高台付。ロクロナデ、 二造り。	内 2.516.1 黄 外 2.517.2 黄褐色	白色・黒色細粒少。良好。	底～高台 1/4
9 須恵器 盤		ロクロナデのち大井外面1回削りの手得ちへラケ ズリ。中心部に削り付。ロクロナデ。磁子造り。	内 2.515.0 黄 外 2.517.2 黄褐色	白色粒少。白色細粒やや少。灰 色粗粒。良好。	大井中央部1.6寸～大 井1.3寸 上面

SI-336

1 須恵器 杯	口 13.0 底 6.2 高 4.1	内面～体部外面ロクロナデ。底面削断直切り。内 面黒色に着色し、口縁部に打筋のタール付。三造 り。	内 2.512.0 外 2.517.1 黒	白色細粒。良。	床底 (注) 存在 No.11 (床底)、下層
2 土師器 杯	口 12.1 底 5.0 高 3.7	内面～体部外面ロクロナデ。底面削断直切り。口 縁部にタール付。内外面黒色皮状の部分あり。	内 2.518.2 灰白 外 2.517.1 灰白	灰色・白色細粒多。黒色細粒や や少。良好。	5cm 存在 No.3
3 土師器 杯	口 (11.0) 底 5.0 高 4.6	内面～口縁部外面ロクロナデ。内面黒色処理。体部外 面ケズリ。底面外面砂目。	内 2.512.1 黒 外 2.513.2 黒褐色	白色細粒やや多。白色粒やや少。 赤褐色粒。やや良。	口縁～体部1/5 底面 注) 存在 下層
4 土師器 杯	口 (11.0) 底 5.6 高 3.4	内面～口縁部外面ロクロナデ。内面一部へラケ。外 面体部上半無調物。押込面あり。下半手得ちへラケ ズリ。粘土層結合あり。底面一部均等。	内 2.512.0 外 2.514.4 黒	白色細粒やや多。白色粒やや少。 赤褐色・黒色細粒。良。	5cm 口縁1/4 体部2/3 底面存在 No.2
5 土師器 杯	口 (12.0)	内外面ロクロナデのち内面黒色処理・ヒラキ。	内 2.512.0 外 2.517.2 灰白	灰色粒やや多。白色・黒色・黄 色粒。良好。	口縁部1.6
6 土師器 高台付杯	口 (13.0) 高台 7.0 高 5.2	内面体部口縁下1具ナデ上げ。黒色処理・ヒラキ。 口縁部内外面ロクロナデ。外面体部上段理直。無調 物。下半手得ちへラケズリ。底面高台付。ナデ。	内 2.512.0 外 2.517.1 灰白	黒色細粒やや多。白色細粒やや 少。白色粒。褐色細粒。良好。	口一部1/4 底面存在 下層。床底。床下直
7 灰釉陶器 高台付杯	高台 12.0	内外面ロクロナデ。内面全面灰釉施す。底面に黒い 外周ケズリあり。底面黒色付。全面ロクロナデ。光 澤1号施す。	内 2.516.2 グリヤ灰 外 2.517.1 灰白	白色粒・黒色細粒少。良好。	床底 底面1/2 床底
8 土師器 盤		口縁部ロクロナデ。胴内面ナデ。胴部外面へラケ。 へラケズリ。	内 2.517.4 灰白 外 2.518.6 黄褐色	白色細粒少。黒色粒やや少。白 色粗粒。良好。	胴部一部 上層
9 土師器 無須恵器	口 (20.4)	口縁部ロクロナデ。一部へラケナデ。胴部内面へラケナ デ。胴部外面。横・斜方向へラケズリ。内外面にスス コケ付。	内 2.518.6 明赤 外 2.516.6 黒	白色細粒やや多。赤褐色細粒・ 透明粒。良好。	胴部一部 上層
10 土師器 盤	口 (31.0)	口縁部ロクロナデ。外面指節押正。粘土層結合。黒 色あり。口縁部が長く。外面は皮状化になってい る。	内 2.516.4 灰白 外 2.518.4 黄褐色	白色細粒やや多。黒色細粒やや 少。褐色細粒。白色透明粒。 良好。	口縁部1/5 上層。上層。下層
12 土師器 盤	口 19.2	口縁部ロクロナデ。胴部外面上半理直。下半へラケ ズリ。内面上下位ナデ。中・下位ナデ。胴外面に粘 土付。カマドの土あり。	内 2.518.6 4 灰白 外 2.518.4 黄褐色	白色粒・褐色粒・褐色細粒。良。	口一部上層1/2 胴下半 1/4 下層
13 須恵器 盤		底面一部黒色無文当り具。ナデ。外面平タタキ。 底面不明。	内 2.516.1 灰 外 2.516.1 灰	白色細粒多。白色粗粒・白色細粒。 良好。	床底下 底面一部 床 底
14 須恵器 盤		胴部内面に均等に打筋。外面磨き印。底面 不明。	内 2.516.1 灰 外 2.516.1 灰	白色細粒少。良好。	胴部一部 上層。下層

SI-337

1 須恵器 杯	底 (5.8)	底面削断直切り。外面削断直切り。内面に黒色 付着あり。右明し。二造り。	内 2.517.2 灰黄 外 2.518.6 黒	黒色細粒やや多。白色細粒少。 白色粒。やや不良。	底面1/4 1層
2 須恵器 杯	底 (5.6)	内外面ロクロナデ。底面へ切り切りナデ。磁子 造り。	内 2.515.1 灰 外 2.517.2 灰黄	白色粗粒・白色細粒やや少。良好。 良好。	床底 体下半～底面1/5 床底
3 土師器 杯	底 (6.8)	ロクロナデのち。内面へラケ。底面へ切り切り ナデ。	内 2.516.4 灰白 外 2.517.2 灰黄	灰色・白色細粒やや少。黒色・ 褐色細粒。良好。	体下半～底面1.6 2層
4 土師器 杯	口 (6.6)	内面横方向びれ。外面口縁部ロクロナデ。体部右 から左方へ。横・斜方向へラケズリ。	内 2.518.6 黒 外 2.518.6 明赤	赤褐色粒・白色細粒やや多。黒 色細粒やや少。透明粒。良好。	口縁部一部 体部1/8 1層
5 灰釉陶器 盤		内外面ロクロナデのち。内面に灰釉施す。ややく す。底面1号施す。	内 2.517.1 灰白 外 2.517.1 灰白	黒色粗粒。良好。	口縁部一部。
6 土師器 盤	口 (12.0)	口縁部ロクロナデ。外面指節。粘土層結合あり。内 面胴部ナデ。へラケ。外面胴部右から左方へラケ ズリ。外面にススコケ付いている。	内 2.517.4 灰黄 外 2.513.1 黒褐色	白色細粒多。黒色・透明細粒少 やや良。	口縁部1.6 2層

SI-368

1 土師器 杯	口 (13.0) 高 2.9	内面体部横方向の。底面 方向びれ。外面体部 右から左方へラケズリ。粘土層結合あり。底面多方向 ケズリ。	内 2.518.6 黒 外 2.518.6 黒	赤褐色細粒・褐色粒多。黒色細 粒やや多。白色細粒少。良好。	22cm 口縁部一部 体 部1/6 底面1/4 No.15
2 土師器 杯	口 (14.0)	内面直造りへラケ。外面口縁部ロクロナデ。体部 右から左方へへラケズリ。	内 2.518.5 明赤 外 2.517.2 灰黄	白色細粒やや多。赤褐色粒。良 好。	23cm 口縁部一部 No.17
3 土師器 杯	口 (15.4)	内面直造りへラケ。外面口縁部ロクロナデ。体部 右から左方へラケズリ。	内 2.518.6 明赤 外 2.518.6 明赤	透明細粒やや少。白色細粒・褐 色粒。良好。	24cm 口縁部1/4 No.5,6
4 土師器 杯	口 (11.0) 底 (7.0) 高 2.8	内面～口縁部外面ロクロナデ。漆仕上げ。底面外面多 方向ケズリ。	内 2.517.2 灰黄 外 2.517.2 灰黄	白色細粒やや多。白色細粒少。 透明細粒。良好。	23cm・30cm 口縁～底面 1/2 No.17,21
5 土師器 杯		内面不定方向のナデ。外面横方向へラケズリ。 中心部に削りあり。丸底気味である。	内 2.518.2 灰白 外 2.518.2 灰白	白色・黒色・透明細粒少。良好。	底面1/2 フタド底

第2次調査区

SI-368

6. 土師器 杯		底部内面方向へミガキ。外面木炭痕。	内 白灰6.0明赤褐色 外 2.976.2灰黄 外 2.976.2灰黄	白色細粒やや少。黒色細粒・透明 粒少。良好。	32cm 底部中央部一部 No.23
7. 須恵器 杯	口 15.0 底 9.4 高 3.8	内面・外面外面口ロナダ。底部回転糸切りのち、中心部を削りて2回転ヘラケズリ。三森産。	内 5.711灰白 外 2.976.2灰黄 外 2.976.2灰黄	白色細粒少。白色細粒・黒色細 粒やや少。良好。	35cm 口縁部一部 底部 1/3 No.20
8. 須恵器 杯	底 6.0	内面・外面外面口ロナダ。底部へラ切りのちナツ。焼成跡のへラ記号あり。益子産。	内 2.976.3にぶい黄褐色 外 2.976.2灰黄 外 2.976.2灰黄	白色細粒少。良好。	体部一部 底部2/5 フタ付
9. 須恵器 杯	底 8.0	内面・外面外面口ロナダ。底部へラ切りのちナツ。益子産。	内 2.976.3にぶい黄褐色 外 2.976.2灰黄 外 2.976.2灰黄	白色細粒多。白色・灰色細粒少。 良好。	24cm 底部1/2 No.8
10. 須恵器 杯	底 (貫8.0)	内面・外面外面口ロナダ。底部外面へラ切り。益子産。	内 2.977.1灰白 外 2.977.2にぶい黄褐色	灰色細粒やや少。灰色細粒・白 色細粒少。良好。	30cm 底部1/4 No.16

SI-376

1. 須恵器 壺	口 20.0 高台 18.0 高 3.4	内面・外面外面口ロナダ。底部高台付。全面口ロナダ。益子産。	内 2.976.3青灰 外 2.976.2灰黄	白色粒やや多。白色細粒。良好。	口縁・底部1/8 高台1/3 上面
2. 土師器 杯		内面横方向へラミガキ。外面口ロナダのち縦方向の細いヘラミガキ。粘土が精良でミガキが細く、焼入が高い。	内 2.978.9明赤褐色 外 2.978.2灰白	赤褐色・白色微粒散。良好。	体部一部 上面

SI-378

1. 土師器 杯	口 10.9 底 4.2 高 3.2	内面・外面外面口ロナダ。底部へラ切りのち口ロナダ。体部外面に墨書「花」か。	内 2.972.3にぶい黄褐色 外 2.972.2灰黄	白色細粒やや多。黒色細粒・赤 褐色粒・灰色粒少。良好。	口縁・高台1/3 カマド上面
2. 土師器 鉢	口 9.0	口ロナダのち、体部内面に横方向、外面に横方向の縦方向のミガキを施す。	内 2.978.6明赤褐色 外 2.978.4にぶい黄褐色	黒色細粒多。灰色・黒色粒少。 良好。	口縁・体部上位1/6 上面
3. 土師器 壺	口 23.0	口縁部口ロナダ。胴部外面上位押込痕。粘土接合痕あり。中位左右に左へラミガキ。内面へラミ。割圧痕あり。中位横方向ナツ。胴部外面にカマド粘土とスス付。	内 2.977.3にぶい黄褐色 外 2.977.4にぶい黄褐色	白色・白色・褐色細粒やや多。 赤褐色粒・金色異質付。良好。	口縁部1/3 胴上位1/4 上面

SI-379

1. 土師器 六付壺		底部内面へラミガキ。外面内外面口ロナダ。内面に押込痕あり。	内 2.977.4にぶい黄褐色 外 2.977.4にぶい黄褐色	白色・白色細粒多。赤褐色細粒少。 やや多。	口縁上平完存 上面
2. 須恵器 杯		底部外面回転糸切りのち、外面回転ヘラケズリ。内面調整不明。三森産。	内 2.972.2灰黄 外 2.972.2灰黄	黒色細粒少。白色細粒やや少。 不見。	底部一部 上面

第4次調査区

SI-406

1. 土師器 杯	底 7.0	内面黒色処理・方向へラミガキ。外面外面口ロナダ。下縁に木口圧痕あり。底部回転糸切り。	内 31.5.0黒 外 2.976.6橙	白色・白色・赤褐色細粒少。良好。	体部下縁・底部1/4 上面
2. 灰陶器 皿		内外面口ロナダ。灰輪施す。黒帯90号型式立。	内 2.978.2灰白 外 2.978.2灰白	良好。	口縁部一部 上面

SI-436

1. 須恵器 杯	底 6.0	内面・外面外面口ロナダ。底部回転糸切り。三森産。	内 2.975.2増灰黄 外 2.975.2増灰黄	白色・白色細粒少。良好。	底部1/5 上面
2. 須恵器 杯	底 5.0	内面・外面外面口ロナダ。底部回転糸切り。三森産。	内 2.975.3にぶい黄褐色 外 2.975.3にぶい黄褐色	白色細粒少。褐色粒散。良好。	体部下位・底部1/2 上面
3. 灰陶器 皿		口ロナダのち、内面やや窄く、外面薄く灰輪施す。黒帯90号型式立。	内 2.976.3オリーブ黄 外 2.977.1灰白	黒色細粒散。良好。	口縁部一部 上面
4. 灰陶器 皿	口 16.0	口ロナダのち、内面は厚く、外面やや狭く灰輪へラケズリ。黒帯90号型式立。	内 2.976.2灰オリーブ 外 37.0灰白	良好。	口縁部一部 上面
5. 土師器 鉢		内面黒色処理・ヘラミガキ。外面口ロナダ。	内 31.5.0黒 外 2.972.4にぶい黄褐色	白色・灰色・褐色細粒少。良好。	体部一部 上面

SI-437

1. 須恵器 杯	底 5.0	内面口ロナダ。底部へラ切りのちナツ。益子産。	内 2.976.2灰黄 外 2.976.2灰黄	白色細粒散。良好。	底部1/6 上面
2. 土師器 杯	口 13.0 底 7.2 高 3.0	口ロナダのち内面黒色処理。底面外面ナツ。	内 31.0灰 外 2.976.2灰黄	白色細粒やや多。白色粒少。良好。	口縁・底部1/8 上面
3. 土師器 杯	口 11.2	口ロナダのち、内面へラミガキ。外面体部下平持へラケズリ。	内 2.978.2灰白 外 2.978.2灰白	黒色細粒・透明粒少。白色粒・ 褐色細粒散。良好。	口縁部1.6 上面
4. 土師器 杯	底 6.5	底部内面黒色処理・三方方向へラミガキ。体部外面口ロナダ。下縁に粘土接合痕あり。底部へラ切り。	内 31.5.0黒 外 2.978.3黄褐色	白色細粒散。良好。	底部3/4 上面
5. 土師器 杯	底 7.2	内面・外面体部上平持口ロナダ。内面黒色処理・ミガキ。外面体部下平持へラケズリ。底部糸切り。	内 31.5.0黒 外 2.972.4黄褐色	白色細粒・灰色粒少。透明粒散。 良好。	体部一部 底部1/3 上面
6. 土師器 高台付杯	高台 19.2	内面黒色処理・方向へラミガキ。外面高台付。底面内面厚削し。用痕度高い。	内 31.5.0黒 外 2.976.6橙	黒色細粒多。褐色粒散。良好。	高台1/3 上面
7. 土師器 杯		口ロナダのち内面黒色処理・ミガキ。体部外面に墨書。	内 31.5.0黒 外 2.975.9黄褐色	白色細粒少。透明細粒散。良好。	体部一部 上面
8. 土師器 杯		口ロナダのち内面黒色処理・ミガキ。体部外面に墨書。	内 31.5.0黒 外 2.978.4にぶい黄褐色	白色細粒少。透明・黒色細粒散。 良好。	体部一部 上面
9. 土師器 杯		口ロナダのち内面黒色処理・ヘラミガキ。体部外面に墨書「子」か。	内 31.5.0黒 外 2.978.2灰白	白色細粒やや多。透明細粒散。 良好。	体部一部 上面
10. 灰陶器 皿		口ロナダのち、内外面やや窄く灰輪施す。黒帯90号型式立。	内 2.978.2灰白 外 2.978.2灰白	黒色細粒散。良好。	口縁部一部 上面

## 第4章 発見された遺物

## 第4次調査区

## SI-437

13 土師器 高台付小 皿	口 18.0	内外面ロコナデ、縁輪軸手。縁輪直。縁輪直。	内 1015/2 オリーブ灰 外 〃	良好。	口縁部一部
14 土師器 壺	口 18.0	口縁部コナデ、胴部外面ケズリ、内面斜方向ナデ、ヘラナデ。胴部外面にスス付。	内 2.518/3 浅黄褐色 外 〃	白色細粒少、黒色・透明細粒、良好。	口縁～胴部上位1/4 上蓋
15 土師器 壺	口 18.0	口縁部コナデ、外面押圧痕あり。胴部外面ケズリ、内面ナデ、ヘラナデ。	内 1015/6 明赤褐色 外 〃	白色細粒やや多、黒色細粒・透明細粒・白色粒少、良好。	口縁部1/5 上蓋
16 土師器 鉢	口 10.8	口縁部コナデの内面ケズリ、体部内面押圧のちミガキ、体部外面ヘラケズリ。	内 10186/2 灰黄褐色 外 10186/6 明黄褐色	白色細粒やや多、黒色細粒少、良好。	口縁～体部1/3 上蓋
17 土師器 杯	底 08.0	内面～体部外面ロコナデ、内面ミガキ、体部外面～底面外面半持ちヘラケズリ、中央付近に半切り痕あり。	内 2.517/2 灰黄 外 〃	黒色・透明細粒、良好。	底面1/6 上蓋

## SI-438

1 土師器 高台付小 皿	口 15.0	ロコナデの内面黒色処理・ヘラミガキ。	内 11.5/0 黒 外 2.5186/6 黒	赤褐色・白色細粒少、透明細粒、良好。	12cm.30cm 口縁～体部1/4 No.19,22
2 土師器 杯	口 13.2	内外面ロコナデ。	内 2.517/2 灰黄 外 〃	灰色細粒やや多、透明細粒・黒色細粒、不色。	口縁部1/8 下蓋
3 土師器 杯	底 06.0	ロコナデの内面黒色処理・ミガキ、底面外面半切りのち丸縁半持ちヘラケズリ。	内 11.5/0 黒 外 2.5186/6 黒	白色細粒少、透明細粒、良好。	底面1/4 上蓋
4 土師器 高台付 高台付陶 器	口 13.0 高台 7.6 高 5.3	内外面ロコナデ、底面高台縁付、全面ロコナデ。	内 11.5/0 黒 外 10186/2 灰黄褐色	白色細粒やや多、透明細粒少、黒色細粒・赤褐色粗粒、良好。	16cm 口縁部2/5 体下部～高台存在 No.30
5 土師器 高台付 高台付陶 器	口 14.0 高台 12.6 高 5.4	内面黒色処理・ミガキ、外面口縁部コナデ、体部上押圧痕、下半手持りヘラケズリ。底面中央部砂目。高台縁付、ナデ。	内 11.5/0 黒 外 10186/3 浅黄褐色	白色細粒やや多、透明・黒色細粒やや多、赤褐色粗粒少、良好。	12cm 口縁部1.8 底～高台1/3 No.30
6 土師器 高台付 高台付陶 器	高台 09.2	ロコナデの内面黒色処理・ミガキ、体部外面回転ヘラケズリ、高台縁付、ロコナデ。	内 11.5/0 黒 外 2.5186/4 にい・黄褐色	白色細粒やや多、透明・黒色細粒、良好。	12cm 13cm 体部1/2 底面～高台1/4 No.23,25,29,30
7 灰輪陶器 碗	内外面ロコナデ、今や薄く内外面に施軸、黒色90号式法。	内 015/1 灰 外 〃	良好。	6cm 口縁部一部 No.50	
8 灰輪陶器 碗	ロコナデの内外面施軸、黒色90号式法。	内 018/1 灰白 外 〃	黒色細粒少、良好。	口縁部一部 上蓋	
9 灰輪陶器 碗	内外面ロコナデ、外面体部下回転ヘラケズリ。灰輪内外面に薄く施す。黒色90号式法。	内 017/1 灰白 外 〃	黒色細粒少、良好。	体部一部 上蓋	
10 灰輪陶器 碗	内外面ロコナデの、高台縁付・ロコナデ、内面体部に灰輪軸付。産地不明。	内 2.517/1 灰白 外 2.516/1 黄灰	黒色細粒少、良好。	底面～高台一部 上蓋	
11 灰輪陶器 碗	内外面ロコナデの、灰輪薄くハケ塗、黒色90号式法。	内 2.517/1 灰白 外 〃	黒色細粒少、良好。	15cm 体部一部 No.44	
12 土師器 片口鉢	口 16.0	口縁部内外面コナデの内面斜方向ヘラミガキ、体部内面斜方向ヘラミガキ、外面上位ナデ、中央右から左方へのヘラケズリ、片口部分内面指すえ、外側ひねりなし。	内 2.5185/8 明赤褐色 外 10186/6 黒	白色細粒やや多、黒色・赤褐色粗粒少、良好。	口縁1/4 体部一部 カマド
13 灰輪陶器 高台付 高台付陶 器	高台 09.0	高台ロコナデ、高台内面に縁付軸、井ヶ谷78号式法。	内 2.514/3 暗オリーブ 外 2.516/1 灰	白色細粒少、良好。	12cm 高台1/8 No.25
14 土師器 小壺	口 9.5 底 6.6 高 10.0	口縁部コナデ、胴部内面粘土接合痕あり、ナデ、胴部外面ケズリ、底面外面～口縁部内面スス付。	内 2.5185/8 明赤褐色 外 10183/1 黒褐色	今や傾い、白色・灰色細粒やや多、透明細粒・黒色粒・白色粒少、良好。	12cm 底存在 No.13
15 土師器 口 20.4	口縁部コナデ、内面に押圧痕あり、胴部内面ケズリ、外面押圧痕、スス付。	内 10183/6 明赤褐色 外 10183/2 黒褐色	赤褐色粗粒少、黒色・透明細粒、良好。	口縁～胴上位1/2 上蓋、1層	

## SI-439

1 須恵器 高台 7.2	内外面ロコナデ、底面高台縁付、ロコナデ、内外面の一部に漆の付着あり、益子産。	内 015/1 灰 外 2.515/1 灰 漆 012/1 灰	白色粗粒・黒色細粒少、白色粒やや多、良。	底面 体部4/5 底面存在 No.15,22 1層	
2 土師器 杯	口 9.9 底 5.8 高 3.6	内面～体部外面ロコナデ、底面回転半切り、赤が底面を切つてしまい、内側に粘土貼。外面に「直」の彫筋、打明すべ付。	内 2.5186/6 黒 外 〃	白色細粒やや多、赤褐色粒・透明細粒・黒色細粒、良好。	3cm 口縁部3/4 体下部～底面存在 No.2
3 土師器 杯	底 06.2	ロコナデの内面黒色処理・ミガキ、底面回転半切り。	内 11.5/0 黒 外 10186/4 黄褐色	白色・黒色・灰色細粒少、良好。	8cm 底面1/4 No.9
4 土師器 高台付 高台付陶 器	口 14.0	内外面ロコナデの内面内面ミガキ、底面回転半切りのち高台縁付（割線）。	内 2.5186/6 黒 外 〃	白色細粒少、灰色粒やや多、透明細粒少、白色粒、良好。	2cm 口縁部1/6 底面1/4 No.3
5 灰輪陶器 高台付 高台付陶 器	高台 10.9	高台縁付、ロコナデ、外面に軸あり、井ヶ谷78号式法。	内 7.615/1 灰白 外 〃	白色細粒少、白色粒やや多、黒色細粒、良好。	底、高台1/5 カマド上面
6 灰輪陶器 碗	ロコナデ、内外面に灰輪軸付、黒色90号式法。	内 017/2 灰白 外 〃	黒色粗粒、良好。	体部 口縁部一部 No.23	

## SI-448

1 土師器 杯	底 08.0	内外面ロコナデ、外面体部下端にはみ出し粘土あり、底面回転半切り、内外面にケール付、打明し。	内 10186/4 にい・黄褐色 外 〃	白色・透明細粒少、良好。	底面1/5 上蓋
2 土師器 壺	内外面ロコナデ、外面ヘラケズリ。口縁部下には2cm程度のひねり。	内 10186/6 明黄褐色 外 10186/8 黄褐色	白色・透明細粒少、良好。	口縁部一部 上蓋	
3 灰輪陶器 注筒	高台 08.0	ロコナデの内面に高台縁付、ロコナデ、内面底面・体部、外面体部に灰輪軸付、内面に重く焼き痕あり、尾車輪脚4号式法面平。	内 2.517/1 灰白 外 〃	今や砂質、良好。	体部一部 高台1/3 上蓋

第4次調査区

SI-449

1 土器部 坪	底 (1.8)	内面→体部外面ロクロナデの内面黒色処理。外面体部下端に粘土接合痕あり。底部回転軸切り。焼成面への付記番号あり。	内 31.5.0 黒 外 30786.3にぶい・黄褐色	赤褐色彩・黒色細彩少。良好。	底面 1/4 上面
2 土器部 坪	底 (6.2)	内面→体部外面ロクロナデ。底部外面手持ち→ヘラケズリ。	内 2.5786.6 橙 外 #	灰色細彩多。白色細彩少。良好。	底面 2/5 上面
3 土器部 塊	底 (9.4)	ロクロナデの内面黒色処理・ミガキ。外面体部下段→底部手持ち→ヘラケズリ。	内 31.5.0 黒 外 2.5786.6 浅黄褐色	赤褐色彩・赤褐色細彩やや多。白色細彩やや少。赤褐色粗彩。良好。	体部一部 底面 1/4 底面
4 灰輪陶器 皿	高台 (7.1)	ロクロナデの底面に高台貼付け。内面見込み以外と体部外面に灰輪厚く施す。重ね焼き痕あり。折戸33号形式(1)。	内 2.577.1 灰白 外 #	黒色細彩やや少。良好。	底面 1/5 上面

SI-450

1 土器部 坪	口 (11.8)	内面ロクロナデの内面黒色処理→ヘラミガキ。外面ロクロナデの体部一部斜方向ナデ。口縁部摩耗(1著しく使用頻度高い)。	内 31.5.0 黒 外 2.577.3 浅黄	白色・褐色細彩少。良好。	2cm 口縁→体部 1/5 No.3
2 土器部 坪	底 (7.0)	内面ロクロナデの内面黒色処理→ヘラミガキ。体部外面ロクロナデ。底部回転軸切り。底部内面摩耗(1使用頻度高い)。	内 31.5.0 黒 外 30787.3にぶい・黄褐色	灰色彩やや少。黒色細彩少。良好。	底面 1/4 上面
3 土器部 坪	底 (6.0)	内面黒色処理→方向ミガキ。外面底部→体部一方ヘラケズリ。	内 31.5.0 黒 外 30785.4にぶい・黄褐色	透明細彩やや少。白色細彩少。良好。	8cm 底面 1/4
4 原始灰輪 高台	高台 (8.8)	底部回転軸の土高台貼付け。ロクロナデ。底部内面に自然釉付着。弁ヶ谷78号形式。	内 057.1 灰白 外 #	白色細彩少。黒色粗彩。良好。	5cm 底面・高台寛存 No.10
5 土器部 塊	口 (15.4) 高 (7.4) 高 4.3	内外面ロクロナデ。内面黒色処理。体部斜方向。底部→方向ミガキ。底部回転軸切り。	内 31.5.0 黒 外 2.578.3 浅黄	灰色細彩やや多。黒色細彩やや少。赤褐色細彩。良好。	2cm.5cm 口縁 2/5 ~ 底面 1/2 No.5,7,8,12

SI-451

1 原始器 高台付坪	底 (7.0)	内面→体部外面ロクロナデ。体部外面に3段の粘土接合痕あり。底部回転軸切り。三發産地。	内 2.578.2 灰白 外 #	灰色彩多。黒色細彩やや多。不良。	12cm.30cm 体部 下平 1/3 底面 2/5 No.2
2 原始器 高台付坪	高台 (7.2)	内面ロクロナデ。底部高台貼付け。ロクロナデ。高台は断面方向である。調査地不明。	内 30786.4にぶい・黄褐色 外 #	白色細彩少。褐色彩・褐色細彩やや少。全く白。	高台 1/5 上面
3 土器部 坪	口 (12.2)	内面ロクロナデの内面。黒色処理→ヘラミガキ。外面体部内から左へ斜方向手持ち→ヘラケズリ。底部ナデ少。やや丸底気味になっている。	内 83.0 暗灰 外 30787.4にぶい・黄褐色	透明細彩多。透明・黒色細彩少。赤褐色彩少。	口縁部 1/8 体部 1/6 上面
4 土器部 坪	底 (6.6)	内面→体部外面ロクロナデ。体部外面に粘土接合痕2段。焼成面の区画1条あり。底部回転軸切り。体部外面に黒炭痕あり。	内 30786.4 浅黄褐色 外 #	白色・黒色・透明細彩少。良好。	20cm 体部下段 1/4 底面 1/3 No.2,7,8
5 土器部 坪	底 7.0	内面→体部外面ロクロナデ。底部→ヘラケズリ。	内 30784.1 焼灰 外 #	白色細彩やや多。黒色・透明細彩。良好。	35cm 底面 2/3 No.9
6 土器部 坪	口 (12.0) 底 (8.6)	内面→口縁部外面ロクロナデ。底部→体部外面ケズリ。	内 30783.3 暗褐色 外 #	やや暗い。白色細彩やや多。透明・黒色細彩。良好。	39cm 口縁部 1.6 体部 ・底面 1/4 No.10
7 土器部 坪	口 (11.2) 底 5.8 高 3.4	内面→体部外面ロクロナデ。底部回転軸切り。	内 2.5786.6 橙 外 #	白色細彩やや多。白色彩少。透明・黒色細彩。良好。	30cm 口縁 1/3 体部下 段→底面 5.6 No.30
8 灰輪陶器 塊		内外面ロクロナデの内面黒色薄く施す。黒原 90 号形式(2)。	内 2.577.1 灰白 外 #	白色細彩。良好。	口縁部一部 中層
9 灰輪陶器 塊(小)		内面に輪軸厚く施す。外面高台貼付け。ロクロナデ。黒原 90 号形式(2)。	内 036.3 オリーブ黄 外 338.1 灰白	黒色細彩・黒色彩少。良好。	6cm 体部一部 No.19
10 灰輪陶器 盤		断面内外面ロクロナデの内面黒色薄く施す。弁ヶ谷78号形式。	内 7.576.1 灰 外 #	白色細彩・黒色彩少。良好。	8cm 断面一部 No.19
11 緑輪陶器 皿		ロクロナデ。内外面やや厚く緑輪施す。緑輪は薄く。染色良くない。外面体部下平は回転→ヘラケズリか。調査地不明。	内 7.576.2 灰白 外 #	緑質。良好。	口縁部一部 中層
12 緑輪陶器 塊		ロクロナデ。内外面薄く緑輪施す。緑輪は薄く。染色良くない。外面体部下平は回転→ヘラケズリか。調査地不明。	内 038.2 灰白 外 #	緑質。良好。	19cm 体部一部 No.20
13 土器部 壺	口 (20.8)	口縁部内外面ロクロナデ。胴部外面押圧痕。内面→ヘラケズリ。	内 30786.3にぶい・黄褐色 外 #	白色・黒色細彩やや少。良好。	24cm 口縁部 1/4 No.3

第5次調査区

SI-495

1 土器部 壺	口 (32.0)	口縁部内外面ロクロナデ。押圧痕あり。内面断面土質横方向へナデ目。その下は縦方向ナデ。外面胴部ナデの右横方向。横方向→ヘラケズリ。外面全面にスズ付着。赤色雲母を含む上からの灰炭痕あり。	内 3316.9 明赤褐色 外 3382.1 黒褐色	白色細彩・赤色雲母やや多。透明細彩やや少。褐色彩。良好。	2cm 口縁部 1/8 胴上 平 1/5 No.3
2 土器部 壺	底 (13.6)	内面ロクロナデ。胴部外面→ヘラケズリ。底部外面無施装一部ナデ。	内 3316.6 明赤褐色 外 2.572.1 黒	白色細彩やや多。透明細彩。良好。白色細彩・赤色雲母。良。	2cm.6cm 胴部下段 3/4 底面 1/2 No.2,3,4,6

SI-496

1 土器部 坪	底 (6.2)	内面ロクロナデの内面黒色処理→ミガキ。体部外面ロクロナデ。底部回転軸切り。	内 31.5.0 黒 外 30786.6 明黄褐色	褐色彩少。白色細彩。良好。	4cm.6cm 底面 1/4 No.15, 26
2 原始器 坪	底 (7.0)	内面ロクロナデ。底部回転軸切り。三發産地。	内 30786.4にぶい・黄褐色 外 #	透明・白色細彩少。やや不良。	5cm 底面 1/8 No.17
3 原始器 皿	口 (16.8)	口縁部。天部断面内面ロクロナデ。外面2回転→ヘラケズリ。つばみち貼付け。ロクロナデ(剥離)。盆子産地。	内 036.1 灰 外 #	白色細彩やや多。白色粗彩少。良好。	3cm 口縁部 1/4 天部 底 1/3 No.6
4 製煉土器か		内面ナデ。外面焼成する部分で2方向→のナデ。	内 30787.3にぶい・黄褐色 外 2.5786.6 橙	白色細彩少。赤褐色彩・白色彩状物。やや白。	5cm 底面一部 No.9

## 第4章 発見された遺物

## 第5次調査区

## SI-500

1. 土師器 杯	底 6.2	内面ロクロナデのち黒色処理・ヘラミガキ。外面外面ロクロナデ。底部回転車切りのち外周手持ちヘラナデリ。	内 2.512/1 黒 外 2.516/6 黒	白色細粒・赤褐色やや多、白色 較少。良好。	カマド上面 底部下段 以上 底部は完成存 No.1
-------------	-------	--	----------------------------	--------------------------	---------------------------------

## 第6次調査区

## SI-524

1. 土師器 杯	底 6.0	内面ヘラミガキ。外面外面ナデのみ。底部回転車切り。器厚が厚く肌製。	内 2.519/5 明褐色 外 10172/3にぶい黄褐色	赤褐色粒多、白色細粒少。やや 良。	底部 1/6 ツラ下中
2. 土師器 杯	底 7.0	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面外面ロクロナデ。底部回転車切り。	内 83.0 暗灰 外 2.517/2 灰黄	白色細粒少。黒色細粒頗。良好。	体部 一部 底部 2/5 上面
3. 土師器 高台付杯		内外面ロクロナデ。高台は長く外側とのび。内面に土製彫りがある。	内 10172/4にぶい黄褐色	白色細粒・黒色微粒少。良好。	高台一部 上面
4. 須恵器 壺		内面無文で貝痕。外面遺存する部分で上段平行円錐。下段左上から右下へ斜方向ヘラナデリ。三和彫痕。	内 2.515/2 暗灰黄 外	白色粒・白色細粒多。赤褐色粒少 やや良。	胴部一部 上面

## SI-530

1. 土師器 杯	口 14.2	内面ナデ。外面ヘラナデリ。	内 2.517/6 黒 外	赤褐色・黒色・透明細粒頗。良好。	口縁部 1/6 上面
-------------	--------	---------------	------------------	------------------	---------------

## SI-539

1. 須恵器 杯	口 11.8	内外面ロクロナデ。在地不明。	内 1016/1 灰 外	白色細粒やや多。良好。	口縁部 1/8 ツラ下中
2. 土師器 杯	底 7.6	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。外面外面ロクロナデ。底部回転車切り。内面に黒色付着物あり。ケール痕。	内 1021/1 黒 外 10185/2 灰黄褐色	白色・灰色微粒頗。良好。	4cm 底部 1/4 No.5
3. 土師器 壺	底 7.4	内面ヘラナデ。胴部外面ヘラナデリ。底部無調整。	内 10186/4にぶい黄褐色 外	黒色・白色・透明細粒頗。良好。	5cm 底部 4/5 No.4

## 第7次調査区

## SI-560

1. 須恵器 高台付杯	高台 8.6	内面ロクロナデ。外面底部ヘラ切りのち高台黏付け(割製)。ロクロナデ。器口部。	内 10185/1 青灰 外	白色細粒・白色粒やや多。白色 微粒少。良好。	17cm 底部 1/2 No.18
2. 須恵器 高台付杯		内面ロクロナデ。外面底部全面回転ヘラナデリのち高台黏付け。ロクロナデ。新出現。	内 83.0 灰 外	白色細粒・白色粒・白色微・黒 色雲母粒やや多。良好。	底部完全 存 4cm 底部 1/4 No.5
3. 灰陶器 椀		内外面ロクロナデのち灰輪ヘラ塗り。弁ヶ谷 78 号 変式。	内 2.517/2 灰白 外	砂質。黒色細粒少。良好。	体部 一部 No.21
4. 製塩土器		内面ナデ。外面押圧痕。	内 2.519/5 明褐色 外	白色微粒・白色針状物少。赤褐 色細粒少。良好。	体部一部 埋土中
5. 製塩土器		内面ナデ。外面粘土接合痕。押圧痕あり。外面にス ズ付痕。	内 10185/6 明赤褐色 外 10185/5 明赤褐色	白色細粒・白色針状物多。透明 細粒少。良好。	体部一部 埋土中
6. 土師器 壺		内外面ロクロナデ。武器型壺のツノ字状口縁。	内 10184/8 赤褐色 外 10185/6 明赤褐色	白色粒・白色細粒頗。良好。	口縁部一部 埋土中

## SI-566

1. 白磁 椀	口 15.0	内面ロクロナデのち厚く輪軸。玉縁口縁。	内 2.518/1 灰白 外 2.516/3 灰黄	硬質。良好。	口縁部 1/8 埋土中
2. 土師器 杯	底 6.9	内面ロクロナデ。外面底部ヘラ切り。	内 2.514/2 暗灰黄 外	白色細粒少。透明・黒色細粒頗 良好。	底部 1/2 上面
3. 土師器 杯	底 15.0	内面・外面外部外面ロクロナデ。底部回転車切り。	内 2.518/5 明赤褐色 外 2.518/6 黒	白色細粒・赤褐色粒少。良好。	8cm 底部 2/5 No.7
4. 土師器 高台付杯		内面・外面外部外面ロクロナデ。内面黒色処理・ヘラミ ガキ。底部ヘラ切りのち高台黏付け(割製)。内面 磨耗し。使用頻度高い。	内 1021/1 黒 外 2.516/4にぶい黄褐色	金色雲母多。白色細粒少。良好。	4cm 底部完全 存 No.6

## SI-588

1. 須恵器 壺		内面無文で貝痕。外面平行円錐。内面に平滑な部 分があり。転用痕とみられる。器口部。	内 10186/1 青灰 外 2.516/6 1 暗灰	白色・灰色細粒やや少。黒色細 粒少。良好。	2cm 胴部一部 No.3
2. 土師器 杯	口 13.2 底 7.8 高 4.2	内面・外面外部外面ロクロナデ。内面黒色処理・ヘラミ ガキ。底部回転車切り。	内 83.0 暗灰 外 2.516/6 黒	灰色微粒やや多。透明・赤褐色 ・黒色細粒頗。良好。	6cm 口縁部一部 埋土中 No.1
3. 灰陶器 椀		内外面ロクロナデのち灰輪ヘラ塗り。器底 90 号変 式。	内 2.517/2 灰黄 外	黒色細粒少。良好。	胴部一部 埋土中
4. 土師器 杯	底 6.6	内面ロクロナデのち黒色処理・ヘラミガキ。外面外面 ロクロナデ。底部回転車切り。内面磨耗し。著し く使用頻度高い。	内 10172/1 黒 外 10186/4にぶい黄褐色	黒色細粒やや多。白色細粒やや 少。赤褐色細粒少。良好。	体部一部 底部 1/2 床面直上一括

## 第10次調査区

## SI-674

1. 土師器 杯	口 14.6	内外面ロクロナデ。	内 2.516/6 黒 外	白色細粒やや多。黒色細粒少。 良好。	口縁部 1/6 ツラ下中
2. 土師器 杯	底 6.5	内面・外面外部外面ロクロナデ。底部回転車切り。	内 2.517/6 黒 外 10172/6 黒	白色細粒・赤褐色粒やや多。透明 ・黒色細粒頗。良好。	体部 一部 底部 1/2 2 埋
3. 土師器 杯	底 6.0	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転車 切り。	内 83.0 黒 外 10186/6 黒	赤褐色・赤褐色・黒色細粒頗 良好。	底部 1/4 2 埋
4. 須恵器 高台付杯	脚 12.3	内外面ロクロナデ。外面に自然輪付。	内 2.514/1 灰 外 2.515/1 黄灰	砂質。白色細粒少。良好。	胴部 1/6 2 埋

第 10 次調査区

SI-674

5. 土器 壺	口径 22.0 底 6.3 高 4.5	口縁部コナナ。外面に一段押し痕あり。胴部内面 横方向ナゲ。趾・土線結合あり。外面押し痕。縦方向 ナゲ。直線ナゲ。口唇部平坦。外面にスス付着。	内 2.5V7/6 横 外 〃	白色細粒や今多。透明・黒色細 粒数。良好。	口縁へ胴上半 1/2 カマノ周部
6. 土器 壺	底 9.0	内面ナゲ。胴部外面ケズリ。スス付着。底部外面無 調整。	内 2.5V6/3 に近い黄 赤 09Y8/4 に近い黄赤	白色細粒・色数多。透明・黒 色細粒数。良好。	胴位一部 底部 1/8 2層

第 11 次調査区

SI-680

1. 土器 杯	口径 11.2 底 6.3 高 4.5	内面へ体外面両面コナナ。内面黒色処理のち体部 横方向ナゲ。趾・土線結合あり。外面押し痕。縦方向 ナゲ。直線ナゲ。口唇部平坦。外面にスス付着。	内 82.0 黒 赤 09Y8/3 黄褐色	白色・黒色・灰色細粒少。白色 粗粒数。良好。	9cm 口縁へ体部 1/4 底部完全 No.4, 1/4
2. 土器 杯	口径 13.0	コナナナゲのち内面ナゲ。	内 2.5V7/3 黄赤	灰色細粒少。透明細粒数。良好。	5cm 口縁部 1/8 No.20
3. 土器 杯	口径 11.8	コナナナゲのち内面黒色処理・ヘラミガキ。	内 09Y7/3 に近い黄赤 外 〃	赤褐色・黒色細粒少。良好。	10cm, 20cm 口縁部 1/5 体部 1/4 No.9, 8, 7 上層
4. 土器 杯	底 6.0	内面黒色処理・ミガキ。底部外面調整未切り。底部 外面と破面に黒色付着物(漆カケール)あり。	内 82.0 黒 赤 2.5V7/6 横	白色・灰色・透明細粒少。良好。	底部 2/3 埋土中
5. 土器 杯	底 5.8	内面コナナ。底部・体部下層外面平打ちヘラケ ズリ。	内 09Y8/3 黄赤	白色細粒や今多。黒色細粒・赤 褐色細粒。良好。	底部 1/3 上層
6. 土器 杯	底 5.8	コナナナゲのち内面黒色処理・ミガキ。底部調整未 切り。	内 09Y7/3 に近い黄赤 外 09Y7/3 に近い黄赤	白色・透明細粒少。良好。	底部 1/4 上層
7. 土器 杯	底 7.0	コナナナゲのち内面黒色処理・ミガキ。底部調整未 切り。	内 82.0 黒 赤 09Y7/4 に近い黄赤	白色・透明・黒色細粒少。良好。	底部 1/3 埋土中
8. 土器 杯	底 7.0	コナナナゲのち内面黒色処理・ミガキ。底部調整未 切り。	内 82.0 黒 赤 2.5V6/6 横	白色細粒多。透明・黒色細粒 数。良好。	埋土下位へ底部 1/4 上層
9. 壺蓋 杯	底 7.0	内面へ体外面両面コナナ。底部へウ切りのみナゲ。 底ナシ。	内 2.5V6/4 に近い黄 赤 09Y6/1 黄赤	白色細粒少。良好。	底部 1/4 上層
10. 壺蓋 短瓶蓋		内外面コナナ。	内 09Y7/3 灰 赤 09Y6/1 黄赤	白色細粒や今少。黒色細粒・ 灰色細粒少。良好。	胴部へ胴部一部 上層
11. 土器 鉢	口径 20.0	口縁部へ内面コナナ。内面黒色処理・ミガキ。外 面ミガキ。	内 81.0 黒 赤 2.5V7/2 灰黄	白色細粒少。透明・黒色細粒 数。良好。	口縁部 1/8 埋土中。上層
12. 灰輪陶器 杯		コナナナゲ。外面体部下層調整ヘラケズリ。内面厚 く灰輪施す。調整 14 号形式。	内 2.5V7/1 灰白 外 2.5V7/1 灰白	黒色細粒数。良好。	5cm 口縁部 1/2 No.12
13. 灰輪陶器 杯		コナナナゲ。外面体部下層調整ヘラケズリ。高台足 付けあり。内面口縁部に薄く灰輪施す。先>后 1 号形式。	内 2.5V7/1 灰白 外 〃	黒色細粒数。良好。	胴部 1/8 埋土中。底面一帯
14. 灰輪陶器 杯		コナナナゲのち外面体部下層調整ヘラケズリ。静 岡産。	内 2.5V6/2 灰黄 赤 〃	黒色細粒少。良好。	口縁部一部 上層
15. 灰輪陶器 杯		コナナ。内面灰輪ハケ塗り。調整 90 号形式。	内 09Y7/1 灰白 外 〃	黒色細粒数。良好。	口縁部一部 埋土中
16. 灰輪陶器 杯蓋		コナナ。内面灰輪施す。内面に段がある。調整 90 号形式。	内 09Y7/1 灰白 外 2.5V7/1 灰白	白色・黒色細粒少。良好。	口縁部一部 上層
17. 灰輪陶器 杯蓋	口径 8.0	コナナ。調整 90 号形式。	内 09Y7/1 灰白 外 09Y7/1 灰白	白色・黒色細粒少。良好。	口縁部 1/10 上層
18. 灰輪陶器 杯	高台 05.0	コナナナゲのち底部全面調整ヘラケズリ。高台足付 け。コナナ。内面灰輪施す。調整 90 号形式。	内 09Y7/1 灰白 外 09Y7/1 灰白	白色・黒色細粒少。良好。	底部 1/2 埋土中
19. 灰輪陶器 杯	高台 06.0	コナナナゲのち高台足付け。コナナ。内面底面 厚塗り灰輪ヘケ塗り。調整 90 号形式。	内 09Y7/1 灰白 外 09Y7/1 灰白	白色細粒少。黒色細粒数。良好。	調整・高台 1/4 上層
20. 灰輪陶器 杯	高台 17.0	コナナナゲのち高台足付け。コナナ。外面に灰 輪が薄く敷き残す。調整 90 号形式。	内 2.5V7/1 灰白 外 〃	黒色細粒数。良好。	No.6 底部 1/6 埋土中
21. 灰輪陶器 杯	高台 06.0	コナナナゲのち高台足付け。コナナ。内面底面 灰輪ハケ塗り。調整 90 号形式。	内 2.5V7/1 灰白 外 09Y7/1 灰白	白色・黒色細粒少。良好。	高台 1/4 埋土中
22. 灰輪陶器 蓋	口径 7.0	コナナナゲのち内外面に灰輪施す。調整 90 号形式。	内 09Y7/1 灰白 外 09Y7/1 灰白	黒色細粒少。良好。	口縁部 1/4 上層
23. 灰輪陶器 蓋		コナナナゲのち内外面に灰輪施す。自然釉一部付着。 調整 40 号形式。	内 2.5V7/1 灰白 外 〃	黒色細粒少。良好。	底部下位 1/5 埋土中
24. 割取土器 壺	口径 20.0	内面ナゲ。外面押し痕。外面にスス付着。内面に乳 白色動片付着。	内 2.5V7/4 に近い黄 赤 2.5Y8/1 黄褐色	白色細粒少。白色針状物。や 今不凡。	胴部一部 埋土中
25. 土器 壺	口径 20.0 底 6.7 高 3.7	口縁部コナナ。内面に粘土シアリあり。胴部外面ケ ズリ。内面ナゲ。外面にスス付着。	内 09Y7/4 に近い黄赤 外 09Y8/4 黄褐色	白色細粒多。透明細粒・赤褐色 細粒数。良好。	7cm 口縁部 1/3 No.21, 22, 23
26. 土器 壺	底 8.0	胴部外面は遺存する上層部方向ケズリ。胴下位横方 向ナゲ。内面ナゲ。底部外面無調整。	内 09Y7/4 に近い黄赤 外 09Y8/4 黄褐色	白色・灰色細粒多。透明細粒・ 黒色細粒数。良好。	床面 4cm 胴下半 1/6 底部 1/2 No.14, 14

SI-686

1. 土器 杯	口径 11.0	内外面コナナ。体部外面に割取文字(正)あり。	内 09Y7/1 横 外 2.5V6/6 横	黒色細粒や今少。赤褐色粒・透 明細粒・白色細粒数。良好。	11cm 口縁部 1/6 No.6
2. 土器 高台付杯	口径 15.0	コナナナゲのち底部全面調整ヘラケズリ。高台足付 け。コナナナゲ(調整)。内面黒色処理・ミガキ。 体部外面黒書あり。調整未削。	内 09Y7/2 オリーブ黒 外 09Y7/3 に近い黄赤	白色・透明・赤褐色・黒色細粒 数。良好。	口縁 1/2 体部 2/3 底 部完全 埋土中
3. 土器 杯	口径 11.8 底 6.7 高 3.7	内面へ口縁部外面コナナ。内面底面ヘナゲ。外 面口縁部下押し痕。体部中・下位と底部ケズリ。底 部中央に砂目。	内 09Y7/4 灰黄赤 外 09Y7/4 に近い黄赤	白色細粒多。透明細粒・赤褐色 細粒少。赤褐色細粒数。良好。	床面 1.5 底完全 No.3

## 第4章 発見された遺物

## 第11次調査区

## SI - 686

4 土師器 杯	底 66.9 径 66.0	内面ロクロナデ、黒色処理・ミガキ、底部外面回転未切り。	内 33.0 埴戻 外 2.518.2 浅黄	白色・灰色細粒少、良好。	11cm 底部 1/4 No.8
5 土師器 瓶	底 17.9 径 17.0	胴部内面ナデ、粘土接合部、胴部外面一部ロクロナデ、底面平切。	内 10186.3 浅黄 外 #	黒色細粒多、透明細粒やや多、褐色細粒少、良好。	約底六内 胴部14cm 1.8 底部 17 No.16
6 土師器 壺	口 13.6 底 13.6	口縁部ナデナデ、胴部外面ナデ、内面ナデ・ヘラミガキ。	内 2.518.5 白い・暗 外 2.518.6 白い・暗	白色細粒やや多、透明細粒・赤褐色細粒、良好。	約底六内 口縁部一 半 1.2 No.14

## SI - 690

1 土師器 杯	口 13.6 底 6.0 高 3.4	ロクロナデのら底部へラ切り、一方ナデ、内面ミガキ。	内 10185.4 白い・黄 外 #	灰色細粒多、黒色・透明細粒少、白色細粒無、良好。	15cm 口縁部 1.6 底部 1/4 No.3
2 土師器 杯	口 12.4 底 5.8 高 4.1	ロクロナデのら内面黒色処理・ミガキ、底部回転未切り。	内 32.0 黒 外 10186.4 浅黄	灰色・黒色細粒やや多、褐色細粒少、良好。	10cm, 15cm 口縁・体 部 1/8 底部完存 No.5 7.8, 38, 上層, 下層
3 土師器 杯	口 12.7 底 6.9 高 4.2	ロクロナデのら内面黒色処理・ミガキ、底部回転未切り。	内 2.518.7 黒 外 10186.6 黒	赤褐色細・細粒多、黒色細粒少、良好。	表面正位 完存 No.19
4 土師器 瓶	口 14.8 底 8.2 高 5.1	ロクロナデのら内面黒色処理・ミガキ、底部回転未切り、底面平切。	内 31.5.9 黒 外 10187.4 白い・黄	白色・黒色・透明細粒・黒色細粒少、良好。	13cm 口縁・体部 1/3 底部 1.2 No.6
5 土師器 杯	口 11.7 底 5.6 高 4.2	ロクロナデのら内面黒色処理・ミガキ、底部回転未切り、底部へ体部下平外面に黒色付着物あり、打明けあり。	内 32.0 黒 外 10188.4 浅黄	黒色細粒やや多、透明細粒少、黒色細粒、良好。	6cm ほぼ正位 口縁 一部欠 No.40
6 土師器 杯	口 13.0 底 7.0 高 4.1	ロクロナデのら内面黒色処理・ミガキ、底部回転未切り。	内 2.512.1 黒 外 10186.6 黒	赤褐色細粒・白色細粒・黒色細粒少、良好。	20cm, 22cm 口縁部 1 上部 体部 1/3 底部 1/2 No.41, 1上層
7 土師器 杯	口 13.8 底 7.0 高 4.2	ロクロナデのら内面ミガキ、体部下平外面平持ちヘラナデ、底面平切。	内 2.517.2 灰黄 外 10188.3 浅黄	黒色細粒・黒色細粒やや多、白色細粒透明粒・赤褐色細粒、良好。	13cm 口縁・底部 1/6 No.11, 1上層
8 土師器 杯	口 13.0 底 7.0 高 4.1	ロクロナデのら内面黒色処理・ヘラミガキ。	内 32.0 黒 外 33.0 埴戻	白色・黒色・透明細粒無、良好。	13cm 口縁部 1/8 No.2
9 土師器 杯	口 12.6 底 7.0 高 4.1	ロクロナデのら内面黒色処理・ヘラミガキ。	内 31.0 黒 外 10185.2 白い・黄	灰色細粒少、白色・黒色・透明細粒無、良好。	口縁部 1/4 上部
10 土師器 杯	口 12.8 底 7.0 高 4.1	ロクロナデのら内面黒色処理・ヘラミガキ、体部外面に墨書あり。	内 31.5.9 黒 外 10186.2 白い・黄	褐色細粒少、透明・黒色細粒、良好。	3cm 口縁・体部 1/4 No.9
11 土師器 杯	底 46.3 径 46.0	ロクロナデのら内面黒色処理・ミガキ、底部回転未切り。	内 32.0 黒 外 10186.4 白い・黄	白色・黒色細粒少、良好。	6cm 体部 1/2 1/4 底部 1/3 No.26
12 土師器 杯	底 66.9 径 66.0	ロクロナデのら内面黒色処理・ミガキ、底部回転未切り。	内 33.0 埴戻 外 10188.4 浅黄	黒色細粒少、白色・透明細粒無、良好。	体部 1/2 1/4 底部 1/4 上層
13 土師器 杯	底 7.0 径 7.0	ロクロナデのら内面黒色処理・ミガキ、底部外面回転未切り、火曜痕あり。	内 33.0 埴戻 外 10185.2 白い・黄	透明・赤褐色・黒色細粒無、良好。	20cm 底部 1/6 No.1
14 土師器 杯	底 6.0 径 6.0	ロクロナデのら内面黒色処理・ヘラミガキ、底部回転未切り、体部外面に墨書あり、内面にタール付打明けあり。	内 32.0 黒 外 10186.4 白い・黄	黒色・白色細粒少、白色細粒無、良好。	体部 1/2 一部 底部完 存 下層
15 土師器 杯	底 7.0 径 7.0	ロクロナデのら内面黒色処理・ヘラミガキ、底部外面回転未切り。	内 33.2.1 黒 外 10188.4 浅黄	灰色細粒少、赤褐色・灰色細粒、良好。	10cm 体部 1/2 1/4 底部 1/4 No.10
16 土師器 杯	底 7.0 径 7.0	ロクロナデのら内面黒色処理・ヘラミガキ、底部回転未切り。	内 2.513.1 オリーブ黒 外 2.517.2 灰黄	黒色細粒少、透明細粒・黒色細粒、良好。	体部 1/2 1/6 底部 1/3 1上層
17 土師器 杯	底 7.2 径 7.2	ロクロナデのら内面黒色処理・ミガキ、底部回転未切り。	内 32.0 黒 外 2.518.2 灰白	黒色細粒・黒色細粒・白色細粒少、褐色細粒無、良好。	12cm 体部 1/2 1/4 底部 1.8 No.18
18 土師器 杯	底 6.5 径 6.5	ロクロナデのら内面黒色処理・ミガキ、底部回転未切り。	内 32.0 黒 外 10187.4 白い・黄	黒色細粒やや多、白色細粒無、良好。	10cm 体部 1/2 1/3 底部 完存 No.25
19 土師器 杯	底 7.0 径 7.0	ロクロナデのら内面黒色処理・ヘラミガキ、体部外面に墨書あり。	内 32.0 黒 外 2.517.3 浅黄	白色細粒少、黒色・褐色細粒無、良好。	体部 一 部 下層
20 土師器 杯小	内面黒色処理、体部外面右から左方、斜方向のナデ、遺存する上端はナデが、粘土に赤色塗料を含んでいることから灰城産と考えられる。	内 2.518.6 浅黄 外 2.512.1 黒	白色粒・褐色黒色粒やや多、透明細粒少、やや不良。	体部 1/2 1/4 底部 1/8 上層	
21 土師器 鉄色赤小 杯	口 16.6 底 7.9 高 6.8	ロクロナデのら内面黒色処理、口縁部・体部上段以外ミガキ、底部回転未切り。	内 2.512.1 黒 外 10187.4 白い・黄	灰色細粒やや多、白色・黒色細粒少、赤褐色細粒、良好。	2cm 口縁部 3/4 体部 1/4 完存 No.34
22 土師器 杯	口 11.8 底 15.0 高 4.0	内外面ロクロナデ、底部切り方方法不明、三遊痕。	内 2.518.6 黒 外 #	黒色・褐色細粒やや多、赤褐色・白色細粒無、やや不良。	2cm, 15cm 口縁 部 1/6 体部 1/3 No.42, 下層
23 土師器 杯	底 6.7 径 6.7	内外面ロクロナデ、底部へ体部下平外面全面回転ヘラナデ、三遊痕。	内 2.518.6 白い・暗 外 10186.4 白い・暗	白色・黒色細粒多、赤褐色細粒・透明細粒・黒色細粒無、良好。	3cm 体部 1/2 1/4 底部 完存 No.17
24 土師器 杯	底 66.2 径 66.2	内面ロクロナデ、底部回転未切り、三遊痕。	内 2.518.5.6 明黄 外 2.518.4 黒	黒色細粒少、白色細粒無、良好。	16cm 底部 1/2 No.29
25 土師器 杯小	内外面ロクロナデ、口縁部が大きく外反、灰輪陶器の可能性もある。	内 137.1 灰白 外 #	白色細粒無、良。	口縁部 一 部 上層	
26 灰輪陶器 杯	ロクロナデのら内外面に灰輪痕、黒灰 90 号炭式。	内 137.1 灰白 外 136.2 灰オリーブ	良好。	5cm 口縁部 一 部 No.49	
27 灰輪陶器 杯	ロクロナデのら内外面に灰輪痕、内面に沈線あり、黒灰 90 号炭式。	内 137.2 灰白 外 #	良好。	口縁部 一 部 下層	
28 灰輪陶器 杯	ロクロナデのら内外面に灰輪痕、黒灰 90 号炭式。	内 136.2 灰オリーブ 外 #	白色細粒無、良好。	16cm 口縁部 一 部 No.43	
29 灰輪陶器 杯	ロクロナデのら内外面に灰輪・ハケ塗り、黒灰 90 号炭式。	内 137.1 灰白 外 #	黒色細粒少、白色細粒無、良好。	8cm 口縁部 一 部 No.52	
30 灰輪陶器 杯	ロクロナデのら内外面に灰輪痕、灰輪の発色はあまり良くない、黒灰 90 号炭式。	内 138.1 灰白 外 #	黒色細粒少、やや良。	口縁部 一 部 上層, 下層	



第 11 次調査区

SI-690

33 灰桶陶器 板	高台 (1.2)	ロクロナガのら高台部分付。体部内外面に灰桶ハケ 塗りの。黒塗 90 号式。	内径 2.516/1 黄灰 桶 107/2 オリーブ灰	白色・黒色細粒少。良好。	12cm 底部 1/6 No.20
32 灰桶陶器 碗	高台 (8.3)	ロクロナガのら底部全面白化粧ヘラズリ。高台 部分付。内面底部中央と体部灰桶ハケ塗り。黒塗 90 号式。	内径 2.572/2 黄灰 桶 107/2 オリーブ灰	白色・黒色細粒少。良好。	12cm 底部 1/4 No.16
33 重志器 壺	口 (2.8)	口縁→胴部ロクロナガ。三森産。	内 2.576/3 に近い黄 灰	白色細粒中々多。良好。	18cm 口縁部 1/8 No.27
34 土師器 甕	口 (12.8)	口縁部ロクロナガ。胴部外面上から下ヘラズリ。内 面ナガ。外面にスズ行書。	内 107/3/2 黒焼 灰 107/6/8 赤土焼	白色・黒色・透明細粒散。良好。	17cm, 13cm 口縁 部 1/2 胴部一帯 No.14, 15, 上層

SI-691

1 土師器 杯	底 12.3 高 5.4 高 4.1	ロクロナガのら内面黒色処理・ヘラミガキ。底部同 転車削り。体部内面に書書あり。	内 107/1 オリーブ黒 灰 2.576/2 黄灰	白色細粒・黒色細粒少。赤褐色 細粒散。良好。	26cm 口縁部 No.20
2 土師器 杯	口 (13.8)	ロクロナガのら内面黒色処理・ヘラミガキ。	内 107/6/9 黄 灰	白色細粒多。黒色細粒中々多。 透明粒少。良好。	5cm 口縁部 1/4 No.26, 下層
3 土師器 杯	口 (12.0)	ロクロナガのら内面黒色処理・ヘラミガキ。	内 107/1.7/1 黒 灰 107/2/3 に近い黄焼	黒色細粒中々多。白色細粒多。 白色粒少。良好。	口縁部 1/8 上層
4 土師器 杯	底 6.0	ロクロナガのら内面黒色処理・ヘラミガキ。底部同 転車削り。	内 2.573/1 黒焼 灰 107/2/6 黄焼	赤褐色細粒中々多。白色細粒少。 黒色細粒散。中々不良。	底部 1/4 上層
5 土師器 杯	底 6.0	ロクロナガのら内面黒色処理・ヘラミガキ。底部同 転車削り。木製痕あり。	内 1.5/3.5 黒 灰 2.576/6 黄	赤褐色細粒中々多。白色細粒・赤 褐色細粒少。良好。	23cm 底部 2/3 No.6
6 土師器 皿か	底 5.5	ロクロナガのら内面黒色処理・ヘラミガキ。底部同 転車削り。	内 2.573/1 黒焼 灰 107/2/3 に近い黄焼	白色細粒少。赤褐色細粒散。良 好。	底部 3/4 下層
7 土師器 皿か	底 7.0	ロクロナガのら内面黒色処理・ヘラミガキ。底部同 転車削り。	内 107/2/1 黒 灰 107/2/3 に近い黄焼	黒色細粒多。白色細粒少。赤褐 色細粒散。良好。	16cm 底部 1/6 No.24
8 土師器 皿か	底 7.0	ロクロナガのら内面黒色処理・ヘラミガキ。底部同 転車削り。	内 2.573/1 黒焼 灰 107/8.4 黄灰	灰色細粒中々多。赤褐色細粒少。 白色細粒・褐色細粒。良好。	6cm 底部 1/4 No.16
9 土師器 杯	底 6.4	ロクロナガ。底部同転車削り。三森産。	内 2.576/2 黄灰 外 107/2 灰オリーブ	白色細粒散。良好。	16cm 底部 1/4 No.5
10 重志器 杯	底 6.0	ロクロナガ。底部同転車削り。三森産。	内 107/1 灰 外	白色細粒中々多。黒色細粒散。 良好。	16cm 底部 1/6 No.4
11 重志器 杯	底 6.4	ロクロナガ。底部同転車削り。三森産。	内 107/5/2 に近い黄焼 外 2.575/2 黄灰	白色細粒・黒色細粒多。赤褐色 細粒少。灰色粒散。良好。	18cm 底部 1/4 No.32
12 重志器 杯		ロクロナガ。天井外周 2 転ヘラズリか。つば 彫り付。ロクロナガ。新治産。	内 2.577/2 灰黄 外 2.577/1 灰白	褐色色帯・灰色細粒多。白色粒少。 良好。	床面 天井 1/3 No.7
13 灰桶陶器 碗		ロクロナガ。無輪。黒塗 90 号式。	内 2.577/2 灰黄 外	白色・黒色細粒少。良好。	15cm 口縁部一部 No.1
14 灰桶陶器 皿か		ロクロナガ。内外面に灰桶ハケ。ハケ塗りあり。黒塗 90 号式。	内 107/1 灰 外	白色・黒色細粒少。良好。	口縁部一 部 中層
15 灰桶陶器 皿か		ロクロナガ。内外面に灰桶中々厚く塗す。黒塗 90 号式。	内 107/2 灰白 外	白色・黒色細粒少。良好。	11cm 口縁部一部 No.22
16 灰桶陶器 皿か		ロクロナガ。内面に厚く、外面に薄く灰桶塗る。口 縁部の溝が少なく、大形の碗なのであろうか。黒塗 90 号式。	内 107/2 灰白 外 107/1 灰白	白色粒少。黒色細粒中々少。良好。 良好。	口縁部一部 上層
17 灰桶陶器 碗か		ロクロナガ。高台部分付。底部内面に厚く灰桶塗す。 光トビ 1 号式。	内 107/6/2 灰オリーブ 外 107/1 灰白	白色細粒少。黒色細粒散。良好。	床面 高台一部 No.10
18 土師器 甕	口 (19.0)	口縁部ロクロナガ。外面に押圧痕あり。胴部内面ヘラ ナガ。胴部外面ナガ。	内 107/6/4 に近い黄焼 外 107/6/8 黄	白色細粒多。黒色細粒少。良好。	22cm 口縁部 1/4 胴 部一部 No.31, 中層
19 土師器 甕	口 (18.0)	口縁部ロクロナガ。外面に押圧痕あり。胴部内面ナガ。 ヘラナガ。胴部内外面ナガ・左方ヘラズリ。	内 107/6/8 黄 外 107/6/8 黄	白色細粒多。黒色細粒少。良好。	13cm 口縁部 1/2 胴 部 1/4 No.28, 中層
20 土師器 甕		口縁部ロクロナガ。外面に粘土接合痕・押圧痕あり。 胴部上端ヘラズリ。	内 2.578/2 黄 外 2.578/6 黄	赤褐色細粒多。白色細粒少。良好。	26cm 口縁部 1/8 No.24
21 土師器 三足鍋		内面ナガ。黒色処理。外面体部上端右から左方へ の横方向ヘラズリ。足部分付。足の一部が残り。 三森と考えられる。	内 2.572/1 黒 外 107/6/8 黄	白色細粒中々多。赤褐色細粒。 黒色細粒・白色粒少。中々不良。	床面 底部・体部境一 部 No.2

SI-696

1 土師器 杯	底 5.4	内面ロクロナガ。外面体部・底部ヘラズリ。底部・体部 境に粘土接合痕あり。	内 107/2/3 に近い黄焼 外 107/6/3 に近い黄焼	黒色細粒・白色細粒多。良好。	5cm 体部下位 1/8 底 部完存 No.18
2 土師器 高付盆	高台 (8.0)	ロクロナガのら内面黒色処理。底部同転ヘラズリ。 高台部分付。ロクロナガ。	内 107/1.7/1 黒 灰 107/2/6 黄	白色細粒多。金色色帯中々多。 赤褐色細粒中々少。良。	2cm 底部 1/2 No.20
3 重志器 缸	底 5.0	内面・体部外面ロクロナガ。底部同転車削り。三森 産。	内 107/2/2 灰白 外 107/1 灰白	白色細粒中々多。中々良好。	9cm 底部 1/2 No.12
4 土師器 碗	口 (16.8)	ロクロナガのら内面黒色処理・ミガキ。体部外面に 泥糊 1 条あり。金属部埋め込み。	内 107/5/3 に近い黄焼 外 2.576/3 に近い黄焼	金色色帯多。赤褐色粒少。良好。	15cm, 8cm 口縁・体部 1/4 No.10, 17
5 重志器 甕		内外面ロクロナガ。外面自然釉付書。三森産のみ。	内 107/6/1 黄灰 外 2.577/2 灰黄	粗い。黒色細粒少。白色細粒・ 白色粒中々少。良好。	2cm 体上半部 1/6 No.24
6 製塩土器		口縁部内面ナガ。外面粘土接合痕。押圧痕あり。平 縁形の製塩土器か。口縁部面取りになっている。	内 107/7/2 に近い黄焼 外 2.578/4 黄灰	白色細粒・赤褐色細粒・白色針 状物中々少。不良。	口縁部一部 埋土中

第4章 発見された遺物

第11次調査区

SI-698

1 土師器 坪	口 14.0 底 8.2 高 5.3	ロクナダのら内面黒色処理・ヘミミガキ。底部回転車切り。外面手持ちヘラツケズリ。体部外面に墨書あり。	内 09Y1.7/1 黒 外 09Y8.2にぶい・黄褐色	黒色顔料多、赤褐色・白色顔料少、良好。	6cm 口縁～体部下1/2 1/2 体部下平～底部 定存 No.23,24
2 土師器 坪	口 12.0 底 6.0 高 4.6	ロクナダのら内面黒色処理・ヘミミガキ。底部回転車切り。体部外面に「古」墨書あり。	内 09Y1.7/1 黒 外 09Y8.6明赤褐色	白色顔料多、黒色顔料やや多、赤褐色色較、良好。	床面 口縁部 4.5 体 ～底部定存 No.12,下 層
3 土師器 坪	口(12.4) 底 6.2 高 4.0	ロクナダのら内面黒色処理・ヘミミガキ。底部回転車切り。体部外面に墨書あり「方」か。	内 09Y1.7/1 黒 外 09Y8.4にぶい・黄褐色	白色顔料多、黒色顔料少、良好。	埋蔵内 口縁一部 体部1/3 底部1/2 No.25,1下層
4 土師器 坪	口 14.6 底 6.2 高 4.5	ロクナダのら内面黒色処理・ヘミミガキ。体部外面に粘土接合痕あり。底部回転車切り。	内 2.5Y2/1 黒 外 2.5Y2/3 黄褐色	白色・灰色顔料多、透明顔料少、良好。	3cm、5cm 口縁～底 部1/2 No.76,86
5 土師器 坪	口 12.2 底 4.4 高 3.3	ロクナダのら内面黒色処理・ミガキ。底部回転車切り。	内 2.5Y2/1 黒 外 2.5Y6/2にぶい・黄褐色	白色顔料多、透明顔料やや多、良好。	3cm 口縁～体1/2 底部1/4 No.47
6 土師器 坪	口(15.4) 底 3.0 高 5.7	ロクナダのら内面黒色処理・ミガキ。底部回転車切り。	内 09Y2/1 黒 外 2.5Y6/2 灰白	灰色・黒色顔料少、良好。	11cm 口縁～体部一部 底部1/2 No.28,1上層
7 土師器 坪	口(11.0) 底 6.0 高 4.6	ロクナダのら内面黒色処理・ミガキ。底部回転車切り。	内 7.5Y2/1 黒 外 2.5Y8.6黄褐色	赤褐色・黒色顔料少、良好。	床面 6cm,17cm 口縁部 3/5 体部1/3 底部 4/5
8 土師器 坪	口(11.0) 底 6.0 高 4.0	ロクナダのら内面黒色処理・ヘミミガキ。底部回転車切り。	内 09Y1.7/1 黒 外 09Y7.2にぶい・黄褐色	黒色顔料多、白色顔料・赤褐色 顔料、良好。	18cm 口縁～体部一 部～底部1/4 No.4
9 土師器 坪	口(13.2)	ロクナダのら内面黒色処理・ヘミミガキ。体部外面に「法」等の可能性ある墨書あり。	内 09Y1.7/1 黒 外 09Y2.2灰黄褐色	白色顔料多、白色顔料少、良好。	19cm 口～体部1/3 No.11,1上層,1下層
10 土師器 坪	口(12.8)	ロクナダのら内面黒色処理・ヘミミガキ。体部外面に「国」の墨書あり。	内 09Y1.7/1 黒 外 09Y4.2灰黄褐色	白色顔料・赤褐色色較、良好。	床面 口縁部 体部 1/8 No.66,7下層
11 土師器 坪	口(12.8)	ロクナダのら内面黒色処理・ミガキ。体部外面に墨書あり。	内 09Y1.7/1 黒 外 09Y6.2にぶい・黄褐色	白色・黒色顔料少、良好。	埋蔵内 口縁部1/4 No.25
12 土師器 坪	口(15.8)	ロクナダのら内面黒色処理・ヘミミガキ。体部外面に墨書あり。	内 09Y1.7/1 黒 外 09Y7.2にぶい・黄褐色	白色顔料多、黒色顔料較、良好。	18cm 口縁～体部1/8 No.41
13 土師器 坪	口(12.4)	ロクナダのら内面黒色処理・ヘミミガキ。体部外面に墨書あり。	内 09Y1.7/1 黒 外 09Y7.2にぶい・黄褐色	黒色顔料・白色顔料少、赤褐色 顔料、良好。	床面 口縁～体部2/3 No.55,1上層,1中層
14 土師器 坪	口(12.6)	ロクナダのら内面黒色処理・ヘミミガキ。	内 09Y1.7/1 黒 外 09Y6.6明赤褐色	赤褐色多、白色・黒色顔料少、 口縁～体部1/5 下層	口縁～体部1/5 下層
15 土師器 坪	底 9.0	ロクナダのら内面黒色処理・ミガキ。体部下層～底部外面手持ちヘラツケズリ。底部外面に平行状線5条あり。	内 09Y1.7/1 黒 外 09Y8.4にぶい・黄褐色	黒色顔料・白色顔料少、良好。	15cm 底部1/6 No.54
16 土師器 坪	底 5.8	ロクナダのら内面黒色処理・ミガキ。底部回転車切り。焼成前後割あり。	内 2.5Y2/1 黒 外 2.5Y8.2 灰白	黒色顔料多、赤褐色・白色顔 料少、良好。	6cm 底部定存 No.14,下層
17 土師器 坪	底 8.0	ロクナダのら内面黒色処理・ミガキ。底部回転車切り。	内 2.5Y8.2 灰白 外 2.5Y8.4 黄褐色	黒色・白色顔料多、赤褐色顔料 良好。	17cm 体部下平2/3 底部1/2 No.10,1下層
18 土師器 坪	底 6.8	ロクナダのら内面黒色処理・ミガキ。底部回転車切り。	内 09Y1.7/1 黒 外 2.5Y8.4にぶい・黄褐色	黒色顔料多、白色顔料やや多、 赤褐色色較、良好。	2cm,3cm 体部一 部～底部定存 No.64,65
19 土師器 坪	底(7.0)	ロクナダのら内面黒色処理・ヘミミガキ。底部回転車切り。	内 2.5Y1.2/1 黒 外 2.5Y2/4にぶい・黄褐色	黒色顔料・白色顔料・白色顔料少、 赤褐色色顔料、不良。	3cm 体部一 部 底部 1/2 No.21
20 土師器 坪	底(6.2)	ロクナダのら内面黒色処理・ミガキ。底部回転車切り。	内 09Y3.3暗褐色 外 09Y5.3にぶい・黄褐色	黒色顔料やや多、白色顔料・赤 褐色色較、やや不良。	底部1/2 下層
21 土師器 坪	底(7.0)	ロクナダのら内面黒色処理・ミガキ。底部回転車切り。	内 09Y1.7/1 黒 外 09Y7.2にぶい・黄褐色	白色・黒色顔料少、良好。	9cm 体部下段～底部 1/4 No.19
22 土師器 坪	底(6.0)	ロクナダのら内面黒色処理・ヘミミガキ。底部回転車切り。	内 2.5Y1.2/1 黒 外 2.5Y8.6明褐色	白色顔料多、黒色顔料やや多、 赤褐色顔料較、良好。	6cm 体部下平～底部 1/4 No.20
23 土師器 坪	底(8.0)	ロクナダのら内面黒色処理・ミガキ。底部回転車切り。	内 2.5Y1.2/1 黒 外 2.5Y8.6黄褐色	白色顔料・赤褐色色較、黒色顔 料、良好。	体部下段～底部1/6 1上層
24 土師器 坪	底(6.0)	ロクナダのら内面黒色処理・ミガキ。底部回転車切り。	内 2.5Y2/1 黒 外 2.5Y7/3 黄褐色	白色・白色・赤褐色顔料較、良好。	14cm 体部下段～底部 1/6 No.80
25 土師器 坪	底(5.8)	ロクナダのら内面黒色処理・ヘミミガキ。底部回転車切り。	内 09Y2/1 黒 外 09Y6.4にぶい・黄褐色	白色顔料少、白色・赤褐色顔料較、 良好。	2cm 底部1/2 No.42
26 土師器 坪	底(6.0)	ロクナダのら内面黒色処理・ミガキ。底部回転車切り。	内 2.5Y2/1 黒 外 2.5Y2.8黄褐色	灰色・赤褐色顔料少、不良。	1上層1/3
27 須恵器 坪	口 12.8 底 6.6 高 3.6	内面・体部外面にロクナダ。底部回転車切り。三義 焼。	内 2.5Y7.3 黄褐色	灰色・黒色顔料多、褐色色較、 白色顔料、やや不良。	5cm,7cm,19cm 口縁部～底部2/3 No.14,15,67,68
28 須恵器 坪	口(12.0) 底 6.0 高 3.4	ロクナダ。底部車切り。二義焼。	内 09Y2.2 灰オリーブ 色	白色・黒色顔料少、良好。	2cm 口縁～体部2/5 底部1/4 No.71
29 須恵器 坪	口(12.8) 底(6.4) 高 3.6	ロクナダ。表面へラツケ切り。一方ヘラツケ。体部外面に焼成面のツケ痕あり。葦子焼。	内 09Y2.2 灰オリーブ 色	白色顔料やや多、黒色顔料少、 良好。	17cm 口縁～体部1/6 底部1/3 No.82
30 須恵器 坪	底(6.0)	ロクナダ。底部回転車切り。三義焼。	内 2.5Y1.5 灰 色	白色顔料多、黒色顔料少、良 好。	2cm 底部1/4 No.34
31 須恵器 高台付坪		内面にロクナダ。底部回転車切り。高台部分に「刺 纏」、三義焼。	内 No.0 灰 色	白色・灰色顔料多、良好。	16cm 底部定存 No.26
32 土師器 坪	口(20.0) 底 10.4 高 7.8	ロクナダのら内面黒色処理・ミガキ。体部下層～ 底部外面手持ちヘラツケズリ。	内 N1.6 赤 外 2.5Y8.6 明褐色	赤褐色・白色顔料少、良好。	5cm,6cm,13cm 口縁～体部一部 底部 定存 No.3,14,18,75,下層

第 11 次調査区

SI-698

33 灰輪陶器 椀		ロクロナダの内面にのみ灰輪厚く残す。黒條 14 号式。	内 2.515/3 灰ナリツブ 外 2.518/1 灰白	黒色顔料少、白色顔料難。良好。	口縁～体部一部 上層
34 灰輪陶器 椀		内面ロクロナダの底部付着除去し灰輪厚くハケ塗り、外面ロクロナダ。黒條 30 号式。	内 2.517/1 灰白 外 #	黒色顔料少、白色顔料難。良。	8cm 体部一部 No.40
35 葉巻器		内面無文でて其部。外面平行切。新治産。	内 2.515/0 黄灰 外 2.516/1 黄灰	褐色顔料多、白色顔料中々多。 白色粒・黒色顔料少。良好。	7cm 胴部付定一部 No.56
36 土師器 鉢	口 19.0	口縁部コナナ。口縁部外面押圧痕・ヘラツズリ。内面ヘラツズリ。胴部上端外面ヘラツズリ。内面ナツ。	内 2.515/4 に近い赤褐色 外 2.515/6 明赤褐色	白色顔料多、白色顔料中々多。 赤褐色顔料少。良好。	26cm 口縁部 1/6 No.1
37 土師器 鉢	口 12.4	口縁部コナナ。胴部外面ツズリ。内面ナツ。	内 2.515/1 黒褐色 外 #	白色顔料少。良好。	7cm 口縁部 1/6 No.31
38 土師器 台付壺		壺の部分内面ナツ。台部内外面コナナ。内面ナツ上げあり。	内 2.514/8 赤褐色 外 2.515/3 に近い赤褐色	白色顔料中々多。白色顔料難。 良好。	17cm 台部以上は定存 No.13
39 土師器 台付壺		壺底部内面粘土ナツ。外面ヘラツズリ。台部コナナ。外面に接合粘土あり。	壺 2.515/2 暗灰黄 台 2.515/6 明赤褐色	白色顔料多、白色顔料中々多。 赤褐色顔料少。良好。	35cm 底～台部上段は 定存 No.22
40 土師器 台付壺	台 10.0	台部内外面コナナ。	内 2.514/1/2 灰褐色 外 #	白色顔料・赤褐色粒。良好。	17cm 台部 3/4 No.9
41 製塩土器		内面ナツ。外面押圧痕。粘土層ジワあり。	内 2.516/6 褐色 外 #	白色顔料・黒色顔料中々少。 白色粒・透明粒・白色針状物少。 良好。	体部一部 上層
42 製塩土器		内面ナツ。外面粘土層合痕。押圧痕あり。外面にススが付着している。	内 2.518/4 黄褐色 外 2.518/6/2 灰褐色	白色粒・黒色顔料・赤褐色顔料・ 白色針状物・透明粒少。良好。	17cm 体部一部 No.12
43 製塩土器		内面ナツ。外面押圧痕あり。	内 2.518/6 褐色 外 2.518/8 褐色	白色顔料・赤褐色粒。白色針状物少。中々不良。	体部一部 上層

SI-714

1 土師器 杯	口 21.8 底 8.4 高 32.0	口縁部コナナ。胴部外面ナツか。一部押圧痕あり。中・下位に器部が難。内面ナツ。ヘラツズリ。押圧痕あり。底部粘土層不明。外面にススが付く傾向。	内 2.518/4 褐色 外 2.519/3 1 黒褐色	白色粒・透明粒・赤褐色顔料多。 良好。	2cm 17cm 口縁 1/3 胴部 定存 No.1 上層、下層、体部
2 土師器 杯	口 13.4 底 7.0 高 3.2	内面～体部外面ロクロナダ。底部円形赤切り。体部内面に沈線 3 条あり。	内 2.512/1 黒 外 2.513/1 7/1 黒	白色顔料多、赤褐色粒少。中々不良。	17cm 口縁～胴部 1/3 底部定存 下層、 体部
3 土師器 杯	底 6.0	内面ヘラツズリ。体部外面ロクロナダ。底部一方半円ヘラツズリあり。	内 2.515/5 明褐色 外 2.516/6 褐色	白色・黒色・赤褐色顔料少。良好。	8cm 体部一部 底部 1/4 No.3
4 葉巻器 杯	底 6.0	内面ロクロナダ。底部円形赤切り。三線産。	内 2.515/1 灰 外 #	白色顔料中々少。白色顔料難。 良好。	底部 1/4 No.1
5 葉巻器 高台付壺	高台 10.0	内面～体部外面ロクロナダ。底部ヘラツズリあり。高台付付・ロクロナダ。三線産。	内 2.516/1 灰 外 #	白色・黒色・赤褐色顔料。良好。	2cm 体部 1/4 位～底部 1/3 No.1 下層
6 土師器 高台付壺	口 12.4 高台 7.8 高 2.4	内面外面ロクロナダの内面黒色処理・ヘラツズリ。底部円形赤切りの高台付付。ロクロナダ。	内 2.513/1 7/1 黒 外 2.513/6/3 に近い黄褐色	白色顔料少、赤褐色顔料。良好。	17cm 口縁部 1/6 底部 高台定存 No.7
7 灰輪陶器 椀		内外面ロクロナダ。内面にのみ灰輪厚くハケ塗り。黒條 30 号式。	内 2.517/2 灰白 外 2.517/2 灰黄	黒色・白色顔料難。良好。	口縁部一部 下層

SI-715

1 葉巻器 杯	底 7.0	内面～体部外面ロクロナダ。底部ヘラツズリあり。底部外面に焼成痕付記号あり。三線産。	内 2.516/2 灰黄 外 2.516/6 褐色	白色顔料多、赤褐色顔料少。 白色顔料。良好。	体部下端 2/3 底部 定存 上層
2 葉巻器 杯	底 8.0	内面～体部外面ロクロナダ。底部外面ヘラツズリ。焼成痕付記号あり。三線産。	内 2.514/1 灰 外 #	白色顔料多、褐色顔料少。良好。	体下部 1/3 底部 1/2 上層

SI-751

1 土師器 蓋	口 16.4 高 4.2	ロクロナダのち天井外面2回転ヘラツズリ。つまみ部付ロクロナダ。天井外面雲書あり。三線産。	内 2.517/1 灰白 外 #	黒色顔料少。灰色顔料難。良好。	天井 1/2 ～体部 上層
2 土師器 鉢	口 17.4	内面～口縁部外面コナナ。体部外面ツズリ。内外面染付上げ。	内 2.515/4 暗褐色 外 2.515/2 灰黄褐色	灰色顔料中々多。黒色顔料少。 良好。	口縁部 1/5 上層

SI-781

1 土師器 杯	口 13.4 底 4.3 高 3.2	ロクロナダの内面黒色処理・クガリ。底部円形赤切り。	内 2.513/1 7/1 黒 外 2.518/2 灰白	白色顔料・黒褐色顔料少。良好。	口縁～体部 2/3 底部 定存 2 層
2 葉巻器 杯	底 7.0	ロクロナダ。底部円形赤切り。火輪あり。三線産。	内 2.514/1 灰 外 #	白色顔料中々多。黒褐色顔料少。 赤褐色顔料難。良好。	底部 1/3 2 層
3 葉巻器 杯	底 7.4	ロクロナダ。底部円形赤切り。三線産。	内 2.516/3 に近い黄 外 2.515/2 暗灰黄	白色顔料中々多。黒色顔料少。 赤褐色顔料難。良好。	底部 1/4 1 層
4 葉巻器 蓋	口 16.2	ロクロナダ。天井外面2回転ヘラツズリ。重ね地痕あり。産地不明。	内 2.516/1 灰 外 #	白色顔料多。黒色顔料少。白色 顔料難。良好。	口縁～天井 1/3 2 層
5 葉巻器 高台付壺	口 13.4	ロクロナダ。高台付付 (1 割)。三線産。	内 2.517/1 灰白 外 2.515/1 灰	白色顔料多。白色顔料少。良好。	口縁～体部 1/8 1 層
6 土師器 壺		口縁部コナナ。外面に粘土層合痕と押圧痕あり。	内 2.515/5 に近い褐色 外 2.514/6 赤褐色	白色・透明顔料少。赤褐色顔料難。 良好。	口縁部 1/8 1 層

第 12 次調査区

SI-814

1 土師器 杯	口 15.0	内面ヘラツズリあるも不明。産地上げ。口縁部外面コナナ。体部外面ツズリ。粘土層合痕・押圧痕あり。口縁が底に突縁で端部 5/4 中々ある。器面着色している。	内 2.518/6/4 に近い褐色 外 2.518/6/4 に近い褐色	黒色顔料多。透明顔料少。良好。	口縁～体部 1/6 6 層中
------------	--------	--	--	-----------------	-------------------

## 第14次調査区

SI-843

1 土師器 杯	口径(2.0) 底径(5.6) 高(4.1)	コクロナダのら内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転軸未切り。	内 2.5/2/1 黒 外 3/0/2/2 に近い黄褐色	赤褐色やや多。黒色細粒少。中々良。	口縁～体部1/7 底部 底上、底裏
2 土師器 杯	底(7.0)	コクロナダのら内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転軸未切り。	内 2.5/2/1 黒 外 3/0/3/4 明赤褐色	白色・赤褐色・黒色細粒少。良好。	底部1/4 下層
3 土師器 杯	底(7.0)	コクロナダのら内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転軸未切り。	内 2.5/2/1 黒 外 3/0/3/4 明赤褐色	透明細粒多。赤褐色細粒少。良好。	底部1/4 下層
4 土師器 杯	底(7.0)	コクロナダのら内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転軸未切り。	内 2.5/2/1 黒 外 3/0/3/6 暗褐色	赤褐色細粒少。小礫粒。良好。	底部1/2 下層
5 土師器 杯	底(6.6)	コクロナダのら内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転軸未切り。	内 2.5/2/1 黒 外 3/0/2/2 に近い黄褐色	黒色・灰色細粒少。良好。	底部1/4 下層
6 土師器 杯	底(4.9)	コクロナダのら内面黒色処理・ヘラミガキ。底面は上底端で底面中央に凸部を有す。底部回転軸未切り。外面体部下端粘土接合あり。	内 2.5/3/1 黒褐色 外 3/0/3/6 明赤褐色	灰色細粒・赤褐色細粒少。黒色細粒。良好。	底部3/4 上層
7 土師器 杯	底(5.9)	コクロナダのら内面黒色処理・一方ヘラミガキ。底部回転軸未切り。	内 2.5/2/1 黒 外 3/0/3/2 灰褐色	白色細粒多。良好。	底部2/3 下層
8 土師器 杯	底(5.4)	内面コクロナダのら黒色処理・ヘラミガキ。外面体部下端コクロナダのら手持りヘラミガキ。底部回転軸未切り。	内 3/0/3/1 黄褐色 外 3/0/3/3 に近い黄褐色	赤褐色・黒色細粒少。良好。	底部1/5 下層
9 土師器 杯	底(7.2)	コクロナダのら内面黒色処理・ヘラミガキ。底部手持りヘラミガキ。	内 2/5/2/1 黒 外 2.5/3/4/2 灰褐色	透明細粒多。白色細粒少。粗。	体下半～底部1/2 下層
10 須恵器 甕	口径(4.0) 底径(3.6) 高(5.2)	小型。体部内面コクロナダ。外面コクロナダ。底部回転軸未切り。	内 3/0/3/6 暗褐色 外 3/0/2/2 灰褐色	赤褐色やや多。白色・黒色細粒少。不良。	口縁～底部1/2 下層
11 須恵器 杯	底(6.8)	内面コクロナダ。体部外面手持りヘラミガキ。底部は平底で、一方手持りヘラミガキ。二股造。	内 2.5/3/2 に近い黄褐色 外 #	赤褐色・白色・黒色細粒少。良好。	底部1/6 下層
12 須恵器 杯	底(5.4)	内面コクロナダ。底部回転軸未切り。二股造。	内 2.5/3/1 灰白 外 2.5/2/1 灰白	灰色・白色・黒色細粒少。不良。	底部1/2 下層
13 土師器 甕	口径(6.8)	口縁部内外面コクロナダ。外面押圧痕あり。胴部内面横方向ナズ。ヘラミガキ。外面横方向ナズ。	内 2.5/3/4/3 褐色 外 2.5/3/3/3 暗褐色	透明細粒多。白色細粒・赤褐色細粒少。良好。	口縁部1/8 下層
14 土師器 甕	口径(7.8)	口縁部内外面コクロナダ。肩部は短く立ち。	内 2.5/3/4/2 灰褐色 外 2.5/3/2/1 黒	白色細粒多。良好。	口縁部1/7 上層
15 須恵器 甕		胴部内面コクロナダ。ナズ。粘土接合痕あり。外面ナズ。南北全周。	内 2.5/3/1 黄褐色 外 #	白色細粒・白色針状物多。良好。	胴部一部 下層

SI-844

1 土師器 甕	口径(20.0)	口縁部コクロナダ。胴部内面ナズ。外面胴部上半周方向ナズ。上底縁部方向ナズ。口縁は短く存在す。	内 2.5/2/1 黒 外 3/0/2/2 に近い黄褐色	黒色・透明細粒多。白色細粒少。良好。	4cm 口縁～胴部1/3 No.1
2 須恵器 杯	口径(14.0)	口縁部～内面体部コクロナダ。外面体部上半コクロナダ。体部下半回転軸付。二股造。	内 2.5/3/2 灰黄 外 2.5/3/2 灰黄	白色・黒色・透明細粒少。良好。	口縁部1/10 体部1/4 上層
3 灰釉陶器 高台付杯	高台7.0	底部内面コクロナダ。底部外面全面回転ヘラミガキのら高台縁付。高台外面に稜がある。黒部90号薬式(新)～新戸3号薬式(古)製。	内 2.5/2/1 灰白 外 #	黒色細粒。良好。	底部実存 下層
4 土師器 高台付杯	底(6.2)	内面黒色処理・ヘラミガキ。高台縁付。全面コクロナダ。	内 3/1.5/0 黒 外 2.5/3/6/3 に近い黄褐色	白色・透明細粒多。赤褐色細粒少。良好。	底部1/3 一帯
5 須恵器 甕	口径(8.0)	内外面コクロナダ。底面不明。	内 3/0/1 灰 外 2.5/3/4/1 褐色	小礫少。良好。	口縁部1/4 下層
6 土師器 甕	口径(8.4)	口縁部コクロナダ。内面押圧痕あり。胴部内面ヘラミガキ。外面ヘラミガキ。薄い器厚で、口の口縁の壊れた状態。	内 3/0/3/1 明赤褐色 外 3/0/3/1 褐色	白色・赤褐色細粒多。透明細粒少。良好。	口縁部1/8 東カマド上面
7 灰一煎細 土師器 甕	口径(8.0)	内外面コクロナダ。	内 3/1/0 灰 外 3/3/0 灰	白色細粒少。良好。	口縁部1/12 上層

SI-845

1 土師器 杯	底(7.8)	内面黒色処理・ミガキ。底部外面回転軸未切り。	内 2.5/5/2 暗灰黄 外 3/0/3/6 暗褐色	黒色・赤褐色細粒多。透明細粒。不良。	底部1/3 上層
2 土師器 杯		内面ナズ。ヘラミガキ。外面横位のヘラミガキ。	内 2.5/3/6/4 に近い黄褐色 外 #	白色・黒色細粒多。透明細粒少。良好。	胴下層1/4 上層

SI-846

1 土師器 杯	底(7.0)	内面コクロナダのら黒色処理・ミガキ。体部外面コクロナダ。底部回転軸未切り。	内 3/2/0 黒 外 3/0/2/4 に近い黄褐色	白色細粒少。小礫粒。良好。	体部下位1/6 底部 1/2 上層
2 土師器 杯	底(7.0)	内面コクロナダのら黒色処理・ミガキ。体部外面コクロナダ。底部回転軸未切り。上げ底状。	内 3/0/4/1 黄褐色 外 3/0/3/3 に近い黄褐色	白色細粒多。透明細粒少。良好。	体部下位一部 底部 1/2 上層

SI-847

1 土師器 杯	底(6.0)	コクロナダのら内面黒色処理・ミガキ。底部回転軸未切り。	内 3/1.5/0 黒 外 3/0/2/2 に近い黄褐色	白色・黒色細粒少。赤褐色細粒。中々良。	体部下位一部 底部 1/2 上層
2 土師器 杯	底(6.4)	コクロナダのら内面黒色処理・ミガキ。体部下端～底部手持りヘラミガキ。	内 3/2/0 黒 外 3/0/2/4 に近い黄褐色	灰色やや多。良好。	体部下位一部 底部 1/2 上層
3 土師器 杯	底(6.0)	内面ヘラミガキ。体部外面コクロナダのら。粘土接合痕あり。底部回転軸未切りのら外面手持りヘラミガキ。	内 2.5/5/2 暗灰黄 外 #	灰色細粒少。透明細粒。良好。	体部一部 底部1/3 下層
4 須恵器 杯	底(6.4)	内面～体部外面コクロナダ。底部調整技法不明。5と同一体体か。	内 2.5/6/3 に近い黄褐色 外 2.5/2/3 黄褐色	黒色細粒多。不良。	体部下位一部 底部 1/3 下層
5 須恵器 杯	底(6.0)	内面～体部外面コクロナダ。底部調整技法不明。4と同一体体か。	内 3/0/2/3 に近い黄褐色 外 #	黒色細粒少。不良。	体部下位～底部1/3 上層

第 14 次調査区

SI-847

6. 竪穴部 底		内外面ロクロナツ。南北企業。	内 2.5/6.1 黄灰 外 2.5/5.2 埋灰	白色細粒多。黒色粒・白色針状物少。良好。	底部下位 1/4 上層
7. 土師部 底		口縁部ロクロナツ。外面押付痕あり。側部外面へツケズリ。武器痕の残れもみか。	内 2.5/6.5 4 に近い黄 外 #	白色細粒多。赤褐色粒・透明細粒少。良好。	床底 口縁部一部 床底

SI-848

1. 土師部 底	底 (5.8)	内面ロクロナツのち黒色処理・ヘラミガキ。体部外面ロクロナツ。底部回転糸切り。	内 2/2.0 黒 外 2/1/2.7 に近い黄橙	白色細粒・赤褐色粒少。やや不良。	底部 1/4 上層
2. 原始段階 底		内外面ロクロナツ。斜付。溝状部。	内 2/5.2 灰オリブ 外 2/1/2.7 に近い黄橙	砂質。白色・黒色細粒少。良。	口縁部 1/8 上層

SI-849

1. 土師部 底	口 (13.1) 底 6.3 高 3.5	ロクロナツのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。	内 2/2.0 黒 外 2.5/5.2 埋灰	黒色・透明細粒多。良好。	2cm, 3cm 口縁へ底部 1/3 No.4,7
2. 土師部 底	口 (12.0) 底 5.6 高 4.2	内面ロクロナツのち黒色処理・ヘラミガキ。外面口縁へ体部ロクロナツ。底へ体部下端回転へツケズリ。近所外面に墨書「上」あり。底部黒色あり。	内 2/2.0 黒 外 2/1/2.7 に近い黄橙	白色細粒多。透明細粒少。白色針状物多。良好。	5cm 口縁へ体部 1/2 底部完全
3. 土師部 底	口 (14.8)	口縁部ロクロナツ。側部内面ナツ。外面へツケズリ。最大径を側部中心に持つ。	内 2/1/2.7 灰黄緑 外 2/1/2.7 灰黄緑	白色・透明細粒少。やや不良。	口縁へ側部 1/4 No.6
4. 竪穴部 底		側部ロクロナツ。側部内面無文字付具。外面平行向き。自然傾斜。産地不明。	内 2/1/1.7 灰 外 2/5.2 灰オリブ	黒色細粒少。白色細粒多。良好。	底部へ側上 1/4 No.5

SI-852

1. 土師部 底	底 (6.8)	内面へツケミガキ。表面著しく不明瞭。底部回転糸切り。器面着色している。	内 2/1/2.6 埋 外 2/1/2.6 埋	黒色細粒多。透明細粒少。不良。	底部 1/3 上層
-------------	---------	-------------------------------------	----------------------------	-----------------	--------------

SI-853

1. 土師部 底	口 (13.4) 底 7.0 高 4.0	ロクロナツのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部へツケ切り後ナツ。	内 2/2.0 黒 外 2/1/2.6 4 に近い黄橙	黒色・透明細粒多。良好。	口縁へ底部 3/4 上層
-------------	-------------------------	---------------------------------	--------------------------------	--------------	-----------------

第 1 次調査区

SD-112

1. 土師部 底	口 (13.0)	内面黒色処理・ヘラミガキ。体部外面に墨書「四」あり。	内 2/2.0 黒 外 2/1/2.7 に近い黄橙	白色・赤褐色・透明細粒多。良好。	口縁部 1/6 体部一部 上層
2. 土師部 底	口 (12.8) 底 6.4 高 4.1	内面黒色処理・ヘラミガキ。タール付着。打明具。底部回転糸切り。	内 2.5/2.1 黒 外 2.5/2.2 灰黄	白色・赤褐色・灰色粒少。良好。	口縁部一部 体部 1/5 底部 1/2 5D-112B No.7
3. 土師部 底	口 (12.0) 底 6.6 高 4.0	内外面ロクロナツ。底部回転糸切り。	内 2/1/2.7 灰白 外 #	白色・灰色粒少。黒色細粒多。良好。	口縁へ側部 1/6 底部 4/5 5D-112B No.46,47,最上層
4. 土師部 底	口 (12.4) 底 8.4 高 3.6	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナツ。体部下位へ底部平行持ちへツケズリ。体部外面に墨書あり。	内 2/2.0 黒 外 2/1/2.7 に近い黄橙	透明細粒多。白色・赤褐色細粒少。灰色粒・黒色細粒多。良好。	体部 1/4 底部 1/2 5D-112B No.34,35,54,65
5. 土師部 底	底 5.8	内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。	内 2/2.0 黒 外 2/1/2.7 に近い黄橙	赤褐色粒・白色細粒少。良好。	底部完全 上層上層
6. 竪穴部 底	底 (8.0)	内外面ロクロナツ。底部へツケ切りのナツ。曇子産。	内 2/5.0 灰 外 #	白色粒少。良好。	体部下位へ底部 1/3 5D-112B No.36
7. 土師部 高坪	口 17.6 脚 (13.6) 高 13.4	内外面ロクロナツ。	内 2/1/2.8 2 灰黄緑 外 #	白色・灰色粒多。透明・赤褐色粒少。良好。	口縁へ体部 1/2 脚部 1/8 最上層。上層

SD-113

1. 竪穴部 高台付坪	口 (14.4) 高台 (8.0) 高 4.7	内外面ロクロナツ。底部回転糸切り。高台張り付付。野馬鹿か。	内 2.5/6.1 黄灰 外 2.5/5.1 黄灰	灰色粒多。良好。	口縁部一部 体部 1/6 底部 1/4 最上層
2. 土師部 底	底 6.2	内面へツケミガキのち黒色処理。外面ロクロナツ。底部回転糸切り。	内 2.5/2.1 黒 外 2.5/2.5 1 に近い黄	白色・橙細粒少。良好。	底部完全 2/25 上層
3. 土師部 底	口 (12.8) 底 (6.0) 高 4.1	内面へツケミガキ。外面ロクロナツ。底部回転糸切り。	内 2/1/2.6 4 に近い黄橙 外 #	白色・黒色・赤褐色細粒多。良好。	口縁へ体部一部 底部 1/3 3D-195 上層
4. 土師部 底	底 6.2	内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切りのち。手持ちへツケズリ。	内 2/1.5 0 灰 外 2/1/2.2 灰黄緑	白色細粒少。良好。	底部完全 2/225 中層

SD-140A

1. 竪穴部 底	底 (9.6)	底部へツケズリのちナツ。へツケ記号あり。内外面ロクロナツ。曇子産。	内 2/1/1.7 灰 外 2/5.0 灰	白色細粒多。砂質。良好。	底部 1/4 2/200 埋土中
-------------	---------	-----------------------------------	--------------------------	--------------	---------------------

SD-140B

1. 土師部 底	口 (9.8) 底 (6.0) 高 3.3	内面黒色処理・ヘラミガキ。内外面ロクロナツ。底部回転糸切り。タール付着。打明具。	内 2/2.0 黒 外 2.5/5.4 に近い黄	赤褐色粒・白色細粒少。良好。	口縁部一部 体部へ底部 1/4 上層
2. 竪穴部 底	底 6.0	内外面ロクロナツ。底部回転糸切り。二産産。	内 2/1/1.7 灰 外 #	白色細粒少。不良。	底部 2/3 2/270 中層
3. 竪穴部 底	口 (13.8) 底 8.0 高 3.8	内外面ロクロナツ。底部回転糸切り。二産産。	内 2.5/7.1 灰白 外 #	灰色粗粒・黒色細粒多。	口縁部 1/8 底部完全 中層。下層

SD-151

1. 穴輪部 底	高台 10.0	底部回転糸切り。内外面穴輪扁平。黒灰 11 号炭式部。	内 2.5/7.1 灰白 外 #	灰色粒やや多。良好。	底部完全 No.35, F層
-------------	---------	-----------------------------	---------------------	------------	-------------------

SD-152

1. 土師部 底	底 (6.8)	内外面ロクロナツ。内面黒色処理。底部回転糸切り。	内 2/2.0 黒 外 2.5/2.7 4 に近い黄	白色・赤褐色粒少。不良。	底部 1/3 No.17
2. 土師部 底	底 (5.6)	内外面ロクロナツ。内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。	内 2/2.0 黒 外 2/1/2.7 4 に近い黄橙	白色細粒多。良好。	底部 1/4 No.15, 中層

## 第4章 発見された遺物

### 第1次調査区

#### SD-152

3 土師器 杯	底 6(0)	内外面クロコナデ、内面黒色処理・ハツミギキ、底部回転糸切り、体部外面磨きあり。	内 K2/0 黒 外 10Y85/3 浅黄緑	白色・黒色顔料多、今令良好。	体部下位～底部 1/2 No.52
4 須恵器 杯	底 8.0	内外面クロコナデ、底部へラ切り、磁子施。	内 K2/0 黒 外 #	白色顔料少、良好。	底部 2/3 上層
5 灰釉陶器 壺		内外面クロコナデ、外面灰釉施す。光ヶ丘1号形式。	内 K7/0 灰白 外 5Y7/2 灰白	白色・黒色顔料施、良好。	胴部一部 No.21, 下層

#### SD-153

1 土師器 杯	口 11.2 底 6.2 高 3.6	内外面クロコナデ、底部回転糸切り。	内 10Y72/4 に近い黄緑 外 #	灰色・赤褐色顔料多、磁質、良好。	口縁～体部上位 1/6 体部下位～底部完存 下層
2 灰釉陶器 小瓶	底 6(0)	外面クロコナデのうち灰釉施す。底部回転糸切り、黒帯 90 号形式。	内 2.5Y7/1 灰白 外 5Y3/2 灰オリーブ	灰色顔料少、良好。	底高 1/6 No.4, 中層
3 須恵器 杯	底 5.4	内外面クロコナデ、底部回転糸切り、三森施。	内 10Y72/4 に近い黄緑 外 #	灰色顔料や今令、良好。	体部下位 1/6 底部 2/3 92-339 中層
4 灰釉陶器 瓶	高台 8(0)	内面高台接面をのぞき薄く灰釉施す。底部外面クロコナデ、重ね痕あり。光ヶ丘1号形式。	内 5Y7/2 灰白 外 2.5Y7/1 灰白	灰色顔料多、灰色顔料少、良好。	高台 1/4 No.6, 下層
5 灰釉陶器 壺		クロコナデ、内外面薄く灰釉施す。虎渡山1号形式。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 2.5Y5/3 黄緑	黒色顔料少、白色顔料施、良好。	口縁～胴部一部 No.7
6 土師器 壺		胴部外面ケズリ、内面ナデ、口縁部コナデ。	内 10Y75/2 灰黄緑 外 2.5Y86/4 に近い黄	赤褐色顔料や今令、黒色顔料少、良好。	口縁～胴部一部 No.1, 中層

#### SD-154

1 小ひふ汁 灰釉陶器 梗か	口 6(30) 底 4(2) 高 2.3	内外面クロコナデ、底部回転糸切り。	内 2.5Y72/4 に近い黄緑 外 #	赤褐色顔料多、黒色顔料少、良好。	口縁部一部 体～底部 1/3
2 土師器 杯	底 8(0)	内外面クロコナデ、内面へラミギキ、底部回転糸切りのち手持ちへラケズリ。	内 2.5Y7/1 灰白 外 10Y85/3 に近い黄緑	赤褐色顔料、良好。	底部 1/4 一帯
3 土師器 杯	底 8(0)	内外面クロコナデ、内面へラミギキ、底部回転糸切りのち手持ちへラケズリ。	内 10Y75/2 灰黄緑 外 10Y86/3 に近い黄緑	透明・灰色顔料少、良好。	底部 2/3 92-362

#### SD-193

1 須恵器 杯	底 7(0)	内外面クロコナデ、体部下～底部外面回転へラケズリ、罫ノ内施。	内 K5/0 灰 #	白色顔料施、良好。	体部下位～底部 1/4 中層
------------	--------	--------------------------------	------------	-----------	-------------------

#### SD-194

1 土師器 杯	底 6(30)	内面へラミギキのうち黒色処理、外面クロコナデ、底部手持ちへラケズリ。	内 K2/0 黒 外 2.5Y3/2 黒褐	黒色顔料少、良好。	底部 1/3 中層
------------	---------	------------------------------------	--------------------------	-----------	--------------

#### SD-195

1 土師器 杯	口 12(4) 底 5.8 高 4.2	内外面クロコナデ、内面黒色処理・ハツミギキ、底部回転糸切り。	内 K2/0 黒 外 10Y85/3 明赤褐	透明・赤褐色顔料少・黒色顔料少、良好。	口縁部 2/3 体部 1/3 底部完存
2 土師器 杯	口 12.0 底 6(0) 高 3.8	内面黒色処理・ハツミギキ、外面クロコナデ、底部一方手持ちへラケズリ。	内 K2/0 黒 外 10Y85/3 明赤褐	黒色顔料や今令、赤褐色顔料少・灰色顔料少、良好。	口縁～体部 1/2 底部完存 No.2、最下層
3 土師器 杯	口 14.8 底 7(2) 高 6.0	内面黒色処理・ハツミギキ、外面クロコナデ、底部手持ちへラケズリ。	内 K2/0 黒 外 2.5Y86/4 に近い黄	灰色顔料や今令、赤褐色顔料少、良好。	口縁部 2/5 底部 1/5 上層、中層
4 土師器 杯	口 12(0) 底 5.0 高 4.1	内外面黒色処理・ハツミギキ、外面クロコナデ、底部手持ちへラケズリ。	内 K1.5/0 黒 外 2.5Y85/4 に近い黄	赤褐色顔料少、黒色顔料や今令、良好。	口縁部 1/6 体部～底部 1/4 上層、中層
5 土師器 杯	口 12.6 底 6.4 高 3.3	内外面黒色処理・ハツミギキ、外面クロコナデ、体部下～底部全面回転へラケズリ。	内 K1.5/0 黒 外 10Y85/3 黄緑	赤褐色・透明顔料少、良好。	口縁部～体部 3/5 底部 ほぼ完存 上層
6 須恵器 杯	口 12.6 底 6.2 高 3.8	クロコナデ、底部回転糸切り、三森施。	内 10Y75/3 に近い赤黄 外 #	白色顔料少、良好。	口縁部 2/4 体部下半～底部完存 No.1, 中層

#### SD-196

1 土師器 杯	底 5.8	内面黒色処理・ハツミギキ、外面クロコナデ、底部回転糸切り。	内 K2/0 黒 外 2.5Y86/4 に近い黄	白色・透明顔料少、良好。	底部 2/3 中層
------------	-------	-------------------------------	-----------------------------	--------------	--------------

#### SD-204

1 須恵器 壺		内面木製製文付具、膠料部分あり、転用施、外面削施。	内 10Y4/1 暗青灰 外 2.5Y85/6 明褐色	灰色顔料、白色顔料や今令、良好。	胴部一部 92-132 上層
------------	--	---------------------------	--------------------------------	------------------	-------------------

#### SD-206

1 土師器 鉢	口 18.2 底 8(30) 高 6.6	内面黒色処理・ハツミギキ、割縁が美しい、外面クロコナデ、底部回転糸切り。	内 2.5Y82/1 黒 外 2.5Y86/6 黄	黒色・灰色顔料少、良好。	口縁部一部 体部 1/5 底部 1/4 No.1, 下層
------------	-------------------------	--------------------------------------	------------------------------	--------------	---------------------------------

### 第2次調査区

#### SD-242

1 須恵器 杯	底 6.4	クロコナデ、底部回転糸切り、三森施。	内 2.5Y85/4 に近い黄緑 外 #	白色・赤褐色・透明顔料多、良好。	体部下位 1/3 底部完存 上層
------------	-------	--------------------	-------------------------	------------------	---------------------

#### SD-250

1 土師器 杯	底 7(0)	内面黒色処理・ハツミギキ、外面クロコナデ、底部回転糸切り。	内 5Y2/1 黒 外 10Y72/4 に近い黄緑	白色顔料、透明顔料少、良好。	底部 6/7 No.31
2 須恵器 高台杯	底 9(0)	内面～体長外面クロコナデ、底部外面全面へラケズリ、高台起り付、割山施。	内 10Y8/2 灰 外 #	白色顔料多、赤褐色顔料施、良好。	底部 4/7 No.10

#### SD-265

1 須恵器 杯	底 6.0	内面クロコナデ、底部回転糸切り、三森施。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 #	赤褐色顔料多、白色・黒色顔料多、良好。	底部完存 No.5(3層)
------------	-------	----------------------	---------------------	---------------------	------------------

#### SD-292

1 土師器 杯	底 6(0)	内外面クロコナデ、底部回転糸切り。	内 10Y72/4 に近い黄緑 外 10Y85/4 浅黄緑	黒色・赤褐色・白色顔料・灰色顔料多、今令良好。	体部下位～底部 1/4 No.1
2 灰釉陶器 瓶	高台 7.2	内面全面灰釉・ハツミギキ、底部全面回転へラケズリ、黒帯 90 号形式。	内 5Y6/2 灰オリーブ 外 2.5Y7/1 灰白	灰色顔料多、白色顔料少、赤褐色顔料施、良好。	底部 1/2 No.3

## 第2次調査区

## SD -301

1 土器器 種		コロンナダの内外面に灰釉掛け掛け、光+土1等分には大層2分配合。	内 3.57/1 灰白 外 *	黒色細粒少、良好。	口縁部一部 1層
2 土器器 杯	口(12.0) 底 6.0 高 3.2	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面コロンナダ。底部ヘラケズリ。	内 92/0 黒 外 93/6 赤橙	白色粒・赤褐色粒・黒色細粒少、良好。	口縁部1/8 底部1/3 No.1
3 土器器 杯	底 6.2	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面コロンナダ。底部下層→底部手持ちヘラケズリ。	内 92/0 黒 外 2.51/6.6 明赤橙	黒色粒・赤褐色粒・白色細粒少、良好。	体部下段→底部1/4 No.3,1 上層

## SD -305

1 土器器 壺	口(11.2)	口縁部内外面コナダ。胴部外面ヘラケズリ。	内 2.51/4.2 灰白 外 *	赤褐色粒・白色細粒・黒色細粒・灰色細粒少、良好。	口縁部1/4 No.8
2 土器器 杯	底(5.8)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面コロンナダ。底部回転未切り。	内 92/0 黒 外 2.51/6.6 橙	白色・黒色細粒。良好。	体部下段→底部1/3 No.2

## SD -329

1 煎茶器 皿	高台 6.2	内外面・底部コロンナダ。外面沈下から下位手持ちヘラケズリ。	内 91/5(1) 灰白 外 94/0 灰	白色細粒少、良好。	体部下下1/2 底部完全 高台1/2 上層
------------	--------	-------------------------------	--------------------------	-----------	--------------------------

## SD -330

1 土器器 杯	口(11.8) 底 6.2 高 3.8	内外面コロンナダ。底部ヘラ切りのみナダ。	内 91/7/3 に近い黄橙 外 *	白色・灰色細粒。黒色細粒多。	口縁部1.6 底部2/5 No.14, 上層
2 土器器 杯	口(11.2) 底 15.4 高 3.8	内外面コロンナダ。底部回転未切り。	内 91/6.6 橙 外 *	赤褐色粒・白色細粒・黒色細粒・灰色細粒少、良好。	口縁部1/8 底部1/2 No.7, 中層
3 土器器 杯	口(10.8) 底 5.0 高 3.7	内外面コロンナダ。底部回転未切り。	内 91/6.6 橙 外 *	白色粒・灰色粒・赤褐色粒・黒色細粒多、良好。	口縁部1.8 底部1/2 底部完全 3層(中層), 4層
4 土器器 杯	口(10.6) 底 6.4 高 3.5	内外面コロンナダ。底部回転未切り。	内 2.51/6.6 橙 外 *	赤褐色粒・透明粒・白色細粒・黒色細粒多、良好。	口縁部1.8 底部1/2 底部完全 上層, 2層, 中層
5 土器器 杯	口(11.2) 底 5.8 高 3.2	内外面コロンナダ。底部回転未切り。	内 91/6.2 に近い黄橙 外 *	赤褐色粒・白色・黒色・透明細粒多、良好。	口縁部1/2 底部完全 No.9, 中層
6 土器器 杯	口(13.4) 底 9.4 高 3.5	内外面コロンナダ。底部ヘラ切りのみナダ。	内 91/6.4 に近い黄橙 外 *	赤褐色粒・白色・灰色細粒多。灰緑・黒色・透粒細粒。	口縁部一部 底部1/2 No.19, 下層
7 土器器 杯	口(11.8) 底 6.4 高 3.2	内外面コロンナダ。体部下位まで削付。底部回転未切り。内口口縁部・体部褐色化。	内 91/6.4 に近い黄橙 外 *	白色雲母・赤褐色粒・白色細粒・透明細粒。良好。	口縁部1.8 底部完全 No.1, 上層
8 土器器 杯	口(12.9) 底 3.0 高 3.5	内外面コロンナダ。底部回転未切り。	内 91/6.6 橙 外 *	白色粒和白色細粒多。赤褐色粒。黒色細粒少、良好。	口縁部1/4 底部3/5 No.24, 中層
9 土器器 杯	口(11.8) 底 6.6 高 3.5	内外面コロンナダ。底部回転未切り。タール付着。灯明用。	内 91/6.2 黄橙 外 *	赤褐色粒・黒色細粒・灰色細粒少、良好。	口縁部1/2 底部完全 No.12, 3層
10 土器器 杯	口(11.4) 底 5.4 高 3.3	内外面コロンナダ。底部→体部下手持ちヘラケズリ。	内 91/6.2 灰黄橙 外 91/6.4 に近い黄橙	白色・赤褐色粒・白色・灰色細粒少、良好。	口縁部1/4 底部1/2 No.33, 中層
11 土器器 杯	口(11.4) 底 5.2 高 3.8	内外面コロンナダ。底部回転未切り。	内 91/6.3 に近い黄橙 外 *	赤褐色粒・白色細粒・黒色細粒多、良好。	口縁部1/3 底部完全 No.3, 上層
12 土器器 杯	口(11.6) 底 5.2 高 3.6	内外面コロンナダ。底部回転未切り。	内 91/6.6 橙 外 *	白色粒・赤褐色粒和白色細粒少、良好。	口縁部1/4 底部2/5 No.19, 上層
13 土器器 杯	口(12.8) 底 16.0 高 3.8	内外面コロンナダ。底部回転未切り。	内 91/5.6 明赤橙 外 *	白色細粒・赤褐色粒・黒色細粒少、良好。	口縁部1.6 底部1/4 3層(中層), 4層(下層)
14 土器器 杯	口(12.6) 底 6.6 高 3.9	内外面口縁部コナダ。内面体部→底部へラ状工具の沈みあり。外面体部埋付。底部無調整。	内 91/7/3 に近い黄橙 外 *	赤褐色粒・黒色・灰色・透明細粒少、良好。	口縁部2/3 底部完全 No.27, 上層, 3層(中層)
15 土器器 杯	底 6.0	内外面コロンナダ。底部回転未切り。	内 2.51/7.4 に近い黄橙 外 *	赤褐色粒・灰色粒・黒色細粒少、良好。	体部下下1/4 上層
16 土器器 杯	底 6.2	内外面コロンナダ。底部回転未切り。	内 91/7/3 に近い黄橙 外 *	赤褐色粒・灰色細粒少、良好。	底部1/3 上層
17 土器器 杯	底 6.0	内外面コロンナダ。底部回転未切り。	内 2.51/5.1 灰白 外 *	白色雲母・白色粒・赤褐色粒・透明細粒少、良好。	体部下段→底部1/2 上層
18 土器器 杯	底 6.0	内外面コロンナダ。底部回転未切り。	内 91/7/3 に近い黄橙 外 *	白色粒・赤褐色粒和透明粒・灰色粒・黒色細粒多、良好。	底部1/3 2層(上層)
19 土器器 杯	底 6.6	内外面コロンナダ。底部技法不明。	内 2.51/7.2 橙 外 2.51/6.2 に近い黄橙	赤褐色粒多。白色細粒少、良好。	体部下段→底部1/2 2層(上層)
20 土器器 杯	底 5.8	内外面コロンナダ。底部回転未切り。	内 91/6.6 橙 外 *	白色粒・赤褐色粒・黒色細粒少、良好。	体部下段→底部1/2 No.6, 上層
21 土器器 杯	底 5.6	内外面コロンナダ。底部回転未切り。	内 91/6.6 橙 外 *	白色細粒・赤褐色粒・黒色細粒少、良好。	体部下段1/2 底部完全 No.3, 下層
22 土器器 杯	底 6.2	内外面コロンナダ。底部回転未切り。	内 2.51/6.6 橙 外 91/5.6 明赤橙	白色・灰色・黒色細粒多、良好。	底部2/5 上層
23 土器器 杯	底 5.0	内外面コロンナダ。底部ヘラ切り。	内 2.51/7.1 灰白 外 91/7/2 に近い黄橙	赤褐色粒・白色細粒・白色細粒少、不良。	底部2/3 2層
24 土器器 高台付杯	口(16.0)	内外面コロンナダ。	内 2.51/6.6 橙 外 *	赤褐色粒・白色・黒色・灰色・透明細粒。良好。	口縁部1.6 体→底部 1/4 上層
25 土器器 杯	口(15.0)	内外面コロンナダ。	内 91/6.6 明黄橙 外 *	白色粒・透明粒・黒色細粒多、良好。	口縁部1/2 底部1/12 上層
26 土器器 高台付杯	口(13.8)	内外面コロンナダ。底部回転未切り。	内 2.51/7.4 に近い黄橙 外 *	赤褐色粒少。白色・灰色細粒多、良好。	口縁部1/4 底部1/3 No.2, 上層
27 土器器 高台付杯	口(13.0)	内外面コロンナダ。底部未切り。	内 91/6.6 橙 外 *	赤褐色粒・灰色粒・黒色細粒。良好。	口縁部一部 底部1/4 上層
28 土器器 高台付杯		内外面コロンナダ。底部回転ヘラ切りのみ高台付付(削離)。	内 91/7/3 に近い黄橙 外 *	赤褐色粒・灰色粒。良好。	底部1/2 上層

## 第4章 発見された遺物

## 第2次調査区

## SD-330

29 土師器 高台付杯	底 6.4	内外面・ロケロナズ。底部下端へラケズリ凸。	内 2.5186.4 凸い黄褐色 外 2.5186.6 褐色	白色・黒色細粒多。やや不貞。	底面完全 上層
30 土師器 高台付杯		内外面ロケロナズ。底部未切り。	内 2.5186.6 褐色 外 2.5186.4 良好。	白色・赤褐色・透明粒・黒色細粒少。良好。	底部下段・底部1/4 フタド
31 土師器 高台付杯		内外面・底部ロケロナズ。	内 2.5186.2 灰白 外 2.5186.6 褐色	白色・黒色・赤褐色・赤褐色多。良好。	底面完全 No.17, 上層
32 土師器 高台付杯	高台 7.2	内外面ロケロナズ。底部回転未切り。	内 2.5186.6 褐色 外 2.5186.6 褐色	赤褐色・白色細粒・透明細粒少。良好。	底面完全 No.15, 中層
33 土師器 高台付杯	高台 9(8.6)	内外面ロケロナズ。底部回転へラケズリ。	内 2.5187.1 褐色 外 2.5185.2 灰黄褐色	赤褐色・白色細粒・黒色細粒少。良好。	高台1/2 上層
34 土師器 高台付杯		内外面ロケロナズ。内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転未切り。	内 2.5187.2 灰黄 外 2.5186.4 凸い黄褐色	赤褐色・透明細粒・白色細粒・赤褐色多。良好。	底面ほぼ完全 上層
35 土師器 高台付杯		内面ミガキ。外面ロケロナズ。底部へラケ切り。	内 2.5185.6 明赤褐色 外 2.5186.2 褐色	灰色・赤褐色・赤褐色・灰色・透明細粒・黒色細粒多。良好。	底面完全 No.20, 下層
36 葉巻器 杯	底 6.2	内外面ロケロナズ。底部回転未切り。二重産。	内 2.5186.4 凸い黄褐色 外 2.5186.6 褐色	白色・赤褐色・赤褐色・灰色・透明細粒少。良好。	底面ほぼ完全 2層(中層)
37 葉巻器 高台付杯	高台 9(8.8)	内面ロケロナズ。底部全面回転へラケズリ。蓋子産。	内 2.5186.4 凸い黄褐色 外 2.5186.2 灰黄褐色	白色・赤褐色。良好。	高台1/2 No.18, 上層
38 土師器 埴	口 14(8) 底 6(2.2) 高 5.7	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面口縁部ロケナズ。底部へ底面へラケズリ。	内 2.5187.0 灰黄 外 2.5186.2 灰黄褐色	赤褐色細粒・白色細粒多。良好。	口縁部1.6 底部1/4 上層; 2層; 3層
39 灰釉陶器 瓶		ロケナズ。内外面に灰釉塗け跡付。光ヶ丘1号から2号形式。	内 2.517.1 灰白 外 2.5186.4 凸い黄褐色	白色・黒色細粒少。良好。	底部 上層
40 土師器 埴	口 14(8)	口縁部内面ハケ目。外面ロケナズ。胴部内面ハケ目。外周シナリ。	内 2.5184.1 褐色 外 2.5186.4 凸い黄褐色	赤褐色・白色細粒・黒色細粒少。良好。	口縁部1.4 3層(中層)
41 土師器 埴	底 9(8)	内面シナリ。外面へラケズリ。	内 2.5187.4 凸い黄褐色 外 2.5186.6 褐色	白色・赤褐色・黒色細粒・透明細粒多。良好。	底部下段・底部1/4 3層(中層)
42 土師器 埴	底 9(8)	内面シナリ。外面へラケズリ。	内 2.5186.4 凸い黄褐色 外 2.5186.4 凸い黄褐色	白色・赤褐色・黒色細粒少。良好。	底部下段・底部1/3 2層(上層)
43 葉巻器 壺		内面シナリ。外面格子印きのちみち目。	内 2.5186.0 灰 外 2.5186.1 灰	白色・赤褐色。良好。	胴部一部 フタド

## SD-332

1 土師器 杯	底 6(6)	内外面ロケロナズ。底部回転未切り。	内 2.5186.6 褐色 外 2.5186.6 褐色	白色・赤褐色・黒色・灰色細粒少。良好。	底部1/4 39-711 埋土上層
2 土師器 杯	底 6(2)	内外面ロケロナズ。底部回転未切り。	内 2.517.4 灰黄褐色 外 2.5185.2 灰黄褐色	白色・赤褐色・黒色細粒少。良好。	底部1/3 39-710 埋土上層
3 灰釉陶器 瓶		内面に灰釉ハケ塗り。ロケナズのち外面底部下段回転へラケズリ。光ヶ丘1号形式。	内 2.517.1 灰白 外 2.5186.4 凸い黄褐色	白色・黒色・透明細粒少。良好。	底部下段・高台一部 39-710 埋土上層

## SD-333

1 葉巻器 杯	口 13(4) 底 11(2)	ロケナズ。産地不明。	内 2.5187.1 灰白 外 2.5186.6 褐色	白色細粒少。良好。	口縁部1.6 上層
2 葉巻器 杯	底 6(2)	内外面ロケロナズ。底部回転未切り。二重産。	内 2.517.2 灰黄褐色 外 2.5186.6 褐色	白色・灰色・黒色細粒多。良好。	底部1/4 上層

## SD-334

1 葉巻器 杯	口 14(8) 底 10(2) 高 4.0	内外面ロケロナズ。底部回転へラケズリ。二重産。	内 2.517.1 灰白 外 2.5186.6 褐色	黒色細粒・白色細粒少。良好。	口縁部1/2 3層(中層)
2 葉巻器 杯	口 15(3)	内外面ロケロナズ。二重産少。	内 2.516.1 灰 外 2.5186.6 褐色	白色・黒色・赤褐色・赤褐色。良好。	口縁部1/2 3層(中層)
3 葉巻器 杯	口 13(2)	内外面ロケロナズ。産地不明。	内 2.516.1 灰 外 2.5186.6 褐色	赤褐色・白色細粒・灰色細粒・赤褐色多。良好。	口縁部1.6 3層(中層)
4 葉巻器 杯	底 6.4	内外面ロケロナズ。底部回転未切り。二重産。	内 2.5184.6 褐色 外 2.5186.6 褐色	白色・赤褐色・赤褐色少。良好。	底部下段・底部2/3 3層(中層)
5 葉巻器 杯	底 6(6)	内外面ロケロナズ。底部回転未切り。二重産。	内 2.517.2 灰黄褐色 外 2.5186.6 褐色	灰色・赤褐色・赤褐色・白色細粒・黒色細粒少。不良。	底部1/4 3層(中層)
6 葉巻器 杯	底 9(8)	内外面ロケロナズ。底部回転未切り。外周手付へラケズリ。二重産。	内 2.5186.2 灰黄褐色 外 2.5186.6 褐色	白色・灰色・赤褐色。良好。	底部1/3 1層(最上層)
7 葉巻器 高台付杯		内外面ロケロナズ。底部回転へラケズリの凸高台面付付。	内 2.5186.0 灰 外 2.5186.6 褐色	白色細粒少。良好。	底部1/3 3層(中層)
8 土師器 杯	口 11.0 底 6.4 高 3.8	内外面ロケロナズ。底部回転未切り。	内 2.5185.6 明赤褐色 外 2.5186.6 褐色	白色・赤褐色・赤褐色・黒色細粒少。良好。	口縁部1/4 底部1/2 3層(中層)
9 土師器 杯	口 13(8)	内外面ロケロナズ。	内 2.5186.6 褐色 外 2.5186.6 褐色	赤褐色・白色・透明粒・灰色細粒・黒色細粒少。不良。	口縁部1/4 1層(最上層)
10 土師器 高台付杯	高台 7.8	内外面ロケロナズ。底部回転未切り。	内 2.5185.2 灰黄褐色 外 2.5186.6 褐色	白色・赤褐色少。良好。	底面完全 5層C位下層
11 土師器 高台付杯	高台 7.3	内外面ロケロナズ。底部ナズ。	内 2.5182.1 灰 外 2.5184.2 灰褐色	赤褐色・透明粒・白色細粒・黒色細粒多。やや不貞。	高台完全 3層(中層)
12 土師器 高台付杯	高台 8.8	内外面ロケロナズ。底部回転未切り。	内 2.5186.3 凸い黄褐色 外 2.5186.6 褐色	黒色細粒・白色細粒・赤褐色・赤褐色・赤褐色多。良好。	高台完全 5層C位下層
13 土師器 杯	口 12(4) 底 6(4) 高 5.1	内外面ロケロナズ。底部回転未切り。	内 2.5184.1 灰黄褐色 外 2.5186.6 褐色	赤褐色・白色細粒・透明細粒・赤褐色・赤褐色多。良好。	口縁部1/4 底部2/5 2層(中層)
14 灰釉陶器 瓶	高台 17(8)	内外面にロケナズのち内面へラケ塗り。底部回転へラケズリ。光ヶ丘1号形式。	内 2.517.1 灰白 外 2.5186.6 褐色	黒色細粒少。良好。	高台2/5 2層(上層)
15 土師器 埴	口 16(8) 底 7.7 高 9(8)	内外面ロケナズのち内面へラケミガキ・黒色処理。	内 2.5186.0 灰 外 2.5184.6 褐色	白色・赤褐色・赤褐色多。良好。	口縁部1.6 底部1/6 3層(中層)
16 土師器 瓶	幅 4.1 厚 3.6	表面ナズ。	外 2.5187.6 褐色	白色・赤褐色・赤褐色多。良好。	底部一部 3層(中層)



## 第2次調査区

## SD-369

1 土師器小 杯	口 12.1 底 5.6 高 4.1	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 1017/3 に近い黄褐色 2.017/4 に近い黄褐色 良好。	灰色粗粒・灰色粒・黒色粗粒。 良好。	口縁部 5/6 底部完全 No.1 上層
2 土師器 杯	口 11.0 底 6.2 高 3.3	内外面ロクロナデ。	内 2.516/4 に近い褐色 #	赤褐色白・赤褐色粒・白色細粒・ 黒色細粒・灰色細粒。良好。	口縁部 1/6 上層
3 土師器 杯	底 5.8	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。内面にタール付着。打明瓦。	内 1017/3 に近い黄褐色 #	白色・灰色・灰色粗粒多。良好。	体部下平 1/3 底部完全 2層
4 土師器 杯	底 7.0	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 1017/3 に近い黄褐色 #	白色・黒色細粒多。良好。	底部 2/3 上層
5 土師器 杯	口 14.0	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。体部下段手持ヘラケズリ。	内 12/0 黒 外 1014/6 赤褐色	赤褐色粒・白色細粒・透明細粒少。 良好。	口縁部 1/8 上層
6 土師器 壺	口 18.0	口縁部コナデ。胴部内面ヘラナデ。外面ナデ。	内 1017/3 に近い黄褐色 外 1016/6 褐色	赤褐色粒・白色細粒・灰色細粒・ 黒色細粒少。良好。	口縁部 1/6 上層

## SD-370

1 土製品 土師	口径 1.6 口径 0.2 重量 6.9	表面ナデ。	1015/2 灰黄褐色	白色・黒色細粒少。赤褐色細粒。 良好。	完全 1層(上層)
-------------	-------------------------	-------	-------------	------------------------	--------------

## 第4次調査区

## SD-140

1 土師器 高台付杯	口 14.0	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。体部下段回転ヘラケズリ。	内 12/0 黒 外 2.516/6 褐色	赤褐色粒・白色微粒・白色針状 微粒。良好。	口縁部 1/8 No.10
2 土師器 埴	底 7.0	内外面ロクロナデ。底部手持ヘラケズリ。墨書法。 の旁か。	内 2.516/6 褐色 外 1016/6 赤褐色	白色粒・赤褐色粒・黒色細粒・ 白色微粒少。良好。	体部一部 底部 1/4 No.4
3 土師器 杯小	口 13.8 底 6.0 高 4.5	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 1016/4 に近い黄褐色 #	白色粒・灰色粒・赤褐色粒・黒色 細粒多。不良。	口縁部一部 体部下平 一底部 1/2 No.20
4 土師器 杯	口 11.0 底 6.0 高 3.8	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部 手持ヘラケズリ。	内 12/0 黒 外 2.516/6 褐色	赤褐色粒・白色細粒・灰色細粒・ 黒色細粒少。全く良好。	口縁部 3/5 底部完全 No.15
5 土師器 杯	口 12.8	内面コナデ。外面口縁部コナデ。体部下段打瓦。	内 2.517/1 黒褐色 外 1014/1 黒褐色	赤褐色白・白色粒・黒色細粒多。 良好。	口縁部 1/8 No.16
6 原始陶器 壺		内外面ロクロナデ。反輪軸す。弁ヶ谷 78 号形式。	内 2.514/1 灰 外 2.517/2 灰黄	白色細粒多。良好。	口縁部一部 上層

## 第5次調査区

## SD-493

1 土師器 杯	口 12.2 底 6.0 高 4.2	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部 回転糸切り。	内 1017/3 2 黒褐色 外 1015/3 に近い黄褐色	黒色細粒少・白色細粒。良好。	口縁部 1/4 底部 1/6 ツツ下。覆瓦
------------	-----------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	----------------	--------------------------

## 第6次調査区

## SD-1021

1 反輪陶器 杯		内面反輪軸へくせり。外面ロクロナデ。墨書 90 号 形式。	内 2.517/1 灰白 外 2.516/1 黄灰	黒色微粒少。良好。	口縁部 1/12 ツツ下上層
-------------	--	----------------------------------	------------------------------	-----------	-------------------

## 第7次調査区

## SD-140・550

1 葉巻器 杯	口 14.7 底 8.5 高 4.6	内外面ロクロナデ。底部ヘラ切り後ナデ。蓋子産。 底縁跡未糸切り。口縁部にタール付着。打明瓦。	内 2.516/3 に近い黄褐色 #	灰色粗粒少。白色細粒や不多。 赤褐色多。良好。	口縁部 4/5 底部 1/5 灰存 8 期下段中層 増成土層コナテ
2 反輪陶器 杯		ロクロナデ後。内外面全面に反輪軸す。墨書 90 号 形式。	内 2.517/1 灰白 外 #	黒色粗粒多。白色細粒少。良好。	体部一部

## SD-140

1 土師器 杯	口 9.7 底 6.2 高 3.1	内面コナデ。外面口縁部コナデ。体部下段打瓦。 底縁跡未糸切り。口縁部にタール付着。打明瓦。	内 2.516/4 に近い褐色 #	白色微粒。赤褐色粒少。白色・ 黒色細粒や不多。良好。	口縁部 1/4 底 底部完全 No.19
2 土師器 杯	口 10.3 底 7.0 高 2.8	内面一口縁部外面コナデ。体部外面押圧痕あり。 口縁部内面にタール付着。打明瓦。	内 2.516/3 に近い褐色 #	赤褐色粒や不多。白色細粒少。 良好。	底部中央 1/3 底完全 No.12,15
3 土師器 壺	底 15.0	内面ヘラナデ。外面体部一底部ヘラケズリ。	内 2.516/4 に近い褐色 #	白色粗粒多。黒色細粒や不多。赤 褐色細粒少。良好。	底部 1/2 No.11
4 葉巻器 杯	底 7.4	内外面ロクロナデ。底部ヘラ切り。蓋子産。	内 2.516/1 黄灰 外 #	白色細粒や不多。良好。	底部 1/4 60-90% 上出。墨土層
5 反輪陶器 壺	高台 7.0	内面中心を除去反輪軸へくせり。外面体部一底部回転 ヘラケズリ。重ね焼き痕あり。墨書 90 号形式。	内 2.517/1 灰白 外 #	白色細粒や不多。良好。	底部 1/3 60-77% 上出
6 土師器 壺	口 20.4	内面口縁部コナデ。胴部上位ナデ。中位ヘラナデ。 下位ナデ。外面口縁部コナデ。胴部上位押圧痕。 土段一平位ヘラケズリ。	内 1017/3 に近い黄褐色 外 1015/2 灰黄褐色	赤褐色白微。黒色細粒・白色細 粒少。良好。	口縁部 2/3 胴部 1/2 1層, 上層

## SD-550

1 葉巻器 杯	底 8.0	内外面ロクロナデ。外面体部下段一底部外面手持 ヘラケズリ。底部中央糸切り。二蓋産。	内 1017/2 灰白 外 #	白色・灰色細粒少。白色微粒や 不多。良好。	底部 1/6 No.47
2 葉巻器 杯	底 8.0	内外面ロクロナデ。底部ヘラ切りのみナデ。蓋子産小。 #	内 2.517/1 灰白 外 #	灰色粒少。白色・透明・黒色粗 粒多。良好。	底部 1/4 No.35
3 葉巻器 高台付杯	高台 8.0	内外面ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ。新治産。	内 2.516/1 黄灰 外 #	赤褐色白少。白色粒少。白色細粒 透明細粒や不多。良好。	高台 1/6 2層

## 第7次調査区

## SD-550

4 築造部 坪	底 (7.0)	内外面クロコナダ。底面回転糸切り。三倉造。	内 2.571/1 灰白 外 2.572/2 灰黄	褐色顔料・透明微粒・白色顔料少	底面 1/4 No.16
5 土師器 杯	口 (14.0) 底 2.8 高 4.5	内外面クロコナダ。底面回転糸切りの外周部へラケズリ。底部外面塗書「足」あり。	内 10786/4 に赤・黄緑 外 2.573/3 浅黄	赤褐色顔料。白色・赤褐色・黒色・灰色顔料やや多。透明・白色・黒色顔料多。良好。	口縁部 1/12 底面 1/2 No.32
6 灰釉陶器 皿	高台 (7.0)	内面クロコナダ。外面回転へラケズリのみ高台部分付。黒帯 90 号式。	内 10787/1 灰白 外 10772 灰白	白色顔料少。白色顔料やや多。良好。	高台 1/4 No.38
7 築造部 壁		内外面クロコナダ。遺存する外面上面回転へラケズリ。塗字あり。	内 54.0 灰 外 #	白色顔料少。白色顔料やや多。良好。	口縁部・天井一部 壁土
8 灰釉陶器 椀		クロコナダの半遺存や上半部内外面に灰釉ハケズリ。黒帯 90 号式。	内 10771 灰白 外 #	黒色顔料。良好。	体部一部
9 灰釉陶器 椀		クロコナダの内外面灰釉ハケズリ。黒帯 90 号式。	内 2.577/1 灰白 外 #	白色顔料多。	体部一部 No.39
10 土師器 埴	口 (13.0)	口縁部コナダ。外面粘土接合痕。胴部外面へラケズリ。内面押出痕。	内 10786/8 壁 外 10786/6 壁	藍色雲母やや多。黒色顔料多。灰色・赤褐色顔料少。良好。	口縁部 1/6 胴部 1/11 一部 No.5
11 築造部 壁		内面同心円当て具。外面塗格子印き。	内 106.1 黄灰 外 106.1 黄灰	白色・黒色顔料少。良好。	胴部一部 No.51

## 第8次調査区

## SD-140

1 築造部 坪	口 (44.8)	口縁部・胴部クロコナダ。3本単位の縞縞状文。新出痕。	内 2.576/1 黄灰 外 #	藍色雲母やや多。黒色顔料・赤褐色顔料多。良好。	口縁部 1/3 No.28 29 30 31 35 36 39 41 44
2 土師器 埴	底 7.0	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナダ。底面回転糸切り。	内 10781/1 黒 外 10786/6 壁	白色・黒色顔料やや多。赤褐色顔料少。良好。	底・体部下部 3/4 No.45 51 上層
3 土師器 杯	口 (15.0) 底 6.0 高 5.7	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナダ。体部へラケズリ。	内 2.578/1 黒 外 2.578/2 黒	白色顔料少。黒色顔料やや多。赤褐色顔料。良好。	体部 1/6 口・胴部一部 92-970-900 上層 No.25
4 灰釉陶器 皿		内外面灰釉厚く塗す。光ヶ庄1号式。	内 10772/2 灰白 外 10771 灰白	黒色顔料。良好。	胴部一部 No.2
5 灰釉陶器 皿		内外面クロコナダ。外面灰釉。井ヶ谷 78 号式。	内 2.576/2 灰オリーブ 外 2.576/1 灰	灰色顔料。良好。	胴部一部 No.49

## SD-610

1 築造部 坪	底 (7.0)	内外面クロコナダ。体部へ底面平持ちへラケズリ。新出痕。	内 2.577/1 灰白 外 #	藍色雲母・黒色顔料多。白色顔料少。良好。	体部へ底面 1/6 108-149 上層
2 築造部 坪	底 6.4	内外面クロコナダ。底面回転糸切り。三倉造。	内 2.578/4 に赤・黄緑 外 10785/6 明赤釉	灰色顔料。赤褐色顔料多。灰色・黒色顔料やや多。良好。	底面存在 No.8
3 築造部 坪	底 6.6	内面クロコナダ。底面回転糸切り。三倉造。	内 10771 灰白 外 #	黒色顔料多。灰色顔料少。	底面へ体部 1/4 108-149 上層
4 築造部 坪	底 (6.0)	内外面クロコナダ。底面回転糸切り。三倉造。	内 2.577/1 灰白 外 #	灰色顔料。灰色顔料・白色顔料・黒色顔料少。良好。	底面 3/1 No.2

## 第9次調査区

## SD-651

1 土師器 杯	底 (6.0)	内面ヘラミガキ。外面底面へラケズリ。	内 2.572/1 黒 外 10751 灰	白色顔料・黒色顔料・透明微粒。良好。	底面 1/5 No.17
------------	---------	--------------------	--------------------------	--------------------	-----------------

## SD-653

1 土師器 杯	底 (7.0)	内外面クロコナダ。底面へラ切り。内面にケル付付。灯明具。	内 2.578/6 壁 外 2.578/6 壁	白色顔料・透明微粒・金色雲母少。良好。	底面 1/6 上層
2 灰釉陶器 皿	高台 (7.0)	内面クロコナダ。外面・底面回転へラケズリ。外面塗書。但し底面外面。高台内面は塗書。	内 10751 灰 外 10762/2 灰オリーブ	黒色顔料やや多。白色顔料。良好。	底面 1/4 No.41

## SD-658A

1 築造部 高台付坪		底面回転糸切り。三倉造。内面クロコナダ。	内 10771 灰 外 2.576/2 灰黄	灰色顔料。白色顔料・黒色顔料少。良好。	底面 2/1 No.1
---------------	--	----------------------	---------------------------	---------------------	----------------

## SD-658B

1 築造部 坪	口 (13.2) 底 6.0 高 4.0	内外面クロコナダ。底面回転糸切り。内外面にターレ付痕。灯明具。三倉造。	内 2.575/2 薄灰黄～ 2.572/1 黒 外 2.576/1 黄灰	白色顔料やや多。黒色顔料少。良好。	口縁部～底面 1/4 No.17
2 築造部 坪	口 (13.0) 底 6.5 高 4.0	内外面クロコナダ。内面・体部に泥に塗痕あり。外面に塗書あり。底面回転糸切り。三倉造。	内 10786/6 壁 外 10786/6 壁	白色・赤褐色顔料少。黒色顔料多。黒色顔料。良好。	口縁部 1/2 底面存在 No.9 2層
3 築造部 壁		平行印き後クロコナダ。横位沈線後 11 本単位の縞縞状文。	内 10785/2 灰黄釉 外 104.1 薄黄灰	白色顔料多。白色顔料少。白色針状物多。良好。	胴部一部 No.38

## 第10次調査区

## SD-653B

1 築造部 壁	口 (45.4)	口縁・胴部クロコナダ後。4本単位の縞縞状文。内部内面ナダ。胴部外面自然釉。内面文字当て具痕。	内 2.5784/3 薄～ 2.572/1 黒 外 2.572/1 黒～ 106/2 灰オリーブ	白色顔料少。良好。	胴部 1/12 胴・口縁部一部 30.7.9 2層
2 土師器 埴	底 (6.0)	内面ヘラミガキ。外面クロコナダ。底面回転糸切り。	内 2.576/1 灰 外 10787/3 に赤・黄緑	白色顔料やや多。黒色顔料少。不良。	底面 1/3 No.23
3 築造部 坪	底 (8.0)	内外面クロコナダ。底面へ体部下層回転へラケズリ。新出痕。	内 10751 灰 外 #	藍色雲母多。白色顔料やや多。良好。	底面 1/6 No.32

第 10 次調査区

SD -653B

4 葉巻器 杯	底 7.0	内外面ロコナツ。底部へラケ切り。益子産。	内 2.574/1 灰 外 #	白色粗粒微、白色細粒多、良好。	底部 1/4 8 期 2 層 No.6
5 葉巻器 盤か		ロコナツ。高台貼り付け。高台に透かしをあける。宇都宮産か。	内 95/0 灰 外 #	白色粗粒中々多、良好。	脚 一部 No.3
6 葉巻器 高杯		ロコナツ。脚に透かしをあける。新治産。	内 96/0 灰 外 95/0 灰	棕色灰質、白色粗粒多、白色細粒少、良好。	脚 1/4 No.9

SD -670B

1 土師器 杯	口 11.0 底 6.8 高 3.8	内面黑色処理・ヘラミガキ。外面ロコナツ。底部回転車切り。体部外面に墨書「子」あり、他にもう一字ある不明瞭。	内 091.7/1 黒 外 097.4 に近い黄褐色	黒色粗粒中々多、白色細粒中々少。赤褐色粗粒、良好。	底部 9/10 口縁部一部 No.11, 12 2 層
2 灰釉陶器 瓶	底 6.2	外面へラケズリ。底部回転へラケズリ。内面にうすく輪飾。光ヶ丘 1 号窯式。	内 2.577/2 灰黄 外 #	精良、良好。	底部 1/4 No.16

第 11 次調査区

SD -193

1 土師器 瓶	口 14.8	内面黑色処理・ヘラミガキ。外面ロコナツ。底部回転車切り。	内 091.7/1 黒 外 097.4 に近い黄褐色	砂粒少、良好。	口縁部 1/6 8 期 2 層 No.6
2 土師器 杯	口 12.2 底 6.6 高 4.7	内面黑色処理・ヘラミガキ。外面ロコナツ。底部回転車切り。	内 072/1 黒 外 096.6 明黄褐色	赤色細粒少、良好。	底部 1/3 口縁部一部 8 期 埋土中 No.11
3 土師器 杯	口 9.6 底 5.4 高 2.9	外面ロコナツ。底部回転車切り。内外面タール付。灯明具。	内 2.578/4 に近い赤褐色 外 2.578.6 明赤褐色	透明粗粒、赤褐色粗粒多、白色細粒少、良好。	口縁部 1/4 底部 1/3 8 期 2 層 No.12
4 葉巻器 杯	口 12.7 底 6.4 高 4.0	内外面ロコナツ。底部回転車切り。内面タール付。灯明具。二鑫産。	内 096/1 灰 外 2.577/1 灰白	灰色粗粒・白色細粒少、良好。	山江完形 8 期 1 層 No.13, 17
5 葉巻器 杯	底 3.6	外面ロコナツ。底部回転車切り。二鑫産。	内 097/1 灰白 外 2.577/1 灰白	黒色粗・褐色粗粒少、白色細粒多、やや不良	底部 3/4 8 期 1 層 No.5
6 葉巻器 杯	底 06.0	内外面ロコナツ。益子産。	内 95/0 灰 外 #	白色粗粒少、良好。	底部 1/4 埋土中 8 期 2 層
7 葉巻器 盥	口 14.2	内外面ロコナツ。	内 96/0 灰 外 95/0 灰	白色粒少、良好。	口縁部 1/8 8 期 2 層

SD -265

1 葉巻器 杯	口 12.8 底 7.2 高 3.4	内外面ロコナツ。底部回転車切り。体部外面に「子目」の墨書あり。二鑫産。	内 097/1 灰白 外 #	灰色粒中々多、白色粗・細粒少、黒色粗粒少、良好。	口縁部 5/6 底部存在 中層
2 葉巻器 杯	口 12.6 底 6.4 高 4.0	内外面ロコナツ。底部へラケ切り。体部外面に「子」の墨書あり。益子産。	内 095/1 灰 外 #	白色細粒多、白色粗・灰色粒少、白色粗粒微、良好。	口縁部 2/3 底部存在 No.37 上層 No.45 中層
3 葉巻器 杯	口 12.0 底 6.0 高 3.6	内外面ロコナツ。底部回転車切り。二鑫産。	内 097/1 灰白 外 #	灰色粒中々少、黒色細粒少、良好。	口縁部 一部 底部 3/4 No.30 上層
4 葉巻器 杯	口 15.8	内外面ロコナツ。口縁部内面に沈線 2 条あり。産地不明。	内 098.5/1 青灰 外 #	白色粒中々少、良好。	口縁部 1/6 No.16 1 層
5 葉巻器 杯	底 9.2	内外面ロコナツ。体部下端回転へラケズリ。底部回転車切り後外面へラケズリ。二鑫産。	内 097.7/3 に近い黄褐色 外 097.8 明黄褐色	白色粒少、黒色粗粒微、良好。	底部 1/2 No.12 中層
6 葉巻器 杯	底 6.2	内外面ロコナツ。底部回転車切り後外面半手持へラケズリ。二鑫産。	内 097.8 明黄褐色 外 097.8 明黄褐色	赤褐色粗・黒色粗粒多、白色粗粒少、良好。	高～体部下位 1/2 No.14 3 層
7 葉巻器 杯	底 5.8	外面ロコナツ。底部回転車切り。二鑫産。	内 2.575/2 暗灰黄 外 #	灰色粗粒、褐色粒少、良好。	底部存在 No.43 中層
8 土師器 杯	底 6.0	体部外面下～底部半手持へラケズリ。灯明具。内外面一部にタール付。	内 2.575/2 暗灰黄 外 #	灰色・赤褐色粗多、良好。	体部下位 1/4 No.30 1 層
9 土師器 埴	口 19.0	内面黑色処理・ヘラミガキ。外面ロコナツ。	内 2.572/1 黒 外 097.4 に近い黄褐色	黒色粗粒多、赤褐色粗・白色粒少、良好。	口縁～体部 1/4 No.34 中層
10 葉巻器 盥	底 (高台 8.6)	外面回転へラケズリ。内面・底部～高台部ロコナツ。二鑫産か。	内 095.7/1 灰 外 2.563/1 暗赤～灰	黒色粗粒中々少、白色粒少、良好。	底～体部下位 1/4 No.46 上層
11 葉巻器 盥	口 24.0	内外面ロコナツ。内面割線。新治産。	内 097/2 灰白 外 #	余色灰質・灰色粒少、良好。	口縁部 1/5 No.43 中層

SD -330

1 土師器 杯	底 4.6	内外面ロコナツ。内面黑色処理・ヘラミガキ。体部外面に墨書あり。	内 92/0 黒 外 097.7/3 に近い黄褐色	黒色粗粒中々多、白色細粒少、良好。	体部下～底部 1/8 底部存在 No.36 3 層
2 葉巻器 杯		内外面ロコナツ。二鑫産。	内 2.577/1 灰白 外 #	黒色粗粒多、白色粗粒少、白色・赤褐色粗・灰色細粒少、良好。	体～底部一部 60-642 1 層 (上層)
3 葉巻器 高台付杯	底 7.8	内外面ロコナツ。陶家産か。	内 095/1 灰 外 #	黒色粗粒多、白色粗粒・灰色細粒少、良好。	底部 1/4 No.30 3 層
4 製塩土器		底部内面ナツ。外面無調整。	内 091.6 明赤褐色 外 #	余色灰質・白色粗粒中々多、良好。	底部一部

SD -369

1 葉巻器 杯	底 6.0	内外面ロコナツ。底部回転車切り。二鑫産。	内 096/1 灰 外 #	砂粒・粒少、良好。	底部 1/4 60-672 上層
2 土師器 杯	底 7.0	内面黑色処理・ヘラミガキ。外面ロコナツ。底部回転車切り。	内 2.572/1 黒 外 098.6/3 黄褐色	白色細粒・褐色粗粒・黒色粗粒少、良好。	底部 1/2 2 層
3 土師器 杯	口 13.2 底 7.0 高 3.9	口縁部～外面ロコナツ。外面体部・底部へラケズリ。	内 2.578.6 明赤褐色 外 098.6 赤褐色	赤色粗粒、砂粒少、良好。	底部 1/4 口縁部一部 60-672 上層 表面
4 土師器 杯	底 5.8	内面へラミガキ。外面体部ロコナツ後下端回転へラケズリ。底部全面回転へラケズリ。	内 2.578.6 赤褐色 外 098.6/4 に近い黄褐色	白色・赤色・黒色粗粒少、良好。	底部 1/4 60-672 上層

## 第4章 発見された遺物

## 第11次調査区

## SD-369

5 土師器 高台付杯		内面黒色処理・ヘラミガキ。底面外面ロクロナデ。	内 2.572/1 黒 外 3072/2 にぶい黄増 #	褐色・黒色細粒少。透明細粒多 良好。	底面 2/3 No.13 埋
6 灰輪陶器 椀	高台 6.2	内外面灰輪軸。底面回転ヘラケズリ。黒色 90 号 雲式。	内 2.577/1 白灰～ 3076/2 オリーブ灰 外 2.576/1 黄灰～ 3076/2 オリーブ灰	黒色細粒。良好。	底面完存 No.1 埋
7 灰輪陶器 椀(埋)	高台 (18.4)	内面ロクロナデ。黒色 90 号～新戸 53 号雲式。	内 2.576/1 黄灰 外 #	白色・黒色細粒。良好。	高台部 1.6 No.13 埋
8 土師器 椀	口 (22.6)	口縁部～内面ロクロナデ。内面一部斜方向ナデ。外面 胴部押圧長ケズリ。	内 2.575/4 にぶい黄増 外 3075/3 にぶい黄増 #	赤色・白色・黒色細粒。良好。	口縁～底面 1/8 60-672 底面
9 緑釉陶器 輪花皿	口 (14.8)	硬質。黒色 90 号雲式。	内 3075/2 オリーブ灰 外 #	精良。良好。	口縁部 1.6 1 埋

## SD-550

1 須恵器 高台付杯	口 13.5 底 6.9 高 4.3	内外面ロクロナデ。底面ヘラ切り後ナデ。ヘラ記号 あり。体部外面に「家」の墨書あり。曇子産。	内 2.575/1 灰 外 #	白色細粒多。白色細粒少。赤褐色 細粒。良好。	口縁部 1/2 底面完存 No.1
2 須恵器 高台付杯	口 (14.4)	内外面ロクロナデ。高台取り付け。曇子産。	内 34/1 灰 外 33/1 埋灰	白色細粒。白色・灰色細粒多。 良好。	口縁～底面 1/5 高台 部 No.9
3 土師器 台付椀		内面ヘラナデ。外面ケズリ。	内 3075/6 明赤褐 外 2.574/4 褐	白色・黒色・灰色細粒多。良好。	胴部下部 1/2 底面 完存 台部一部 No.8

## SD-681

1 土師器 杯	口 (13.8)	内面ヘラミガキ。外面ロクロナデ。	内 3075/2 灰黄褐 外 5785/6 明赤褐	赤褐色細多。黒色細粒やや少 や良好。	口縁部 1/4 埋土中
2 土師器 杯	口 (12.8) 底 6.6 高 4.0	内面口縁部コナデ。外面体部押圧痕。ナデ。一部 ケズリ。粘土接合痕あり。	内 2.578/6 褐 外 #	白色・黒色細粒多。赤色細粒。 良好。	口・体部 1/5 埋土中
3 土師器 杯	口 (11.0)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。	内 3071/1 黒 外 3072/1 黒	灰色細少。繊維。良好。	口縁部 1/4 埋土中
4 土師器 杯	底 (5.2)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面体部・底面回転ヘ ラケズリ。	内 3071/1 黒 外 3072/3 にぶい黄増 #	灰色細や中少。黒色細粒。白色 細少。良好。	底面 1/3 埋土中
5 土師器 杯	底 (5.6)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底面 回転未切り。	内 3071/1 黒 外 3076/4 にぶい黄増 #	灰色・赤褐色細少。白色細粒。 良好。	底面完存 埋土中
6 灰輪陶器 椀	口 (14.3)	外面体部下面外面回転ヘラケズリ。内外面灰輪ヘケ ズリ。黒色 90 号雲式。	内 2.577/1 灰白 外 #	精良。良好。	口縁～体部 1/4 埋土中
7 灰輪陶器 椀		内外面灰輪ヘケズリ。黒色 90 号雲式。	内 3076/2 灰オリーブ 外 #	精良。良好。	口縁部一部 埋土中
8 灰輪陶器 椀		内外面灰輪ヘケズリ。黒色 90 号雲式。	内 2.577/1 灰白 外 #	精良。良好。	体部一部 埋土中
9 灰輪陶器 椀	底 (10.8)	内外面ロクロナデ。外面体部～底面に輪軸。トナ ズリあり。黒色 90 号雲式。	内 308/1 灰白 外 2.576/1 灰白	精良。良好。	底面 1/4 埋土中
10 須恵器 皿	高台 (9.8)	底面全面回転ヘラケズリ。体部外面・高台接合面・ 底面外面に輪付。	内 2.576/1 灰白 外 306/1 灰	白色細少。黒色細粒多。良好。	体部下部 1/4 底面 1/3 埋土中

## SD-682

1 土師器 杯	底 66.0	内面黒色処理・ヘラミガキ。底面回転未切り。	内 3071/1 黒 外 3072/2 にぶい黄増 ～上ツ1 部	黒色細粒。良好。	底面 1/4 60-581
2 土師器 杯	底 66.2	内面黒色処理・ヘラミガキ。底面回転未切り。	内 3071/1 黒 外 3072/4 にぶい黄増 #	粗砂粒。黒色細粒。白色細粒。 良好。	底面 1/2 埋土中 60-492
3 須恵器 杯	底 66.8	底面回転未切り。体部ロクロナデ。二枚産。	内 308/1 灰 外 #	黒色細粒。良好。	体部下部 1/8 埋土中 60-492

## SD-713

1 土師器 杯	底 66.0	内面ヘラミガキ。底面回転未切り。	内 3072/4 にぶい黄増 外 2.572/4 にぶい黄増 #	白色細粒。灰色粒。灰色織。良好。	底面 1/3 埋土中 60-471
2 土師器 杯	底 (7.6)	内面黒色処理・ヘラミガキ。底面回転未切り。	内 2.572/1 黒 外 2.578/4 黄増	赤褐色細粒。灰色・白色細粒。 良好。	底面 1/4 埋土中 60-471
3 須恵器 杯	底 66.0	底面回転未切り。体部ロクロナデ。二枚産。	内 308/2 灰白 外 #	灰色・黒色細粒。良好。	体部下部 1/6 埋土中 60-471
4 須恵器 高台付杯		底面ロクロナデ。高台取り付け(割離)。曇子産。	内 3075/1 緑灰 外 #	白色細粒。良好。	底面 1/6 埋土中 60-471
5 灰輪陶器 椀	高台 (8.4)	底面内面灰輪ヘケズリ。重ね焼き痕あり。黒色 90 号雲式。	内 3075/2 オリーブ灰 ～8/1 灰白 外 3072/2 灰白	精良。良好。	底面 1/4 埋土中 60-471
6 灰輪陶器 椀		内外面輪軸。黒色 90 号雲式。	内 3077/1 明赤オリーブ 灰 #	精良。良好。	口縁部一部 埋土中 60-471
7 灰輪陶器 蓋		外面輪軸を軸し。内面無軸。黒色 90 号雲式。	内 308/2 灰白 外 2.577/2 灰白	精良。良好。	口縁部一部 埋土中 60-471
8 砥石	長 5.1 幅 4.0 厚 1.6 重 29.13	砥石長軸 4 面で。短軸一端 1 欠損。			埋土中 60-471

## SD-777

1 須恵器 杯	口 (14.0) 底 (7.6) 高 3.8	底面回転未切り。外面手持ちヘラケズリ。内面ロ クロナデ。二枚産。	内 2.577/2 灰黄 外 #	黒色細粒。灰色織。良好。	口縁～底面 1/4 埋土中埋
------------	---------------------------	-------------------------------------	---------------------	--------------	-------------------

## 第11次調査区

## SD-790

1 土師器 杯	口 14.8 底 6.0	内外面ヨコナデ、内面底仕上げ、底部外面無調整、外	内 2.573.0 硝子灰 外	黒色黴粒、赤褐色粒、良好。	口縁部 1/6 No.13 底面以上
2 土師器 杯	口 13.0	内面黒色処理・ヘラミガキ、外面ロクロナデ。	内 10782.1 黒焼 外 10783.1 黒焼	白色黴粒、透明細粒、良好。	口縁～底面一部 体部1/4 No.24 3層
3 土師器 杯	底 7.2	内面黒色処理・ヘラミガキ、外面ロケズリ、底部 ヘラケズリ。	内 2.572.1 黒焼 外 2.577.8 灰黄	白色・透明細粒、磨砂粒、良好。	底面1/6 No.18 3層
4 土師器 杯	口 12.0 底 6.0 高 4.0	内面黒色処理・ヘラミガキ、外面ロクロナデ、粘土 練れあり。	内 10782.1 黒焼 外 10783.1 黒焼	灰色粒、白色細粒、赤褐色黴粒、 良好。	口縁部1/4 底面一部 No.17 3層
5 土師器 杯	口 11.4	内面黒色処理・ヘラミガキ、外面ロクロナデ。	内 10782.1 黒焼 外 10783.1 黒焼	白色・黒色細粒、良好。	口縁～体部1/3 No.16 19 3層
6 土師器 杯	口 15.0 底 6.0 高 5.1	内面黒色処理・ヘラミガキ、外面ロクロナデ、底部 回転糸切り。	内 10782.1 黒焼 外 10788.8 黄焼	赤褐色粒、白色・灰色粒、黒色 黴粒、良好。	口縁部1/4 底面1/3 No.25 27 4層
7 土師器 杯	底 6.0	黒色処理・内面ヘラミガキ、外面ロクロナデ、底部 回転糸切り。	内 2.573.1 黒焼 外 2.578.4 灰黄	灰色・灰色細粒、良好。	底面1/4 190 グリッド 上層
8 須恵器 杯	口 13.0 底 7.2 高 3.6	内外面ロクロナデ、底部回転糸切り、三鑫産。	内 10787.2 にぶい黄焼 外 10788.2 灰白	赤褐色・白色黴粒、黒色・白色 細粒、赤褐色粒、全く良好。	口縁部一部 底面1/4 No.1 2層 4層
9 灰輪陶器 瓶	高台 19.0	内面底部中央・体部内外面に灰輪ヘケ塗り、底部全 面回転ヘケズリ、惣髷 90 号形式。	内 1078.1 灰白 外 2.578.1 灰白	黒色・白色細粒、良好。	高台1/3 60-521 上面 総
10 灰輪陶器 瓶		内外面に灰輪塗布、惣髷 90 号形式。	内 6577.1 明オリブ 灰 外 #	黒色・白色黴粒、良好。	口縁部一部 No.8 5層
11 土師器 盤	底 4.6	底部・側面外面ヘラケズリ、武蔵豊産地。	内 2.578.4 にぶい黄 焼 外 10788.8 明赤焼	赤褐色・赤褐色粒、白色細粒、良好。	底面1/2 No.7 3層
12 土師器 鉢	口 19.0	内外面ロクロナデ。	内 10788.4 灰黄～2.1 黒焼 外 2.5787.8 黒焼	白色・灰色・赤褐色・透明・黒色 細粒、良好。	口縁部1/12 No.22 4層

## SD-796

1 須恵器 杯	底 6.6	内外面ロクロナデ、底部回転糸切り、三鑫産。	内 2.575.1 黄灰 外 2.575.2 硝子灰黄	灰色・赤褐色粒、黒色細粒、良好。	底面完全 60-308
------------	-------	-----------------------	--------------------------------	------------------	----------------

## SD-797

1 土師器 杯	口 12.7 底 6.6 高 3.9	内面～口縁部外面ヨコナデ・ヘラナデ、外面体部ヘ ラケズリ、底部ヘラケズリ。	内 10787.2 にぶい黄焼 外 10788.2 灰白	赤褐色・透明粒、黒色細粒、良好。	口縁～底面1/3 上層
------------	-----------------------	--	---------------------------------	------------------	----------------

## SD-800

1 土師器 杯	口 11.8 底 7.2 高 3.8	内面ヘラミガキ、外面体部・底部ヘラケズリ、口縁 部ヨコナデ。	内 2.5787.8 焼～1.7 赤黒 外 10788.4 灰黄焼～ 1.7.1 黒焼	透明・白色細粒、赤褐色粒、良好。	口縁完全 No.27 A 期 1層
2 土師器 杯	口 12.0 底 6.6 高 4.0	内面黒色処理・内面ヘラミガキ、外面ロクロナデ、 底部手持ヘラケズリ。	内 10781.7.1 黒 外 10787.8 焼	灰色・赤褐色細粒、良好。	口縁部1/3 底面1層 No.42 4期 1層
3 土師器 瓶	口 15.2	内面黒色処理・内面ヘラミガキ、外面ロクロナデ。	内 10781.7.1 黒 外 10788.4 灰黄焼	黒色細粒、灰色粒、良好。	口縁部1/8 60-348 上面
4 須恵器 杯	口 12.0 底 5.8 高 3.6	内外面ロクロナデ、底部回転糸切り、三鑫産。	内 578.2～3.1 灰白 オリブ 外 #	白色・黒色細粒、灰色粒、不良。	口縁部1/3 底面完全 No.11 B 期 2層
5 須恵器 高台付杯	口 16.0 底 7.0 高 5.4	内外面ロクロナデ、底部全面回転ヘラケズリ、ヘラ 記号あり、益子産。	内 10675.1 緑灰 外 #	白色黴粒・粒、良好。	底部高台存在 体部一 部 A 期 1層、B 期 1層 No.20 22
6 須恵器 高台付杯	高台 9.6	内外面ロクロナデ、底部回転糸切り、三鑫産。	内 2.5675.1 オリブ灰 外 106.1 黄赤灰	白色黴粒、白色細粒、良好。	底部・高台1/4存在 60-244 上面
7 須恵器 高台付杯	高台 9.6	底部回転糸切り、三鑫産。	内 1078.1 灰 外 2.577.2 灰黄	白色細粒、黒色黴粒、良好。	底面1/4存在 高台 1/2 B 期 上面 60-454
8 須恵器 高台付杯		底部全面回転ヘラケズリ、益子産。	内 2.5676.1 オリブ灰 外 1076.1 灰	白色黴粒・粗粒、良好。	底面1/3 B 期 1層 No.21
9 須恵器 高台付杯	口 13.0 底 9.2 高 4.8	内外面ロクロナデ、底部ヘラケズリ、益子産。	内 2.575.1 黄灰 外 1065.1 青灰	白色黴粒・細粒、灰色細粒、良好。	底面1/3 高台1/6 体 部一部 B 期 1層
10 土師器 杯	口 14.2 底 5.8 高 4.9	内面黒色処理・ヘラミガキ、外面ロクロナデ、体部 内外面に墨書あり。	内 10781.7.1 黒 外 10785.4 にぶい赤焼	白色細粒、赤褐色・灰色粒、良好。	底面1/2 体部1/2 口 縁部一部 No.38 B 期 1層 60-614
11 土師器 軟鉢形	口 19.0 底 6.0 高 4.4	内面ヘラミガキ、外面手持ヘラケズリ後ヘラミガキ、 底部回転糸切り、体部外面に墨書あり。	内 10787.8 赤 外 10785.8 明赤焼	白色粒、黒色・赤褐色黴粒、良好。	1/3 No.36 E 期 1層 60-614 上層
12 土師器 付付盤	底 10.9	内外面ヨコナデ、外面に墨ス付着。	内 10783.6 硝子灰 外 10787.8 硝子灰～1.7.1 黒焼	白色・黒色細粒、灰色細粒、良好。	底面1/4存在 No.1 B 期 2層

## SD-803

1 須恵器 杯	底 6.2	内外面ロクロナデ、底部ヘラ切り後ナデ、益子産。	内 13.1 硝子灰 外 #	白色粒・粗粒、良好。	底～体部1/4 1/4 F 層
------------	-------	-------------------------	-------------------	------------	--------------------

第4章 発見された遺物

第11次調査区

SD-804

1 土師器 杯	口(13.0) 底(7.0) 高 4.0	内外面コロナダ。内面一部ヘラナダ。外面体部ヘラナダ。底部ヘラナダ。	内 2.076/4にふい黄褐色 外 2.072/3にふい黄褐色	白色細粒多。黒色細粒・透明粒少。赤褐色粒微。良好。	底高1/4・体部1/6 口縁部 一部 69-189 100 上層
2 灰釉陶器 瓶		内外面灰釉施す。頸部90号式。	内 2.077/1灰白 外 #	白色・黒色細粒。砂質。良好。	口縁部 一部 69-189 130 上層
3 灰釉陶器 瓶		底面外面コロナダ。内面体部・底面見込み灰釉施す。頸部90号式。	内 2.572/2 浅黄 外 2.572/3 浅黄	白色・黒色細粒。良好。	高台・底面1/6 69-189 130 1層

SD-810

1 土師器 杯	底(6.2)	内面ヘラミガキ。外面コロナダ。底面回転糸切り。	内 2.570/8 黒 外 2.072/4にふい黄褐色	白色・灰色細粒。良好。	底面1/6 底面
2 須恵器 杯	底 7.0	内外面コロナダ。底面回転糸切り。三義産。	内 2.076/6にふい黄褐色 外 2.072/4にふい黄褐色	赤褐色粒。白色微粒。黒色細粒。良好。	底面1/4 69-642 上層
3 土師器 瓶	底(7.0)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面コロナダ。底面回転糸切り。	内 2.071/7 黒 外 2.072/3にふい黄褐色	白色細粒。黒色細粒。良好。	底高1/4 No.1 2層
4 灰釉陶器 瓶	口(13.0)	内外面コロナダ。灰釉施す。頸部90号式。	内 2.076/2オリーブ灰 外 2.076/1 灰	黒色・白色微粒。良好。	口縁部1/6 No.4 1層

第12次調査区

SD-610

1 土師器 杯	口(11.2) 底(6.0) 高 3.6	内面コロナダ。外面口縁部コロナダ。体部・底面ヘラナダ。	内 2.075/8 明赤褐色 外 #	黒色・白色細粒。赤褐色粒。良好。	口縁・底面1/4 107-170 上層
------------	-------------------------	-----------------------------	-----------------------	------------------	------------------------

SD-826A

1 灰釉陶器 瓶		コロナダ。体部と頸部三段接合。弁+管78号式。腹平。	内 2.072/2 オリーブ 外 2.074/2 オリーブ灰	黒色微粒。良好。	口径1/4 91-890 下層
-------------	--	----------------------------	-----------------------------------	----------	--------------------

SD-826B

1 土師器 杯	口(12.0)	内外面コロナダ。	内 2.078/3 浅黄褐色 外 #	黒色・赤褐色粒。良好。	口縁部1/4 91-882 5層中
------------	---------	----------	-----------------------	-------------	----------------------

SD-827

1 灰釉陶器 広口皿		コロナダ。灰釉施す。積投産。	内 2.573/5 オリーブ 外 2.573/3 黄褐色	黒色・白色微粒。良好。	口縁部 一部 107-134 1層
2 須恵器 杯	底(7.4)	内外面コロナダ。底面ヘラ切り。焼成前の割箸。磁子産。	内 2.575/1 灰 外 #	白色微粒。凡。	底高1/6 107-82 3層

SD-827B

1 土師器 杯	口(6.4)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面コロナダ。	内 2.072/1 黒 外 2.575/4にふい黄褐色	赤褐色・灰色細粒。良好。	口縁1/8・体部1/6 107-82 3層(上層) 2層(上層)
------------	--------	----------------------	--------------------------------	--------------	--

SD-827C

1 須恵器 壺	底(15.0)	内外面コロナダ。底面外面取状圧痕。	内 84.0 灰 外 #	白色細粒多。白色粗粒少。良好。	底面1/5 107-109 上層
------------	---------	-------------------	-----------------	-----------------	---------------------

SD-836

1 土師器 杯	口(8.0) 底(4.0) 高 2.5	内外面体部・底面コロナダ。底面回転糸切り。	内 2.076/6 黒 外 #	白色・黒色細粒。良好。	体部1/8・口縁・体部 一部 497-52 上層(2層中)
------------	------------------------	-----------------------	--------------------	-------------	----------------------------------

第13次調査区

SD-610

1 土師器 杯	口(13.0)	内外面コロナダ。	内 2.072/2 黒 外 2.072/3にふい黄褐色	微砂粒。良好。	口縁・体部1/6 108-129 上層
2 土師器 瓶	底(5.0)	内面黒色処理・ヘラミガキ。体部外面コロナダ。底面回転糸切り。	内 2.575/7 黄灰 外 2.578/2 灰白	白色・黒色微粒少々多。赤褐色粒。黒色細粒少。良好。	底高1/3 108-133 上層
3 須恵器 杯	口(12.0) 底(4.0) 高 4.3	内外面コロナダ。底面回転糸切り。三義産。	内 2.076/1 灰 外 #	白色・灰色・黒色細粒。良好。	口縁・底面1/4 No.2 3層 No.6 中層

第1次調査区

SK-156

1 土師器 杯	口(12.0) 底(4.6) 高 4.0	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面コロナダ。底面回転糸切り。体部外面に遺書「千」あり。	内 2.070 黒 外 2.5786/6にふい黄褐色	黒色。灰色・白色・赤褐色粒少。良好。	口縁・体部5/6 底面 完全 上層
2 土師器 杯	口(12.0) 底(4.4) 高 4.5	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面コロナダ。体部外面に遺書あり。	内 2.575/9 黒 外 2.572/3 浅黄	灰色粗粒多。良好。	体部下部・底面1/2 口縁部 一部 上層
3 土師器 杯	口(12.0) 底(5.7) 高 4.0	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面コロナダ。体部外面に遺書「千」あり。	内 2.070 黒 外 2.072/3にふい黄褐色	灰色粗粒。赤色粗粒人。良好。	口縁部1/6 体部1/3 底面 完全 上層
4 土師器 杯	口(13.4)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面コロナダ。体部外面に遺書あり。	内 2.070 黒 外 2.075/4にふい黄褐色	白色・黒色細粒。良好。	口縁部1/5 上層
5 土師器 杯	口(12.2) 底(5.8) 高 3.9	内面黒色処理・内面ヘラミガキ。外面コロナダ。底面回転糸切り。	内 2.070 黒 外 2.572/3 浅黄	白色・黒色・灰色・赤褐色粒。良好。	口縁・体部上位1/4 底面 完全 上層
6 土師器 杯	口(12.2) 底(4.6) 高 4.2	内面黒色処理・内面ヘラミガキ。外面コロナダ。底面回転糸切り。	内 2.070 黒 外 2.5785/6 明褐色	黒色細粒少。赤色粗粒人。良好。	口縁・体部1/2 底面 完全 上層
7 土師器 杯	口(14.0) 底(7.0) 高 4.7	内面黒色処理・内面ヘラミガキ。外面コロナダ。底面回転糸切り。外周手持ヘラナダ。	内 2.070 黒 外 2.5786/6 黒	白色・灰色・赤褐色細粒少。良好。	口縁・体部1/2 底面 完全 上層

## 第1次調査区

## SK-156

8. 土師器 杯	口 15.0 底 6.4 高 5.2	内面黒色処理・内面ヘラミガキ、外面ロクロナズ、底面回転赤切り。	内 1072/1 黒 外 2.578/2 黄灰	灰色・赤褐色、黒色細粒少、良好。	口縁～体部 1/3 底面 存在 上面
9. 土師器 杯	口 16.5 底 9.4 高 5.0	内面黒色処理・ヘラミガキ、外面ロクロナズ、底面回転ヘラクスリ。	内 92/0 黒 外 1072/3 に近い黄褐色	白色粗粒、良好。	口縁部・体部・底面 3/4 上面
10. 土師器 杯	底 8.0	内面黒色処理・ヘラミガキ、外面ロクロナズ、底面回転赤褐色。	内 92/0 黒 外 1075/4 に近い黄褐色	灰色粗粒、赤色粒、良好。	底面存在 上面
11. 土師器 杯	底 16.8	内面黒色処理・ヘラミガキ、外面ロクロナズ、底面回転赤褐色。	内 92/0 黒 外 1076/4 に近い黄褐色	黒色・赤色粒・透明粗粒、良好。	底・体部下位 1/3 上面
12. 土師器 杯	底 5.6	内面黒色処理・ヘラミガキ、底面回転赤褐色、底面外面に墨書「道」あり。	内 1072/1 黒 外 2.577/3 黄灰	白色・透明粗粒、赤色粗粒人、良好。	底面一部 底面存在 上面
13. 土師器 杯	底 5.6	内面黒色処理・ヘラミガキ、底面回転赤褐色、底面外面に墨書「上」あり。	内 92/0 黒 外 1072/4 に近い黄褐色	白色粗粒、良好。	底面存在 上面
14. 土師器 杯	高台 7.8	内面黒色処理・ヘラミガキ、外面ロクロナズ。	内 2.572/1 黒 外 1076/4 に近い黄褐色	灰色・白色粗粒多、良好。	高台 1/2 底面存在 上面
15. 須恵器 杯	底 6.4	内外面ロクロナズ、底面回転赤褐色、二叢産。	内 2.576/2 黄灰 外 *	黒色粗粒少、赤色粒、良好。	底面 1/2 上面
16. 土師器 耳環	高台 5.0	内面黒色処理・ヘラミガキ、底面外面全面ロクロナズ。	内 1071.7/1 黒 外 1075.6 明赤褐色	透明・黒色細粒、良好。	底面存在 上面
17. 土師器 壺	口 12.9	内面ロクロナズ、外面口縁部ロクロナズ、胴部ヘラクスリ。	内 1075/3 に近い黄褐色 外 2.575/4 に近い黄褐色	透明・灰色粗粒少、良好。	口縁～胴部上半 2/3 上面

## SK-168

1. 土師 土師	外径 1.9 口径 3.0 重 5.20	表面ケズリ。	内 1077/4 に近い黄褐色	白色・透明粗粒多、赤褐色粗粒少、上面	
-------------	-------------------------	--------	-----------------	--------------------	--

## SK-190

1. 土師器 壺	口 18.7 底 3.6 高 27.7	内面口縁部ロクロナズ、胴部～底面ヘラクスリ、外面口縁部ロクロナズ、胴部上位横方向(右から左へ)のヘラクスリ、胴部位～下位縦方向(上から下へ)のヘラクスリ、底面ヘラクスリ。	内 2.578/5 明赤褐色 外 2.578/4 に近い赤褐色	灰色・白色・黒色粗粒多、白色粗粒少、白色・灰色粗粒、良好。	ほぼ完成
-------------	------------------------	---	------------------------------------	-------------------------------	------

## SK-199

1. 土師器 杯	口 11.8 底 5.4 高 3.3	内面黒色処理・ヘラミガキ、外面ロクロナズ、底面回転赤褐色。	内 92/0 黒 外 2.574/6 赤褐色	黒色粗粒多、良好。	口縁～体部 5/6 底面 存在 上面
-------------	-----------------------	-------------------------------	---------------------------	-----------	-----------------------

## 第2次調査区

## SK-268

1. 須恵器 杯	底 5.0	内外面ロクロナズ、底面回転赤褐色、二叢産。	内 2.577/1 灰白 外 *	灰色粒・灰色粗粒多、良好。	底面存在 上面
-------------	-------	-----------------------	---------------------	---------------	------------

## SK-299

1. 須恵器 杯	外径 3.4 口径 0.7 重 1.9 重 24.49	外面ナズ、胴面押圧痕。	外 96/0 灰白	白色粗粒少、良好。	存在 土層(土層)
-------------	--------------------------------	-------------	-----------	-----------	--------------

## SK-341

1. 灰釉陶器 瓶	口 11.4	内外面口縁部に灰釉薄く掛け、虎岡山1号窯式。	内 2.576/2 黄灰 外 *	精良、良好。	口縁部一部 下層
--------------	--------	------------------------	---------------------	--------	-------------

## 第3次調査区

## SK-387

1. 土師器 壺	口 12.1	口縁部ロクロナズ、胴部内面ナズ、胴部外面ヘラクスリ。	内 2.575/3 に近い黄褐色 外 *	白色粒、赤褐色粗粒多、黒色粗粒、良好。	口縁～胴部 1/4 No.1
-------------	--------	----------------------------	-------------------------	---------------------	-------------------

## 第4次調査区

## SK-397

1. 土師器 杯	底 7.2	内外面ロクロナズ、底面回転赤褐色。	内 1072/4 に近い黄褐色 外 *	灰色・白色・黒色粗粒多、透明粗粒・赤褐色粗粒、黒色粗粒多、良好。	底面ほぼ存在 上面
2. 灰釉陶器 壺	内外面全面に灰釉施す、新戸63号窯式。	内 1076/2 オリーブ灰 外 *	精良、良好。	口縁部一部 上面	

## SK-421

1. 土師器 杯	口 11.0 底 5.3 高 3.2	内外面ロクロナズ、底面回転赤褐色、朽心あり、朽明具。	内 2.572/1 黒 外 *	灰色・白色・黒色粗粒少、金色雲母、良好。	存在 No.1
2. 土師器 杯	口 12.4 底 6.0 高 4.2	内外面ロクロナズ、底面回転赤褐色。	内 1077/4 に近い黄褐色 外 2.576/2 黄灰	白色・灰色粗粒多、金色雲母・透明粗粒、赤褐色粗粒人、良好。	存在 No.1
3. 土師器 杯	口 11.8 底 5.2 高 3.5	内外面ロクロナズ、体部下～底面回転ヘラクスリ。	内 2.577/3 黄灰 外 2.576/3 に近い黄褐色	白色粗粒・黒色粗粒少、赤褐色粗粒人、良好。	底面存在 土層 No.6
4. 土師器 杯	口 11.4 底 5.8 高 4.0	内外面ロクロナズ、底面回転赤褐色。	内 1077/3 に近い黄褐色 外 *	白色粗粒・黒色粗粒少、金色雲母・透明粗粒、良好。	存在 No.3
5. 土師器 杯	口 10.0 底 4.8 高 3.5	内外面ロクロナズ、外面体部下位・底面回転ヘラクスリ、内面ターム付痕、朽明具。	内 1077/4 に近い黄褐色 外 *	白色粒・白色粗粒・赤褐色粗粒、良好。	口縁部 1/3 底面 2/3 No.10
6. 土師器 杯	口 11.6 底 5.6 高 3.5	内外面ロクロナズ、胴部内面粘土付け足し、ナズ、底面外面回転赤褐色、指の痕で押圧、移痕品。	内 1077/4 に近い黄褐色 外 *	白色粗粒多、白色粗粒・透明粗粒・赤褐色粗粒・金色雲母、良好。	ほぼ存在(口縁部一部欠損)

## 第4章 発見された遺物

## 第4次調査区

SK-432						
1 土師器 高台付杯		内面ヘラミガキ。外面口ロナナ。底面全面回転ヘラケズリ。	内 10YR5/2 灰黄褐 外 10YR4/2 灰黄褐	白色微粒多。黒色細粒・赤色微粒。赤褐色細粒。良好。	底面充存 上面	
SK-461						
1 土師器 杯	口(17.4)	内面・口縁部外面ヨコナ。外面体部に縦方向に沈線ケズリ。輪化痕あり。	内 10R4.6 赤褐色 外 #	黒色細粒・灰色粒多。白色粒少。 白色粗粒微。良好。	口縁部 1/5 上面	
SK-447						
1 灰釉陶器 高台付直壺	高台(15.4)	内面練瓦す。外面口ロナナ。底面回転糸切り。	内 6YR/3 オリーブ黄 外 5Y7/1 灰白	精良。良好。	底面 1/2 上面	

## 第5次調査区

SK-494						
1 灰釉陶器 瓶	高台(8.4)	内外面に灰練瓦す。ヘラ塗り。内面に重ね焼き痕あり。黒鉄 90 号炭式。	内 5Y7/1 灰白 外 #	黒色細粒微。良好。	底面 1/6 上面	
2 灰釉陶器 壺		内面口ロナナ。外面回転ヘラケズリ。高台取り付。黒ヶ谷 70 号炭式。	内 2.5Y6/1 黄灰 外 #	白色細粒微。良好。	底面一部 4割	
3 須恵器 杯	底(7.4)	内外面口ロナナ。外面体部下端・底面手持ちヘラケズリ。新治産。	内 2.5Y5/1 黄灰 外 #	赤色黄緑多。良好。	体部下位・底面 1/8 No.1	
SK-501						
1 土師器 杯	底(7.2)	内外面口ロナナ。底面回転糸切り。	内 2.5YR6/4 に近い黄 外 10YR6.6 橙	黒色微粒少。赤褐色粒多。不良。	底面 1/2 上面	

## 第6次調査区

SK-548						
1 灰釉陶器		内外面に灰練瓦す。黒鉄 90 号炭式。	内 2.5Y7/1 灰白 外 #	黒色微粒少。良好。	口縁部一部 埋土中	

## 第7次調査区

SK-558						
1 土師器 壺	口(18.8)	内面口縁部ヨコナ。胴部ヘラナ。外面口縁部ヨコナ。胴部ヘラケズリ(右から左方向へ)。口縁部粘土層合痕。押圧痕あり。内外面にスス付着する。	内 10YR6.8 橙 外 #	赤褐色細粒・白色細粒少。良好。	口縁部 1/3 上面	
2 須恵器 杯		内外面口ロナナ。未野産か。	内 2.5Y6/1 黄灰 外 2.5Y7/2 灰黄	暗褐色粒・黒色粒やや多。やや良好。	口縁部一部 上面	
SK-571						
1 土師器 杯	底(7.1)	内外面口ロナナ。底面回転糸切り。	内 2.5YR5/4 に近い黄 外 2.5YR4/3 橙	白色微粒・黒色細粒・透明粒少。良好。	底面 4/5 上面	

## SK-581

1 灰釉陶器 壺		内外面口ロナナ。外面上部に釉を施す。黒ヶ谷 70 号炭式。	内 2.5Y5/2 暗黄 外 #	白色細粒微。褐色粒やや多。良好。	体部一部 埋土中	
-------------	--	-------------------------------	---------------------	------------------	-------------	--

## SK-597

1 土師器 壺	底(9.0)	内面ヨコナ。外面ヘラケズリ。底面圧痕。	内 2.5YR6/4 に近い黄 外 10YR4/2 灰黄褐	白色微粒少。透明細粒微。赤褐色粒やや多。良好。	底面 1/3 上面	
------------	--------	---------------------	----------------------------------	-------------------------	--------------	--

## 第11次調査区

SK-694						
1 土師器 杯	口(12.4)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面口ロナナ。	内 5Y2/1 黒 外 2.5YR6.6 橙	白色・黒色微粒少。良好。	口縁部 1/8 埋土中	

## SK-699

1 須恵器 杯	底(7.0)	内外面口ロナナ。底面回転糸切り。三森産。	内 10YR/1 灰 外 #	白色粒やや多。黒色細粒少。良好。	底面ほぼ充存 No.3,4	
------------	--------	----------------------	-------------------	------------------	------------------	--

## SK-704

1 土師器 杯	口(12.4) 底(6.9) 高(4.9)	内面ヘラミガキ。外面口縁部ヨコナ。体部・底面ヘラケズリ。	内 10Y5.8 明赤褐 外 赤色黄緑少	白色細粒多。白色粒・赤褐色粒・赤色黄緑少。良好。	口縁部 1/2 No.2	底面充存
2 須恵器 杯	口(13.0)	内外面口ロナナ。三森産。	内 10YR7/4 に近い黄橙 外 2.5Y7/2 灰黄	褐色・黒色細粒少。良好。	口縁部 1/6 No.3	

## SK-726

1 須恵器 壺		内外面口ロナナ。外面頸部平行押さ。茨城産。	内 6.5Y 灰 外 #	白色粗粒・白色粒多。良好。	口縁部 1/12 上面	
------------	--	-----------------------	-----------------	---------------	----------------	--

## SK-739

1 須恵器 壺	底(13.4)	内面ナ。外面体部ナ。体部下位ケズリ。底面ヘラケズリ。益子産。	内 5Y1/1 灰 外 5Y2/1 暗灰	白色粒やや多。白色粗粒・黒色微粒少。良好。	体部下位 1/4 埋土中	
------------	---------	--------------------------------	-------------------------	-----------------------	-----------------	--

## 第12次調査区

SK-837						
1 土師器 杯	口(14.0)	内面口縁部ヨコナ。体部～底面ナ。外面口縁部ヨコナ。体部～底面ヘラケズリ。外面に焼を残し。口縁は外縁丸縁に立つ。	内 10YR5/2 灰黄褐 外 #	赤褐色粒。白色細粒。良好。	口縁部 1/4 埋土上	



第14次調査区

SK-857

1 聚落部 坑	底 7.0	内外面ロコナツ。底部へウ切り後ナツ。内面にター ム付。打明瓦。粘土色。	内 109/60/3 に近い黄褐色 2.5/84/2 灰褐色	白色顔料。白色顔料。焼。	底部1/5 上面
2 灰桶陶器 甕		内面に黒色文を施す。縁段直。黒色90号式(古) 甕。	内 2.5/6/2 灰ナツ 外 #	白色顔料。良好。	口縁部1/12 上面

SK-859

1 土器部 坑	底 6.4	内外面ロコナツ。底部回転糸切り。	内 2.5/85/3 に近い黄褐色 2.5/84/2 灰褐色	白色顔料。黒色顔料。良好。	底部1/3 上面
2 灰桶陶器 甕	口 14.0	内外面ロコナツ。薄く灰桶を施す。ハケ塗。黒 色14号式。	内 2.5/8/2 灰白 外 2.5/7/2 灰黄	白色顔料。良好。	口縁部1/6 上面

SK-860

1 土器部 坑	底 8.0	内外面ロコナツ。底部回転糸切り。	内 2.5/5/1 黄灰 外 2.5/2/1 黒	白色顔料。良好。	底部～底縁1/5 上面
------------	-------	------------------	-----------------------------	----------	----------------

SK-861

1 土器部 坑	口 15.0	内面黒色処理・ヒガキ。表面割落し。技法不明瞭。	内 2.5/2/0 黒 外 109/60/3 に近い黄褐色	赤褐色色。白色顔料。良好。	口縁部1/12 上面
------------	--------	-------------------------	----------------------------------	---------------	---------------

SK-863

1 土器部 高台付甕	高台 7.2	内面黒色処理・ヘウミガキ。底部外面ロコナツ。	内 109/60/3 黒褐色 外 2.5/85/4 に近い黄褐色	白色顔料多。良好。	底縁完存
---------------	--------	------------------------	-------------------------------------	-----------	------

第1次調査区

SE-116

1 土器部 壺	口 14.8	口縁部コナツ。内外面ナツ。	内 109/73/3 に近い黄褐色 外 #	白色顔料多。赤褐色少。良好。	口縁部1/8
2 土器部 高台付甕	高台 8.4	内面黒色処理・ヘウミガキ。底部回転糸切り後。手 持ちへウケズリ。	内 2/0/0 黒 外 109/60/6 黒	白色顔料多。赤褐色多。良好。	底部1/2 4層

第2次調査区

SE-371

1 土器部 坑	底 6.2	内面黒色処理・ヘウミガキ。外面ロコナツ。底部 回転糸切り。	内 109/62/1 黒 外 109/62/2 灰白	白色顔料。赤色色。黒色顔料少 良好。	底縁完存 No.1
2 灰桶陶器 甕		内外面灰桶施す。光ヶ丘1号式。	内 2.5/7/1 灰白 外 109/62/2 灰白	黒色顔料少。良好。	口縁部一部 上面
3 灰桶陶器 甕		ロコナツのみ。内面灰桶施す。光ヶ丘1号。大甕 2号式。	内 109/6/2 灰ナツ 外 #	黒色顔料。良好。	口縁部一部 上面
4 聚落部 坑	口 12.0 底 6.4 高 3.7	内外面ロコナツ。底部回転糸切り。三連産。	内 2.5/6/2 灰黄 外 2.5/5/1 黄灰	白色・黒色顔料少。良好。	口縁部1/6 底部1/3 上面

第1次調査区

SX-115

1 土器部 坑	口 12.0 底 6.0 高 4.5	内外面ロコナツ。外面体部ナツ。底部へウ切 り後ナツ。木目瓦付。	内 109/63/1 黒褐色 外 #	白色・赤褐色・白色顔料やや多 赤褐色顔料混入。良好。	口縁～体部3/6 底縁 完存 No.17,18
2 土器部 坑	口 12.0 底 7.0 高 3.4	内外面ロコナツ。底部へウ切り。内面にターム付。打 明瓦。	内 2.5/86/6 黒 外 #	白色顔料多。赤褐色少。赤色 顔料混入。良好。	完存 No.16,24,32
3 土器部 坑	口 12.2 底 6.6 高 3.8	内外面ロコナツ。底部回転糸切り。	内 2.5/87/3 に近い黄褐色 外 #	白色・灰色色。赤褐色色多。透 明顔料混入。良好。	ほぼ完存 No.24,27
4 土器部 坑	口 12.0 底 8.4 高 3.8	内外面ロコナツ。底部へウ切り。織物の圧痕。	内 109/63/1 黒褐色 外 109/65/6 明赤褐色	白色・赤褐色色・黒色顔料多。 良好。	ほぼ完存 No.11,12
5 土器部 坑	口 12.1 底 7.6 高 3.2	内外面ロコナツ。底部内面ナツ。底部へウ切り。 口縁部へ内面コナツ。外面体部押圧痕。底部砂目。 ターム付。打明瓦。	内 109/66/4 に近い黄褐色 外 #	灰色顔料。赤褐色少。黒色顔 料。良好。	口縁部2/3 体部下半 ～底縁完存 No.8,10
7 土器部 坑	口 12.7 底 6.0 高 4.1	口縁部へ内面コナツ。外面体部押圧痕。粘土層合 成あり。底部砂目。	内 2.5/87/4 に近い黄褐色 外 #	白色・赤褐色少。赤褐色混入。 良好。	完存 No.9,10
8 土器部 坑	口 12.3 底 4.8 高 4.3	口縁部コナツ。体部内面へナツ。外面体部押圧 痕。体部下半へウケナツ。底部糸切り。内面にター ム付。打明瓦。	内 109/63/1 黒褐色 外 2.5/85/4 に近い黄褐色	白色・赤褐色色やや多。良好。	完存 No.26
9 土器部 坑	口 11.3 底 5.8 高 3.5	口縁部へ内面コナツ。外面体部上半押圧痕あり。 体部下半へウケナツ。底部砂目。外周ケズリ。	内 109/2/1 黒 外 109/6/1 オリーブ黒	白色・赤褐色色多。赤褐色混入。 良好。	ほぼ完存 No.21
10 土器部 坑	口 11.9 底 6.4 高 3.7	口縁部へ内面コナツ。外面体部～底部無調整。外 面に黒底あり。	内 2.5/86/4 に近い黄褐色 外 #	白色・灰色色。赤褐色色多。赤 色雲母混入。良好。	ほぼ完存 No.17
11 土器部 坑	口 11.6 底 6.2 高 3.8	口縁部へ内面コナツ。外面体部押圧痕あり。底部 無調整。	内 109/62/1 黒 外 109/66/4 に近い黄褐色	白色・灰色色。赤褐色色。透明 顔料多。白色顔料。金色雲母混入。 良好。	完存 No.12
12 土器部 坑	口 11.9 底 5.0 高 4.1	口縁部へ内面コナツ。内面一部押圧痕あり。外面 体部押圧痕あり。	内 109/66/4 に近い黄褐色 外 2.5/85/4 に近い黄褐色	灰色・白色色。赤褐色色多。赤 褐色混入。良。	完存 No.20
13 土器部 坑	口 11.8 底 5.5 高 3.7	口縁部へ内面コナツ。内面底部へナツ。内面黒 色処理あり。外面体部押圧痕あり。底部無調整。	内 2.5/2/1 黒 外 109/6/6 明赤褐色	灰色・白色色。赤褐色色多。黒 色顔料混入。良好。	口縁部3/4 体部下半 ～底縁完存 No.19,23
14 土器部 坑	口 12.8 底 6.0 高 4.0	口縁部へ内面コナツ。外面体部押圧痕あり。底部 無調整。	内 2.5/87/4 に近い黄褐色 外 109/65/2 灰黄褐色	白色色。赤褐色色。透明顔料。黒 色顔料多。良好。	ほぼ完存 No.23,25,28,30
15 土器部 坑	口 12.1 底 5.7 高 3.5	口縁部へ内面コナツ。内面底部ナツ。外面体部押 圧痕あり。底部砂目。	内 109/73/3 に近い黄褐色 外 #	白色・灰色色。赤褐色色・黒色顔 料多。良。	ほぼ完存 No.31

#### 第4章 発見された遺物

##### 第1次調査区

###### SX-115

16 土師器 杯	口 12.4 底 5.0 高 3.9	口縁部～内面コナナ。外面体部押圧痕あり。底部無調整。	内 10186/4 に近い黄褐色 #	白色・灰色・透明・赤褐色粒多。良好。	口縁～体部完存 底部1/2 No.1,3,5
17 土師器 杯	口 12.4 底 5.0 高 3.1	口縁部～内面コナナ。外面体部押圧痕あり。底部無調整。	内 10185/1 焼灰 外 2.5185/4 に近い黄褐色	白色・灰色・赤褐色粒多。金色雲母。良好。	口縁～体部2/3 底部完存 No.6,7,13,14
18 土師器 杯	口 12.0 底 5.8 高 4.0	口縁部～内面コナナ。内面黒色処理。外面体部押圧痕あり。底部砂目。	内 10172/1 黒 外 10186/6 明黄褐色	白色・赤褐色粒多。黒色細粒多。良好。	完存 No.10

###### SX-166

1 土師器 杯	口 13.0	内外面コロナナ。	内 10186/3 に近い黄褐色 #	白色細粒・透明粒。良好。	口縁部1/12 上面
2 土師器 杯	底 6.0	黒色処理・内面ヘラミガキ。外面コロナナ。底部回転未切り。	内 92/0 黒 外 2.5186/6 橙	白色・透明・赤褐色粒。良好。	体部下段1/3 底部完存 上面
3 土師器 高台付埴 輪	高台 7.8	内外面コロナナ。底部回転未切り。	内 10187/4 に近い黄褐色 #	白色・透明・赤褐色粒。良好。	高台1/2 底部完存 上面
4 灰釉陶器 甕		外面全面灰釉を施す。虎尻山1号窯式。	内 1017/1 灰白 外 #	精良。良好。	口縁部1/12 上面

###### SX-167

1 土師器 埴輪	口 10.0 底 10.0 高 8.3	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面コロナナ。底部ヘラミガキ。	内 92/0 黒 外 2.5185/4 に近い黄褐色	微砂粒・黒色粒多。良好。	口縁部・体部・底部1/5 上面
2 土師器 杯	底 6.2	内外面コロナナ。底部回転未切り。	内 2.5186/4 に近い黄褐色 外 2.513/1 黒褐色	透明粒・黒色細粒多。良好。	体部下段～底部1/2 上面

###### SX-169

1 土師器 杯	口 14.0	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面コロナナ。体部外面に墨書(字)あり。	内 92/0 黒 外 2.5185/4 に近い黄褐色	白色・透明細粒。良好。	口縁～体部1/4 上面
2 土師器 杯	口 12.0 底 6.0 高 4.3	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面コロナナ。体部外面に墨書あり。	内 92/0 黒 外 2.5185/4 に近い黄褐色	白色細粒少。	口縁部一部 底部1/2 上面
3 土師器 杯	口 12.0 底 6.1 高 4.3	内外面コロナナ。内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転未切り。口縁部磨粒。	内 92/0 黒 外 10186/3 に近い黄褐色	白色・黒色粒少。良好。	口縁～底部1/4 上面
4 土師器 杯	底 7.2	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面コロナナ。体部下端手持ちヘラミガキ。底部回転未切り。	内 92/0 黒 外 10186/4 に近い黄褐色	白色粒・赤褐色粒少。良好。	底部2/3 上面
5 土師器 埴輪	底 7.0	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面コロナナ。底部回転未切り。	内 92/0 黒 外 2.5185/4 に近い黄褐色	赤褐色粒多。黒色細粒灰色粒多。	体部下段～底部1/3 上面
6 土師器 高台付埴 輪	高台 10.0	内面黒色処理・ヘラミガキ。高台振り付け。コロナナ。	内 92/0 黒 外 10185/2 に近い黄褐色	白色細粒。緑色雲母混入。	底部1/2 上面
7 灰釉陶器 甕	口 14.0	コロナナ前後。内面～口縁部外面に灰釉を施す。黒坂9号窯式。	内 10186/2 オリーブ灰 外 #	精良。良好。	口縁部1/12 上面
8 灰釉陶器 甕	高台 16.0	内面灰釉施す。外面コロナナ。体部下端～底部回転未切り。黒坂18号窯式。	内 10172/2 灰白 外 1018/1 灰白	精良。良好。	底部1/5 上面
9 灰釉陶器 甕	高台 18.2	内面～灰釉ヘラミガキ。底部回転未切り。光ヶ丘1号窯式。	内 10187/1 灰白 外 2.5172/1 灰白	精良。良好。	底部1/3 上面
10 製瓦土器	口 10.4	内面ヘラミガキ。外面押圧痕。粘土結合痕あり。	内 2.5185/6 明黄褐色 外 #	白色粒多。金色雲母・白色針状物多。	口縁部1/4 上面
11 土師器 甕	口 10.0	内面～口縁部外面コロナナ。胴部外面ヘラミガキ。	内 2.5184/2 灰褐色 外 2.5183/2 黒褐色	灰色粒・黒色細粒少。良好。	口縁部1/8 上面

###### SX-170

1 土師器 杯	口 12.0 底 6.6 高 4.2	内面黒色処理・ヘラミガキ(口縁部～体部コロナナ。底部一方)。外面コロナナ。底部回転未切り。	内 92/0 黒 外 2.5186/6 橙	白色細粒多。良好。	口縁～体部1/3 底部1/2 上面
2 土師器 杯	口 12.0 底 6.8 高 4.1	内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転未切り。	内 92/0 黒 外 10185/6 明赤褐色	赤褐色粒少・黒色細粒少。良好。	口縁部1/3 底部完存 上面
3 草器 杯	口 13.2 底 6.0 高 4.0	内外面コロナナ。底部回転未切り。二倉産。	内 96/0 灰 外 #	黒色細粒今々多。良好。	口縁～体部2/5 底部ほぼ完存 上面

###### SX-192

1 草器 甕		内外面コロナナ。外面下半回転ヘラミガキ。軸付。大戸形。	内 2.515/1 灰 外 2.516/1 灰	白色細粒多。	胴部一部 下腹
2 灰釉陶器 甕	高台 7.4	外面全面コロナナ。内面灰釉施す。黒坂14号窯式。	内 10172/2 灰白 外 1018/1 灰白	精良。良好。	体部一部 高台1/6 92～210 腹土中
3 灰釉陶器 甕		内外面コロナナ。内面に厚く灰釉施す。黒ヶ谷78号窯式。	内 2.5172/2 灰白 外 #	白色細粒少。黒色細粒。良好。	底部一部 92～240 腹土中

##### 第2次調査区

###### SX-246

1 土師器 高台付埴 輪	口 14.0	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面体部・底部コロナナ。外面にケラミタ付着。	内 92/0 黒 外 10186/3 に近い黄褐色	白色細粒・透明粒。黒色細粒混入。良好。	口縁～体部1/5 底部完存 上面
2 土師器 杯	口 13.0	内面ヘラミガキ。外面コロナナ。	内 2.517 橙 外 2.517/3 黄褐色	灰色細粒・黒色細粒多。赤褐色粒。良好。	口縁部～体部1/4 上面
3 土師器 杯	口 14.4	内外面コロナナ。	内 10185/2 灰黄褐色 外 10182/1 黒褐色	灰色細粒・赤褐色粒。良好。	口縁部～体部1/6 上面
4 草器 杯	口 11.0 底 6.4 高 3.8	内外面コロナナ。底部回転未切り。三倉産。	内 10186/6 橙 外 #	白色・黒色細粒少。透明粒少。赤褐色粒混入。良好。	1/2 上面
5 草器 甕	底 6.2	内外面コロナナ。底部回転未切り。三倉産。	内 95/0 灰 外 #	白色粒少。良好。	体部下段～底部1/4 上面

第2次調査区

SX-246

6. 土師器 壺	口(20.4)	内外面口縁部コナナテ、内外面胴部ナテ、外面胴部基部の加工痕あり。	内 2.5/16.6 横 外 *	白色・灰色・赤褐色・黒色細粒多。金色泥点入り。良好。	口縁部1/6 上面
7. 土師器 壺	口(21.8)	内外面口縁部コナナテ、内外面胴部ナテ、外面胴部押圧痕あり。	内 10/17.2に白・黄褐色 外 10/16.3に白・黄褐色	白色・灰色・赤褐色・黒色細粒多。透明良好。	口縁部1/6 上面

SX-331

1. 土師器 高台付杯		内外面コナナテ。	内 10/17.2に白・黄褐色 外 *	透明細粒多。白色細粒少。良好。	底部一部 高台上半 存存 2層(土層)
----------------	--	----------	------------------------	-----------------	------------------------

SX-377

1. 灰釉陶器 長瓶		内外面コナナテ。体部外面下半部凹ヘラケズリ。井ヶ谷28号窯式。	内 2.5/15.1 灰 外 *	白色細粒多。良好。	胴部下平4/5 体部中位1/3 埋土中
---------------	--	---------------------------------	---------------------	-----------	---------------------

第11次調査区

SX-805

1. 葉形器 蓋		つまみ下面斜切り後。沈線無し。	外 10/16.6 横	白色・黒色細粒。良好。	つまみ定形 60-155,185 土層
2. 土師器 杯	底 2.0	内面黒色処理・ヘラツギあり。底部凹非切り。	内 10/17.3に黒 外 10/17.3に白・黄褐色	白色細粒。灰色・白色。赤褐色。良好。	底高1/5 60-155,185 土層
3. 土師器 杯	底 4.0	内面黒色処理・ヘラツギあり。外面コナナテ。	内 10/17.1 7/1 黒 外 10/16.6 明鉄焼	白色・灰色細粒。赤褐色。不。良。	体一部1/2 60-185,186,187 2層
4. 灰釉陶器 瓶小	高台 16.40	外面コナナテ。底部全面凹ヘラケズリ。内面底部外面のきき薄く施す。黒染90号窯式。惣磨大川あり。	内 10/17.1 灰白 外 2.5/16.2 灰白	白色細粒。良好。	底高1/2 60-220 上面
5. 緑釉陶器 瓶	口(14.4) 高台(7.0) 高 3.1	外面凹ヘラケズリ。高台接地面をのぞき内外面全面に緑釉施す。美濃又は藤沢産。	内 10/17.2 オリーブ黒 外 *	白色細粒。良好。	口縁部1/3 底部2/5 60-216 上面
6. 灰釉陶器 瓶	口(14.2)	内外面灰釉施す。光ヶ丘1号窯式。	内 10/17.1 灰白 外 2.5/17.1 灰白	精良。良好。	体部1/8 60-185 上面
7. 灰釉陶器 瓶		外面体部下位凹ヘラケズリ。体部内外面に灰釉施す。ハケ塗り。黒染90号窯式。	内 10/17.1 灰白 外 *	黒色細粒。良好。	体部1/8 60-220 上面
8. 灰釉陶器 瓶	高台(7.2)	内外面・外面コナナテ。底部内外面暗灰色。首口窪。首口1-2号窯付付。	内 10/14 灰 外 10/15 灰	白色。白色細粒。良好。	底高1/4 60-156, 157,186,187,1層
9. 灰釉陶器 瓶	高台(6.6)	外面コナナテ。内面の見込みを緑色灰釉施す。黒染90号窯式。	内 10/17.1 灰白 外 10/16.2 灰白	白色細粒。良好。	高台1/4 60-156, 157,186,187,1層
10. 灰釉陶器 瓶	高台(7.2)	外面体部・底部コナナテ。内面の見込みを緑色灰釉施す。黒染90号窯式。	内 2.5/15.2 灰オリーブ 外 10/16.1 灰	白色細粒。黒色細粒。良好。	高台1/4 60-156, 157,186,187,1層
11. 灰釉陶器 瓶小	高台(7.0)	底部凹ヘラケズリ。内面厚く灰釉施す。惣磨大川あり。新戸53号窯式。	内 10/16.1 灰 外 10/17.1 灰	白色細粒。良好。	高台1/4 60- 156,157,186,187,188 1層
12. 灰釉陶器 瓶	高台(7.0)	外面体部コナナテ。体部下位凹ヘラケズリ。内面見込みを緑色灰釉施す。新戸53号窯式。	内 10/16.2 オリーブ灰 外 2.5/17.1 灰白	白色。黒色細粒。良好。	高台1/4 60-157, 187,188 1層
13. 灰釉陶器 蓋		外面に厚く灰釉施す。黒染90号窯式。	内 10/16.1 灰白 外 2.5/16.2 灰オリーブ	白色細粒。良好。	口縁部一部 60-156, 157,186,189,1層
14. 灰釉陶器 壺	高台(8.4)	内面コナナテ。外面凹ヘラケズリ。底部凹非切り後。コナナテ。黒染90号窯式。	内 10/17.1 灰白 外 10/17.1 灰白	黒色細粒。白色細粒。良好。	体部下位~底部1/4 1層
15. 土師器 瓶	口(11.8)	口縁部内外面コナナテ。胴部内面ナテ。胴部外面ヘラケズリ。外面にスス厚く付く。	内 2.5/16.3 浅黄褐色 外 2.5/12.1 黒	黒色細粒多。白色細粒。赤褐色。金色泥点。良好。	口縁部1/5 上面

遺構外

第1次調査区

1. 灰釉陶器 瓶	高台(7.4)	外面体部~底部凹ヘラケズリ。口縁部内外面に薄く灰釉施す。出石名古6号窯期。	内 2.5/17.1 灰白 外 *	黒色細粒少。良好。	体部下平~底部1/4 93-225 1層
2. 灰釉陶器 瓶	口(14.2) 高台(7.0) 高 3.5	底部外面凹ヘラケズリ。内面に厚く灰釉施す。黒染14号窯式。	内 2.5/17.1 灰白 外 10/17.1 灰	黒色細粒。良好。	口縁部一部 底高・高台1/3 93-187 2層。 93-251 1層
3. 灰釉陶器 瓶	口 13.4	口縁部~体部内外面に灰釉ヘラケズリ。黒染90号窯式。	内 10/16.1 灰白~ 2.5/16.1 黄灰 外 10/17.1 灰白	白色細粒。良好。	口縁部1/6 93-227 1層
4. 灰釉陶器 瓶		内外面に灰釉施す。黒染90号窯式。	内 10/17.1 灰白 外 *	精良。良好。	口縁部1/10 93-221 1層
5. 灰釉陶器 瓶		内外面に灰釉施す。黒染90号窯式。	内 10/16.2 灰オリーブ 外 10/17.2 灰白	精良。良好。	口縁部一部 93-216 1層
6. 灰釉陶器 瓶		内外面に灰釉施す。黒染90号窯式。	内 10/16.2 灰白 外 *	精良。良好。	口縁部一部 93-223 1層
7. 灰釉陶器 瓶		内外面に灰釉施す。黒染90号窯式。	内 10/17.1 灰白 外 *	精良。良好。	口縁部一部 93-219 1層
8. 灰釉陶器 瓶		内外面に灰釉施す。黒染90号窯式。	内 10/17.1 灰白 外 10/17.2 灰白	精良。良好。	口縁部一部 93-211 1層
9. 灰釉陶器 瓶		口縁部内面に沈線あり。口縁部内外面に灰釉施す。黒染90号窯式。	内 2.5/17.1 灰白 外 *	精良。良好。	口縁部一部 93-218 1層
10. 灰釉陶器 瓶		内外面に灰釉施す。黒染90号窯式。	内 10/17.2 灰白 外 10/17.1 灰白	精良。良好。	口縁部一部 93-216 2層
11. 灰釉陶器 瓶		内外面に灰釉施す。黒染90号窯式。	内 10/17.2 灰白 外 *	精良。良好。	口縁部一部 93-334 1層

## 第4章 発見された遺物

## 道橋外

## 第1次調査区

12 尺橋脚部 礎	内外面に反軸施工。黒塗 90 号塗料。	内 37/2 灰白 外 #	精良, 良好。	口縁部一部 93-227 1層	
13 尺橋脚部 蓋	内外面に反軸施工。黒塗 90 号塗料。	内 37/2 灰白 外 #	精良, 良好。	口縁部一部 93-185 2 外 93-216 1層	
14 尺橋脚部 礎	外面・端部彫へタケズリ。内面～体部中央部面に反軸へタケ塗り。黒塗 90 号塗料。	内 336/2 灰オリーブ 外 #	精良, 良好。	体部 1/12 92-205 2層	
15 尺橋脚部 礎	内外面に反軸施工。黒塗 90 号塗料。	内 336/2 灰オリーブ 外 #	精良, 良好。	口縁部一部 93-191 1層	
16 尺橋脚部 礎	内外面に反軸施工。ハケ塗りか。黒塗 90 号塗料。	内 37/2 灰白 外 #	精良, 良好。	口縁部一部 93-236 1層	
17 尺橋脚部 礎	内外面に反軸施工。黒塗 90 号塗料。	内 338/1 灰白 外 37/1 灰白	精良, 良好。	口縁部 1/12 92-269 1層	
18 尺橋脚部 礎	内面～体部体上に反軸施工。黒塗 90 号塗料。	内 37/2 灰白 外 336/2 灰オリーブ	精良, 良好。	口縁部一部 93-227 1層	
19 尺橋脚部 礎	内外面体部上半に薄く反軸施工。着色不良。黒塗 90 号塗料。	内 2.577/1 灰白 外 #	精良, 良好。	口縁部一部 93-211 2層	
20 尺橋脚部 礎	内外面に反軸施工。黒塗 90 号塗料。	内 37/2 灰白 外 338/1 灰白	精良, 良好。	口縁部一部 93-227 1層	
21 尺橋脚部 礎	内外面に反軸施工。黒塗 90 号塗料。	内 37/1 灰白 外 #	精良, 良好。	口縁部一部 93-190 1層	
22 尺橋脚部 礎	内面のみ反軸を穿く施工。黒塗 90 号塗料。	内 336/2 灰オリーブ 外 37/1 灰白	精良, 良好。	口縁部一部 92-131 1層	
23 尺橋脚部 礎	内面のみ反軸を穿く施工。産地不明。	内 37/1 灰白 外 #	精良, 良好。	口縁部一部 93-227 1層	
24 尺橋脚部 礎	内外面に反軸施工。口縁部内面に沈澱あり。黒塗 90 号塗料。	内 37/1 灰白 外 #	精良, 良好。	口縁部一部 93-311 1層	
25 尺橋脚部 礎	内外面に反軸施工。黒塗 90 号塗料。	内 37/1 灰白 外 336/2 灰オリーブ	精良, 良好。	口縁部一部 93-190 1層	
26 尺橋脚部 蓋	内外面に反軸施工。黒塗 90 号塗料。	内 2.578/2 灰白 外 338/1 灰白	精良, 良好。	口縁部一部 92-238 1層	
27 尺橋脚部 蓋	内面～口縁部外面に反軸施工。黒塗 90 号塗料。	内 2.576/2 灰オリーブ 外 #	精良, 良好。	口縁部一部 93-229 1層	
28 尺橋脚部 礎	内外面に反軸施工。黒塗 90 号塗料。	内 338/1 灰白 外 37/1 灰白	精良, 良好。	口縁部一部 93-221 1層	
29 尺橋脚部 礎	内外面に反軸を穿く施工。外面に重ね焼き痕あり。黒塗 90 号塗料。	内 37/1 灰白 外 2.578/1 灰白	精良, 良好。	口縁部一部 93-217 1層	
30 尺橋脚部 礎	体部内外面に反軸施工。黒塗 90 号塗料。	内 338/1 灰白 外 #	白色細粒。良好。	口縁部 1/30 93-190 1層	
31 尺橋脚部 礎	体部外面彫へタケズリ。内外面全面に反軸施工。黒塗 90 号塗料。	内 2.577/1 灰白 外 #	精良, 良好。	口縁部・体部一部 93-227 1層	
32 尺橋脚部 礎 <sup>1)</sup>	体部内面に反軸を穿く。黒塗 90 号塗料。	内 2.576/2 灰オリーブ 外 37/3 浅黄	精良, 良好。	高台部 1/8 93-332 1層	
33 尺橋脚部 礎	高台 (7.4)	底面外面全面彫へタケズリ。体部内外面・底面中央に反軸へタケ塗り。黒塗 90 号塗料。	内 307/1 灰白～ 338/1 灰白 外 37/1 白灰～6/1 灰	精良, 良好。	体部下位～底面 1/4 93-192 2層
34 尺橋脚部 礎 <sup>1)</sup>	高台 (6.2)	底面外面全面彫へタケズリ。体部内外面に薄く反軸施工。黒塗 90 号塗料。	内 37/1 灰白 外 307/2 灰白 外 2.577/1 灰白	精良, 良好。	底面 1/3 93-311 1層
35 尺橋脚部 礎 <sup>1)</sup>	高台 (7.0)	底面外面外周を除き。中央部と体部内外面に反軸施工。黒塗 90 号塗料。	内 308/2 灰白 外 307/2 灰白	精良, 良好。	高台 1/8 93-186 2層
36 尺橋脚部 礎 <sup>1)</sup>	高台 (6.4)	底面内面に薄く反軸施工。着色不良。黒塗 90 号塗料。	内 338/2 灰白 外 2.577/1 灰白	精良, 良好。	高台 1/4 93-188 1層
37 尺橋脚部 礎 <sup>1)</sup>	高台 (6.4)	底面外面全面彫へタケズリ。体部内面に反軸施工。黒塗 90 号塗料。	内 2.577/3 浅黄 外 #	精良, 良好。	高台一部 底面 1/2 92-238 1層
38 尺橋脚部 礎 <sup>1)</sup>	高台 (6.0)	底面外面全面彫へタケズリ。体部内面に薄く反軸施工。戸口 33 号塗料。	内 335/2 灰オリーブ 外 #	白色細粒。良好。	高台 1/8 93-221 1層
39 尺橋脚部 礎	高台 (6.0)	底面外面クロナダ。体部に反軸施工。黒塗 90 号塗料。	内 2.578/1 灰白 外 2.577/2 灰白 外 #	精良, 良好。	底面 1/4 93-190 1層
40 尺橋脚部 礎 <sup>1)</sup>	高台 (6.0)	底面外面彫へタケズリ。内面無軸。光ヶ丘 1 号塗料。	内 307/1 灰白 外 #	精良, 良好。	高台一部 93-216 1層
41 尺橋脚部 礎	高台 (6.8)	底面外面クロナダ。体部外面に反軸施工。黒塗 90 号塗料。	内 37/2 灰白 外 #	精良, 良好。	1/4 93-203 2層
42 尺橋脚部 礎 <sup>1)</sup>	高台 (6.0)	底面外面彫へタケズリ。底面内面無軸。黒塗 90 号塗料。	内 37/1 灰白 外 #	精良, 良好。	底面 1/4 表層
43 尺橋脚部 礎	高台 (6.0)	底面外面彫へタケズリ。底面内面中央部に反軸施工。黒塗 90 号塗料。	内 307/2 灰白 外 307/1 灰白 外 #	精良, 良好。	高台 1/6 93-193 1層
44 尺橋脚部 礎	高台 (6.0)	体部内外面に反軸へタケ塗りか。黒塗 90 号塗料。	内 307/2 灰白 外 #	精良, 良好。	体部・高台一部 92-154 1層
45 尺橋脚部 礎 <sup>1)</sup>	高台 (6.0)	底面内面無軸。光ヶ丘 1 号塗料。	内 2.578/1 灰白 外 #	精良, 良好。	高台一部 93-192 1層
46 尺橋脚部 礎蓋	高台 (6.0)	底面外面彫へタケズリ。内面に反軸施工。黒塗 90 号塗料。	内 338/2 灰白 外 2.578/1 灰白	精良, 良好。	口縁部一部 93-191 1層
47 尺橋脚部 北照机	高台 (6.0)	内外面クロナダ。内外面に反軸施工。黒塗 90 号塗料。	内 308/1 灰白 外 308/2 オリーブ灰	精良, 良好。	口縁部 1/6 93-245 1層
48 尺橋脚部 北照机	口 (13.4)	内外面に反軸施工。黒塗 90 号塗料。	内 37/2 灰白 外 37/1 灰白	精良, 良好。	口縁部 1/8 93-281 1層

## 遺構外

## 第1次調査区

49 灰輪陶器 六輪		体外部面に軸あり、高台附離、井ヶ谷78号形式。	内 307/1灰白 外 236/2灰白	精良、良好。	体部下段1/6 93-295 1層
50 緑輪陶器 椀		内外面に緑輪軸す。黒隆90号形式後半。	内 307/2オリーブ灰 外 307/2オリーブ灰	精良、良好。	口縁部一部 93-217 2層
51 緑輪陶器 椀		内外面に緑輪軸す。黒隆90号形式後半。	内 2.5V/3灰オリーブ 外 *	黒色細粒。良好。	口縁部一部
52 緑輪陶器 輪軸重		黒隆90号形式後半。	内 307/2オリーブ灰 外 307/2オリーブ灰	精良、良好。	口縁部一部 90-226 1層
53 土師器 杯	口(13.0) 底(7.0) 高 3.5	内面黒色処理・ヘラミガキ、外面クロコナダ。底面 回転糸切り後、外周半持ちヘラクスリ。	内 2.5V1.7黄 外 2.5V6.9橙～1.7/1 黒	白色細粒。良好。	口縁部～底面1/4 93-223 1層
54 製陶土師		内面ナツ。外面押し紙。	内 307/6橙 外 2.5V6.9橙	白色・透明・黒色細粒・白色針状 物や多量。不良。	体部一部 93-311 1層
55 土師器 杯	口(13.0) 底(7.0) 高 3.5	内面黒色処理・ヘラミガキ、外面クロコナダ。底面 回転糸切り。	内 307/6にぶい黄橙 外 *	白色粒。橙色細粒。良好。	口縁部一部 底面1/6 表面
56 土師器 椀	底(8.0)	内面ナツ。製部外面ナツ。底面糸切り。	内 2.5V2.8橙 外 307/6橙	白色細粒多量。透明・白色・赤褐色 細粒少。良好。	高台1/3 92-100
57 土製品 粘押車	外径(5.0) 厚 1.5 孔径(0.4) 重 14.23	表面は全面ミガキ。	外 307/4.1褐灰	白色細粒・赤褐色細粒少。	1/4 93-119 1層
58 土師器 転用粘押車	外径(7.0) 厚 0.7 孔径(1.0) 重 11.93	途中上面はミガキ。下面は回転糸切り。土師器環の 転用中で内面側から穿孔。	外 307/6橙	赤褐色細粒少。白色・灰色細粒少。 良好。	1/4 93-281 1層
59 土製品 土師	外径 1.3 長 4.7 孔径 0.4 重 4.43	表面ナツ。	外 2.5V2.7橙	赤褐色細粒やや多量。良好。	表土
60 土製品 土師	外径 1.7 長 3.3 孔径 0.3 重 8.01	表面ナツ。	外 2.5V1.1黄灰	白色細粒多量。白色細粒やや多量。 赤褐色細粒少。不良。	遺欠 表土
61 土師器 杯	底(6.4)	内面黒色処理・ヘラミガキ、外面クロコナダ。底面 回転糸切り。体部外面に墨書あり。	内 32.0黒 外 2.5V2.2灰白	白色・黒色・透明細粒少。不良。	体部下段～底面1/4 93-295 1層
62 土師器 杯	底(7.0)	内面黒色処理・ヘラミガキ、外面クロコナダ。底面 回転糸切り。体部外面に墨書あり。	内 32.0黒 外 307/6.3にぶい黄橙	白色・黒色細粒少。良好。	体部下段～底面1/4 93-229 2層
63 土師器 杯		内面黒色処理・ヘラミガキ。体部外面に墨書「大」 あり。	内 32.0黒 外 307/2.3にぶい黄橙	白色・透明細粒。良好。	口縁部一部 93-217 2層
64 土師器 杯		内面黒色処理・ミガキ、外面クロコナダ。体部外面 に墨書「大」あり。	内 32.0黒 外 307/6.4にぶい黄橙	赤色細粒多量。黒色細粒少。良好。	口縁部一部 93-217 2層
65 灰志器 杯		底面回転糸切り。底面外面に墨書あり。	内 2.5V1.1黄灰 外 2.5V2.2灰黄	黒色細粒多量。白色細粒。良好。	底面一部 93-294 1層
66 土師器 杯		内面黒色処理・ヘラミガキ。外面に墨書「口」あり。	内 32.0黒 外 307/6.3にぶい黄橙	白色・透明細粒少。赤色細粒。 良好。	口縁部1/9 93-333 1層
67 土師器 杯		内面黒色処理・ヘラミガキ。外面に墨書あり。	内 32.0黒 外 2.5V6.6橙	白色・黄色・橙色細粒。良好。	口縁部一部 93-332 1層
68 土師器 杯		内面黒色処理・ヘラミガキ。体部外面に墨書「方」か り。	内 32.0黒 外 307/2.3にぶい黄橙	白色・黒色細粒。良好。	体部下段～底面一部 93-185 2層

## 第2次調査区

1 灰輪陶器 椀		口縁部～頸部内面に灰輪軸す。光ヶ丘1号形式。	内 307/2オリーブ灰 外 336/1灰白	黒色細粒少。良好。	口縁部一部 43-146 2層
2 灰輪陶器 椀		体部内外面に灰輪溝け掛け。大塚2号形式。	内 2.5V6.2オリーブ黄 外 *	白色・黒色細粒少。良好。	口縁部一部 39-832 2層
3 灰輪陶器 段蓋	口(14.3) 高台(2.4) 高 2.5	内外面灰輪溝け掛け。虎渡山1号形式。	内 307.2灰白 外 2.5V7.2灰黄	白色・黒色散粒。良好。	口縁部1.6 高台1/3 39-562 2層
4 灰輪陶器 蓋		釉薬色不良。虎渡山1号形式。	内 32.0灰白 外 *	白色・黒色散粒少。良好。	口縁部一部 43-713 2層
5 灰輪陶器 椀		体部内外面に灰輪溝け掛け。虎渡山1号形式。	内 2.5V6.2灰黄 外 307.1灰白	黒色細粒少。良好。	口縁部1.9 43-653 2層
6 灰輪陶器 椀		体部上半に灰輪溝け掛け。虎渡山1号形式。	内 2.5V6.1黄灰 外 *	精良。	口縁部一部 体部下半 1.6 43-304 2層
7 灰輪陶器 蓋	口(11.2) 底 3.1 高 3.0	外面つまみ・大井澤に灰輪軸す。虎渡山1号形式。	内 307.2灰白 外 2.5V7.2灰黄	白色・黒色散粒少。良好。	1.6 39-564 1層
8 灰輪陶器 椀	高台(7.8)	虎渡山1号形式。	内 2.5V7.2灰黄 外 *	透明・黒色散粒多量。良好。	高台1/4 39-143 2層
9 灰輪陶器 椀		内外面に灰輪軸す。黒隆90号形式。	内 307/2オリーブ灰 外 *	精良、良好。	口縁部一部 39-711 1層
10 灰輪陶器 椀		内外面に灰輪軸す。黒隆90号形式。	内 307/2オリーブ灰 外 *	精良、良好。	口縁部一部 39-444 2層
11 灰輪陶器 椀	高台(5.4)	底面全面回転ヘラクスリ。内面底面外周に灰輪軸す。 大塚2号形式。	内 307.3黄灰 外 2.5V7.2灰黄	黒色細粒。良好。	底面1/2 表面
12 灰輪陶器 椀	高台(7.4)	底面外面クロコナダ。底面内面外周に灰輪軸す。大 塚2号形式。	内 307.2灰白 外 307.3黄灰	白色・黒色細粒。良好。	高台1/4 39-714 2層
13 灰輪陶器 椀		底面全面無輪。大塚2号形式。	内 307.1灰白 外 *	精良、良好。	高台一部 43-414 2層
14 緑輪陶器 椀		内外面緑輪軸す。黒隆90号形式後半。	内 2.5V6.3灰オリーブ 外 *	白色・透明細粒。良好。	口縁部一部 39-376 2層
15 土師器 高台付付杯	底(9.0) 高台(8.8)	内面ヘラミガキ。底面外面ヘラクスリ。	内 2.5V5.9明赤橙 外 2.5V6.9橙	赤褐色粒。良好。	底面1/2 39-34 2層
16 土師器 高台付付杯		内外面クロコナダ。底面回転糸切り。	内 307/2.4にぶい黄橙 ～307.6橙 外 *	黒色細粒。赤褐色粒。良好。	体部一部 底面1/2 39-424 2層

第4章 発見された遺物

遺構外

第2次調査区

17 土師器 数珠形	口径 4.0	内外面ロコナズ。	内 2.576/1 灰白 外 0197/2 に近い黄褐色	黒色顔料多、赤褐色色少、良好。	口縁部 1/12 43-284、414 1層
18 土師器 甕		甕内面へつぎ、つまみ面取五角形。	内 2.576/2 黒 外 *	黒色・透明顔料多、白色・灰色顔料少、赤褐色色中々多、良好。	つまみ一部欠 表裏
19 須恵器 甕		甕内面ロコナズ、つまみ面取八角形、土師器焼供用須恵器。	内 017/1 灰白 外 *	黒色顔料少、良好。	つまみ一部欠 59-384 1層
20 土師器 瓶		内面・底面ケズリ、胴部横から穿孔。口径 1.5cm ほど。	内 0196/4 に近い黄褐色 外 2.576/2 に近い黄褐色	白色・透明・灰色顔料中々多、黒色・赤褐色色少、良好。	底面一部 59-744 1層
21 土師器 火鉢		内面ロコナズ。外面上半部透刺状、下半不明。	内 2.576/5 に近い黄褐色 外 2.576/4 焼	白色顔料少、赤褐色顔料中々多、良好。	体部一部 43-265 2層
22 須恵土器		内面ケズリ。外面丹草彫。口縁部ケズリ、平鉢形。	内 2.576/6 黒 外 0197/4 に近い黄褐色	白色・透明・黒色顔料多、灰色・赤褐色顔料少、白色斜状物含む、良好。	体部一部 59-504 1層
23 須恵土器		内面ケズリ。外面丹草彫。	内 2.576/6 に近い黄褐色 外 2.576/2 黒	白色・黒色・透明顔料少、赤褐色色少、不具。	体部一部 59-144 2層
24 須恵土器		内面ケズリ。外面丹草彫。	内 2.576/2 に近い黄褐色 外 *	白色斜状物中々多、白色・透明顔料中々多、黒色顔料少、良好。	体部一部 59-317 2層
25 須恵土器		内面ケズリ。外面彫いナズ。	内 2.576/7 に近い黄褐色 外 2.576/6 黒	白色・黒色顔料多、白色斜状物・赤褐色色多、不具。	底面一部 43-833 2層
26 土製品 土罐	外径 1.6 口径 0.3 ~ 0.1 重 6.7g	表面ケズリ。粘土接合痕あり。孔が小さい。	外 2.576/2 灰黄	白色顔・赤褐色顔料少、良好。	一部欠 43-383 2層
27 土製品 土罐	外径 2.3 口径 0.7 重 17.2g	表面丹草・ナズ。	外 0197/6 焼	透明・白色顔料中々多、赤褐色顔料少、白色・灰色顔料少。	一部欠 59-562 2層
28 須恵器 甕		胴部外面ケズリ。内面に自然釉付。三蓋座。	内 2.576/3 黄灰～白 外 2.576/1 灰～白 外 2.576/2 に近い黄褐色	白色顔料。良好。	口縁部 1/12 93-295 1層
29 須恵器 高台付坪		内面ロコナズ。底部全面回転ヘラケズリ。高台割線。三蓋座。	内 2.575/2 暗灰黄 外 017/1 灰 外 2.576/1 灰～白	黒色顔料。良好。	底面 2/3 93-222 1層
30 須恵器 坪	底 7(2)	内外面ロコナズ。底部回転糸切り。三蓋座。	内 2.575/1 灰 外 017/2 灰白	白色・黒色顔料。中々不具。	底面 1/4 93-331 1層
31 須恵器 坪	底 7(8)	内外面ロコナズ。底部ヘラ切り後、ナズ。蓋子彫。外	内 015/1 灰 外	白色顔料少、白色顔料。良好。	体部下部～底部 1/4 93-294 1層
32 須恵器 甕		内外面ロコナズ。内面粘土接合痕あり。内面に墨書痕あり。	内 82/0 暗灰 外 84/0 灰	白色顔料少、良好。	胴部中段 2/5 77-241, 252 1層
33 須恵器 高台付坪	高台 09.30	内外面ロコナズ。東海産か。	内 017/1 灰白 外 016/1 灰	無砂粒。	底面 1/8 92-245 2層
34 須恵器 坪	底 10.00	底部ヘラ切り後、ナズ。底部外面焼成痕ヘラ記号あり。三蓋座か。	内 2.577/2 灰黄 外 0197/2 に近い黄褐色	灰色顔料少、透明顔料。不具。	底面 1/4 59-24 1層
35 須恵器 坪	口 12.4 底 6.0 高 4.4	内外面ロコナズ。底部回転糸切り。三蓋座。	内 017/2 灰白 外 *	赤褐色顔料多、白色顔料少、黒色顔料。良好。	口縁部・体部 1/2 底面 底面完存 43-654 1層
36 須恵器 坪	底 6.0	底部ヘラ切り。内面に朱付着する。蓋子彫。	内 2.576/4 赤褐色 外 015/1 灰	白色顔料少、良好。	底面 1/6 59-144 2層
37 須恵器 高台付坪	高台 8.4	底部ヘラ切り後、外周ロコナズ。三蓋座か。	内 2.577/2 灰黄 外 *	灰色顔料少、少。白色顔料。良好。	底面完存 体部下部 59-371 1層
38 須恵器 高台付坪	高台 7.8	底部回転糸切り後、高台付付付・ロコナズ。三蓋座。	内 2.577/2 灰黄 外 *	黒色・白色顔料少、良好。	底面完存 59-474 1層
39 須恵器 高台付坪	高台 10.0	底部全面回転ヘラケズリ後、ロコナズ。焼成前ヘラ記号あり。蓋子彫。	内 016/1 灰 外 2.575/1 黄灰	白色顔料多、白色顔料少、良好。	高台 1/2 底面 1/2 底面 底面完存 59-474 1層
40 須恵器 甕	高台 04.0	内面ロコナズ。三蓋座。	内 017/1 灰白 外 2.577/2 灰黄	灰色顔料少、白色顔料。良好。	底面 1/8 43-744 2層
41 須恵器 甕	高台 02.20	底部外面回転ヘラケズリ。三蓋座。	内 017/1 灰白 外 016/1 灰	白色顔料少、中々不具。	底面 1/6 59-294 1層
42 須恵器 高台付坪	高台 08.20	底部全面回転ヘラケズリ。蓋子彫。	内 2.575/0 黄灰 外 015/1 灰	白色顔料多、白色顔料。良好。	体部下部 1/4 底面完 存 43-824 1層
43 須恵器 高坪		内面ロコナズ。脚土を付ける。新治産。	内 015/1 灰 外 *	白色顔料中々多、白色顔料少。赤褐色色少、良好。	胴部～胴部上端 1/4 59-594 1層
44 須恵器 甕	高台 08.20	内面ロコナズ。内面ヘラ状工具による数本の浅線あり。外面回転ヘラケズリ。大戸産。	内 006/6/1 緑灰 外 2.576/1 灰白	白色顔料多、良好。	体部下部 1/4 59-710 1層
45 須恵器 甕		内外面ロコナズ。外面に人面墨書あり。	内 2.577/1 灰白 外 2.576/1 黄灰	白色顔料少、灰色顔料少、良好。	体部一部 口縁部 1/6 43-774 1層
46 須恵器 数珠形	口径 21.8	内外面ロコナズ。三蓋座。	内 017/1 灰白 外 *	灰色・白色顔料。中々不具。	口縁部 1/6 59-287, 371 1層
47 須恵器 甕		胴部ロコナズ。外面 1 本指さ状状文。南江産。	内 015/1 灰 外 *	白色・黒色顔料多、白色・黒色顔料少、白色斜状物。良好。	胴部一部 土土表裏 43-964 1層
48 土師器 高台付坪		内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転ヘラケズリか。底部外面に墨書あり。	内 82/0 黒 外 2.576/4 に近い黄褐色	白色・黒色顔料。良好。	底面 1/2 43-964 1層
49 土師器 坪	底 8(0)	内面黒色処理・ヘラミガキ。底部外面焼成痕ヘラ記号あり。	内 82/0 黒 外 2.576/5 に近い黄褐色	白色顔料少、赤色・黒色・透明顔料。良好。	底面～体部下部 1/4 11-11 1層
50 須恵器 坪		内外面ロコナズ。体部外面に墨書あり。	内 2.577/1 灰白～ 4/1 黄灰	白色・黒色顔料。不具。	口縁部～体部一部 43-774 1層

遺構外

第4次調査区

1 灰輪陶器 椀		内外面に薄く灰輪施す。黒灰 90 号窯式①。	内 337/1 灰 外 #	黒色細粒少。良好。	口縁部一部 79-243, 254
2 灰輪陶器 椀小	高台 (7.4)	体部内面に灰輪施す。重ね焼痕あり。黒灰 90 号窯式①。	内 2.517/1 灰白 外 #	白色・黒色細粒少。良好。	高台 1/5 26-267, 268 1層
3 灰輪陶器 椀		内外面に厚く灰輪施す。黒灰 90 号窯式②。	内 336/2 灰オリーブ 外 #	精良。良好。	口縁部一部 上山表層
4 灰輪陶器 皿		内外面に灰輪施す。黒灰 90 号窯式②。	内 337/2 灰白 外 #	黒色細粒少。良好。	口縁部一部 77-275 1層
5 灰輪陶器 椀		内面にのみ灰輪施す。黒灰 90 号窯式②。	内 2.536/2 灰黄 外 2.517/1 灰白	黒色細粒多。	口縁部一部 76-267, 268
6 灰輪陶器 椀		体部内外面全面に灰輪施す。ハケ塗り。黒灰 90 号窯式②。	内 2.517/1 灰白 外 #	白色・黒色細粒少。黒色粗粒。	底部一部 26-267 1層
7 灰輪陶器 椀小		底部内面に灰輪施す。黒灰 90 号窯式②。	内 338/2 灰白 外 2.517/2 灰黄	白色細粒少。良好。	底部一部 77-299, 300 1層
8 灰輪陶器 椀小		内面に灰輪施す。黒灰 90 号窯式。	内 337/1 灰白 外 #	黒色細粒少。良好。	口縁部一部 26-267, 268
9 緑輪陶器 椀小	高台 (7.6)	内外面緑輪施す。輪周 4 号窯式後半。	内 3076/2 オリーブ 外 #	白色・黒色細粒少。白色細粒少。良好。	高台 1/1 上山表層
10 土師器 高台付杯	高台 (7.8)	内面黒色処理・ハケミガキ。外面ロクロナダ。底部回転糸切り。	内 3073/1 黒 外 3076/2 灰黄	白色細粒。良好。	底部 1/2 上山表層
11 土師器小		内外面ヨコナダ。外面に沈線あり。	内 3073/2 に近い黄褐色 外 3073/4 に近い黄褐色	黒色細粒やや多。赤褐色細粒少。良好。	口縁部一部 76-366, 390 1層

第6次調査区

1 灰輪陶器 椀		内外面に灰輪施す。黒灰 90 号窯式②。	内 2.517/1 灰白 外 #	黒色細粒少。良好。	口縁部一部 60-240, 239 1層
2 硃石	長 0.9 幅 3.4 厚 0.8	短軸 4 面が破面で、短軸上方は鉛筆のように薄くなる。下方は欠損。	表 2.515/1 黄灰 裏 3076/3 に近い黄褐色	灰色粒少。白色細粒。良好。	一部 60-240, 270 1層
3 葉巻形 杯	底 6.6	内外面ロクロナダ。底部回転糸切り。二鑫産。	内 2.517/2 灰黄 外 #	灰色粒少。白色細粒。良好。	底部 1/2 表層

第7次調査区

1 灰輪陶器 椀小	高台 (6.4)	内面ロクロナダ。黒灰 14 号窯式②。	内 2.517/1 灰 外 #	透明・白色・黒色細粒少。良好。	高台 1/6 1層
2 灰輪陶器 椀小	高台 (6.8)	内面に灰輪施す。黒灰 90 号窯式③。	内 2.517/2 灰黄 外 2.517/1 灰白	黒色粗粒多。白色粗粒少。良好。	底部 1/6 60-309 1層
3 灰輪陶器 椀小	高台 (6.8)	内面に灰輪施す。黒灰 90 号窯式③。	内 2.517/2 灰黄 外 #	黒色粗粒多。黒色細粒少。良。	底部 1/5 60-718, 719 1層

第8次調査区

1 緑輪陶器 皿	口 (14.6) 高台 7.4 高 3.2	ミガキ有。高台接面部に緑輪施す。黒灰 90 号窯式後半。	内 2.515/3 灰オリーブ 外 #	黒色粗粒少。赤褐色細粒少。良好。	底・高台 1/6 92-309 1層
2 葉巻形 椀		内外面ロクロナダ。体部下半縦方向ハケズリ。大戸産。	内 336/1 灰 外 #	白色粗粒。良好。	体部一部 388-30, 60 1層
3 葉巻形 杯		内外面ロクロナダ。内面に自然釉。胎産産の無白灰。形々 28 号→黒灰 11 号窯式併行。	内 336/2 灰オリーブ 外 336/1 灰	黒色細粒微。良好。	口縁部一部 92-308 1層
4 葉巻形 杯	底 (6.2)	内外面ロクロナダ。体部下位・底部手持ちハケズリ。二和産。	内 3336/2 灰黄 外 2.517/2 灰黄～2/1 黒	透明・白色細粒やや多。白色細粒少。良好。	底部 1/2 389-30, 60 1層
5 葉巻形 杯		内面・体部外面ロクロナダ。底部回転糸切り後。外側手持ちハケズリ。宇都宮産。	内 337/2 灰白 外 #	白色粗粒多。良好。	底部一部 388-30, 60 1層
6 葉巻形 皿		内外面ロクロナダ。外面回転ハケズリ。墨書・赤い。	内 3075/6 明赤 外 #	白色・透明・黒色粗粒やや多。良好。	天井一部 389-91, 121 1層
7 土師器 杯		内面黒色処理・ハケミガキ。底部・体部外面ハケズリ。墨書あり。	内 3072/2 黒 外 2.536/6 椀	白色粗粒・赤褐色細粒少。良好。	体部・底部一部 92-307 1層
8 土師器 杯		内面赤色処理・ハケミガキ。外面ロクロナダ。墨書あり。	内 32/0 黒 外 2.536/4 に近い黒	赤色・黒色細粒少。良好。	体部一部 389-91, 121 1層

第9次調査区

1 灰輪陶器 皿	高台 (13.4)	内面ロクロナダ。底部全面回転ハケズリ。中央部灰輪塗る。産地不明。	内 336/2 灰オリーブ 外 #	白色・黒色細粒少。良好。	底部 1/5 1層
2 葉巻形 椀		内外面ロクロナダ。胴部外面に焼成産の刻書・刷痕あり。	内 2.534/1 灰 外 #	白色粗粒やや多。白色細粒少。良好。	胴部一部 1層

第10次調査区

1 灰輪陶器 椀		内外面に灰輪施す。黒灰 90 号窯式。	内 3078/2 灰白 外 2.536/2 灰白	精良。良好。	口縁部一部 58-719 1層
2 土師器 杯	口 (11.2) 底 5.1 高 3.0	内外面ロクロナダ。底部回転糸切り。	内 3384/2 灰黄 外 3336/6 椀	灰色・赤褐色細粒やや多。良好。	口縁部 1/6 底部完存 58-717 1層

第11次調査区

1 灰輪陶器 椀	口 (14.0)	内面・体部外面に薄く灰輪施す。突っ庄 1 号窯式。	内 3077/1 灰白 外 #	精良。良好。	口縁部 1/6 調査区南 西部上山表層
2 灰輪陶器 椀		内面に厚く灰輪施す。黒灰 90 号窯式。	内 2.534/2 赤オリーブ 外 2.538/1 灰白	精良。良好。	口縁部 1/8 60-581 1層
3 灰輪陶器 椀		体部内面にのみ灰輪ハケ塗り。黒灰 90 号窯式。	内 3077/2 灰白 外 3077/1 灰白	精良。良好。	口縁部一部 60-702 1層
4 灰輪陶器 椀		内外面に灰輪施す。黒灰 90 号窯式。	内 3076/1 灰 外 #	精良。良好。	口縁部 1/12 60-100 1層

#### 第4章 発見された遺物

##### 道橋外

##### 第11次調査区

5 反橋脚部 礎	体部・口縁部に反橋脚す。黒鉄 90号鋼式。	内 107/1 灰白 外 #	精良, 良好。	口縁部一部 60-641 1層
6 反橋脚部 礎	内外面に厚く反橋脚す。黒鉄 90号鋼式。	内 107/1 灰白 外 #	精良, 良好。	口縁部一部 60-608, 609 1層
7 反橋脚部 礎	高台 06.40 底部断面へラケズリ, 体部外面・内面全面に厚く反橋脚す。光ヶ丘1号鋼式。	内 180/1 灰白 外 2.5/8/2 灰白	白色顔料, 良好。	底部へ体部下位1/4 60-702 1層
8 反橋脚部 礎	高台 17.40 底部断面へラケズリ, 体部内面に反橋脚す。重ね焼きあり。黒鉄 90号鋼式。	内 1076/2 オリーブ灰 外 107/3 黄鉄	黑色顔料やや多, 良好。	底部1/4 60-105 1層
9 反橋脚部 礎	高台 09.00 体部下平・底部断面へラケズリ, 体部内外面に反橋脚す。黒鉄 90号鋼式。	内 107/2 灰白 外 2.5/8/1 灰白	黒色・白色顔料, 良好。	体部下位へ底部1/4 調査区北西土山表探
10 反橋脚部 礎	高台 09.00 体部下平・底部断面へラケズリ, 内外面に反橋脚す。光ヶ丘1号鋼式。	内 107/1 灰白 外 #	黒色顔料, 良好。	調査区北西土山表探
11 反橋脚部 礎	高台 17.60 底部断面へラケズリ, 体部内外面に反橋脚す。重ね焼きあり。黒鉄 90号鋼式。	内 107/2 灰白 外 #	黒色顔料少, 白色顔料微, 良好。	底部完存 北東1/6 60-554 調査1層
12 反橋脚部 礎	高台 08.00 底部断面へラケズリ, 内外面とも無縁。光ヶ丘1号鋼式。	内 2.5/7/2 灰黄 外 #	精良, 良好。	高台1/6 60-264 1層
13 反橋脚部 礎	高台 08.00 底部断面へラケズリ, 内面口縁部薄く, 底部厚く反橋脚す。黒鉄 90号鋼式。	内 107/2 灰白 外 2.5/6/1 灰白	黒色・白色顔料微, 良好。	口縁部1/6 60-608, 609 1層
14 反橋脚部 礎	高台 08.00 底部断面へラケズリ, 内外面に反橋脚す。黒鉄 90号鋼式。	内 2.5/8/3 黄鉄 外 2.5/8/2 灰白	黒色顔料, 良好。	底部1/6 60-641 1層
15 緑橋脚部 礎	口 09.00 緑橋脚色良好。黒鉄 90号鋼式後平。	内 2.5/5/3 灰オリーブ 外 2.5/6/2 灰オリーブ	精良, 良好。	体部1/6 北西部分調査区, 表探
16 緑橋脚部 礎	内外面クロコナテ。緑橋を輪す。錆致面。	内 1076/2 オリーブ 外 1076/4 オリーブ黄	白色顔料微, 黒色顔料微, 良好。	口縁部一部 60-228 1層
17 緑橋脚部 礎	高台 17.80 内外面緑橋脚す。黒鉄 90号鋼式後平。	内 1075/2 オリーブ灰 外 #	白色顔料微, 良好。	高台1/4 60-648, 641 1層
18 土脚部 砕石	口縁部へ面クロコナテ。体部外面断面へラケズリ。底部外面ラケズリ。	内 1076/2 黄鉄 外 1076/6 黄鉄	黒色・透明・白色顔料やや多, 灰色顔料少, 良好。	口縁部一部 60-377, 407 1層
19 土脚部 砕石	内面黒色処理へラケズリ。外面クロコナテ後平。外面ラケズリ。	内 107/1 灰白 外 1075/1 灰白	白色顔料少, 灰色顔料少, 良好。	口縁部一部 60-245 調査区北西部上面
20 環窓部 環	口 12.40 高 2.0 高 3.4 内外面クロコナテ。底部回転糸切り。二重窓。	内 1075/1 灰白 外 #	白色顔料少, 良好。	体部2/5 調査1/2 60-264 1層
21 環窓部 環	高 6.6 底部回転糸切り後, 外環断面へラケズリ。油圧合座。持ちへラケズリ。焼成面へラケズリ。壁ノ内面。	内 2.5/6/1 灰 外 2.5/5/1 灰	白色顔料多, 白色顔料微, 良好。	底部1/4 調査区北東部 土山表探
22 環窓部 環	高 06.00 外面体部で隔手持ちへラケズリ。底部へラケズリ後平持ちへラケズリ。焼成面へラケズリ。壁ノ内面。	内 1076/1 灰 外 #	白色顔料微, 良好。	底部1/3 60-105 1層
23 環窓部 環	口 16.80 内外面クロコナテ。天井断面へラケズリ。天井外面に墨書あり。	内 1076/1 灰 外 #	黒色顔料微, 灰色顔料微, 良好。	天井部1/5 口縁部1/8 調査区北東土山表探
24 土脚部 砕石	内外面クロコナテ後, 黒色処理・ヒガシ。外面に墨書あり。	内 2.5/2/2 黒 外 2.5/8/3 黄鉄	白色顔料少, 良好。	口縁部一部 60-340 1層
25 土脚部 砕石	内面黒色処理・内面ヒガシ。外面クロコナテ。墨書あり。	内 2.5/2/1 灰 外 2.5/8/2 灰白	白色顔料少, 赤褐色顔料少, 良好。	体部一部 60-100 1層

##### 第14次調査区

1 反橋脚部 礎	高台 15.40 体部断面へラケズリ, 内面に輪付く。重ね焼き。底部断面黒色。宮口表高1・2号使用。	内 2.5/7/2 黄鉄 外 #	黒色顔料, 良好。	底部1/2 92-563, 593 上面
2 反橋脚部 礎	高台 17.40 底部断面へラケズリ。三ツ山高台。黒鉄 90号鋼式。	内 107/1 灰白 外 107/2 灰白	黒色顔料, 良好。	底部1/4 上面
3 緑橋脚部 礎	高台 15.40 内外面にヒガシ。緑橋脚す。トレンチ有。黒鉄 90号鋼式。	内 1076/4 オリーブ 外 1075/3 灰オリーブ	白色顔料, 良好。	底部・高台1/12 92-563, 593 上面

##### 飯盛地内

##### 金堂

1 土脚部 砕石	内面ヒガシ。外面口縁部クロコナテ。底部へラケズリ。	内 1076/6 明赤橋 外 #	黒色顔料多, 白色顔料少, 褐色顔料やや多, 良好。	口縁部へ体部上半一部 調査北東
2 土脚部 砕石	口 12.20 高 17.00 高 3.3 内面へ体部外面クロコナテ。底部へラケズリ後平。内面タル付着。打明瓦。	内 1073/1 黒橋 外 1074/2 灰黄橋	褐色顔料やや多, 良好。	口縁部一部 体へ底部1/3 基壇南東コーナー
3 土脚部 砕石	口 10.20 高 3.0 高 3.6 内外面クロコナテ。底部回転糸切り。底部内面にタル付着。打明瓦。	内 1076/2 灰黄橋 外 1076/3 にぶい黄橋	黒色顔料多, 白色顔料少, 良好。	口縁部1/3 底部完存 金堂北
4 土脚部 砕石	口 08.80 高 06.20 高 2.8 内外面クロコナテ。底部回転糸切り。底部内面にタル付着。打明瓦。	内 2.5/8/6 明赤橋 外 1076/6 明赤橋	白色顔料少, 黒色顔料多, 褐色, 良好。	底部へ底部1/6 壁身中
5 土脚部 砕石	口 09.80 高 06.40 高 2.7 内面へ体部外面クロコナテ。底部回転糸切り。内面にタル付着。打明瓦。	内 107/1 黒 外 2.5/8/5/1 にぶい橋	黒色・白色顔料少, 良好。	口縁部1/8 底部1/4 北トレンチ
6 土脚部 砕石	高 06.00 内面へ体部外面クロコナテ。底部回転糸切り。	内 1072/3 にぶい黄橋 外 #	黒色顔料多, 赤色顔料微, 良好。	体部下平へ底部1/4 体
7 土脚部 砕石	高 06.40 内面へ体部外面クロコナテ。底部回転糸切り。内面にタル付着。打明瓦。	内 2.5/8/7/4 にぶい黄橋 外 2.5/8/3 にぶい黄橋	黒色顔料多, 白色顔料・赤色顔料少, 良好。	底部1/2 残 北東北東・東
8 土脚部 砕石	高 06.00 内外面クロコナテ。底部回転糸切り。	内 2.5/8/7 黄鉄 外 1076/8 黄鉄	黒色・白色顔料少, 良好。	体部下位へ底部1/4
9 土脚部 砕石	高 06.40 内外面クロコナテ。底部回転糸切り。	内 1076/4 にぶい黄橋 外 #	赤褐色顔料少, 透明顔料・金色雲母微, 良好。	体部下平1/6 底部1/2 北トレンチ
10 土脚部 砕石	高 06.00 内外面クロコナテ。底部回転糸切り。内面にタル付着。打明瓦。	内 1073/1 黒橋 外 1073/4 にぶい黄橋	赤褐色顔料・褐色顔料少, 白色顔料微, 良好。	体部下位へ底部1/2 体



## 加藍地内

## 金堂

11 土師器 土師 杯	口 10.0	内面→口縁部コロナテ、内面一部へラナテ、外面体部上半無敷。下半へラケズリ。	内 0105.6 明赤褐色 外 *	白色・黒色散粒多。赤色散粒・白色細粒少。金色或はやぐ多。良好。	口縁→体部下位 1/6 底縁北東・東
12 土師器 土師 底	底 7.0	内外面コロナテ、外面体部・底部へラケズリ。	内 0105.6 明赤褐色 外 2.5105.3 に近い褐色	黒色・白色散粒・白色細粒少。赤褐色粒少。小石散。	体部下→底部 1/6
13 土師器 高台付杯	高台 7.0	内外面コロナテ。高台張り付け後、コロナテ。	内 2.5106.6 褐色 外 *	白色・黒色散粒多。赤褐色散粒。良好。	底部→高台 1/2 北→レンテ
14 土師器 高台付杯		内外面コロナテ。底面回転車切り後、高台張り付け。内面にターム付着。灯明具。	内 0121.1 黒 外 0102.2 に近い黄褐色	黒色散粒多。透明細粒少。やぐ小石。	体部下半 1/3 残。底面完全。北→レンテ。
15 土師器 高台付杯	高台 8.0	内面黒色処理・ミガキ。外面コロナテ。	内 2.5121.1 黒 外 2.5105.4 に近い褐色	白色散粒多。赤褐色散粒。良好。	底部→高台 1/3
16 土師器 高台付杯		底面外体部・高台付コロナテ。	内 2.5107.6 褐色 外 2.5106.4 に近い褐色	白色散粒多。赤褐色粒少。良好。	高台上半・底面完全 西側 Track-56
17 土師器 高台付杯		内外面コロナテ。	内 0107.8 褐色 外 2.5107.6 褐色	黒色散粒少。良好。	体部下位→高台 1/3 高台端部欠。東側東側北端
18 土師器 高台付杯		底面内面コロナテ。高台張り付け。	内 0107.4 に近い黄褐色 外 *	黒色散粒多。良好。	底面完全。高台 1/2 北→レンテ
19 灰輪陶器 輪		内外面コロナテ後。灰輪張り付け後、外面体部下位回転へラケズリ。底面内面朱墨付。大塚 2 号形式。	内 2.5171.1 灰白 外 2.5161.1 黄灰 輪 010.2 灰白	黒色細粒少。良好。	底面→底面一部 北端北側東部

## 回廊

1 灰塵器 杯	口 13.0 底 7.2 高 3.4	内面→体部外面コロナテ。底面回転車切り。三森産。	内 2.5151.1 灰 外 *	黒色散粒。白色細粒少。小石。良好。	口縁→底面 1/4 廻り
2 灰塵器 杯	口 11.0 底 9.8 高 3.8	内外面コロナテ。体部下端・底面外手持りへラケズリ。新治産。	内 0106.1 褐色 外 *	白色細粒多。赤色或はやぐ多。良好。	口縁→体部 1/5 底面 1/3 西側→内面東端
3 灰塵器 杯	口 11.0 底 6.5 高 3.6	内外面コロナテ。底面回転車切り。三森産。	内 2.5141.1 黄灰 外 011.1 灰	白色散粒多。黒色細粒少。やぐ良好。	口縁→体部下位 1/6 底面完全。回廊西
4 灰塵器 杯	底 7.0	内外面コロナテ。体部下端コロナテ。底部へラケズリ。焼成後へラ記あり。三森産。	内 2.5162.2 黄灰 外 *	黒色細粒少。良好。	体部下端一部 底面 1.6。回廊西(金堂)
5 灰塵器 杯	底 9.3 高 2.1	内外面コロナテ。底部へラケズリ後ナテ。益子産。	内 2.5161.1 灰 外 *	白色・黒色散粒多。良好。	体部下端一部 底面 1/2。西側 1/3
6 灰輪陶器 杯	底 7.0	内面黒色処理・ミガキ。外面コロナテ。底面回転車切り。内面にターム付着。灯明具。	内 0121.1 黒 外 2.5105.6 明褐色	白色・白色散粒少。白色細粒。良好。	体部下位→底面 1/4
7 灰輪陶器 輪	高台 8.0 高 2.6	内外面コロナテ。高台張り付け。内面体部・底部へラケズリ。大塚 2 号形式。	内 0127.2 灰白 外 2.5162.2 黄灰 輪 017.2 灰白	白色散粒。良好。	底部→高台 1/4 残 東側回廊
8 灰輪陶器 輪	高台 18.4	内外面コロナテ。体部下端→底面外面回転へラケズリ後。灰輪張り。大塚 2 号形式。	内 2.5161.1 黄灰 外 *	白色細粒少。良好。	体部一部 底面・高台 1/4 回廊西(金堂)
9 灰塵器 小盃	高台 6.0	底面外面ナテ。高台張り付け。コロナテ。体部外手持りへラケズリ。新治産。	内 0150.0 灰 外 014.0 灰	白色散粒少。白色細粒少。良好。	体部下位→高台 1/2
10 灰輪陶器 輪		内外面コロナテ。全面灰輪張り。新塚 14 号形式。	内 0106.1 灰 外 *	黒色散粒多。白色・白色細粒少。良好。	口縁部一部 回廊(金堂)

## 中門

1 土師器 杯	底 6.4	内外面コロナテ。外面体部・底部へラケズリ。	内 2.5105.4 に近い褐色 外 *	白色散粒多。赤褐色粒少。良好。	体部下端 1/4 底面 1/3
2 灰塵器 紋鉢形		内外面コロナテ。宇都宮産。	内 0106.1 灰 外 *	白色散粒多。白色細粒少。良好。	体部下→底面 中門西 回廊トシ 北柱部

## 経蔵

1 土師器 杯	口 13.0 底 6.4 高 3.6	内面黒色処理・へラミガキ。外面コロナテ。底面回転車切り。内面にターム付着。灯明具。	内 0105.6 明赤褐色 外 2.5121.1 黒	白色細粒・粒色粒少。良好。	口縁→底面 1/2
2 土師器 杯	底 6.4	内面黒色処理・へラミガキ。外面コロナテ。底面手持りへラケズリ。内面にターム付着。灯明具。	内 2.5121.1 黒 外 2.5105.4 に近い褐色	白色散粒多。良好。	体部下半 1/4 底面一部
3 土師器 杯	底 7.2	内面黒色処理・体部下方へラミガキ。底面一方のみへラミガキ。底面回転車切り後。外周手持りへラケズリ。	内 0120.0 黒 外 2.5105.4 に近い褐色	白色・透明細粒少。良好。	体部一部 底面 1/4
4 土師器 杯	口 7.4 底 4.4 高 3.1	内外面コロナテ。内面全面にターム層が付着。灯明具。	内 0120.0 黒 外 2.5106.4 に近い褐色	白色散粒多。やぐ小石。	口縁→底面 1/4

## 鐘楼

1 灰塵器 高台付杯	高台 10.4	内外面コロナテ。底面回転へラ切り後、高台張り付け。三森産。	内 0151.1 灰 外 *	白色細粒少。良好。	底面→高台 1/2
---------------	---------	-------------------------------	-------------------	-----------	-----------

## 僧房

1 灰塵器 杯	底 9.0	内外面コロナテ。底面回転車切り後、外周回転へラケズリ。三森産。	内 2.5162.2 黄灰 外 *	黒色・白色散粒少。赤褐色散粒。良好。	底面 1/6 2 区区部
2 灰塵器 杯	底 7.8	内外面コロナテ。底面全面回転へラケズリ。内外面に土だん土層あり。	内 2.5106.3 黄灰 外 *	黒色細粒少。良好。	底面 1/2 2 区区部
3 灰塵器 杯	底 8.0	底面外面→体部下端回転へラケズリ。11.5 の部分コロナテ。底面中央回転車切り。三森産。	内 2.5105.4 に近い褐色 外 *	黒色散粒多。赤褐色・白色散粒少。良好。	体部下→底面 1/2 2 区区部

第4章 発見された遺物

伽藍地内

僧房

4 東窓部 枱	口(12.2) 底 6.2 高 3.5	内面→外面外周コ罗纳。底部回転糸切り。内面にターム付。灯明具。二窓部。	内 33R4.6 赤褐色 外 *	白色・黒色顔料多。良好。	口縁→底部1/6 底部1/5 2区
5 東窓部 枱	口(13.0) 底 5.8 高 4.5	内外面コ罗纳。底部回転糸切り。二窓部。	内 30Y8.4 浅黄褐色 外 *	黒色・灰色顔料多。難少。不貞。	口縁→底部1/4 底部定存 3Rr
6 東窓部 枱	底 15.0	内外面コ罗纳。底部回転糸切り。二窓部。	内 2.5Y7.2 灰黄 外 *	黒色顔料多。不貞。	体部下1/6 底部1/3
7 東窓部 枱	底 16.0	内面→外面外周コ罗纳。底部回転糸切り。二窓部。	内 2.5R7.2 灰白 外 2.5Y7.2 灰黄	黒色・灰色顔料多。灰色顔料少。不貞。	底部1/2
8 東窓部 枱	底 3.0	内外面コ罗纳。底部回転糸切り。二窓部。	内 33Y5.4 に近い赤褐色 外 *	白色顔料・黒色顔料。良好。	体部下1/6→底部定存
9 東窓部 枱	底 5.6	内外面コ罗纳。底部回転糸切り。二窓部。	内 33Y5.6 明赤褐色 外 *	白色顔料・白色顔料。良好。	体部下1/2 1/4 底部定存 10Tr
10 東窓部 枱	口(14.0) 底 7.0 高 4.9	内外面コ罗纳。底部へラ切り後、ナブ。焼成面へラ記号あり。南東窓部。	内 30Y5.1 灰 外 *	白色顔料少。難難。白色針状物。良好。	口縁1/6 体部下1/6→底部1/2 T1.2 間
11 東窓部 高台付枱	高台 8.0	体部内外面→底部内面コ罗纳。底部全面回転へラケズリ後。焼成面へラ記号。益子産。	内 2.5G1.1 埋まり一 7R 外 *	白色顔料・白色顔料少。良好。	底部→高台定存 2Tr
12 西窓部 枱	底 7.2	内外面コ罗纳。底部へラ切り後、ナブ。益子産。	内 33Y.1 灰 外 *	白色顔料少。難難。	体部下1/6→底部2/3 2区 2区
13 土師部 枱	口(13.6) 底 9.2 高 5.7	内面黒色処理・ミガキ。外面コ罗纳。底部回転糸切り。	内 2.5Y2.1 黒 外 2.5Y8.5 に近い褐色	黒色・赤褐色顔料多。良好。	口縁→底部1/3 3R.9 トレ
14 土師部 枱	底 7.6	内面黒色処理・ミガキ。外面コ罗纳。底部全面回転糸切り。	内 30Y4.2 灰黄褐色 外 33Y8.9 明赤	黒色・白色顔料。良好。	体部下1/2→底部1/2 1Rr
15 土師部 枱	底 7.0	内面黒色処理・ミガキ。外面コ罗纳。底部回転糸切り。	内 2.5Y2.1 黒 外 2.5Y8.4 に近い褐色	黒色・赤褐色顔料多。難少。良好。	体部下1/6→底部2/3 3Rr
16 土師部 枱	底 6.6	内面黒色処理・ミガキ。外面コ罗纳。底部回転糸切り。	内 2.5Y8.6 褐色 外 2.5Y2.1 黒	黒色顔料多。小石少。良好。	体部下1/6→底部 2Tr+壁面より北側
17 土師部 枱	底 6.2	内面黒色処理・ミガキ。外面コ罗纳。底部回転糸切り。	内 2.5Y2.1 黒 外 30Y7.4 に近い黄褐色	黒色顔料・赤褐色顔料少。良好。	体部下1/2→底部1/4 Tr+1区
18 土師部 枱	底 6.0	外面部→体部へラケズリ。内面コ罗纳。	内 2.5Y8.5 に近い褐色 外 30Y8.9 に近い黄褐色	黒色・赤褐色顔料少。白色顔料。良好。	体部下1/6→底部1/5 1Rr
19 土師部 枱	底 6.4	内面黒色処理・ミガキ。外面コ罗纳。底部全面回転へラケズリ後。ミガキ。底部全面回転へラケズリ後。ミガキ。	内 30Y2.1 黒 外 2.5Y8.5 に近い褐色	黒色顔料多。良好。	体部下1/6→底部1/2 9R+北側壁より
20 土師部 枱	底 6.8	内外面コ罗纳。底部回転糸切り。	内 30Y7.4 に近い黄褐色 外 *	白色顔料少。赤褐色顔料。良好。	体部下1/2 4 2Tr
21 土師部 枱	底 6.8	内外面コ罗纳。底部回転糸切り。	内 33Y8.6 褐色 外 *	白色・赤褐色顔料多。良好。	体部一部 底部1/3 外
22 土師部 枱	底 8.4	内外面コ罗纳。底部へラ切り。内面にターム付。灯明具。	内 30Y2.1 黒 外 30Y3.2 黒褐色	白色・黒色顔料多。良好。	底部1/2 底土中
23 土師部 枱	口(16.0) 底 6.0 高 3.2	内面コ罗纳。内面黒色処理。底部回転糸切り。	内 2.5Y2.1 黒 外 30Y8.6 褐色	黒色・赤褐色顔料多。良好。	口縁部一部 底部1/4 T4 2区
24 土師部 枱	内面ナブ。体部下層外面へラケズリ。赤コ罗纳。底部外面へラケズリ。内面にターム付。灯明具。	内 30Y5.6 明赤褐色 外 *	白色・透明顔料多。良好。	体部一部 底部1/6 外	
25 土師部 枱	高台 6.5	内面黒色処理・ミガキ。外面体部コ罗纳。底部回転糸切り後。高台取り付。	内 N1.3 黒 外 33Y8.2 浅黄褐色	黒色顔料多。良好。	体部下1/2→高台定存
26 土師部 枱	高台 6.0	内面黒色処理・ミガキ。外面コ罗纳。天井部外面回転へラケズリ。	内 30Y2.1 黒 外 30Y8.4 に近い黄褐色	黒色顔料少。良好。	つぎふ。一部欠 つぎふ→天井部 6.7 9 トレ
27 灰釉陶器 数珠形	高台 8.0	内外面コ罗纳。底部回転へラケズリ。内面込込みのぎ反輪ハケ塗り。	内 2.5Y6.2 灰黄 外 *	黒色顔料少。黒色顔料。良好。	体部下1/2→高台1/3 3Rr
28 土師部 数珠形	内面黒色処理。外面コ罗纳。	内 2.5Y2.1 黒 外 2.5Y8.5 明赤褐色	黒色顔料多。白色顔料少。赤褐色顔料少。良好。	体部一部	
29 東窓部 高台	底部内面→体部外面コ罗纳。底部へラ切り後。回転へラケズリ。高台取り付。高台に方通1.4×所あり。内面と壁面にターム付。破片化後に灯明に使用。南東窓部。	内 33Y.1 灰 外 30Y1.1 灰	白色・黒色顔料多。白色顔料・白色針状物少。小石。良好。	体部下1/2 1/2 高台1/6。→底部定存 2区 2区	
30 東窓部 数少	口(25.0)	内外面コ罗纳。益子産か。	内 33Y.8 灰 外 30Y5.1 灰	白色顔料・白色顔料少。白色顔料。良好。	底部1/6
31 東窓部 数珠形	内面上半コ罗纳。外面下半回転へラケズリ。二窓部。	内 33Y.1 灰 外 33Y.1 灰	白色・白色顔料多。白色・灰色顔料少。良好。	体部中位→下半1/6	
32 土師部 付付枱	有部内面コ罗纳。内外面コ罗纳。有付部の有部。	内 33Y5.6 明赤褐色 外 2.5Y8.5 に近い褐色	白色顔料多。黒色顔料少。難難。良好。	底部→有部上半は定存 T4 2区	
33 土師部 枱	口(19.8)	口縁部押圧痕あり。コ罗纳。内面ナブ。へラナブ。焼成面へラケズリ。	内 33Y4.6 赤褐色 外 33Y3.4 に近い赤褐色	白色顔料多。黒色顔料少。難難。良好。	口縁→底部上半1/3 3区 2区 2区
34 緑釉陶器 数	口(19.0)	内外面緑釉施す。	内 緑 外 30Y8.3 浅黄褐色	白色顔料少。良好。	口縁→底部一部
35 東窓部 高台付	内外面コ罗纳。外面に自然黒。益子産。	内 33Y.1 灰 外 33Y.1 灰	白色顔料多。良好。	脚部片 2区 2区	
36 東窓部 枱	内外面コ罗纳。底部回転糸切り。体部外面に墨書「法」あり。二窓部。	内 30Y7.3 に近い黄褐色 外 *	白色・透明顔料多。良好。	体部下1/4 底部一部	

南門

1 土師部 枱	口(12.3)	口縁部内面ヨコ方向へラミガキ。体部→底部内面→方向へラミガキ。外面へラケズリ後。ミガキ。	内 33Y5.6 明赤褐色 外 *	白色顔料・赤褐色顔料少。良好。	口縁→底部1/6 1-5
2 土師部 枱	底 6.6	内面黒色処理・ミガキ。外面コ罗纳。底部回転糸切り。	内 N1.3.9 黒 外 2.5Y7.3 浅黄	黒色・白色顔料少。白色顔料。良好。	体部下1/2→底部2/3 T4 南東側面壁土層

伽藍地内

南門

3 灰釉陶器 甕	口 17.2 高台 8.0 高 5.5	外面体部下端～底部回転ヘラケズリ。高台取り付付、体部コクロナズ。灰釉剥け剥け、割戸 53 号製式。	内 10YR6/3 に近い黄褐色 外 10YR7/3 に近い黄褐色 輪 7.5YR.3 オリーブ黄	黒色微粒数、良好。	口縁～体部下位 2/3 迄 底面完存 Q 5
4 土師器 甕		内面ナズ。外面カキ目。	内 7.5YR7/6 褐色 外 10YR4/2 灰黄褐色～ 7.5Y2/1 黒	白色・赤褐色微粒数、良好。	胴部一部
5 土師器 甕		内面ナズ。外面カキ目。	内 7.5YR7/6 褐色 外 10YR4/2 灰黄褐色～ 7.5Y2/1 黒	白色・赤褐色微粒数、良好。	胴部一部

東門

1 灰釉陶器 甕	口 14.8	コクロナズ後、外面下部回転ヘラケズリ。内外面灰釉面中。黒管 90 号製式。	内 10B6/2 灰オリーブ 外 *	白色微粒数、良好。	口縁部 1/6
2 灰釉陶器 甕	高台 8.6	内面・体部外面コクロナズ。内外面(底部外面のぞき)回転ヘラケズリ。黒管 90 号製式。	内 10B6/2 灰オリーブ 外 *	白色微粒数、良好。	高台 2/5

伽藍地内遺構外

1 灰意器 杯	口 12.4 底 12.0 高 3.9	内面～体部外面コクロナズ。底部回転車切り。ター ン付巻。打明具。三造成。	内 7.5Y5/1 灰 外 *	白色・黒色微粒少、良好。	口縁部 1/4 底面 1/2
2 灰意器 杯	底 17.8	内外面コクロナズ。底部外面回転ヘラケズリ。三造 成のみ。	内 2.5Y7/3 黄黄 外 2.5Y6/3 に近い黄	白色微粒少、良好。	体部下半～底部 1/6 Iro. L.6
3 灰意器 杯	底 17.2	内外面コクロナズ。外面体部下半～底部半押しヘラ ケズリ。新治造。	内 8.5/0 灰 外 *	白色微粒多。金色雲母少、良好。	体部一部 底部 1/3
4 灰意器 甕		口縁・胴部コクロナズ後、1本単位の外へ粘状灰文。 曇子産。	内 10B6/1 灰 外 8.5/0 灰	白色微粒多。白色微粒。良好。	口縁部一部
5 灰意器 高台付杯	高台 10.0	底部外面全面回転ヘラケズリ後、焼成前ヘラ記号。 内面コクロナズ。曇子産。	内 7.5Y4/1 灰 外 *	白色微粒・粒少、良好。	底部・高台完存
6 灰釉陶器 甕	口 16.2 高台 7.6 高 5.0	体部下端～底部回転ヘラケズリ。高台取り付付。体 部内外面に灰釉ヘケズリ。黒管 90 号製式。	内 10YR7/4 に近い黄褐色 外 *	黒色微粒数、良好。	口縁～体部下位 2/3 底面完存
7 灰釉陶器 甕	高台 6.8	内面・体部外面コクロナズ。底部回転車切り。重ね 焼き痕あり。体部内面回転ヘケズリ。盲口産。	内 2.5Y7/1 灰白 底面 10Y5/1 灰 外 2.5Y7/2 灰黄 輪 10Y6.2 オリーブ灰	黒色微粒少。小石、良好。	体部下位～高台 1/2
8 瓦器		製造地。	10YR7.2 に近い黄褐色	赤褐色粒少、良好。	拍藍部一部

## 第4章 発見された遺物

第16表 鉄製品等観察表

## 第1次調査区

SB-171

番号	材質	種類	大きさ cm×g (長さ)	特 徴	出土状態	注記
1	鉄製	鏃	長 9.0 重 47.33 幅 2.6	鏃は丸味があり、刃部は直線状である。	上面	(北柱列第2柱採取)

## 第11次調査区

SB-700

1	鉄製	鏃	長 7.3 重 14.55 幅 2.4	長身の両側を折り曲げたもの。柄の部分は斜めにのびる。裏元端は折り曲げた部分で幅のわかる箇所で右側部分を上に柄の中軸で相交し、先端はそのカーブに合わせて作成した。	東畑柱列北第2柱3期前方出土中
2	不明鉄製品	鏃	長 3.3 重 6.35	断面長方形で、幅・厚さが均一である。	北畑柱列西第2柱3期採取埋土上面
3	鉄製釘か	釘	長 (4.5) 重 1.07	断面方形で細い。頭柱下方が細くなる。	東畑柱列北第2柱3期前方埋土中

SA-300

1	鉄製釘	釘	長 (5.0) 重 14.37	頭をくの字形に曲げた釘。下端は欠損する。	北東隅柱1期採取埋土中
---	-----	---	-----------------	----------------------	-------------

## 第1次調査区

SI-114

1	鉄製器具	鏃	長 2.9 幅 2.2 重 6.30	鉄板を曲げて作る。頭が2個打たれていると思いが、1方が不明瞭。剰金の軸棒が遺存している。	No.52
2	鉄製銚金	銚	長 3.7 重 2.12	角棒を横断面に曲げている。刀子などの銚と考えられる。	No.53

SI-122

1	鍍治サ 6号	鍍	重 98.75	羽口の先端部で溶解した6号。内側は乳白色で、図面左端が羽口に近い位置であろう。裏面はスチール製の土で、灰色の還元色である。側縁一部欠。	埋土上面
2	鉄製小札	小札	長 (2.7) 重 9.09 幅 2.0	小札。幅2.0cmで、眼孔がある。裏面にはキガみられる。	埋土上面
3	鍍治羽口	羽口	外径(規定) 8.6 孔径(規定) 3.2 重 203.24	軸上は銅色黒色やや多量、灰色黒・黒色黒少量、全体に黒い。色調内面2.5(7.7)にぶい境。外面10(8.2)灰白、2(0.6)青灰、2(0.5)青灰。構成良好。外面長軸方向にナズ。先端は溶解して浮化。木炭質・乳孔散在。中位還元色。	埋土上面
4	鉄製羽口	羽口	外径 5.8 重 43.70 孔径 2.0	軸上は白色鉄多量、白色鉄少量、灰色鉄少量。構成良好。羽口外面ナズ。先端はガラス質溶融物が付く。軸内挿入は1.5である。羽口先端1/4周残存。	上面
5	鉄製遺物	遺物	長 0.1×2.0 重 70.36	表面はざだらから丸味がある。放射割れと筋線がみられる。これを含めて、約9点、合計70.36gの鉄製遺物が本遺構から出ている。精練鋳造段階のものであろう。	埋土上面

SI-125

1	鉄製刀子	刀子	長 (9.9) 重 6.27	刀先と先端部を欠く刀子。角棒で刀部端には縁の裏面にある。区は横断面に2mmの段があり、刀柄はわずかな段がある。基部が曲がっている。	5層
---	------	----	----------------	---	----

SI-163

1	鉄製針か	針	長 4.4 重 2.58	1本の細い鉄棒で、一方端は環を作り2回転巻いて巻いている。下端は細くなり、J状の針である。	サマ2層
---	------	---	--------------	---	------

## 第2次調査区

SI-257

1	鉄製釘	釘	長 6.2 重 3.47	断面長方形・方形で下へ向4.4細く、断面長方形になる。両端とも欠損する。	上面
---	-----	---	--------------	--------------------------------------	----

SI-307

1	鉄製刀子	刀子	長 13.3 重 36.18	基部を欠くが、刀先は完存する。角棒・平造で、切先にはフクラがある。	No.42
2	鉄製刀子	刀子	長 (5.9) 重 5.47	切先と基部を欠く。刀部のカーブからみて、切先は近い。片面のみに縁があるようにみえる。	No.140
3	鉄製刀子	刀子	長 (4.3) 重 4.49	刀子の案に本質が見える。刀部端は少し尖っている。本質は断面円形・角形を呈する。両端欠損する。	No.139
4	鉄製釘	釘	長 (3.4) 重 6.23	頭部をJ字形に折る。下端は欠けている。	No.146
5	鉄製釘	釘	長 (5.0) 重 8.62	箇中下方に向かうにつれて細くなる。断面方形。	下層
6	鉄製釘か	釘	長 3.2 重 5.96	箇中上端は蟹状で片山になっている。断面方形で下方を欠損している。	2層
7	不明鉄製品	製品	長 3.2 重 5.73	箇中上端は蟹状で片山になっている。断面長方形で下方を欠損している。	No.173
8	鉄製めし用具	用具	長 3.2 重 4.20 幅 1.3	頭は円筒で足は2本の割りピンとなる。頭の端の断面は直線状である。歯縁などの歯の側のみであろう。	No.87
9	鉄製釘	釘	長 (9.3) 重 20.65	長角両端欠損し、箇中上は捻りを加える。下方は細くなっている。	No.167
10	鉄製釘	釘	長 (7.0) 重 11.10	断面方形の釘。釘の上下端は欠けている。本質が遺存しており、釘などの木目の細かなものもある。釘の大きさをみて横断面の形状がわかるであろう。	No.105
11	鉄製形鋳造治	治	長 7.1×6.5 重 175.05	断面で放射割れの走る鉄板形鋳造治。新造部分に黒線が広がって見られる。完存。	No.160
12	鍍治片	片	長 14.3×6.7 重 42.04	一方の面は外縁に細粒状突起があり起伏が激しい。他の面は平直で円柱状の物の上で生成したようである。	No.176

SI-325

1	鉄製釘	釘	長 (10.4) 重 61.55	頭は厚さを薄くして包み曲げている。断面方形でゆるやかに歪んでいる。縦方向に縦線が割れがある。	床直
2	鉄製釘	釘	最長 (10.0) 重 35.74	5本が束ねられた釘。頭がJ字形に折れており、使用後のものであろう。長さは7.1cm、10.0cm、6.0cm、9.5cmのものがある。断面方形を呈する。	No.1
3	鉄製釘	釘	長 (4.0) 重 4.33	頭はコの字形に巻いて作る。下段は欠損している。	上層

## 第2次調査区

## SI-325

4 鉄製釘か	長 (4.2) 重 2.40	下方へ向かう曲りになる。断面方形で長軸両端欠く。	上層
5 鉄製釘か	長 (3.1) 重 1.48	断面長方形でやや扁平。先端は欠く曲る。	床底
6 鉄製釘	長 (3.9) 重 5.99	1字形に曲りてあり、先端は欠く。	床底
7 不明鉄製品	長 (1.9) 重 3.73 径 (1.1)	鉄板を曲げて筒状にしている。上下端は遺存している。	下層

## SI-335

1 硝石	最大長 3.3 最大幅 2.6 最大厚 1.3 重 15.48	断面は4面で、長軸両端は欠損する。キズによって研ぐ方向は長軸方向であることがわかる。石材は経理の粗粒岩であろう。	上面
------	------------------------------------	--	----

## SI-336

1 鉄製釘	長 (5.4) 重 12.25	釘の下部側の破片と考えられる。断面方形。	床底
-------	-----------------	----------------------	----

## 第4次調査区

## SI-396

1 不明鉄製品	長 (13.9) 厚 0.4 幅 1.3 重 45.87	断面台形状で側面に段があるが、両面化した面と裏面に段はない。丸もない。長軸両端とも欠損する。	上面
---------	---------------------------------	--	----

## SI-436

1 鉄製釘	長 (2.9) 重 2.67	頭部を1字形に曲げている。長軸両端とも欠損。	上面
2 鉄製釘か	長 (3.2) 重 2.64	短軸断面方形で途中の方が細くなる。長軸両端欠損。	上面

## SI-437

1 鉄製釘	長 (6.0) 重 1.46	短軸断面方形で細い釘。途中上端は欠けている。	上面
2 鉄製刀子	長 (3.7) 重 3.29	平棟・平造の刀子。刀部細い区の可能性もある。長軸両端欠損。	上面
3 鉄製刀子	長 (2.9) 重 1.95	長軸両端を欠き、断面長方形で、途中左側の方が幅が広い。刀子の家と考えられる。	上面

## SI-438

1 鉄製刀子	長 (6.7) 重 9.91	切先と家先端を欠く刀子。区のところでの字形に折れ曲がっている。棟は横はれているが先い。区は棟部が角区・丸部が丸くである。	No.24
2 鉄製刀子	長 (4.2) 重 3.29	刀子の刃である。長軸両端欠く。平造。角棟で、断面は2枚に層状に層している。	No.35
3 鉄製釘	長 (4.9) 重 5.90	頭部を2つの字形に巻き込んだ釘。断面方形で下部は欠損する。	No.49
4 鉄製釘	長 (6.6) 重 12.53	断面方形で途中の方が細くなる。長い釘と考えられる。	No.41
5 鉄製釘	長 (3.7) 重 2.16	途中下部に向かう曲りになる。くの字形に折っており、釘か釘の一部と考えられる。	No.9
6 棒状鉄製品	長 (3.9) 重 3.09	途中下方が少し細くなり、くの字形に曲がる。断面方形で、釘・釘などであろう。	No.6

## SI-439

1 鉄製釘か	長 (4.1) 重 1.77	途中下方へ向かう曲りになる。断面方形で、釘の下方の破片であろう。	No.13
--------	----------------	----------------------------------	-------

## SI-449

1 鉄製釘	長 (3.2) 重 1.96	途中下方へ向かう曲りになる。断面方形で、釘の下方の破片であろう。	上面
-------	----------------	----------------------------------	----

## SI-451

1 鉄製刀子	長 (5.3) 重 3.39	刀部の短い刀子で、刃長 28mm。平棟。角棟で家先端は欠損。	No.5
--------	----------------	--------------------------------	------

## 第7次調査区

## SI-566

1 鉄製釘	長 12.8 重 25.61	途中上端が薄くなり、ゆるやかに曲がる。下に向かう曲りになる釘である。断面方形で、半位の表面が割れている。	No.10
2 棒状製品	長 (4.8) 重 1.37	断面円形をした棒状製品である。断面形からみると鉄線車の軸棒であろうか。	No.10

## 第11次調査区

## SI-680

1 鉄製釘	長 (3.7) 重 6.23	長軸両端を欠き、下方が薄くなる。釘であろう。	No.25
-------	----------------	------------------------	-------

## SI-690

1 鉄製釘	長 (3.0) 重 5.84	釘の頭を1字形に折る。下部は欠損する。	1層
2 鉄製釘	長 (4.6) 重 6.90	長軸両端を欠く釘。断面菱形に近い。下方が細くなる。	No.53
3 鉄製釘か	長 (4.9) 重 19.11	断面方形で、ゆるやかに曲がった釘か。下方が細くなる。上方は欠損。	No.65
4 鉄製釘か	長 (3.7) 重 4.35	短軸断面長方形で、薄い。表面に木質があることから使用後のものである。	No.12

## SI-698

1 鉄製刀子	長 刃厚 (10.9) 最大長 26.5 最大厚 (4.3)	角棟・平造で、断面をみると心金と皮金2枚の組合わせたものであることがわかる。刀部細い区があるが、棟部は不明。葉と刃は接合せず、途中で固定した。	No.27
2 鉄製刀子	長 (7.4) 重 12.31	角棟・平造の刀子。棟部には角区があるが、刀部細い区はない。葉の部分では心金が2枚あるか。	床底
3 鉄製釘か	長 (4.2) 重 6.36	上下両端欠損する釘か。下へ向かうにつれて細くなり、断面方形である。接合しない3点がある。	No.16

#### 第4章 発見された遺物

##### 第11次調査区

SI-714

1 鉄製釘	長 4.1 重 10.87	頭はこぶし状を呈し、折や曲がてあるが不明瞭。層伏刺線が著しい。	No.4
-------	---------------	---------------------------------	------

##### 第14次調査区

SI-844

1 鉄製鎌か	長 (3.8) 重 3.97 幅 2.49	頭中上方がやや厚く下方は刃のようである。鎌の中心の破片であろう。	一括
2 鉄製釘	長 (3.6) 重 3.97	釘の頭が薄くまっすぐにのびる。未使用品である。下層はわづかに欠ける。	下層

##### 第1次調査区

SD-112

1 鉄製黄金	長 0.8×3.23 重 12.06	楕円形の覆状で、断面丸長方形を呈する。刀子などの柄の黄金であろう。	上層上平
--------	-----------------------	-----------------------------------	------

SD-113

1 鉄製釘	長 (3.2) 重 5.12	頭は平面台形で、3方向に突出する。基の断面は平行である。	最上層 92-225
-------	----------------	------------------------------	------------

SD-152

1 鉄製鍔	長 (3.5) 重 12.06	頭中左側の面には段が付く。鋳造品である。	中層 No.48
-------	-----------------	----------------------	----------

SD-193

1 鉄製釘	長 (3.6) 重 3.21	両端欠損する。	最上層 92-133
-------	----------------	---------	------------

##### 第2次調査区

SD-330

1 鉄製刀子	長 (7.7) 重 9.77	棟部は凹区。刀側には凹なし。棟はやや丸い。	3層(中層)
2 鉄製釘	長 (7.6) 重 12.54	断面方形で、層伏刺線あり。下方が細くなる。	5層(最上層)
3 鉄製釘か	長 (5.3) 重 3.60	断面方形で、表面には土砂厚く付く。下方が細くなる。	3層(中層)
4 鉄製釘	長 (8.2) 重 16.56	頭を欠いた釘。上段はゆるやかにカーブする。断面方形。層伏刺線3層あり。	3層(中層)
5 鋳造鉄	長 (7.6×3.3) 重 24.91	表面に割れが入っている。	3層(中層)

SD-329

1 不明鉄製品	外径 3.9 重 2.64	両端と中心の穴の両面は丸くなっている。文字などは腐蝕されたい。	上面
---------	---------------	---------------------------------	----

SD-334

1 鉄製釘	長 (7.5) 重 6.32	頭は平たくして1字形に曲がる。足も1字形に曲がり、使用後のもの。断面菱形をしている。	4層(下層)
-------	----------------	--	--------

SD-369

1 鉄製釘	長 (10.4) 重 22.33	長軸両端欠。断面方形。下方が細くなる。	上面
-------	------------------	---------------------	----

##### 第7次調査区

SD-140

1 鉄製刀子か	長 (7.6) 重 29.05	茎と黄金が接着したもの。黄金は外面が方形で、内面は楕円形。茎は断面方形で形が上がる。	No.54
2 鉄製刀子	長 (3.3) 重 2.93	刃がなく、断面台形であることから、刀子の茎片と考えられる。両端欠。	No.1

SD-598

1 鉄製銅線	最大径 4.6 重 12.30	軸部は断面方形をしており、円盤はやや歪んでいる。軸部両端欠損している。	上面
--------	-----------------	-------------------------------------	----

##### 第9次調査区

SD-658B

1 鉄製黄金具	長 (2.9) 重 3.96	断面長方形で、楕円形の覆。	No.34
2 鉄製釘か	長 (3.0) 重 2.22	断面方形で、頭中上端はゆるやかにカーブする。下層は欠けているが、まっすぐにのびる。	No.2

##### 第11次調査区

SD-193

1 鉄製刀子	長 (12.0) 重 28.05	茎は刃に対して曲がっている。棟部のみ凹あり。柄は片面のみわずかにみられる。	B1層 No.19
--------	------------------	---------------------------------------	-----------

SD-265

1 鉄製釘か	長 (2.5) 重 2.07	断面丸長方形で、頭中下方が細い。	下層 No.9
--------	----------------	------------------	---------

SD-330

1 鉄製釘	長 (9.8) 重 14.95	頭が平皿で割りのない釘。完存である。	2層 No.13
2 鉄製釘	長 (6.1) 重 38.70	断面方形で頭中下方が細くなる。鋸痕の層伏刺線が長軸方向に走る。	1層 No.6

SD-682

1 鉄製刀子	長 (3.5) 重 6.02	茎の長軸両端欠損。3層の層伏刺線あり。	埋土中 40-402
--------	----------------	---------------------	------------

SD-777

1 鉄製刀子	長 (3.4) 重 5.44	頭部を薄くばして折れ曲がりが、その基部を残す。	埋土上層
--------	----------------	-------------------------	------

## 第 12 次調査区

SD-827C

1 鉄製釘	長 10.0 重 30.87	丸めの釘で、頭と先端は欠く。断面は方形で、途中で細くなる。	中層 107-109
-------	----------------	-------------------------------	------------

## 第 2 次調査区

SK-262

1 鉄製釘か	長 7.0 重 4.19	断面方形で途中で先端は欠け、下方はやや細くなる釘か、波状に曲がっている。	上面
--------	--------------	--------------------------------------	----

SK-268

1 鉄製釘か	長 0.0 重 44.45	断面方形で、途中で下方が細くなる。長軸の方向に本質付く。	上面
--------	---------------	------------------------------	----

2 鉄製釘	長 10.0 重 28.87	断面方形で、L 字形に曲がっている。本質が付く。	1 層 No.6
-------	----------------	--------------------------	----------

SK-299

1 鉄製刀子	長 0.0 重 1.60	刀子の刃部破片。極は丸味あり。	1 層 (最上層)
--------	--------------	-----------------	-----------

SK-341

1 鉄塊	最大長 2.0 重 15.71 最大幅 2.1	層状割層があり、鋳造の遺人だ鉄塊か、製品の一部分か。	上層
------	----------------------------	----------------------------	----

## 第 4 次調査区

SK-421

1 鉄製釘か	長 7.7 重 6.0	断面方形で、途中で下方が細くなっている。長軸両端欠損する。	No.2
--------	-------------	-------------------------------	------

## 第 6 次調査区

SK-540

1 鉄製鉛筆	長 11.0 重 9.48	軸棒は断面円形。長さ 1.4cm 程度が巻き残っている。	No.3
--------	---------------	------------------------------	------

## 第 7 次調査区

SK-581

1 鉄製刀子	長 4.0 重 4.30	反り上がり、断面台形をしている。刀子の茎であろう。刃部欠けはける。	埋土上面
--------	--------------	-----------------------------------	------

## 第 11 次調査区

SK-731

1 鉄製釘	長 5.1 重 5.57	短軸断面方形。長軸両端欠く。途中で下方が細い。	埋土中
-------	--------------	-------------------------	-----

SK-739

1 鉄製釘	長 5.7 重 8.19	短軸断面方形。途中で下方が細くなる。	埋土中
-------	--------------	--------------------	-----

## 第 1 次調査区

SE-116

1 鉄製釘	長 3.0 重 3.71	頭部は薄くして斜り曲げる。足は湾曲しており、断面方形である。	4 層
-------	--------------	--------------------------------	-----

2 鉄製釘	長 4.0 重 9.05	断面台形で両端欠く。	4 層
-------	--------------	------------	-----

SX-192

1 不明鉄製品	幅 4.1 重 29.29	上・下面とも平坦。途中右側が少し薄くなっている。	埋土中 92-200
---------	---------------	--------------------------	------------

## 第 2 次調査区

SX-246

1 鉄製釘	長 5.0 重 6.64	長軸両端欠け、下方がわずかに細くなっている。断面方形。層状割層あり。	上面
-------	--------------	------------------------------------	----

2 鉄製釘	長 2.7 重 1.38	長軸両端欠く。下方が細くなっている。断面方形。	上面
-------	--------------	-------------------------	----

SX-377

1 鉄製釘	長 7.0 重 4.25	断面台形で、上端欠損。下方が細くなる。	埋土中
-------	--------------	---------------------	-----

2 鉄製釘	長 6.4 重 12.28	断面方形で、土砂が厚く付く。一方が細くなっている。	埋土中
-------	---------------	---------------------------	-----

## 第 11 次調査区

SX-805

1 鉄製刀子	長 10.7 重 29.38	棟部には2区がある。刃部の断面ではわずかに陥凹があるが錆ぶくれの可能性もある。	60-185 1層
--------	----------------	---	-----------

2 鉄製釘	長 5.2 重 10.40	頭を薄くして曲がっている。長軸両端欠損する。	60-156-157、60-186-187 1層
-------	---------------	------------------------	-----------------------------

## 遺構外

## 第 1 次調査区

1 鉄製釘	長 0.2 重 7.42	L 字形の鍍金品。棟部状にのびており、断面直状。レントゲン撮影でも孔不明。	92-228 1層
-------	--------------	---------------------------------------	-----------

2 鉄製釘	長 7.0 重 22.47	頭部をL字形に折る釘。断面方形で、上端から2.4cm より下には折れがある。	93-341 2層
-------	---------------	--	-----------

3 鉄製釘か	長 2.8 重 2.23	上端は鋭角に曲がっている。断面長方形。	2層
--------	--------------	---------------------	----

4 鉄製釘か	長 2.4 重 3.64	断面長方形の鉄心部分の周囲に長軸方向の目を付った本質が付く。	92-235
--------	--------------	--------------------------------	--------

5 鉄製釘か	長 5.0 重 11.60	太さ均一で断面方形。長軸両端欠損する。	1層 93-336
--------	---------------	---------------------	-----------

6 鉄製釘	長 6.2 重 11.28	断面方形で両端欠く。	2層 92-133
-------	---------------	------------	-----------

## 第4章 発見された遺物

## 遺構外

## 第1次調査区

7 鉄製釘	長 (4.2) 重 3.08	長軸両端欠く。箇中下方が細くなる。断面方形。	表土
8 鉄製釘	長 (4.7) 重 9.13	断面方形で、両端欠く。	1層 93-213
9 鉄製鉋か	長 (6.1) 重 6.48	断面方形で、箇中上方が端角に曲がっていることから疑とみられる。	1層 93-218
10 鉄製鉋か	長 (5.0) 重 8.97	箇中上方が太く、下方が細い。断面方形。くの字形に曲がっている。	1層 93-197
11 不明鉄製品	長 (3.4) 重 4.56	長軸両端欠く。断面方形状である。	1層 93-210
12 鉄製刀子	長 (4.5) 重 6.07	棟部には段の状がある。刃部側にはない。	2層 92-249

## 第2次調査区

1 鉄製釘	長 (6.0) 重 23.14	頭部を3面に突出させるが、刺摩著しい。表層が4面とも層状剥離している。	2層 59-292
2 鉄製釘	長 (5.5) 重 19.71	頭はL字形に折り曲り、鈍ぶれが著しい。	2層 59-532
3 鉄製釘	長 (6.7) 重 7.87	長軸両端欠く。断面長方形で、下方に向かって細くなる。	北第5土山表層
4 鉄製釘	長 (6.0) 重 8.75	下層は遺存する。断面方形。	2層 59-592
5 鉄製釘か	長 (6.7) 重 4.97	扁平で刀子状であるが、刃部状の部分先端のみで、上端は丸くなっている。頭の折れた釘か。	土山表層②
6 鉄製釘か	長 (6.6) 重 20.71	頭部・足の両端を欠く釘か。断面方形。	2層 59-623
7 鉄製釘か	長 (3.7) 重 2.59	断面方形。下方が細くなる。	2層 59-562
8 鉄製釘か	長 (4.9) 重 8.68	箇中下方が細くなっている。断面方形。	1層 59-504
9 鉄製釘	長 (3.8) 重 3.28	断面方形で、下方は曲がっている。	1層 59-114
10 棒状鉄製品	長 (7.7) 重 5.76	断面方形。まっすぐにのびて両端欠損する。	2層 59-54
11 鉄製釘か	長 (2.9) 重 1.02	上下両端を欠く細い釘か。断面方形。	2層 59-504
12 鉄製釘か	長 (3.8) 重 1.56	断面方形で弓状に曲がっている。	1層 59-711
13 鉄製鉋か	長 (4.1) 重 5.85	断面方形。L字形に折れて細くなっている。	2層 59-562
14 鉄製鉋か	長 (4.0) 重 3.99	断面方形。L字形に折れて細くなっている。	2層 59-562
15 鉄製刀子	長 (2.5) 重 2.52	刃先の破片で、棟には平坦面がある。	1層 59-719
16 鉄製金	長 (2.5) 重 3.71	棟部に曲げたもので、刀子などの物の金か。	北第5土山表層
17 不明鉄製品	長 (5.0) 重 33.73 幅 6.99	表面は刺摩著しいが製造とみられる。穿孔。固化した面は裏面。下層は一字状に突起している。	2層 43-354
18 不明鉄製品	長 (2.2×3.1) 重 8.00	厚目の鉄板をタガネで切って、L字形にしているか。	2層 59-376
19 不明鉄製品	長 (4.0) 重 6.68	外壁の中に1ヶ所突起がある。	1層 59-964
20 不明鉄製品	長 3.9 重 5.93 幅 1.0	扁平な棒状の鉄。	1層 59-834

## 第4次調査区

1 不明鉄製品	長 (8.0) 重 27.88	短軸断面方形で、各面平坦な棒状製品。層状剥離あり。	1層 77-241, 242
2 鉄製釘	長 (7.4) 重 28.34	頭を楕円形にして、一方へ長くのびたもの。足の断面は方形で、下端欠損する。	1層 76-263
3 鉄製釘	長 (5.9) 重 28.46	頭を太くした釘とみられる。足の断面は方形で、下方は欠く。	1層 76-263

## 第5次調査区

1 鉄製釘か	長 (4.0) 重 4.67	頭は平坦で肥厚したもの。短軸断面楕円方形で下方は欠く。	調査区表層
--------	----------------	-----------------------------	-------

## 第7次調査区

1 鉄製棒か	長 (7.4) 重 14.94	短軸断面方形で、厚く、わずかに反りがある。厚さ・幅から小刀などの筈であろうか。長軸両端は1層する。	60-809 1層
--------	-----------------	---	-----------

## 第8次調査区

1 棒状鉄製品	長 6.5×3.6 重 32.05	一面は平坦であるが、片面は凹凸があり、割れ走る。	1層 92-967
2 不明鉄製品	長 (4.8) 重 10.88	箇中下方が別になっている。棟部は弓状に窪んでいる。手鏝に似ている。	1層 92-967

## 第11次調査区

1 鉄製鋤先	長 (10.9×10.7) 重 220.20	断面Y字状で層状剥離により2～3層の鉄板の敷造とわかる。隅部を一抜いている。	調査区北西土山 60-311
2 鉄製釘か	長 (6.8) 重 18.97	断面方形で、箇中下の方細くなっている。	調査区北西土山表層
3 鉄製刀子	長 (4.5) 重 4.96	刃部側の破片。棟・刃ともまっすぐにのびる。	調査区北東部1層
4 鉄製刀子	長 (4.4) 重 8.45	刃付側の破片。刃部側の欠がある。	60-410 最上層

## 第14次調査区

1 鉄製釘	長 (3.8) 重 11.50	L字形に曲がり、箇中左側の部分は薄くなっていることから打らばむ部分であろう。	92区 563,593 上面
-------	-----------------	--	----------------



## 鋼製品等

## 第1次調査区

1	管状鋼製品	長 (7.1) 重 4.74	鋼の管がゆるやかに曲がっている。断面は長楕円形に潰れている。	
---	-------	----------------	--------------------------------	--

## 第2次調査区

## SD-369

1	板状金鋼製品	長 (5.7) 幅 1.9 重 7.02	帯状の鋼板の表面に金をメッキする。国中上端は折り曲がっている。	上面
---	--------	-------------------------	---------------------------------	----

## SK-281

1	鋼板	外径 2.2 重 2.37	洪武通造	上面
---	----	---------------	------	----

## 出土地点不明

1	鉄製釘か	長 (6.8) 重 3.82	長軸両端欠損する。国中下方が細く曲がっている。	
---	------	----------------	-------------------------	--

## 僧房址第Ⅱトレンチ

1	含鉄塊形銅治淨	長 (6.4 × 4.6) 重 10.30	中層に入ってきた形が入り、その位置に鉄を含む塊形銅治淨。上面は全体に平皿で銅線に割れがあり、下面は丸味をもち、放射割れと黒錆あり。	第Ⅱ Tref(瓦出土面)
2	不明鉄製品	長 5.3 厚 0.8 幅 1.7 重 8.25	細長い環状にした鉄製品。断面圓錐状になる。	第Ⅱ Tref(瓦出土面)

第17表 男瓦・女瓦分類集計表

瓦名	型呼文番号	発行数	発見量	調査数
男瓦	型式・卓地			
<b>第1次調査区</b>				
<b>SD-128</b>				
男瓦			寺原瓦版	
親子母片	不明	1	910	
	不明	1	316	
<b>SD-171</b>				
男瓦			寺原瓦版	
親子母片	381	1	609	
<b>SA-150B</b>				
男瓦				
親子母片	左い・破片	4	307	
男瓦				
残瓦破片 (1・3巻)		1	23	
<b>S1-6</b>				
男瓦				
親子母片	不明	1	31	
<b>S1-14</b>				
男瓦				
親子母片	相續目2 (1・3巻)	2	262	1
	不明	1	14	
	左い・破片	9	320	1
男瓦				
残瓦破片 (1・3巻)		3	173	
<b>S1-121</b>				
男瓦				
親子母片	相續目1	1	126	
	長續	4	432	
親子母片				
	290	1	111	
	平片	1	113	
	不明	1	302	
	左い・破片	4	227	
男瓦				
無形式 (水澁目)				
(伊豫型) (1・3巻)		2	176	2
残瓦破片 (1・3巻)		1	963	3
<b>S1-122</b>				
男瓦				
親子母片	相續目2 (1・3巻)	1	130	
	相續目1 & L・C (1・3巻)	3	243	
親子母片				
	329 C	2	60	
	334	1	96	
	不明	2	113	
	左い・破片	12	383	
男瓦				
残瓦破片 (1・3巻)		1	386	
<b>S1-125</b>				
男瓦				
親子母片	相續目2 (1・3巻)	1	30	
	相續目1 & L・C (1・3巻)	1	49	
親子母片				
	310	1	284	
	302	1	44	
	316	1	234	
	不明	2	47	
	左い・破片	20	305	
男瓦				
芯陶器 (1・3巻)		3	370	2
残瓦破片 (1・3巻)		3	235	
<b>S1-142</b>				
男瓦				
親子母片	320	1	261	
	不明	1	23	
	左い・破片	3	39	
男瓦				
芯陶器 (1・3巻)		1	168	1
<b>S1-168</b>				
男瓦				
無	左い・破片	2	139	
<b>S1-184</b>				
男瓦				
親子母片		432	2	1392
	左い・破片	8	663	
男瓦				
芯陶器 (1・3巻)		2	619	2
残瓦破片 (1・3巻)		1	31	

<b>SD-112</b>				
女瓦				
親子母片	相續目1	1	90	
	相續目2 (1・3巻)	6	404	1
	相續目1 & L・C (1・3巻)	6	131	
	長續	6	264	
親子母片				
	309	1	33	
	173	1	454	
	203	2	411	
	231	1	393	
	266	2	942	
	273	2	307	
	295	2	238	
	321	1	326	1
	329 C	1	73	
	329 D	1	68	
	329 C or D	3	196	1
	334	2	236	1
	344	1	337	
	356	2	242	1
	364	1	796	
	496	4	1134	1
	500	1	53	
	509	1	196	
	603	1	3483	3
	不明	67	5329	2
	左い・破片	49	1382	3
男瓦				
無形式 (水澁目)				
(伊豫型) (1・3巻)		1	87	1
芯陶器 (1・3巻)		9	1375	5
残瓦破片 (1・3巻)		106	1317	5
<b>SD-113</b>				
女瓦				
親子母片	相續目2 (1・3巻)	3	2703	2
親子母片				
	不明	4	256	
	左い・破片	12	368	
男瓦				
残瓦破片 (1・3巻)		9	1241	1
<b>SD-140B</b>				
女瓦				
親子母片	長續	1	169	
親子母片				
	276	1	275	
	不明	7	8943	1
	左い・破片	3	236	
男瓦				
残瓦破片 (1・3巻)		7	728	1
<b>SD-151</b>				
寺原瓦版				
親子母片				
	326	1	30	
	不明	1	307	
	左い・破片	4	20	
<b>SD-152</b>				
女瓦				
親子母片				
	3 A	1	20	
	291	1	109	
	464	2	442	
	不明	13	849	
	左い・破片	33	1434	1
男瓦				
芯陶器 (1・3巻)		1	148	
残瓦破片 (1・3巻)		13	363	
<b>SD-153</b>				
女瓦				
親子母片	相續目1	1	30	1
	相續目1 & L・C (1・3巻)	9	160	
	長續	4	223	
	西10A	1	269	
親子母片				
	1 A	1	968	1
	13	1	72	
	77	1	3042	1
	88	1	441	1
	231	1	228	
	246 A	1	68	
	247	1	114	
	250 A or B	1	62	
	329 C	1	1056	1

女瓦						
			963	1	1545	1
			不明	36	929	
			左い・破片	3	114	
男瓦						
芯陶器 (1・3巻)				4	248	1
残瓦破片 (1・3巻)				20	2236	4
<b>SD-154</b>						
女瓦						
親子母片	相續目1	2	530			
	相續目2 (1・3巻)	3	726			
	相續目1 & L・C (1・3巻)	8	1239			
	長續	13	2324	1		
親子母片						
	11	1	182			
	20	1	165			
	26	1	114			
	697	1	296			
	203	2	271			
	373 A	1	366			
	398 B	1	91			
	377	2	333			
	232	1	231			
	308 B	1	233			
	329 C	1	129			
	334	2	638			
	342	1	604			
	344	1	231			
	356	1	143			
	381	1	282			
	437	1	389			
	不明	84	11206	5		
	左い・破片	36	3243	3		
男瓦						
無形式 (水澁目)						
(伊豫型) (1・3巻)			1	64		
芯陶器 (1・3巻)			10	1993	4	
残瓦破片 (1・3巻)			23	2415	11	
<b>SD-163</b>						
女瓦						
親子母片	相續目1	1	245			
	長續	2	138			
親子母片						
	296	1	136			
	293	1	269			
	432	1	1354			
	不明	1	44			
	左い・破片	30	190			
男瓦						
残瓦破片 (1・3巻)			2	247	1	
<b>SD-162</b>						
女瓦						
親子母片	相續目1 & L・C (1・3巻)	1	34			
親子母片						
	不明	1	27			
	左い・破片	4	131			
男瓦						
残瓦破片 (1・3巻)			3	236	1	
<b>SD-164</b>						
女瓦						
親子母片	相續目1 & L・C (1・3巻)	1	97			
	長續	1	90			
親子母片						
	35	1	162			
	376	1	91			
	376	12	2294			
	左い・破片	11	369			
男瓦						
無形式 (水澁目)						
(伊豫型) (1・3巻)			1	239		
残瓦破片 (1・3巻)			8	1222	6	
<b>SD-165</b>						
女瓦						
親子母片	相續目1 & L・C (1・3巻)	1	138			
親子母片						
	8	1	988			
	226	1	111			
	318	1	518			
	341	1	159			
	353	1	362	1		
	不明	10	1294			
	左い・破片	68	380			

左瓦	型押文字号	原形数	検査数	調査
右瓦	型押文字号			

**第1次調査区**

**SD-195**

左瓦

中央瓦版

右瓦版	(二重)	3	330	2
左瓦版	(二重)	9	909	4

**SD-196**

左瓦

調印表	右瓦版 1	4	477	
	右瓦版 2 (二重)	4	801	
右瓦版	右瓦版	1	323	
	不明	5	334	
	左1-破片	17	603	

右瓦

無形式 (本蓋印)				
(換地型) (二重)		2	246	2
右瓦版 (二重)		1	254	1
左瓦版 (二重)		3	244	

**SD-198**

左瓦

右瓦版	不明	1	177	
	不明	1	79	
	不明	5	301	
	左1-破片	5	893	

右瓦

右瓦版 (二重)		3	258	1
----------	--	---	-----	---

**SD-200**

左瓦

調印表	右瓦版 2 (二重)	1	165	
	右瓦版 1 右1-破片 2	1	334	
右瓦版	右瓦版	212	1	127
	不明	1	259	
	不明	2	508	
左1-破片		2	185	

右瓦

右瓦版 (二重)		3	269	2
----------	--	---	-----	---

**SD-204**

左瓦

右瓦版	不明	1	763	
	不明	2	229	
	左1-破片	1	824	

右瓦

右瓦版 (二重)		3	198	
----------	--	---	-----	--

**SD-206**

左瓦

中央瓦版

右瓦版		不明	2	393
左1-破片		6	408	

右瓦

右瓦版 (二重)		1	139	1
----------	--	---	-----	---

**SK-116**

左瓦

調印表	右瓦版 1 右1-破片 2	1	26	
	右瓦版	3	384	
右瓦版	不明	1	401	1
	不明	1	278	
	不明	3	293	
左1-破片		4	26	

右瓦

右瓦版 (二重)		2	83	
----------	--	---	----	--

**SK-141**

左瓦

中央瓦版

右瓦版		不明	1	70
左1-破片		1	39	

右瓦

右瓦版 (二重)		3	80	
----------	--	---	----	--

**SK-199**

左瓦

右瓦版	不明	1	239	
	不明	2	1428	1
	不明	1	391	
	不明	1	315	
	不明	1	508	
	不明	1	8092	1
	不明	3	284	
	不明	5	291	
	不明	10	244	1
	不明	10	244	1

右瓦

右瓦版 (二重)		2	486	
右瓦版 (二重)		2	142	2

**SK-198**

左瓦

調印表	右瓦版 1 右1-破片 2	1	60	
	不明	32	2	1662
	不明	1	283	
	不明	1	827	1
	不明	1	333	
	不明	1	472	
	不明	1	58	
	不明	12	792	2

右瓦

右瓦版 (二重)		2	611	1
----------	--	---	-----	---

**SK-187**

左瓦

中央瓦版

右瓦版		2	217	1
不明		2	182	

**SK-189**

左瓦

調印表	右瓦版	1	111	
右瓦版	不明	3	331	
	不明	1	151	
	不明	8	139	

右瓦

右瓦版 (二重)		6	383	2
----------	--	---	-----	---

**SK-170**

左瓦

調印表	右瓦版		2	803
	不明		2	248
右瓦版		不明	1	58

右瓦

右瓦版 (二重)		3	361	2
----------	--	---	-----	---

**SK-182**

左瓦

調印表	右瓦版 2 (二重)	1	341	
	右瓦版 1 右1-破片 2		2	92
	右瓦版		8	341
右瓦版	不明	1	654	
	不明	1	130	
	不明	1	71	
不明		25	1659	1
不明		66	2385	

右瓦

右瓦版 (二重)		3	338	2
右瓦版 (二重)		4	432	

**第2次調査区**

**SB-135**

左瓦

右瓦版		不明	1	71
-----	--	----	---	----

右瓦

右瓦版 (二重)		2	802	2
----------	--	---	-----	---

**SA-300**

左瓦

右瓦版		不明	2	242
不明		1	138	

**BI-221**

左瓦

右瓦版		不明	1	167
不明		2	332	

**BI-227**

左瓦

右瓦版		不明	1	279
-----	--	----	---	-----

**BI-219**

左瓦

右瓦版	不明	3	209	
	不明	1	428	
	不明	4	138	
不明		9	183	6

右瓦

右瓦版 (二重)		1	110	
右瓦版 (二重)		9	1863	6

**BI-241**

左瓦

調印表	右瓦版 1 右1-破片 2	2	95	
	不明		1	229
	不明		1	824
	不明		1	168
	不明		4	520
不明		7	282	

右瓦

有形式 (換地型)	右2 (二重)		1	941
	不明			
無形式 (本蓋印)	(換地型) (二重)		1	237
	不明		2	555
右瓦版 (二重)		4	286	2

**BI-251**

左瓦

右瓦版		不明	1	289
不明		3	45	
不明		5	125	

右瓦

右瓦版 (二重)		2	520	2
----------	--	---	-----	---

**BF-253**

左瓦

調印表	右瓦版 1	1	106	
右瓦版	右瓦版 1 右1-破片 2	2	89	

右瓦

有形式 (換地型)	右1 (二重)		1	862
	不明			

**BI-255**

左瓦

右瓦版		不明	1	371
不明		1	42	

右瓦

右瓦版 (二重)		1	101	
----------	--	---	-----	--

**BI-257**

左瓦

右瓦版		不明	1	101
-----	--	----	---	-----

右瓦

右瓦版 (二重)		1	99	1
----------	--	---	----	---

**BI-307**

左瓦

調印表	右瓦版 2 (二重)	1	176	
	右瓦版 1 右1-破片 2		1	587
	右瓦版		2	1385
	不明		1	259
右瓦版	不明	1	86	
	不明	1	191	1
	不明	1	875	
	不明	1	639	
	不明	1	29	
	不明	1	273	
	不明	2	1943	
	不明	1	49	
	不明	24	2381	1
	不明	82	2136	

右瓦

右瓦版 (本蓋印)				
(換地型) (二重)		1	127	1
右瓦版 (二重)		3	768	1
右瓦版 (二重)		10	862	1

**BI-315**

左瓦

調印表	右瓦版 1 右1-破片 2	1	21	
	不明		2	80
右瓦版	不明		1	23
	不明		1	190
	不明		1	66
	不明		1	252
不明		1	44	
不明		10	888	
不明		38	436	

**BF-225**

左瓦

調印表	右瓦版 1 右1-破片 2	1	23	
右瓦版	不明		1	80



女瓦	型押文番号	原形数	取巻数	積数
女瓦	型C-東階			
<b>第2次調査区</b>				
<b>G D - 370</b>				
男瓦			赤瓦正敷	
積留破片 (二重)		1	404	1
<b>G K - 245</b>				
女瓦			赤瓦正敷	
積留片	型織目 1 且、C18 2	1	211	
積留片		2	1	
<b>G K - 291</b>				
女瓦				
積留片		221	1	192
積留片		不明	1	36
積留片		2x1-破片	1	23
男瓦				
広尾部 (二重)		1	73	
<b>G K - 299</b>				
女瓦				
積留片		不明	1	43
男瓦				
積留破片 (二重)		1	113	
<b>G K - 322</b>				
女瓦				
積留片		不明	1	33
男瓦				
積留破片 (二重)		1	47	1
<b>G K - 339</b>				
女瓦				
積留片		261	1	213
積留片		221	1	224
積留片		9	1	134
積留片		2x1-破片	4	138
男瓦				
積留破片 (二重)		1	863	
<b>G K - 340</b>				
男瓦			赤瓦正敷	
積留破片 (二重)		1	129	
<b>G K - 341</b>				
女瓦				
積留片		不明	2	73
積留片		2x1-破片	9	103
男瓦				
広尾部 (二重)		1	63	
積留破片 (二重)		4	176	
<b>G K - 342</b>				
男瓦			赤瓦正敷	
広尾部 (二重)		1	111	
<b>G K - 344</b>				
女瓦			赤瓦正敷	
積留片		221 B	1	294
<b>G K - 347</b>				
女瓦			赤瓦正敷	
積留片		不明	2	329
<b>G K - 349</b>				
男瓦			赤瓦正敷	
広尾部 (二重)		1	38	
<b>G K - 352</b>				
女瓦			赤瓦正敷	
積留片		不明	2	106
積留片		2x1-破片	1	4
<b>G K - 354</b>				
女瓦				
積留片		2x1-破片	2	34
男瓦				
積留破片 (二重)		1	109	1
<b>G K - 357</b>				
女瓦			赤瓦正敷	
積留片		100	1	200
<b>G K - 367</b>				
女瓦				
積留片	型織目 1 且、C18 2	1	211	
積留片		2	372	
積留片		20	1	234
積留片		33	1	129
積留片		91	1	339
積留片		100	1	339

女瓦				
積留片		206	1	1276
積留片		402	1	2338
積留片		不明	11	1337
積留片		2x1-破片	10	271
男瓦				
広尾部 (二重)		1	128	1
積留破片 (二重)		4	936	3
<b>G K - 371</b>				
女瓦				
積留片	型織目 1 且、C18 2	2	291	
積留片		1	228	
積留片		39	1	362
積留片		229 C	2	739
積留片		443	1	990
積留片		不明	4	397
積留片		2x1-破片	16	736
男瓦				
積留破片 (二重)		4	433	
<b>G K - 372</b>				
男瓦			赤瓦正敷	
積留破片 (二重)		1	116	
<b>G K - 373</b>				
女瓦			赤瓦正敷	
積留片		不明	1	33
<b>G E - 299</b>				
女瓦				
積留片	型織目 2 (二重)	1	89	
積留片	型織目 1 且、C18 2	3	72	
積留片		4	330	
積留片		221 B	1	69
積留片		266	1	238
積留片		236	1	834
積留片		227	1	399
積留片		228	1	55
積留片		不明	11	1229
積留片		2x1-破片	22	804
男瓦				
積留破片 (二重)		9	990	2
<b>G X - 246</b>				
女瓦				
積留片	長織	1	179	
積留片		263	1	339
積留片		262	1	202
積留片		261	1	739
積留片		222	2	853
積留片		不明	4	433
積留片		2x1-破片	7	213
男瓦				
広尾部 (二重)		2	809	1
積留破片 (二重)		11	2462	3
<b>G X - 279</b>				
女瓦				
積留片	型織目 1 且、C18 2	2	29	
積留片	長織	1	190	
積留片		221 A	1	176
積留片		2x1-破片	4	115
男瓦				
積留破片 (二重)		2	872	
<b>G X - 299</b>				
女瓦				
積留片	長織	1	277	
積留片		206	1	94
積留片		不明	1	102
積留片		2x1-破片	2	133
男瓦				
積留部 (二重)		1	128	1
積留部 (狭尾部)				
<b>G X - 320</b>				
女瓦				
積留片		2x1-破片	3	101
男瓦				
積留破片 (二重)		2	89	1
<b>G X - 321</b>				
女瓦				
積留片	型織目 1	1	100	
積留片	型織目 1 且、C18 2	1	119	
積留片		1	177	

女瓦				
積留片		1 C	1	26
積留片		273	1	898
積留片		不明	3	277
積留片		2x1-破片	2	129
男瓦				
積留部 (二重)		1	37	1
積留部 (狭尾部)				
積留破片 (二重)		6	294	1
積留破片 (二重)		6	294	1
<b>G X - 377</b>				
女瓦				
積留片		23	1	298
積留片		217	2	329
積留片		296	1	373
積留片		不明	2	296
積留片		2x1-破片	4	863
男瓦				
積留破片 (二重)		1	89	
<b>第4次調査区</b>				
<b>G 1 - 406</b>				
女瓦				
積留片		不明	2	286
積留片		2x1-破片	7	71
男瓦				
積留破片 (二重)		1	45	
<b>G 1 - 426</b>				
女瓦				
積留片	長織	1	99	1
積留片		221	1	146
積留片		不明	6	527
積留片		2x1-破片	23	699
男瓦				
積留破片 (二重)		9	893	3
<b>G 1 - 427</b>				
女瓦				
積留片	型織目 2 (二重)	1	23	
積留片	長織	9	1235	
積留片		不明	2	39
積留片		2x1-破片	22	411
男瓦				
広尾部 (二重)		4	254	
積留破片 (二重)		9	636	2
<b>G 1 - 428</b>				
女瓦				
積留片		200	1	989
積留片		不明	7	692
積留片		2x1-破片	39	298
男瓦				
積留破片 (二重)		3	898	1
<b>G 1 - 429</b>				
女瓦				
積留片	長織	2	1201	
積留片		306	1	119
積留片		不明	6	429
積留片		2x1-破片	19	322
男瓦				
積留破片 (二重)		1	76	
<b>G 1 - 442</b>				
女瓦				
積留片	長織	1	95	
男瓦				
広尾部 (二重)		1	41	
<b>G 1 - 449</b>				
女瓦				
積留片		不明	1	6
積留片		2x1-破片	1	107
男瓦				
積留破片 (二重)		1	141	1



女瓦	型伊立多号		重量	枚数	重量
男瓦	型式・重量				

**第9次調査区****SD-651**

男瓦			念瓦瓦敷
庇風板 (二枚)	1	841	
防雨板片 (二枚)	9	552	2

**SD-653**

女瓦

隅付巾	短溝目 1	1	116	
旗子巾	76 A	1	173	
	224	1	103	
	362	1	175	
	229 A	5	1330	1
	511	2	235	
	333	1	778	
	524	1	878	
	346	1	269	
	500	1	306	
	不明	48	3613	
	念瓦・緩行	89	2642	

男瓦

無段式 (二枚)	2	113	1
(伊麻呂)			
庇風板 (二枚)	2	305	2
防雨板片 (二枚)	21	1643	7

**SD-653A**

男瓦

防雨板片 (二枚)	2	72	
-----------	---	----	--

**SD-655**

女瓦

隅付巾	短溝目 2 (二枚)	3	267
	短溝目 1 6 L・C (2枚) 2	9	667
	長溝	2	217
旗子巾	472	1	220
	不明	10	546
	念瓦・緩行	12	803

男瓦

防雨板片 (二枚)	18	1414	1
-----------	----	------	---

**SD-655**

女瓦

旗子巾	不明	1	43
	念瓦・緩行	1	16

**SD-656**

女瓦

隅付巾	長溝	1	161
旗子巾	393	1	367
	247	1	84
	不明	11	1148
	念瓦・緩行	10	382

男瓦

庇風板 (二枚)	1	859	
防雨板片 (二枚)	9	1490	3

**SD-658**

女瓦

隅付巾	短溝目 1 6 L・C (2枚) 2	1	16
旗子巾	念瓦・緩行	1	16
男瓦			
防雨板片 (二枚)	1	516	2

**SD-658A**

女瓦

旗子巾	390	1	41
	333	1	43
	念瓦・緩行	2	31

男瓦

防雨板片 (二枚)	2	359	
-----------	---	-----	--

**SD-658B**

女瓦

隅付巾	短溝目 2 (二枚)	2	131
	短溝目 1 6 L・C (2枚) 2	2	383
旗子巾	217	1	236
	280	1	175
	289 C	1	109
	234 B	1	59
	340	1	129
	340	1	47

女瓦

	263	1	412
	422	1	49
	不明	10	571
	念瓦・緩行	10	1237

男瓦

庇風板 (二枚)	1	151	
防雨板片 (二枚)	17	1347	3

**第10次調査区****SB-650**

女瓦

隅付巾	短溝目 1 6 L・C (2枚) 2	1	113
旗子巾	284	1	199
	念瓦・緩行	14	224

男瓦

庇風板 (二枚)	1	217	1
防雨板片 (本透目)	4	460	1

**SA-700**

男瓦

防雨板片 (本透目)	1	49	
------------	---	----	--

**SA-700**

女瓦

隅付巾	長溝	1	93
旗子巾	不明	6	790
	念瓦・緩行	2	248

男瓦

防雨板片 (本透目)	2	862	2
------------	---	-----	---

**SB-454**

女瓦

隅付巾	短溝目 1	1	16	
	短溝目 1 6 L・C (2枚) 2	2	119	
	長溝	2	1668	1
旗子巾	23	1	171	
	404	1	1767	1
	368	1	40	
	464	1	237	
	不明	7	972	
	念瓦・緩行	8	607	

男瓦

無段式 (二枚)	1	463	2
(伊麻呂)			
庇風板 (二枚)	1	301	2
防雨板片 (二枚)	9	864	

**SD-651**

女瓦

旗子巾	念瓦・緩行	2	102
-----	-------	---	-----

**SD-652**

女瓦

隅付巾	短溝目 1 6 L・C (2枚) 2	1	68	
旗子巾	233	1	67	
	不明	1	14	
	念瓦・緩行	2	83	1

男瓦

防雨板片 (本透目)	9	290	
(二枚)	6	196	

**SD-652A**

女瓦

旗子巾	念瓦・緩行	2	46
-----	-------	---	----

男瓦

庇風板 (二枚)	1	283	
----------	---	-----	--

**SD-652B**

女瓦

隅付巾	短溝目 2 (二枚)	1	160
	短溝目 1 6 L・C (2枚) 2	1	37
旗子巾	227	1	229
	323	1	268
	249	1	217
	不明	6	764
	念瓦・緩行	26	936

男瓦

無段式 (本透目)	1	217	1
(伊麻呂)			
庇風板 (二枚)	1	116	
防雨板片 (本透目)	2	517	

男瓦

防雨板片 (本透目)	13	4710	4
(二枚)	9	1263	4

**SD-658B**

女瓦

旗子巾	340	1	29
-----	-----	---	----

**SD-650**

女瓦

隅付巾	短溝目 2 (二枚)	1	81	
	長溝	1	138	
旗子巾	不明	6	540	
	念瓦・緩行	27	1048	1

男瓦

無段式 (本透目)	1	137	1
(伊麻呂)			
防雨板片 (本透目)	1	77	1
(二枚)	3	324	

**SD-628B**

女瓦

隅付巾	短溝目 2 (二枚)	1	42	
	短溝目 1 6 L・C (2枚) 2	2	264	
	長溝	3	666	
旗子巾	290	1	117	
	229 A	1	181	
	500	1	275	
	511	1	482	
	不明	6	1543	1
	念瓦・緩行	11	511	1

男瓦

無段式 (二枚)	1	118	1
(伊麻呂)			
庇風板 (本透目)	1	146	
(二枚)	2	261	

防雨板片 (本透目)	15	209	1
(二枚)	10	706	2

**SD-678**

女瓦

旗子巾	不明	3	270
	念瓦・緩行	2	209

男瓦

防雨板片 (二枚)	2	899	2
-----------	---	-----	---

**SD-672**

女瓦

隅付巾	短溝目 1 6 L・C (2枚) 2	1	111
旗子巾	念瓦・緩行	1	58

男瓦

旗子巾	314	1	183
	不明	2	235

**第11次調査区****SB-700**

女瓦

旗子巾		1	183
		1	235

**SA-300**

女瓦

旗子巾	76 A	1	1197	1
	不明	1	41	
	念瓦・緩行	1	41	

男瓦

防雨板片 (二枚)	1	247	
-----------	---	-----	--

**SB-680**

女瓦

隅付巾	長溝	2	161
旗子巾	203 B up C	1	464
	230	1	251
	230 B	1	239
	256	1	437
	不明	10	628
	念瓦・緩行	13	249

男瓦

無段式 (二枚)	1	98	
庇風板 (二枚)	2	209	
防雨板片 (本透目)	1	43	
(二枚)	9	836	3

第4章 発見された遺物

発見	発掘文書番号	遺物数	発見場所	調査
発見	型式・用途			

第11次調査報告

SI-685

遺物名				
	211	1	1018	1
	ない・破片	1	4	1

発見地	(水原山)	1	210	1
調査地	(三曹)	1	210	2

SI-690

遺物名	短縄目1丸、C12B2	1	59	
	長縄	4	549	
遺物名				
	95	1	63	
	211 B	1	650	
	211	1	151	
	不明	9	444	
	ない・破片	18	287	

発見地	(三曹)	0	101	2
-----	------	---	-----	---

SI-691

遺物名	長縄	1	30	
遺物名				
	95	1	609	
	230	1	693	
	602	1	298	
	不明	5	301	
	ない・破片	18	497	1

SI-696

遺物名	長縄	2	3038	1
遺物名				
	22 A	1	78	
	217	1	43	
	214	1	892	1
	213	1	971	
	不明	3	194	
	ない・破片	4	189	

発見地	(水原山)	2	236	2
調査地	(三曹)	1	111	1

SI-696

遺物名				
	229	1	217	
	不明	2	117	
	ない・破片	13	91	

発見地	(三曹)	2	478	1
調査地	(水原山)	1	30	
調査地	(三曹)	3	319	1

SI-714

遺物名				
	203	1	40	
	不明	2	28	
	ない・破片	11	223	

発見地	(三曹)	1	603	2
調査地	(三曹)	1	72	
調査地	(三曹)	3	738	2

SI-715

遺物名				
	不明	1	41	
発見地	(三曹)	1	258	

SI-731

遺物名				
	221 A or B	1	227	
	232	1	248	1
	ない・破片	4	163	

SI-781

遺物名				
	228	1	276	
	ない・破片	4	68	

発見地	(三曹)	2	282	1
-----	------	---	-----	---

SI-792

遺物名	短縄目1丸、C12B2	1	70	
遺物名				
	203	1	898	
	221 B	1	70	
	256	1	291	
	221 A	1	306	
	不明	3	363	
	ない・破片	4	230	

発見地	(水原山)	1	59	
調査地	(三曹)	2	194	1

SI-765

遺物名				
	221 A	1	480	
	256	1	159	
	240	1	36	
	276	1	203	
	不明	3	350	
	ない・破片	2	66	

発見地	(三曹)	4	533	
-----	------	---	-----	--

SI-730

遺物名	短縄目2(三曹)	1	498	1
	短縄目1丸、C12B2	3	153	
	長縄	9	717	
遺物名				
	23	1	212	
	112	1	191	
	138	1	738	
	203	2	1281	1
	203	1	63	
	217	1	81	
	221 A	1	107	
	231 B	1	102	
	262	1	178	
	269	1	813	
	307	1	442	
	642	1	153	
	669	1	1046	
	不明	21	1465	
	ない・破片	66	2864	

発見地	(三曹)	4	1668	2
-----	------	---	------	---

発見地	(三曹)	2	130	2
-----	------	---	-----	---

発見地	(水原山)	1	61	
調査地	(三曹)	19	1307	1

SI-768

遺物名	長縄	1	126	
遺物名				
	22	1	131	
	203	1	230	
	217	1	129	
	不明	3	215	
	ない・破片	11	228	

発見地	(三曹)	1	77	
-----	------	---	----	--

SI-550

遺物名				
	221 B	1	321	
	不明	4	771	1
	ない・破片	2	133	

発見地	(三曹)	1	50	
調査地	(水原山)	1	14	
調査地	(三曹)	1	101	1

SI-681

遺物名				
	不明	4	263	
	ない・破片	24	219	

発見地	(三曹)	1	36	1
-----	------	---	----	---

SI-682

遺物名	短縄目2(三曹)	2	283	
	長縄	3	963	
遺物名				
	208	1	109	1
	221 A	1	39	
	260	1	274	
	345	1	29	
	不明	9	107	
	ない・破片	26	1621	3

発見地	(三曹)	1	102	
-----	------	---	-----	--

発見地	(三曹)	1	121	
-----	------	---	-----	--

発見地	(三曹)	4	1304	3
-----	------	---	------	---

SI-713

遺物名	短縄目1丸、C12B2	2	250	
	長縄	2	285	
遺物名				
	15	1	373	
	221 A	1	95	
	不明	2	130	
	ない・破片	14	1149	

発見地	(水原山)	1	72	
調査地	(三曹)	8	428	

SI-777

遺物名				
	ない・破片	1	3	

SI-762

遺物名				
	不明	3	329	
	ない・破片	1	803	

発見地	(三曹)	2	127	1
-----	------	---	-----	---

SI-790

遺物名	短縄目1丸、C12B2	1	105	
遺物名				
	203	1	70	
	不明	3	167	
	ない・破片	7	364	

発見地	(水原山)	1	36	
調査地	(三曹)	1	189	

SI-796

遺物名	短縄目1丸、C12B2	1	186	
遺物名				
	229 A	1	149	
	289	1	150	
	不明	3	209	
	ない・破片	3	168	

発見地	(三曹)	1	228	
-----	------	---	-----	--

SI-797

遺物名				
	不明	1	228	
	ない・破片	2	19	

発見地	(三曹)	1	207	
-----	------	---	-----	--

SI-800

遺物名	短縄目1丸、C12B2	1	45	
遺物名				
	203	1	1024	
	不明	3	107	
	ない・破片	4	1137	



左瓦	型押支番号	積層数	積層高さ	積層数
表瓦	型押支番号			

**第 11 次調査表**

左瓦	SD-800	赤瓦五郎
鋪設式 (二葺)		1 209
(換層部)		
広瀬瓦 (二葺)		3 2630 4
節巻破片 (水葺山)		1 413 1
(三葺)		2 223 2

**SD-804**

左瓦		
鋪設式	相續瓦 1 上、C12瓦 2	2 69
	瓦葺	1 189
積層数		201 1 233
積層高さ		242 1 143
	不明	8 275
	左1-破片	18 235

表瓦		
鋪設式 (二葺)		1 261
(換層部)		
広瀬瓦 (二葺)		1 279 1
節巻破片 (三葺)		4 332

**SD-805**

左瓦		
鋪設式	瓦葺	6 408
積層数		281 A 1 273
積層高さ		235 B 1 324
		250 B 1 243
		284 1 188
	不明	11 389
	左1-破片	12 343

表瓦		
鋪設式 (二葺)		2 232 1
(換層部)		
節巻破片 (三葺)		0 280 1

**SD-810**

左瓦	赤瓦五郎
積層数	左1-破片 3 261 1

**SK-895**

左瓦		
鋪設式	瓦葺	1 303
積層数		10 1 3126
積層高さ		41 1 3427
		69 1 314
		95 1 2353 2
		113 1 1005 1
	201 B 1 499	
	302 1 2151	
	216 1 3030 1	
	不明	2 484
	左1-破片	2 413 1

表瓦		
節巻破片 (二葺)		1 441 1

**SK-897**

左瓦	赤瓦五郎
積層数	不明 1 36
	左1-破片 1 36

**SK-899**

左瓦	赤瓦五郎	
節巻破片 (二葺)		1 71

**SK-104**

左瓦	赤瓦五郎
積層数	左1-破片 1 498 1

**SK-127**

左瓦	赤瓦五郎
積層数	左1-破片 1 36

**SK-133**

左瓦	赤瓦五郎	
節巻破片 (二葺)		1 33

**SK-139**

左瓦	赤瓦五郎
積層数	左1-破片 1 98

**SK-165**

左瓦		
鋪設式	相續瓦 2 (二葺)	1 368
	相續瓦 1 上、C12瓦 2	1 182
	瓦葺	1 69

左瓦		
積層数		4 8 1 111
		86 1 242
		不明 1 510
	左1-破片	18 1062 2

表瓦	(二葺)		1 138 1
節巻破片 (三葺)		4 263	

**第 12 次調査表**

**SA-820**

左瓦		
積層数	229 A	1 808
積層高さ	(二葺)	4 207 1

**SD-810**

左瓦	赤瓦五郎	
積層数	相續瓦 1	2 136 1
積層高さ	不明	1 197
	左1-破片	3 400

**SD-810B**

左瓦		
鋪設式	瓦葺	3 210
積層数		214 1 161
積層高さ		不明 1 182
	左1-破片	4 483 4

表瓦	(二葺)		4 409 2
(換層部)		1 16	

**SD-811**

左瓦		
鋪設式	相續瓦 1	1 86
積層数	不明	2 140
積層高さ	左1-破片	4 240

表瓦	(二葺)		1 82
(水葺山)		1 26	

**SD-814**

左瓦	赤瓦五郎	
積層数	(二葺)	1 113

**SD-816**

左瓦		
積層数	229 A	1 20
積層高さ	不明	1 239
	左1-破片	2 123 1

表瓦	(二葺)		1 224
----	------	--	-------

**SD-821**

左瓦	赤瓦五郎	
鋪設式	相續瓦 2	1 237 1
積層数		
積層高さ		
	不明	1 11

表瓦	(二葺)		1 86
----	------	--	------

**SD-822**

左瓦		
鋪設式	相續瓦 1	2 294 1
積層数	不明	2 230
積層高さ	左1-破片	1 21

表瓦	(二葺)		1 17
----	------	--	------

**SD-826**

左瓦	赤瓦五郎	
積層数		141 1 238
積層高さ		223 A 1 72
		276 1 171 1
		229 B 1 62
		86 1 286
	不明	12 1046

**SD-827**

左瓦		
鋪設式	相續瓦 1	14 554 1
積層数	瓦葺	1 2717 1

左瓦

積層数		20 1 26
		119 1 25
		263 2 742
		284 1 543
	229 A, B	1 32

		272 1 141
		243 1 401
		245 1 276
		246 B 1 143
		247 1 362
		252 A 2 33

		259 1 864
		274 1 472
		306 A 2 820 1
		326 1 526
		329 C 1 26

表瓦	赤瓦五郎
積層数	226 1 141
積層高さ	324 1 37
	309 1 232
	372 1 447
	396 A 1 149

		531 1 31
		113,174 1 43
		不明 36 2848
		不明 1 530
		24 923 1
		18 498 1

表瓦		
有田 (二葺)		1 72
無田式結 (二葺)		1 24
土曜巻土 (二葺)		1 32

積層数	(二葺)	433 3025 9
(水葺山)		7 448 1
	不明	3 268 1

**SD-835**

左瓦		
積層数	不明	1 74

表瓦	(二葺)		1 35
----	------	--	------

**SD-836**

左瓦		
鋪設式	相續瓦 1	1 81
積層数	瓦葺	7 3873
積層高さ		62 1 47
		285 1 32
	306 B 1 118	
	333 2 69	
	337 1 54	
	不明	10 923
	左1-破片	4 83 1

表瓦	(二葺)		8 236
(水葺山)		2 71	

**SD-840**

左瓦	赤瓦五郎	
鋪設式	相續瓦 1	2 267
積層数	瓦葺	1 246
積層高さ	258 A	1 194
	不明	1 71

表瓦	赤瓦五郎
積層数	223 1 671 1
	左1-破片 1 668

表瓦	(二葺)		1 298 1
----	------	--	---------

**SK-839**

左瓦		
積層数	817 1 246	

表瓦	(二葺)		1 298 1
----	------	--	---------

第4章 発見された遺物

女瓦	型押文番号	縦寸	横寸	数量
男瓦	型押文番号			

第12次調査区

南門遺址 礎石

女瓦				
礎石	形識B1	1	250	
	長横	4	1104	2
碇子印	141	1	302	
	203	2	684	
	225 A	1	262	1
	225 B	1	237	
	240	1	354	
	549	1	327	

男瓦	(三義)	1	250	1
	(水沼山)	1	391	

新瓦 680

女瓦				
礎石	形識B1	1	156	
碇子印	2x1-横片	1	67	
	不明	1	162	
男瓦	(三義)	2	279	1

新瓦 687

女瓦				
礎石		1	66	
碇子印	不明	1	104	
	2x1-横片	1	120	1

新瓦南門礎石

女瓦				
礎石	形識B1	20	4028	2
	長横	29	3392	7
碇子印	3 A	1	77	
	B	1	304	
	15	1	9	
	49	1	77	
	54	2	238	
	63	1	300	
	76 A	2	132	
	202	6	211	
	230	1	363	
	231	1	41	
	221 A	1	307	1
	222 A	1	37	
	223 B	1	125	
	236 E	1	62	
	238	1	209	1
	260	1	234	
	262	1	116	
	270	1	240	
	276	1	158	
	288	1	263	1
	291	1	271	
	295	1	190	
	304 B	1	84	
	320	1	129	
	323	2	323	
	330	1	32	
	326	1	77	
	369	1	106	
	383	1	42	
	421	1	238	
	465	1	247	
	508	1	79	
	606	2	202	
	不明	38	1616	
	2x1-横片	61	2329	1
	不明	67	1888	
男瓦				
粘土管上	(三義)	4	280	
	(三義)	125	10372	96
	(水沼山)	4	280	6
	不明	1	91	

新瓦遺址

女瓦				
礎石	形識B1	1	417	1

107 遺 76

女瓦				
碇子印	不明	2	142	
	2x1-横片	4	151	
男瓦				
	(三義)	1	44	

107 遺 79

女瓦				
礎石	長横	2	139	
碇子印	54	1	204	
男瓦				
	(三義)	1	24	

107 遺 127

女瓦				
	(三義)	3	28	
	(水沼山)	4	22	1

107 遺 298

女瓦				
碇子印	不明	1	130	

107 遺 556

女瓦				
碇子印	不明	1	116	

107 遺南門礎石

女瓦				
礎石	形識B1	4	274	
	長横	9	732	
碇子印		2	196	
		121	76	
	不明	14	1090	
	2x1-横片	11	338	1
	不明	7	141	
男瓦				
	(三義)	1	20	
	(三義)	8	608	1
	(水沼山)	2	192	1

107 遺遺土

女瓦				
礎石	長横	2	150	1
碇子印		269	1	206
	2x1-横片	4	128	1
不明		1	12	
男瓦				
	(三義)	2	16	

調査区北端 礎石中

女瓦				
碇子印	形識B1	12	2296	2
	長横	31	4178	4
碇子印	3 A	1	159	
		15	1	41
		42	1	63
		211	1	95
		224 A	1	200
		224 C	2	173
		225 B	2	139
		226	1	206
		227 B	1	163
		227 C	1	154
	227	2	699	
		246	1	79
		258	1	96
		266	1	257
		262	1	911
		263	1	223
		268	1	166
		294	1	52
		300 A	2	136
		329 A	1	48
		329 D	1	300
		330 A、B	1	26
		331	1	262
		332	3	377
		334	1	229
		336	1	71
		340	2	238
		342	1	192
		356	2	169

女瓦

		207	1	260
		281 A	1	149
		309	1	260
		477	1	126
		514	1	162
		521	1	223
		558	1	248
		563	1	57
		606	1	175
		不明	33	2030
		2x1-横片	34	2300
不明			27	627
男瓦				
粘土管上	(三義)	1	192	
不明	(水沼山)	1	26	
	(水沼山)	4	162	
	不明	1	162	

男瓦

女瓦				
碇子印	長横	3	107	
		1	82	
		206	1	109
		不明	4	147
		2x1-横片	4	120
男瓦				
	(三義)	2	82	
	(水沼山)	1	34	
	不明	2	226	1

第13次調査区

S2-103

女瓦				
	(三義)	1	15	1

S2-610

女瓦				
碇子印	2x1-横片	1	22	
男瓦				
	(三義)	1	164	

S2-822

女瓦				
碇子印	2x1-横片	1	228	1

S2-840

女瓦				
碇子印	不明	1	97	

地土地帯

女瓦				
碇子印	246 B	1	156	1
	342	1	104	1
	不明	1	36	
	2x1-横片	2	116	1

第14次調査区

S1-843

女瓦				
碇子印	長横	2	93	
		246	1	22
		不明	2	212
		2x1-横片	2	122
不明			6	49
男瓦				
	(三義)	4	140	

S1-844

女瓦				
碇子印	形識B1	1	56	
	長横	7	212	1
	32 C	1	54	
	372	1	154	
	不明	1	31	
	2x1-横片	2	238	1
不明			1	11
男瓦				
	(三義)	3	112	1
	(水沼山)	1	36	

区分	型押立番号	積付数	総積数	積出数
集計	型式・集積			
<b>第 14 次調査区</b>				
区分	G1-845		全等五層	
積付時	不明	1	60	
	左い・積片	1	35	
集計	(三層)	2	273	
区分	G1-846		全等五層	
積付時	初積立 1	1	209	
	長積	1	60	
積付時	不明	1	28	
集計	(三層)	3	319	
区分	G1-847		全等五層	
積付時	204	1	200	
	224	1	76	
	左い・積片	1	139	
集計	(三層)	3	415	
区分	G1-848		全等五層	
積付時	初積立 1	1	261	1
不明		1	7	
集計	(三層)	2	268	
区分	G1-849		全等五層	
積付時	229 C	1	176	
集計	(三層)	1	176	
区分	G1-852		全等五層	
積付時	長積	3	219	
積付時	60	1	119	
	左い・積片	1	21	
集計	(三層)	5	359	
区分	G1-853		全等五層	
積付時	不明	1	76	
	左い・積片	2	64	
不明		1	28	1
集計	(三層)	4	168	
区分	G1-855		全等五層	
積付時	不明	1	67	
集計	(三層)	2	61	
区分	G-K-854		全等五層	
積付時	27	1	243	
	不明	1	23	
	左い・積片	1	82	
集計	(三層)	3	348	
区分	G-K-856		全等五層	
積付時	138	1	147	
	左い・積片	1	30	
不明		1	34	
集計	(三層)	3	111	
区分	G-K-859		全等五層	
積付時	217	1	250	
	不明	1	20	
	左い・積片	2	163	
不明		1	28	
集計	(三層)	5	461	
区分	G-K-860		全等五層	
積付時	211 A	1	147	1
集計	(三層)	1	147	
区分	G-K-862		全等五層	
積付時	長積	1	147	1
集計	(三層)	1	147	
区分	G-K-863		全等五層	
積付時	長積	1	30	
集計	(三層)	1	30	
区分	G-K-865		全等五層	
積付時	左い・積片	1	19	
集計	(三層)	1	19	

2段グリッド造土

区分				全等五層
積付時	長積	10	1273	
積付時	1 A	1	29	
	22	1	164	
	200 B, C	1	28	
	221 A	1	71	
	225 A, B	1	146	
	229 C, D	1	7	
	238	1	237	
	E2	1	100	
	不明	10	863	1
	左い・積片	25	963	1
不明		24	529	

目録件

第 1 次調査区

区分				
積付時	初積立 1	1	261	1
	初積立 2 (二層)	26	3140	5
	初積立 1 6 L, C12 B 2	58	3435	
	長積	65	6102	2
積付時	171 B	1	288	
	200 b or C	2	272	
	221 C	3	140	
	260	1	249	1
	290	1	496	
	291	3	232	
	292	1	132	
	295	4	629	
	296	1	97	
	329 C	4	545	1
	329 D	2	153	
	329 C or D	2	200	
	331	4	535	
	333	1	462	1
	340	1	128	
	342	1	119	
	343	1	219	
	356	5	722	2
	349	1	184	
	351	3	116	
	356	1	72	
	400	1	149	
	不明	322	24742	4
	左い・積片	1676	41760	12
集計				
有形式 (換版部)	B 2 (二層)	1	465	
	C (換版部)			
無形式 (換版部)	(未調査)	49	1020	4
広版部	(二層)	28	6347	12
積取積片	(二層)	275	20661	37
積取積取積片		1	64	

第 2 次調査区

区分				
積付時	初積立 2 (二層)	2	710	
	初積立 1 6 L, C12 B 2	17	1092	
	長積	11	1013	2
積付時	64	1	117	
	120	1	229	
	250	1	136	
	266 D	1	165	
	248	1	120	
	251 A	1	88	
	262	1	157	
	271 B	1	244	
	294	1	343	
	326	3	214	
	329 A	2	1265	1
	329 B	1	86	

区分				
	330 A	1	131	
	331	2	294	
	344	1	255	1
	354	1	43	
	374	1	227	
	421	1	1403	
	432	2	221	
	456	1	472	1
	466	1	329	
	550	1	145	
	551	1	290	
	576	2	233	
	600	1	181	
	268	1	96	
	不明	229	18043	2
	左い・積片	644	20222	4
集計				
有形式	B 1 (二層)	1	82	
(換版部)	B 2 (二層)	1	146	
無形式 (換版部)	(未調査)			
換版部	(二層)	13	1423	4
広版部	(二層)	30	2225	1
積取積片	(二層)	494	12663	20

第 4 次調査区

区分				
積付時	初積立 1	1	26	
	初積立 2 (二層)	1	94	
	初積立 1 6 L, C12 B 2	1	2	
	長積	7	3139	1
積付時	260	1	256	
	261	1	104	
	291	1	1105	1
	326	1	166	
	329 C	1	118	
	335	1	150	
	不明	25	1888	
	左い・積片	136	1677	
集計				
広版部	(二層)	1	115	1
積取積片	(二層)	9	711	2

第 5 次調査区

区分				
積付時	左い・積片	1	80	
集計	(三層)	1	80	

第 6 次調査区

区分				
積付時	初積立 1 6 L, C12 B 2	2	50	
	長積	2	238	
積付時	不明	1	30	
	不明	3	567	
	左い・積片	35	1382	2
集計				
広版部	(二層)	1	229	1
積取積片	(二層)	2	296	1

第 7 次調査区

区分				
積付時	初積立 1 6 L, C12 B 2	3	120	
	長積	2	141	
積付時	不明	12	618	
	左い・積片	43	771	1
集計				
積取積片	(三層)	3	291	

第 8 次調査区

区分				
積付時	長積	5	229	
積付時	268	1	108	
	不明	1	23	
	不明	13	672	
	左い・積片	25	404	

## 第4章 発見された遺物

本文	聖徳太子	漢字数	仮名数	語数
書式	聖徳太子			

### 遺構等

#### 第8次調査区

本文				
簡括録片 (二書)	12	302	4	

#### 第9次調査区

本文					
簡明本	初編頁1	1	107		
	初編頁2(二書)	3	303		
	初編頁1より(二書)	12	1296		
	長編	10	3769	1	
簡子明本		22	2	368	
		64	1	179	
		134	1	282	
		203	1	107	
		207 A	1	169	
		207 C	1	86	
		210	1	82	
		211	1	103	
		217	2	371	
		218 B	1	92	
		218	1	133	
		218 B	2	613	1
		260	3	770	
		262	1	116	
		273	1	361	
		295	1	97	
		310	1	368	
		323	1	107	
		329 A	1	99	
		329 C	1	173	
		329 C + D	2	89	
		331	2	271	
		333	1	329	
		334 A	2	151	
		340	2	218	
		356	4	797	
		361 A	2	547	
		363	1	77	
	350	1	239		
	352	2	384		
	407	1	153		
	481	286	1863	2	
	なし(綴片)	517	2312	2	

#### 書式

簡明本 (二書)	6	1696
(非綴部)		
広縁部 (二書)	10	4335
簡括録片 (二書)	194	20048

#### 第10次調査区

本文				
簡明本	初編頁2(二書)	4	1123	1
	初編頁1より(二書)	12	899	
	長編	4	746	3
簡子明本		21	1	89
		202	1	298
		217	1	274
		260	1	206
		271	1	83
		313	1	120
		333	1	163
		334	1	86
		342	2	298
		351	1	133
	不明	20	2310	
	なし(綴片)	17	1708	

#### 第11次調査区

本文				
簡明本	初編頁1	2	484	
	初編頁2(二書)	1	47	
	初編頁1より(二書)	12	1411	
	長編	6	1469	1
簡子明本		4	1	112
		15	2	225
		21	1	138
		86	1	41
		260	1	137
		217	1	162
		226	1	243
		229	1	213
		233 B	1	172
		233 P	1	666
		254	1	222
		295	1	83
		343	1	80
		不明	27	5101
	なし(綴片)	203	4791	

#### 書式

簡明本 (二書)	2	294
(非綴部)		
広縁部 (二書)	4	232
簡括録片 (本遺品)	4	864
(二書)	44	3310

#### 第13次調査区

本文				
簡明本	長編	1	47	
簡子明本	不明	1	103	
無		1	140	

#### 足原北方の簡明本の検

本文				
簡子明本	218 A	1	1920	

#### 聖徳太子一覧表 (昭和9年1977年報告書参照)

番号	頁数	横書	縦書き	文字 (聖徳太子の文字)	簡明本 (大同1977)	生家遺跡	字及型式	時期
405	9以上×7	×	○					
407	5×5	×	○					
406	5×5	×	○				へ字不明	
359	8×6	×	○					
318	6×8	×	○					
317	7×7	×	○					
329	7×7	×	○					
334	4×6	×	○					
336	7×8	×	○					
338	5×4	×	○				へ字不明	
349	8×13	×	○					中山遺跡
350	7×6	×	○					中山遺跡
351	8×11	×	○					足 95
352								
358	簡括録	×	○					
363	5×7	×	○				へ字「先」内 36	(足)
372	5×5	×	○				へ字「勝」内 36	(足)
376	5×5	×	○					足 11
381								足 12
386	9以上×	×	○				へ字不明	(足 28)
387	安部型簡子	×	○					(足 73)
389	安部型簡子	×	○				(へ字不明)	(足 100-103)
397	4×6	×	○					足 128
399	5×9	×	○				(へ字不明)	(足 242)
400	9×8	×	○				(へ字不明)	(足 310)
402	6×9	×	○					簡 108 (簡 47) (大野寺 8)
406	5×4	×	○					(足 7)
408								
415	6×5	×	○					

※聖徳太子 Ⅱ 50 (中山遺跡一帯)

友瓦	型押工番号	張片数	総張数	張数
集積	型式 - 集積			
友瓦				
端切手	短縁短	1	133	
	長縁	2	861	
格子用片	18	2	365	
	3A	2	623	
	23	1	589	2
	62	12	726	3
	68	1	71	
	91	2	691	7
	130	1	279	1
	132	2	232	
	170	36	322	3
	201	1	86	1
	202	1	298	
	203	1	697	
	204	1	256	
	206	2	363	1
	216	3	1094	1
	248	1	122	1
	258	1	247	1
	269	1	1329	
	290	1	125	
	310	1	682	1
	324	1	238	
	326	1	248	
	2094	2	866	
	323	1	867	
	324	1	1303	
	327	1	867	1
	340	1	475	
	344	1	289	
	356	2	1346	
	453	1	1120	
	601	1	1060	1
	589	1	839	
	不明	88	5236	2
	在り-破片	20	3302	3
集積				
無段式（鉄線型）	(二葺)	1	1141	
広縁型	(二葺)	1	486	
鉄筋破片	(二葺)	4	3543	
金貨集積				
友瓦				
端切手	短縁短	1	97	
	長縁	2	2268	
格子用片	18	2	1284	
	7	1	612	
	15	1	236	
	32A	1	363	
	41	2	2004	1
	91	1	1322	1
	121	2	627	2
	171	1	312	
	202	1	363	
	216	1	98	
	216	1	662	
	248	3	2394	
	248	3	2949	1
	260	3	3115	
	301	1	2236	
	362	2	1109	
	296	1	238	
	290	4	3682	

## 金貨集積

格子用片				
	32A	1	642	
	32B	2	3682	
	2094	1	453	
	209C	1	1294	
	32B	1	412	
	333	1	1309	
	334	2	779	
	234A	1	467	
	340	2	1198	
	342	1	345	
	352	1	682	
	356	2	2966	
	367	2	322	
	479	1	1422	
	不明	3	2017	
	鉄線子	2	861	
集積				
無段式（鉄線型）	(二葺)	2	4872	
広縁型	(二葺)	3	2033	
鉄筋破片	(本葺)0	4	375	
	(二葺)	5	4746	
	不明	2	438	
端切手	長縁	2	1934	
格子用片	18	5	2297	1
	12A	1	590	2
	18	1	1934	1
	23	1	253	
	71	1	3034	
	102	1	263	
	203	2	2014	1
	200	2	960	1
	243	1	477	
	246	4	2711	
	249	1	317	
	260	2	691	
	362	3	1889	
	326	1	432	
	329	1	632	
	320	1	252	
	326	1	836	
	323	2	384	
	327	2	376	1
	343	1	129	
	344	1	547	
	356	1	297	1
	367	1	183	
	402	1	395	
	不明	5	364	
集積				
無段式（鉄線型）	(二葺)	3	2279	
広縁型	(二葺)	4	3099	
鉄筋破片	(二葺)	11	4599	
	不明	1	332	
端切手	長縁	2	2141	
格子用片	1A	2	267	
	18	9	4184	
	9	1	185	
	15	2	1116	1
	22	2	1180	1

## 集積

格子用片				
	32A	1	696	
	26A	1	1033	
	121	2	863	
	123	1	2790	1
	130	2	2296	
	303	1	330	1
	324	2	351	1
	221B	1	458	1
	254	1	487	
	260	1	223	
	260	2	772	1
	321	1	323	
	3290	1	203	
	325	1	1982	1
	332	1	126	
	336	1	399	
	362	2	1531	
	466	1	1233	
	608	1	471	
	不明	1	426	
集積				
無段式（鉄線型）	(二葺)	2	2653	
広縁型	(二葺)	2	1017	
鉄筋破片	(二葺)	4	305	
端切手	長縁	2	426	
格子用片	18	1	124	
	226	1	126	
	3294	2	360	1
	333	1	263	1
	356	1	240	1
	(種手返)	1	130	
集積				
不明	不明	1	99	
積定時数少				
友瓦				
格子用片	210	1	215	
	314	1	434	
集積				
鉄筋破片	(二葺)	1	102	

第18表 伽藍地（遺構外）出土男瓦・女瓦分類・集計表

型序文番号	破片数	総重量 (g)	個数
1A	4	1116	
1B	25	8671	3
1E	2	867	1
1C	3	391	
3A	5	1369	
3B	3	694	
4	1	289	
15	4	1514	1
18E	1	238	
17A	1	146	
20	2	1124	
23	2	646	
25	1	366	
32A	8	3434	
33	2	846	
40	1	541	
41	1	1228	
54	1	133	
61	1	296	
62	45	33402	11
63	3	1223	
64	2	275	
68	1	87	
71	2	1274	2
87	1	1181	
91	6	3979	2
121	2	672	
130	5	2083	
138	1	204	
141	2	901	
147	1	497	
150	2	1091	
152	1	660	
170	18	10905	6
174	1	1294	
192	4	1759	
201B	2	572	
202	3	2200	
203	26	18050	9
204	3	808	
205	5	2678	2
206	1	1104	1
207A	2	467	
208	1	369	
210	3	1385	
216	1	216	
217	9	5284	2
224A	4	3439	2
224C	2	309	
225A	1	200	1
228E	1	348	
227B	2	632	1
229	2	379	

型序文番号	破片数	総重量 (g)	個数
231A	1	387	1
231B	2	1795	4
232	1	463	
236	2	5089	2
245	1	343	1
246	7	3090	2
248E	9	5259	6
249	1	282	
253	2	563	
259	1	474	
260	17	12308	5
262	19	12917	5
273	1	846	1
291	1	566	
294	1	472	1
295	32	17053	9
308	6	3468	1
308A	3	3087	2
308B	3	1594	
321	2	1198	2
324	2	341	
326	10	5499	
329A	7	4430	3
329C	4	3671	
329D	1	236	
330	2	557	
331	1	355	
333	10	8132	5
334A	5	4355	3
335	4	2379	2
336	2	983	
337	4	2732	
338	2	881	
339	3	855	
341	1	295	
342	6	2830	
343	5	3792	1
344	8	6709	2
346	3	812	1
351	4	3923	2
353	4	3827	1
355	1	699	
356	21	9539	5
359	1	224	
361	1	301	
363	1	784	1
364A	6	3414	4
364B	2	430	1
369	1	3196	2
395	1	587	
401	1	828	
402	1	398	
403	1	491	

型序文番号	破片数	総重量 (g)	個数
415	1	921	
425	4	2175	2
426	4	3728	2
428	1	457	
442	1	367	
447	1	223	
438	2	1865	1
471	1	322	
494	2	443	
497	1	276	1
503	1	518	
518	2	1353	
524	1	144	
526	1	229	
549	3	2068	1
551	6	4755	2
556	2	369	
557	1	224	
558	13	3923	
585	1	326	
589	1	272	
590	1	70	
599	2	865	1
606	2	765	
609	1	99	
610	4	2296	1
611	1	271	
612	5	3319	3
614	2	670	
615	10	4282	2
616	3	1305	2
619	1	252	
625	1	139	
不明	144	36999	
短縄	43	13703	
長縄	36	36710	4

## 男瓦（三壽）

無段式			
(狭端部)	20	22501	25
(筒部)	85	64184	
(広端部)	14	6138	5
有段式			
(狭端部)	1	236	

## 第5章 総括

### 第1節 下野国分尼寺建物・施設の変遷

これまで、伽藍地内・寺院地内から出土した瓦について、軒先瓦や女瓦・男瓦などの点数などを集計したので、ここでは、主に国分寺報告に掲載された瓦の時期区分に従い、建物の様相を検討していく。

#### (1) 主要堂宇

##### I期：創建期（第149～155図、第18・22表）

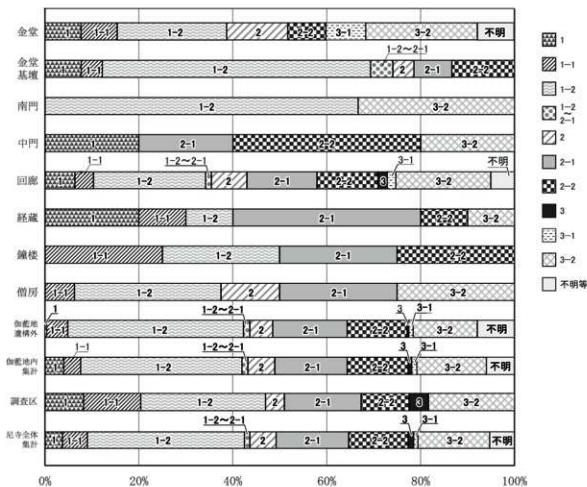
伽藍地区画施設よりも古く掘込地業を行った基礎建物が、後の主要堂宇の東側で発見されている。この建物は規模が尼寺金堂と同じである。尼寺では、国分寺瓦編年1-1期の軒先瓦が23点出土しているが、その数は1-2期の144点に比べると格段に少ない。1-1期の瓦を僧寺の瓦と比較すると、僧房出土の均整唐草文宇瓦1型式（伽藍地出土瓦実測図第93図146）は、国分寺出土宇瓦1型式（『下野国分寺跡Ⅱ 瓦・図版編』Fig14.525）と同范で范傷もない初期の范で、共に型押文も224A型式であることから、国分寺の1-1期前半に位置付けられる。さらに、経藏跡出土の宇瓦1型式（伽藍地出土瓦第92図133）は146よりも范傷がわずかに進行し、これと傷の進行が同じものが国分寺報告Fig14.522で、これには型押文224Bが叩かれる。この瓦も1-1期前半に位置付けられている。さらに、珠文線縮歯文複弁八葉蓮華文鏡瓦（鏡瓦31型式）や線縮歯文線複弁十葉蓮華文鏡瓦（鏡瓦13型式）は、三森の和田窯で出土しており、和田窯は須恵器生産に次いで瓦が生産され、須恵器が8世紀第1四半期後半から第2四半期前半に位置付けられることから、第2四半期後半、国分寺1-1期としておきたい（註1）。

女瓦では、伽藍地から出た1-1期型押文は66点で、1-2期になると431点になり（第152図）、約6.5倍の数に増加する。調査区では縄叩きと1-1期の型押文は618点であるが（註2）、このうち短縄叩きと分類されていた瓦は435点を占め、確実な1-1期の型押文は183点になる。この数字に従えば、調査区出土女瓦では1-1期に較べて、1-2期は2.1倍になる。グラフでは、1-1期に縄叩きも含めたが、型押文で尼寺全体を比較すると、1-1期伽藍地内66点、調査区内183点で、合わせて249点になり、1-2期が819点であることから、1-2期には3.2倍強に増えたことになる。また、伽藍地内では1-2期に約6.5倍になり、調査区内では約3.2倍に増加することは、1-1期の瓦が最終時期まで伽藍地に残ることが少なく、伽藍地際から寺院地の大半にあたる調査区に1-1期の瓦が多く廃棄されたことがわかる。

1-1期前半の水道山窯産の型押文225Aや224は、第11次調査区SD-330・682・713、第12次調査区や伽藍地内でも水道山窯産の型押文224Aが出土している（第17表）。

このように、国分尼寺からは、国分寺瓦編年の1-1期の軒先瓦・女瓦等が定量出土していることがわかった。しかし、その数は1-2期に比べると軒先瓦・女瓦の型押文でも格段に少ないことから、主要堂宇全体に1-1期の瓦が葺かれたとは考え難い。第1次調査区において発見された掘込地業を行った基礎建物跡（SB-200）は、その工法からみて礎石建物と考えられている。その建物規模は、東西長約27m、南北長約18mで、尼寺金堂と同じ規模である。これらのことから、国分尼寺創建当初の建物は瓦葺きの仮設金堂であって、これを伽藍地整備に伴い、後代に続く金堂に移築したと考える。

瓦の組合せでは、仮設基礎建物SB-200には、水道山瓦窯の面縮歯文線複弁八葉蓮華文の鏡瓦26型式と均整唐草文の宇瓦1型式が組み、和田窯の珠文線縮歯文線複弁八葉蓮華文の鏡瓦31型式や線縮歯文線複弁



時期	1	1-1	1-2	1-2~2-1	2	2-1	2-2	3	3-1	3-2	不明等
金堂	1	1	3		2		1		1	3	1
金堂基壇	2	1	15	1	1	2	4				
南門			2							1	
中門	1					1	2			1	
回廊	5	3	19	1	6	12	10	2	2	16	3
経藏						1					
鐘樓							1	1			
僧房		1	5		2	4					4
伽藍地遺構外	4	8	85	3	11	36	29	2	1	31	18
伽藍地内集計	15	16	131	5	22	61	48	4	4	57	22
調査区	4	7	13		2	8	5	3		10	
尼寺全体集計	19	23	144	5	24	69	53	7	4	67	22

第149図 下野国分尼寺出土鍔瓦・宇瓦時期比率図



時期	甍瓦型式	金堂	金堂基壇	南門	中門	回廊	講堂	経藏	鐘樓	僧房	伽藍地遺構外	調査区	尼寺全体計
1	3				1								1
	4	1	1			1						3	7
1-1	1											3	3
	9											1	1
	13										1		1
	26		1			2					2	2	7
	31	1									1		2
1-2	3C		1			2					8	1	12
	4B									1	10	3	14
	4C	1						1		1	7	2	12
	24									1		1	2
1-2-2-1	12									1		1	
2	15	1			1				1	3		6	
2-1	4D					6		3	1		15	4	29
	7										1	1	3
	18					2							2
	21				1						2		3
	2-2	11				1					2	1	4
3	25										1	1	2
	27											1	1
	3-1	5A									1		1
3-2	28						1				1	2	
不明	29	1				3					5		9
	不明											6	6
計		5	3		3	18		5	1	4	69	23	131

第19表 下野国分尼寺出土甍瓦集計表

時期	宇瓦型式	金堂	金堂基壇	南門	中門	回廊	講堂	経藏	鐘樓	僧房	伽藍地遺構外	調査区	尼寺全体計
1	2							2				1	3
	12					1							1
	15 奈		1			3					1	2	7
1-1	1							1	1	1			3
	2A					1					1	1	3
	4A										3		3
1-2	2B		1	1							12	1	15
	12B	1	5			1					7	3	17
	3B					1							1
	4B		6			6			1	1	13		27
	4C			1		3					4	1	9
	4D		1								2		3
	4E	1									2		3
	12C					2					7	1	10
	4F		1			4				1	13		19
1-2-2-1	5A		1		1					2		4	
2	14	1	1		5				1	8	2	18	
2-1	4G		2		3	1	1			4	18	3	32
2-2	4H	1	4		1	10		1	1		27	4	49
3	5					1					1		2
	6					1						1	2
3-1	16					1							1
	6A	1				1							2
3-2	5B	2		1		12				3	16	6	40
	5C				1	3				1	9	2	16
	6B	1									1		2
	6C					1					5		6
	17											1	1
不明	他										3		3
	不明										4		4
計		8	23	3	2	61	1	5	3	12	159	29	306

第20表 下野国分尼寺出土宇瓦集計表

※15 型式は1-2期に一部入る。

十葉蓮華文の鏡瓦 13 型式が葺かれたと考える。このため、当該期の瓦は河内郡水道山窯と都賀郡域の可能性のある三養窯から供給されたとみられる。その時期は国分寺の 1-1 期前半になるであろう。740 年代～757 年までがこの時期とすると、その前半期になると考えられる。つまり、国分寺創建とほぼ同じ時期に尼寺でも後の金堂と同規模の仮設金堂のみを建立しておいたと判断できる。

文献史料では、『類聚三代格』天平神護 2 年 8 月 18 日太政官符に、

国分寺先経造・畢塔金堂等。或已朽損持。致一傾落。

とあり、塔と金堂を最初に造っていたことを示し、傾き落ちてきた堂塔を造寺料で修理していた。この官符によっても塔を建てない尼寺では金堂のみを最初に造っていたことが裏付けられる。

## II-1 期：主要堂宇・伽藍地・寺院地の区画施設造営期（第 149～155 図、第 19～22 表）

この時期に主要堂宇と伽藍地を区画する掘立柱塼などが造られ、瓦の範・型押文の傷などから建立順序や瓦の組合せをみていく。後者については、尼寺 1969 報告で、詳細な検討が行われており、これを追証する。

### ①金堂

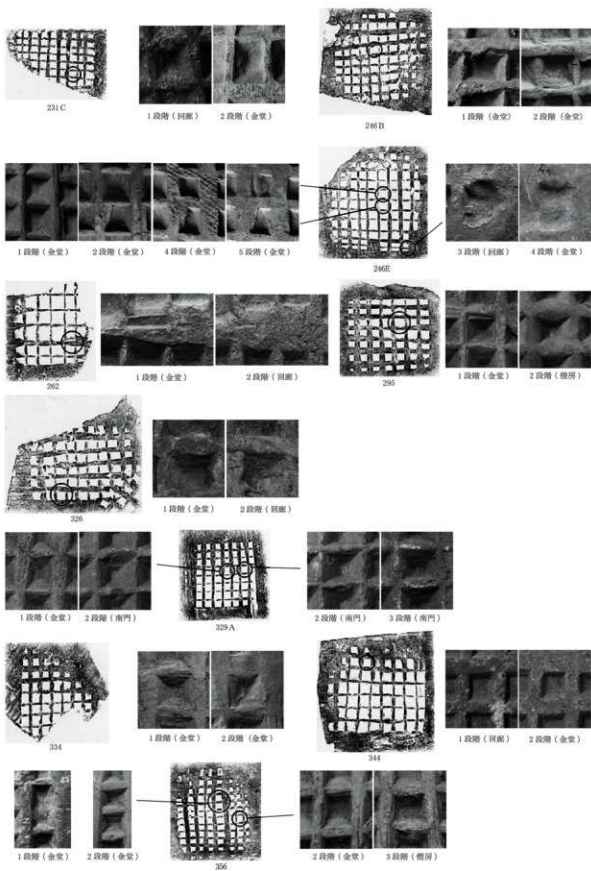
軒先瓦では瓦編年の 1-1 期の軒先瓦・女瓦等が少量確認されている。珠文線刷唐文縁複八葉蓮華文の鏡瓦 31 型式が 1 点出ている。この瓦は、国分寺創建以前になるという指摘もあるが（大橋 2001、93 頁）、国分寺で 31 型式が出土していることから、鏡瓦 31 型式については従来の 8 世紀中葉説に従い、限定して第 2 四半期後半としておきたい。1-1 期の軒先瓦は調査区内でも 7 点の軒先瓦が出土しており、この時期に堂宇が建立されていたことになる。また、1-1 期の軒先瓦は、今回の報告では金堂 2 点、回廊 3 点、経蔵 1 点、鐘楼 1 点、僧房で 1 点確認されている。尼寺 1969 年報告の鏡瓦 3・4・7 型式、宇瓦 3 型式が 1-1 期である。これによれば、金堂・講堂・鐘楼・中門・南門・僧房から 1-1 期の瓦が出たことになる。創建期の基壇建物が 1-1 期と考えれば、金堂などの主要堂宇からもその時期の瓦が少数出ていることから、解体した仮金堂の瓦が移築後に分散して一部葺かれたとみられる。

金堂と基壇から出土した 1-2 期の鏡瓦は、鏡瓦 3 C 型式と 4 C 型式が 1 点ずつで、宇瓦は 4 B・12 B などであった。尼寺 1969 報告分類軒丸瓦 1-A は写真や拓影の范傷からみると、国分寺報告分類の鏡瓦 4 B に相当する。これが金堂から 13 点出土しており、これと飛雲文字瓦が組む下野国分寺式となっている。さらに宇瓦 12 B 型式が 6 点確認できた。金堂から出た 1-2 期の鏡瓦・宇瓦は 18 点にのぼり、型押文も 41 点が当該期に当たり、1-1 期よりも格段に増えることから、金堂はじめ主要堂宇が建立されたと考えられる。

次に、尼寺の主要堂宇から出た軒先瓦の范傷から主要堂宇が建立される 1-2 期の建物の建立順序をみてみる。鏡瓦では 3 C 型式で回廊出土の第 81 図 50 は范傷がないが、金堂の第 74 図 3 は傷が進んでいる。鏡瓦 4 C 型式は金堂出土品も范傷がみられる。

宇瓦 4 B 型式でみると、このなかでも子細にみると 4 段階の范傷が確認できた。范傷は左右端の雲尾付近、中央の飛雲の雲尾下の外区、雲頭の彫り傷などが挙げられる。その観点から分類すると、1 段階は第 83 図 71、2 段階は第 74 図 9～11・第 75 図 14・第 82 図 70・第 83 図 72、3 段階は第 75 図 12・13、4 段階は第 83 図 73・第 93 図 139 である。僧房出土の第 93 図 147 が最も古い。僧房は掘立柱建物であり、これを除くと、いずれも金堂・回廊になる。4 段階に鐘楼がくる。この次の 4 C 型式は、中門西回廊・南門で出土している。

同様に、比較的数の多い宇瓦 12 B 型式でみると、この型式は金堂で 6 点、回廊で 1 点出土しているが、范傷がない。12 C 型式は范傷が進行した瓦で、第 90 図 116 が相当し、回廊から出土している。



第150図 1-2期型押文の変化

型押文	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階	第6段階
231 C	回廊 (1点)	金堂 (1点)				
246 B	金堂 (2点)	金堂 (1点)				
246 E	金堂 (2点)	金堂 (3点)	回廊 (1点)	金堂 (1点)	金堂 (1点)	
	回廊 (1点)	回廊 (1点)				
362	金堂 (1点)	金堂 (1点)				
		回廊 (3点)				
295	金堂 (5点)	金堂 (2点)				
	僧房 (1点)	僧房 (1点)				
326	金堂 (4点)	回廊 (1点)				
329 A~E	A: 金堂 (1点)	A: 金堂 (1点) 南門 (1点)	A: 南門 (1点)	C: 金堂 (1点)	D: 僧房 (1点)	E: 回廊 (1点)
333	金堂 (2点)					
	回廊 (2点)					
334	金堂 (3点)	金堂 (1点)				
	経堂 (1点)					
335	僧房 (1点)					
	南大門 (1点)					
344	回廊 (1点)	金堂 (1点)				
356	金堂 (1点)	金堂 (4点)	僧房 (1点)			
367	金堂 (2点)					
	僧房 (2点)					

※246Eは文字瓦(へら書内)あり。329D, 334, 356は文字瓦(へら書可)あり。段階分類できなかったものあり。

第21表 1-2期型押文の変化と出土位置関連表

このように、主要堂宇出土の軒先瓦の範囲でみると、金堂・回廊は前後するものを含み、先後関係が付け難いが、主要堂宇では宇瓦4B型式・金堂・回廊→宇瓦4B型式・金堂・回廊→宇瓦4C型式の中門・南門という順序になる。

次に、1-2期の型押文の傷の進行状況によって各建物の建立順序を検討してみる。建物の位置から出土した女瓦のなかで、同一型押文が複数の建物跡から確認された場合について新旧を調べた。

型押文231C・246B・246E・295・326・329A・334・344では、格子文の窪みの中で、1段階よりも2段階で木目の傷が進む。262では叩き板の彫った溝の突出部が2段階では低くなり、356では幅の狭い格子で、当初溝を彫らなかつたが、2段階では溝を彫っている部分と格子目内に木目が進んだ部分が確認できた。

これらの各格子目の状況から新旧関係を判断した結果、型押文246B・Eと262と326では金堂→回廊か金堂→金堂・回廊、逆に型押文231C・344では回廊→金堂であった。型押文295・367では金堂と僧房(僧房は獨立柱建物であり、講堂の可能性もある。)が同時期、型押文329C・Dと356では金堂→僧坊(講堂)である。南門は型押文329A・C・Dによって金堂→金堂・南門である。

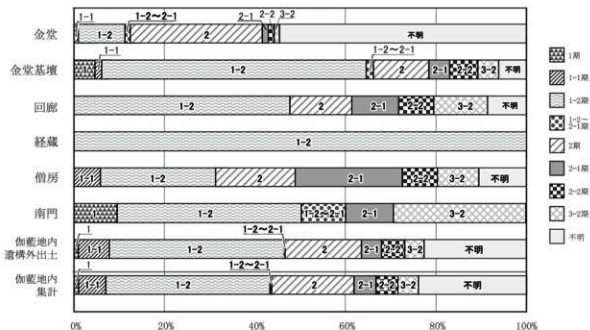
この結果と軒先瓦の順序を加えると、建立し始めた順序は概ね金堂→回廊、金堂→鐘樓→南門となるであろう。

### ②講堂

講堂の位置からは、尼寺1969報告によれば鉦瓦31型式(軒丸瓦七)1軒丸瓦一-Aが2点出ている。鉦瓦31型式の珠文線彫文縁祿弁八葉蓮華文は1-1期になり、仮設金堂から移した瓦と推定する。しかし、講堂は遺存状況が良好でなくて、出土した瓦も少ない。尼寺1969報告分類軒丸瓦一-Aが2点、宇瓦では飛雲文と曲線頸の均整唐草文二-Bが出ている。二-Bは頸形態などから国分寺分類の12C型式で、1-2期に当たる。軒先瓦の組合せでは国分寺鉦瓦4型式と宇瓦4型式と均整唐草文12C型式であったとみられる。

### ③回廊

回廊出土の最古型式の瓦は、鉦瓦26型式と宇瓦2A型式で1-1期になる。特に26型式は上神主・茂原



時期	1	1-1	1-2	2	2-1	2-2	3-2	不明	時期	1	1-1	1-2	2	2-1	2-2	3-2	不明		
金堂	3	1	16	1	37	2	2	2	71	僧房		3	11		9	13	2	3	
金堂基壇		1	31	1	8	3	5	3	4	南門	1		4	1		1		3	
回廊			21		6	5	3	7	6	伽藍地内遺構外出土	9	61	346	1	153	40	46	38	203
経蔵			2																

※数字は点数を示す

第151図 各建物の型押文時期比率図

官衙遺跡の成果から740～757年の限られた期間の瓦と想定されている。しかし、型押文で1-1期のものは確認できなかった。1-1期の瓦は仮設金堂から移したと考えられる。1-2期の瓦は回廊からは19点の軒先瓦と21点の女瓦型押文が確認できた。鍔瓦は3C型式、宇瓦は4B・C・F、12B・C型式などであり、1-2期の主要な軒先瓦は、金堂・講堂と同じ組み合わせになっている。

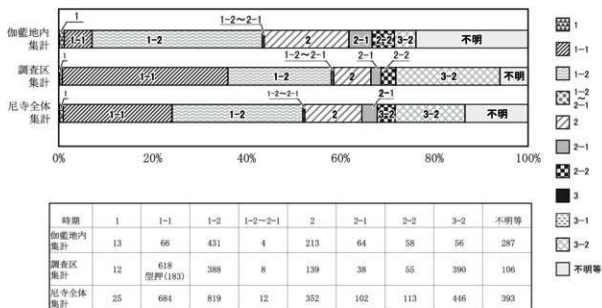
## ④中門

尼寺1969報告によれば、ここでも1-1期の宇瓦1型式(軒平瓦三)が中門から1点出土していることが確認できる。報告によれば、当該期の瓦は飛雲文字瓦(尼寺1969報告分類軒平瓦一-A)が8点出ている。

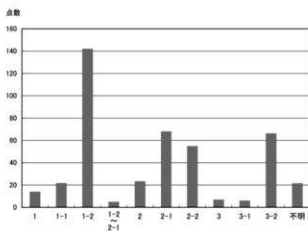
## ⑤南門

掘立柱式の棟門で、2時期確認された。初期のA期は掘立柱扉に取り付き、B期は築地塼に付くであろう。門はA・B期ともに掘立柱式で、瓦葺きであったか、不確定である(註3)。門の南側にSD-822・836に挟まれた南北に長い範囲は、黒色土などの硬化面が確認された。さらに、南門東柱掘方に接して凝灰岩の根石と判断された石と2-2期(9世紀第2四半期)の型押文の瓦があったことから、2-2期以降に基礎地業を行った礎石立建物になった可能性がある。

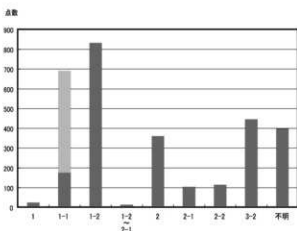
尼寺1969報告によれば、この位置から1-1期の軒先瓦3点と飛雲文字宇瓦と鍔瓦4型式が出土しており、今回の検討でも宇瓦2B・4C型式が確認できたことから、1-2期には瓦葺きであったと考えておきたい。門周辺の第12次調査区からは、時期の明らかな女瓦型押文で、1-2期70点12,813g、2期通じて31点6,668g、3-2期で94点16,736g出ている。点数・重量からみると、門築造初期の1-2期よりも2期・3期の方が多い。掘立柱塼から築地塼に変化するのが3-1期の9世紀第3四半期とみられることから、古い瓦を再



第152図 国分尼寺型押文の時期比率図



第153図 鍍瓦・宇瓦 尼寺全体集計図



第154図 型押文 尼寺全体集計図

利用して南門を建て直したが、この際に礎石立建物にした可能性がある。3-2期の女瓦が最も多いことから、第4四半期にはそれもすぐに補修となったと推定される。

⑥経蔵

尼寺1969報告によれば、鍍瓦4型式と宇瓦4型式が出ている。1-1期の宇瓦1型式も1点確認されたが、1-2期の軒先瓦は明らかでない。当該期の型押文は2点確認された。

⑦鐘楼

1-1期の宇瓦1型式も1点確認した。また、尼寺1969報告では鍍瓦4型式、宇瓦1・4型式が出土したとある。飛雲文は4B型式で1-2期になる。

⑧僧房

講堂の北方に間口4間か5間で、奥行き3間程の掘立柱式の東西棟が確認され、僧房と推定されている。報告によれば、この周囲から瓦は発見されていないという。また、調査の過程でも講堂の北側では、瓦の状

時期	1	1-1	1-2	1-2-2-1	2	2-1	2-2	3-2	不明等
第1次調査区	2(0.39%)	213(42.01%)	92(18.15%)	4(0.79%)	31(6.12%)	7(1.38%)	17(3.30%)	113(22.29%)	28(5.52%)
第2次調査区	3(0.94%)	111(34.81%)	68(21.32%)	1(0.31%)	36(11.28%)	10(3.13%)	11(3.49%)	49(15.36%)	30(9.40%)
第3次調査区									
第4次調査区		7(10.78%)	11(16.92%)		4(6.15%)	6(9.23%)	3(4.62%)	30(46.15%)	4(6.15%)
第5次調査区		3(42.86%)	1(14.29%)					2(28.57%)	1(14.29%)
第6次調査区		3(37.50%)	1(12.50%)		1(12.50%)			2(25.00%)	1(12.50%)
第7次調査区		10(41.66%)	8(33.33%)		1(4.17%)			3(12.50%)	1(4.17%)
第8次調査区			2(25.00%)					5(62.50%)	1(12.50%)
第9次調査区	1(0.58%)	75(44.17%)	53(31.17%)	1(0.58%)	14(8.23%)		3(2.93%)	14(8.23%)	7(4.11%)
第10次調査区	1(0.87%)	44(38.20%)	49(42.61%)		5(4.35%)		2(1.74%)	11(9.50%)	3(2.61%)
第11次調査区		44(26.83%)	26(15.85%)	2(1.22%)	23(14.02%)	6(3.66%)	9(5.49%)	41(25.0%)	13(7.93%)
第12次調査区	3(1.56%)	104(32.60%)	70(21.94%)		16(5.02%)	7(2.19%)	8(2.51%)	94(29.48%)	15(4.70%)
第13次調査区			2(66.67%)					1(33.33%)	
第14次調査区		4(8.89%)	5(11.11%)		8(17.78%)	1(2.22%)		25(55.56%)	2(4.44%)
合計	12(0.68%)	618(35.23%)	388(22.12%)	8(0.46%)	139(7.92%)	38(2.17%)	55(3.14%)	390(22.24%)	196(6.04%)

第22表 調査区出土 女瓦の時期

態も思わしくない」と記述されている。しかし、僧房跡と判断できる瓦(註4)は軒先瓦16点、女瓦で44点にのぼる。講堂と注記された瓦がほとんど遺存していないことから、講堂を含めた北側で出土したものの可能性も残る。

## II-2期(堂宇大改修か再建期)(第149・152・153・155図、第19・20表)

伽藍地内から出土した軒先瓦は、瓦幅年1-2期よりも2・3期の瓦の方が多い。伽藍地から出土した軒先瓦の点数では、瓦1-2期131点、2-1期61点、2-2期48点で、2期を合わせると131点、3-1期4点、3-2期57点で、3期を合わせると65点になる。2・3期の軒先瓦は196点になり、1-2期の約1.5倍近い数に達する。伽藍地と調査区出土を加えた寺院地(尼寺)全体で出土した軒先瓦では、瓦1-2期144点、2-1期69点、2-2期53点で、2期を合わせると146点、3-1期4点、3-2期67点で、3期を合わせると78点になる。軒先瓦の数でみると、主要堂宇造営期の1-2期と8世紀末から9世紀前半の2期でほぼ同数の瓦が新調されていたことになる。3期は1-2期・2期の半分程の数が新調されて葺かれたことになる。

型押文のある女瓦では、伽藍地出土で瓦1-2期431点、2-1期64点、2-2期58点で、2期を合わせると335点、3-2期56点である。1-2期よりも2期の方が少ないが、約4分の3の女瓦が新調されたことになる。これに調査区出土分を含めた寺院地全体の型押文女瓦の数では、1-2期819点、2-1期102点、2-2期113点で、2期を合わせると567点、3-2期446点である。1-2期に対する2期の瓦の比率は約7割に達し、伽藍地の女瓦の傾向に近い。3期は軒先瓦よりも格段に多い傾向がある。

以上のように、1-2期と2期を比較すると、女瓦よりも軒先瓦の方が2期に新調した割合が高いことが指摘できる。そして、8世紀末から9世紀前半に、軒先瓦では主要堂宇造営期とほぼ同じ数が新調され、女瓦でも主要堂宇造営期の3分の2から4分の3が新調されていることが明らかになった。このため、尼寺の主要堂宇は8世紀末から9世紀前半に、大規模な改修か再建が行われたと考えられる。以前の報告では、建物変遷II期として一括していたが、時期区分を行い、瓦1-2期は主要堂宇の造営時期で、遺構変遷のII-1期とし、主要堂宇の大改修か再建の行われた時期をII-2期として区分する(註5)。

このような8世紀末から9世紀前半に大改修か再建を行った要因は何かが問題となる。尼寺1969報告によれば、伽藍地内から焼土・木炭など火災を裏付ける所見はなくて、ほかの要因で大改修か再建を行った可能性がある。一解釈として、『類聚国史』に記載する弘仁9年(818)7月条にある関東大地震との関係が想

定される。同年8月庚午条では上野国等の境で地震の災いを為したとあることから、下野国南部の国分寺岡辺もその被害が大きかったことが推定される。瓦の新調比率からみても震災による大改修か再建が行われた可能性が高い。

### Ⅲ-1期（区画施設改修期）（第149・151～154・156図、第20～22表）

9世紀前半までは伽藍地区画施設の造り直しは行われなかった。主要堂宇の大改修か再建が終えた9世紀第3四半期には伽藍地区画施設を掘立柱礎から築地に改修する。この時に南門も礎石立ちになった可能性がある。

この時期の新しい瓦は、軒先瓦・女瓦ともに減少している。3期全体の瓦でみると、2期に比べて3期の瓦は寺院地全体の軒先瓦で2期146点から3期78点に減り、型押文の女瓦で2期567点から3期446点になっている。2期に大改修か再建した堂宇を部分的に補修したものと推測される。なお、この時期には伽藍地の外に堅穴住居が急激に増加して造られ、寺院を取り巻く景観も変化する。

2・3期の主な補修瓦は、金堂で宇瓦4G・H型式、回廊では2-1期に鈿瓦4Dと宇瓦4G型式、2-2期に宇瓦4H型式、3-2期に宇瓦5B型式が挙げられる。

### Ⅲ-2期（堂宇補修期）（第156図、第22表）

瓦編年による3-1期は、区画施設の改修のため、新調した瓦は多くはなかった。しかし、3-2期になると、軒先瓦・型押文による女瓦でも格段に瓦が新たに造られる。このことから、9世紀前半に大改修か再建された主要堂宇の補修が行われたと推定される。この時期の宇瓦は5B型式が圧倒的に多いが、組む鈿瓦は28型式が挙げられるが、宇瓦5型式の出土数に比べて格段に少ない。鈿瓦29型式は所産時期が不確定であるが、3期になる可能性がある。

### Ⅳ期（南墳期）（第157図）

伽藍地出土の土器の時期によって、伽藍地の最終的な使用時期を検討する。伽藍地を画する溝から出土土器は10世紀前半までが多いが、一部は中葉まで確認できる。従来の瓦編年から従えば、10世紀代に比定される瓦の補修は行われていないことになる。なお、国分尼寺では灰軸陶器に美濃窯産虎溪山1号窯式が出土していることから、10世紀中葉までは機能していたことがわかる。

#### （2）伽藍地北方の掘立柱建物

伽藍地内の北辺掘立柱礎の際において、第2次調査区S B-338と346・348は建物主軸を同じくしており、8世紀後半代における伽藍地内北方の建物群とみられる。

第7次調査区で、S B-582と585A・Bと591が、伽藍地北方・東側への寺院地区画溝がなくなったⅢ期（9世紀後半）に建てられるが、いずれも規模の小さな掘立柱建物であろう。側柱建物であることから、穀倉ではない。建物の主軸はS B-582やS B-585Bがグリッド北よりも東に振れており、Ⅲ-2期（土器4期）のS I-588よりも古い。そして、S B-582・585BはS B-700と建物方位を同じくし、出土土器の時期も同じことから併存すると考えられる。

第11次調査区では、S B-700・738がⅢ-2期（9世紀後半）になるとみられ、建物の方位が伽藍地区画溝よりもやや東に振れている。S B-700は四面廂建物であり、柱掘方も1m幅に及ぶ規模であり、寺院



運営などに関わる可能性もあろう。第7次・第11次調査区周辺では寺院地区画溝がなくなった後に掘立柱建物群が規則的に配置されていた可能性が高く、寺務などに関わる施設群の可能性もある。

このほかに、第1次調査区でも伽藍地・寺院地区画溝に平行、または東にやや振れる掘立柱建物跡が確認されているが、時期が判別できなかった。

### (3) 伽藍地区画施設

#### ①伽藍地区画溝・溝 (SA-150B・300・700、SD-151 など)

掘立柱塼では、SA-150B・300・650・700から土器片が出土した。第10次SA-300の2の須恵器環は8世紀代のもので、SA-150Bの1は掘方埋土から出た9世紀中葉頃の土師器環である。第2次SA-300の1(9世紀中葉)と第10次SA-300の1・2は柱抜き取り痕から出た。

掘立柱塼の内外に併設された溝(SD-151・194・333・672・673・810A・821・822)では、第1次SD-194の環は9世紀中葉、第2次SD-333の環は三義大芝原窰B地点段階で9世紀後半、第11次SD-810は底径6~7cmの環で9世紀中葉頃である。以上のように、伽藍地を区画する塼に付設した溝から出土した土器は9世紀中葉及び後半となり、第3四半期まで存続したと判断することができる。

これらの点からも伽藍地を区画する掘立柱塼は、遺構変遷Ⅱ期(9世紀前半~第3四半期)まで機能していたと判断できる。

#### ②築地塼の内外面に併設された溝 (SD-152・153・204・206・330・334・369・658AB・670AB・835・836・826・827)

第1次SD-152の土器は9世紀前半から後半、第1次SD-153の土器は、須恵器環(3)と灰軸陶器小瓶(2)・碗(4)は9世紀後半、土師器環(1)が10世紀前半である。第1次SD-206の土師器鉢(1)は9世紀後半、第2次SD-330は主体が10世紀前半までである。第2次SD-334では8世紀後半から10世紀前半までの土器が確認できる。第2次SD-369では下層で9世紀後半、上層からは10世紀前半の土師器である。第9次SD-658Bでは三義大芝原窰B地点段階で、9世紀後半の須恵器が出ている。第12次SD-836は南辺築地塼の外溝で、10世紀中葉の土器までを含んでいる。

以上のように、築地塼に伴う溝は9世紀後半から10世紀前半までが多いが、南辺築地塼外溝で10世紀中葉までの土器を含んでいる。このため、9世紀第3四半期に掘立柱塼から築地塼に造り替えて、10世紀中葉まで機能していたことが明らかになった。

### (4) 寺院地区画溝

#### ①寺院地東張り出し区画溝 (SD-140・550・610)

第1次調査区SD-140では掘り直し前のA期に8世紀後半の環が出土し、張り出し区画溝の上限は8世紀後半の尼寺寺院地設定期となる。下限は、第1次調査区で三義大芝原窰B地点段階(9世紀後半)、第4次調査区でもB期の層位から9世紀後半の土器、第7次調査区でもB期には益子産の9世紀前葉から灰軸陶器で三日月高台の9世紀後半まで出土している。第8次調査区ではB期に9世紀中葉から後半の灰軸陶器美濃産光ヶ丘1号窯式まで出ている。北東のSD-550 B期は第7次・11次調査区で9世紀第2四半期から後半、南東から南辺のSD-610でも第8次・12次・13次調査区で、9世紀中葉から後半の遺物が出土している。ただし、溝の上に構築した堅穴住居から9世紀後半の土器や灰軸陶器が出ていることから、9世紀後半の中で埋没したことがわかる。

これから、寺院地東張り出し区画溝は8世紀後半に掘られ（A期）、9世紀前半に掘り直しされ（B期）、9世紀後半まで機能しており、9世紀後半の中で溝の上に堅穴住居が造られることから、9世紀第3四半期頃（Ⅲ-1期）まで寺院地東張り出し区画溝が機能し、第4四半期頃（Ⅲ-2期）には堅穴住居が展開したと推測される。

### ②伽藍地北方の寺院地区画溝・寺院地東辺溝・寺院地西辺溝（SD-193・265・653・800）

伽藍地北方の寺院地区画溝のSD-265は掘り直しによりA・B期に区分される。8世紀第3四半期から9世紀第2四半期・中葉・後半までの遺物が出土している。この時期幅は寺院地東張り出し区画溝の機能期間と同じである。

寺院地東辺・西辺溝は、第10次調査区の西辺溝で掘り返し後のB期に8世紀後半から9世紀後半の遺物が出土しており、第11次調査区の東辺溝ではA期下限・B期上限が9世紀後半であることが指摘できた。同調査区の東辺溝ではB期に9世紀後半の遺物が出土している。これらにより、寺院地区画溝は9世紀後半内に掘り直しされて、機能しなくなっていたと判断することができる。伽藍地北方の寺院地区画溝A期は8世紀第3四半期から9世紀第3四半期までで、第3四半期に掘り直しされたB期は9世紀第4四半期には機能しなくなつたと考えられる。

### ③伽藍地に接した溝（SD-193・653・810・840）

伽藍地区画施設に関わる外溝から外側に2m程の位置に溝が掘られており、東側張り出し部や北側に寺院地区画溝が存在した時に塀の外側溝に接して溝が機能していた。東・北側の寺院地区画施設がなくなる遺構変遷のⅢ-1期に伽藍地北側に接してSD-810が存在する。底面から9世紀後半の土器が出土しており、溝の下限を判断することができる。また、北西隅においては土器編年4期の堅穴住居SI-674が確認されたことから、SD-810の西延長上にある北辺溝の下限は土器編年3期（9世紀中葉～第3四半期）までの所産になる。

これらのことから、遺構変遷Ⅱ-1期から続いた伽藍地に接した溝は、掘立柱塀から築地塀に替わつた遺構変遷Ⅲ-1期（第3四半期）まで機能し、Ⅲ-2期（9世紀第4四半期）には機能しなくなつたと判断することができる。

### ③寺院西側の溝

伽藍地の中軸線から西側に200m離れた位置で、地形に沿って南南西から北北東にのびる溝が確認されている（木村ほか1985）。この溝からは9世紀中葉から後半の須恵器や灰陶陶器が出土しており、尼寺遺構変遷のⅢ期に当たる。この時期には東側・北方の寺院地が縮小されるが、伽藍地の外側にも掘立柱建物・堅穴住居などが展開する。この溝は、寺院地西辺溝で、第2次調査SD-250に繋がる可能性も残るが、明らかになっておらず、この溝との繋ぎの解明は今後の課題である。ここでは、先の国分尼寺報告（中村2011）に従い、伽藍地の北方や東張り出し区画溝を寺院地とみておきたい。

### （5）道路跡（SD-292・301・305・309）

第2次調査区SD-305・309はグリッド南北方向にのびており、伽藍地の中軸線にある。路面幅は9mであり、発見されていないが伽藍地の北門に至る道であろう。9世紀第4四半期の堅穴住居よりも古く、9世紀後半の遺物が出ていることから、寺院地区画溝がなくなった後の遺構変遷Ⅲ-1期に造られた北大路であろう。その東側にはSD-292・301があり、路幅4m程になる。伽藍地の区画よりも東にやや振れており、9世紀後半の遺物が出ている。これはSD-305・309から造り替えたⅢ-2期の北大路とみられる。なお、

時期	住居跡名
土器1期	第2次 SI-368・376、第12次 SI-814
土器2期	第2次 SI-241、第4次 SI-450、第7次 SI-560、第14次 SI-845
土器3期	第1次 SI-114・122・125・163、第2次 SI-251・337・379・、第5次 SI-496、第6次 SI-539、第11次 SI-686・690・714・715・751、第14次 SI-846・852・853
土器4期	第1次 SI-143・174、第2次 SI-239・307・336、第4次 SI-406・436・437・438・439、第5次 SI-500、第6次 SI-524、第7次 SI-566・588、第10次 SI-674、第11次 SI-680・691・696・698・781、第14次 SI-843・844・847・848・849
土器5期	第2次 SI-325・335・378、第4次 SI-449

第23表 竪穴住居跡の時期

この道路と主軸方向を同じくする建物が、第11次調査区のSB-700・738であり、Ⅲ-2期になると考えられる。

#### (6) 竪穴住居跡 (第158図、第23表)

竪穴住居の全体的な時期的な増減をみると、Ⅰ期(8世紀中葉)～Ⅱ-1期(8世紀後半)の土器1期には極めて遺構数が少なく、Ⅱ-2期の9世紀前葉には増加する。しかし、Ⅲ-1期(第3四半期)には伽藍地の東側・北方に遺構数が急増して、Ⅲ-2期(土器4期 第4四半期)に続く。その後、Ⅳ期(土器5期 10世紀前半・中葉)には数が激減してしまう傾向がみられる。

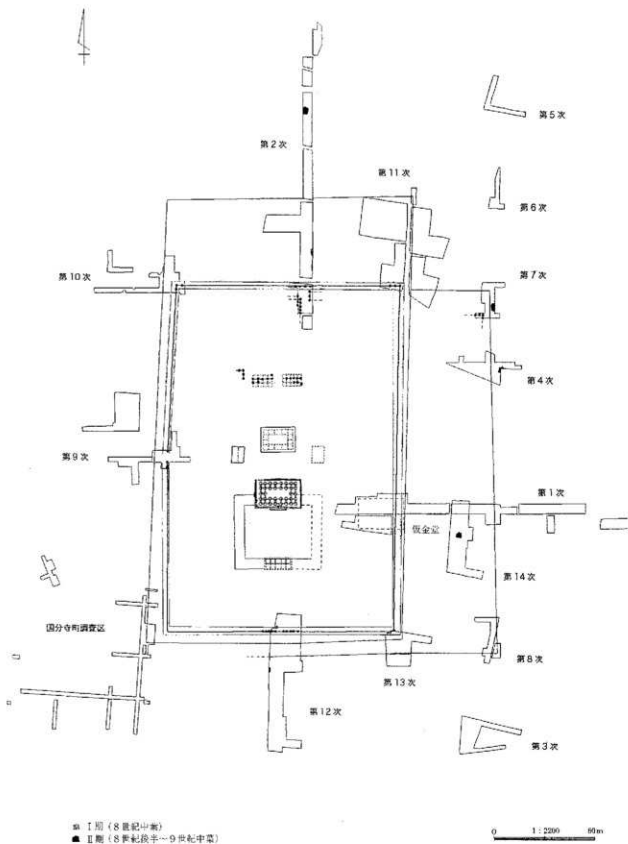
次に、各地区の様相について、概観していく。Ⅰ期には南門前に第12次調査区SI-814が確認され、丸底の土師器帯が出土していることから、国分尼寺創建期の建物で、建設に関わる遺構と推測される。伽藍地北側の寺院地内でも第2次調査区のSI-368・376が8世紀中葉になり、尼寺創建期の建物である。第14次調査区SI-845はⅡ-2期(土器2期)になり、東側張り出し寺院地内に位置する。このように8世紀後半から9世紀前半の寺院地区画内にも竪穴住居が散在して造られていた。しかし、確認した範囲では、Ⅱ期の竪穴住居跡は寺院地の外にある方が多い。

Ⅲ期(9世紀後半)には、東側と北側の寺院地区画溝がなくなる。この時期に伽藍地の東側・北側に竪穴住居が多数造られる。第2次調査区では、一部伽藍地の北辺築地塼の中にもみられる。伽藍地東側には第1次調査区SI-122が鍛冶遺構でⅢ-1期、第14次SI-844(Ⅲ-2期)からは未使用の釘が出るなど、この地域は工房が営まれる。

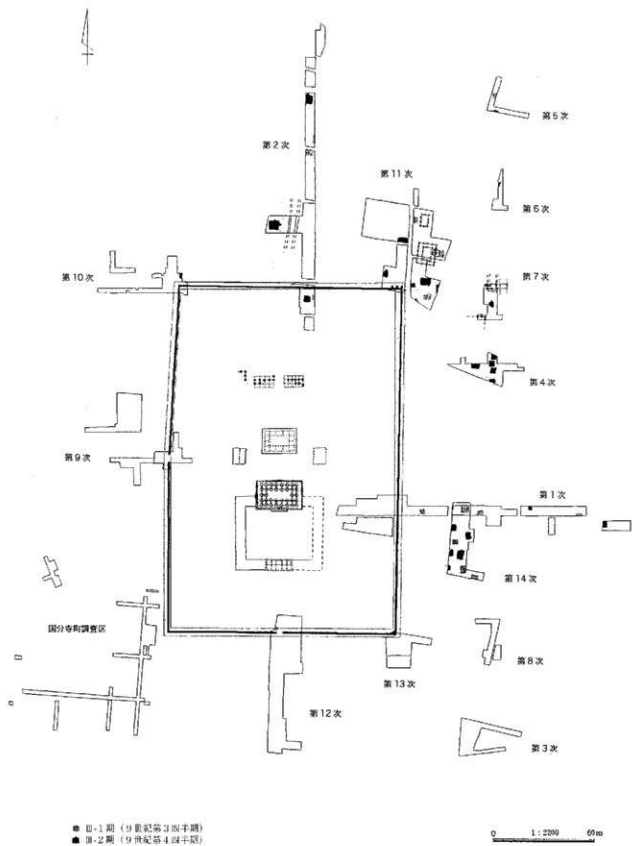
さらに、第4次調査区SI-439(Ⅲ-2期、土器4期 9世紀第4四半期)出土壺には、内面に漆膜が付着しており、漆の運搬容器であることがわかる。ここで廃棄されていることから、Ⅲ-2期にこの周囲が漆塗布の作業を行っていた工房域であると推定できる。この地域は寺院地区画施設を改修した後は、鉄製品製作や漆塗布に係わる地であることから、寺物製作などの「修理院」や「木工所」に相当する営繕施設があったと考えられる。

また、この時期の竪穴住居からは、製塩土器が出る傾向がある。Ⅱ期にも第7次調査区SI-560で僅かに確認できたが、Ⅲ期になり製塩土器の出土数は急増する。製塩土器は第2次調査区SI-239・251・307、第5次調査区SI-496、第11次調査区SI-680・696・698、第1次調査区SX-169、第11次調査区SD-330から出ている。その出土地をみると、伽藍地の北東部に多い傾向がある。

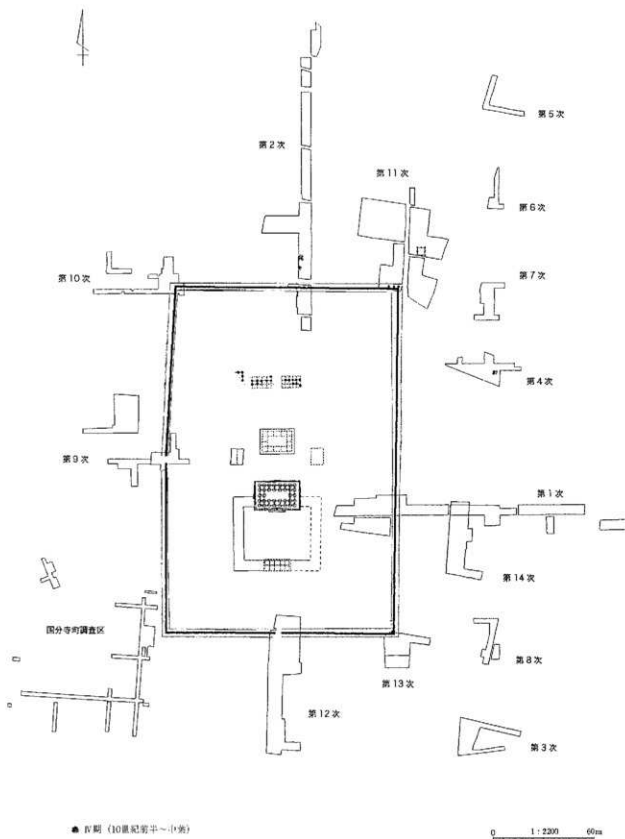
尼寺出土の製塩土器は胎土の特徴から、茨城県日立市周辺からの搬入品が多く、塩を入れた状態で寺に持ち込まれたと判断できる。製塩土器は、搬入後に容器を割って塩を取り出して廃棄することから、出土地が使用場所を反映する。このため、出土地周辺が塩を使って調理を行っていた場所となり、尼寺の調理施設があった場所といえるであろう。第2次調査区の井戸SE-371も9世紀後半になり、9世紀後半の大炊屋の



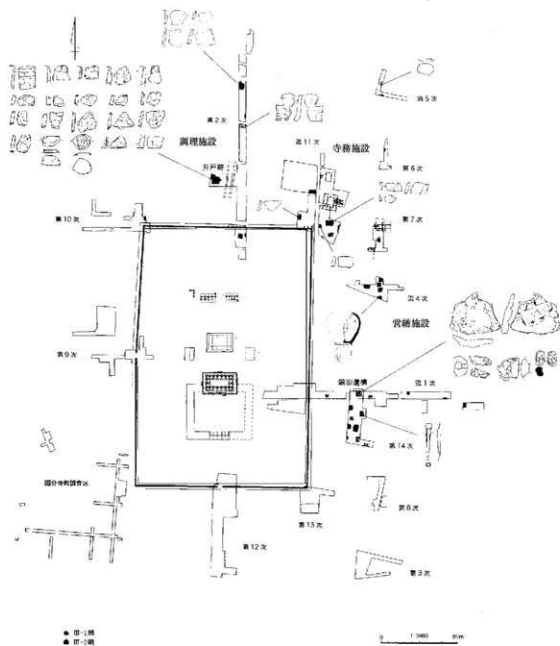
第155図 下野国分尼寺遺構変遷図(1)



第156図 下野国分尼寺遺構変遷図(2)



第157図 下野国分尼寺遺構変遷図(3)



第158図 鉄器生産遺物・漆壺・製塩土器の出土位置

時期	8世紀中葉	8世紀後半	9世紀前葉		9世紀中葉～ 第3四半期		第4四半期	10世紀前半～ 中葉
尼寺土器	Ⅰ期		Ⅱ期		Ⅲ期		Ⅳ期	Ⅴ期
瓦 (国分寺編年)	Ⅰ-Ⅰ期	Ⅰ-Ⅱ期 (750～790年代)	Ⅱ-Ⅰ期 (790年代～第1百中期)	Ⅱ-Ⅱ期 (第2四半期)	Ⅲ-Ⅰ期 (第3四半期)		Ⅲ-Ⅱ期	
尼寺遺構	Ⅰ期	Ⅱ-Ⅰ期	Ⅱ-Ⅱ期		Ⅲ-Ⅰ期	Ⅲ-Ⅱ期	Ⅳ期	
評価	創建期	主要堂宇等 造営期	堂宇大改修か再建期		区画施設 改修期		堂宇補修期	崩壊期

第24表 下野国分尼寺土器・瓦・遺構時期対照表

施設が伽藍地北方に置かれていたと判断することができる。塩は供養料としても必要な食品であり、製塩土器の出土地が塩を扱う場であったことを反映することから、寺院内の機構を考えるうえで重要な資料となる。

10世紀前半から中葉のⅣ期には、伽藍地外側の堅穴住居も閑散となり、国分尼寺の衰退期といえる。

#### (7) 国分尼寺建物変遷の両期 (第24表)

国分尼寺の建物や施設は約200年余りの間に改修・補修が繰り返された。このために、建物群の変遷に両期が窺え、上述のように大きく4期、小期を含めて6期に時期区分した。国分寺の主要堂宇は瓦の分析によって金堂・中門・塔の順に造営したという(大橋1997 94頁)。金堂地区でまとまって出た鍔瓦9と宇瓦7型式は尼寺にはないが、鍔瓦1・13型式、宇瓦1型式や1-1期前半の女瓦も確認できることから、国分寺金堂に近い時期に、尼寺の仮金堂が造営されて、本格的な伽藍地内諸堂宇を造営する1-2期まで待つことになる。1-1期は国分寺の主要堂宇を造営した時期とされており、大量の建築資材を要する堂宇造営であるため、金堂以外は国分寺と尼寺で交互に造営したと推測される。この造営事情がⅠ期の実態であろう。

Ⅱ期は、9世紀前半に国分寺では新調した瓦の割合も少ないが、尼寺では新調瓦が多くて、主要堂宇を大改修が再建したと推定した。この点は国分寺の建物変遷と大きな違いとなった。

しかし、Ⅲ期とした9世紀中葉・第3四半期には、国分寺・尼寺ともに伽藍地の区画施設を土塀から築地塀に改修し、連動するようになる。この時期には伽藍地周囲に堅穴住居が群在するように景観が一変する点も国分寺を含めたこの地域一帯の変化といえる。

10世紀は、尼寺が衰退・崩壊していく過程で、中葉まで機能していた。国分寺はそれよりも継続して機能しており、11世紀代の土器が確認できることから、尼寺よりも長く法灯を守っていた。

## 第2節 下野国分尼寺出土文字瓦の変遷

国分尼寺では、伽藍地・寺院地を含めて押印郡名文字瓦は81点、型押文の郡名文字瓦21点、郡名へら書き文字瓦370点を確認できた。そこで、時期毎に文字瓦の様相をみていく(第160図)。

### Ⅰ期：創建期(瓦1-1期)

尼寺創建期には後の主要堂宇の東側に基礎地業のある礎石建物が造られる。この建物は後の金堂と規模が同じで、この時期(瓦編年1-1期)には水道山窯及び一部三鑫の和田窯などから瓦が供給されたと考えられる。

そこで、水道山窯産の可能性のある文字瓦を列挙すると以下になる。第1次SD-113のへら書き「那」文字瓦は型押文533で、これは水道山型押文5(大川1982)に相当し、胎土に白色粒を多く含み、水道山窯産と断定できる。胎土の特徴からは第11次SD-800のへら書き「塩」と第12次SD-610Bのへら書き「塩」、伽藍地出土のへら書き「郡瓦」が水道山産と判断でき、可能性があるものとして第2次SⅠ-241から出た有段式男瓦の玉縁に「内」とへら書きされた男瓦が挙げられる。型押文や胎土の特徴から水道山窯産と判断できる文字瓦は少ないが、那須郡と塩屋郡名は確認でき、河内郡名も可能性として挙げられる。三鑫産で当該期文字瓦の判別はできない。

これらの点から、尼寺創建期にあたる仮金堂の造営に際しては、主に下野国内北部の郡から瓦が貢進され、一部三鑫窯からも供給されたといえるであろう。

### Ⅱ-1期：主要堂宇・伽藍地・寺院地区画施設造営期(瓦1-2期)(第25～27表)



押印						
郡名	文字	分類	型押文	点数		
那賀	那瓦		326	5		
			333	1		
			334A	1		
嵐屋	嵐		356	1		
			河内	内	I	246E
	II	329C	1			
		231C	1			
安宗	安宗	II	247	1		
			安	III	330A	2
					364B	1
足利	足	IV	329C	1		
			329D	1		
			333	1		
			345	1		
		V	245	1		
			VI	334A	3	
		335		5		
		IX	295	2		
			329C	1		
			346	1		
			356	1		
XI	329C	1				
	那田	矢	246E	3		
295	3					
	田	VI	326	1		
			329A	1		

へろ書							
郡名	文字	分類	型押文	点数			
嵐屋	嵐	C	225A	1			
			河内	内	A I	246E	5
						262	3
			295	1			
			338	1			
			342	1			
			343	1			
			558	1			
			A II	246E	3		
				262	6		
			337	2			
			339	1			
			343	1			
			344	1			
			466	1			
			480	1			
			549	1			
			B I	246E	1		
262	2						
274	1						
295	1						
308A	2						
309B	1						
344	1						
B II	262	6					
	295	1					
309B	1						
329A	1						
329D	1						
337	1						
341	1						
342	1						
549	2						
C	246E	1					
	326	1					
D	246E	1					
E	342	1					
F	192	2					
262	262	1					
	291	1					
G	480	1					
	不明	246E	1				
295	2						
344	1						
郡賀	可	A I	295	1			
			329D	1			
333	2						

へろ書							
郡名	文字	分類	型押文	点数			
那賀	可	A I	334A	1			
			356	4			
			A II	329D	1		
			B I b	334A	1		
			356	1			
			B II	335	1		
				395	1		
			F	356	1		
			G	335	1		
			H	333	1		
			356	1			
			瀬川	川	A	306A	1
						309B	1
			326	1			
			329A	1			
			333	2			
			334A	2			
			342	1			
			346	2			
			353	1			
			B	290	1		
				C	290	2	
			334A	1			
			353	1			
364A	1						
D	329A	1					
	333	1					
337	1						
E	292	1					
	329D	1					
346	1						
609	1						
不明	326	1					
	329A	1					
342	1						
安宗	安	AI	254	1			
A II	295	1					
	333	3					
	364A	1					
	333	1					
B II	333	1					
	621	1					
不明	249	1					
足利	足	B	364A	1			
B	344	1					
C	295	1					
356	3						
那田	矢	A	246E	2			

へろ書					
郡名	文字	分類	型押文	点数	
那田	矢	A	269	1	
			295	1	
			308A	1	
			321	1	
			324	1	
			344	1	
			352	1	
			363	1	
			404	1	
			B	246E	1
				262	1
			308A	1	
			558	1	
			C	321	2
				352	1
			D	262	1
				295	1
			E	351	1
				324	1
			B	326	1
				329	1
			329E	1	
			337	1	
			C	356	1
295	1				
324	2				
326	2				
329D	1				
336	1				
367	1				
D	340	1			
	E	329D	1		
355	1				
367	2				

その他					
押印	文字	分類	型押文	点数	
押印	寺	II	331	1	
へろ書	安田	矢	A	282	1
			十	263	2

第25表 下野国分尼寺出土文字瓦と型押文の対応表(1)

型押文	郡名	文字	分類	点数	
24E	足利	押印 足	Ⅴ	1	
	那須	→書 基	A Ⅱ	1	
246E	河内	押印 内	I	3	
	梁田	押印 矢		1	
	那須	→書 基	A I	1	
	河内	→書 内	A I	5	
			A Ⅱ	3	
			B I	1	
			C	1	
			D	1	
			不明	1	
	梁田	→書 矢	A	3	
			B	1	
	250	那須	→書 基	A I	4
			A Ⅱ	16	
		B	1		
梁田	→書 矢	A	1		
262	河内	→書 内	A I	3	
			A Ⅱ	6	
			B I	2	
			B Ⅱ	6	
			F	1	
	瀬川	→書 川	E	1	
	梁田	→書 矢	B	1	
			D	1	
			C	2	
	290	瀬川	→書 川	B	1
295	足利	押印 足	IX	2	
	梁田	押印 矢		3	
	那須	→書 基	A Ⅱ	1	
			G	2	
	河内	→書 内	A I	1	
			B I	1	
			B Ⅱ	1	
			不明	2	
	那須	→書 可	A I	1	
	安宗	→書 安	A Ⅱ	1	
	足利	→書 足	C	1	
	梁田	→書 矢	A	1	
			E	1	
			→書 田	C	1
	308A	河内	→書 内	B I	2
瀬川		→書 川	A	1	
梁田		→書 矢	A	1	
			B	1	
308B	河内	→書 内	B I	1	

型押文	郡名	文字	分類	点数
308B	河内	→書 内	B Ⅱ	1
	瀬川	→書 川	A	1
321	梁田	→書 矢	A	1
			C	2
324	梁田	→書 矢	A	1
			B	1
			C	2
			不明	1
326	那須	押印 基元		5
	梁田	押印 田	Ⅵ	1
	河内	→書 内	C	1
	瀬川	→書 川	A	1
			不明	1
	梁田	→書 田	B	1
329A	梁田	押印 田	Ⅵ	1
	河内	→書 内	B Ⅱ	1
	瀬川	→書 川	A	1
			D	1
		不明	1	
329C	河内	押印 内	I	1
	足利	押印 足	IV	1
			IX	1
			X I	1
329D	足利	押印 足	IV	1
	河内	→書 内	B Ⅱ	1
	都賀	→書 可	A I	1
	瀬川	→書 川	E	1
	梁田	→書 田	C	1
			E	1
330A	安宗	押印 安	Ⅲ	2
	那須	押印 基元		1
333	足利	押印 足	IV	1
	都賀	→書 可	A I	2
			B	1
	瀬川	→書 川	A	2
			D	1
334A	安宗	→書 安	A Ⅱ	3
			B Ⅱ	1
	那須	押印 基元		1
	足利	押印 足	Ⅴ	3
	那須	→書 基	A I	1
334B	都賀	→書 可	A I	1
			B I b	1
	瀬川	→書 川	A	2
335	足利	押印 足	C	1
			Ⅴ	5

型押文	郡名	文字	分類	点数
335	都賀	→書 可	D Ⅱ	1
			G	1
337	河内	→書 内	A Ⅱ	2
			B Ⅱ	1
	瀬川	→書 川	D	1
342	梁田	→書 田	B	1
	河内	→書 内	A I	1
			B Ⅱ	1
343	瀬川	→書 川	A	1
			不明	1
344	那須	→書 基	B I	1
	河内	→書 内	A Ⅱ	1
			B I	1
346	足利	→書 足	B	1
	梁田	→書 矢	A	1
	足利	押印 足	IX	1
	瀬川	→書 川	A	2
353	瀬川	→書 川	A	1
			C	1
356	那須	押印 基		1
	足利	押印 足	IX	1
	那須	→書 基	F	1
	都賀	→書 可	A I	4
			B I b	1
			F	1
			B	1
足利	→書 足	C	5	
359	梁田	→書 田	B	1
	那須	→書 基	A I	1
364A	那須	→書 基	A Ⅱ	1
	安宗	→書 安	A Ⅱ	1
	足利	→書 足	A	1
367	梁田	→書 田	C	1
			E	2
480	河内	→書 内	A Ⅱ	1
			G	1
549	河内	→書 内	A Ⅱ	1
			B Ⅱ	2
558	河内	→書 内	A I	1
	梁田	→書 矢	B	1

第26表 下野国分尼寺出土文字瓦と型押文の対応表(2)

	那須	塩屋	河内	芳賀	都賀	寒川	安蘇	足利	梁田	合計
押印	7	1	7	0	1	0	14	25	25	80
ヘラ書き	74	4	105	0	29	60	21	8	65	366
型押文	0	0	0	0	9	0	0	2	10	21
尼寺(1-2期) 合計	81 17%	5 1%	112 24%	0 0%	39 9%	60 13%	35 7%	35 7%	100 22%	467
国分寺(1-2期) 合計	19 5%	0 0%	2 1%	0 0%	92 25%	97 26%	71 19%	23 6%	67 18%	371
国分寺・尼寺(1-2期) 合計	100 12%	5 1%	114 13%	0 0%	131 16%	157 19%	106 12%	58 7%	167 20%	838

第27表 下野国分寺・尼寺出土郡名文字瓦(1-2期)構成比

郡名は押印・型押・ヘラ書きで瓦に表記される。伽藍地・調査区出土の押印文字瓦では那須・塩屋・河内・都賀・安蘇・足利・梁田郡の7つの郡名、型押文字瓦では都賀・足利・梁田郡の3つの郡名、ヘラ書き文字瓦では那須・塩屋・河内・都賀・寒川・安蘇・足利・梁田の8つの郡名が確認で、下野国内9郡のうち、芳賀郡を除く8郡の郡名文字瓦が確認できた。押印文字瓦では安蘇14点、足利25点、梁田25点であるが、ヘラ書きでは対照的に那須74点、河内105点、寒川60点、梁田65点などとなっており、押印文字瓦とヘラ書き文字瓦は郡によって比率が異なる傾向がみられた。

ところで、国分寺報告では1-1期には郡名は押印で行い、1-2期初頭まで押印は残るが、1-2期の町谷窯以降はヘラ書きになるという(大橋1997)。押印・型押・ヘラ書き文字瓦ともに型押文の時期比定(国分寺報告第48表)に依った。これに従うと、大半の押印・型押・ヘラ書き文字瓦は1-2期になり(註6)、押印文字瓦は1-1期で、1-2期初頭までとする指摘と異なる結果となった。

そこで、同一型押文で叩く瓦に押印文字とヘラ書き文字が併存するか調べてみた。窯跡資料では(大川1973)、同一型押文で押印文字とヘラ書き文字が共に存在するのは、町谷窯の型押文80で押印「那瓦」とヘラ書き「田」・「可」・「川」・「足」、型押文10で押印「束」とヘラ書き「内」・「安」・「川」、型押文92で押印「那瓦」・「安」とヘラ書き「内」・「川」、以下型押文番号のみ記せば、型押文40・90・98、影り直しのある型押文204でも確認できる。一方で、後出する東山窯では郡名でない「生」などをヘラ書きのみで記す瓦が型押文1・4・10・11・21・26で確認できる。町谷窯では型押文76で「川」のヘラ書き文字のみ、型押文30で「川」・「内」のヘラ書き文字のみ、型押文86で「川」のヘラ書き文字のみ、以下ヘラ書き文字のみの型押文は26・261Bで、押印のみは261Aで確認できる。

以上をまとめれば、押印とヘラ書き文字どちらもある型押文は9点、ヘラ書きか押印のみの型押文は11点であるが、郡名文字瓦に限れば5点である。この三ヶ窯の生産地資料でみた結果、町谷窯では同一型押文に押印とヘラ書き郡名文字があることから、両者は併存するとみておくべきである。町谷窯は1-2期の所産とする考えに従えば、押印文字瓦とヘラ書き文字瓦は時期差でなく、併存すると判断される。

次に、このような前提を立て、押印・型押・ヘラ書きの文字瓦を合わせて尼寺全体で構成比をみていくと、大きく3群に分類することができる。数点水道山窯産の文字瓦を含むが、1群は那須・河内・梁田郡で100点前後出土しており、全体の構成比でも20%前後を占める郡、2群は都賀・寒川・安蘇・足利郡で40～60点前後出土し、10%前後を占める郡、3群は塩屋・芳賀郡で極めて少なく、1%未満の郡である。

このような尼寺における郡名文字瓦の様相を国分寺と比較してみる。国分寺の1-2期の郡名瓦について、尼寺と同じく群分けすると、1群は100点に近い都賀・寒川郡で25%前後の郡、2群は70点前後の安蘇・梁田郡で20%弱を占める郡、3群は20点前後の那須・足利郡で5～6%を占める郡、4群は確認できない

郡で塩屋・芳賀郡になる。国分寺・尼寺の構成比をみると、塩屋・芳賀郡がいずれも極めて文字瓦が少ない。国分寺で多い1群の都賀・寒川郡は尼寺では比較的少ない郡、国分寺で比較的多い2群の安蘇郡は尼寺でも2群、国分寺で比較的少ない3群の那須郡は尼寺で多い1群になっている。このように、塩屋・芳賀郡を除くと、国分寺で郡名文字瓦の多い郡は尼寺で少なくて、逆に国分寺で郡名文字瓦の少ない郡は尼寺で多い傾向が窺える。

そして、国分寺・尼寺の郡名文字瓦で各郡の数をみると、塩屋・芳賀郡で極端に少ないが、那須・河内・都賀・寒川・安蘇・梁田郡では12～20%で、大きな数の偏差は窺えず、均等に近い数と比率になっている。

1-2期は国分寺では金堂・塔以外の建物の造営期であり、金堂・塔の補修期とされている（大橋1997 75頁）。尼寺では主要堂宇の造営期であるが、1-1期の仮金堂から移転した瓦は主要堂宇に葺かれた可能性が高い。このような二寺を併行して造営する時期に一部の郡を除いてほぼ均等に郡名文字瓦が出土するのである。郡名文字瓦の記載率は100%であると指摘されている（大橋1997 102頁）。この説に従えば、郡名文字瓦の構成比は、瓦の貢進（負担）数の構成比を反映することになる。二寺造営時に貢進（負担）する瓦の数が2郡を除き概ね均等であった事実、国分寺と尼寺では出土する郡名瓦の数に違いがある事実から、次のように推測される。主に国分寺に屋瓦を貢進（負担）する都賀・寒川郡などと尼寺に屋瓦を貢進（負担）する那須・河内・梁田郡に枚数を分担して、科していたと考えられる。これは国分二寺造営に係わる特定郡への貢進（負担）集中を防ぎ、国内部の貢進（負担）均等化を図って、国を挙げて国分二寺造営を行ったためと考える。これまで、国分寺創建期（1-1期）には郡の規模と郡名文字瓦の枚数が対応していることから、瓦の製作枚数を郡の規模で決めていたと指摘されている。その後の1-2期には郡の規模と郡名文字瓦の枚数が対応していないことから、郡毎の瓦の負担枚数は郡の規模で決まっていなかったと指摘されていた（大橋1997 97・98頁）。しかし、1-2期について、尼寺の様相を国分寺報告と同じ方法で集計した結果、主に国分寺に瓦を貢進する郡と尼寺に貢進する郡が役割分担していたことが明らかになった。この時期には二寺を同時に造営しており、造営と郡の貢進（負担）事情に起因すると考えられる。

## II-2・Ⅲ期：改修・補修期（瓦2・3期）

この時期には型押文字瓦「寺」・「国分寺」・「国分寺瓦」などに限られる。型押「寺」Ⅲは尼寺では出ていないが、国分寺と東山5号窯で飛雲文字瓦（4G）に叩かれており9世紀前半になる。型押「寺」ⅣAは東山3号窯で宇瓦5型式と9世紀後半の土師器坏（大川1976 78頁）と出土していることから、9世紀後半に位置付けられる。「寺」ⅣBは尼寺第2次SD-334により9世紀第4四半期から10世紀前半を下限とすることと、ⅣAの影り直しであることから、9世紀後半になるであろう。「寺」Ⅴも尼寺第4次SK-461で土器と出土しており、9世紀後半が下限になる。「寺」Ⅵは鶴舞窯で出土していることから9世紀代に位置付けることができる。

不明押印文字瓦では、Ⅳは尼寺・山海道遺跡の堅穴住居で土器と伴っており、9世紀後半を下限とする。Ⅵは新聞遺跡の堅穴住居で灰輪陶器と伴っており、9世紀後半を下限とする。これらを含めてⅥも凸面に縄叩き・離れ砂が付いており、国分寺編年でも9世紀後半にしていることから、不明押印文字Ⅳ・Ⅵ・Ⅶは9世紀後半と考える。

「国分寺」型押文字瓦では、国分寺出土で宇瓦に押されたものは全て3期になっている。尼寺出土瓦では遺構の時期からⅠBが9世紀中葉から第3四半期以前、Ⅱが9世紀第4四半期以前、Ⅴが9世紀第3四半期以前になる。このため、「国分寺」型押文字瓦は9世紀後半と位置付ける見解を追認する。

「国分寺瓦」は、尼寺の第1次SⅠ-125で出ており、遺構の時期が9世紀中葉から第3四半期であることから、それ以前になる。

以上のように、国分寺などの成果や尼寺における出土遺構から時期比定を行った。総じてみれば、9世紀前半には型押「寺」Ⅲ、9世紀後半には型押「寺」ⅣA・「寺」ⅣBと不明押印文字Ⅳ・Ⅵ・Ⅸ、及び「国分寺」型押文字瓦があり、「国分寺瓦」は9世紀中頃と考えておきたい。

このような時期比定で点数をみると、9世紀後半に押印「寺」ⅣA・ⅣBで16点、「国分寺」が23点、不明押印文字Ⅳ・Ⅵ・Ⅸは計16点で、合計55点になる。「寺」Ⅸ・「国分寺瓦」は計5点である。なお、ヘラ書き文字瓦の時期を当該期に明確に位置付けられるものはなかった。

Ⅱ-1期の主要堂宇・伽藍地・寺院地区画施設造営期(瓦1-2期)には、郡名文字瓦で押印文字瓦80点、型押文字瓦21点、ヘラ書き文字瓦366点で、郡名文字瓦は合計467点確認できた。9世紀代の「国分寺」・「寺」銘文字瓦は尼寺では計44点であり、郡名文字瓦の10分の1以下に減っている。

このことは、9世紀代に文字瓦の数が減少し、郡名表示から「寺」・「国分寺」など寺名表示に変化するという国分寺の傾向に符号する。しかし、尼寺の文字瓦と比較すると、国分寺の方が郡名文字瓦から「国分寺」・「寺」銘文字瓦へ減少する割合が少ない。

ところで、8世紀中葉から後半には郡名を瓦に記していたが、9世紀には郡名表示がなくなり、寺院名や寺と表示するように変化するが、その要因を解明する必要がある。大橋泰夫氏は2期(8世紀末から9世紀前半)に変形格子目ききによって瓦工を識別するように変化したと推測している(大橋1997 115頁)。

字義としては、8世紀代に各郡の貢進瓦であることを表示する必要があったが、8世紀末以降は郡の貢進瓦であることを表示する意味がなくなったと判断できる。替わって、瓦を葺く国府や郡家などと供給先を識別するため「国分寺」・「寺」銘文字瓦に変化したといえる。換言すれば、各郡の貢進・負担で生産しており、生産・貢進側を識別するための文字瓦から、生産側が一体化し、識別する必要がなくなり、供給先を識別することが必要になった文字瓦と判断される。そして、一体化した瓦の生産主体となるのは、国司・国衛であろう。

このことを官符や法制史料からみると、『類聚三代格』天平神護2年8月18日太政官符に、  
国分寺先經造畢塔金堂等。或已朽損料。致<sub>レ</sub>傾落。如<sub>レ</sub>是等類瓦。以<sub>レ</sub>造寺料種。且加<sub>レ</sub>修理<sub>レ</sub>之。  
とあり、早くも766年には造国分寺料で修理していた。この造寺料が出挙によっていたことは、『続日本紀』天平16年(744)7月甲申条に

詔曰。西畿内七道諸国。々別割<sub>レ</sub>取正稅四万束。入<sub>レ</sub>僧尼兩寺。各二万束。毎年出挙。以<sub>レ</sub>其息利。永支<sub>レ</sub>造<sub>レ</sub>寺用。

とされ、出挙の利息で国分二寺の造寺料を支えていた。この造寺料は国分寺造営が一段落した後は「修理国分寺料」となったことは『日本後紀』弘仁2年(811)9月己亥条に

令<sub>レ</sub>諸国。依<sub>レ</sub>旧出<sub>レ</sub>挙修理国分寺料。

とあることによってわかる。これが下つて『延喜式』主税寮式の正税帳条にも

当年出挙并借貸若干束(中略)

修理国分寺料若干束 返<sub>レ</sub>納本倉。若有<sub>レ</sub>諸色。各為<sub>レ</sub>一項。

と規定されている。10世紀前半まで国分寺の修理費が計上され、修理国分寺料は正税出挙でなされていた。そして、但馬国分寺木簡の題箋に「造寺料取納帳」があったことから、実際に国からの造寺料で運用していたのである。

このように、天平年間から国分寺の造寺料は出挙利息で支える規定になっていたが、下野国分二寺では8世紀中葉から後半まで国内の各郡から瓦を貢進することにより、屋瓦を調達して寺を造っていた。当該期の瓦を造寺料により調達したという見解に接しない。詔や官符と違った方法で寺を造っていたのである。

8世紀末から9世紀代には、郡名文字瓦はなくなり、寺院用の瓦を分別する文字瓦に変化する。これは、国からの修理国分寺料により窯場で瓦を生産し、寺料分の瓦の納付先を明記したものと考えるべきであろう。出挙利幅によって賄った修理国分寺料で生産した瓦について、納付先を明らかにしたのが「国分寺」・「国分寺瓦」・「寺」銘文字瓦といえるであろう。下野栗師寺から出た「栗師寺瓦」・「栗」・「師」も胎土などから三叢窯産と指摘されており（勝見・中道2004）、三叢の一通窯跡・弥三郎ヶ沢南窯跡で「師」の旁を表した型押文字瓦が出ている（栃木県教育委員会1988）ことによっても裏付けられる。

下野国では、従前から操業していた窯場（三叢窯）で国内各郡の貢進瓦を一括生産する体制から国が修理国分寺料によって窯場で国分寺瓦を生産する体制に変化し、国の関与が強くなったことが想定される。官符の規定に従い国衙が主体となった瓦生産＝造寺に変化したとみることができ、文字瓦の変遷から造瓦体制の変化を読み取れるのである。

### 第3節 下野国分尼寺出土土器・瓦の変遷

#### 1 土器の変遷（第159図）

国分尼寺からは、住居跡や溝跡などから多量の土器類が出土した。ここでは、これらの編年を提示して、遺構変遷の根拠とする。

##### 1期（8世紀後半）

須恵器は口径15cm以上、底径8～9cm程の坏である。明瞭な二次底部面を有し、底部外面は三叢産では糸切り後に中心部を除いて回転鈍削りを施し、益子産では寛切り後に撫でている。三叢産では三通窯、益子産では原東2号窯の段階に比定される。土器器坏は丸底で、内面に連郭状磨きを施すものと平底気味の底部で、口縁部上半が内彎する内彎口縁坏、ロクロ撫で調整するものに分類できる。盤は口径20cmを超す大型品である。時期は三通窯・原東2号窯が8世紀第3四半期であるが、土器から判明する確実な遺構が少ないことから、第3四半期を含む8世紀後半としておきたい。S I -368を標識とする。

##### 2期（9世紀前葉）

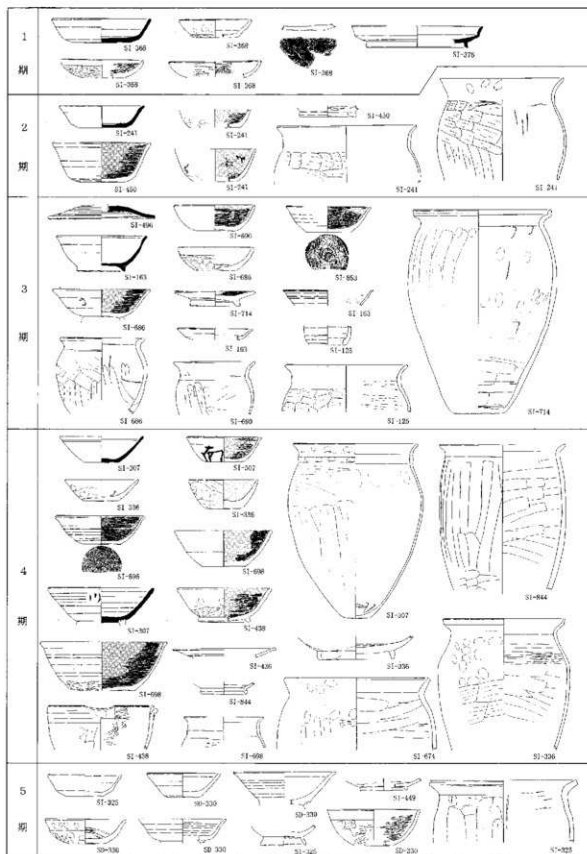
須恵器坏は口径13cm前後、底径8.4～6.6cmであるが、7～8cmが主体で、二次底部面が明瞭である。土器器坏はロクロ調整するものに限られる。底径8～7cm程で、底部糸切り後に外周と体部下端を回転や手持ち鈍削りする。黒色処理して丁寧に磨きを施す。土器器碗は口径・底径比の少ない形態である。

土器器甕は所謂武蔵型甕で口縁部がくの字形を呈するものと緩やかなコの字形を呈するものが存在する。胴部上端は横位に、その下は斜位に、胴部下半は縦位に鈍削りを行う。

時期的には、須恵器坏が三叢窯寂光沢3号窯のものに類似し、灰陶陶器も井ヶ谷78号窯式が共存している。寂光沢3号窯は8世紀第4四半期後半から9世紀第1四半期、井ヶ谷78号窯式は齋藤孝正氏によれば800～820年に位置付けられている。武蔵型甕の口縁部がくの字形とコの字形が共存する点などから、本期を9世紀前葉としておきたい。

##### 3期（9世紀中葉～第3四半期）

須恵器坏は底径5～6cm前後で、三叢産は回転糸切り未調整が主体である。この坏は大芝原窯B地点段階に当たる。土器器坏は口径12～13cm、底径6～7cm程で、ロクロ撫で、内面黒色処理を行う。回転糸切



第159図 下野国分尼寺出土土器変遷図

縮尺 1/4

りを行う底部は未調整が主体である。筥切り坏も少数存在し、切り離し後に撫でを行っている。

土師器坏で特徴的な技法のものは、体部外面に篋削りを施し、底部外面に離れ砂の残る一群がこの時期から確認できるようになる。須恵器の高台付坏の数は減少し、岡窯産の可能性のあるものがわずかに確認できる。また、須恵器蓋も組む高台付坏の減少に伴って少ない。土師器でも高台付坏は少なく、底径6cm程で、高台も長く踏ん張る形態がすでに出現している。土師器皿は瓷器模倣形態が存在する。

土師器甕は、従前の武蔵型に加えて常総（下野）型甕も確認できた。この甕は肩の張りも少なくなつて、胴部が窄まる形態である。武蔵型甕も継続し、明瞭なコの字形口縁になるが、小型甕か台付甕はコの字が緩やかである。さらに、口縁部がやや厚くてくの字形に相反する鶴田中原タイプも1点確認された。

灰釉陶器は黒笹90号窯式や光ヶ丘1号窯式がS I -163で共存しており、S I -125でも光ヶ丘1号窯式の小瓶が出ている。本期が9世紀後半に位置付けられるが、次期との関係から第3四半期から中葉としておきたい。

#### 4期（9世紀第4四半期）

須恵器坏は口径12～13cm、底径は5～6cmが主体になり、底径が小形化している点で3期と画すことができる。口径に対する底径の比は1/2かそれ以下になっている。器高は3.5～4.0cm程である。三森産の須恵器坏は底部回転系切り後の調整を行わず、大芝原窯B地点の段階に比定される。ロクロ使用の土師器坏も底径が小さくなり、底径5～6cm程を主体にする。底部回転系切り未調整を主体とするが、篋切りも少数存在する。また、前期に続き非ロクロで、体部外面を篋削りする坏や高台付坏がある。高台付坏はこの時期に初見であるが、高台が断面台形で低い点の特徴である。しかし、高台付坏は無台の坏に比べて格段に少ない。須恵器高台付坏は口径に比べて底径が1/2以下になっている。

土師器甕は前期と同じくの字形口縁の武蔵型甕もあるが、器厚の厚くなったものも存在する。また、鶴田中原タイプ甕（S I -844出土）もあるが、形態上での変化は少ない。鶴田中原タイプ甕は本県では宇都宮市から芳賀郡北半・塩谷郡・那須郡域に主に分布し、河内郡南部は流通域の周縁になる（津野2007）。国分尼寺は分布域の外に当たることから、流通品か貢進品と考えるべきである。その他に胴部外面下半を磨かない常総（下野）型甕甕も確認され、片口の付いた鉢もみられた。

灰釉陶器は黒笹90号窯式②が複数確認され、美濃光ヶ丘1号窯式もある。90号窯式は齋藤孝正氏によれば840～900年に位置付けられており、3段階に区分されている（齋藤1994）。この60年間の2段階となり、大芝原窯B地点の段階でも底径が小形化していることから9世紀後半の中の後半、第4四半期頃に位置付けておく。

#### 5期（10世紀前半～中葉）

土師器坏が主体になり、須恵器は激減する。より一括性が高いと考えられる住居跡出土のロクロ撫で土師器坏は、口径11～12cm、底径6cm前後、器高2.6～4.3cmまでであるが、3cm代が主体になっている。底部は回転系切り・筥切り・一方向手持ち篋削り・底部から体部外面下端一方向篋削りなどがあって、技法は多様である。

第2次調査区SD-330のロクロ撫で土師器坏は、口径10.6～13.4cm、底径5.0～8.0cm、器高2.8～3.8cmまでであるが、口径は11～12cm、底径6cm、器高3.5cm程が中心になる。底部は回転系切り離し未調整が大半であるが、筥切りも僅かに確認できる。ここの形態は多様で、体部が逆八の字形に開く形態が主体であるが、口径・底径差の少ない坏も少数みられる。高台付坏の体部は直線状のものと内湾するものがあるが、後者が後出するタイプであろう。高台は長くのびている。



土師器甕は、口縁部に平坦面を有する常総（下野）型甕の系譜を引くものである。口縁部下は無調整で、その下方を飽削りする。第2次S I -325や第2次S D -330を標識とする。

国分尼寺出土の当該期の遺構で、灰軸陶器などと共伴する事例がないが、国分寺跡で大原2号窯式と共伴するS I -392・S K -749の坏と当該期の坏が類似する。大原2号窯式は齋藤氏によれば900～950年に位置付けられている。

これに後出する虎渓山1号窯式と共伴する坏は口径10～12cm、底径5～6cm、器高3cm余りで前期よりもやや小型化したものと、口径9～11cm、器高2cm以下で、浅く小型の皿状のものが組み合わさる。小皿形の出現することが大きな画期となる。高台付坏は体部が大きく内湾するようになり、高台の径が小さくなっていく。国分寺跡S I -247・265・1055、S K -2・1031が代表的な当該期の資料である。尼寺では小皿形が第12次S D -836などで、灰軸陶器では虎渓山1号窯式も少数確認されていることから、5期の下限を10世紀中葉としておく。

続く灰軸陶器丸石2号窯式の時期には、小皿形と小型化した高台付坏があり、国分寺跡S I -1053が代表的な資料である。しかし、国分尼寺には当該期の資料は確認できない。

## 2 瓦の変遷（第160図）

国分尼寺の瓦については、分類・時期比定に関して、国分寺の分析成果に依った。しかし、尼寺の軒先瓦で国分寺報告に確認できないものや国分寺のみで確認できるものなどがあり、組合せなどに多少の違いも存在する。そこで、各時期における軒先瓦の組合せを中心に変遷をみていきたい。

### （1）軒先瓦組合せの変遷

#### 1-1 期

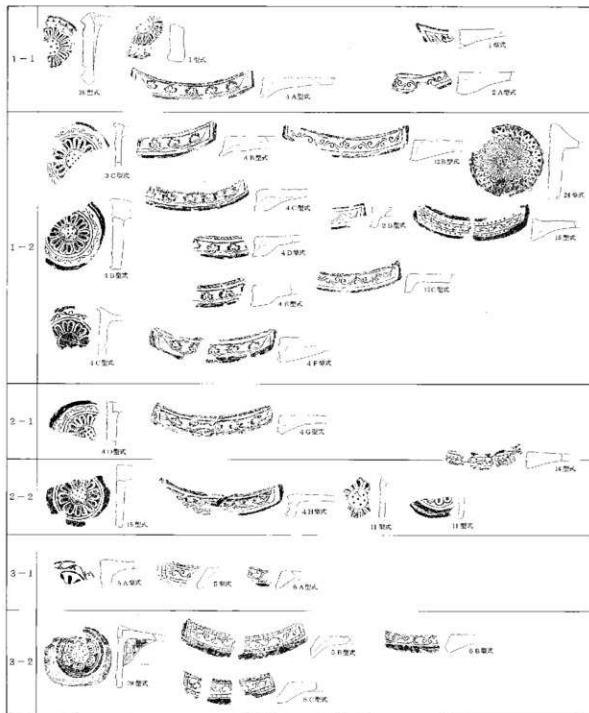
後代の伽藍が造営される東側に仮金堂が建てられる。この時期の鏡瓦は出土数が少ないが、26型式の線歯文縁複弁八葉蓮華文鏡瓦が7点で最も多く確認され、主体となる鏡瓦である。次に、1型式（水道山窯産の線歯文縁複弁八葉蓮華文）が3点、9・13・31型式は僅かに確認できたのみである。生産地では1型式は水道山窯、26型式は胎土の特徴から水道山窯産の可能性があり、13・31型式は三叢の和田窯で確認できる。

宇瓦は1型式（均整唐草文、薬師寺203E型式）、2A型式（均整唐草文）、4A型式（飛雲文）が各3点確認できたが、尼寺1969報告では、1型式（報告の軒丸瓦三）は5点出土したと報告されていることから、出土点数では最も多いことになる。生産地では、1・2A型式は水道山窯、4A型式は三叢の町谷窯であろう。軒先瓦の組合せでは鏡瓦1型式（線歯文縁複弁八葉蓮華文）と宇瓦1型式（均整唐草文、薬師寺203E型式）が主体となっていた。

文字瓦では、「郡瓦」や「那」「塩」の郡名へら書き文字瓦が胎土や文字の特徴から水道山窯産と判断された。このことは、軒先瓦で水道山窯産が主体であって、三叢窯の和田・町谷窯などが一部含まれていたことが確認できたことと符合し、尼寺仮金堂の屋瓦が水道山窯を主体にして、三叢の複数の窯からも補完的に納めたことがわかった。

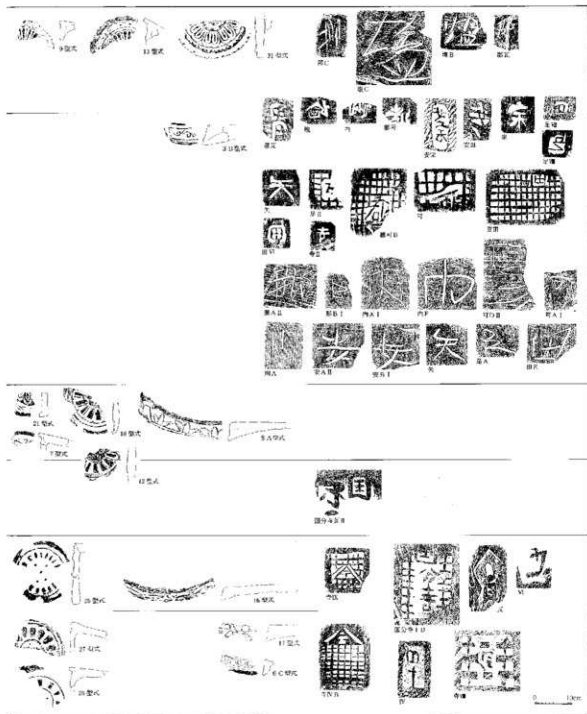
#### 1-2 期

仮金堂を移築し、講堂・回廊など国分尼寺の主要堂宇を造営する時期である。鏡瓦では、3C・4B・4C型式が主体で、国分寺編年によれば、3C・4B型式が当該期前半になる。これらは、團唐草文縁複弁八葉蓮華文である。宇瓦では2B・12B・4B・4C型式が前半の主体となる瓦であり、その後半期には12C・



第160図 下野国分尼寺 軒先瓦組合せ・文字瓦変遷図

4 F型式が主体になっている。2・12型式は均整唐草文で、4型式は飛雲文である。特に前半期の点数が多いことは、この時期が主要堂宇造営期であることを裏付け、團唐草文縁祿弁八葉蓮華文鏡瓦と均整唐草文宇瓦・飛雲文宇瓦が組む。国分寺報告では、瓦窯での組合せから鏡瓦3 Cは宇瓦2 B・12 B、鏡瓦4 Bは宇瓦4 B・4 C、鏡瓦4 Cは宇瓦4 D・Eと組むことを指摘しており、これらが下野国分寺式の軒先瓦の組合せであるという（大橋1997 72・73頁）。国分尼寺において主要堂宇造営期に主体となる軒先瓦は、基本的に国分寺と同じ組成であったことが確認できた。また、下野国分寺式の軒先瓦が大半を占め、後述の鏡瓦



24 型式と宇瓦 15 型式が加わるが、その他の型式は少ない点も当該期の特徴である。

国分寺と尼寺の軒先瓦の相違は芳賀郡式とされる軒先瓦の出土数に現れる。鍍瓦 24 型式と宇瓦 15 型式は、大内藤寺において組合う軒先瓦であることが指摘されている（大金 1987）。国分寺では鍍瓦 24 型式が 1 点出土しているが、宇瓦 15 型式は報告されていない。一方、尼寺では鍍瓦 24 型式が 2 点、宇瓦 15 型式が 7 点出ており、宇瓦は 4 C 型式の数にも比肩する。宇瓦 15 型式は中村遺跡の出土事例から 8 世紀中葉になり、西山窯産である。この型式は尼寺主要堂宇造営期の所産で、この時期（1-2 期）の宇瓦 104 点に対して鍍

瓦24型式と組む字瓦15型式は7点である。字瓦15型式は1-2期全体の字瓦のうち6%余りになり、この割合が芳賀郡から貢進された割合であったとみられる。

国分尼寺では芳賀郡に係わる文字瓦は確認できなかった。国分寺では1461点の郡名型押文字瓦のうち芳賀郡は7点のみ確認された。芳賀郡の押印・ヘラ書き文字瓦はないが、「芳」の型押文字瓦は胎土から三疊産の可能性があり、ほかの郡とともに一括して三疊窯で生産していたと判断される。尼寺では鏡瓦24型式と字瓦15型式が一定の割合確認できたことから、芳賀郡内の窯（西山窯）から一定数を直接尼寺に貢進していたと考えられる。文字瓦の郡名の割合と字瓦15型式の割合を比較すると、郡名字瓦全体数のうち都賀郡が9%、安蘇・足利郡が7%であり、1-2期全体の字瓦のうち6%余りが字瓦15型式の芳賀郡式であることから、芳賀郡では都賀・安蘇・足利郡名の文字瓦と軒先瓦の割合がほぼ同じであった。このことから、各郡は同程度の瓦を貢進していたことになる。

### 2-1・2-2期

主要堂宇造営が終了した後の段階であるが、8世紀の造営期と同程度の軒先瓦・女瓦などが確認できたことから、尼寺主要堂宇の大改修か再建のための瓦と判断される。

主な鏡瓦は2-1期では4D型式、2-2期は11型式、2期の中では15型式であった。字瓦では2-1期に4G型式、2-2期には4H型式が主体で、2期の中に位置付けられる14型式が18点で次いでいた。このため、2-1期は鏡瓦4D型式と字瓦4G型式、2-2期は鏡瓦11型式と字瓦4H型式、また、鏡瓦15型式も11型式に比較的類似しており、4Hと組む可能性がある。この組合せは国分寺と同じであり、下野国分寺式は尼寺でも使用されたことが確認できる。

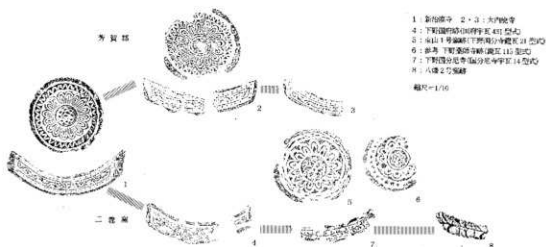
国分寺との相違点は字瓦14型式が18点確認でき、2期の字瓦99点のうち18%をこの型式が占めている。この字瓦の文様は、ペンギン文様を中心飾りにして、左右に唐草文が不規則にのび、外区に珠文を配しており、字瓦15型式から退化した文様であるとみられる。1-2期では、字瓦15型式には鏡瓦24型式が組んでいた。鏡瓦24型式の組列には尼寺出土鏡瓦では21型式が後続し、二重線で蓮弁を表現しており、尼寺では伽藍から3点確認できたのみである。生産地では字瓦14型式は三疊鶴舞窯の構築材に使われており、鏡瓦21型式は東山窯で出ている。国分寺と尼寺での出土数にやや違いがあるが、組み合わせる瓦としておく。

国分寺では、圓唐草文が粗雑になった鏡瓦7型式と飛雲文字瓦の文様を粗く写した字瓦8型式が一定数確認できたが、国分尼寺では鏡瓦7型式は3点、字瓦8型式は8A型式が4点のみである。

### 3-1・3-2期

伽藍の区画施設を築地に改修するⅢ-1期、主要堂宇を補修するⅢ-2期である。Ⅲ-1期（瓦3-1期）の軒先瓦は非常に少なく、鏡瓦は5A型式が1点、字瓦は6A型式が2点に限られ、これらが組合せになる。3期に入るとも鏡瓦25型式2点、字瓦5型式2点、6型式2点のみである。鏡瓦25型式は、男瓦部と瓦当部を一体に成形する一本造り技法である。蒲鉾状の蓮弁で内区との境に圏線がない。これと組む字瓦の特定は断定できないが、9世紀後半が下限になる「寺」Ⅷの型押文字を叩く字瓦16型式が候補に挙がる。

3-2期には字瓦は、5B型式が格段に多くて、5C型式が次ぐ。これらを主体にして、6型式が少量加わっている。鏡瓦は単弁の28型式が挙げられるが、5B・C型式の数に比べて明らかに少ない。時期を決めたいが、鏡瓦29型式は伽藍から9点出土している。複弁の文様や蓮子も不規則で、鏡瓦11型式の系譜で理解できることから、3期の可能性を指摘しておきたい。国分寺では字瓦5・6型式は、鏡瓦5型式と組むことが指摘されているが、国分尼寺では鏡瓦5A型式は1点、5B型式は確認されておらず、国分寺と異なった組合せになる。鏡瓦29型式の数が多いため字瓦5・6型式と組む可能性がある。さらに、27型式や



第161図 新治系軒先瓦変遷図

28 型式など発見点数の少ない鏡瓦群が組むと考えられる。なお、鏡瓦 27 型式については 3 期に位置付けられており(山口 2011)、八幡窯で出ている 17 型式も点数の少ない宇瓦であるが、この時期になると考えられる。

## (2) 新治系瓦の変遷 (第 161 図)

国分尼寺の軒先瓦では、国分寺で顕著でなかった芳賀郡西山窯の均整唐草文 (15 型式) やその変容した宇瓦 (14 型式) が確認された。国分尼寺では下野国分寺式を 9 世紀前半まで主体としながらも、国分寺と異なった系譜の瓦が一定数存在したことが明らかになった。

西山窯や大内院寺の軒先瓦に関しては、以前より新治院寺との関係が説かれてきた(大金 1987)。また、下野国内に芳賀郡域以外にも常陸からの系譜が存在することは黒沢彰哉氏によって説かれていた(黒沢 1988)。氏は西山窯などの鏡瓦 24 型式については新治院寺系であるが、下野国府出土の唐草文様は別な流れであることを慎重に示唆している。常陸の瓦との関連では、田熊清彦氏も下野国府宇瓦 431 型式について、常陸国の各郡との係わりを指摘する(田熊 1990 32 頁)。その後、大橋泰夫氏は西山窯軒先瓦が変容して、三叢窯で生産されることに関して、鏡瓦 24 型式の影響を受けた 21 型式が三叢の東山 1 号窯で生産されていること、この系譜を引く鏡瓦として 14・16・18・22 型式を挙げ、芳賀郡の瓦工が三叢山麓で生産にあたったと指摘し(大橋 1997 109 頁)、瓦当文様の系譜を工人移動に結びつけている。

そこで、諸氏の見解の相違点を見ると、黒沢氏が示唆した常陸系(新治系)の軒先瓦が芳賀郡域以外にも存在するのかが課題になり、芳賀郡内と三叢窯におけるそれぞれの変化を把握する必要がある。その後、常陸との比較と芳賀郡と三叢窯との比較によって、黒沢・大橋氏の見解の相違が解決すると考える。そして、郡系瓦の再検討につながると思う。

### ① 芳賀郡における国分寺・尼寺鏡瓦 24 型式・宇瓦 15 型式の変化

芳賀郡内の大内院寺の軒先瓦に関して大金宣亮氏が変遷図を提示し、唐草文宇瓦(国分尼寺宇瓦 15 型式)が退化するという。大内院寺Ⅲ期宇瓦ではペンギン状の中心飾が消えて、陽刻で表していたⅡ期の唐草文を陰刻で表現するようになるが、左右 6 単位である点は継承している。外区の珠文は凹面側と側縁側に残るが、下辺は消える。鏡瓦については明らかでない。

## ②三義窯における常陸系瓦の変遷

宇瓦で最も古くなるのは、下野国府宇瓦 431 型式である。この瓦は、中心飾をペンギン文様として、左右に 4 単位の唐草文を配する。線は繊細で、右端に范傷があるもの（国府図版 12-319）も確認できる。凹面の瓦当面側は丁寧に横ケズリを行っている。国府Ⅲ期以降の整地層から出たことにより、下限は 790 年頃になり、田熊氏はⅡ期の 8 世紀後葉頃に位置付けている。この型式は三義窯の大伏瓦窯（古谷 1926）・ミヨノ入窯跡で出ている（佐野市郷土博物館 1990）。

これに後続するのは、国分尼寺宇瓦 14 型式である。この瓦の文様は、中心飾はペンギン文様であるが、波状の主葉が単調になり、蔓が左側で上下各 9 本、右側の主葉の下は 9 本の蔓であるが、上は半環状文が 2 箇所現れ、左右対称でなくなる。外区の珠文は継承されるが、瓦当厚が薄くなり、凹面端部は無調整のものが大半で、僅かに撫でるものも確認できる。型押文によって国分寺編年 2 期（9 世紀前半）になる。

さらに後続するのは、八幡 2 号窯出土の宇瓦である（大川 1976・佐野市史編さん委員会 1975）。主葉はまっすぐになり、その上下に直線や弧状の線がのびる。国分尼寺第 4 次出土瓦は頸がないが、八幡 2 号窯では曲線頸になっている。范は異なるが、大慈寺出土瓦（津野 2004）にも確認できる。八幡 2 号窯で国分寺鏡瓦 5 型式に類似した瓦があることから、国分尼寺宇瓦 17 型式は 9 世紀後半になる。このように、常陸の新治系と目される均整唐草文宇瓦は三義窯内で型式変化をみることができた。

鏡瓦では単弁で、二重線で弁を表すものが東山 1 号窯で出ており、9 世紀第 1 四半期に位置付けている（大橋 1998）。しかし、これには内区との境に圏線がなく、やや違いがある。薬師寺鏡瓦 115 型式は産地不明であるが、外区に鋸歯文が表現されており、より大内廃寺Ⅱ期の鏡瓦に類似する。さらに、下野国府跡第 38 次政庁Ⅳ期南門基壇上から出た鏡瓦（国府 212 型式）は、周縁が直立縁になる以外は大内廃寺Ⅱ期鏡瓦により類似する。この鏡瓦について田熊氏は 9 世紀中葉に位置付けている（田熊 1990 第 28 図）。

鏡瓦については、国府宇瓦 431 型式段階では不明で、東山 1 号窯の段階では国分寺宇瓦 9 型式と組んでいたと判断できることから、常陸の組合せと異なっている。東山 1 号窯の国分寺鏡瓦 21 型式や薬師寺鏡瓦 115 型式（註 7）と国分尼寺宇瓦 14 型式が組むことが確認できれば、三義内で常陸系の組列が指摘できる。

## ③芳賀郡式瓦と三義窯の係わり

三義窯では、新治廃寺Ⅱ期の影響を受けた均整唐草文（下野国府鏡瓦 431 型式）が遅くとも 8 世紀後半には生産されていた。この瓦当文様は線が繊細であるが、新治廃寺Ⅱ期の唐草文が左右 6 単位であるのに対して三義窯では 4 単位になっている。ただし、中心飾りの上端が三角になる点やその両端に突起が出る点など大内廃寺（国分尼寺 15 型式）よりも中心飾の文様は新治に類似している。これらの点から組む鏡瓦は不明であるが、下野国府鏡瓦 431 型式は新治系と考えておきたい。

8 世紀後半に既に新治系の軒先瓦が存在することにより、西山窯から東山窯に工人が移動したと考えることはできない。大内廃寺Ⅲ期宇瓦と国分尼寺宇瓦 14 型式が異なっていることから、新治系を各窯に導入した後は独自の展開をしたと判断される。

下野国内における 8 世紀の瓦当文様の地域性を部系瓦と理解するが、下野国分寺式を主に生産する三義窯に常陸新治系が導入される。下野国内では地域性をもった文様意匠として展開し、三義産瓦の一列を造る。今後、9 世紀における三義産瓦の系譜を再検討することにより、より国衡の関与が強化した 9 世紀の造瓦体制が明らかになると考える。

## 第4節 下野国分尼寺出土須恵器の流通

国分尼寺からは多量の土器類が出土し、の中には下野国内で生産された須恵器や土師器、周辺の国から持ち込まれた土器などがある。ここでは、その主体となる須恵器の産地を時期ごとに分類して、構成比の変化をみていきたい。様々な集計方法があるが、ここでは時間的な理由により実測できた316点の須恵器をもとに、産地の構成をみていく。

### (1) 各期の産地構成比 (第162・165図)

#### 土器編年1期 (8世紀中葉～後半)

尼寺創建期の須恵器は確認できた数が少ない。寺院地全体で実測できた点数は三義窯13点、益子窯13点、宇都宮窯1点などであり、三義窯と益子窯産が拮抗していることが指摘できる。時期は不明ながら、伽藍地内から宇都宮窯産鉄鉢形が1点出しており、窯の操業時期から判断して1～2期の所産であろう。三義窯産は、僧房から2点出しており、長期間使われた食器もあったようである。須恵器の他に原始灰輪陶器で井ヶ谷78号窯式前半の壺も搬入されているが、数は極めて少ない。

#### 土器編年2期 (9世紀前葉)

調査区の遺構内外の点数では三義窯産13点、益子窯産9点で、寺院地全体では三義窯産14点、益子窯産10点確認できた。両窯の製品が主体である点は1期と同じであるが、1期に三義・益子窯産で拮抗していた状況から、三義窯産が優勢になる初期の段階といえるであろう。新治窯も8点を数え、急増している。少数確認できた客体的な窯は、県内では宇都宮窯1点、南那須窯1点、県外では福島県大戸窯1点・埼玉県末野窯1点などである。

#### 土器編年3期 (9世紀中葉～第3四半期)

調査区の寺院地及び伽藍地内でも須恵器の点数が増える。しかし、この時期には堅穴住居数が急増しており、土師器の数も増加している。堅穴住居が増加して寺院地の遺構内出土数が増えている。伽藍地・寺院地を加えた尼寺全体の集計数で三義窯産は42点、益子窯産は10点で、三義窯産は益子窯産の4倍に達して、三義窯産が格段に多くなる。三義窯産が須恵器の主体になったといえるであろう。その他では県内の足利岡窯産2点、茨城県堀ノ内窯産2点、三和窯産3点、新治窯産2点などがあるが、三義窯産の数に比べて格段に少ない。

#### 土器編年4期 (9世紀第4四半期)

調査区の寺院地及び伽藍地内でも須恵器の点数がさらに増える。三義窯産72点、益子窯産15点で、三義窯産は益子窯産の5倍近い数になる。1期からの益子窯産との比率をみると、時期が下るに従って、三義窯産の割合が高くなる傾向がみられた。

少数の窯は、新治窯産・三和窯産がともに4点、南比企窯産2点、堀ノ内窯産1点、群馬産と目される物も1点あるが、全体に極めて少ない。

5期にも、三義窯産・益子窯産・南比企窯産・南那須窯産が各1点確認できたが、いずれも遺構内から出たもので、当該期には須恵器生産を終えていることから、伝世や混入品の可能性が高い。

### (2) 国分寺・国府の産地構成比との比較 (第163・164図)

上述のような国分尼寺の須恵器の時間的な産地構成であったが、このような傾向が隣接する国分寺・国府の傾向と比較することによって、国分尼寺の食器流通の特徴を考えてみたい。

谷を隔てて隣接する国分寺跡では須恵器坏等の型式が認定できる点数が示されている。それによれば、坏・

寺院地遺構内出土須恵器の産地

	三義	益子	新治	三和	南比企	他	不明	合計
1期	5	12	0	0	0	0	2	19
2期	10	7	6	0	0	3	2	28
3期	36	9	2	2	0	3	3	55
3～4期	0	0	0	0	0	0	1	1
4期	67	14	4	4	2	4	28	123
5期	1	1	0	0	1	1	0	4
時期不明	7	4	2	2	0	3	9	27

寺院地遺構外出土須恵器の産地

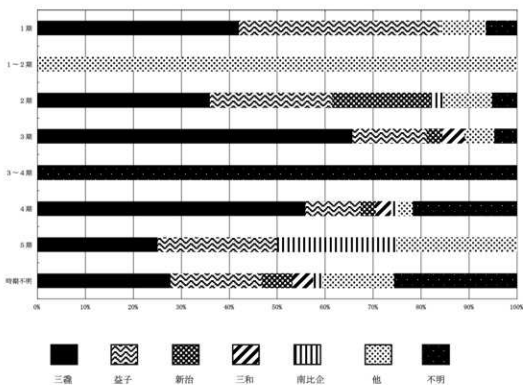
	三義	益子	新治	三和	南比企	他	不明	合計
1期	4	1	0	0	0	2	0	7
1～2期	0	0	0	0	0	1	0	1
2期	3	2	0	0	1	0	0	6
3期	2	0	0	1	0	1	0	4
3～4期	0	0	0	0	0	0	0	0
4期	0	1	0	0	0	0	0	1
時期不明	3	0	1	0	1	2	3	10

伽藍地出土須恵器の産地

	三義	益子	新治	三和	南比企	他	不明	合計
1期	4	0	0	0	0	1	0	5
2期	1	1	2	0	0	1	0	5
3期	4	1	0	0	0	0	0	5
4期	5	0	0	0	0	0	0	5
時期不明	3	5	0	0	0	2	0	10

国分尼寺須恵器産地別合計

	三義	益子	新治	三和	南比企	他	不明	合計
1期	13	13	0	0	0	3	2	31
1～2期	0	0	0	0	0	1	0	1
2期	14	10	8	0	1	4	2	39
3期	42	10	2	3	0	4	3	64
3～4期	0	0	0	0	0	0	1	1
4期	72	15	4	4	2	4	28	129
5期	1	1	0	0	1	1	0	4
時期不明	13	9	3	2	1	7	12	47



第162図 下野国分尼寺出土須恵器産地構成



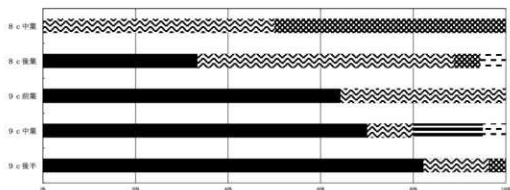
(环)

	三壺	益子	新治	堀ノ内	木葉下
8c 中葉	0	1	1	0	0
8c 後葉	6	10	1	0	1
9c 前葉	9	5	0	0	0
9c 中葉	14	2	0	3	1
9c 後半	23	4	1	0	0

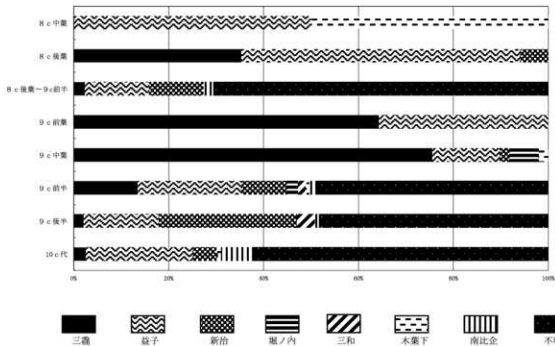
(瓿)

	三壺	益子	新治	堀ノ内	三和	木葉下	南比企	不明
8c 中葉	0	1	0	0	0	1	0	0
8c 後葉	6	10	1	0	0	0	0	0
8c 後葉～9c 前半	2	12	10	0	0	0	2	62
9c 前葉	9	5	0	0	0	0	0	0
9c 中葉	37	7	1	3	0	1	0	0
9c 前半	17	28	12	3	2	1	2	62
9c 後半	9	71	129	0	17	0	4	215
10c 代	10	91	20	0	1	3	27	250

(环)

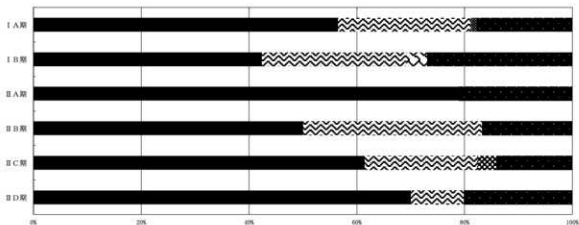


(瓿)

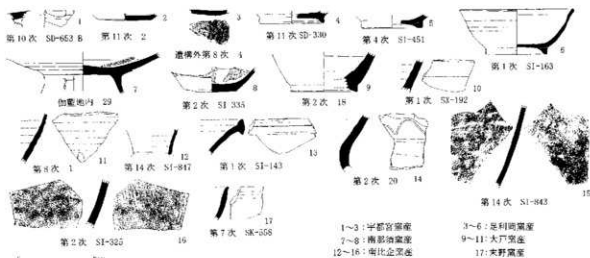


第 163 図 下野国分尼寺出土須恵器産地構成

	三森	益子	宇都宮	南原	新治	不明	
I A期	48	21	1	0	0	15	I A期: 8c前半
I B期	11	7	0	1	0	7	I B期: 8c第3四半期
II A期	15	0	0	0	0	4	II A期: 8c後葉-9初
II B期	27	18	0	0	0	9	II B期: 9c前葉
II C期	35	12	0	0	2	8	II C期: 9c中葉
II D期	7	1	0	0	0	2	II D期: 9c後葉



第164図 下野国府跡出土須恵器産地構成



第165図 各窯の製品実測図

蓋等では三森窯跡群産で、三通窯（8世紀第3四半期）で6点、寂光沢3号窯（旧日陰沢窯A地点、8世紀第4四半期後半から9世紀第1四半期）で9点、寂光沢2号窯（大芝原窯A地点、9世紀第2四半期）で14点、大芝原窯B地点（9世紀後半）で23点となっている。

益子窯跡群の坏・蓋等では、原東3号窯（8世紀第2四半期）で1点、谷津入窯（8世紀第4四半期）で10点、古ヶ原窯（9世紀前葉）で5点、滝ノ入・倉見沢窯（ともに9世紀中葉）で2点、脇屋1・2号窯（9世紀後葉）で4点となっている。

常陸国内産では、新治窯跡群の東城寺窯（8世紀第3四半期）で1点、東城寺桑木窯（8世紀第4四半期から9世紀初頭）で1点、小野1号窯（9世紀第3四半期）で1点である。堀ノ内窯跡群では花見堂2・3号窯（9世紀第2・3四半期）で3点、木葉下窯跡群のTE-3号窯（8世紀後葉）で1点、三ヶ野窯（9世紀中葉）1点となっている。

このような国分寺の坏類の傾向をみると、8世紀後半から9世紀前葉までは三鑫産・益子産が拮抗した点数であり、9世紀第2四半期から中葉には、三鑫産が益子産に比べて格段に多くなる傾向が窺える。この傾向は9世紀後半に継続して、益子産に比べて三鑫産は4倍程の数になっている。

しかし、甕類では溝跡・堅穴住居跡出土の点数等が提示されており、それによれば9世紀前葉・中葉に益子産よりも三鑫産の方が多くなるが、他の時期は益子産の方が卓越している。さらに9世紀後半には新治産の甕類が格段に多くなっている点が注目される（註8）。甕類の産地同定が難しいことも考慮する必要があるが、坏類と異なった動向といえるであろう。

国分尼寺では、坏類を主にした時期別の産地構成であるが、8世紀中葉・後葉と9世紀前葉（土器編年1・2期）までは三鑫産・益子産が拮抗しているが、9世紀中葉～第4四半期（土器編年3・4期）には三鑫産は益子産の4倍から5倍程の点数になっている。このように、坏類では国分寺と尼寺の須恵器流通の動向が同じであるといえる。しかし、甕類については、今回尼寺の点数を挙げえないが、9世紀後半でも急増することがないことから、国分寺の様相とは異なっている。

下野国府との比較では、国府は8世紀前半から三鑫産・益子産が主体であるが、三鑫産が8・9世紀を通じて益子産の2～3倍以上確認されている。国分寺・尼寺では8世紀後半から9世紀前葉までは三鑫産・益子産の数が拮抗しており、国府と国分寺・尼寺で異なった点となっている。

次に、客体的な須恵器の産地に関して、尼寺では宇都宮窯・足利市岡窯・南那須窯の下野国内諸窯、常陸国では新治窯・堀ノ内窯、下総国では三和窯、武蔵国では南比企窯・末野窯、陸奥国では大戸窯の製品が確認された。国分寺でも下野国内の宇都宮窯がごく少数、常陸国内の新治窯・堀ノ内窯・木葉下窯、下総国の三和窯、武蔵国の南比企窯の製品が確認された。

国府では実測遺物であるが、下野国内の宇都宮窯・南那須窯、常陸国の新治窯製品が少数確認された。このように、国府・国分寺・尼寺でも下野国内諸窯と常陸・下総・武蔵国などの製品が客体的ながら確認できた点は共通している。

### （3）国府・国分寺・尼寺の須恵器流通の特徴

上述のような事実関係に対して、以下のような課題が設定される。8世紀後半から9世紀前葉における三鑫産・益子産の構成比について、国府と国分寺・尼寺の違いをどのように解釈すべきであろうか。この点は、『寂光沢窯跡』報告書の中でも述べているように、三鑫窯は都賀郡と安蘇郡域の境に所在しており、窯業生産を郡が担っていたという理解に立てば、都賀郡家が生産・経営に関わっていたと考えられる。郡家では郡内生産の消費財（食器）を用いる。国府出土木簡から都賀郡家が国府に隣接しているとみられることから、国府及び国庁や国司館などの国府中枢部でも三鑫産須恵器が国府創設期から多かったと推定することができる。

また、下野国の二大窯跡である益子窯と三鑫窯の製品が主体になっている点は、国府（国衙）の消費財調達に、各窯産の須恵器の流通量に多寡によっていたことを示す。

国分寺創建期の屋瓦生産は当初宇都宮窯であったが、後に三鑫窯に移転して下野国内諸郡の瓦を一括して

生産し、国分寺・尼寺に供給していた。益子窯でも客体的に西山窯で生産していた。しかし、国分寺・尼寺において、この時期の須恵器は益子窯と三雲窯製品が拮抗して流通していた。この違いは、営繕財と消費財では調達原理が異なっており、瓦は官の運営により、須恵器は郡などの生産・経済活動によって流通していたことに起因すると考えられる。

次に、国分寺と尼寺で須恵器の流通動向が同じである点は、国内産消費財の調達や購入の方法が同じであったことを示唆する。国分寺における物品の調達は、国内の郡・郷から貢進させる場合や交易によっていたことが本簡から明らかになってきた（註9）。国分二寺や僧尼を管理するのは国司・国師である。国分寺・尼寺の須恵器の流通動向が同じであった事実は、二寺が一体となって須恵器の貢進、寺料による消費財の交易が管理されていたことを示す。9世紀後半における甕類が国分寺で新治産が多くなることから、消費財の調達・交易も、一部在地の流通・交易の多寡によっていたのも事実である。しかし、二寺での共通した全体的動向から消費財の貢進・交易が二寺一体で管理されていたと考えられる。

## 第5節 下野国分尼寺出土灰釉陶器・緑釉陶器の流通

### (1) 国分尼寺の灰釉陶器・緑釉陶器の时期的な変遷と出土地（第28表）

下野国分尼寺出土の灰釉陶器は井ヶ谷78号窯式（黒笹14号窯式）から搬入される（註10）。第7次S I-560・第1次SX-192では、内面に灰釉を厚く塗る本窯式の椀が確認され、灰釉椀の初期の事例である。

黒笹14号窯式では、椀3点、皿2点、壺1点で、椀皿類が主体であるが、井ヶ谷78号窯式としたうち13点は瓶類であり、両窯式を併行するとみる立場であれば、本窯式の時期には椀皿類7点、瓶類14点となり、瓶類の方が多く持ち込まれたことになる。

黒笹90号窯の段階では、格段に出土数が増加し、国化できたもので黒笹90号窯式134点、美濃窯の光ヶ丘1号窯式は22点である。この時期の特徴は美濃窯産に対して、猿投窯産が圧倒的に多い点である。猿投窯産の器種は椀・皿・段皿・蓋・小瓶・瓶、美濃窯産では椀・皿・小瓶・瓶が確認できるが、両窯ともに椀皿が主体となっている。

猿投窯・美濃窯以外の灰釉陶器は極めて少なく、浜松市宮口窯産3点と尾北窯産1点の合計4点であった。これらは、第14次調査区遺構外からも外面調整する吉名1・2号窯と6号窯（黒笹90号窯式併行期）の椀1点、第11次調査区SX-805と伽藍地内から静岡県浜松市宮口窯の吉名1・2号窯（折戸53号窯式併行期）の椀2点、第4次S I-448出土の尾北窯篠岡4号窯前半の深椀1点である。

この時期には緑釉陶器も入っており、灰釉陶器168点に対して、緑釉陶器は10点と少ない。緑釉陶器は猿投窯産が大半で、黒笹90号窯式の後半のものが多い傾向がある。緑釉陶器の器種では、椀・皿・椀皿・輪花皿・稜椀・香炉が挙げられるが、椀・皿が多い。香炉は1点のみ第11次調査区の遺構外から発見され、彫刻花文は第14次SX-857から黒笹90号窯式の椀が1点出土しているのみである。

猿投窯以外の緑釉陶器では尾北篠岡4号窯式（第4次S I-451・第4次調査区遺構外）が2点、畿内の洛西篠タイプの小椀が1点（第1次S I-174）、伽藍地内からも壺の口縁部が1点出土した。

緑釉陶器全体では、時期の明らかでないものを含めると、猿投窯産17点、尾北窯産2点、畿内産2点となるであろう。

主な出土地区を見ると、第1次・第2次・第4次・第11次調査区などで灰釉陶器・緑釉陶器は多く確認された。特に、黒笹90号・光ヶ丘1号窯式の9世紀後半には伽藍地東側・北側、及び四面廂掘立柱建物のある北東部の第11次調査区などで多数の堅穴住居跡が築かれる。第2次調査区伽藍地北方は製塩土器や井

## 国分尼寺灰軸陶器

猿投窯	井ヶ谷 78号 15	黒笹 14号 6	黒笹 90号 134	黒笹 90～折戸 53号 2	折戸 53号 6		
美濃窯			光ヶ丘 1号 22	光ヶ丘 1～大原 2号 6	大原 2号 4	虎溪山 1号 11	
宮口窯			吉名 6号 1		吉名 1・2号 2		
尾北窯			篠岡 4号 1				

## 国分尼寺緑軸陶器

猿投窯	黒笹 14～90号 1	黒笹 90号 10					
尾北窯			篠岡 4'号 2				

## 国分寺灰軸陶器

猿投窯	折戸 10号 19	井ヶ谷 78号 33	黒笹 14号 44	黒笹 90号 18	折戸 53号 11		
美濃窯				光ヶ丘 1号 101	大原 2号 47	虎溪山 1号 121	丸石 2号 2
三河遠江				黒笹 90号併行 5	折戸 53号併行 2	虎溪山 1号併行 1	
尾北窯				篠岡 4号 10			

## 国分寺緑軸陶器

猿投窯	黒笹 90号併行 3						
畿内洛西	黒笹 90号併行 4						

## 下野国府跡灰軸陶器

猿投窯	折戸 10号 4	井ヶ谷 78号 7	黒笹 14号 2	黒笹 90号 3	折戸 53号 6		
美濃窯				光ヶ丘 1号 7	大原 2号 23	虎溪山 1号 40	丸石 2号 6
三河窯				黒笹 90号併行 1	折戸 53号併行 8	東山 72号併行 2	

## 下野国府跡緑軸陶器

猿投窯	黒笹 90号 3	折戸 53号 5	東山 72号 2				
美濃窯			虎溪山 1号 5				
尾北窯	篠岡 4号 2	篠岡 4'号 1	篠岡 27号 1				
近江窯		折戸 53号併行 9					
畿内窯 2							

第28表 下野国分寺・尼寺、下野国府出土灰軸陶器・緑軸陶器点数集計表

戸の存在から食料調理施設に係わる機関が存在したと判断され、第11次調査区の四面廂掘立柱建物周辺は寺務・運営に係わる機関の可能性が高く、この位置で緑軸陶器香炉は出土しており、寺院地内における位置の格を示唆する。

折戸53号窯式・大原2号窯式の段階には、灰軸陶器の出土数は格段に減少する。猿投窯産6点、美濃窯産4点であるが、黒笹90号窯や光ヶ丘1号窯式と判別しがたいものを含めると、猿投窯産8点、美濃窯産10点となり、ほぼ拮抗した数になる。器種では碗が最も多くて、皿・甕が少数確認できたが、前期に比べると器種も限られたものに変化している。出土した調査区を見ると、第1次・第2次・第4次調査区から出ているが、10世紀前半の掘立柱建物や堅穴住居は、前期に比べると格段に減少しており、灰軸陶器の出土数に比例している。

この後の美濃窯虎渓山1号窯式には、さらに出土数が減少し、猿投窯産がなくなり、美濃窯産に限られるようになる。これは窯場の生産量の変化によるものであろう。器種は椀・皿・段皿・蓋・瓶で、遺構から出たものは伽藍地築地塼の内側溝（SD-153）などからであり、第1次調査区内から多く出る傾向がある。伽藍地区画築地塼の溝から出たことから、塼の下限及び寺院機能の下限を知る資料となる。第1次調査区内にこの時期の建物は確認されておらず、消費地は伽藍地内で、廃棄されたものであろうか。

## (2) 下野国分寺・国府における灰軸陶器の出土傾向との比較（第28表）

次に、国分尼寺の灰軸陶器等の出土傾向を国分寺・国府の様相と比較して、尼寺の特徴を明らかにしていきたい。各遺跡共に、灰軸陶器等の産地・時期別けが行われており、これを参考にする。国分寺では計測法も併記されているが、尼寺・国府では個数カウントのみを行っており、ここでは破片数の比較による。

### ①下野国分寺跡

国分寺跡出土の灰軸陶器等については、その報告書のなかで時期・産地・器種別の点数と比率等が提示されている（大橋1995）。ここではその概要を示し、国分尼寺の様相と比較する。国分寺における灰軸陶器の初期の搬入は折戸10号窯式であり、19点確認されている。この段階では椀皿類に比べて瓶類の数が圧倒的に多い傾向がある。黒笹14号窯式の段階になり、出土数も増加していき、井ヶ谷78号窯式と黒笹14号窯式を併行とする考えに立てば、この時期の椀皿類と瓶類の数は41点对36点で、その比率は拮抗している（大橋1995 47頁）。

黒笹90号窯式の段階になると、出土数は以前に増して多くなる。また、黒笹14号窯式の段階までは猿投窯産のみであったが、美濃窯が量産化し始めたこの時期には、点数で比較すると、猿投窯産18点、美濃窯産101点で、圧倒的に美濃窯産が多くなる。器種構成ではこれまで椀皿類と瓶類が拮抗していたが、猿投窯産で椀皿類は瓶類の2倍、美濃窯産では3倍の数に達している。また、この時期から尾北窯・三河・遠江産が少数であるが搬入している。

これ以後、大原2号窯式の段階にも美濃窯産が主体になっており、猿投窯産の灰軸陶器は美濃窯産の4分の1程度に減少しており、この時期以降に猿投窯産は確認できなくなる。一方、美濃窯の虎渓山1号窯式の段階には出土点数が再度増加して、黒笹90号窯式の時期に比肩している。なお、この時期の椀皿類と瓶類では圧倒的に椀皿類の方が多く確認された。国分寺ではその後、丸石2号窯式の段階まで少数出土している。緑軸陶器は9世紀代が主体で、猿投窯産よりも畿内産が多いと指摘されている。

### ②下野国府跡

国府では折戸10号窯式の段階から瓶類を主体にして搬入が始まる。井ヶ谷78号・黒笹14号窯式の段階には数が増加し、瓶類の方が多く確認されている。黒笹90号窯式の段階には14号窯式の時期よりも実測点数では減っている。さらにこの時期から美濃窯の製品が出現し、猿投窯産よりも美濃窯産の方が多くなっている。黒笹90号窯式・光ヶ丘1号窯式の器種では、椀・皿が主体であるが、壺が一定数確認できる点の特徴で、珍しい器種では鉄鉢形も出ている。

さらに折戸53号窯式の段階には、美濃窯大原2号窯式の方が猿投窯よりも格段に多くなって、美濃窯製品が明らかに優位になる。椀皿が主体であるが器種も多くなって、稜椀・段皿・鉢・壺・甕などがある。特に壺・甕が多い点は前代からの特徴であろう。

その後、猿投窯産はなくなるが、美濃窯産は虎渓山1号窯式になり、さらに増加する傾向があり、壺・甕も多く確認されている。

猿投窯・美濃窯以外では、三河産が黒笹90号室式併行期以降、少数であるが確認できた。

緑軸陶器は黒笹90号室式から東山72号室式に併行する時期まで確認された。通時的には猿投窯が最も多く、美濃・尾北窯のものが少量である。折戸53号室式併行期に近江産碗が9点確認され、県内でも際立った数である。器種では、碗皿のほかには輪花碗や香炉蓋などが出ている。

下野国府・国分寺出土の灰軸陶器の出土数の時期的な産地変化を調べた高橋照彦氏の研究もある（高橋1994）。氏の研究でも黒笹90号から折戸53号室式の段階における灰軸陶器の産地は美濃窯が圧倒的に多くて、東山72号室式の段階以降は美濃窯産に限定されている。

### ③国分尼寺との比較

国分尼寺の緑軸陶器は、国分寺と同じく9世紀後半のものが最も多かったが、国分寺では畿内産が多くあった。尼寺では猿投窯産が多くて、畿内産は少なかった。国府では下った折戸53号室式併行期の方が多くて、特に近江産が極端に多い点が国分寺・尼寺と異なった様相になっている。国府での畿内産緑軸陶器は2点のみで数は少なかった。

このように、国府・国分寺・尼寺の緑軸陶器の動向をみると、産地構成比・時期的な点数変化などで、共通性は少ないといえよう。尼寺では香炉蓋など稀少な器種が少ない点は3遺跡間での相違である。

灰軸陶器では、国府・国分寺ともに折戸10号室式の段階から少数原始灰軸陶器が搬入されている。尼寺では確認されていないが、今後発見されても少数に止まると推測される。井ヶ谷78号・黒笹14号室式の段階では、尼寺では瓶類が多いが、国分寺では拮抗した数になっている。

国分寺の様相と明らかに異なるのは黒笹90号室式の段階である。僧寺・尼寺ともにこの時期になって出土数がピークを迎える点は共通するが、国分寺では美濃窯産が圧倒的に多いが、対照的に尼寺では猿投窯産が格段に多くなっている。国府では、この時期の搬入数が少ないが、猿投窯産よりも美濃窯産の方が多かった。これらの点から尼寺の独自の様相が窺える。

次の折戸53号室の段階には、尼寺では数が少ないが猿投窯産が美濃窯産よりも少なくなっている。国分寺では美濃産が猿投産に比べて、4倍ほどになっており、9世紀後半における両窯の構成比率を継承している。国府でも圧倒的に美濃窯産が多く、3遺跡の搬入傾向が共通している。

次の段階では、3遺跡ともに猿投窯産がなくなり、美濃の虎渓山1号室式に限られるようになる。この傾向は窯場の生産動向に依った傾向である。器種では国府において黒笹90号室式併行期から虎渓山1号室式まで壺・甕が多く、国分寺・尼寺との違いと指摘できるであろう。

以上のような灰軸陶器の傾向をまとめると、黒笹90号室式の段階に尼寺と国府・国分寺では主体となる搬入窯に明らかな相違が確認された。しかし、その後は生産地の動向に規定されたのか、美濃窯主体になっていく。

### (3) 国府・国分寺・尼寺における灰軸陶器流通の意義

緑軸陶器では、尼寺は香炉蓋のように稀少な器種は少ない。この点からみると下野国内の主要な緑軸陶器消費遺跡の間でも階層的な搬入関係が窺える。また、緑軸陶器の搬入窯の産地構成・時期的変化などが多様である。搬入窯・時期の相違という事実に関して多様な解釈が可能であるが、寺院では交易という観点のほかに、献物・貢進という観点からも解釈できるであろう。

階層的な搬入関係について国分寺との相違では、僧寺で「講師」墨書土器が出土するなど、寺院運営に係わる国師（講師）が置かれていたことに起因するであろう。

国府・国分寺と尼寺では、特に9世紀後半に灰軸陶器の搬入された窯が明らかに異なっていた。下野国内産の須恵器では国府・国分寺・尼寺ともに三雲窯産が主体になっており、9世紀後半に国分寺で新治窯産が多くなっている点に、違いがみられる程度であった。この違いが何に起因するかが、問題である。

尼寺が国府・国分寺とは別な、独自の物品購入を行っていたのか、木簡などで今後検証していく課題であり、現状では明らかではないが、現状での複数の解釈案を提示してみる。

#### 解釈1 流通ルート・貢進地域の違いとみる場合

東海地方産灰軸陶器の流通は北関東において東西で大きく異なっている。東関東の常陸国では、黒笹90号窯式の段階では猿投窯産167点に対して、美濃窯産8点と猿投窯産が美濃窯産の20倍ほどに達している(奈良・平安時代研究班1999)。下野国分尼寺では黒笹90号窯式の段階では猿投窯産は美濃窯産の6倍程であり、常陸国の流通比には及ばない。灰軸陶器が比較的多く出た小山市金山遺跡では、9世紀後半には黒笹90号窯式の段階で猿投窯産48点、美濃窯産4点であり、折戸53号窯式の段階でも猿投窯産9点、美濃窯産4点、東山72号窯式の段階でも猿投窯産3点、美濃窯産1点となって、始終猿投窯産の灰軸陶器数が卓越している。

但馬国分寺木簡では国内の郡や国分寺所在郡内の郷から食料・物品・資材などが貢進されており、国分寺における必需財の調達方法が明らかになった。これを前提にした解釈を示せば、下野国内の9世紀後半の灰軸陶器の流通は、小山市域一寒川郡一や下野国東部域では猿投窯産が美濃窯産よりも多く、下野国東部域の灰軸陶器流通量に規定されて、この地域から主に猿投窯産灰軸陶器を貢進したと考える。

#### 解釈2 国・国分寺における仕分けとみる場合

国分寺・尼寺や官寺に係わる寺料は国が関わっていた。『延喜式』にも各国の国分寺料が記載されており、下野国では菓師寺に関する経費管理・寺院経済の管理を国で行っていたことが、下野国府出土題箋「菓師寺月料」によって明らかになった。寺で必要な寺物の生産・管理も国が関与していることから、国で調達した灰軸陶器の仕分けを行っていたと考える。さらに、国分二寺の運営に係わる講師の居る国分寺において尼寺での消費財の仕分けを行ったと考える。

#### 解釈3 尼寺が独自に流通ルートから交易したとみる場合

9世紀後半に尼寺は、下野国東半部や常陸国域から、国府・国分寺と異なった独自の流通ルートから、灰軸陶器を交易によって調達したと考える。

以上のように、3つの解釈案を提示したが、解釈3では国分尼寺が寺料によって独自に交易することが可能であったのか明らかでなくて可能性が低い。解釈2では国府・国分寺で9世紀後半に猿投窯産を仕分けできたのか明らかでない。これらの点から木簡の事実を援用して、灰軸陶器の貢進地域とその地域に流通する灰軸陶器の産地に規定されて、9世紀後半に国分尼寺の産地構成に違いが現れたと考えておきたい。それは、この時期に尼寺の堅穴住居が前の時期に比べて格段に増加しており、寺に集まる人数も増えて、臨時的に貢進させたと推定しておきたい。

#### 註

1 国分尼寺甕瓦13型式は、下野国府の5類に当たり、編年ではⅡ期(750～791年頃)に位置付けられている。しかし、この年代では瓦陶兼業でなくても須恵器と年代の開きが大きい。尼寺で出ていることから第2四半期後半とすべきと判断する。なお、国府出土の5類(図版2の25)と尼寺出土の13型式を比べると、尼寺の方が範囲が進んでいる。

2 調査区出土の女瓦の分類は調査に併行して行われていた。小破片の場合に短溝叩きであるか判断できないことがあるが、ここに分類してあったために、これを提示した。



- 3 掘立柱式の棟門が瓦葺きか確定できない。事例としては秋田城跡の政庁Ⅰ・Ⅱ期東門は棟門で、築地塀が瓦葺きであることから、掘立柱式瓦葺建物と指摘されている（秋田城跡調査事務所2002『秋田城跡-政庁跡-』秋田市教育委員会）。
- 4 僧房跡出土と判断した瓦の注記は「尼4. 僧」などと書かれており、尼寺第4次調査僧房出土と解した。
- 5 尼寺2011報告では、遺構の変遷をⅠ～Ⅳ期としていたが、遺構と遺物の面相によって小期を設定して補訂しておきたい。
- 6 国分寺報告での型押文260は、2-2期に比定されている。この型押文で叩く瓦にはへら書きで「那」・「矢」が書かれたものがある。この型押文の郡名文字瓦のみ時期が異なっていることから、他の型押文の時期と同じく1-2期にすべきと考える。
- 7 薬師寺鑑瓦115型式の時期などは明らかでないが、報文ではこの鑑瓦について、薬師寺鑑瓦113型式の系譜で、芳賀郡系の瓦と指摘している（中道2004）。
- 8 『葦光沢窯跡』報告書の中で、下野国分寺跡出土の須置器の点数を變類のみで集計し、その解釈を提示した。そこでは坏類の傾向が抜けており、坏類を含めて尼寺の出土傾向と比較する必要がある。このため、解釈については、以下の本文のように補訂しておきたい。
- 9 安芸国分寺跡では、国分寺創建期の法会の準備に関わる木簡が出ている（妹尾・佐竹2002）。法会に必要な席などを国分寺所在部内の郷や郡を越えて他郡から物品が送られている。この中には「山方郡六口佐良」も含まれており、国分寺で使用される食器を郡に貢進させていたとみられる。また、同国分寺からは「口交易」と記載された木簡も出ていることから、物品を交易で調達する場合もあった。
- 10 現在の遺積票の編年では井ヶ谷78号窯式は黒笹14号窯式に併行するものとして、編年表から削る場合がある（城ヶ谷2008）。灰釉陶器の産地・窯式比定については、現地調査直後に齋藤孝正氏に御教授いただいた。現在の編年観と異なる部分もあるが、これに従っておきたい。現在の黒笹14号窯式の古い段階に相当する。

## 参考文献

- 市 大樹 2013『国分寺と木簡—但馬国分寺木簡を中心に—』『国分寺の創建 組織・技術編』吉川弘文館
- 大金宣亮・石川勲 1969「出土遺物」『下野国分尼寺』栃木県教育委員会
- 大金宣亮 1987「仏教の伝播と開花—大内庵寺の造営と下野国分寺—」『真岡市史 第6巻 原始古代中世通史編』真岡市
- 大川 清 1974『下野の古代窯業遺跡（資料編）』栃木県教育委員会
- 大川 清 1976『下野の古代窯業遺跡（本文編Ⅱ）』栃木県教育委員会
- 大川 清 1982『水道山瓦窯跡群』宇都宮市教育委員会
- 大川 清・田熊信之 1982『下野古代文字瓦譜』日本窯業史研究所
- 大橋泰夫 1995『下野国分寺跡XⅠ 墨書土器・施釉陶器編』栃木県教育委員会・（財）栃木県文化振興事業団
- 大橋泰夫 1997『下野国分寺跡XⅡ 瓦・本文編』栃木県教育委員会・（財）栃木県文化振興事業団
- 大橋泰夫 1998『下野国分寺跡XⅢ 遺物編』栃木県教育委員会・（財）栃木県文化振興事業団
- 大橋泰夫 2001「下野の瓦生産について」『栃木県考古学会誌』第22集
- 大橋泰夫・篠原祐一 1992『山海道遺跡』栃木県教育委員会
- 勝見一品・中道 誠 2004『史跡 下野薬師寺跡Ⅰ—史跡整備にともなう調査—』須田勉ほか編、南河内町教育委員会
- 木村 等・鎌木理広・大橋泰夫・斎藤弘 1985「下野国分尼寺跡関連遺跡調査報告（しもつけ風土記の丘資料館建設予定地）」『栃木県埋蔵文化財保護行政年報』栃木県教育委員会
- 黒澤彰哉 1988「常陸における古代寺院の一考察—各郡の造瓦活動を中心として—」『婆良岐考古』第10号

- 齋藤孝正 1994「東海地方の施軸陶器－鎭投窯を中心に－」『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東3 施軸陶器－』古代の土器研究会
- 佐野市郡土博物館 1990『第15回 企画展 下野の古瓦－三鑫山麓の窯跡と瓦－』
- 佐野市史編さん委員会 1975『佐野市史 資料編1』
- 城ヶ谷和広 2008「鎭投窯・尾北窯における窯業生産体制」『日本考古学協会 2008 年度愛知大会研究発表資料』
- 妹尾周三・佐竹 昭 2002「安芸国分寺跡」『木簡研究』第24号
- 田熊清彦 1985「文字瓦」『下野国分寺跡』栃木県教育委員会
- 田熊清彦 1988『下野国府跡Ⅷ 土器類調査報告』栃木県教育委員会
- 田熊清彦 1990『下野国府跡Ⅸ 瓦類報告編』栃木県教育委員会
- 高橋照彦 1994「東国の施軸陶器」『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東3 施軸陶器－』古代の土器研究会
- 津野 仁 1996「搬入品について」『金山遺跡Ⅳ（本文編）』栃木県教育委員会・（財）栃木県文化振興事業団
- 津野 仁 1997「栃木県の須恵器編年」『東国の須恵器－関東地方における歴史時代須恵器の系譜－』古代生産史研究会
- 津野 仁 2004「古代の信仰」『藤岡町史 通史編 前編』
- 津野 仁 2007「本地域に特徴的な土器－鶴田中原タイプ甕について」『東谷・中島地区遺跡群8 砂田遺跡（4～6・18・19・23・24区（第2分冊）』栃木県教育委員会・（財）とちぎ生涯学習文化財団
- 津野 仁 2011「三鑫産須恵器の流通」『寂光沢窯跡』栃木県教育委員会・（財）とちぎ生涯学習文化財団
- 中道 誠 2004「燈瓦」『下野薬師寺跡Ⅰ－史跡整備にともなう調査－』南河内町教育委員会  
栃木県教育委員会 1988『栃木県生産遺跡分布調査報告書』
- 奈良・平安時代研究班 1999「茨城県における施軸陶器の検討（5）」『研究ノート』8号（財）茨城県教育財団
- 野代徳一・茂木克美・大橋泰夫 1998「佐野市ゼニゴ沢窯跡採集の瓦と須恵器」『栃木県考古学会誌』第19集
- 日高町教育委員会 1981『但馬国分寺木簡』
- 古谷 清 1926「大伏古瓦窯趾」『栃木県史蹟名勝天然記念物調査報告 第一輯』
- 山口耕一 2004『新開遺跡第2次・第3次調査』国分寺町教育委員会
- 山口耕一 2011「下野国分寺」『国分寺の創建 思想・制度編』吉川弘文館

## 写真図版



下野国分尼寺跡（上空から）



第1次調査区（南から）



第2次調査区（南から）

図版一 調査区全景



第 11 次調査区 (北から)



第 12 次調査区 (東から)



第3次調査区 調査区全景（北西から）



第4次調査区 調査区中央南側部分（北東から）



第4次調査区 調査区中央部分（北から）



第4次調査区 調査区西側部分（西から）



第5次調査区 調査区全景（南西から）



第6次調査区 調査区全景（南から）



第6次調査区 調査区南部（東から）



第6次調査区 調査区南部・中央部（南から）

図版四  
遺構  
調査区・掘立柱建物跡



第12次調査区 中央部（南東から）



第14次調査区 調査区全景（南東から）



第14次調査区 調査区全景（南から）



第14次調査区 調査区南部分（東から）



第14次調査区 調査区南部分（北東から）



第14次調査区 調査区中央部分（東から）



第14次調査区 調査区北部分（北東から）



第1次調査区 SB-147 北西隅柱 土層断面（西から）



第2次調査区 SB-327 北西隅柱土層断面(東から)



SB-338 南西隅柱 土層断面(東から)



第7次調査区 SB-582・585 全景(南から)



SB-585 西側柱列南第2柱 土層断面(東から)



SB-582 東側柱列南第2柱 SB-585A-B期 南東隅柱 土層断面(東から)



SB-585 西側柱列南第2柱 土層断面(東から)



SB-585 西側柱列南第2柱 土層断面(南から)



SB-585 南西隅柱 土層断面(南から)



図版六  
遺構  
掘立柱建物跡



調査区北部東側部分 SB-591 側柱列 (南から)



SB-591 西側柱列北第2柱 土層断面 (東から)



第9次調査区 SB-654 全景 (北から)



第11次調査区 SB-700 全景 (南から)



SB-700-738・750 全景 (北から)



SB-700 南側列西第3柱 A・B期 土層断面 (南から)



SB-700 南側列西第3柱 A期 土層断面 (南から)



SB-700 東側列北第2柱 A期 土層断面 (東から)



SB-700 東廂列北第2柱B期 土層断面(東から)



SB-700 北廂列西第3柱A・B期 土層断面(南から)



SB-700 北廂列西第3柱 鉄製品出土状況(南から)



SB-700 身舎北西隅柱 土層断面(南から)



SB-700 身舎南西隅柱 土層断面(東から)



SB-707 北東隅柱 土層断面(南から)



SB-738 東側柱列南第2柱 土層断面(南から)



SB-738 北東隅柱 SK-739 土層断面(東から)



SB-738 全景（東から）



第1次調査区 SI-114 遺物出土状況（南から）



SI-121・122 遺物出土状況（南から）



SI-174 全景（南から）



第2次調査区 SI-239 遺物出土状況（東から）



SI-241 遺物出土状況（東から）



SI-307 遺物出土状況（北から）



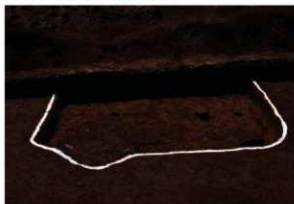
SI-307 遺物出土状況（南西から）



SI-307 遺物出土状況（南東から）



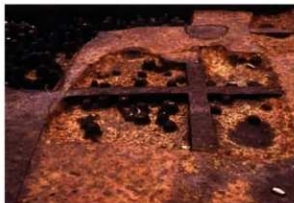
SI-325 遺物出土状況（東から）



SI-325 全景（東から）



SI-335 遺物出土状況（北東から）



SI-336 遺物出土状況（西から）



SI-336 出土遺物近景（南西から）



SI-368 遺物出土状況（南西から）



SI-368 土層断面（北西から）



第4次調査区 SI-438 遺物出土状況 (西から)



SI-450 遺物出土状況 (西から)



SI-450 出土遺物近景 (南東から)



SI-451 遺物出土状況 (西から)



第5次調査区 SI-495-496 全景 (南から)



SI-500 全景 (北から)



SI-500 等 (西から)



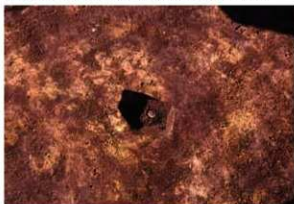
第7次調査区 SI-588 等 (南から)



第11次調査区 SI-686 遺物出土状況（北から）



SI-690 遺物出土状況（南から）



SI-690 出土遺物近景



SI-690 鏡瓦出土状況（北から）



SI-690 出土遺物近景（東から）



SI-690 出土遺物近景（南から）



SI-690 全景（南から）



SI-691 遺物出土状況（西から）



SI-691 全景 (南西から)



SI-696 遺物出土状況 (東から)



SI-698 全景 (南から)



SI-698 全景 (南東から)



SI-714 全景 (南から)



第12次調査区 SI-814 全景 (南から)



第14次調査区 SI-843 土層断面 (南東から)



SI-844 遺物出土状況 (南西から)



SI-847 土層断面 (南から)



SI-847 遺物出土状況 (南から)



SI-849 遺物出土状況 (北から)



第1次調査区 SD-112 遺物出土状況 (南から)



SD-113 遺物出土状況 (南から)



SD-196 土層断面 (西から)



SD-198 全景 (西から)



第2次調査区 SD-250・SX-377 全景 (南西から)





SD-250 土層断面 (西から)



SD-305 遺物出土状況 (北から)



第7次調査区 SD-140-SK-572 土層断面 (南から)



第9次調査区 SD-651 遺物出土状況 (北から)



第11次調査区 SD-790 遺物出土状況 (南から)



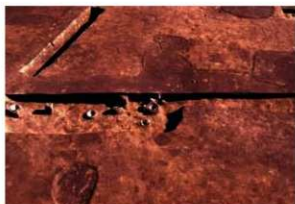
第1次調査区 SK-190 遺物出土状況 (南から)



第2次調査区 SK-299-SX-291 全景 (北から)



第3次調査区 SK-387 遺物出土状況 (西から)



第4次調査区 SK-421・422 遺物出土状況（西から）



SK-427 遺物出土状況（南から）



SK-461 遺物出土状況（南から）



第5次調査区 SK-494 遺物出土状況（西から）



第7次調査区 SK-581 土層断面（南から）



第11次調査区 SK-702・704 遺物出土状況（東から）



第12次調査区 SK-819・837 土層断面（南から）



SK-834 土層断面（南から）

第12次調査区 SK-819・837 土層断面（南から） SK-834 土層断面（南から）



SK-838 土層断面 (南から)



第2次調査区 SE-371 遺物出土状況 (東から)



第12次調査区 SE-813 土層断面 (南から)



第1次調査区 SX-115 遺物出土状況 (南から)



第2次調査区 SX-291 土層断面 (南から)



第12次調査区 SZ-815 調査風景 (北から)



SZ-815 遺物出土状況 (東から)



第11次調査区 調査区から伽藍をのぞむ (北東から)







図版二〇 遺物 調査区内出土瓦





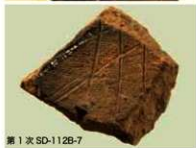
第1次SD-112B-4



第1次SD-112B-5



第1次SD-112B-6



第1次SD-112B-7



第1次SD-154-1



第1次SD-154-4



第1次SD-154-7



第1次SD-154-8



第1次SD-201-1



第1次SX-192-1



第1次SD-112B-7 破片



第1次SX-196-2



第1次SX-192-1



第1次遺構外-9



第1次遺構外-10



第2次SD-330-1



第2次SX-246-1



図版三 遺物 調査区内出土瓦



第2次 SK-339-1



第2次遺構外-1



第4次 SK-461-1



第4次遺構外-4



第4次遺構外-5



第7次遺構外-1



第10次 SD-670B-1



第10次 SD-670B-2



第10次 SD-671-1



第11次 SD-330-1



第11次 SD-695-1



第11次 SD-800-1



第11次 SK-695-2



第11次 SD-804-1



第11次 SD-800-2



第12次 SD-826-1



第11次 SX-805-1



図版二四 遺物 文字瓦



図版一五 遺物 文字瓦



国分寺II



国分寺III



国分寺III



国分寺IV



国分寺V



寺IX



寺IX



寺IX



那A1



那A1



那A1

図版二六 遺物 文字瓦



図版二七 遺物 文字瓦



図版二八 遺物 文字瓦



矢C



矢D



矢E



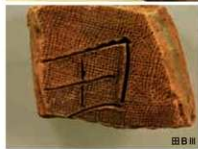
矢F



田B I



田B II



田B III



田B IV



田C



郡B



郡B



大



安田後B



安田後A



十



寺



不明(郡)



第10次 SA-300-1



第1次 SI-114-1



第1次 SI-114-2



第1次 SI-114-3



第1次 SI-114-5



第1次 SI-122-2



第1次 SI-125-1



第1次 SI-125-3



第1次 SI-125-4



第1次 SI-125-9



第1次 SI-163-7



第1次 SI-163-11



第1次 SI-174-7



第2次 SI-239-15



第2次 SI-239-20



第2次 SI-239-23



第2次  
SI-239-25-28



第2次 SI-241-7



第2次 SI-241-10



第2次 SI-241-11



第2次 SI-251-8





第2次 SI-241-13



第2次 SI-307-1



第2次 SI-307-2



第2次 SI-307-3



第2次 SI-307-4



第2次 SI-307-5



第2次 SI-307-9



第2次 SI-307-10



第2次 SI-307-40



第2次 SI-307-43



第2次 SI-307-48



第2次 SI-307-49



第2次 SI-307-52



第2次 SI-307-54



第2次 SI-307-59



第2次 SI-307-68



第2次 SI-307-71 - 72



第2次 SI-307-73 ~ 92



第2次 SI-307-70



第2次 SI-315-1



第2次 SI-315-2



第2次 SI-315-3



第2次 SI-325-1



第2次 SI-325-2



第2次 SI-335-1



第2次 SI-336-1



第2次 SI-336-2



第2次 SI-336-3



第2次 SI-336-4



第2次 SI-336-6



第2次 SI-336-7



第2次 SI-336-11



第2次 SI-336-12



第2次 SI-368-1



第2次 SI-368-4



第2次 SI-336-12



第2次 SI-368-7



第2次 SI-378-1



第2次 SI-378-3



第4次 SI-437-12



第4次 SI-437-13



第4次 SI-437-14



第4次 SI-438-4



第4次 SI-438-6



第4次 SI-438-14



第4次 SI-439-1



第4次 SI-439-2



第4次 SI-450-5



第4次 SI-451-6



第4次 SI-451-7



第4次 SI-451-12



第5次 SI-495-1



第7次 SI-566-1



第10次 SI-674-5



第11次 SI-680-1



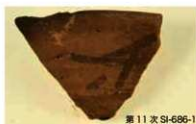
第11次 SI-680-11



第11次 SI-680-18



第11次 SI-680-25





第11次 SI-698-10



第11次 SI-698-11



第11次 SI-698-13



第11次 SI-698-27



第11次 SI-698-32



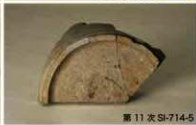
第11次 SI-698-41 ~ 43



第11次 SI-714-1



第11次 SI-714-2



第11次 SI-714-5



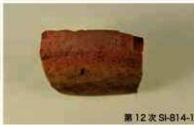
第11次 SI-714-6



第11次 SI-751-1



第11次 SI-781-1



第12次 SI-814-1



第14次 SI-843-10



第14次 SI-844-1



第14次 SI-844-3



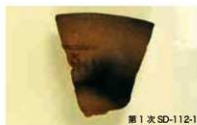
第14次 SI-844-7



第14次 SI-853-1



第14次 SI-849-2



第1次 SD-112-1



第1次 SD-112-2



第1次 SD-112-3



第1次 SD-112-4



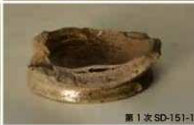
第1次 SD-112-7



第1次 SD-113-1



第1次 SD-140B-3



第1次 SD-151-1



第1次 SD-153-1



第1次 SD-195-1



第1次 SD-195-2



第1次 SD-195-3



第1次 SD-195-4



第1次 SD-195-5



第1次 SD-195-6



第1次 SD-206-1



第2次 SD-292-2



第2次 SD-329-1



第2次 SD-330-3



第2次 SD-330-4



第2次 SD-330-5



第2次 SD-330-7



第2次 SD-330-8



第2次 SD-330-9



第2次 SD-330-10



第2次 SD-330-11



第2次 SD-330-12



第2次 SD-330-14



第2次 SD-330-40



第2次 SD-334-1



第2次 SD-334-8



第2次 SD-334-13



第2次 SD-334-14



第2次 SD-334-16



第2次 SD-369-1



第4次 SD-140-3



第4次 SD-140-4



第7次 SD-140-1



第7次 SD-140-6



第7次 SD-140-2



第7次 SD-140-5



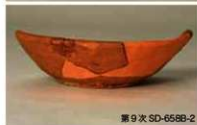
第7次 SD-140-550-1



第7次 SD-550-5



第9次 SD-658B-1



第9次 SD-658B-2



第9次 SD-670B-1



第11次 SD-193A-B-3



第11次 SD-193A-B-4



第11次 SD-265A-B-1



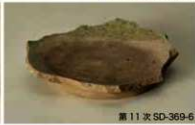
第11次 SD-265A-B-2



第11次 SD-330-3



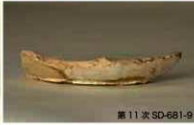
第11次 SD-369-3



第11次 SD-369-6



第11次 SD-550A-B-1



第11次 SD-681-9



第11次 SD-681-10



第11次 SD-713-5



第11次 SD-790-8



第11次 SD-790-9



第11次 SD-790-12



第11次 SD-797-1



第11次 SD-800A-B-1





第11次SD-800A-B-2



第11次SD-800A-B-4



第11次SD-800A-B-5



第11次SD-800A-B-9



第11次SD-800A-B-11



第11次SD-800A-B-10



第12次SD-610A-B-1



第1次SK-156-1



第1次SK-156-2



第1次SK-156-3



第1次SK-156-5



第1次SK-156-6



第1次SK-156-7



第1次SK-156-8



第1次SK-156-9



第1次SK-156-12



第1次SK-156-13



第1次SK-156-16



第1次SK-156-17



第1次SK-199-1



第1次 SK-190-1



第3次 SK-387-1



第4次 SK-421-1



第4次 SK-421-2



第4次 SK-421-3



第4次 SK-421-4



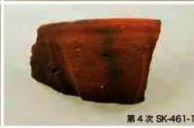
第4次 SK-421-5



第4次 SK-421-6



第4次 SK-447-1



第4次 SK-461-1



第7次 SK-597-1



第11次 SK-704-1



第12次 SK-837-1



第14次 SK-857-2



第1次 SX-115-1



第1次 SX-115-2



第1次 SX-115-3



第1次 SX-115-4



第1次 SX-115-5

図版四〇 遺物 土器・陶器等



第1次 SX-115-6



第1次 SX-115-7



第1次 SX-115-8



第1次 SX-115-9



第1次 SX-115-10



第1次 SX-115-11



第1次 SX-115-12



第1次 SX-115-13



第1次 SX-115-14



第1次 SX-115-15



第1次 SX-115-16



第1次 SX-115-17



第1次 SX-115-18



第1次 SX-167-1



第1次 SX-169-1



第1次 SX-169-3



第1次 SX-169-8



第1次 SX-169-9



第1次 SX-169-10



第1次 SX-170-1



第1次 SX-170-2



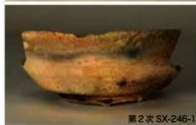
第1次 SX-170-3



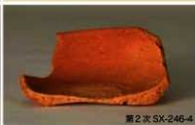
第1次 SX-192-1



第1次 SX-192-2



第2次 SX-246-1



第2次 SX-246-4



第2次 SX-331-1



第2次 SX-377-1



第11次 SX-805-4



第11次 SX-805-5



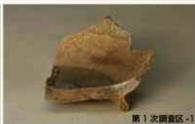
第11次 SX-805-8



第11次 SX-805-10



第11次 SX-805-11



第1次調査区-1



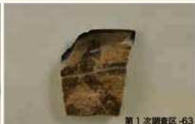
第1次調査区-2



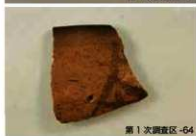
第1次調査区-61



第1次調査区-62



第1次調査区-63



第1次調査区-64



第1次調査区-66



第2次調査区-3



第 2 次調査区 -44



第 2 次調査区 -45



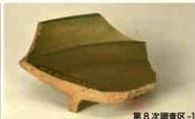
第 2 次調査区 -48



第 2 次調査区 -50



第 4 次調査区 -9



第 8 次調査区 -1



第 8 次調査区 -6



第 8 次調査区 -7



第 8 次調査区 -8



第 10 次調査区 -2



第 11 次調査区 -15



第 11 次調査区 -17



第 11 次調査区 -24



第 14 次調査区 -1



金堂 -2



金堂 -3



金堂 -5



金堂 -14



金堂 -19



田原 -3



経蔵 -1





図版四五 遺物 鉄製品等（レントゲン写真）





図版四六 遺物 鉄製品等（レントゲン写真）



第7次 SD-140-1



第2次 SK-262-1



第7次 SK-598-1



第1次 SX-192-1



第2次 SK-268-1



第2次 SK-268-2



第4次 SK-421-1



第6次 SK-540-1



第2次 SX-246-1



第2次 SX-246-2



第2次 SX-377-1



第2次 SX-377-2



第1次調査区-1



第2次調査区-1



第2次調査区-2



第2次調査区-12



第2次調査区-19



第1次調査区-1  
(銅製品)



第2次 SD-369-1  
(銅製品)

## 報告書抄録

ふりがな	しもつけこくぶんじあと
書名	下野国分尼寺跡
副書名	重要遺跡範囲確認調査
巻次	Ⅱ
シリーズ名	栃木県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第364集
編著者名	津野 仁
編集機関	公益財団法人とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター
所在地	〒329-0418 栃木県下野市紫474番地 TEL 0285-44-8441
発行機関	栃木県教育委員会 公益財団法人とちぎ未来づくり財団
発行年月日	西暦 2014年3月26日 (平成26年3月26日)

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しもつけこくぶん 下野国分 に寺跡	しもつけし 下野市 こくぶんじ 国分寺	09216	5853	36° 23' 19"	140° 6' 07"	19930401 ～19980331	9,630 ㎡	重要遺跡範囲確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下野国分 尼寺跡	寺院	奈良・ 平安時代	寺院地・伽藍地の区画 施設、寺院の建物・諸 施設	瓦・文字瓦・白磁・緑釉陶器・ 灰釉陶器・須恵器・土師器・製 塩土器・釘・鋸・鎌などの鉄製品・ 金銅製品・鍛冶滓	・伽藍地区 画施設など が9世紀後 半に改修。 ・伽藍地周 圍に竪穴住 居跡が展開。

要 約	<p>伽藍地東側に建てられた仮設堂は瓦の分析から、瓦葺きの仮金堂であって、宇都宮の水道山堂や三義山麓の堂から瓦を供給していたことが明らかになった。</p> <p>主要堂宇を造営する時期には、掘立柱層で伽藍を区画し、北側・東側に溝で寺院地を画した。文字瓦は、国分寺と尼寺で主体となる郡名が異なっており、二寺を併行して造営する際に、負進（負担）を均等化した措置と判断された。9世紀には郡名瓦もなくなり、「国分寺」など寺名瓦に変化し、国による関与が強化されたと推測した。</p> <p>9世紀前半には、新調瓦が主要堂宇造営期と同じ程度造られ、改修か再建されたと考えた。この修造が終了した9世紀第3四半期には伽藍地の区画施設を掘立柱層から築地層に造り直す。この時期に、伽藍地の東側・北側には竪穴住居や掘立柱建物が展開する。出土遺物から、伽藍地東側で鍛冶や漆塗りなどの宮納施設、主に北側が調理施設、北東部で寺務に係わる施設などが置かれたと想定した。9世紀第4四半期には主要堂宇の補修が行われ、10世紀中葉まで法灯が焼いたと考えられる。</p>
-----	--

---

---

栃木県埋蔵文化財調査報告第364集

下野国分尼寺跡Ⅱ

—重要道跡範囲確認調査—

発行 栃木県教育委員会

宇都宮市堀田1-1-20

TEL 028 (623) 3425

公益財団法人とちぎ未来づくり財団

宇都宮市本町1-8

TEL 028 (643) 1011

平成26年3月26日発行

編集 公益財団法人とちぎ未来づくり財団

埋蔵文化財センター

下野市紫474番地

TEL 0285 (44) 8441

印刷 下野印刷株式会社

---

---